

【 大学院聴講生 】

※2024年3月11日現在

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス連番	備考
国語学国文学	1331010	国語学国文学(特殊講義)	2	前期	月	3			田中 草大	日本語	○	文献文化学1	
国語学国文学	1331011	国語学国文学(特殊講義)	2	後期	月	3			田中 草大	日本語	○	文献文化学2	
国語学国文学	1331007	国語学国文学(特殊講義)	2	前期	木	1			市村 太郎	日本語	○	文献文化学3	
国語学国文学	1331008	国語学国文学(特殊講義)	2	後期	木	1			市村 太郎	日本語	○	文献文化学4	
国語学国文学	1331009	国語学国文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			齋藤 真麻理	日本語	○	文献文化学5	
国語学国文学	1331012	国語学国文学(特殊講義)	2	前期	月	2			河村 瑛子	日本語	○	文献文化学6	
国語学国文学	1340001	国語学国文学(演習)	4	通年	金	5			大槻 信	日本語	○	文献文化学7	
国語学国文学	1340004	国語学国文学(演習)	4	通年	木	5			田中 草大	日本語	○	文献文化学8	
国語学国文学	1341003	国語学国文学(演習)	2	前期	月	4			鈴木 隆司	日本語	○	文献文化学9	
国語学国文学	1341004	国語学国文学(演習)	2	後期	月	4			鈴木 隆司	日本語	○	文献文化学10	
国語学国文学	1341007	国語学国文学(演習)	2	前期	火	2			高橋 幸平	日本語	○	文献文化学11	
国語学国文学	1341008	国語学国文学(演習)	2	後期	火	2			高橋 幸平	日本語	○	文献文化学12	
国語学国文学	1341009	国語学国文学(演習)	2	前期	月	5			河村 瑛子	日本語	○	文献文化学13	
中国語学中国文学	1431001	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	火	1			永田 知之	日本語	○	文献文化学14	
中国語学中国文学	1431002	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	火	1			永田 知之	日本語	○	文献文化学15	
中国語学中国文学	1431003	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	火	2			道坂 昭廣	日本語	○	文献文化学16	
中国語学中国文学	1431004	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	火	2			道坂 昭廣	日本語	○	文献文化学17	
中国語学中国文学	1431005	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	月	1			二宮 美那子	日本語	○	文献文化学18	
中国語学中国文学	1431006	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	火	3			松江 崇	日本語	○	文献文化学19	
中国語学中国文学	1431007	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	火	3			松江 崇	日本語	○	文献文化学20	
中国語学中国文学	1431008	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	金	1			野原 将輝	日本語	○	文献文化学21	
中国語学中国文学	1431009	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	金	1			野原 将輝	日本語	○	文献文化学22	
中国語学中国文学	1431012	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			齋藤 希史	日本語	○	文献文化学23	
中国語学中国文学	M123001	中国語学中国文学(演習)	2	前期	月	2			成田 健太郎	日本語	○	文献文化学24	
中国語学中国文学	M123002	中国語学中国文学(演習)	2	後期	月	2			成田 健太郎	日本語	○	文献文化学25	
中国語学中国文学	M123005	中国語学中国文学(演習)	2	前期	水	4			緑川 英樹	日本語	○	文献文化学26	
中国語学中国文学	M123006	中国語学中国文学(演習)	2	後期	水	4			緑川 英樹	日本語	○	文献文化学27	
中国哲学史	1530002	中国哲学史(特殊講義)	4	通年	水	1			池田 恭哉	日本語	○	文献文化学28	
中国哲学史	1531001	中国哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			村田 みお	日本語	○	文献文化学29	
中国哲学史	1531002	中国哲学史(特殊講義)	2	後期	水	5			宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学30	
中国哲学史	1531003	中国哲学史(特殊講義)	2	前期	水	5			宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学31	
中国哲学史	1531008	中国哲学史(特殊講義)	2	後期	月	5			福谷 彬	日本語	○	文献文化学32	
中国哲学史	1531009	中国哲学史(特殊講義)	2	前期	月	5			福谷 彬	日本語	○	文献文化学33	
中国哲学史	1531010	中国哲学史(特殊講義)	2	前期	火	1			永田 知之	日本語	○	文献文化学34	
中国哲学史	1531011	中国哲学史(特殊講義)	2	後期	火	1			永田 知之	日本語	○	文献文化学35	
中国哲学史	1540001	中国哲学史(演習)	4	通年	金	5			宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学36	
中国哲学史	1540002	中国哲学史(演習)	4	通年	月	2			池田 恭哉	日本語	○	文献文化学37	
中国哲学史	1541003	中国哲学史(演習)	2	前期	月	3			古勝 隆一	日本語	○	文献文化学38	
中国哲学史	1541004	中国哲学史(演習)	2	後期	月	3			古勝 隆一	日本語	○	文献文化学39	
インド古典学	1633001	インド古典学(特殊講義)	2	後期	金	3			横地 優子	日本語及び英語	○	文献文化学40	
インド古典学	1633007	インド古典学(特殊講義)	2	後期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	文献文化学41	
インド古典学	1633008	インド古典学(特殊講義)	2	前期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	文献文化学42	
インド古典学	1644001	インド古典学(演習)	2	後期	月	2			Tao PAN	英語	○	文献文化学43	
インド古典学	1644002	インド古典学(演習)	2	後期	月	3			Tao PAN	英語	○	文献文化学44	
インド古典学	1644003	インド古典学(演習)	2	前期	金	3			横地 優子	日本語及び英語	○	文献文化学45	
インド古典学	1644004	インド古典学(演習)	2	前期	火	5			VASUDEVA, Somdev	英語	○	文献文化学46	
インド古典学	1644005	インド古典学(演習)	2	前期	木	4			山口 周子	日本語	○	文献文化学47	
インド古典学	1644006	インド古典学(演習)	2	後期	木	4			芳原 綾子	日本語	○	文献文化学48	
インド古典学	1644007	インド古典学(演習)	2	前期	水	2			天野 恭子	日本語	○	文献文化学49	
インド古典学	1644008	インド古典学(演習)	2	前期	月	2			Tao PAN	英語	○	文献文化学50	
インド古典学	1644011	インド古典学(演習)	2	後期	火	5			VASUDEVA, Somdev	英語	○	文献文化学51	
インド古典学	1653001	インド古典学(講読)	2	前期	月	4			横地 優子	日本語	○	文献文化学52	
インド古典学	1653002	インド古典学(講読)	2	後期	月	4			天野 恭子	日本語	○	文献文化学53	
インド古典学	1653003	インド古典学(講読)	2	前期	木	3			Tao PAN	英語	○	文献文化学54	
インド古典学	1653004	インド古典学(講読)	2	後期	木	3			Tao PAN	英語	○	文献文化学55	
仏教学	1831001	仏教学(特殊講義)	2	前期	水	3			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学56	
仏教学	1831002	仏教学(特殊講義)	2	後期	水	3			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学57	
仏教学	1831003	仏教学(特殊講義)	2	前期	火	4			船山 徹	日本語	○	文献文化学58	
仏教学	1831004	仏教学(特殊講義)	2	後期	火	4			船山 徹	日本語	○	文献文化学59	
仏教学	1831007	仏教学(特殊講義)	2	後期	金	2			DEROCHE, Marc-Henri Jean	英語	○	文献文化学60	
仏教学	1831008	仏教学(特殊講義)	2	前期	木	2			倉本 尚徳	日本語	○	文献文化学61	
仏教学	1831009	仏教学(特殊講義)	2	後期	木	2			倉本 尚徳	日本語	○	文献文化学62	
仏教学	1841001	仏教学(演習)	2	前期	火	3			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学63	
仏教学	1841002	仏教学(演習)	2	後期	火	3			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学64	
仏教学	1841003	仏教学(演習)	2	前期集中	他	他			加納 和雄	日本語	○	文献文化学65	
仏教学	1841004	仏教学(演習)	2	前期	水	4			熊谷 誠慈	日本語	○	文献文化学66	
仏教学	1841006	仏教学(演習)	2	前期	火	2			佐藤 直実	日本語	○	文献文化学67	
仏教学	1841007	仏教学(演習)	2	後期	月	5			志賀 浄邦	日本語	○	文献文化学68	
仏教学	1841008	仏教学(演習)	2	前期	木	4			山口 周子	日本語	○	文献文化学69	
仏教学	1841009	仏教学(演習)	2	後期	木	4			芳原 綾子	日本語	○	文献文化学70	
仏教学	1841010	仏教学(演習)	2	前期	月	5			志賀 浄邦	日本語	○	文献文化学71	
仏教学	1851001	仏教学(講読)	2	前期	木	3			Tao PAN	英語	○	文献文化学72	
仏教学	1851002	仏教学(講読)	2	後期	木	3			Tao PAN	英語	○	文献文化学73	
仏教学	9628001	チベット語(初級)(語学)	2	前期	月	1			高橋 慶治	日本語	○	文献文化学74	
仏教学	9629001	チベット語(初級)(語学)	2	後期	月	1			高橋 慶治	日本語	○	文献文化学75	
仏教学	9630001	チベット語(中級)(語学)	2	前期	水	1			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学76	
仏教学	9630002	チベット語(中級)(語学)	2	後期	水	1			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学77	
西洋古典学	3131001	西洋古典学(特殊講義)	2	前期	木	2			河島 思朗	日本語	○	文献文化学78	
西洋古典学	3131002	西洋古典学(特殊講義)	2	後期	木	2			河島 思朗	日本語	○	文献文化学79	
西洋古典学	3131003	西洋古典学(特殊講義)	2	前期	月	3			河島 思朗	日本語	○	文献文化学80	
西洋古典学	3131004	西洋古典学(特殊講義)	2	後期	月	3			河島 思朗	日本語	○	文献文化学81	
西洋古典学	3131005	西洋古典学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			堀尾 耕一	日本語	○	文献文化学82	
西洋古典学	3141001	西洋古典学(演習)	2	前期	水	3			竹下 哲文	日本語	○	文献文化学83	
西洋古典学	3141002	西洋古典学(演習)	2	後期	金	3			平山 晃司	日本語	○	文献文化学84	
西洋古典学	3141003	西洋古典学(演習)	2	後期	水	3			竹下 哲文	日本語	○	文献文化学85	
西洋古典学	3141004	西洋古典学(演習)	2	前期	金	4			竹下 哲文	日本語	○	文献文化学86	
西洋古典学	3141005	西洋古典学(演習)	2	後期	金	4			竹下 哲文	日本語	○	文献文化学87	
西洋古典学	3141006	西洋古典学(演習)	2	前期	月	5			河島 思朗	日本語	○	文献文化学88	
西洋古典学	3141007	西洋古典学(演習)	2	後期	月	5			河島 思朗	日本語	○	文献文化学89	
西洋古典学	3141010	西洋古典学(演習)	2	前期	金	5			西村 洋平	日本語	○	文献文化学90	
西洋古典学	3141011	西洋古典学(演習)	2	後期	金	5			西村 洋平	日本語	○	文献文化学91	
西洋古典学	3151001	西洋古典学(講読)	2	前期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	文献文化学92	
西洋古典学	3151002	西洋古典学(講読)	2	後期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	文献文化学93	
西洋古典学	3151003	西洋古典学(講読)	2	前期	火	2			山下 修一	日本語	○	文献文化学94	
西洋古典学	3151004	西洋古典学(講読)	2	後期	火	2			山下 修一	日本語	○	文献文化学95	
スラブ語学スラブ文学	3231003	スラブ語学スラブ文学(特殊講義)	2	後期	月	4			中村 唯史	日本語	○	文献文化学96	
スラブ語学スラブ文学	3231005	スラブ語学スラブ文学(特殊講義)	2	前期	月	4			中村 唯史	日本語	○	文献文化学97	
スラブ語学スラブ文学	3241001	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	前期	月	3			中野 悠希	日本語	○	文献文化学98	
スラブ語学スラブ文学	3241003	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	後期	火	2			中野 悠希	日本語	○	文献文化学99	
スラブ語学スラブ文学	3241007	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	後期	月	3			中野 悠希	日本語	○	文献文化学100	
スラブ語学スラブ文学	3250001	スラブ語学スラブ文学(講読)	4	後期	水	2	水	3	北井 聡子	日本語	○	文献文化学101	
スラブ語学スラブ文学	3251003	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	前期	水	2			中村 唯史	日本語	○	文献文化学102	

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス連携	備考
スラブ語学スラブ文学	3251005	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	後期	金	4			帯谷 知可	日本語	○	文献文化学103	
スラブ語学スラブ文学	3251006	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	前期	火	4			小山 哲	日本語	○	文献文化学104	
スラブ語学スラブ文学	3251007	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	後期	火	4			小山 哲	日本語	○	文献文化学105	
スラブ語学スラブ文学	9642001	ポーランド語(中級II)(語学)	2	前期	木	5			Bogna Sasaki	日本語	○	文献文化学106	
スラブ語学スラブ文学	9642002	ポーランド語(中級II)(語学)	2	後期	木	5			Bogna Sasaki	日本語	○	文献文化学107	
スラブ語学スラブ文学	9646001	ロシア語(初級)(語学)	2	後期	水	2			田中 大	日本語	○	文献文化学108	
スラブ語学スラブ文学	9647001	ロシア語(中級)(語学)	2	前期	水	2			田中 大	日本語	○	文献文化学109	
スラブ語学スラブ文学	9661001	ポーランド語(初級I)(語学)	2	前期	木	4			Bogna Sasaki	日本語	○	文献文化学110	
スラブ語学スラブ文学	9662001	ポーランド語(初級I)(語学)	2	後期	木	4			Bogna Sasaki	日本語	○	文献文化学111	
ドイツ語学ドイツ文学	3331001	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	金	4			川島 隆	日本語	○	文献文化学112	
ドイツ語学ドイツ文学	3331002	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	後期	金	4			龍 碧	日本語	○	文献文化学113	
ドイツ語学ドイツ文学	3331005	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	金	3			河崎 靖	日本語	○	文献文化学114	
ドイツ語学ドイツ文学	3331006	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	木	3			TRAUDEN, Dieter	ドイツ語	○	文献文化学115	
ドイツ語学ドイツ文学	3331007	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	後期	木	3			TRAUDEN, Dieter	ドイツ語	○	文献文化学116	
ドイツ語学ドイツ文学	3331008	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	火	3			岡田 暁生	日本語	○	文献文化学117	
ドイツ語学ドイツ文学	3331009	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	後期	火	3			岡田 暁生	日本語	○	文献文化学118	
ドイツ語学ドイツ文学	3345001	ドイツ語学ドイツ文学(演習III)	2	前期	金	5			川島 隆 龍 碧	日本語	○	文献文化学119	
ドイツ語学ドイツ文学	3345002	ドイツ語学ドイツ文学(演習III)	2	後期	金	5			川島 隆 龍 碧	日本語	○	文献文化学120	
ドイツ語学ドイツ文学	M181001	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	金	5			細見 和之	日本語	○	文献文化学121	
ドイツ語学ドイツ文学	M183001	ドイツ語学ドイツ文学(演習)	2	前期	水	2			龍 碧	日本語	○	文献文化学122	
ドイツ語学ドイツ文学	M183002	ドイツ語学ドイツ文学(演習)	2	後期	水	2			龍 碧	日本語	○	文献文化学123	
ドイツ語学ドイツ文学	M183003	ドイツ語学ドイツ文学(演習)	2	前期	水	3			川島 隆	日本語	○	文献文化学124	
ドイツ語学ドイツ文学	M183004	ドイツ語学ドイツ文学(演習)	2	後期	水	3			川島 隆	日本語	○	文献文化学125	
ドイツ語学ドイツ文学	M183005	ドイツ語学ドイツ文学(演習)	2	後期	火	5			細見 和之	日本語	○	文献文化学126	
英語学英米文学	M191002	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	火	1			廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学127	
英語学英米文学	M191003	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	月	4			南谷 泰良	日本語	○	文献文化学128	
英語学英米文学	M191004	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	水	5			森 慎一郎	日本語	○	文献文化学129	
英語学英米文学	M191005	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	水	5			小林 久美子	日本語	○	文献文化学130	
英語学英米文学	M191010	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	木	2			滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学131	
英語学英米文学	M191011	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	木	2			滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学132	
英語学英米文学	M191012	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	月	3			出口 菜摘	日本語	○	文献文化学133	
英語学英米文学	M191013	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	月	2			後藤 篤	日本語	○	文献文化学134	
英語学英米文学	M191014	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	月	1			メロック 麻弥	日本語	○	文献文化学135	
英語学英米文学	M191015	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	火	2			西谷 拓哉	日本語	○	文献文化学136	
英語学英米文学	M191016	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	月	2			西谷 菜莉子	日本語	○	文献文化学137	
英語学英米文学	M191017	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	木	2			木島 葉菜子	日本語	○	文献文化学138	
英語学英米文学	M191018	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	火	3			WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学139	
英語学英米文学	M191019	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	火	3			WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学140	
英語学英米文学	M191020	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	月	4			西谷 菜莉子	日本語	○	文献文化学141	
英語学英米文学	M191021	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			竹内 康浩	日本語	○	文献文化学142	
英語学英米文学	M191022	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			家人 葉子	日本語及び英語	○	文献文化学143	
英語学英米文学	M191023	英語学英米文学(特殊講義)	2	前期	金	3			和田 葉子	日本語	○	文献文化学144	
英語学英米文学	M191024	英語学英米文学(特殊講義)	2	後期	金	3			和田 葉子	日本語	○	文献文化学145	
英語学英米文学	M193001	英語学英米文学(演習)	2	前期	火	5			家人 葉子	日本語	○	文献文化学146	
英語学英米文学	M193002	英語学英米文学(演習)	2	後期	火	5			家人 葉子	日本語	○	文献文化学147	
英語学英米文学	M193003	英語学英米文学(演習)	2	前期	金	2			廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学148	
英語学英米文学	M193004	英語学英米文学(演習)	2	後期	金	2			廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学149	
英語学英米文学	M193005	英語学英米文学(演習)	2	前期	金	3			南谷 泰良	日本語	○	文献文化学150	
英語学英米文学	M193006	英語学英米文学(演習)	2	後期	金	3			南谷 泰良	日本語	○	文献文化学151	
英語学英米文学	M193007	英語学英米文学(演習)	2	前期	水	3			森 慎一郎	日本語	○	文献文化学152	
英語学英米文学	M193008	英語学英米文学(演習)	2	後期	水	3			森 慎一郎	日本語	○	文献文化学153	
英語学英米文学	M193009	英語学英米文学(演習)	2	前期	水	4			小林 久美子	日本語	○	文献文化学154	
英語学英米文学	M193010	英語学英米文学(演習)	2	後期	水	4			小林 久美子	日本語	○	文献文化学155	
英語学英米文学	M197001	英語学英米文学(外国語実習)	1	前期	水	4			JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学156	
英語学英米文学	M197002	英語学英米文学(外国語実習)	1	後期	水	4			JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学157	
フランス語学フランス文学	3631001	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	木	2			永盛 克也	日本語	○	文献文化学158	
フランス語学フランス文学	3631002	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			森本 淳生	日本語	○	文献文化学159	
フランス語学フランス文学	3631003	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	木	3			Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学160	
フランス語学フランス文学	3631004	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	木	3			Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学161	
フランス語学フランス文学	3631005	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	火	2			鳥山 定嗣	日本語	○	文献文化学162	
フランス語学フランス文学	3631006	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	火	2			鳥山 定嗣	日本語	○	文献文化学163	
フランス語学フランス文学	3631008	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	水	3			村上 祐二	日本語	○	文献文化学164	
フランス語学フランス文学	3631010	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	水	3			村上 祐二	日本語	○	文献文化学165	
フランス語学フランス文学	3631012	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	月	3			伊藤 玄吾	日本語	○	文献文化学166	
フランス語学フランス文学	3631013	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	金	3			菅原 百合絵	日本語	○	文献文化学167	
フランス語学フランス文学	3631014	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	金	3			菅原 百合絵	日本語	○	文献文化学168	
フランス語学フランス文学	3645003	フランス語学フランス文学(演習)	2	前期	木	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学169	
フランス語学フランス文学	3645004	フランス語学フランス文学(演習)	2	後期	木	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学170	
フランス語学フランス文学	M203001	フランス語学フランス文学(演習)	2	前期	火	3			Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学171	
フランス語学フランス文学	M203002	フランス語学フランス文学(演習)	2	後期	火	3			Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学172	
イタリア語学イタリア文学	3731002	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	前期	月	2			村瀬 有司	日本語	○	文献文化学173	
イタリア語学イタリア文学	3731003	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	後期	月	2			村瀬 有司	日本語	○	文献文化学174	
イタリア語学イタリア文学	3731004	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	前期	水	3			Ida Duretto	イタリア語	○	文献文化学175	
イタリア語学イタリア文学	3731005	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	後期	水	3			Ida Duretto	イタリア語	○	文献文化学176	
イタリア語学イタリア文学	3731006	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	前期	水	5			Ida Duretto	イタリア語	○	文献文化学177	
イタリア語学イタリア文学	3731007	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	後期	水	5			Ida Duretto	イタリア語	○	文献文化学178	
イタリア語学イタリア文学	3741001	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	前期	金	3			村瀬 有司	日本語	○	文献文化学179	
イタリア語学イタリア文学	3741002	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	後期	金	3			村瀬 有司	日本語	○	文献文化学180	
イタリア語学イタリア文学	3741003	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	前期	月	5			内田 健一	日本語	○	文献文化学181	
イタリア語学イタリア文学	3741004	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	後期	月	5			内田 健一	日本語	○	文献文化学182	
イタリア語学イタリア文学	3741005	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	通年	木	2			村瀬 有司・Ida Duretto	日本語およびイタリア語	○	文献文化学183	
中国哲学史	1502001	系共通科目(中国哲学史)(講義)	2	前期	金	4			宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学184	学部科目
中国哲学史	1504001	系共通科目(中国哲学史)(講義)	2	後期	金	4			宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学185	学部科目
中国哲学史	1550001	中国哲学史(講読)	4	通年	火	2			池田 恭哉	日本語	○	文献文化学186	学部科目
インド古典学	1602001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)	2	前期	月	3			天野 恭哉	日本語	○	文献文化学187	学部科目
インド古典学	1604001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)	2	後期	月	3			横地 優子	日本語	○	文献文化学188	学部科目
インド古典学	1702001	系共通科目(インド哲学史)(講義)	2	前期	水	4			VASUDEVA, Somdev	日本語及び英語	○	文献文化学189	学部科目
インド古典学	1704001	系共通科目(インド哲学史)(講義)	2	後期	水	4			VASUDEVA, Somdev	日本語及び英語	○	文献文化学190	学部科目
仏教学	1802001	系共通科目(仏教学)(講義)	2	前期	月	2			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学191	学部科目
仏教学	1804001	系共通科目(仏教学)(講義)	2	後期	月	2			宮崎 泉	日本語	○	文献文化学192	学部科目
西洋古典学	3100001	系共通科目(西洋古典学)(講義)	2	前期	金	3			河島 思朗	日本語	○	文献文化学193	学部科目
西洋古典学	3102001	系共通科目(西洋古典学)(講義)	2	後期	金	5			竹下 哲文	日本語	○	文献文化学194	学部科目
西洋古典学	9615001	ギリシア語(4時間コース)(語学)	8	通年	月	1	木	1	広川 直幸	日本語	○	文献文化学195	学部科目
西洋古典学	9645001	ラテン語(4時間コース)(語学)	8	通年	月	2	金	2	佐藤 義尚	日本語	○	文献文化学196	学部科目
西洋古典学	9664001	ギリシア語(初級I)(語学)	2	前期	金	4			西村 洋平	日本語	○	文献文化学197	学部科目
西洋古典学	9665001	ギリシア語(初級II)(語学)	2	後期	金	4			西村 洋平	日本語	○	文献文化学198	学部科目
西洋古典学	9666001	ラテン語(初級I)(語学)	2	前期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	文献文化学199	学部科目
西洋古典学	9667001	ラテン語(初級II)(語学)	2	後期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	文献文化学200	学部科目
スラブ語学スラブ文学	3202001	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)	2	前期	金	2			中村 唯史	日本語	○	文献文化学201	学部科目
スラブ語学スラブ文学	3204001	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)	2	後期	金	2			中村 唯史	日本語	○	文献文化学202	学部科目
スラブ語学スラブ文学	3251001	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	前期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	文献文化学203	学部科目
スラブ語学スラブ文学	3251002	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	後期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	文献文化学204	学部科目
英語学英米文学	3402001	系共通科目(英語学)(講義A)	2	前期	水	3			家人 葉子	日本語	○	文献文化学205	学部科目

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間		担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス連番	備考
						曜日1	時間2					
英語学英文学	3404001	系共通科目(英語学)(講義B)	2	後期	水	3		家入 葉子	日本語	○	文献文化学206	学部科目
英語学英文学	3406001	系共通科目(英文学)(講義A)	2	前期	火	2		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学207	学部科目
英語学英文学	3408001	系共通科目(英文学)(講義B)	2	後期	月	5		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学208	学部科目
英語学英文学	3431002	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	火	1		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学209	学部科目
英語学英文学	3431003	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	4		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学210	学部科目
英語学英文学	3431004	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	水	5		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学211	学部科目
英語学英文学	3431005	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	水	5		小林 久美子	日本語	○	文献文化学212	学部科目
英語学英文学	3431010	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学213	学部科目
英語学英文学	3431011	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学214	学部科目
英語学英文学	3431012	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	3		出口 菜摘	日本語	○	文献文化学215	学部科目
英語学英文学	3431013	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	月	2		後藤 篤	日本語	○	文献文化学216	学部科目
英語学英文学	3431014	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	1		メドロック 麻弥	日本語	○	文献文化学217	学部科目
英語学英文学	3431015	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	火	2		西谷 拓哉	日本語	○	文献文化学218	学部科目
英語学英文学	3431016	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	2		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学219	学部科目
英語学英文学	3431017	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	木	2		木島 葉菜子	日本語	○	文献文化学220	学部科目
英語学英文学	3431018	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学221	学部科目
英語学英文学	3431019	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学222	学部科目
英語学英文学	3431020	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	月	4		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学223	学部科目
英語学英文学	3431021	英語学英文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		竹内 康浩	日本語	○	文献文化学224	学部科目
英語学英文学	3431022	英語学英文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		家入 葉子	日本語及び英語	○	文献文化学225	学部科目
英語学英文学	3431023	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学226	学部科目
英語学英文学	3431024	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学227	学部科目
英語学英文学	3441001	英語学英文学(演習)	2	前期	火	4		家入 葉子	日本語	○	文献文化学228	学部科目
英語学英文学	3441002	英語学英文学(演習)	2	後期	火	4		家入 葉子	日本語	○	文献文化学229	学部科目
英語学英文学	3441003	英語学英文学(演習)	2	前期	金	4		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学230	学部科目
英語学英文学	3441004	英語学英文学(演習)	2	後期	金	4		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学231	学部科目
英語学英文学	3441005	英語学英文学(演習)	2	前期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学232	学部科目
英語学英文学	3441006	英語学英文学(演習)	2	後期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学233	学部科目
英語学英文学	3451001	英語学英文学(講読)	2	前期	火	1		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学234	学部科目
英語学英文学	3451002	英語学英文学(講読)	2	後期	月	3		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学235	学部科目
英語学英文学	3451003	英語学英文学(講読)	2	前期	火	5		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学236	学部科目
英語学英文学	3451004	英語学英文学(講読)	2	後期	金	3		小林 久美子	日本語	○	文献文化学237	学部科目
英語学英文学	3462001	英語学英文学(外国語実習)	1	前期	水	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学238	学部科目
英語学英文学	3462002	英語学英文学(外国語実習)	1	後期	木	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学239	学部科目
英語学英文学	3462003	英語学英文学(外国語実習)	1	前期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学240	学部科目
英語学英文学	3462004	英語学英文学(外国語実習)	1	後期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学241	学部科目
アメリカ文学	3502001	系共通科目(アメリカ文学)(講義A)	2	前期	水	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学242	学部科目
アメリカ文学	3503001	系共通科目(アメリカ文学)(講義B)	2	後期	水	2		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学243	学部科目
アメリカ文学	3531001	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	水	5		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学244	学部科目
アメリカ文学	3531002	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	水	5		小林 久美子	日本語	○	文献文化学245	学部科目
アメリカ文学	3531004	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	火	1		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学246	学部科目
アメリカ文学	3531005	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	4		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学247	学部科目
アメリカ文学	3531010	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	3		出口 菜摘	日本語	○	文献文化学248	学部科目
アメリカ文学	3531011	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	月	2		後藤 篤	日本語	○	文献文化学249	学部科目
アメリカ文学	3531012	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	1		メドロック 麻弥	日本語	○	文献文化学250	学部科目
アメリカ文学	3531013	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	火	2		西谷 拓哉	日本語	○	文献文化学251	学部科目
アメリカ文学	3531014	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学252	学部科目
アメリカ文学	3531015	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学253	学部科目
アメリカ文学	3531016	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	2		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学254	学部科目
アメリカ文学	3531017	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	木	2		木島 葉菜子	日本語	○	文献文化学255	学部科目
アメリカ文学	3531018	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学256	学部科目
アメリカ文学	3531019	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学257	学部科目
アメリカ文学	3531020	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	月	4		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学258	学部科目
アメリカ文学	3531021	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		竹内 康浩	日本語	○	文献文化学259	学部科目
アメリカ文学	3531022	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		家入 葉子	日本語及び英語	○	文献文化学260	学部科目
アメリカ文学	3531023	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学261	学部科目
アメリカ文学	3531024	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学262	学部科目
アメリカ文学	3541001	アメリカ文学(演習)	2	前期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学263	学部科目
アメリカ文学	3541002	アメリカ文学(演習)	2	後期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学264	学部科目
アメリカ文学	3541003	アメリカ文学(演習)	2	前期	火	4		家入 葉子	日本語	○	文献文化学265	学部科目
アメリカ文学	3541004	アメリカ文学(演習)	2	後期	火	4		家入 葉子	日本語	○	文献文化学266	学部科目
アメリカ文学	3541005	アメリカ文学(演習)	2	前期	金	4		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学267	学部科目
アメリカ文学	3541006	アメリカ文学(演習)	2	後期	金	4		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学268	学部科目
アメリカ文学	3551001	アメリカ文学(講読)	2	前期	金	4		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学269	学部科目
アメリカ文学	3551002	アメリカ文学(講読)	2	後期	金	3		小林 久美子	日本語	○	文献文化学270	学部科目
アメリカ文学	3551003	アメリカ文学(講読)	2	前期	火	1		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学271	学部科目
アメリカ文学	3551004	アメリカ文学(講読)	2	後期	月	3		南谷 泰良	日本語	○	文献文化学272	学部科目
アメリカ文学	3562001	アメリカ文学(外国語実習)	1	前期	水	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学273	学部科目
アメリカ文学	3562002	アメリカ文学(外国語実習)	1	後期	木	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学274	学部科目
アメリカ文学	3562003	アメリカ文学(外国語実習)	1	前期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学275	学部科目
アメリカ文学	3562004	アメリカ文学(外国語実習)	1	後期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学276	学部科目
フランス語学フランス文学	3604001	系共通科目(フランス文学)(講義)	2	後期	水	2		永盛 克也	日本語	○	文献文化学277	学部科目
フランス語学フランス文学	3606001	系共通科目(フランス文学)(講義)	2	前期	水	2		森本 淳生	日本語	○	文献文化学278	学部科目
フランス語学フランス文学	3607001	系共通科目(フランス語学)(講義)	2	前期	火	3		小田 涼	日本語	○	文献文化学279	学部科目
フランス語学フランス文学	3648001	フランス語学フランス文学(演習)	2	前期	月	2		鳥山 定嗣	日本語	○	文献文化学280	学部科目
フランス語学フランス文学	3648002	フランス語学フランス文学(演習)	2	後期	月	2		村上 祐二	日本語	○	文献文化学281	学部科目
フランス語学フランス文学	3651001	フランス語学フランス文学(講読)	2	後期	月	3		鳥山 定嗣	日本語	○	文献文化学282	学部科目
フランス語学フランス文学	3651002	フランス語学フランス文学(講読)	2	前期	月	3		村上 祐二	日本語	○	文献文化学283	学部科目
フランス語学フランス文学	3651003	フランス語学フランス文学(講読)	2	前期	月	5		柴田 秀樹	日本語	○	文献文化学284	学部科目
フランス語学フランス文学	3663001	フランス語学フランス文学(外国語実習)	1	前期	火	4		Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学285	学部科目
フランス語学フランス文学	3663002	フランス語学フランス文学(外国語実習)	1	後期	火	4		Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学286	学部科目
フランス語学フランス文学	9636001	フランス語(上級)(語学)	2	前期	水	2		Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学287	学部科目
フランス語学フランス文学	9636002	フランス語(上級)(語学)	2	後期	水	2		Justine LE FLOCH	フランス語	○	文献文化学288	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3702001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	前期	月	3		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学289	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3703001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	後期	月	3		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学290	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751001	イタリア語学イタリア文学(講読)	2	前期	水	4		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学291	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751002	イタリア語学イタリア文学(講読)	2	後期	水	4		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学292	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751003	イタリア語学イタリア文学(講読)	2	前期	火	4		河合 成雄	日本語	○	文献文化学293	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751004	イタリア語学イタリア文学(講読)	2	後期	火	4		河合 成雄	日本語	○	文献文化学294	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9668001	スペイン語(中級I)(語学)	2	前期	火	5		小西 咲子	日本語	○	文献文化学295	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9669001	スペイン語(中級II)(語学)	2	後期	火	5		小西 咲子	日本語	○	文献文化学296	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9673001	スペイン語(初級I)	2	前期	火	4		小西 咲子	日本語	○	文献文化学297	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9674001	スペイン語(初級II)	2	後期	火	4		小西 咲子	日本語	○	文献文化学298	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9675001	イタリア語(初級4時間コース)I	4	前期	月	2	木 3	菅野 類	日本語	○	文献文化学299	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9676001	イタリア語(初級4時間コース)II	4	後期	月	2	木 3	菅野 類	日本語	○	文献文化学300	学部科目
西洋文化学系	3902001	西洋学入門(講義)	2	前期	木	5		河島 恵朗・村瀬 有司・永盛 克也・川島 隆・中村 唯史・南谷 泰良・森 慎一郎	日本語	○	文献文化学301	学部科目

文献文化学1

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文語史概説				
[授業の概要・目的]					
<p>一般に、言語史研究は話し言葉を主な対象とするが、書き言葉の歴史は、それ自体が言語史の重要な一局面であるのみならず、話し言葉史の解明のためにも留意されるべきものである。</p> <p>この授業では、日本語の書き言葉史において大きな位置を占める「文語文」の沿革について概説する。</p> <p>(日本の学校教育における)国語科で学習される「古文」は、奈良時代～江戸時代という極めて長期にわたる題材を扱っているにもかかわらず、それらは一つの「古典文法」に(おおよそ)則っている。この授業では、(1)この「古文」とは何なのかという問いを起点にして、文語文についての基礎的な事らを確認し、次いで(2)その通時的な変化と、共時的なバリエーション(つまり、ある一時代にどのような種類の文語文が用いられたか)を説明する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語史における口語文と文語文の関係について理解する。 ・文語文の歴史を、各時代の資料と文体という観点から理解する。 ・実際の文語文を読み、他資料との比較によってその特徴を分析する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：口語文と文語文 第2-3回：文語文の発生 第4-5回：中世の文語文 第6-7回：近世の文語文 第8-9回：近代の文語文 第10-11回：文語文の衰滅 付：現代の文語文 第12-13回：仮名遣い 第14回：韻文の文語法 第15回：提出課題の紹介</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポート課題：100%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学2

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語史の諸問題とその解決法				
【授業の概要・目的】					
<p>日本語史学は、日本語の歴史における未解決問題を発見し、それを学術的方法によって解決する学問である。では、日本語の歴史における未解決問題とはどのようなものがあるのだろうか、またそうした問題を解決するにはどのような手段・方法があるのだろうか。</p> <p>本授業では、特定のトピックを設けて(今年度は「ある表記法はどのように創出され、どのように普及するか」)、実際の学術論文を取り上げて上記のことを受講生が理解できることを目指す。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> 日本語史の研究において、どのような問題がトピックたり得るかを理解する。 それらのトピックについて、解決のためにどのような資料や方法が用いられているかを理解する。 論旨(主張や根拠)の妥当性について検討しながら学術論文を読むことができる。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 授業の概要</p> <p>第2-8回 主トピック：表記法の創出と普及(仮名遣い、和訓、漢字字体・仮名字体など)</p> <p>第9-13回 その他のトピック(文法史、音韻史など)</p> <p>第14-15回 提出課題の紹介</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポート課題：100%					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示する参考文献を読むこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学3

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学文学部 准教授 市村 太郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文法の歴史概説				
[授業の概要・目的]					
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>本講義は、古代から現代にかけて、日本語文法がどのように変化したのかを、現代文法研究の枠組みに沿って通時的な観点から概説するものである。日本語文法史に関する基本的・一般的な事項について、用例を吟味しながら確認・解説し、学術的な議論を行うための知見を養う。</p> <p>文法は言語の骨格を成すものであり、日本語の史的変遷を考える上で、文法の変遷の要点を理解しておくことは欠かせない。古典語と現代語の言葉遣いが大きく異なることは日本語母語話者にとっては一般的な感覚であろうが、その感覚は一体何によるものなのだろうか。また国語教育では個別的に扱われることの多い文語文法と口語文法はどのようなつながりを持つのだろうか。</p> <p>日本語文法史研究には、これまで膨大な蓄積があり、現在も日々、大小さまざまなテーマでの研究がなされているが、そこに適切にアクセスするためにも、まずは基本的なトピックをおさえておきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1.古代から現代に至る日本語文法について、各文法概念における歴史的変遷に関して、主要事項を理解し、説明できる。</p> <p>2.古代から現代に至る日本語文法について、自ら問題を発見し、テーマを設定して考察できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクション・授業の概要 文法史研究のための用例収集方法【メディア授業・同時双方向型】</p> <p>第2回 文の構造・文のタイプ</p> <p>第3回 活用</p> <p>第4回 格</p> <p>第5回 ヴォイス</p> <p>第6回 アスペクト・テンス</p> <p>第7回 モダリティ</p> <p>第8回 感動表現・希望表現</p> <p>第9回 係り結び</p> <p>第10回 とりたて</p> <p>第11回 準体句</p> <p>第12回 条件表現</p> <p>第13回 待遇表現</p>					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義) (2)

第14回 文法史研究の実際

レポートの提出

フィードバック【文書を作成してポータルサイトにて通知】

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート70%、平常点30%によって評価する。

レポート課題は講義中に指示する。

平常点は、毎回の小課題・コメントによる。

レポートは、学術論文に準じた形式で、日本語文法史上の問題に関するテーマを適切に設定し、先行研究を確認しつつ、用例に基づいて、論理的に論述できているかを評価する。

【教科書】

高山善行・青木博史編『ガイドブック日本語文法史』（ひつじ書房,2010）ISBN:978-4894764897

本授業は、特に2回目以降、教科書の記述内容を解説し、確認・吟味することが主となる。

【参考書等】

（参考書）

小田勝『実例詳解 古典文法総覧』（和泉書院,2015）ISBN:978-4757607316

日本語文法学会編『日本語文法事典』（大修館書店,2014）ISBN:978-4469012866

岡崎友子・森勇太『ワークブック日本語の歴史』（くろしお出版,2016）ISBN:978-4874247068

その他、授業内に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

【予習】

この授業では、教科書を使用するため、事前に目を通し、疑問点等を整理しておいてほしい。

【復習】

講義を復習し、再度確認するとともに、レポート執筆に向けての構想・調査を行う。

（その他（オフィスアワー等））

・メール等の連絡は随時受け付けます。また、各回の課題提出用に回答フォームを利用する予定であり、そちらに記入していただければ毎回確認します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学4

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学文学部 准教授 市村 太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文法史・語彙史研究のためのコーパスの活用				
[授業の概要・目的]					
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>本授業では、『日本語歴史コーパス』の等のコーパスを用いて、日本語文法史・語彙史に関する調査を行う方法について、例題を通して検討する。 また、コーパス化された各時代の資料の特質や、利用にあたって注意すべき点等も解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>1.コーパスを日本語史研究に利用するための必要な知識を習得する。 2.コーパスを日本語文法史・語彙史の研究に適切に活用する方法を考え、自らテーマを設定し応用できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 授業概説 日本語史研究で利用できるコーパス・データベースの紹介【メディア授業・同時双方向型】</p> <p>第2回 『日本語歴史コーパス』『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の解説</p> <p>第3回 コーパスの検索方法・データの集計方法【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第4回 奈良時代語コーパスの解説</p> <p>第5回 奈良時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第6回 平安時代語コーパスの解説</p> <p>第7回 平安時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第8回 鎌倉時代語コーパスの解説と文法史・語彙史研究への活用</p> <p>第9回 室町時代語コーパスの解説</p> <p>第10回 室町時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第11回 江戸時代語コーパスの解説</p> <p>第12回 江戸時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第13回 明治・大正以降のコーパスの解説</p> <p>第14回 明治・大正以降のコーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>レポートの執筆と提出 フィードバック【文書を作成しポータルサイトにて通知】</p>					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート70%、平常点30%によって評価する。

レポート課題は講義中に指示する。

平常点は、毎回の小課題・コメントによる。

レポートは、学術論文に準じた形式で、日本語文法・語彙史上の問題に関するテーマを適切に設定し、先行研究を確認しつつ、コーパスによる調査を行い、論理的に論述できているかを評価する。

【教科書】

田中牧郎編『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』（朝倉書店,2020）ISBN:978-4254516548（第4回以降の内容および毎回の課題は、本書を基に行う。）

第1～3回は教科書なしでも受講可。第4回より、教科書を基に講義を進めていく。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

（関連URL）

<https://clrd.ninjal.ac.jp/index.html>(国立国語研究所・言語資源開発センター)

【授業外学修（予習・復習）等】

【予習】

教科書の当該箇所に事前に目を通し、疑問点を整理しておく等しておいてほしい。

【復習】

授業で解説した手順を確認し、各自確認のための小課題に取り組む。また、期末レポートの構想や調査の準備を行う。

（その他（オフィスアワー等））

- ・コーパスの授業用アカウントを配布します。もちろん各自で取得したものはそれを使ってくださって構いません。（アカウント取得は無料）
- ・コンピュータの利用を前提としているため、メディア授業を交えて行います。
- ・ネットワークの状況次第ですが、持ち込み可能ならばPC（エクセル等が使える端末）をお持ちいただくとうよいでしょう。
- ・メール等の連絡は随時受け付けます。また、各回の課題提出用に回答フォームを利用する予定であり、そちらに記入していただければ毎回確認します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学5

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	国文学研究資料館研究部 教授 齋藤 真麻理	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	室町物語の方法と圏域				
[授業の概要・目的]					
<p>室町時代から江戸時代にかけて盛行し、しばしば挿絵を伴って享受された室町物語(御伽草子)を対象とする。その特質をよく伝える作品を選び、多角的な視点から本文と挿絵の双方を読み解く。国内外に伝存する室町物語の絵巻や絵本、屏風等の作例はもとより、関連する説話や絵画作品等をあわせみること、作品世界とそこに反映された学芸の諸相、さらにはその文学圏域を醸成した文化的・思想的背景を考察する。また、室町物語の絵入り本は高精細のデジタル画像の公開が急速に進んでいることから、本講では在外コレクションの画像も活用し、デジタル画像の基礎的な活用方法についても学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・室町物語をめぐる現在の研究水準と手法、課題を理解する。 ・関心を持った作品をめくって自ら問いを立て、参考文献等を参照しながら客観的に分析する力を養う。 ・古典文学のデジタル画像について適切な活用方法を身につける。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 室町物語と奈良絵本 2. 物語のかたち 絵巻・絵本・屏風 3. 『酒吞童子』概説 4. 『酒吞童子』と異境の表象 5. 『酒吞童子』の信仰と都市 6. 『付喪神絵巻』概説 7. 『付喪神絵巻』の和漢故事 8. 室町物語にみる都市と境界 9. 『鼠の草子』概説 10. 『源氏物語』の受容と展開 11. 『乳母の草紙』概説 12. 女訓書の受容と展開 13. 室町物語にみる古典教養 14. 奈良絵本と出版文化 15. 室町物語の方法と圏域 					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点20%、レポート80%

【教科書】

講義資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)

齋藤真麻理 『異類の歌合 室町の機智と学芸』(吉川弘文館、2014年) ISBN:9784642085267

齋藤真麻理 『妖怪たちの秘密基地 つくもがみの時空』(平凡社、2022年) ISBN:9784582364675

【授業外学修(予習・復習)等】

講義に取り上げる作品について、翻刻・注釈等、デジタル画像などを探し、原文を読んでもらうこと。

【その他(オフィスアワー等)】

メールによる質問等を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学6

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河村 瑛子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	芭蕉研究				
[授業の概要・目的]					
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前半は、芭蕉の伝記と作品について、近世前期の文学史の展開を踏まえつつ講義し、その上で、芭蕉の代表作である『奥の細道』の精読を行う。作品の生成過程を吟味しつつ、関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後半は、近世文学研究を行う上で重要な資料であり、芭蕉の作品とも分かちがたく結びつく書簡資料を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。内容に関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>近世前期から中期にかけての俳諧史と、諸派の俳諧の特性を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。芭蕉作品の生成過程の諸相を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 芭蕉の伝記と作品 3. 『奥の細道』概説 4. 『奥の細道』精読(1) 室の八島 5. 『奥の細道』精読(2) 日光 6. 『奥の細道』精読(3) 黒髪山・裏見の滝 7. 『奥の細道』精読(4) 那須野 8. 『奥の細道』精読(5) 黒羽 9. 書簡資料概説・芭蕉書簡精読(1) 天和年間の書簡(前半) 10. 芭蕉書簡精読(2) 天和年間の書簡(後半) 11. 芭蕉書簡精読(3) 貞享年間の書簡(前半) 12. 芭蕉書簡精読(4) 貞享年間の書簡(後半) 					
----- 国語学国文学(特殊講義) (2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義) (2)

- 13.芭蕉書簡精読(5)元禄年間の書簡(前半)
- 14.芭蕉書簡精読(6)元禄年間の書簡(後半)・総括
- 15.フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(30%)、小テスト(20%)、期末レポート(50%)による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
鈴木勝忠『俳諧史要』(明治書院、1973)
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

版本・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、前時代・同時代の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

【その他(オフィスアワー等)】

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学7

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 大槻 信		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍訓点資料の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>漢籍訓点資料をとりあげ、演習形式で研究を行う。 訓点資料についての基礎知識を獲得し、訓点資料を日本語史・日本文学の研究資料として使用する ための方法・視点を学ぶことを目的とする。 授業では、調べ、考える楽しさを重視する。</p>					
[到達目標]					
<p>訓点資料についての基礎知識を獲得し、様々な工具書を用いて訓点資料を読解し、そこに現れた日 本語について考察できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>日本では、漢文を読解するための補助手段として、漢文本文に返点・仮名・ヲコト点などを記入す ることがあった。返点により語順を示し、仮名によって訓や音を表す。ヲコト点は字画の様々な位 置に点や線を施すことで、助詞・助動詞のような助辞や活用語尾などを表示した。これらの注記・ 符号を「訓点」、訓点が施された文献を「訓点資料」と呼ぶ。 本演習では、唐代の伝奇小説『遊仙窟』の訓点本(陽明文庫本)をとりあげ、その研究を行う。具 体的には、資料をもとに訓み下し文を作成し、その過程で、書誌・表記・音韻・文法・語彙といっ た種々の方面から検討を加える。日本語史、訓読語、古辞書、伝奇小説に興味がある人には面白い ものとなる。 年度はじめ数回をイントロダクションと訓点資料入門にあてる。 その後、受講者による発表形式で進める。発表者は担当部分(半丁分、洋本の1ページに相当)か ら問題点を見つけ出し、発表する。 授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p>					
【前期】					
第1回 イントロダクション					
第2回 イントロダクション、担当決め					
第3回 イントロダクション					
第4回 26才 前半					
第5回 26才 後半					
第6回 26才 前半					
第7回 26才 後半					
第8回 27才 前半					
第9回 27才 後半					
第10回 27才 前半					
第11回 27才 後半					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

第12回 28才 前半
第13回 28才 後半
第14回 28ウ 前半
第15回 28ウ 後半

【後期】

第1回 29才 前半
第2回 29才 後半
第3回 29ウ 前半
第4回 29ウ 後半
第5回 30才 前半
第6回 30才 後半
第7回 30ウ 前半
第8回 30ウ 後半
第9回 31才 前半
第10回 31才 後半
第11回 31ウ 前半
第12回 31ウ 後半
第13回 32才 前半
第14回 32才 後半
第15回まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。
発表の機会がなかった者は発表に相当するレポートをもって評価する。

【教科書】

資料のコピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者全員がその時間に取り上げる該当部分について予習した上で授業にのぞむこと。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学8

科目ナンバリング	G-LET10 71340 SJ36				
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	木5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語を調査する				
[授業の概要・目的]					
<p>言葉について考えるためには、それが現代の言葉であれ過去の言葉であれ、自分の考えが独りよがりなものでないことを確認するため、「調べる」という過程を経ることが必要である。この授業では、日本語の調べ方を学び、実践する。具体的には次の行程をとる；</p> <p>(1) 日本語を調べるにはどのような方法があるか、調べる際に注意すべきことは何か、そもそも日本語を調べるとは何を調べることなのか、といったことについて一通り学ぶ(講義形式)。 (2) 上記(1)を踏まえて各自、日本語の任意のトピックについて調べる(教員からの課題に答えるのでも、自分で課題を設定するのでもよい)。</p> <p>なお、より詳しい行程については受講生数に応じて調整していく。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 日本語を調べるにはどのような方法があるか、調べる際に注意すべきことは何かを理解する。 日本語のトピックについて、そのトピックにとって適切な方法によって調べ、それをもとに考えを進めることができる。 自分の調べたことと考えたことを、読者がストレスなく理解できるような形で文章化できる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：概要説明 第2-5回：レクチャー(「調べ方」「調べる際の注意」) 第6-29回：受講生発表 第30回：ふりかえり</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点と授業内発表：100%					
[教科書]					
使用しない					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レクチャー及び他参加者の発表内容を、自分の発表にどのように活用できるか考え、試行する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学9

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鈴木 隆司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	蜻蛉日記を読む				
[授業の概要・目的]					
蜻蛉日記は、平安時代の日記文学を代表する作品として、古くから読まれてきた作品であり、後世の文学作品に与えた影響も大きい。本授業では、上巻冒頭から順に担当範囲を決めて読み進めていき、併せて平安時代の貴族社会における、恋愛・結婚のあり方についての理解を深めていくことを目的とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な論拠に基づく的確な解釈を考えることができるようになる。 ・研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。 ・自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。 ・他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
第1回 ガイダンス(授業の概要を説明し、発表担当を決める) 第2回 蜻蛉日記の基礎知識(講義) 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(100点) 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。					
[教科書]					
川村裕子『新版 蜻蛉日記I』(KADOKAWA、2003) ISBN:9784043679010					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学10

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鈴木 隆司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	蜻蛉日記を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>蜻蛉日記は、平安時代の日記文学を代表する作品として、古くから読まれてきた作品であり、後世の文学作品に与えた影響も大きい。本授業では、上巻冒頭から順に担当範囲を決めて読み進めていき、併せて平安時代の貴族社会における、恋愛・結婚のあり方についての理解を深めていくことを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な論拠に基づく的確な解釈を考えることができるようになる。 ・研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。 ・自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。 ・他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス(授業の概要を説明し、発表担当を決める) 第2回 続・蜻蛉日記の基礎知識(講義) 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ</p> <p>なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(100点) 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。</p>					
[教科書]					
川村裕子『新版 蜻蛉日記Ⅰ』(KADOKAWA、2003) ISBN:9784043679010					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学11

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高橋 幸平	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文学をめぐる諸概念(フィクション・作品・テキスト)				
[授業の概要・目的]					
<p>文学やその鑑賞行為をめぐる諸概念は、必ずしも自明ではない。たとえば、文学研究には作品解釈も含まれようが、解釈とは正確には何をどうすることを意味しているのだろうか。妥当な解釈とそうでない解釈があるとすれば、何によって両者は区別されるのか。ほかにも分析すべき概念は多い。「文学作品に読む価値があるとすれば、その価値とは何だろうか」、「文学はフィクションと同義だろうか」、「作品とはどれのことか。初出誌面で読むテキストとWeb上で公開されたテキストとは同じ作品だろうか」。いずれも、重要であるとはわかっていても簡単には答えられず、手のつけにくい問題である。</p> <p>文学の哲学(The philosophy of literature)と呼ばれる分析美学の一分野では、文学とその鑑賞行為にまつわる諸概念を精緻化すべく議論が展開されてきた。しかし、それらの学問的蓄積の多くは未邦訳であり、特に日本文学研究においては参照されることが少ない。</p> <p>本演習では、Contemporary Readings in the Philosophy of Literature: An Analytic Approach (Davies & Matheson, 2008)におさめられた文学の哲学の代表的な論文のうち、フィクション・作品・テキストを論じたものを輪読し、文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>文学理論に関する英語文献を理解することができる。 文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念について、代表的な学問的立場を説明できる。 自身の研究の前提としてどのような学問的立場を取るのかを自覚し説明できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 ガイダンス 2 "The logical status of fictional discourse" / John R. Searle 1 3 "The logical status of fictional discourse" / John R. Searle 2 4 "The logical status of fictional discourse" / John R. Searle 3 5 "Fiction, fiction-making, and styles of fictionality" / Kendall L. Walton 1 6 "Fiction, fiction-making, and styles of fictionality" / Kendall L. Walton 2 7 "The concept of fiction" / Gregory Currie 1 8 "The concept of fiction" / Gregory Currie 2 9 "The concept of fiction" / Gregory Currie 3 10 "Interpretation and identity: can the work survive the world?" / Nelson Goodman and Catherine Z. Elgin 11 "Work and text" / Gregory Currie 1 12 "Work and text" / Gregory Currie 2 13 "Work and text" / Gregory Currie 3</p>					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

14 "Work and text" / Gregory Currie 4
15まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に臨む態度...25%
(欠席:1回...-5点、2回...-15点、3回...-30点、4回...-50点)
文献の理解度...25%
(受講生は順に日本語訳する。また内容を自分の言葉で敷衍する)
期末レポート...50%

【教科書】

対象論文をコピーして配布する。

【参考書等】

(参考書)
Davies, D., & Matheson, C. (Eds.) 『Contemporary readings in the philosophy of literature: An analytic approach』 (Broadview Press. 2008.) (授業で扱う論文を収めた論文集。)
Carroll, N., & Gibson, J. 『The Routledge Companion to Philosophy of Literature』 (Routledge. 2015)

【授業外学修(予習・復習)等】

発表は課さないが、受講生は毎回、指名を受けて文献の部分訳を求められる。授業で扱う範囲は事前に日本語で説明できるように準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は対象論文の日本語訳とその内容についてのディスカッションで構成される。一般に、この分野の論文は特に明晰で論理展開を追いやすく、英語としての難易度はそれほど高くない。なお、一回の授業で扱う分量は3000 wordsくらいを予定している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学12

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高橋 幸平	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文学をめぐる諸概念(作品中の真理・物語・解釈)				
[授業の概要・目的]					
<p>文学やその鑑賞行為をめぐる諸概念は、必ずしも自明ではない。たとえば、文学研究には作品解釈も含まれようが、解釈とは正確には何をどうすることを意味しているのだろうか。妥当な解釈とそうでない解釈があるとすれば、何によって両者は区別されるのか。ほかにも分析すべき概念は多い。「文学作品に読む価値があるとすれば、その価値とは何だろうか」、「文学はフィクションと同義だろうか」、「作品とはどれのことか。初出誌面で読むテキストとWeb上で公開されたテキストとは同じ作品だろうか」。いずれも、重要であるとはわかっていても簡単には答えられず、手のつけにくい問題である。</p> <p>文学の哲学(The philosophy of literature)と呼ばれる分析美学の一分野では、文学とその鑑賞行為にまつわる諸概念を精緻化すべく議論が展開されてきた。しかし、それらの学問的蓄積の多くは未邦訳であり、特に日本文学研究においては参照されることが少ない。</p> <p>本演習では、Contemporary Readings in the Philosophy of Literature: An Analytic Approach (Davies & Matheson, 2008)におさめられた文学の哲学の代表的な論文のうち、作品中の真理・物語・解釈を論じたものを輪読し、文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>文学理論に関する英語文献を理解することができる。 文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念について、代表的な学問的立場を説明できる。 自身の研究の前提としてどのような学問的立場を取るのかを自覚し説明できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 ガイダンス 2 "Truth in fiction" / David Lewis 1 3 "Truth in fiction" / David Lewis 2 4 "The structure of stories" / Gregory Currie 1 5 "The structure of stories" / Gregory Currie 2 6 "Fictional truth and fictional authors" / David Davies 1 7 "Fictional truth and fictional authors" / David Davies 2 8 "Fictional truth and fictional authors" / David Davies 3 9 "The intentional fallacy" / W.K. Wimsatt, Jr. and M.C. Beardsley 1 10 "The intentional fallacy" / W.K. Wimsatt, Jr. and M.C. Beardsley 2 11 "Validity in interpretation" / E.D. Hirsch 12 "Intention and interpretation" / Jerrold Levinson 1 13 "Intention and interpretation" / Jerrold Levinson 2</p>					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

14 "Intention and interpretation" / Jerrold Levinson 3
15まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に臨む態度...25%
(欠席:1回...-5点、2回...-15点、3回...-30点、4回...-50点)
文献の理解度...25%
(受講生は順に日本語訳する。また内容を自分の言葉で敷衍する)
期末レポート...50%

【教科書】

対象論文をコピーして配布する。

【参考書等】

(参考書)
Davies, D., & Matheson, C. (Eds.) 『Contemporary readings in the philosophy of literature: An analytic approach』 (Broadview Press. 2008.) (授業で扱う論文を収めた論文集。)
Carroll, N., & Gibson, J. 『The Routledge Companion to Philosophy of Literature』 (Routledge. 2015)

【授業外学修(予習・復習)等】

発表は課さないが、受講生は毎回、指名を受けて文献の部分訳を求められる。授業で扱う範囲は事前に日本語で説明できるように準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は対象論文の日本語訳とその内容についてのディスカッションで構成される。一般に、この分野の論文は特に明晰で論理展開を追いやすく、英語としての難易度はそれほど高くない。なお、一回の授業で扱う分量は3000 wordsくらいを予定している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学13

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河村 瑛子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『俳諧類船集』研究				
[授業の概要・目的]					
<p>過去の文献に記されたことがらを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション 2.『俳諧類船集』概説 3.和装本の扱い方について 4.受講者による発表と討議(1)「袴」条 5.受講者による発表と討議(2)「袴」条 6.受講者による発表と討議(3)「袴」条 7.受講者による発表と討議(4)「脛巾」条 8.受講者による発表と討議(5)「羽折」条 9.受講者による発表と討議(6)「旗」条 10.受講者による発表と討議(7)「旗」条 11.受講者による発表と討議(8)「白衣」条 12.受講者による発表と討議(9)「初もとゆひ」条 13.受講者による発表と討議(10)「白髪」条 					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習) (2)

- 14.受講者による発表と討議(11)「初雪」条
15.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度等によって、予定を変更する場合がある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(発表および授業中の発言等)による。授業時間内に発表できなかった者は、レポートで代替する。発表・レポートは到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
頼原退蔵『頼原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社,1980) ISBN:4124012012
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学14

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍目録法				
[授業の概要・目的]					
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
各種の漢籍目録(データベースを含む)の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。					
[授業計画と内容]					
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。					
第1回 ガイダンス					
第2回 漢籍の定義(漢籍と目録の関係)					
第3回 カード作成の目的(書誌の基本)					
第4回 書名(表題の確定)					
第5回 書名(合刻と合綴)					
第6回 書名(漢籍の同定)					
第7回 巻数(書誌の特徴)					
第8回 撰者(書籍への関与の形態)					
第9回 撰者(書籍に関与した人物の情報)					
第10回 鈔刻(複製の手法)					
第11回 鈔刻(刊行年と出版者)					
第12回 鈔刻(底本の表示)					
第13回 鈔刻(特殊な情報)					
第14回 叢書・増出・地志カードの作成					
第15回 まとめ					
フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』（朋友書店,2005）ISBN:9784892811067

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門（資料）（中里見敬氏）)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理（永田知之）)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために（小島浩之氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学15

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍分類法				
[授業の概要・目的]					
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。					
[授業計画と内容]					
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。					
第1回 ガイダンス					
第2回 経部・概説					
第3回 経部・五経等(経注疏合刻類～春秋類)					
第4回 経部・四書等(四書類～小学類)					
第5回 史部・概説					
第6回 史部・叙述形式(正史類～載記類)					
第7回 史部・制度、伝記、地理(詔令奏議類～政書類)					
第8回 史部・資料、史論(書目類～史評類)					
第9回 子部・概説					
第10回 子部・思想、技術(儒家類～術数類)					
第11回 子部・趣味、宗教(芸術類～道家類)					
第12回 集部・概説					
第13回 集部・各論					
第14回 叢書部					
第15回 まとめ					
フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房,1995）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版,2016）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学16

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初唐文学研究				
[授業の概要・目的]					
<p>唐代の文学は一般に初唐、盛唐、中唐、晩唐と4つの時期に分けられる。この講義の目的は、4時期のうち初唐文学の特色を明らかにすることにある。初唐は南北朝時代の形式を重視した文学を克服し、盛唐文学を準備した時期とされる。初唐時期の代表的文学者王勃、楊炯、盧照鄰、駱賓王の文学について考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>初唐四傑の文学作品の読解を通して、この時期の文学の特色と文学史における意義を明らかにする。過渡期とされる初唐文学に注目することにより、その前後の時期の文学の特色も明確に理解することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1 初唐という時期について 第2 初唐四傑に対する評価について 第3 初唐四傑を中心とする文学者の交流について 第4 王勃作品読解1 第5 王勃作品読解2 第6 王勃作品読解3 第7 楊炯作品読解1 第8 楊炯作品読解2 第9 楊炯作品読解3 第10 盧照鄰作品読解1 第11 盧照鄰作品読解2 第12 駱賓王作品読解1 第13 駱賓王作品読解2 第14 初唐時期の文学考察 第15 まとめ・文学史における初唐文学の位置付け</p>					
[履修要件]					
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。					
[成績評価の方法・観点]					
授業における発言と、報告に基づいて評価する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:978-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学17

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初唐時期詩文選読				
【授業の概要・目的】					
この講義の目的は、日本に伝わる中国初唐時期の古写本(『翰林学士集』『杜家立成』『趙士集』など)に注目し、それらの作品の読解を通して、初唐時期の文学の特色について考察する。					
【到達目標】					
日本に残る唐人の作品集は、遣唐使によって持ち帰られた。それらは唐土における流行を反映したものであり、それらを読解することによって、現代の文学史とは異なる、同時代の文学評価、好尚を理解することができる。これらの古写本の読解から中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また同時代の中国・日本の作品に対する影響についても考察することにより、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。					
【授業計画と内容】					
第1 初唐文学について 第2 日本に持ち帰られた中国文学作品について 第3 唐鈔本の伝来と発見について 第4 『杜家立成』読解1 第5 『杜家立成』読解2 第6 『杜家立成』読解3 第7 『杜家立成』読解4 第8 『翰林学士集』読解1 第9 『翰林学士集』読解2 第10 『翰林学士集』読解3 第11 『翰林学士集』読解4 第12 『趙士集』読解1 第13 『趙士集』読解2 第14 その他の日本伝存唐鈔本考察 第15 まとめ。唐鈔本と中国文学					
【履修要件】					
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業における発言と、報告に基づいて評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』(研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』(創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の詩文について基本的な知識を得ておくこと

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学18

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	滋賀大学教育学部 教授 二宮 美那子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	唐代「園林・居宅」文学研究				
[授業の概要・目的]					
<p>唐代の詩人たちは、私的空間を作品の中で様々に描いてきた。私的空間、具体的には園林や居宅を描いた文学は、唐代のみを見ても一定の変遷がある。その背景には、荘園の所有の広がり・都市内部への関心・隠逸観の変化など種々の要因が存在する。また、園林や居宅という現実の「場」は、山水詩・田園詩・公宴詩など代表的な詩のジャンルと深く関わり合う。本講義では、唐代詩人たちの私的空間を描く作品をいくつか取り上げ、場所と文学との関わり・隠逸・閑適・山水・所有や所属意識などのテーマについて、取り上げる作品に応じて考察を加える。</p>					
[到達目標]					
<p>唐代の詩人たちの園林・居宅文学について考察し、隠逸や山水などの唐詩の重要テーマについて理解を深める。あわせて、主要な詩人たちの表現の独自性について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には以下の内容について講義を進める。講義の進み具合に応じて、順序や内容を変更することもある。講義内容について、授業中に受講生にコメントを求めることがある。</p> <p>第1回 導入(1) 唐代の「園林・居宅」に至るまで 第2回 導入(2) 「園林・居宅」文学の諸相 第3回 初盛唐の荘園と文学(1) 第4回 初盛唐の荘園と文学(2) 第5回 盛唐 王維 隠逸意識と園林 第6回 盛唐 杜甫 「公宴詩」に連なる作品 第7回 盛唐 杜甫 浣花草堂(1) 第8回 盛唐 杜甫 浣花草堂(2) 第9回 盛唐 杜甫 居宅への言及をめぐって 第10回 中唐 白居易 都市と詩人 第11回 中唐 白居易 土地との結びつき 第12回 中唐 韓愈 城南別墅(1) 第13回 中唐 韓愈 城南別墅(2) 第14回 中唐 韓愈と白居易の園林文学 第15回 盛唐から中唐へ</p>					
[履修要件]					
中国古典文学について、基礎的な読解力を備えていることが望ましい。					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(4割・授業への関与など)と期末レポート(6割)によって評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

中国古典文学史に関するおおまかな流れを把握しておくこと。
また、唐詩についての基礎的な知識を、書籍などで把握しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先: mninomiya@edu.shiga-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学19

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 松江 崇	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語史における意味範疇の変遷				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、中国語史における意味範疇について、主要な類型にはどのようなものがあるのか、それぞれのいかなる変遷を辿ってきたのかを理解することである。</p> <p>古代中国語(上古中国語)と現代中国語との意味範疇のあり方の相違について概説した後、その史の変遷について中国語で書かれた論文を読解しつつ、教員が内容上の補足を行うことにより、主要な類型と変化を促した種々の要因等について理解する。具体的には、「不定範疇」と「程度範疇」の変遷をとりあげる。さらにこれらの範疇の変化が、中国語史の如何なる類型論的性質の変化と関連しているかについて理解する。</p>					
[到達目標]					
<p>古代中国語と現代中国語における「不定範疇」「程度範疇」といった意味範疇の相違点を理解した上で、中国語史における意味範疇の変化を巡る諸問題について把握する。さらに中国語の意味範疇の変化のメカニズムを検討することを通じて、古今の中国語の類型論的性質の変化について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>この授業はフィードバック(方法は別途連絡)を含む全15回で行う。</p> <p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古今の中国語の「不定範疇」「程度範疇」の違いについて概説する。その上で、董秀芳2010「漢語光杆名詞指称特性的歴時演变」(『語言研究』)および陳xin穎・盛益民2023「漢語程度特指訊問編碼策略的類型学研究 兼論程度疑問代詞的演变模型」(『中国語文』3期)を読解しつつ(下に記した当該論文の「」内の名称は、読解する箇所の内容を日本語に翻訳したもの)、中国語史における意味範疇の変化を巡る諸問題を検討する。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員が内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようである。</p>					
第1回	授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介				
第2回	現代中国語の指示性の体系についての概説				
第3回	董秀芳2010「主語位置の裸名詞の指示性の変化」(1)				
第4回	董秀芳2010「主語位置の裸名詞の指示性の変化」(2)				
第5回	董秀芳2010「目的語位置の裸名詞の指示性の変化」(1)				
第6回	董秀芳2010「目的語位置の裸名詞の指示性の変化」(2)				
第7回	董秀芳2010「目的語位置の裸名詞の指示性の変化」(3)				
第8回	まとめ：不定範疇の中国語史における変化				
第9回	現代中国語の程度範疇についての概説				
第10回	語彙的意味範疇の研究方法について 「感応」による方法				
第11回	陳xin穎・盛益民2023「方言・中国語史における疑問代名詞の類型」(1)				
第12回	陳xin穎・盛益民2023「方言・中国語史における疑問代名詞の類型」(2)				
中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第13回 陳xin穎・盛益民 2023 「方言・中国語史における疑問代名詞の類型」(3)

第14回 まとめ：程度範疇の中国語史における変化

第15回 フィードバック

【履修要件】

中国語学習の経験者であること。
漢文についての基礎的な知識を備えていること。

【成績評価の方法・観点】

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を发表することにより代替することが可能とする。

【教科書】

ハンドアウトを配布する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学20

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 松江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語史における時間表現の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、中国語の歴史における時間表現に関する諸問題について、主として(1)「時点」概念と「時量」概念の区別、(2)時間副詞・時点直指詞の類型、という二つの側面に着目し、それぞれ如何なる変遷を辿ってきたのかを理解することである。</p> <p>上記(1)(2)の点につき、現代中国語における状況を概説した後、その史的変遷について中国語で書かれた論文を読解しつつ、教員が内容上の補足を行うことにより、両者が中国語史において如何なる変遷を辿ってきたのか、またそのメカニズムはどのようなものかについて理解する。</p>					
[到達目標]					
<p>中国語史における時間表現に関する諸問題、具体的には(1)「時点」概念と「時量」概念の区別、(2)時間副詞・時点直指詞の類型、といった問題について、古代中国語と現代中国語における相違を理解した上で、両者の史的変遷を巡る諸問題について把握する。さらに中国語の時間表現の変化のメカニズムを検討し、他の文法項目との関連や中国語の類型論的性質の変化との関係についても理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>この授業はフィードバック(方法は別途連絡)を含む全15回で行う。古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古今の中国語の(1)「時点」概念と「時量」概念の区別、(2)時間副詞・時点直指詞の類型、の違いについて概説する。その上で、当該の問題と関連する何亮2007「從中古相對時点詞看漢語時間表達認知方式的發展」(『南昌大学学报』人文社会科学版)、梁銀峰2010「『祖堂集』的時間副詞系統」(『長江學術』2010・1)、徐旦2016「古漢語里的縱向時間表達」(『語言科學』第15卷第1期)を読解しつつ、中国語史における時間表現の変化を巡る諸問題を検討する(下に記した当該論文の「 」内は、読解する箇所の内容を日本語に翻訳したもの)。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員が内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようである。</p>					
第1回	授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介				
第2回	現代中国語の時点概念と時量概念についての概説				
第3回	何亮2007「中古中国語の時点表現」(1)				
第4回	何亮2007「中古中国語の時点表現」(2)				
第5回	まとめ：中国語史における「時点」概念と「時量」概念の区別の変遷				
第6回	現代中国語の時間副詞についての概説				
第7回	梁銀峰2010「近古中国語の時間副詞体系語」(1)				
第8回	梁銀峰2010「近古中国語の時間副詞体系語」(2)				
第9回	梁銀峰2010「近古中国語の時間副詞体系語」(3)				
第10回	まとめ：中国語史における時間副詞体系の変遷				
第11回	現代中国語における時点限定節についての概説				
第12回	徐旦2016「古漢語における縦方向の時間表現」(1)				
中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第13回 徐旦2016「古漢語における縦方向の時間表現」(2)

第14回 まとめ：中国語史における時点限定節の史的変遷

第15回 フィードバック

【履修要件】

現代中国語を学習した経験があること。
漢文について基礎的な知識を持っていること。

【成績評価の方法・観点】

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を発表することにより代替することが可能とする。

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学21

科目ナンバリング	G-LET11 61431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古文字学				
[授業の概要・目的]					
本講義は中国の古文字学について大まかな枠組み、各時代の古文字の特徴を概観することを目的とする。また古文字と合わせて、上古音との関係についても紹介する予定である。					
[到達目標]					
文字「学」に関する理論を理解している 中国の古文字学の概要を理解している 各時代の古文字を理解している					
[授業計画と内容]					
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 第1回-第3回：ガイダンス 文字論一般 第4回-第6回：説文解字、字書、漢字の起源、記号と文字、甲骨文字 第7回-第9回：金文、戦国文字(1) 第10回-第12回：戦国文字(2) 第13回-第14回：秦の文字以降 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み(50点)とレポート(50点)					
[教科書]					
使用しない 配布資料を準備する					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学22

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語音韻学：中古音について				
【授業の概要・目的】					
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項(特に中国語学の専門用語、字書、義書等)についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>					
【到達目標】					
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>					
【授業計画と内容】					
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>議論への積極的な参加(20%) 小テスト(50%) レポート(30%)</p>					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学23

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	東京大学大学院人文社会系研究科 齋藤 希史 教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	六朝詩賦論				
[授業の概要・目的]					
漢から六朝にいたる賦と詩について、辞賦から五言詩へという大きな流れを、叙詠主体の機能の変容という観点からとらえなおしつつ、詩賦の主題や表現の分析を行ない、中国古典文学の新たな見取り図を提示する。また、従来、文法的には破格もしくは不全とされがちな詩の表現について検討し、六朝詩賦の句法の漢語表現史における意義を明らかにする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国文学における賦という文体と叙詠主体の意義はどこにあるのか、五言詩におけるそれらはどう異なるのかを理解する。 ・六朝詩賦の主題がどのような構成原理にもとづいているかを理解する。 ・五言詩が古漢語の表現をいかに拡大させたかを理解する。 ・山水詩を五言詩の完成とみなす考え方がなぜ成立するのかを理解する。 ・以上の理解を通じて、東アジアにおける韻文表現の特徴について、各自の考えとその根拠を説明できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
2024年9月中旬以降の集中講義として実施する。スケジュールは以下を予定している。ただし、講義の進行によって前後する場合がある。					
第1日					
0. ガイダンス					
I 叙詠主体の生成					
1. 職能としての賦					
2. 漢魏文学の焦点					
第2日					
3. 五言詩のトパス					
4. 共鳴する詠懐					
II 詩賦の句法					
5. 散体と駢体					
6. 四言と五言					
7. 詩から賦へ					
第3日					
III 詩賦の主題					
8. 行と居					
中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

9. 景と感
IV 知覚主体の生成
10. わけいる耳目
11. 晤言と玄言

第4日

12. 山水を得る
13. 詠物による空間

14. まとめ(0-14で全15回)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(20%)レポート(80%)による。レポートの題目は授業時に指示する。

【教科書】

使用しない
授業用のレジュメをオンラインで用意する。

【参考書等】

(参考書)
興膳宏・川合康三『精選訳注 文選』(講談社学術文庫, 2023)
李成市他『世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア』(集英社, 2023)(このうち「第4章 六朝時代とは何であったか アジアの名文集『文選』の誕生まで」)
授業中にも紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

集中講義なので、講義開始前は参考書によって漢代から六朝までの詩賦について基礎的な知識を得ておく。講義開始後は、その日ごとの授業のまとめを行ない、次の日の授業で行われる質疑応答に備える。講義終了後は、全体のまとめを行ない、レポートの準備をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学24

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 成田 健太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『管錐編』選読				
【授業の概要・目的】					
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である錢鍾書(1910-1998)による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、『毛詩正義』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 					
【授業計画と内容】					
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業					
【履修要件】					
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等)による。					
【教科書】					
PandAを使用して資料を共有する。					
【参考書等】					
(参考書) 錢鍾書『管錐編』(生活・読書・新知三聯書店) ISBN:9787108065933					
【授業外学修(予習・復習)等】					
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学25

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 成田 健太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『管錐編』選読				
【授業の概要・目的】					
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である錢鍾書(1910-1998)による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、『毛詩正義』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 					
【授業計画と内容】					
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業					
【履修要件】					
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等)による。					
【教科書】					
PandAを使用して資料を共有する。					
【参考書等】					
(参考書) 錢鍾書『管錐編』(生活・読書・新知三聯書店) ISBN:9787108027467					
【授業外学修(予習・復習)等】					
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学26

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 緑川 英樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東坡詩選読				
【授業の概要・目的】					
北宋の代表的な詩人として知られる蘇軾(蘇東坡、1036~1101)の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。					
【到達目標】					
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。					
【授業計画と内容】					
清・馮応榴『蘇文忠公詩合註』を底本にして蘇軾の詩を読み進めてゆく。南宋以来の諸注釈や日本の室町時代に編纂された抄物『四河入海』を参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論する。					
第1回 イン트로ダクション 蘇軾および蘇軾集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。					
第2回~第14回 蘇軾詩の精読					
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、蘇軾研究の現状と課題についてまとめる。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業内での担当、発言)による。					
【教科書】					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈を読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学27

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 緑川 英樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東坡詩選読				
【授業の概要・目的】					
北宋の代表的な詩人として知られる蘇軾(蘇東坡、1036~1101)の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。					
【到達目標】					
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。					
【授業計画と内容】					
清・馮応榴『蘇文忠公詩合註』を底本にして蘇軾の詩を読み進めてゆく。南宋以来の諸注釈や日本の室町時代に編纂された抄物『四河入海』を参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論する。					
第1回 イン트로ダクション 蘇軾および蘇軾集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。					
第2回~第14回 蘇軾詩の精読					
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、蘇軾研究の現状と課題についてまとめる。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業内での担当、発言)による。					
【教科書】					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈を読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET12 61530 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	北朝正史の儒林伝を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えは儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なったことは、よく知られる。</p> <p>そこで本講義では、北朝における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝正史の儒林伝を読んでいく。具体的には『魏書』『北齊書』『周書』である。</p> <p>北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどることで、北朝ではどのような学問を備えることが目指されたのかを、探っていく。また儒者に対して、社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会全般を考える上でのヒントになる。</p> <p>なおすでに令和2年度から『魏書』儒林伝、『周書』儒林伝の途中までを読み終えており、今年度は『周書』儒林伝の途中からになる。ただし過去の内容は当然フォローするので、今年度からの受講も問題ない。分野を問わず、様々な学生の履修に期待したい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・北朝正史の儒林伝を精読することで、北朝における学問の特質を理解できる。 ・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、それを系統立てて説明できる。 ・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。 					
[授業計画と内容]					
<p>原則として講義形式(北朝正史の儒林伝に対する教員作成の訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する)で進めるが、時に出席者にも講義の内容にコメントしてもらう場面を設けることがある。</p> <p>1 ガイダンス 2・3 北朝儒学に関する先行研究紹介 4～6 『周書』儒林伝精読：楽遜 7～9 『北齊書』儒林伝精読：儒林伝序 10～12 李鉉 13・14 チョウ柔 15 馮偉</p> <p>16～18 張買奴・劉軌思・鮑季詳 19・20 ケイ峙・劉昼 21 馬敬徳 22・23 張景仁 24・25 権会・張思伯</p>					
中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く					

中国哲学史(特殊講義) (2)

26・27 張翥
28 孫靈暉・石曜
29・30 北朝儒学をどう考えるか

フィードバックの方法は授業時に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

【教科書】

授業中に指示する
教員作成のプリントを使用する。

【参考書等】

（参考書）
氣賀澤保規ほか『中国史書入門 現代語訳 北齊書』（勉誠出版,2021年）ISBN:978-4-585-29612-6
（『北齊書』の邦訳で、儒林伝序の邦訳を含む。北齊を含む北朝の歴史を概観できる。）
上記の書籍の他、参考書籍は数多いので、授業中に紹介していく。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	近畿大学国際学部 准教授 村田 みお		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国六朝隋唐仏教の諸相 山水、絵画、写経、捨身、儀礼、靈験				
[授業の概要・目的]					
<p>中国六朝隋唐期の仏教について、漢文文献資料を主たる材料として、仏像や山水画、経巻といった物が、崇拜や瞑想、写経、捨身、儀礼という実践としての行為の中でどのように意味づけられ用いられたのかを中心に考察する。六朝隋唐期の現存する遺物はごく限られており、物そのものを観察し考究するには制約が多いが、既に失われた様々な物が当時においてどのような視線で見つめられ、どのような役割を持たされていたかという物を取り巻く人的環境を知るのが目的である。仏教教理のような担い手が一部知識人に限られる分野と異なり、皇帝から僧侶、一般大衆、女性まで幅広く実践可能であった行為を研究することで、社会階層をある程度は横断した視野を持てると考える。さらに、対象を個人や一文献に限定せずに広い社会階層を含めて研究することで、当時の人々にとっての謂わば無意識の前提を汲み取ろうと試みるのである。</p>					
[到達目標]					
<p>中国六朝隋唐仏教について、実践的な角度から多面的に理解しようとする視点を持てるようになる。</p> <p>社会的上位層や専門性の高い僧侶といった一部の人以上だけでなく、広く一般大衆までを視野に入れ、その間でどのような認識がどれくらいまで共有されたかを考えられるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下の通り行うが、進度は適宜調整する場合がある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 仏教図像と瞑想 廬山慧遠 第3回 山水と山水画 宗炳 第4回 山水と五感の体験 王微 第5回 写経の功德 経典を中心に 第6回 写経による奇跡・救済 靈験記を中心に 第7回 写経による奇跡・救済 靈験記を中心に 第8回 血字経 本生譚・捨身 第9回 血字経 本生譚・捨身 第10回 金字経 莊嚴・儀礼・觀念上の不滅 第11回 金字経 莊嚴・儀礼・觀念上の不滅 第12回 金字経 莊嚴・儀礼・觀念上の不滅 第13回 写経に関する靈験記の講読 『弘賛法華伝』書写篇</p>					
中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く					

中国哲学史(特殊講義) (2)

第14回 写経に関する靈驗記の講読 『弘賛法華伝』書写篇
第15回 総括

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

リアクション・ペーパー 50%
授業中の発言、講読での発表 50%

【教科書】

資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

日頃から各人で自分の興味のあるテーマに関してできるだけ多く読書することを勧める。テーマに直接関連しないものも背景知識、文章表現力、構造の理解として後々役立つので、自らが読みたいと思う本を読むのが良い。また、本授業で学んだ内容をもとに、自分のテーマに置き換えて共通点と相違を考えてみることにより、自分のテーマを相対化し、より客観的に捉えられるように試みてほしい。

『弘賛法華伝』書写篇の講読では、配付資料を事前に辞書等を用いて読んでおく。訓読または中国語で音読し、現代日本語に訳してもらおう予定である。出典や用例の調べ物が可能な受講生は事前に行ってほしいが、そのような調べ物の経験がない受講生には必須とはしない。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学30

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	版本学概説				
[授業の概要・目的]					
<p>中国古典文献の版本学、なかでも版刻の歴史について学ぶとともに、版面から刊刻年代を特定できる知識を身につける。講述者による説明と、実際に版本や写真版を手にして年代を出席者が個々に考察する作業を併用する。なお、数回、文学部図書館にある版本のうち、当日考察する書籍を、出席者各自が一点を選んでその本の情報を授業時に提出、次回授業時に実際にその本を教室において全員で検討するという回を設ける。従って、しばしば文学研究科図書館に行き本を探す作業があることをあらかじめご留意いただきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>版本学に関する基礎的な知識を修得するとともに、版面から版刻時代を特定できる眼を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第一回 目録学と版本学 第二回 宋版概観 第三回 北宋版 第四回 浙版 第五回 蜀版 第六回 ビン版 第七回 元版概説 第八回 趙体 第九回 明版概説 第十回 正徳まで 第十一回 正徳以後 第十二回 明末清初 第十三回 道光まで 第十四回 咸豊以後 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(50%) レポート(50%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

古勝隆一 『目録学の誕生 劉向が生んだ書物文化』(臨川書店) ISBN:978-4-653-04376-8

[授業外学修(予習・復習)等]

文学研究科の図書館に入って実際に漢籍を手にとって、講義の内容を確かめる作業が必要になると同時に、概要にも書きましたが、授業で皆さんで検討する書籍を個々に選ぶ作業が必要になります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学31

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国絵画理論史概説				
【授業の概要・目的】					
中国の絵画理論史を概説する。					
【到達目標】					
前近代の中国において絵画がどのようなものと考えられていたのか、どのような観点で評価されてきたのかを学ぶことにより、前近代の中国人が芸術や絵画をどのようにとらえたかを知り、中国文化に対する理解を深める。					
【授業計画と内容】					
第一回 絵画理論と中国哲学 第二回 先秦時代 第三回 漢代 第四回 六朝時代 第五回 唐代(張彦遠まで) 第六回 唐代(張彦遠以後) 第七回 宋代1(蘇東坡まで) 第八回 宋代2(蘇東坡) 第九回 宋代3(蘇東坡以後) 第十回 元代1(元末四大家まで) 第十一回 元代2(元末四大家) 第十二回 明代1(董其昌まで) 第十三回 明代2(董其昌) 第十四回 清代 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポート(100%)					
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国哲学史(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

古原宏伸 『画論』 (明德出版社) ISBN:978-4896192650

[授業外学修(予習・復習)等]

できるだけ中国絵画の展覧会あるいは図録などに気を配っておくことを勧めます。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学32

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朱子学の文献を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本授業では、基本的な参考文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。</p>					
[到達目標]					
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進度によっては変更もあり得る。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第一回 ガイダンス 第二回～第八回 『朱文公文集』から 第九回～第十四回 『四書章句集注』から 第十五回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
中国古典初心者の受講を歓迎する。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点100%					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----					

中国哲学史(特殊講義) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内に適宜説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学33

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朱子学の文献を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本講義では、基本的な参照文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。</p>					
[到達目標]					
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進度によっては変更もあり得る。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回～第八回 『朱文公文集』から 第九回～第十四回 『四書章句集注』から 第十五回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
中国古典初心者の受講を歓迎する。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点100%。					
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書やテキストは特に指定せず、教室でプリントを配布する。参考文献などは適宜、紹介し、併せて先行研究への道案内を果たしたい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に前提となる専門的な知識などは要求しないが、広く東アジアや中国の伝統思想や歴史に関心を有する学生の履修を期待する。また、各自の関心や専門など、必要に応じて、授業時に紹介した史料や参考文献などを適宜、参看することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学34

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍目録法				
[授業の概要・目的]					
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
各種の漢籍目録(データベースを含む)の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。					
[授業計画と内容]					
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義(漢籍と目録の関係) 第3回 カード作成の目的(書誌の基本) 第4回 書名(表題の確定) 第5回 書名(合刻と合綴) 第6回 書名(漢籍の同定) 第7回 巻数(書誌の特徴) 第8回 撰者(書籍への関与の形態) 第9回 撰者(書籍に関与した人物の情報) 第10回 鈔刻(複製の手法) 第11回 鈔刻(刊行年と出版者) 第12回 鈔刻(底本の表示) 第13回 鈔刻(特殊な情報) 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』（朋友書店,2005）ISBN:9784892811067

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門（資料）（中里見敬氏）)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理（永田知之）)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために（小島浩之氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学35

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍分類法				
[授業の概要・目的]					
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。					
[授業計画と内容]					
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 経部・概説 第3回 経部・五経等(経注疏合刻類～春秋類) 第4回 経部・四書等(四書類～小学類) 第5回 史部・概説 第6回 史部・叙述形式(正史類～載記類) 第7回 史部・制度、伝記、地理(詔令奏議類～政書類) 第8回 史部・資料、史論(書目類～史評類) 第9回 子部・概説 第10回 子部・思想、技術(儒家類～術数類) 第11回 子部・趣味、宗教(芸術類～道家類) 第12回 集部・概説 第13回 集部・各論 第14回 叢書部 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房,1995）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版,2016）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学36

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『日知録集釈』精読				
[授業の概要・目的]					
顧炎武『日知録』ならびに黄汝成の集釈を精密に読むことによって、漢文読解力を高めるとともに、引用されている数々の文献にあたることによって、古典中国学に関する知識を深める。今年度は、巻六の中の『礼記』にかかわる諸条のうち「中庸」から始め、巻七の「論語」へと読み進める。					
[到達目標]					
古典漢文を自分の言葉に直して読むことができるようになる。 古典中国学の基本的な事項を理解する。					
[授業計画と内容]					
第一回	ガイダンス				
第二回	君子而時中				
第三回	子路問強				
第四回	素夷狄行於夷狄				
第五回	鬼神				
第六回	期之喪達乎大夫				
第七回	達孝				
第八回	思事親不可以不知人				
第九回	誠者天之道也				
第十回	<月屯><月屯>其仁				
第十一回	孝弟為仁之本				
第十二回	察其所安				
第十三回	子路問十世				
第十四回	媚奧				
第十五回	武未盡善				
第十六回	朝聞道夕死可矣				
第十七回	忠恕				
第十八回	夫子之言性与天道				
第十九回	变齐变魯				
第二十回	博学於文				
第二十一回	三以天下讓				
第二十二回	有婦人焉				
第二十三回	季路問事鬼神				
第二十四回	不踐迹				
第二十五回	異乎三子者之撰				
第二十六回	去兵去食				
第二十七回	ゴウ邊舟				
第二十八回	管仲不死乎糾				
中国哲学史(演習) (2)へ続く					

中国哲学史(演習) (2)

第二十九回 予一以貫之
第三十回 フィードバック (授業時に説明する)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点による。

[教科書]

コピーして配布します。

[参考書等]

(参考書)
西田太一郎 『漢文の語法』 (角川書店,2023) ISBN:978-4-04-400634-1

[授業外学修 (予習・復習) 等]

引用されている書物についてはかならず元の書物にあたることを心がける。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学37

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	阮元の文章を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>阮元(1764-1849)は言うまでもなく清朝考証学を代表する学者である。この授業では、彼の著作『ケン経室集』(ケン:研+手)の中から、経学を中心として思想に関わる内容の文章を選読する。文章のジャンルは序・論・跋・書など多岐にわたる。</p> <p>多彩なテーマやジャンルの文章を読むことは、特定の分野に偏らない中国古典全般にわたる読解能力を高めるとともに、その考証の手法や表現の方法を学ぶことをも可能にするであろう。そして同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に阮元を離れてでも、それについて検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶことになる。また文章のジャンルも特定のものにこだわらない。そのため中国哲学史に限らない、様々な専攻の学生の出席を期待する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国古典文献を、典拠や用例を調べ、その原典にあたりながら正確に読解できる。 ・読解の成果を自然な日本語に訳し、また適切な注釈を附すことで、訳注の形で提示する能力を身につける。 ・文献に披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。 ・読解内容に対する阮元以外の考証をも検討することで、同一テーマに対する多角的な視野を持つ力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。読む文章は教員が適宜選択するが、履修者の興味関心を見て決定する予定である。</p> <p>1 ガイダンス 2 ~30 阮元の文章を読む</p> <p>例: 焦氏雕菰楼易学序、論語論仁論、孟子論仁論、性命古訓、石刻孝経論語記、惠半農先生礼説序、張皋文儀礼図序、春秋公羊通義序、焦里堂循群経宮室図序、与臧拜経庸書、与洪[竹+均]軒頤暄論三朝記書、十三経注疏校勘記序(十三篇)</p> <p>フィードバックの方法は授業時に説明する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----					

中国哲学史(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

演習は何より学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相応の予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらおう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学38

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古勝 隆一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『論語義疏』講読				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』(論語音義)を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、郷党篇の詳細な校勘記を作成する。</p>					
[到達目標]					
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。 					
[授業計画と内容]					
<p>『論語義疏』郷党篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2から5回 「食不厭精」章 ・第6回 「席不正」章 ・第7回 「問人於他邦」章 ・第8回 「康子饋藥」章 ・第9回 「厩焚」章 ・第10から12回 「君賜食」章 ・第13回 「入太廟」章 ・第14回 「朋友死」章 ・第15回 フィードバック(詳細は授業時に指示する) 					
[履修要件]					
中級程度の中国語を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。					
[教科書]					
<p>授業中に指示する 必要なテキストは教室にて配布する。</p>					
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。

『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』。

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古勝 隆一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『論語義疏』講読				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』(論語音義)を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、郷党篇・子罕篇の詳細な校勘記を作成する。</p>					
[到達目標]					
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。 					
[授業計画と内容]					
<p>『論語義疏』郷党篇ならびに子罕篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2から4回 郷党篇「寝不尸」章 ・第5から6回 「升車，必正立」章 ・第7から8回 「色斯舉矣」章 ・第9回 子罕篇「子曰吾自衛反魯」章 ・第10回 「子曰出則事公卿」章 ・第11回 「子在川上」章 ・第12回 「子曰譬如為山」章 ・第13回 「子曰語之而不惰者」章 ・第14回 「子曰後生可畏」章 ・第15回 フィードバック(詳細は授業時に指示する) 					
[履修要件]					
<p>中級程度の中国語を修得していること。</p>					
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストはPDFにて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学40

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	スカンダプラーナ研究				
[授業の概要・目的]					
『スカンダプラーナ』(550-650年頃)はシヴァ神話を体系的に編纂した最古のプラーナ文献である。その第114章は、ニーラカントというシヴァの呼称の一つを説明する、乳海攪拌の際に出現した毒を飲んでシヴァの喉が黒くなるという神話を語るが、そのテキストは、現存する『ヴァーユプラーナ』と『ブラフマーンダプラーナ』に共有される部分から再構成される、本文献に先立つプラーナ作品から借用され、本文献の文脈に合わせて改訂されたものである。この授業では、この章について『スカンダプラーナ』写本の複数のリセンション、『ヴァーユプラーナ』、『ブラフマーンダプラーナ』、それぞれに伝わるテキストを比較することで、プラーナ文献における特定の神話テキストの伝承過程を考察する。					
[到達目標]					
ヒンドゥー神話を研究する上で、非常に重要な文献群であるプラーナ文献の特徴、この文献群におけるテキストの貸借・改作・伝承過程での変化を学ぶことができる。					
[授業計画と内容]					
第1-2回 スカンダプラーナの内容、写本伝承、研究の現状など 第3-4回 ヴァーユプラーナとブラフマーンダプラーナの共有部分、各々の成立過程 第5-7回 スカンダプラーナの各リセンション、ヴァーユプラーナ、ブラフマーンダプラーナ等におけるニーラカント神話の比較 第8-14回 スカンダプラーナ第114章校訂テキストの検討 第15回 総括					
[履修要件]					
基礎的なサンスクリット読解能力					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により評価する。					
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----					

インド古典学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に扱う資料については、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

校訂テキストを検討する回には予習が必要となる。プラーナ文献のサンスクリットは簡単であるが、古典サンスクリットとは異なる語法に注意する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学41

科目ナンバリング	G-LET13 61633 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	CATT, Adam Alvah	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学42

科目ナンバリング	G-LET13 61633 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるように、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学43

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
<p>This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.</p>					
[到達目標]					
<p>The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1 Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2 Week #04 Script and Manuscripts Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present) Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive) Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite) Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka Week #12 Tocharian A: grammar Week #13 Tocharian A: reading Vinaya Week #14 Tocharian A: reading Vinaya Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
<p>Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.</p>					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
#160Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian> (Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学44

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Introduction to Indian (Paninian) Grammar				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to traditional Indian grammar represented by the grammarian Panini. The course content will cover history of Indian grammatical traditions, system of Paninian grammar and its influence. Reading materials include Panini's grammar Astadhyayi, commentaries on Astadhyayi as well as Pali, Prakrit and Buddhist grammar developed from Astadhyayi.					
[到達目標]					
The participants will learn the logic and terminology of Paninian grammar, grammatical operations as well as other grammatical traditions based on Astadhyayi.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Why should we study Indian grammar?</p> <p>Week #02 Introduction: History of scholarship and bibliography</p> <p>Week #03 Introduction: History, influence and terminology of Paninian grammar</p> <p>Week #04 Introduction: Grammatical operations (pratyahara, pratyaya, agama, declension, conjugation)</p> <p>Week #05 Reading: Sarasiddhantakaumudi of Varadaraja (17th cent., Devasthali); Siddhantakaumudi of Bhattoji Diksita (16th-17th cent., Chandra Vasu)</p> <p>Week #06 Reading: Sarasiddhantakaumudi; Siddhantakaumudi</p> <p>Week #07 Astadhyayi (5th-4th cent. BCE, Katre)</p> <p>Week #08 Astadhyayi (Katre)</p> <p>Week #09 Astadhyayi in RV commentary (Sayana 14th cent.) and Kavya commentary (Meghaduta, Mallinatha 14th-15th cent.)</p> <p>Week #10 Kasika of Jayaditya & Vamana (7th cent., Ojihara & Renou)</p> <p>Week #11 Mahabhasya of Patanjali (2nd cent. BCE), Pradipa of Kaiyata (10th-11th cent.) and Uddyota of Nagesa (18th cent., Joshi & Roodbergen)</p> <p>Week #12 Pali grammar: Saddaniti of Aggavamsa (12th cent., Smith)</p> <p>Week #13 Prakrit grammar: Prakrtaprakasa of Vararuci (3rd-4th cent., Cowell)</p> <p>Week #14 Buddhist grammar: Candravyakarana of Candragomin (7th cent., Liebich)</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- インド古典学(演習) (2)へ続く -----					

インド古典学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学45

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	マハーカーヴィヤ研究				
[授業の概要・目的]					
<p>9世紀にカシュミールでシヴァシュヴァーミン焔vasvaminによって著された『Kapphinabhyudaya (カッピナ王の興隆)』は、成熟期のマハーカーヴィヤの代表作であるマーガ作『焔焔palavadha (シシュパーラの殺害)』(6世紀)を模範として作られていると思われる。本授業では、後者の第15・16章を模範としていると思われる『Kapphinabhyudaya』の第16章をとりあげる。本章では、プラセーナジット王とカッピナの使者とが、戦争か和平かを巡って2重の意味をもつ会話を行うが、ここで2重義がどのように使われているかを、『焔焔palavadha』の該当章での使用法と比較しつつ考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>成熟期の、技巧をこらしたサンスクリット詩を読解する力が身につく。またインドにおける文学の伝統が実際にどのように機能していたのかを学ぶことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1～2回 Kapphinabhyudayaの概説、Kapphinabhyudaya第16章と焔焔palavadha第15・16章の対応する会話構成の比較 第3～14回 Kapphinabhyudaya第16章を講読し、会話における2重義の用法を、焔焔palavadhaにおける用法と比較しつつ検討する。 第15回 総括</p>					
[履修要件]					
サンスクリット読解能力					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により評価する。					
[教科書]					
<p>授業中に扱うテキストの章については、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。主たるテキストは、Michael Hahn (compiled by Yusho Wakahara), Kapphinabhyudaya or King Kapphina's Triumph: A ninth century Kashmiri Buddhist Poem. Institute of Buddhist Cultural Studies, Ryukoku University, Kyoto, 2007. (978-4-8318-7281-4 C3015)。</p>					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

Kapphinabhyudayaには現代語訳が存在しないので、予習に十分な時間が必要となる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学46

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA , Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Nyaya and Vaishesika Realist Philosophy in India				
[授業の概要・目的]					
This course is a Sanskrit reading course focussing on the Tarkasamgraha of Annambhatta composed in the 17th century. We will perform a close reading of the selected text and analyze the content paying attention to philosophical themes and controversies with rival schools of thought.					
[到達目標]					
The objective is to familiarize students to read specialized Sanskrit philosophical texts. Students will learn: 1) how to interpret the sutras and commentaries according to the criteria that guided the original authors, and 2) how to interpret the text according to contemporary philological, hermeneutic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.					
[授業計画と内容]					
week 1: padartha, dravya, guna week 2: karma, samanya, visesa week 3: samavaya, non-existence, the elements week 4: time and space week 5: the self week 6: the mind, the sensory media week 7: maturation week 8: number, size week 9: separateness, union week 10: division week 11: otherness and belonging week 12: language week 13: intellect and experience week 14: cause and effect week 15: reflection					
[履修要件]					
特になし					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

participation in class. preparation and translation in class.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of material before each week's reading.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学47

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	パーリ語講読				
[授業の概要・目的]					
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>					
[到達目標]					
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-9回：テキスト講読：Telapattajaataka(油鉢本生譚)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：Anusaasikajaataka(アヌサーシカ本生譚)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[履修要件]

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

[成績評価の方法・観点]

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 芳原 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アルダマーガディー入門				
[授業の概要・目的]					
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>					
[到達目標]					
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用できるようになる。『ウヴァヴァーイヤ』の撰文の読解を通して、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目~14回目:散文で書かれた経典である『ウヴァヴァーイヤ』からの抜粋の読解。散文経典の形式になれ、ジャイナ教の基本的な教義を理解する。 7~9回目:苦行について(§30) 10~11回目:修行者について(§§23-29) 12~14回目:マハーヴィーラの説法(§§56-57) 15回目:まとめ</p> <p>テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>					
[履修要件]					
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：授業内での発言（和訳等含む）

[教科書]

授業中に指示する
コピーを配布する。

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010.

F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

Ernst Leumann (Ed.), Das Aupapatika Sutra, erstes Upanga der Jaina. Leipzig, 1883.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認しておく。

復習：各回、文法事項の確認

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学49

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヴェーダ祭式文献研究				
[授業の概要・目的]					
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。今学期は、ヴェーダ祭式のうち起源が古く、最も重要な祭式の一つと考えられるソーマ祭（興奮状態を作る作用のあるソーマという植物の搾り汁を使った祭式）の章を講読する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>					
[到達目標]					
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。ヴェーダ文献の言語、思想を深く理解するために必要な研究書を多く紹介し、ヴェーダ研究の専門的な知識、印欧語比較言語学の基礎知識を身に付ける。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まることが期待される。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回授業時に「ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論」を講義する。予習のやり方（必要な研究書について、その使い方について）を詳しく講義する。 第2回から第15回は、マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭に関する記述）の原典講読を行う。原文テキストはこちらで用意するので、それをもとに参加者が事前に訳を準備し授業内で発表し、解釈について議論を行う。言語学的あるいは祭式・文化的側面について、参加者から疑問を提示してくれることを歓迎する。</p>					
[履修要件]					
<p>サンスクリット基礎文法の既習者。ただし、サンスクリット文法の未修者であっても授業に興味のある人は、個別に相談に応じた上、履修を許可する場合があります。</p>					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。

[教科書]

教材を授業時に配布する。

[参考書等]

（参考書）

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』（Motilal Banarsidass, 1993）ISBN:81-208-1053-8（インド古典学研究室にて購入できる。）

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で紹介したヴェーダ原典研究の方法を用いて、予習をすること。原典を精読するため、量的には進まないが、一語一語の音韻、文法、語義についてよく吟味し、文全体の構造を考える必要がある。授業で紹介した論文等は、その都度触れておくことが望ましい。学習したことをいつでも見直しできるように、ノートや何らかのシステムを自分で構築することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学50

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.					
[到達目標]					
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian> (Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学51

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	The Kumarasambhava of Kalidasa				
【授業の概要・目的】					
This course is a Sanskrit reading course focussing on the fourth chapter of the Kumarasambhava of Kalidasa an ornate "Composition in Cantos" completed in the Gupta empire between 415 and 445 CE. The work is a courtly retelling of the mythological events leading to the birth of the God of War.					
【到達目標】					
The objective is to familiarize students to read the specialized Sanskrit of courtly "Compositions in Cantos" (sargabandha) that were the most prestigious literary form of produced by classical poets. Students will learn: 1) how to interpret the grammar, syntax, narrative, and aesthetic content of the work according to the standards that guided the original author and his commentators. 2) We will examine how to interpret the text according to contemporary philological, linguistic, aesthetic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.					
【授業計画と内容】					
week 1: Introduction to the poet, the literary genre and the style.					
week 2-14: Reading, translation and analysis of the text and occasional consultation of commentarial passages.					
week 15: revision and recapitulation					
【履修要件】					
Completion of first year of Sanskrit study.					
【成績評価の方法・観点】					
participation in class. preparation and translation in class.					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
Preparation of material before each week's reading. approximately one hour per week.					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学52

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)				
[授業の概要・目的]					
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的には辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。					
[到達目標]					
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2~6回 「ナラ王物語」から数章を読む。 第7~11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12~14回 「カターサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は、毎回2頁程度の進度で読み進める。					
[履修要件]					
サンスクリット文法既習者					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験によって評価する。					
[教科書]					
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1362-2(インド学研究室にて購入できる。)					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分にできなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリー文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

(その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましい。どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学53

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])				
[授業の概要・目的]					
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。					
[到達目標]					
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学ぶ。音韻、文法、語形成法についての知識を、実際の原典講読に生かす、原典研究の基礎的な力を身に付ける。サンスクリット原典研究に必要な、基本的な研究書の使い方を学ぶ。本授業では、古典サンスクリットとは異なる古い特徴を残す、初期サンスクリット語(ヴェーダ語)を扱うため、その語形・文法理解に欠かせない、印欧語比較言語学の基礎知識も学ぶ。ヴェーダ聖典という、非常に古い文献を扱うため、古代インド社会の歴史的・文化的背景についての知見も得る機会となる。					
[授業計画と内容]					
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに集録されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表する。それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。 第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読(リグヴェーダ、アイタレーヤ・ブラーフマナ、シャタパタ・ブラーフマナ)。					
[履修要件]					
サンスクリット文法既習者。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(講読の予習および授業内容の復習の状況)によって評価する。					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

[教科書]

Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[参考書等]

(参考書)

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』 (Motilal Banarsidass, 1993) ISBN:81-208-1053-8 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習が必須であるが、予習をしていなくても欠席しないこと。原典を丁寧に精読するため、量的には多く進まないが、一語一語の音韻の問題、文法形、語彙の意味を吟味し、文全体の構造もよく考えて予習を行う必要がある。授業で習ったことを、必要があればいつでも見直しできるように、知識を蓄積するノートや何らかのシステムを、それぞれが工夫して作ることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学54

科目ナンバリング	G-LET13 71653 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools & Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

[履修要件]

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

[成績評価の方法・観点]

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学55

科目ナンバリング	G-LET13 71653 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

Week #04 Indology in German

- 4.1. Important Scholars
- 4.2. Representative Works
- 4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

- 5.1. Important Scholars
- 5.2. Representative Works
- 5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

- 6.1. Important Scholars
- 6.2. Representative Works
- 6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

[履修要件]

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

[成績評価の方法・観点]

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学56

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究				
[授業の概要・目的]					
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。					
[授業計画と内容]					
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義をあわせて受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。					
[教科書]					
テキストはコピーして配布する。					
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学57

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究				
[授業の概要・目的]					
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。					
[授業計画と内容]					
<p>前期に引き続き、十四回目までの授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明する。</p>					
[履修要件]					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。					
[教科書]					
テキストはコピーして配布する。					
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と龍宮伝説(1)				
[授業の概要・目的]					
<p>インド仏教には大乘と声聞乗(小乗)があり、大乘仏教は早期經典編纂後、一切は空であることを教えの中心とする中観派と、心の状態とその改善に意を注いだ瑜伽行派という二つの学派が生まれました。本授業では中観派の始祖ナーガールジュナ(龍樹)の一生を描く『龍樹菩薩伝』(5世紀初頭の鳩摩羅什訳)を主題とし、それを精読しながら、様々な関連事項を合わせて考察します。授業で中心的にすることは漢訳『龍樹菩薩伝』を訓読し、適切な日本語訳を示すことです。ナーガールジュナの生涯を知ることは、インド仏教史と中国仏教史の両方にとって必ず必要ですから、この授業はインドにおける中観派の発生と中国における三論学(中観派に相当)の形成を理解するという意義があります。</p> <p>『龍樹菩薩伝』の内容を深く理解できるようにするため、関連する他の事柄も扱います。一つは龍樹の弟子だったデーヴァ(提婆)の伝記を漢訳した鳩摩羅什訳『提婆菩薩伝』の解説と、中国仏教で龍樹と密接につながる龍宮伝説の形成です。</p> <p>漢訳文献を扱う最新の方法を学びます。さらに既存の参考資料として、中村元訳「龍樹菩薩伝」(現代日本語訳)も批判的な視点から扱います。</p>					
[到達目標]					
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、漢訳仏典の読解力を向上させ、漢訳仏典の適切な現代日本語訳を作る力を養成する。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法(仏教に特有の訓読の問題点を含む)。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大蔵経を使用する時の注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：仏典漢訳史の概要と鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』の位置づけ</p> <p>第4回：鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と同訳『提婆菩薩伝』の書誌情報(原典・前近代の諸訳・注釈・現代の主な研究)</p> <p>第5回：『龍樹菩薩伝』精読(1)</p> <p>第6回：『龍樹菩薩伝』精読(2)</p> <p>第7回：『龍樹菩薩伝』精読(3)</p>					
<p>----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----</p>					

仏教学(特殊講義) (2)

第8回：以上に読んだ箇所を他の資料と関連付ける

第9回：『龍樹菩薩伝』精読(4)

第10回：『龍樹菩薩伝』精読(5)

第11回：『龍樹菩薩伝』精読(6)

第12回：『龍樹菩薩伝』精読(7)

第13回：『龍樹菩薩伝』精読(8)

第14回：以上に読んだ箇所を他の資料と関連付ける。龍宮伝説について(1)

第15回：龍宮伝説について(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史の全貌を知るための唯一の概説書。アマゾンの読者レビューも参照。）

中村元 『龍樹』（講談社学術文庫，2002年）ISBN:4-06-159548-2（第一章「ナーガールジュナ（龍樹）の生涯」は必読。できれば購入するのが望ましい。）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

仏教学(特殊講義) (3)へ続く

仏教学(特殊講義)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と龍宮伝説(2)				
[授業の概要・目的]					
<p>インド仏教には大乘と声聞乗(小乗)があり,大乘仏教は早期經典編纂後,一切は空であることを教えの中心とする中観派と,心の状態とその改善に意を注いだ瑜伽行派という二つの学派が生まれました。本授業では中観派の始祖ナーガールジュナ(龍樹)の一生を描く『龍樹菩薩伝』(5世紀初頭の鳩摩羅什訳)を主題とし,それを精読しながら,様々な関連事項を合わせて考察します。授業で中心的にすることは漢訳『龍樹菩薩伝』を訓読し,適切な日本語訳を示すことです。ナーガールジュナの生涯を知ることが,インド仏教史と中国仏教史の両方にとって必ず必要ですから,この授業はインドにおける中観派の発生と中国における三論学(中観派に相当)の形成を理解するという意義があります。</p> <p>『龍樹菩薩伝』の内容を深く理解できるようにするため,関連する他の事柄も扱います。一つは龍樹の弟子だったデーヴァ(提婆)の伝記を漢訳した鳩摩羅什訳『提婆菩薩伝』の解説と,中国仏教で龍樹と密接につながる龍宮伝説の形成です。</p> <p>漢訳文献を扱う最新の方法を学びます。さらに既存の参考資料として,中村元訳「龍樹菩薩伝」(現代日本語訳)も批判的な視点から扱います。</p>					
[到達目標]					
<p>一, 仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二, 仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三, 漢訳仏典の読解力を向上させ,漢訳仏典の適切な現代日本語訳を作る力を養成する。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法(仏教に特有の訓読の問題点を含む)。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回: 中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回: 大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大蔵経を使用する時の注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回: 仏典漢訳史の概要と鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』の位置づけ</p> <p>第4回: 鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と同訳『提婆菩薩伝』の書誌情報(原典・前近代の諸訳・注釈・現代の主な研究)</p> <p>第5回: 『龍樹菩薩伝』精読(1)</p> <p>第6回: 『龍樹菩薩伝』精読(2)</p> <p>第7回: 『龍樹菩薩伝』精読(3)</p> <p>第8回: 『龍樹菩薩伝』の内容整理</p> <p>第9回: 『提婆菩薩伝』精読(1)</p>					
<p>----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----</p>					

仏教学(特殊講義)(2)

- 第10回：『提婆菩薩伝』精読(2)
第11回：『提婆菩薩伝』精読(3)
第12回：『提婆菩薩伝』精読(4)
第13回：『提婆菩薩伝』精読(5)
第14回：『龍樹菩薩伝』 『提婆菩薩伝』 から見た龍宮伝説について(1)
第15回：『龍樹菩薩伝』 『提婆菩薩伝』 から見た龍宮伝説について(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史の全貌を知るための唯一の概説書。アマゾンの読者レビューも参照。）
中村元 『龍樹』（講談社学術文庫，2002年）ISBN:4-06-159548-2（第一章「ナーガールジュナ（龍樹）の生涯」は必読。できれば購入するのが望ましい。）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学60

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (II)				
[授業の概要・目的]					
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUltra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 					
[授業計画と内容]					
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
Evaluation is made according to active participation and presentation.					
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学61

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国の僧伝を読むー 『続高僧伝』講読				
[授業の概要・目的]					
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年彦琮について、その翻訳論や国家論、文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p>					
<p>仏教学(特殊講義) (2)へ続く</p>					

仏教学(特殊講義)(2)

第3回：	『続高僧伝』講義	彦琮の経歴
第4回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝1
第5回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝2
第6回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝3
第7回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝9
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝10
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝11
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝12

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況または小レポート）100%。

【教科書】

中華書局『続高僧伝』郭紹林校点本（2013）を基本テキストとして使用する。蘇小華『續高僧傳校注』も随時参照する。他に多数の版本を対校に用いる。すべてデータあるいはプリントとして配布する。

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

仏教学(特殊講義)(3)へ続く

仏教学(特殊講義)(3)

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジアの都市と山林・郷村における仏教				
[授業の概要・目的]					
<p>近年、東アジアの都市と仏教をテーマとした書籍がいくつか出版されている。本講義は、それらの最新の研究動向の把握と多角的な視座を身につけることを目的とする。具体的には、中国の南北朝隋唐時代を中心に、さらに朝鮮や日本を視野に入れて都市と仏教との関わりに関する様々なテーマを取り扱う。仏教が社会にその影響力を広めていく過程において、都市における寺院というのは中核的な役割を果たしてきたが、そこには、中国の儒教や道教との軋轢・皇帝権力による介入など様々な問題が生じた。それは仏教と中国社会の軋轢を象徴するような事件が多い。一方で聖地とされる五台山に代表されるように、山林や郷村における仏教の果たした役割には、都市では見られない独自性があることも事実である。こうした両面を取り扱いたい。</p> <p>講義においては、毎回事前にテーマを決め、関連論文あるいは図書を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で自由に討論を行う形で進める。テーマごとに担当者を決め、関連論文図書のその概要や方法論、資料などを簡潔にまとめたレジュメを用意する。授業計画で示した書籍はあくまで一例であり、参加者の希望により題材とする論文・図書を柔軟に変更する。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、中国・日本における最新の都市と仏教に関する研究動向を学ぶ。 二、中国南北朝隋唐時代の都市と仏教の関係について理解する。 三、山林・郷村における仏教のあり方について学ぶ。</p> <p>技能面</p> <p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。 二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。 三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回： ガイダンス・東アジア都市と仏教に関する近年の著作の紹介 第2回： 西本昌弘編『都市と宗教の東アジア史』2023前半 第3回： 西本昌弘編『都市と宗教の東アジア史』2023後半 第4回： 堀裕等編『東アジアの王宮・王都と仏教』2023 前半 第5回： 堀裕等編『東アジアの王宮・王都と仏教』2023 後半 第6回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 前半 第7回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 後半 第8回： 李猛『齊梁皇室の仏教信仰与撰述』2021 前半 第9回： 李猛『齊梁皇室の仏教信仰与撰述』2021 後半 第10回 James Robson, Power of Place: The Religious Landscape of the Southern Sacred Peak (Nanyue 南嶽) in Medieval China 前編					
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

- 第11回： James Robson , Power of Place 中編
第13回： James Robson , Power of Place 後編
第14回： 劉淑芬 『中古的社邑与信仰』 2023 前半
第15回： 劉淑芬 『中古的社邑与信仰』 2023 後半

【履修要件】

現代中国語の読解能力があれば望ましいが、なくても受講に支障はない。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：次回の論文・図書を読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学63

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究				
【授業の概要・目的】					
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それによって中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
【教科書】					
テキストはコピーして配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学64

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究				
【授業の概要・目的】					
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
【教科書】					
テキストはコピーして配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学65

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	駒澤大学 仏教学部 准教授 加納 和雄	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	梵文仏典写本精読				
【授業の概要・目的】					
インド周辺諸国に伝存する梵文仏典写本は、失われたインド仏教の原像に近づくための一次資料であり、とくにチベットやネパールに伝来する梵文写本については近年めざましい研究成果が報告されている。授業では梵文仏典写本研究の現状を理解したうえで、実際に写本の解読を行いながら写本研究の方法論を習得することを目指す。					
【到達目標】					
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。					
【授業計画と内容】					
<p>授業においてはまず、ネパール・チベットに伝存する梵文仏典写本研究の現状を解説する。世界各地の研究機関が所蔵するコレクションを俯瞰して、それらがいかなる由来をもち、どの程度解読が進んでいるのかについて説明する。また、写本を読むための基礎知識として写本特有の文字の綴り方や奥書の読み方などについて学ぶ。そして、写本の所有者について明かし、その来歴と伝承過程について補足する。それらの基礎知識を習得した後は、写本解読の実践的な能力を養うために、未解読の写本をサンプルとして選り抜き、順次、授業において丹念に解読を進める。サンプルは、短めの断片写本を扱い(大乘仏典を中心とする予定だが出席者の要望にも応じる)、写本の読みに問題がある箇所を一つずつ洗い出して解決策を模索しながら精読してゆく。資料は適宜授業において配布する予定である。基本的に演習形式とするが初心者も歓迎する。今回は特に『俱舍論』の安慧釈の梵本について業品(4章)の40偈あたりから読解を行う。</p> <p>第一～三回 歴史的背景の確認と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学66

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏教思想研究(インド・チベット宗教哲学文献精読)				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では、ボン教(チベットの土着宗教)の範疇論的存在論を理解すべく、テトゥン・ギェルツェンペル(14世紀)著『ボン門明示』(Bon sgo gsal byed)を精読する。加えて、インド仏教思想からの影響を分析すべく、Abhidharmakosaについても適宜参照する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読やディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はチベット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにチベットを習得していることが望ましい。さらに、サンスクリット語および漢訳テキストも適宜参照することから、サンスクリット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>					
【到達目標】					
古典チベット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。					
【授業計画と内容】					
<p>初回は『ボン門明示』のイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、『ボン門明示』の精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
成績評価は、平常点に基づいて行う。					
【教科書】					
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくるここと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	宗教情報センター 京都支社 研究員 佐藤 直実	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大乘仏教經典の読解				
[授業の概要・目的]					
<p>最初期の大乗經典『阿しゆく仏国經』第2章の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と共に、大乘仏教黎明期に登場し、般若經や維摩經にも記され、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經』は、阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>本演習では、全6章の中から、阿しゆく仏の仏国土「妙喜世界」の様子を描く第2章をとりあげる。妙喜世界は、般若經ではガンガデーヴィーが再生する世界、維摩經では、維摩のもといた世界として取り上げられており、それらの記述と照らし合わせながら、読解する。</p> <p>漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進め、大乘仏教の発展過程についても概観したい。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成</p> <p>2) 大乘仏教の基礎知識の習得</p> <p>3) 仏教文献学の研究手法の習得</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 テキストの概説と資料配付</p> <p>第2-14回 『阿しゆく仏国經』第2章の講読</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。</p>					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。
テストは行わない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成(Tattvasamgraha)』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注(Tattvasamgrahapanjika)』第7章第4節「ジャイナ教徒によって構想されたアートマンの考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、ジャイナ教のアートマン(ジーヴァ)論はいかなるものであったか、またそれに対して無我の立場に立つ仏教徒からはどのような批判がなされたのか、ジャイナ教徒と仏教徒の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章・節(特に第7章第1～3節)の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第7章第4節「ジャイナ教徒が構想したアートマンの考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 インド哲学諸派によるアートマン論 第3～5回 仏教徒による無我説についての概説</p> <p>第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第7章第4節の講読と解説(受講生による輪読形式)</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
<p>----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----</p>					

仏教学(演習)(2)

受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。

【履修要件】

サンスクリット、チベット語、英語の基本的な読解能力を必要とする。

【成績評価の方法・観点】

平常点による。(毎時間の発表が100%)

【教科書】

授業中に指示する
その他、授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・講読するテキストを事前に配布するので、その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・テキスト上の問題点等について、指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・その回に読んだ箇所について再度読み直し、授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	パーリ語講読				
[授業の概要・目的]					
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>					
[到達目標]					
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-9回：テキスト講読：Telapattajaataka(油鉢本生譚)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：Anusaasikajaataka(アヌサーシカ本生譚)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。

（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学70

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 芳原 綾子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アルダマーガディー入門				
[授業の概要・目的]					
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>					
[到達目標]					
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使うようになる。『ウヴァヴァーイヤ』の撰文の読解を通して、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目~14回目:散文で書かれた経典である『ウヴァヴァーイヤ』からの抜粋の読解。散文経典の形式になれ、ジャイナ教の基本的な教義を理解する。 7~9回目:苦行について(§30) 10~11回目:修行者について(§§23-29) 12~14回目:マハーヴィーラの説法(§§56-57) 15回目:まとめ</p>					
<p>テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>					
[履修要件]					
<p>初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。</p>					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：授業内での発言（和訳等含む）

[教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010.

F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

Ernst Leumann (Ed.), Das Aupapatika Sutra, erstes Upanga der Jaina. Leipzig, 1883.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学71

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成(Tattvasamgraha)』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注(Tattvasamgrahapanjika)』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、仏教徒の因果論・刹那滅論・業報論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章(特に第8章「存続する存在の考察」)の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 仏教認識論・論理学(特に刹那滅論と因果論)についての概説</p> <p>第3～5回 『真実集成』及び『真実集成細注』に関する概説</p> <p>第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章の講読と解説(受講生による輪読形式)</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は仏教学(演習)(2)へ続く</p>					

仏教学(演習)(2)

異なる。

[履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

[教科書]

授業中に指示する
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・ テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・ その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学72

科目ナンバリング	G-LET14 71851 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p>					
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----					

仏教学(講読Ⅰ)(2)

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学73

科目ナンバリング	G-LET14 71851 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----					

仏教学(講読Ⅰ)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学74

科目ナンバリング	G-LET49 89628 LJ48				
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語初級				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>					
[到達目標]					
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。					
[授業計画と内容]					
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1週） 2. 文字と発音（4週） 3. 名詞（4週） 4. 形容詞（1週） 5. 助動詞（3週） 6. まとめ（1週） 7. フィードバック（1週） <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>					
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く					

チベット語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。
チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学75

科目ナンバリング	G-LET49 89629 LJ48				
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語初級				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>					
[到達目標]					
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。					
[授業計画と内容]					
<p>前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞（5週） 2. 複文他（5週） 3. チベット語テキスト演習（4週） 4. フィードバック（1週） <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>					
[履修要件]					
前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- チベット語（初級）(語学)(2)へ続く -----					

チベット語（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学76

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48			
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）				
[授業の概要・目的]					
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。					
[到達目標]					
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。					
[授業計画と内容]					
この授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古チベット語を含むチベット撰述仏教文献 2. サンスクリット経典からの翻訳文献 3. サンスクリット注釈からの翻訳文献 					
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。授業中の発表により評価する。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----					

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学77

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48			
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）				
[授業の概要・目的]					
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。					
[到達目標]					
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。					
[授業計画と内容]					
この授業では、独立した論書と他の論書に対する注釈といった翻訳文献中のスタイルの違いや、翻訳文献とチベット撰述文献の相違に対する理解を深めるため、以下のような文献を順に取り上げる予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. サンスクリット論書からの翻訳文献 2. サンスクリット注釈からの翻訳文献 3. チベット撰述古典チベット語文献 					
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。前期のチベット語（中級）を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。授業中の発表により評価する。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----					

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学78

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ホラーティウス『カルミナ』精読I				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学79

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ホラーティウス『カルミナ』精読II				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学80

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	オウィディウス『変身物語』精読I				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学81

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	オウィディウス『変身物語』精読II				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 堀尾 耕一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	アリストテレス『弁論術』の構想				
【授業の概要・目的】					
<p>古典期のアテナイでは、発言権の平等（isonomia）および言論の自由（parrhêsia）のもと、ひろく政治や司法など社会生活の全般において弁論の力が意思決定を左右し、公の場において他者を説得する技術、すなわち弁論術（technê rhêtorikê）がひとつの自覚的な営みとして定着する。多数者の賛同を目指すこうした言説のあり方を強く批判したプラトンは、これを斥けるかたちで問答法（dialektikê）の意義を強調したが、アリストテレスは弁論術を問答法と一対をなす技術と位置づけ、その役割を再定義する。本講義では、アテナイの弁論文化を概観したうえで、哲学者アリストテレスがその活動の円熟期に弁論術講義を構想するに至った道筋をたどる。</p>					
【到達目標】					
<p>先行学説等ではなく、可能なかぎり原典資料そのものの検討から出発し、そこから読み取ることのできる思索と対峙すること。またそれを自らの問題関心と接続していくこと。こうした訓練の契機となれば幸いである。</p>					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：「哲学」対「弁論術」その抗争の歴史 2. アテナイにおける弁論家の活動（アンティフォン、リュシ阿斯、イソクラテス） 3. プラトンによるレトリック批判（『ゴルギアス』、『パイドロス』、『メネクセノス』） 4. アリストテレス『弁論術』序論の検討 5. 論理学の一形態として（『トピカ』、『ソフィスト的論駁』、『分析論』） 6. 政治学＝倫理学の派生部門として（『政治学』、『ニコマコス倫理学』） 7. 『弁論術』第1・2巻の構想 8. 弁論術的説得の本体としてのピスティス（証し立て）：言論・人柄・感情 9. 弁論術的推論＝エンテュメーマ（想到法）をめぐって 10. 弁論術的命題＝ありそうなこと（蓋然性）について 11. 「修辞学」＝言語表現の美質について 12. 『弁論術』全3巻の構想 13. 『弁論術』の後代への影響 i：教養学課（ars liberalis）としてのレトリック 14. 『弁論術』の後代への影響 ii：ホップズ、ニーチェほか 15. まとめ：弁論術の可能性について 					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の知識を有することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

数回ごとに簡単な感想文を提出してもらい、これを平常点として加味したうえで（30%）、最終レポート（4,000字程度）により成績を評価する。

【教科書】

事前に資料集（ギリシア語原典の抜粋およびその和訳）を作成し、配布する予定である。

【参考書等】

（参考書）

堀尾耕一 訳 『アリストテレス「弁論術」（新版アリストテレス全集 18）』（岩波書店 2017年）
ISBN:978-4000927888

浅野梢英 『論証のレトリック - 古代ギリシアの言論の技術』（ちくま学芸文庫 2018年）ISBN:978-4480098603

廣川洋一 『イソクラテスの修辞学校』（講談社学術文庫 2005年）ISBN:978-4061597181

（関連URL）

<https://www.humaniores.org/>（【東京古典学会】）

【授業外学修（予習・復習）等】

配布予定の資料集、また上記の参考文献等にあらかじめ目を通しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

参加者の積極的な質問、発言、問題提起を歓迎する。

問い合わせは次のメールアドレスまで：horio@zephyr.dti.ne.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学83

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	テオプラストス『人さまざま』講読				
【授業の概要・目的】					
この授業では、ギリシア語文法を学んだ人を対象として、テオプラストス『人さまざま』の講読を行なう。「皮肉屋」や「噂好き」といった性格類型を簡潔ながら活々と描き出した本作を精読することで、ギリシア語の読解能力を高めるとともに、彼の同時代人で弟子であったとも言われるメナンドロスの「写実主義」との関係についても理解を深める。また、最近刊行された注釈書を用いつつ、解釈上および本文批判上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原典の精読を通してギリシア語を読む力を高める ・ 辞書や注釈書を実際に数多く用いてその利用法に習熟する 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書)					
J. Diggle (ed.) 『Theophrastus: Characters』 (Cambridge University Press, 2022) ISBN:9781108831284					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学84

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 平山 晃司 教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ルーキアーノス小品講読				
【授業の概要・目的】					
<p>哲学的対話の形式に喜劇やサテュロス劇の滑稽さ、イアンボス詩の痛罵と嘲笑、強烈な皮肉や辛辣な揶揄をユーモアで包み込む犬儒派的エスプリなどの様々な要素を盛り込み、独自の作風を確立したルーキアーノス(120頃~180以降)の多彩な作品群の中から、比較的短いものを幾つか選んで精読する。</p>					
【到達目標】					
ギリシア語の読解力を向上させる。					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 導入 第2回~第15回 訳読</p>					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得済みであること。					
【成績評価の方法・観点】					
出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎回の授業に備えて指定された範囲のテキストと注釈を丁寧に読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学85

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メナンドロス『人間嫌い』講読				
【授業の概要・目的】					
この授業では、ギリシア語文法を学んだ人を対象として、メナンドロス『人間嫌い』の講読を行なう。ギリシア新喜劇の代表的作家であるメナンドロスの『人間嫌い』を精読することで、その性格描写を鑑賞するとともに、彼の作風を特徴づけるとされる「写実主義」について理解を深める。また、注釈書や校訂本を比較しつつ、解釈上および本文批判上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・原典の精読を通してギリシア語を読む力を高める ・辞書や注釈書を実際に数多く用いてその利用法に習熟する ・ギリシア喜劇の韻律や構成についての知識を深める 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書)					
E.W. Handley (ed.) 『The Dyskolos of Menander』 (Bristol Classical Press, 1965) ISBN:1853991872					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学86

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヘーシオドス『仕事と日』精読				
【授業の概要・目的】					
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『仕事と日』を精読する。農耕や航海の技術に加えて種々の説話を交えつつ、正義(dike)と繁栄(arete)の道を模索する本作の講読を通して、叙事詩の韻律や文体に習熟することを目指すと共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
ギリシア語原典(韻文)の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原典と注釈を熟読すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学87

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヘーシオドス『仕事と日』精読				
【授業の概要・目的】					
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『仕事と日』を精読する。農耕や航海の技術に加えて種々の説話を交えつつ、正義(dike)と繁栄(arete)の道を模索する本作の講読を通して、叙事詩の韻律や文体に習熟することを目指すと共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
ギリシア語原典(韻文)の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原典と注釈を熟読すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋古典学演習I				
[授業の概要・目的]					
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。					
[到達目標]					
この授業の到達目標は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。					
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
研究報告や討論への参加などの平常点(40%)および学期末のレポート(60%)					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋古典学演習II				
[授業の概要・目的]					
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。					
[到達目標]					
この授業の到達目標は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。					
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
研究報告や討論への参加などの平常点(40%)および学期末のレポート(60%)					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授	
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『カルミデス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>プラトン(427-347 BC)の『カルミデス』の原典を精読する。いわゆる「ソクラテ斯的対話篇」の一つとされる本著作では、「ソープロシュネー(節制)」とは何かをめぐって議論が交わされる。「もの静かさ」や「恥」といった一般的規定から、「自己自身を知ること」や「知の知」といった知的要素を含んだ定義が示されるが、いずれもソクラテスによって批判的に吟味され、不十分とされる。</p> <p>「ソープロシュネー」は、プラトンの主著『国家』はもちろんのこと、古代ギリシア思想全体をみても重要な徳であるだけでなく、ソクラテスの「無知の知」とも密接に関わる。また、ソクラテスの対話相手が、三十人政権のメンバーともなるクリティアスやカルミデスであることから、その歴史的背景やプラトンの政治思想との関連を指摘する論者も多い。本授業では、『カルミデス』の精読を通して、本対話篇がはらむ多岐にわたる問題群に複眼的視点を持って向き合いながら、プラトン哲学の理解の深化を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・ 注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・ 文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に『カルミデス』の内容および思想史的位置づけについて説明を行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『カルミデス』精読 『カルミデス』を冒頭から精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 前期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----					

西洋古典学(演習)(2)

[履修要件]

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

[教科書]

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

[参考書等]

(参考書)

Tsouna, Voula 『Plato's Charmides. An Interpretative Commentary』 (Cambridge U.P., 2022) ISBN:978-1-316-51111-4

Wolf, Raphael 『Plato's Charmides』 (Cambridge U.P. 2023) ISBN:978-1-009-30819-9

Tuozzo, Thomas M. 『Plato's Charmides. Positive Elenchus in a "Socratic" Dialogue』 (Cambridge U.P. 2011)

そのほか授業でも紹介する。

毎回読んでくるコメントリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

(その他(オフィスアワー等))

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『カルミデス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>プラトン(427-347 BC)の『カルミデス』の原典を精読する。いわゆる「ソクラテ斯的対話篇」の一つとされる本著作では、「ソープロシュネー(節制)」とは何かをめぐって議論が交わされる。「もの静かさ」や「恥」といった一般的規定から、「自己自身を知ること」や「知の知」といった知的要素を含んだ定義が示されるが、いずれもソクラテスによって批判的に吟味され、不十分とされる。</p> <p>「ソープロシュネー」は、プラトンの主著『国家』はもちろんのこと、古代ギリシア思想全体をみても重要な徳であるだけでなく、ソクラテスの「無知の知」とも密接に関わる。また、ソクラテスの対話相手が、三十人政権のメンバーともなるクリティアスやカルミデスであることから、その歴史的背景やプラトンの政治思想との関連を指摘する論者も多い。本授業では、『カルミデス』の精読を通して、本対話篇がはらむ多岐にわたる問題群に複眼的視点を持って向き合いながら、プラトン哲学の理解の深化を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に前期まで読んだ『カルミデス』の内容について復習・おさらい、論点の整理などを行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を再度紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『カルミデス』精読 『カルミデス』を前期に続けて精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 後期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学(演習) (2)

[履修要件]

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

[教科書]

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

[参考書等]

(参考書)

Tsouna, Voula 『Plato's Charmides. An Interpretative Commentary』 (Cambridge U.P., 2022) ISBN:978-1-316-51111-4

Wolf, Raphael 『Plato's Charmides』 (Cambridge U.P. 2023) ISBN:978-1-009-30819-9

Tuozzo, Thomas M. 『Plato's Charmides. Positive Elenchus in a "Socratic" Dialogue』 (Cambridge U.P. 2011)

そのほか授業でも紹介する。

毎回読んでくるコメントリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

(その他(オフィスアワー等))

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学92

科目ナンバリング	G-LET15 73151 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前年度に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』(およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』, 『カエリウス弁護演説』)を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストと注釈を読み，予習と復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学93

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』(およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』, 『カエリウス弁護演説』)を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学94

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山下 修一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。</p>					
[到達目標]					
<p>既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>クセノポンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。</p> <p>授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。</p> <p>初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)</p>					
[履修要件]					
<p>古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)</p>					
[教科書]					
<p>E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。</p>					
[参考書等]					
<p>(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470</p>					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

コピーを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業はzoomを利用したオンラインでの双方向授業となります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学95

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山下 修一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読				
[授業の概要・目的]					
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。					
[到達目標]					
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。					
[授業計画と内容]					
<p>ヘロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。</p> <p>授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。</p> <p>初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)</p>					
[履修要件]					
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)					
[教科書]					
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』(Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』(Oxford University Press) ISBN:9780199639366					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

コピーを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学96

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシアの文芸批評を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>前期に引き続き、ボリス・エイヘンバウム()の評論集『文学を貫いて』から、詩や小説、劇に関する論考を講読、考察していきます。エイヘンバウムはロシア・フォルマリズムの代表的な批評家のひとりですが、この論集には象徴主義の影響が強かった時代の論考と、フォルマリズム色が濃厚な論考がともに収録されています。どちらの傾向の論考も取り上げていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) 銀の時代 とロシア・フォルマリズムに対する知識と理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 『文学を貫いて』からいくつかの論考を講読し、考察します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得していること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
[教科書]					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に下調べをしてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学97

科目ナンバリング	G-LET16 63231 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシアの文芸批評を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ボリス・エイヘンバウム()の評論集『文学を貫いて』から、詩や小説、劇に関する論考を講読、考察していきます。エイヘンバウムはロシア・フォルマリズムの代表的な批評家のひとりですが、この論集には象徴主義の影響が強かった時代の論考と、フォルマリズム色が濃厚な論考がともに収録されています。どちらの傾向の論考も取り上げていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) 銀の時代 とロシア・フォルマリズムに対する知識と理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨN テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 『文学を貫いて』からいくつかの論考を講読し、考察します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得していること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
[教科書]					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に下調べをしてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学98

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 中野 悠希		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語作文				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 繋辞文(「～は…だ」など) 第3回 繋辞文(「～のは…だ」など) 第4回 動作様態の表現(「～し始める」など) 第5回 動作様態の表現(「～しかけた」など) 第6回 使役・奉仕の表現 第7回 叙法の表現(「～かもしれない」など) 第8回 叙法の表現(「～できる」など) 第9回 叙法の表現(「～しなければならない」など) 第10回 受け身の表現 第11回 並列接続詞を使った表現 第12回 目的の表現 第13回 比較級・最上級の表現 第14回 譲歩・容認の表現 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
<p>中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。</p>					
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学99

科目ナンバリング	G-LET16 73241 SJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ソ連期のロシア語文学の短編を読む				
【授業の概要・目的】					
ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ソ連期のロシア語作家(ナギービン、トリーフォノフ、カザコフ等)の短編を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。					
【到達目標】					
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。					
【授業計画と内容】					
第1回 インTRODクシヨン ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。					
第2回~第14回 上記の短編を精読していきます。					
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。					
フィードバックについては授業中に指示します。					
【履修要件】					
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。					
【成績評価の方法・観点】					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
【教科書】					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学100

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 中野 悠希		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語作文				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 時間の表現(「～する時」など) 第3回 時間の表現(「～する前に」など) 第4回 条件の表現(「～なら」など) 第5回 条件の表現(「たとえ～でも」など) 第6回 原因・理由の表現 第7回 結果の表現 第8回 疑問詞を使った表現 第9回 否定小詞を使った表現 第10回 比喩・様式の表現 第11回 程度の表現 第12回 主語的な名詞節を使った表現 第13回 補語的な名詞節を使った表現 第14回 関係節を使った表現 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
<p>中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。</p>					
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学101

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学（講読） Slavic Languages and Literatures (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学人文学研究科 准教授 北井 聡子	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2,3	授業形態	講読（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ロシア革命と性				
【授業の概要・目的】					
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力をもつ学生を対象とした授業です。ロシア革命において、重要な問題として議論された家族や性について考察します。2限は講義、3限は受講者によるテキスト講読という構成で進めていきます。</p> <p>講義では、歴史的な流れを確認しながら、文学作品、政治文書、映画等の具体的なテキストに描かれた性の表象を取り上げ、20年代のラディカルでリベラルな議論が、30年代半ばに保守化する過程を解説します。</p> <p>講読では、性の問題を赤裸々に取り上げたセルゲイ・トレチャコフの戯曲『子供が欲しい!』（1926）を、受講者で輪読し、ロシア語テキスト読解能力と日本語への翻訳能力の向上を目指すと共に、当時の時代背景に照らし合わせ、この作品の持つ意味や位置づけを考察します。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1) ロシア語の読解能力を習得する 2) テキストの精読を通じ、批判的に現象を分析できる 3) セクシュアリティと政治の関わりについて考察できる 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 全体計画の説明と作品紹介</p> <p>第2回 - 第14回 2限は講義、3限はテキスト講読</p> <p>第15回 全体のまとめと議論</p>					
【履修要件】					
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でもかまわない。					
----- スラブ語学スラブ文学（講読）(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学（講読）(2)

【成績評価の方法・観点】

授業への取り組み 80%、期末レポート20%

【教科書】

テキストは、講師が準備します。初日で扱うものは、学期開始前に、参加者にデータで配布します。（メール/KULASISを通じて）

【参考書等】

（参考書）

桑野隆 桑野隆「未上演の討論劇『子どもがほしい!』」『The Art Times 特集:新レフ 最後のロシア・アヴァンギャルド』第3号、2008年、9-12頁。

伊藤愉「現実を解剖せよ 討論劇『子どもが欲しい』再考」『メイエルホリドとブレヒトの演劇』玉川大学出版部、2016年、247-280頁。

その他の参考文献は、授業中に適宜紹介/配布します

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に必ずテキストに目をとおり、日本語に訳せるようにしておいてください。また、作品に関連したことで、他の文献を当たるなどして、興味深い情報があれば、授業中にぜひ共有してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学102

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア文学の短編を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、20世紀初頭の象徴派の作家ブリューソフの短編数編を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>					
【到達目標】					
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 インTRODクシヨン ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。</p> <p>第2回～第14回 上記の短編を精読していきます。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
【履修要件】					
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。					
【成績評価の方法・観点】					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
【教科書】					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学103

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures(Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 帯谷 知可		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語論文講読				
[授業の概要・目的]					
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。					
[到達目標]					
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。					
[授業計画と内容]					
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当者を決め、輪読する形式とする。					
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得済みであること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%、期末レポート50%で評価する。					
[教科書]					
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。					
[授業外学修(予習・復習)等]					
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学104

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures(Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Marcin Kula, Historia w tera ⁿⁱ iejszo ^{ści} , tera ⁿⁱ iejszo ^{ści} w historii, Gda ^{ńsk} 2022.					
本書はポーランド現代史の研究者が、コロナ感染の拡大やウクライナでの戦争をはじめとする同時代の問題をふまえながら、歴史と現代の関係について考察した論集である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、今日の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。					
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学105

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、近世の歴史にかんする章を講読する。					
Dzieje polskiego parlamentaryzmu, redakcja naukowa: Dariusz Kupisz, Warszawa 2022.					
本書は最新のポーランド議会史の通史である。全体は15世紀から現代までを扱っているが、そのなかから近世(1569~1793年)にかかわる章を読む。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド近世史・国制史をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2~14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。					
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学106

科目ナンバリング	G-LET49 89642 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級				
[授業の概要・目的]					
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。					
[到達目標]					
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。					
[授業計画と内容]					
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。					
授業計画：					
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】					
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】					
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】					
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】					
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】					
6．総復習とまとめ【1週】					
7．定期試験【1週】					
8．フィードバック【1週】					
[履修要件]					
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。					
[成績評価の方法・観点]					
基本的に定期試験（筆記）（90％）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10％）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。					
[教科書]					
授業中に受講生と話し合って決めた資料を用意し配布します。					
----- ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く -----					

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学107

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級				
[授業の概要・目的]					
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。					
[到達目標]					
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。					
[授業計画と内容]					
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。					
授業計画：					
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】					
2．テキストI－翻訳と解説【3週間】					
3．テキストII－翻訳と解説【3週間】					
4．テキストIII－翻訳と解説【3週間】					
5．テキストIV－翻訳と解説【3週間】					
6．総復習とまとめ【1週】					
7．定期試験【1週】					
8．フィードバック【1週】					
[履修要件]					
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。					
[成績評価の方法・観点]					
基本的に定期試験（筆記）（90％）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10％）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。					
[教科書]					
授業中に受講生と話し合って決めた資料を用意し配布します。					
----- ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く -----					

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69646 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ロシア語（初級） Russian I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 大		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。</p> <p>第1回 ロシア語の文字：字形 第2回 ロシア語の文字とその読み方（1）：文字のシステム 第3回 ロシア語の文字とその読み方（2）：アクセントと同化 第4回 「新しい雑誌・古い地図」：名詞の性・複数形・形容詞の一致 第5回 「鳥たちが歌っていました」：人称代名詞・動詞の過去形 第6回 「彼のかばん・私の本」：所有代名詞 第7回 「昨日彼女は指輪を買いました」：名詞の格・単数対格・単数生格 第8回 「彼は技師ではなくて医師です」：導入文・否定 第9回 「けさ彼は図書館にいました」：名詞の単数前置格 第10回 「昨夜私はイワンに電話しました」：名詞の単数与格・単数造格 第11回 「私はテレビを持っていません」：所有表現・人称代名詞と疑問詞の対格・前置格 第12回 「彼女は図書館で働いています」：動詞の現在形（第1変化・第2変化） 第13回 「彼は毎日図書館に通っています」：動詞の未来形・移動の動詞 第14回 「昨日アンナは遅刻しました」：第4回～第6回の復習 第15回 「昨日ここでパーティーがありました」：第7回～第11回の復習</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- ロシア語（初級）(2)へ続く -----					

ロシア語（初級）（2）

【成績評価の方法・観点】

平常点30%、試験70%で評価します。

【教科書】

プリントを配付します。

【参考書等】

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69647 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ロシア語（中級） Russian II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 大		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎				
[授業の概要・目的]					
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。					
[到達目標]					
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。					
第1課 名詞の複数変化(1) 与格・造格・前置格 第2課 名詞の複数変化(2) 生格・対格 第3課 形容詞の格変化 第4課 形容詞短語尾形と副詞 第5課 関係代名詞(1) 第6課 関係代名詞(2) 第7課 形容詞の比較級・最上級 第8課 動詞 第9課 分詞(1) 能動現在分詞 第10課 分詞(2) 能動過去分詞・分詞(3) 受動現在分詞 第11課 分詞(4) 受動過去分詞 第12課 不定人称文					
文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）					
第15回 まとめ					
フィードバックについては授業中に指示します。					
[履修要件]					
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。					
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----					

ロシア語（中級）（2）

【成績評価の方法・観点】

平常点30%、試験70%で評価します。

【教科書】

プリントを配付します。

【参考書等】

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69661 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polishnbsp (Lectures)nbsp		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級I				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語の初級文法を習得する。					
[到達目標]					
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】 2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】 3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】 4．ここまでの内容の確認と練習【1週】 5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】 6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】 7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】 8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】 9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】 10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】 11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】 12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】 13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】 14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
特になし					
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----					

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69662 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級I				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語の初級文法を習得する。					
[到達目標]					
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】 7．関係代名詞ktoryの用法【1週】 8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14．ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。					
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----					

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツの児童文学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヨーロッパでは、17世紀から18世紀にかけて「子どもの発見」がなされて以来、子どものあるべき姿やあるべき教育方法をめぐって膨大な言説が積み重ねられてきた。それと同時に、子どもが読むにふさわしい本とはどのようなものか、という問題についても膨大な議論が交わされてきた。児童文学とは、そうした議論を反映して、あるいはそうした議論に応答する形で生まれてきたものである。本授業では、ドイツ語圏の児童文学作品の内容と、作品が生み出された背景を総合的に理解することをめざす。余裕があれば、作品の映像化バージョン(映画やアニメ)の問題も視野に入れる。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツの児童文学史について基礎的知識を得る 2. 各児童文学作品の背景(政治的・社会的・文化的な時代状況、作者の生い立ちや思想的なバックグラウンド、先行する作品など)を理解する 3. 両者の関係を考察することを通じ、文学が社会の中で果たす役割をイメージする 					
[授業計画と内容]					
<p>取り上げる予定のテーマは以下の通り(ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある)。毎回、講師による情報提供のあと、受講者参加型のディスカッションを行う。</p>					
第1回	イントロダクション	「子ども」の理念の形成			
第2回	カンペ『新ロビンソン』	啓蒙主義的な教育と子どもの自主性			
第3回	グリム兄弟『子どもと家庭のメルヘン』	「メルヘン」が「童話」になるまで			
第4回	ホフマン『もじゃもじゃペーター』	恐怖と教訓			
第5回	シュピーリ『ハイジ』	リアリズム児童文学			
第6回	ボンゼルス『みつばちマーヤの冒険』	生物学的世界観がもたらしたもの			
第7回	ザルテン『バンビ』	鹿の成長物語			
第8回	ケストナー(1)『エミールと探偵たち』	都市文学としての児童文学			
第9回	ケストナー(2)『ふたりのロツテ』	児童文学に描かれた家族像			
第10回	フランク『アンネの日記』	ホロコースト児童文学			
第11回	リヒター『あのころはフリードリヒがいた』	ホロコースト児童文学			
第12回	プロイスラ『クラバート』	故郷喪失と郷土文学			
第13回	ヘルトリング『ヒルベルという子がいた』	社会問題を描く児童文学			
第14回	エンデ『モモ』	ファンタジー児童文学			
第15回	パウゼヴァング『みえない雲』	反戦、反核、反原発			
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	狂気とドイツ語文学				
[授業の概要・目的]					
<p>社会のアウトサイダーとしての「狂人」は、文学がいつも好んできたモチーフというわけではありません。そもそも「狂気」のモチーフを文学の中に登場させることを詩学的に否定していた時代も、ドイツ語文学史上にはあります。またその具体的な描かれ方も、時代によってさまざまです。この授業では、「狂気」モチーフと関わりのある代表的なドイツ語文学を紹介します。そのことを通して、広くマイノリティの表象のあり方についても考察したいと考えています。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを時代的・文化的背景と結びつけて読む作法を身につけること。 ・T4作戦やその前後の出来事、社会的背景について知識を得ること。 ・精神の障害や病の表象を軸にしてドイツ語文学を時代順に眺めることで、おおまかな文学史や文化史を把握すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：「狂気・異常」をめぐる論点・フーコー『狂気の歴史』について(1) 2 オリエンテーション：「狂気・異常」をめぐる論点・フーコー『狂気の歴史』について(2) 3 シラー『群盗』(1781) 4 ゲーテ『ファウスト第1部』(1808) 5 ホフマン『砂男』(1816) 6 ビューヒナー『ヴォイツェク』(1835頃) 7 ビューヒナー『レンツ』(1835頃) 8 変質論、福祉国家と優生思想、「T4作戦」 9 ヘルツフェルデ『精神患者の倫理』(1914) 10 デーブリン『たんぼぼ殺し』(1910)、『ベルリン・アレクサンダー広場』(1929) 11 シュニッツラー『闇への逃走』(1931) 12 ツヴァイク『チェス奇譚』(1942) 13 グラス『ブリキの太鼓』(1959) 14 エリザベート・ツェラー『アントン 命の重さ』(2004) 15 おわりに <p>予定を変更する可能性があります。</p>					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

ドイツ語の知識は必要としない。

【成績評価の方法・観点】

授業時のコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）によって評価します。
期末レポートは、到達目標の達成度にもとづいて評価します。

【教科書】

資料はLMSで配布します。分量が多いので、教室にパソコン、タブレット等を持参し、授業中に参照できるようにしておくことをおすすめします。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみてください。また各々が知っている作品についてコメントペーパーなどを通して教員に教えてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学114

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学・ゲルマン語学 入門				
[授業の概要・目的]					
<p>研究発表(ゼミ形式)による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野(音論、形態論、統語論等の諸領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。</p>					
[到達目標]					
<p>今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>ゲルマン語学の諸分野(音論・形態論・統語論・意味論などの領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。</p> <p>第1回～第10回 研究発表(ゼミ形式)院生による。 第11回～第13回 研究発表(ゼミ形式)学部生による 第14回～第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
主に研究発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』 (現代書館)

河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』 (大学書林)

[授業外学修(予習・復習)等]

こちらで用意する教材に関し、授業の前後(予習・復習)に課題を課し、授業時に発表できる準備をしてもらう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学115

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	Expressionistische Literatur (I)				
[授業の概要・目的]					
In diesem Kurs sprechen wir über die deutschsprachige Literatur des Expressionismus von ihren Anfängen um 1910 bis zum Ende des Ersten Weltkriegs.					
[到達目標]					
Der literarische Expressionismus war die wichtigste neue Literaturrechtung zu Beginn des 20. Jahrhunderts. Im ersten Teil des Kurses sprechen wir darüber, wie sich der Expressionismus in seiner Frühphase von vorangegangenen und gleichzeitigen anderen Literaturrechtungen abzugrenzen versuchte und was seine stilistischen wie inhaltlichen Zielsetzungen waren. Wir lesen expressionistische Manifeste, Gedichte sowie Auszüge aus Romanen und Dramen.					
[授業計画と内容]					
Jede Woche wird ein Textbeispiel eines wichtigen Autors des frühen Expressionismus vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund der Zeit interpretiert. Die Studenten erhalten alle notwendigen Informationen, mit deren Hilfe sie die Textanalyse selbst vornehmen können. 1. Woche: Vorstellung des Themas. 2. Woche: Einführung in die historischen Grundlagen des frühen Expressionismus. 3.-14. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Werke der Epoche (auch nach Absprache mit den Studenten). 15. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernten.					
[履修要件]					
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.					
[成績評価の方法・観点]					
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).					
[教科書]					
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.					
[参考書等]					
(参考書) Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.					
ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他 (オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学116

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	Expressionistische Literatur (II)				
[授業の概要・目的]					
In diesem Kurs sprechen wir über die Entwicklung der expressionistischen Literatur ab der Zeit der Weimarer Republik und behandeln auch die Diskussion über diese Literaturrichtung, die darauf folgte.					
[到達目標]					
Zu Beginn der Weimarer Republik war der Expressionismus bereits eine etablierte Literaturrichtung. Im zweiten Teil des Kurses sprechen wir über die Entwicklungen expressionistischer Literatur bis etwa 1925, die Gründe für seine Ablösung durch andere Literaturrichtungen, die sog. "Expressionismusdebatte" sowie das Nachleben des expressionistischen Stils nach dem Zweiten Weltkrieg. Wir lesen Gedichte, Auszüge aus Romanen und Dramen sowie theoretische Texte, die sich mit dem Expressionismus auseinandersetzen.					
[授業計画と内容]					
Jede Woche wird ein Textbeispiel eines wichtigen expressionistischen Autors der Zeit oder eine theoretische Auseinandersetzung mit diesem Stil vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund interpretiert. Die Studenten erhalten alle notwendigen Informationen, mit deren Hilfe sie die Textanalyse selbst vornehmen können.					
1. Woche: Vorstellung des Themas.					
2. Woche: Überblick über die historischen Entwicklungslinien.					
3.-14. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Werke der Epoche (auch nach Absprache mit den Studenten).					
15. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernen.					
[履修要件]					
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.					
[成績評価の方法・観点]					
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).					
[教科書]					
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学117

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀音楽とは何だったか				
[授業の概要・目的]					
<p>21世紀が始まって既に四半世紀。かつて同時代(=私が生きている時代)だった20世紀は今やほぼ完全に「前世紀」になりつつある。この授業では、20世紀が「私が確かに生きた時代」であった世代の立場から、「あの世紀とは何であったか」を批判的に、しかしある種ノスタルジーも込めて考える。前期は20世紀前半の音楽潮流を、19世紀との対比で理解する。20世紀がいまだ完全に「前の時代」にはなっていないのと同様、20世紀は19世紀からの連続性と亀裂という視点抜きには理解しえない。</p>					
[到達目標]					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する					
[授業計画と内容]					
<p>1・2回：クラシック音楽とは何か：19世紀から理解する 3回：音楽は誰に奉納されてきたか：神・王・市民・大衆 4回：19世紀ヨーロッパが「音楽に国境はない」イデオロギーを作った 5・6回：第一次大戦の音楽史的意味 7・8回：芸術は未来を予言する？ 9・10回：第一次大戦のあと：1920年代と「大家」の消滅 10 - 13回：「ジャズ・エイジ」は大正童謡の同時代現象 14 - 15回：映画音楽とミュージカルはクラシックから生まれた</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
[教科書]					
使用しない					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』 (中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学118

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀音楽とは何だったか 2				
【授業の概要・目的】					
21世紀が始まって既に四半世紀。かつて同時代(=私が生きている時代)だった20世紀は今やほぼ完全に「前世紀」になりつつある。この授業では、20世紀が「私が確かに生きた時代」であった世代の立場から、「あの世紀とは何であったか」を批判的に、しかしある種ノスタルジーも込めて考える。後期は20世紀前半の音楽潮流を、21世紀との対比で理解する。20世紀が私たちにとっていまだ完全に「前の世紀」にはなっていない。					
【到達目標】					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する					
【授業計画と内容】					
1・2回：冷戦時代の音楽史構図について 3回：前衛音楽の過激化と世界観 4回：「自由」の探求とケージ 5 - 7回：前衛音楽の全盛期はポップスの全盛期 8・9回：モダン・ジャズとは何か 10 - 12回：1970年代とポストモダンの始まり 13 - 15回：癒しとテクノロジー					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 岡田暁生『西洋音楽史』(中公新書)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学119

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆 文学研究科 准教授 籠 碧	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)				
【授業の概要・目的】					
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 					
【授業計画と内容】					
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。					
第1回	はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。				
第2回～第3回	博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。				
第4回～第6回	修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。				
第7回～第9回	博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。				
第10回～第15回	修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。				
【履修要件】					
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。					
【教科書】					
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学120

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆 文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)				
[授業の概要・目的]					
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 					
[授業計画と内容]					
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。					
第1回～第6回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。					
第7回～第9回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。					
第10回～第12回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。					
第13回～第14回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。					
第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告					
[履修要件]					
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。					
[教科書]					
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。					
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習III)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅲ)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 6M181 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義） German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 細見 和之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」第3章におけるメランコリーについて				
【授業の概要・目的】					
この講義では、ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」第3章をドイツ語の原文で精読することで、ベンヤミンにおけるメランコリーという概念を理解することを目的とする。また、ドイツ語の原文を精読することで、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることも目指す。					
【到達目標】					
受講生は、この講義をつうじて、ベンヤミンのメランコリーという概念を学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想の大枠と、そのなかでの『ドイツ悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」における第3章の位置、またその内容について、概略を説明する。 第2回から第14回 ドイツ語原文の精読 『ドイツの悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」第3章をドイツ語原文で精読する。 第15回 まとめ ベンヤミンのメランコリーという概念をめぐって受講者が討論することを主たる内容とする。					
【履修要件】					
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（90点）、討論参加（10点）を基本にして、総合的に判定する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
----- ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義）(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

ドイツ語原文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ベンヤミンの思想を軸に、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。

（その他（オフィスアワー等））

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯での相談はメールでアポイントを取っていただければと思います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学122

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Schnitzler: Der blinde Geronimo und sein Bruder (1)				
【授業の概要・目的】					
この授業では、世紀末ウィーンを代表する作家アルトゥル・シュニッツラーの小説『盲目のジェロニモとその弟』(1900)を読みます。「同情」というキーワードに注目して精読したいと思います。					
【到達目標】					
・ドイツ語文学の作品の読解力を高める。					
【授業計画と内容】					
第1回 はじめに： シュニッツラーの生涯と作品について解説する。 第2回～第14回 テキスト講読： テキストの前半部を精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。					
【履修要件】					
ドイツ語中級以上の語学力があること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学123

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Schnitzler: Der blinde Geronimo und sein Bruder (2)				
【授業の概要・目的】					
この授業では、世紀末ウィーンを代表する作家アルトゥル・シュニッツラーの小説『盲目のジェロニモとその弟』(1900)を読みます。「同情」というキーワードに注目して精読したいと思います。					
【到達目標】					
・ドイツ語文学の作品の読解力を高める。					
【授業計画と内容】					
第1回 はじめに： シュニッツラーの生涯と作品について解説する。 第2回～第14回 テキスト講読： テキストの後半部を精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。					
【履修要件】					
ドイツ語中級以上の語学力があること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学124

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのリアリズム文学				
【授業の概要・目的】					
ドイツ語圏のリアリズム文学は英仏のそれに比べて広がりには欠け、社会批判的な方向性が弱かったとされる。同時代の文芸評論においても、文学は人間の営みの醜い部分をあばくよりも、美しいものを描くべきだとの主張も数多くなされた。ゆえに、ドイツのリアリズム文学は「詩的リアリズム」と呼ばれる。また、英仏のリアリズム文学がパリやロンドンといった大都市の発展を前提とした都市文学であったのに対し、都市化や市民層の形成が遅れたドイツ語圏にあっては、リアリズム文学はもっぱら農村部に立脚しながら展開した。以上のような差異から実際の文学にどのような特徴が生まれるのかに留意しながら、具体的に個々の作家の事例を見ていく。					
【到達目標】					
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。					
【授業計画と内容】					
基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。					
第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
【成績評価の方法・観点】					
平常点のみで評価。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学125

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのリアリズム文学				
【授業の概要・目的】					
ドイツ語圏のリアリズム文学は英仏のそれに比べて広がりには欠け、社会批判的な方向性が弱かったとされる。同時代の文芸評論においても、文学は人間の営みの醜い部分をあばくよりも、美しいものを描くべきだとの主張も数多くなされた。ゆえに、ドイツのリアリズム文学は「詩的リアリズム」と呼ばれる。また、英仏のリアリズム文学がパリやロンドンといった大都市の発展を前提とした都市文学であったのに対し、都市化や市民層の形成が遅れたドイツ語圏にあっては、リアリズム文学はもっぱら農村部に立脚しながら展開した。以上のような差異から実際の文学にどのような特徴が生まれるのかに留意しながら、具体的に個々の作家の事例を見ていく。					
【到達目標】					
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。					
第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
【成績評価の方法・観点】					
平常点のみで評価					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 細見 和之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』第2部「悲哀劇と悲劇」におけるアレゴリーについて。				
[授業の概要・目的]					
この演習では、ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』の第2部「アレゴリーと悲哀劇」をドイツ語の原文で読み解くことで、ベンヤミンのアレゴリーという概念について理解するとともに、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることを目指す。あわせて、受講者自身の研究発表の機会を授業のなかに組み込むことで、受講者が研究者として発信する力を身に付けることも目指す。					
[到達目標]					
受講生は、この演習をつうじて、ベンヤミンのアレゴリーという概念について学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。さらに、自分自身の発表の機会をつうじて、研究者として自らの研究内容を発信する力を身に付けることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想全体のなかでの『ドイツ悲劇の根源』の第2部「アレゴリーと悲哀劇」の位置について、また彼のアレゴリーという概念について、概略的な解説をくわえる。 第2回から第14回 ドイツ語テキストの精読と受講者の発表 『ドイツ悲劇の根源』の第2部「アレゴリーと悲哀劇」をドイツ語の原文で精読するとともに、受講生による発表の時間を組み込む。 第15回 まとめ ベンヤミンのアレゴリーという概念について、受講者で討論することを主たる内容とする。					
[履修要件]					
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(70点)、発表(20点)、討論参加(10点)を基本にして、総合的に判定する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

ドイツ語論文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。また、自分の発表に際しては、それぞれの研究テーマに引き寄せて、積極的に取り組んでください。

(その他(オフィスアワー等))

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますようにしていますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯の場合、メールでアポイントを取っていただくとありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学127

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカ出身の両親を有するLenny Henry作の一人芝居August in England (2023)を取り上げ、そこに見られるWest Indiesと英国との交流の歴史、ならびに英国社会の文化的多様性を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は</p> <p>a) 戯曲テキストの講読</p> <p>b) 講読する内容と連動した、指定のトピックに関するプレゼンテーション(担当者を指名する)</p> <p>c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション</p> <p>の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験により毎回の内容は前後することがある。</p>					
<p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / 戯曲テキストの読み方とAugust in England の概略</p> <p>第2週 講読: August in England scene 1 / プレゼンテーション・トピック: Windrush</p> <p>第3週 scene 2 / カリブ海地域の植民地化の歴史と現状</p> <p>第4週 scene 3 / 英国におけるfootballとcricket</p> <p>第5週 scene 4 / Notting Hill Carnivalとカリブ海地域の音楽、食文化</p> <p>第6週 scene 5 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第7週 scene 6 / 現在の英国政治における移民問題</p> <p>第8週 scene 7 / 英国における南アジア系移民の歴史と現状</p> <p>第9週 scene 8 / 英国における地域格差</p> <p>第10週 scene 9 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第11週 scene 10 (同上)</p> <p>第12週 scene 11 / Windrush Scandal</p> <p>第13週 英国における多文化主義、異文化交流の歴史と文学</p> <p>第14週: 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

第15週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 30%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 30%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Lenny Henry 『August in England』 (Faber, 2023) ISBN:978-0571386437

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」				
[授業の概要・目的]					
<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。この際、昨今注目を浴びている生成AIのリテラシーと精読・翻訳の作業を言語理解に合流させることで、生成AIの利用が当たり前になる世代に対するコミュニケーションと教育方法を模索する。この目的のため、異文化性や固有の歴史性が埋め込まれた文学テキストの読解を中心に授業を進め、最終的に受講者には、生成AIによってより豊かな解釈可能性をもつAI-Augmented Textを提出してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 4) 異文化コミュニケーションにとっての文学の重要性を理解している。 5) 生成AIのリテラシーを習得し、その適正な利用方法を理解している。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction：新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」</p> <p>第2回 異文化理解の架橋と断絶 生成AIが異文化コミュニケーションにとってもちうる可能性と限界を検討する。</p> <p>第3回 「テキスト共同体」(Brian Stock)と「解釈共同体」(Stanley Fish) 異質な思考や文化的背景をもつ他者とコミュニケーションが可能な場を構想する。</p> <p>第4回 文学作品の原文精読(1) AIによる生成結果を信用しすぎないようにするための方法として、Oxford English Dictionaryを用いて、英語で書かれた短編作品を丹念に読解し、close-readingの方法に習熟する。</p> <p>第5回 文学作品への注釈付け(2) 前回扱った作品に注釈を施し、多様な歴史的、社会的、文化的意味によって織りなされたテキストであることの意味を深める。</p> <p>第6回 文学作品の翻訳(1) 異文化間コミュニケーションにおける翻訳の重要性を理解するために、グループ間で翻訳の実践を行う。</p> <p>第7回 文学作品の翻訳(2) 前回の翻訳に対して既存の複数の翻訳を比較し、翻訳の諸問題を理解する。</p> <p>第8回 ChatGPTを用いた文学作品の読解の試み 生成AIを通じて文学作品を読解・翻訳し、解釈や訳語の不自然さや妥当性を検討する。</p> <p>第9回 ChatGPTを用いた文学作品の「続編」作成の試み 生成AIを通じて文学作品を創造的に拡張し、原文テキストに埋め込まれた歴史的、社会的、文化的意味がどのようにして拡張され、ある</p>					
英語学英米文学(特殊講義) (2)へ続く					

英語学英米文学(特殊講義) (2)

いは変容を受けるのかを考察する。

第10回 文学作品とテキスト生成、音声生成 提出課題となるAI-Augmented Textの準備作業を行い、生成物に埋め込まれた「異文化性」を理解する。

第11回 文学作品と画像生成 前週と同様にAI-Augmented Textの作成作業を行う。文学作品の情景描写文から生成AIによる挿絵の作成の試みると同時に、AIによるハルシネーションや過剰/過少生成を見破るリテラシーを手に入れる。

第12回 AI-Augmented Text作成の試み(1) 発表グループ1

第13回 AI-Augmented Text作成の試み(2) 発表グループ2

第14回 講評とグループディスカッション 12,13回で発表されたAI-Augmented Textに対して講評を行い、その後グループに分かれて討議を行う。

第15回 まとめと質疑応答

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・提出物・口頭発表(60%)と学期末に提出する課題(40%)によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する配布物を事前に予習しておくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲や学習内容を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30~15:00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Fitzgerald, The Great Gatsbyを読む				
[授業の概要・目的]					
F. Scott Fitzgeraldの代表作The Great Gatsby (1925)を精読しながら、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、人種、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。あわせて作品の映画化(アダプテーション)についても考える。					
[到達目標]					
文学テキストを精確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Great Gatsbyおよびその作者Fitzgeraldについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジユメを準備したうえで発表してもらおう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	Chapter 1を読む				
第3回	Chapter 2を読む				
第4回	Chapter 3を読む				
第5回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第6回	Chapter 4を読む				
第7回	Chapter 5を読む				
第8回	Chapter 6を読む				
第9回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第10回	Chapter 7を読む				
第11回	Chapter 8を読む				
第12回	Chapter 9を読む				
第13回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第14回	総論とまとめ				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

F. Scott Fitzgerald 『The Great Gatsby』（Penguin）ISBN:978-0141182636

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。また、有名な作品で翻訳も多数あるので、開講前にざっとでも一度通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学130

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ現代文学における病の表象について The Gifts of the Bodyを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、Rebecca BrownのThe Gifts of the Body (1994)を読みます。エイズ患者のホームケア・ワーカーを語り手に据えた本作は、「病」によってもたらされる種々の二分法(患者と健常者、寿命と病死、家族と他者)について省察を呼びかけるものです。現代アメリカではどのように「病」が小説で描かれるのか、本作の精読によって学ぶことを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における「病」の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Rebecca Brownと1990年代におけるエイズについて 第2回：The Gift of Sweatを読む 第3回：The Gift of Wholenessを読む 第4回：The Gift of Tearsを読む 第5回：The Gift of Skinを読む 第6回：The Gift of Hungerを読む 第7回：The Gift of Deathを読む 第8回：The Gift of Speechを読む 第9回：The Gift of Sightを読む 第10回：The Gift of Hopeを読む 第11回：The Gift of Mourningを読む 第12回：The Gifts of the Body全体を振り返る1 第13回：The Gifts of the Body全体を振り返る2 第14回：レポートワークショップ 第15回：【総論】The Gifts of the Bodyと小説ジャンルについて</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Brown, Rebecca 『The Gifts of the Body』 (Harper Perennial, 1995) ISBN: 9780060926533 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者は、翻訳で構わないので、第2回目授業までに一通り作品全体を読んでおくこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

日頃の課題提出を含む平常点。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学133

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Margaret Atwoodの詩の読解と翻訳				
[授業の概要・目的]					
この授業では、カナダの詩人・作家であるマーガレット・アトウッドが、1968年に発表した第2詩集『あの国の動物たち』(The Animals in That Country, 1968)の読解と翻訳を行う。人間と動物、人間と環境の関係性や境界を問い直す本詩集は、動物倫理や環境問題といった今日的な問題へ接続できるだろう。また、アトウッドの評論『サバイバル』(Survival, 1972)を参照し、比較文化的視座から動物表象について考える。					
[到達目標]					
この授業を通じ、詩の読解能力を養うとともに、文芸翻訳に取り組む。また、比較文化的視座から動物表象について考察することにより、人間が動物を描くことの意味について理解する。					
[授業計画と内容]					
1.Introduction 2.The animals in that country 3.Attitudes towards the mainland 4.The green man 5.At the tourist centre in Boston 6.A night in the Royal Ontario Museum 7.River 8.What happened 9.Roominghouse, winter 10.It is dangerous to read newspaper 11.Progressive insanities of a pioneer (1) 12.Progressive insanities of a pioneer (2) 13.Speeches for Dr Frankenstein (1) 14.Speeches for Dr Frankenstein (2) 15.Speeches for Dr Frankenstein (3)					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

[教科書]

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学134

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポストモダン・アメリカ小説研究 Jhumpa Lahiriを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Jhumpa Lahiri (1967-) の第二短篇集Unaccustomed Earth (2008) および先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、現代アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、インド(ベンガル)系アメリカ移民である作者自身の出自を反映した同書の収録作品を講読する。</p>					
[到達目標]					
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテクストを読み解く批評眼を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 “Unaccustomed Earth”(1) 第3回 “Unaccustomed Earth”(2) 第4回 “Hell-Heaven” 第5回 “A Choice of Accommodations”(1) 第6回 “A Choice of Accommodations”(2) 第7回 “Only Goodness”(1) 第8回 “Only Goodness”(2) 第9回 “Nobody's Business”(1) 第10回 “Nobody's Business”(2) 第11回 “Once in a Lifetime” 第12回 “Year's End” 第13回 “Going Ashore” 第14回 エッセイ・インタビューおよび先行研究の概観 第15回 授業のまとめ・フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Jhumpa Lahiri 『Unaccustomed Earth』（Vintage Books, 2009）ISBN:978-0-307-27825-8

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』（Manchester UP, 2017）

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学135

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokov _The Luzhin Defense_ 研究				
[授業の概要・目的]					
<p>Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説_The Luzhin Defense_ (1963)を精読する。1930年に出版された、チェス名人を主人公とするロシア語小説_Zashichita Luzhina_の英語版である本作は、ナボコフの「ロシア語小説のうち、もっとも『ぬくもり』のある」作品であると自身が認めるものである。その「ぬくもり」や、散りばめられたさまざまなモチーフ、テーマ(とりわけ「音楽」のテーマ)を感じながら読み進める。</p>					
[到達目標]					
<p>技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 Chapter 1 輪読 第3回 Chapter 2 輪読 第4回 Chapter 3 輪読 第5回 Chapter 4 輪読 第6回 Chapter 5 輪読 第7回 Chapter 6 輪読 第8回 Chapter 7 輪読 第9回 Chapter 8 輪読 第10回 Chapter 9 輪読 第11回 Chapter 10 輪読 第12回 Chapter 11 輪読 第13回 Chapter 12 輪読 第14回 Chapter 13 輪読 第15回 Chapter 14 輪読</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析して</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

いるか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『The Luzhin Defense』 (Penguin, 2000) ISBN:ISBN-10: 0141185988

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

一回の授業で、できれば1章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授	西谷 拓哉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学(1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学(2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学(3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像(1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像(2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像(3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

中間レポート、最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	抒情詩の語り手について考えるーW. B. イェイツの中後期の詩作品を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>抒情詩における語り手をテーマに据えながら、1920年代から30年代にかけて書かれた円熟期のイェイツの詩作品を精読する。"Meditations in Time of Civil War," "Among School Children," "Leda and the Swan," "Crazy Jane poems," "Man and the Echo," "The Curse of Cromwell"などを予定している。</p> <p>批評家Jonathan Cullerによると、近代以降の抒情詩には、語り手の思考プロセスの模倣ではなく、それを表現したものが描かれるという。そのような指摘をふまえ、本講義では、イェイツの中後期の詩作品において語り手の思考プロセスがどのように表現されているか考える。さらに、講義の後半では同時代に発表された他の詩人の作品を併せて読み、比較対象としたい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション、授業の進め方についての説明				
第2回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第3回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第4回	W. B. イェイツ "Leda and the Swan"				
第5回	W. B. イェイツ "Among School Children"				
第6回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第7回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第8回	W. B. イェイツ "Man and the Echo"				
第9回	W. B. イェイツ "The Curse of Cromwell"				
第10回	T. S. エリオットの詩を読む				
第11回	T. S. エリオットの詩を読む				
第12回	W. H. オーデンの詩を読む				
第13回	W. H. オーデンの詩を読む				
第14回	まとめ				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。
口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。
授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charlotte Brontë, *Jane Eyre*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』は、時代を超えて愛読され、映画化され、批評されてきた。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。ヴィクトリア朝という作品の時代背景についても知識を増やし、これまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家への影響、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(授業の進め方の説明など) 第2回 *Jane Eyre* Chapter 1~2と小説の書き出しについて 第3回 *Jane Eyre* Chapter 3~4 第4回 *Jane Eyre* 映画鑑賞(Chapter 5~10) 第5回 *Jane Eyre* Chapter 11~13 第6回 *Jane Eyre* Chapter 14~16 第7回 *Jane Eyre* Chapter 17~19 第8回 *Jane Eyre* Chapter 20~23 第9回 *Jane Eyre* Chapter 24~26 第10回 *Jane Eyre* Chapter 27~28 第11回 *Jane Eyre* Chapter 29~32 第12回 *Jane Eyre* Chapter 33~35 第13回 *Jane Eyre* Chapter 36~38 第14回 先行研究と語り直しについて 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charlotte Brontë 『Jane Eyre』（Penguin）ISBN:9780141441146

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobotz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学140

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life
Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction
Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)
Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)
Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West
Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets
Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 10%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学141

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学（特殊講義） English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	シェイマス・ヒーニーの初期の詩を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>北アイルランドのデリー州出身のシェイマス・ヒーニー（1939-2013）は、アイルランドのみならず英語圏で広く親しまれている現代詩人のひとりである。本講義では、ヒーニーの第一詩集Death of a Naturalist(1966)、第二詩集Door into the Dark(1969)、第三詩集Wintering Out(1972)所収の作品を精読する。これらの詩では、少年時代の回想、田舎暮らしや自然、詩の創作、アイルランドの政治的状況などのテーマが扱われる。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、英語の注釈、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>毎回の授業は作品の朗読、および口頭発表とディスカッションを中心に進める。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション：シェイマス・ヒーニーについて、および作品と関連する社会的文脈、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第3回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第4回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第5回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第6回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第7回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第8回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第9回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第10回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第11回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第12回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第13回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- 英語学英米文学（特殊講義）(2)へ続く -----					

英語学英米文学（特殊講義）(2)

授業計画は、状況によって変更することがあります。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	北海道大学大学院文学研究院 竹内 康浩 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エドガー・アラン・ポーとその影響				
[授業の概要・目的]					
<p>探偵小説の始祖とされる19世紀米国作家エドガー・アラン・ポーの短編小説を読みながら、作家がいかに登場人物の混迷を描き、さらに読者を煙に巻くか、すなわち彼の創作原理を考察します。その原理とは、物理的な鍵のようなもので、謎をロックするときにもアンロックするときにも使えます。また応用編として、その原理を使ってポー以外の作家による作品も読み解いてみたいと思います。</p>					
[到達目標]					
<p>エドガー・アラン・ポーの作品を読むことで、彼の創作原理を理解し、その原理を使用して、ひろく文学作品を考察することができるようになります。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。</p>					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回、2回：“Thou Art the Man”(「お前が犯人だ」)を読む(講義) ・ 3回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回、5回：“A Tale of the Ragged Mountains”(「鋸山綺譚」)を読む(講義) ・ 6回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
3日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 7回、8回：“The Murders in the Rue Morgue”(「モルグ街の殺人」)を読む(講義) ・ 9回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
4日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10回、11回：“The Purloined Letter”(「盗まれた手紙」)を読む(講義) ・ 12回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
5日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 13回、14回：“The Black Cat”(「黒猫」)を読む(講義) ・ 15回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表（４０％）、授業での質疑応答（２０％）、レポート（４０％）で総合的に評価する。

【教科書】

エドガー・アラン・ポーの作品（英語）は以下のサイトで全て読むことができます。

<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

授業では、上記のマボット版を使用します。（ページ数に言及する際、この版のページを用います）。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講までに「授業計画」で挙げた諸作品を以下のサイトで熟読しておいて下さい。<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

余裕のある人は"The Fall of the House of Usher"と"The Sphinx"も読んでみて下さい。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、qze11357@gmail.com です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学143

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Investigating constructional alternations in recent English				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のEva Zehentner先生(チューリッヒ大学)が担当しますが家入が補助します。Zehentner先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Syntactic alternations most basically refer to cases where “two or more ways of saying the same thing” (Labov 1972: 271) are available, i.e. where two formally distinct patterns express equivalent or similar meanings. For example, in the well-known English dative alternation, a nominal pattern (give the student a book) is more or less interchangeable with a prepositional pattern (give a book to the student). Such alternations have featured centrally in most, if not all, theoretical approaches to syntax (see e.g. Pijpops 2020). Typical issues that have been raised in their regard are to determine the precise relation between the members of an alternation and its theoretical modelling, with e.g. one pattern postulated to underlie the other in deep structure, or both patterns being represented as largely independent from each other (e.g. Goldberg 1995; Rappaport Hovav & Levin 2008; and many others, on the English dative alternation). Furthermore, the factors impacting the choice between alternating variants have received ample attention, investigating the effect of language-internal properties like semantic or pragmatic differences or processing-related features, but also sociolinguistic, external predictors such as variety or genre (e.g. Grafmiller & Szmrecsanyi 2018). In Construction Grammar specifically, alternations were disregarded for some time (e.g. Goldberg 1995, 2006), but have been met with renewed interest ever since Cappelle’s (2006) seminal work on ‘allostructions’ and discussions on ‘horizontal’ links (also Perek 2012, 2015; Ungerer forthc.; for a recent overview of relevant developments see Zehentner 2023).</p> <p>The seminar will introduce relevant concepts and theoretical questions regarding syntactic alternations in Construction Grammar, and will use large standard corpora of contemporary and recent historical English to allow students to carry out research projects on selected alternation phenomena. Specifically, we will use corpora from the Mark Davies family available at www.english-corpora.org, such as COCA (Corpus of Contemporary American English), COHA (Corpus of Historical American English) and the BNC (British National Corpus), among others, which cover a wide range of genres and different timeframes. On the basis of few selected alternation phenomena, students will be guided in their research process, learning how to find topics, formulate specific questions, retrieve and annotate data, as well as analyse and interpret their findings. This will be done in a step-by-step, accessible, and hands-on way, with students receiving specific input on methodological and theoretical aspects of alternation studies.</p>					
[到達目標]					
<p>The goal of the course is to introduce students to syntactic alternations from a Construction Grammar perspective, discussing (i) theoretical questions that arise when dealing with variation between formally or functionally overlapping constructions, and (ii) providing a hands-on introduction to investigating</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

alternations with corpus data in contemporary and recent historical English. On the basis of representative phenomena such as the English dative alternation (gave them a book vs gave a book to them), the genitive alternation (the book 's pages vs the pages of the book), the particle alternation (take your shoes off vs take off your shoes), and the comparative adjective alternation (easier vs more easy), students will be familiarised with the history of alternation research in Construction Grammar, and will learn how to set up a small corpus research project on the alternations in question: This will include practical guidance on how to retrieve relevant data from corpora, how to operationalise factors that may impact the alternations, and how to interpret findings in a constructionist framework.

【授業計画と内容】

1. Introduction to the basics of Construction Grammar
2. Syntactic alternations and their treatment in Construction Grammar
3. Case studies: 4 (in)famous alternations in English
4. Research design I: topics and research questions
5. Research design II: dependent and independent variables
6. Corpus linguistics: standard corpora of English and their use
7. Retrieving alternations from corpora
8. Annotating and analysing alternation data (1)
9. Annotating and analysing alternation data (2)
10. Descriptive statistics (summing up results, observing frequency trends)
11. Inferential statistics (using Excel and R to run statistical tests and models)
12. Hands-on practice of descriptive and inferential statistical analysis
13. Interpreting results
14. Discussion of theoretical implications of empirical findings
15. Wrap-up on data analysis and constructionist approaches

【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,
data analyses 30%,
report (write-up of findings) 50%

【教科書】

授業中に指示する

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

【参考書等】

(参考書)

Corpora

英語学英米文学(特殊講義)(3)

BNC = Davies, Mark. 2004. British National Corpus (from Oxford University Press). <https://www.english-corpora.org/bnc/>.

COCA = Davies, Mark. 2008-. The Corpus of Contemporary American English (COCA). <https://www.english-corpora.org/coca/>.

COHA = Davies, Mark. 2010. The Corpus of Historical American English (COHA). <https://www.english-corpora.org/coha/>.

References

Cappelle, Bert. 2006. Particle placement and the case for “allostructions”. *Constructions* 1. 1-28. <https://doi.org/10.24338/cons-381>.

Goldberg, Adele. 1995. *Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.

Goldberg, Adele. 2006. *Constructions at work: The nature of generalization in language*. Oxford: Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/acprof:oso/9780199268511.001.0001>.

Grafmiller, Jason & Benedikt Szmrecsanyi. 2018. Mapping out particle placement in Englishes around the world. A case study in comparative sociolinguistic analysis. *Language Variation and Change* 30(03). 385-412. <https://doi.org/10.1017/S0954394518000170>.

Labov, William. 1972. *Sociolinguistic patterns*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

Perek, Florent. 2012. Alternation-based generalizations are stored in the mental grammar: Evidence from a sorting task experiment. *Cognitive Linguistics* 23(3). 601-635. <https://doi.org/10.1515/cog-2012-0018>.

Perek, Florent. 2015. Argument structure in usage-based Construction Grammar: Experimental and corpus-based perspectives. Amsterdam: Benjamins. <https://doi.org/10.1075/cal.17>.

Pijpops, Dirk. 2020. What is an alternation? Six answers. *Belgian Journal of Linguistics* 34. 283-294.

Ungerer, Tobias. forthc. Vertical and horizontal links in constructional networks: Two sides of the same coin? *Constructions and Frames*.

Zehentner 2023 Allostructions revisited. *Constructions* 15(1). 1-20. [Special Issue: 35 Years of *Constructions*]. <https://doi.org/10.24338/cons-569>.

[授業外学修(予習・復習)等]

Assigned reading

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学144

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 外国語学部・特別契約教授 和田 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期中英語文学を読む				
[授業の概要・目的]					
初期中英語で書かれた韻文と散文のテキストを精読しながら、古英語から中英語へと変容する過渡期の英語を観察する。この時期の英語に慣れ親しむとともに、当時の人々が読み、あるいは聴いていた文学を現代に生きる私たちも彼らとともに味わい楽しむ。					
[到達目標]					
英語史における初期中英語の特徴を理解し、グロッサリーや辞書を利用して、様々なジャンルのテキストを正確に読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
1回 イン트로ダクション 2回～14回 初期中英語で書かれた様々なジャンルの作品の抜粋を精読する。読む作品と順序は下記を予定しているが、進捗状況によって変更する可能性がある。 The Owl and the Nightingale Havelok The Fox and the Wolf Dame Sirith Saint Kenelm Lyrics 15回：総括					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
受講生は毎週、前もって与えられたテキストを精読し、授業で正確な読みを発表する(平常点:50パーセント)。初期中英語期の英語・英文学に関する課題のレポートを提出する(50パーセント)。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>(Middle English Dictionary (MED)がこのサイトで利用できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、与えられたテキストの精読をして授業に臨むことが必須である。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡方法は授業で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学145

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 外国語学部・特別契約教授 和田 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期中英語文学を精読する。				
[授業の概要・目的]					
初期中英語で書かれた韻文と散文のテキストを精読しながら、古英語から中英語へと変容する過渡期の英語を観察する。この時期の英語の文法を理解し、テキストを正しく読む訓練をすると同時に、当時の文学作品がどのような社会背景から生まれたのか、についても考察する。					
[到達目標]					
英語史における初期中英語の特徴を理解し、グロッサリーや辞書を利用して、様々なジャンルのテキストが正確に読めるようになる。この時期に書かれた文学作品が当時の社会とどのように関わっていたのかを理解できる。					
[授業計画と内容]					
1回 インTRODクション 2回～14回 初期中英語で書かれた様々なジャンルの作品の抜粋を精読する。読む作品と順序は下記を予定しているが、進捗状況によって変更する可能性がある。 The Land of Cokaygne Brut The Bestiary Ormulum Interludium De Clerico et Puella The Peterborough Chronicle Ancrene Wisse 15回:総括					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
受講生は毎週、前もって与えられたテキストを精読し、授業で正確な読みを発表する(平常点:50パーセント)。初期中英語期の英語英文学に関する課題のレポートを提出する(50パーセント)。					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>(Middle English Dictionary (MED)がこのサイトで利用できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、与えられたテキストの精読をして授業に臨むことが必須である。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡方法は授業で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学146

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	英語史研究の方法				
[授業の概要・目的]					
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。					
[到達目標]					
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。					
[授業計画と内容]					
1回目 イン트로ダクション					
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。					
<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書として指定したMinna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.), Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach（図書館の電子図書を利用）を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。（否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。） ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。 					
[履修要件]					
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----					

英語学英米文学（演習）(2)

[参考書等]

（参考書）

Minna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.) 『Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach』 (John Benjamins)

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学147

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	英語史研究の方法				
[授業の概要・目的]					
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。					
[到達目標]					
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。					
[授業計画と内容]					
1回目 イン트로ダクション					
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。					
<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書として指定したMinna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.), Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach（図書館の電子図書を利用）を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。（否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。） ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。 					
[履修要件]					
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----					

英語学英米文学（演習）(2)

[参考書等]

（参考書）

Minna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.) 『Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach』 (John BenjaminsJohn B)

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Jew of Malta 演習1				
[授業の概要・目的]					
Christopher Marlowe, The Jew of Maltaの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション					
第2-15回 テキストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。					
場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。					
一学期の授業では読み終わらないと思われるので後期に継続する。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%)にて評価する。					
[教科書]					
Christopher Marlowe 『The Jew of Malta』(Bloomsbury, 2021) ISBN:9781904271758 (Arden Early Modern Drama. Ed. William H. Sherman and Chroë Preedy)					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Jew of Malta 演習2				
[授業の概要・目的]					
前期の演習1に引き続き、Christopher Marlowe, The Jew of Maltaの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1-15回 テクストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。 前期終了箇所から読み始める。</p> <p>場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。</p>					
[履修要件]					
前期の演習1からの継続受講を原則とする。後期からの受講を希望する者は初回に担当者に申し出ること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%)にて評価する。					
[教科書]					
Christopher Marlowe 『The Jew of Malta』 (Bloomsbury, 2021) ISBN:9781904271758 (Arden Early Modern Drama. Ed. William H. Sherman and Chroë Preedy)					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学150

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Ulysses 演習1				
【授業の概要・目的】					
<p>James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では第1~6挿話を読んだあとに、実験的な文体がはじめて試みられる第7挿話を精読する。下記の項目に習熟することを目的とする。</p> <p>(1) 英文学における修辭的技法の理解 (2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解 (3) 文学テキストの精読(close-reading)の方法 (4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。第2~6回で第1~6挿話を読み終わり、残り第7回~14回で第7挿話を読み終わる予定。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表（60％）とレポート（40％）で総合的に評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学151

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Ulysses 演習1				
【授業の概要・目的】					
James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では第8~10挿話を読んだあとに、きわめて実験的な文体が試みられる第11挿話を精読する。下記の項目に習熟することを目的する。					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 英文学における修辭的技法の理解 (2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解 (3) 文学テキストの精読(close-reading)の方法 (4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法 					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。第2~6回で第8~10挿話を読み終わり、残り第7回~14回で第11挿話を読み終わる予定。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表（60％）とレポート（40％）で総合的に評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学152

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edith Wharton, The Age of Innocenceを読む(1)				
【授業の概要・目的】					
Edith Wharton (1862-1937) の代表作の一つThe Age of Innocence (1920)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。					
【到達目標】					
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。					
【授業計画と内容】					
<p>授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに参加者全員で話し合うことで理解を確かめる。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション 第2～14週：テキスト講読 第15週：まとめとフィードバック</p> <p>前期はテキストのおおよそ半ばまで読み進む予定。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点100%で評価する。					
【教科書】					
Edith Wharton 『The Age of Innocence』 (Penguin) ISBN:978-0140189704					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学153

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edith Wharton, The Age of Innocenceを読む(2)				
【授業の概要・目的】					
Edith Wharton (1862-1937) の代表作の一つThe Age of Innocence (1920)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。					
【到達目標】					
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。					
【授業計画と内容】					
<p>授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに参加者全員で話し合うことで理解を確かめる。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション 第2～14週：テキスト講読 第15週：まとめとフィードバック</p> <p>後期はテキストの後半部を読み進む予定。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(70%)と学期末の英語レポート(30%)で評価する。					
【教科書】					
Edith Wharton 『The Age of Innocence』(Penguin) ISBN:978-0140189704					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学154

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Franny and Zooeyを読む				
【授業の概要・目的】					
J. D. Salingerの『Franny and Zooey』を丁寧に読むことで、Salingerの文体の特徴、小説世界について把握する。					
【到達目標】					
20世紀ユダヤ系文学における主要作品を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。					
【授業計画と内容】					
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 インTRODクシヨン 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
発表(60%)およびディスカッションでの貢献(40%)によって評価する。 (教科書)					
【教科書】					
Salinger, J. D. 『Franny and Zooey』(Penguin) ISBN:9780141049267(授業中、常時参照するので ならずこの版を購入すること)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
参考文献として竹内康浩・朴舜起『謎ときサリンジャー』(新潮選書)に目を通すことをおすすめ めします。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学155

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Naturalを読む				
【授業の概要・目的】					
Barnard MalamudのThe Naturalを丁寧に読むことで、Malamudの文体の特徴、小説世界について把握する。					
【到達目標】					
ユダヤ系文学における主要作品を自分なりに解釈する勇氣と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。 アメリカ文学における野球の表象を学ぶ。					
【授業計画と内容】					
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 インTRODクシヨン 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
発表(60%)およびディスカッションでの貢献(40%)によって評価する。 (教科書)					
【教科書】					
Malamud, Barnard 『The Natural』(Farrar, Straus and Giroux) ISBN:9780374502003(授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
本授業は議論主体のため、入念な予習が求められます。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学156

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(外国語実習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	全回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them to develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 #8211 Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Change (1) Endangered Languages & Language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Language and Globalization</p> <p>13 (4) Global Englishes</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英米文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他（オフィスアワー等）)

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学157

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(外国語実習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	全回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Langue & Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI</p> <p>3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication</p> <p>4 (3) Are we losing the ability to communicate with one another?</p> <p>5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload '</p> <p>6 Module 2 #8211 Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies</p> <p>7 (2) Official Languages</p> <p>8 (3) Revitalizing Endangered Languages & Language Rights</p> <p>9 (4) Language Landscapes</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Education (1) Discourses about Japanese Language Learners</p> <p>11 (2) Bilingual Education</p> <p>12 (3) Recent Directions in Language Education</p> <p>13 (4) The Future of Language Learning</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英米文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学158

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永盛 克也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	モンテーニュ研究				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教戦争に揺れる16世紀後半のフランスに生きた貴族モンテーニュ (Michel de Montaigne, 1533-1592) が残した著作『エッセー』(Essais, 1580-1595) は、西洋古典文学の幅広い読書で培われた人文主義的教養を土台としながら、様々な主題について自由かつ重厚な思索を展開した精神の記録である。授業ではこの長大な著作からいくつかの章を選び、主要なトピックについて説明を加えながら読解を試みる。モンテーニュの依って立つ思想的背景を踏まえつつ、彼の思索と文体の特徴を把握することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>フランス16世紀における人文主義について理解する。 西洋古典文学の受容と近代ヨーロッパ文学の成立との深い関連について理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。 ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回-第2回 イン트로ダクション モンテーニュとその時代 第3回-第4回 『エッセー』の執筆と出版の経緯 第5回-第6回 『エッセー』の構成と主題 第7回-第14回 『エッセー』の読解 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業での発表(20%)および期末レポート(80%)					
[教科書]					
プリント等を配布する					
[参考書等]					
(参考書)					
モンテーニュ 『エッセー』(白水社, 2005-2016) ISBN:9784560025741 (宮下志朗訳, 全7巻)					
モンテーニュ 『随想録』(白水社, 1995) ISBN:4560048770 (関根秀雄訳, 全訳縮刷版)					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

モンテーニュ 『エッセー』 (岩波文庫, 1965-1967) ISBN:9784002002927 (原二郎訳, 全6巻)

Montaigne 『Les Essais』 (Gallimard, 2007) ISBN:9782070115051

Montaigne 『Les Essais』 (Le Livre de Poche, 2001) ISBN:9782253132608 (ISBN-10:2253132608)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 森本 淳生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス象徴主義概論				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、19世紀後半に隆盛したフランス象徴主義について概観します。象徴主義は一般に、資本主義経済が発展しつつあった同時代の社会を子細に描写・分析するリアリズムや自然主義に対する反動として、内面性や、夢、理想、死といったテーマを中心に展開された運動であると理解されてきました。こうした理解は決して間違っていないが、象徴主義は決してたんなる「反動」ではなく、同時代の社会状況や最新のテクノロジーにも目配りをしながら展開されており、また当時の最新の文学思潮として鋭敏な批評意識を備えたものでもありました。授業ではいくつかのテーマ系に即して、こうした象徴主義の内実を腑分けしつつ、それが私たち自身が生きる現代とどう切り結んでいるのかを考えたいと思います。(なお、フランス語の知識は前提としません。)</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀のフランス文学史について、個々の作家や作品の知識を獲得し、具体的なイメージを得る。 ・ 文学事象と社会事象の関係について具体的に理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1-2回 イン트로ダクション：象徴主義を知るためのいくつかの視角 第3-4回 詩法：韻文の危機と自由詩 第5-6回 象徴主義と唯物論 / 科学 第7回 「テスト氏との一夜」と象徴主義小説 第8回 中間まとめ 第9-10回 マイナー詩人のメディア戦略 第11-12回 象徴主義と政治 / 宗教 第13-14回 象徴主義と現代思想 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%、レポート50%					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に取り上げる作品については、翻訳で構いませんのでいくつか実際に通読することをお勧めします。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学160

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Molière philogyne				
[授業の概要・目的]					
<p>Molière a 400 ans. Pourtant, son répertoire, qui se compose à la fois de farces, de grandes comédies et même de comédies métathéâtrales, continue de s'illustrer par son ingéniosité formelle autant que par la saisissante galerie des personnages qui y figurent. Dans ses pièces, les ingénues, les coquettes et les prudes côtoient les atrabilaires amoureux, les barbons jaloux et les marquis pédants. Miroir des vices et des vertus de son temps, la comédie de Molière est également une chambre d'écho des préoccupations contemporaines. Les quatre pièces au programme ont en commun de faire la part belle aux personnages féminins, notamment à la figure de la précieuse, qui fait l'objet de la satire. Ces pièces portent sur la scène la question de l'éducation des femmes et de leur rapport aux savoirs, de la galanterie et du mariage, ou encore du langage précieux. L'objectif de ce cours sera de mieux connaître les ressorts dramaturgiques de l'écriture de Molière et le contexte socio-historique de création de ses pièces, afin d'examiner quelle représentation il donne des femmes dans ses comédies. Dans quelle mesure les pièces de Molière peuvent-elles être qualifiées de "philogyne" ? Autrement dit, manifestent-elles une reconnaissance de l'égalité entre les genres féminin et masculin, et sont-elles un espace de défense des droits et des intérêts des femmes de son temps ?</p>					
[到達目標]					
<p>Ce cours permettra aux étudiants et aux étudiantes de développer leur connaissance du théâtre de Molière. Plus généralement, il vise à enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la littérature française du XVIIe siècle. Il leur permet enfin de se familiariser avec les méthodes de recherche dans les études littéraires françaises, en particulier à l'utilisation de l'analyse littéraire (explication de texte et stylistique) et au croisement avec les études de genre.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Histoire littéraire, étude de genre, étude comparée de mises en scène, étude de la réception au XXe et XXIe siècles, analyse d'images.</p>					
[履修要件]					
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui désirent approfondir leur connaissance de la culture française. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

【成績評価の方法・観点】

Les connaissances seront évaluées par un QCM hebdomadaire qui accompagne le programme de lecture et par un dossier à rédiger en français. La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation lors des séances.

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Le séminaire s'appuie sur un travail de lecture en français très régulier et sur une participation active pendant les cours.

(その他(オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous. オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学161

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Madeleine de Scudéry : éthique chrétienne et esthétique galante au Grand Siècle				
[授業の概要・目的]					
<p>Madeleine de Scudéry (1607-1701), figure majeure des salons mondains et intellectuels du siècle de Louis XIV, surnommée "Sappho" comme la sulfureuse poétesse grecque de Lesbos, est une des plus grandes romancières de son époque (Artamène ; Clélie). Elle est également l'autrice de traités de morale rédigés sous forme de "conversations" (1680-1692). À travers ces traités, elle illustre en France l'art de la "galanterie", qui est alors le critère socio-esthétique du bon goût et de la distinction. Ses traités offrent de plus une synthèse remarquable des débats philosophiques et moraux du XVIIe siècle, en particulier en ce qui concerne la connaissance du cœur et des relations sociales : comment faire bon usage de ses émotions ? comment se comporter en société ? comment réguler les relations entre femmes et hommes ? Ils ont enfin la particularité de faire une place majeure au point de vue féminin : les personnages qui dialoguent sur ces questions savantes et morales sont en grande partie des femmes, soucieuses de s'arrêter sur des questions et des exemples qui les concernent au premier chef. Si Madeleine de Scudéry s'attache à défendre l'éducation des femmes et critique vigoureusement l'institution du mariage, ces œuvres ne peuvent certes pas pour autant être qualifiées de "féministes". Néanmoins ne manifestent-elles pas une tentative d'inventer un ethos de moraliste au féminin, en tenant compte des contraintes sociales qui lui incombent en contexte chrétien et nobiliaire ?</p> <p>Ce séminaire sur les conversations morales de Madeleine de Scudéry visera donc à la fois à mettre en évidence une anthropologie chrétienne et mondaine représentative du XVIIe siècle et à questionner la capacité de son œuvre à enrichir la philosophie antique et moderne par un point de vue féminin.</p>					
[到達目標]					
Ce cours permettra aux étudiants et aux étudiantes de développer leur connaissance du contexte littéraire, philosophique et anthropologique de la France du XVIIe siècle. Il leur permet également de se familiariser avec les méthodes de recherche dans les études littéraires françaises, en particulier à l'utilisation de l'analyse littéraire (explication de texte et stylistique) et au croisement avec les études de genre.					
[授業計画と内容]					
Histoire littéraire, étude de genre, histoire de la philosophie.					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui désirent approfondir leur connaissance de la culture française. Le cours sera dispensé intégralement en français.

【成績評価の方法・観点】

Les connaissances seront évaluées par un QCM hebdomadaire qui accompagne le programme de lecture et par un dossier à rédiger en français. La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation lors des séances.

【教科書】

使用しない

L'enseignante fournira tous les textes étudiés.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres théâtrales. Environ 15 à 20 pages seront données à la lecture chaque semaine.

(その他(オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヴィクトル・ユゴーの詩作品研究				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス・ロマン主義を代表するヴィクトル・ユゴー (Victor Hugo, 1802-1885) は、『レ・ミゼラブル』の作家、古典派に対するロマン派の勝利を画した「エルナニ合戦」の主導者、あるいはまたナポレオン3世を批判して亡命生活を送った共和政と自由の体現者として知られるが、この国民的英雄にして世界的文豪は、詩、戯曲、小説、評論、旅行記などあらゆるジャンルにわたって歴大かつ多彩な作品を生み出し、詩作品にかぎっても死後刊行されたものを含めて20冊あまりにおよぶ詩集を残した。</p> <p>本授業ではユゴーの詩作品の全体像を把握するために、その詩業を亡命前、亡命中(1851-1870)、亡命後に大別したうえで、各詩集の序文や代表的詩篇を取り上げてその特徴を考察するとともに、古典派からロマン派へ、ロマン派から高踏派(パルナス)へと移行するフランス詩の歴史の変遷を踏まえつつ、ユゴー自身の詩風の変容について検討する。</p> <p>本学期では主に亡命前から亡命中にかけての作品を扱う。</p> <p>なお、ユゴーは文学作品だけでなく、デッサン、淡彩画、水彩画なども数多く手がけている。また、フランツ・リスト(1811-1886)、カミーユ・サン＝サーンス(1835-1921)、ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)、ガブリエル・フォーレ(1845-1924)、レイナルド・アーン(1874-1947)をはじめ数多くの作曲家がユゴーの詩に音楽をつけている。授業ではこうしたユゴー自身の絵画作品やユゴーの詩に基づくフランス歌曲もあわせて紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>ユゴーの詩作品の全体像を把握する。</p> <p>亡命前、亡命中、亡命後に大別されるユゴーの詩の作風の変化を、古典派からロマン派を経て高踏派へと移行するフランス詩の歴史の変遷を踏まえて理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2～7回 亡命前の詩集</p> <p>第2回 『オードとバラッド』</p> <p>第3回 『東方詩集』</p> <p>第4回 『秋の木の葉』</p> <p>第5回 『薄明の歌』</p> <p>第6回 『内なる声』</p> <p>第7回 『光と影』</p> <p>第8～13回 亡命中の詩集</p> <p>第8～9回 『懲罰詩集』</p> <p>第10～12回 『静観詩集』</p> <p>第13回 『街と森の歌』</p> <p>第14回 まとめ ユゴーの詩作品の変遷</p>					
フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

第15回 フィードバック 授業中に指示

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（30％）および期末レポート（70％）

【教科書】

プリント等を配布する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヴィクトル・ユゴーの詩作品研究				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス・ロマン主義を代表するヴィクトル・ユゴー (Victor Hugo, 1802-1885) は、『レ・ミゼラブル』の作家、古典派に対するロマン派の勝利を画した「エルナニ合戦」の主導者、あるいはまたナポレオン3世を批判して亡命生活を送った共和政と自由の体現者として知られるが、この国民的英雄にして世界的文豪は、詩、戯曲、小説、評論、旅行記などあらゆるジャンルにわたって歴大かつ多彩な作品を生み出し、詩作品にかぎっても死後刊行されたものを含めて20冊あまりにおよぶ詩集を残した。</p> <p>本授業ではユゴーの詩作品の全体像を把握するために、その詩業を亡命前、亡命中(1851-1870)、亡命後に大別したうえで、各詩集の序文や代表的詩篇を取り上げてその特徴を考察するとともに、古典派からロマン派へ、ロマン派から高踏派(パルナス)へと移行するフランス詩の歴史の変遷を踏まえつつ、ユゴー自身の詩風の変容について検討する。</p> <p>本学期では主に亡命中から亡命後にかけての作品および死後刊行された作品を扱う。</p> <p>なお、ユゴーは文学作品だけでなく、デッサン、淡彩画、水彩画なども数多く手がけている。また、フランツ・リスト(1811-1886)、カミーユ・サン＝サーンス(1835-1921)、ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)、ガブリエル・フォーレ(1845-1924)、レイナルド・アーン(1874-1947)をはじめ数多くの作曲家がユゴーの詩に音楽をつけている。授業ではこうしたユゴー自身の絵画作品や、ユゴーの詩に基づくフランス歌曲もあわせて紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>ユゴーの詩作品の全体像を把握する。</p> <p>亡命前、亡命中、亡命後に大別されるユゴーの詩の作風の変化を、古典派からロマン派を経て高踏派へと移行するフランス詩の歴史の変遷を踏まえて理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2～7回 亡命中・亡命後の詩集</p> <p>第2回 『諸世紀の伝説』第一集</p> <p>第3回 『諸世紀の伝説』第二集</p> <p>第4回 『諸世紀の伝説』第三集</p> <p>第5回 『恐るべき年』</p> <p>第6回 『よいおじいちゃんぶり』</p> <p>第7回 『精神の四方の風』</p> <p>第8～13回 死後刊行の詩集</p> <p>第8回 『サタンの終わり』</p> <p>第9回 『神』</p> <p>第10回 『豎琴の音をつくして』第一集・第二集</p> <p>第11回 『不吉な歳月』</p> <p>第12回 『最後の詩の束』</p>					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

第13回 『大洋』
第14回 まとめ ユゴーの詩作品の変遷
第15回 フィードバック 授業中に指示

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（30％）および期末レポート（70％）

【教科書】

プリント等を配布する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プルースト『75枚の原稿』(1908)を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>マルセル・プルースト(1871-1922)が1908年に執筆した「75枚の原稿(Soixante-quinze Feuilletes)」は、小説『失われた時を求めて』の原型をなす重要文献である。一部がベルナール・ド・ファロワ版『サント＝ブーヴに反論する』(1954)に収録されて以来、長らくその所在が不明であったが、ファロワの死後発見され、2021年、関連する草稿群とともに『75枚の原稿とその他の未刊行草稿(Les Soixante-quinze Feuilletes et autres manuscrits inédits)』と題され、ガリマール社より完全版が刊行された。本授業ではこの原稿の成り立ち、プルースト作品における位置等を解説したあと、着想源、生成過程、文体等に注目しながら多角的に読解することで、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。</p>					
【到達目標】					
<p>文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の文脈に即して読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>授業は以下のプランに即して進められる。 第1回 『75枚の原稿』の概要、生成過程を解説。 第2回～第15回 『75枚の原稿』を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの初期作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品や新聞雑誌等の文献と照合しながら解説を加える。</p>					
【履修要件】					
<p>フランス語文献を読む能力が必要とされる。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>レポート(一回、100点満点、60点以上で合格) 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
【教科書】					
<p>授業中にプリント等を配布する。</p>					
【参考書等】					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
【授業外学修(予習・復習)等】					
<p>授業中に別途指示する。</p>					
(その他(オフィスアワー等))					
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	作家たちのドレフュス事件				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス第三共和政を揺るがしたドレフュス事件(1894-1906)は、フランス文学においても、第一次世界大戦に先立ち20世紀の起点になった出来事として今日にいたるまで活発な議論・研究の対象になっている。本授業ではこの事件に政治参加した作家たちを取り上げ、彼らの作品に現れた事件およびその爪痕を、政治参加、歴史記述、ユダヤ問題、ナショナリズム、記憶、ジェンダー等の観点から分析する。マルセル・ブルーストを中心として、エミール・ゾラ、アナトール・フランス、シャルル・ペギー、ロマン・ロラン、ジュリアン・バンダ、アラン、ナショナリスト・反ユダヤ主義の作家たち、ユダヤ人作家たちの作品を、政治的コンテクスト、イデオロギー、作品の生成過程、文体、ジャンル等に注目しながら多角的に読解することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>文学作品を、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業は講義形式と講読形式を組み合わせで行う。講読パートではテキストをフランス語原典により精読し、適宜他の作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品等の文献と照合しながら解説を加える。</p> <p>以下のプランにしたがって進める。</p> <p>第1・2回 イントロダクション(ドレフュス事件の歴史、ドレフュス派および反ドレフュス派の代表的な作家たち、ドレフュス事件を扱った代表的文学作品について解説)</p> <p>第3回 シャールル・ペギーとドレフュス事件</p> <p>第4回 ロマン・ロラン、ジュリアン・バンダ、アランとドレフュス事件</p> <p>第5回 ユダヤ人作家とドレフュス事件、シオニズム(ベルナルル・ラザール、ジャン＝リシャール・ブロック、アルマン・リュネル等)</p> <p>第6回 ナショナリスト、反ユダヤ主義の作家たち(モーリス・バレス、エドゥアール・ドリュモン、アクション・フランセーズ等)</p> <p>第7回~15回 ブルーストとドレフュス事件(『ジャン・サントウイユ』から『失われた時を求めて』まで)</p>					
[履修要件]					
<p>フランス語文献を読む能力が必要とされる。</p>					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート(一回、100点満点、60点以上で合格)到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス16世紀詩研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義はフランス16世紀の詩を専門的に扱うものであるが、同時に広くフランス語詩に関心をもつ人、そしてまたフランス語による宗教文学に関心を持つ人にも開かれている。</p> <p>16世紀はフランス詩の大きな変革の時代であり、sonnet(ソネ)やode(オード)といった、イタリアや古代ギリシア・ローマの詩から導入された形式や題材を用いて多くの作品が作られた。その一方で、この時代が聖書を中心とした宗教テキストの原典からの翻訳が最も盛んに行われた時代であり、とりわけ旧約聖書の詩篇Psaumesのテキストの翻訳・翻案の黄金時代であったことも忘れてはならない。宗教改革が進展する中で、改革派側そしてカトリック側の優れた詩人たちが詩篇の翻訳や翻案に取り組んだ。その多くは、当時の古典語学や聖書文献学の研究の最新の知見を取り入れながら、また当時の神学的潮流に配慮しながら、フランス語詩が作り上げてきた叙情性・音楽性と旧約聖書世界の聖性を可能な限り融合させようとする試みであった。</p> <p>16世紀の前期から中期にかけて詩人クレマン・マロとテオドール・ド・ベーズによってなされた詩篇訳は、カルヴァン派を代表する詩篇集としてしばしば楽譜を付して出版され広く歌われたし、中期以降はジャン＝アントワヌ・ド・バイフ、フィリップ・デポルト、ブレイズ・ド・ヴィジュネールといった詩人たちによって多彩な韻律形式が試みられて独自の翻訳・翻案が進められただけでなく、作曲家たちとの共同制作も盛んに行われた。本講義では、この16世紀フランス詩篇翻訳・翻案の豊かな世界を、具体的なテキストを精読しながら、詩篇をめぐる文献学的・神学的論争、さらには詩論・音楽論に関する当時の資料を適宜参照しつつ論じていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>16世紀フランス詩についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを後の時代のフランス詩、また同時代の他のヨーロッパ諸語の詩と比較して考察することができるようになる。フランス詩法の基礎的な知識、現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法に関する基礎知識、さらにテキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、個々の詩作品をより正確にそしてより深く読み込む力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	フランス16世紀詩についてのイントロダクション				
第2回	フランスにおける旧約聖書詩篇の翻訳：古典学と聖書文献学				
第3回	クレマン・マロとベーズの詩篇訳(1)				
第4回	クレマン・マロとベーズの詩篇訳(2)				
第5回	クレマン・マロとベーズの詩篇訳(3)				
第6回	改革派の詩篇と音楽				
第7回	バイフの詩篇訳(1)				
第8回	バイフの詩篇訳(2)				
第9回	バイフの詩篇訳(3)				
第10回	フィリップ・デポルトの詩篇訳(1)				
フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

- 第11回 フィリップ・デポルトの詩篇訳 (2)
第12回 ヴィジュネールの詩篇訳 (1)
第13回 ヴィジュネールの詩篇訳 (2)
第14回 ヴィジュネールの詩篇訳 (3)
第15回 新たな時代の詩篇へ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 (40%) と学期末のレポート (60%) で、成績を評価する。
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

【教科書】

教材プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ルソー『孤独な散歩者の夢想』における自己表象				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義においては、ジャン＝ジャック・ルソー(1712-1778)の最晩年の作品として知られる『孤独な散歩者の夢想』を精読する。『夢想』はルソーのいわゆる自伝三部作のひとつだが、わたしたちが通常思い浮かべる「自伝」とは異なり、時系列的に自己の生涯を物語るといった形態をとっていない。それでは、「第一の散歩」から「第十の散歩」までの断片的なこのテキスト群で、彼は自分のことをどのように読者に提示しようとしているのだろうか。本講義では、必要に応じて『告白』や『対話』といったルソーのほかの自伝的作品を参照しつつ、また『夢想』のなかでひととき印象的に描かれる他者との関わり(の挫折)といった主題に注目しつつ、この自己表象の問題を考察する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のフランス語、および当時の社会的・政治的背景に馴染む。 ・フランスにおける自伝の歴史について理解する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション(1): 授業の概要、『夢想』の説明、今後の進め方				
第2回	イントロダクション(2): ルソーおよび自伝作品についてのレクチャー				
第3回	『夢想』読解(1): 第一の散歩				
第4回	『夢想』読解(2): 第二の散歩				
第5回	『夢想』読解(3): 第三の散歩				前半
第6回	『夢想』読解(4): 第三の散歩				後半
第7回	『夢想』読解(5): 第四の散歩				前半
第8回	『夢想』読解(6): 第四の散歩				後半
第9回	『夢想』読解(7): 第五の散歩				
第10回	『夢想』読解(8): 第六の散歩				
第11回	『夢想』読解(9): 第七の散歩				前半
第12回	『夢想』読解(10): 第七の散歩				後半
第13回	『夢想』読解(11): 第八の散歩				
第14回	『夢想』読解(12): 第九の散歩				
第15回	『夢想』読解(13): 第十の散歩				
[履修要件]					
特になし					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

講義での発表（40％）および期末レポート（60％）によって評価する

[教科書]

授業中に指示する
開講時に指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前に1 - 2頁の訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。

（その他（オフィスアワー等））

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ディドロ『俳優についての逆説』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義においては、ドゥニ・ディドロ(1713-1784)の著した演劇論として名高い『俳優についての逆説』を精読する。『百科全書』の編纂者として知られるディドロだが、彼は哲学者であるのみならず、演劇人としての顔も持っており、ブルジョワ演劇という新たな演劇ジャンルを創始した人物でもあった。さらに、ドラマトゥルグというよりもさらに広い意味で、彼は対話体一般の名手でもあった。『俳優についての逆説』のみならず、『ラモーの甥』『ブーガンヴィル航海記補遺』『ダランベールの夢』など、彼の名作のなかには対話体形式をとるものが多い。軽妙洒脱な会話のなかで二人の人物が議論を戦わせるこのスタイルは、彼の思考の運びをよく示しているものでもある。講義では、この対話のダイナミズムに注意を向けながらテキストを丹念に読んでいきたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のフランス語に馴染む。 ・ディドロのテキストの特質、とりわけ対話体というスタイルに賭けられていたものについて理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(1) : 授業の概要、『俳優についての逆説』の説明、今後の進め方 第2回 イントロダクション(2) : ディドロおよび彼の諸作品についてのミニレクチャー 第3回-第15回 『俳優についての逆説』読解 文庫(GF Flammarion)版でおよそ70ページほどの短いテキストなので、なるべく学期内に読み切ることを目指して進める。</p>					
[履修要件]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語文法をひと通り習得していること。 ・中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。 					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表(40%)および期末レポート(60%)によって評価する。					
[教科書]					
テキストはプリントして配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前に1 - 2頁の訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。

（その他（オフィスアワー等））

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 73645 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Expression, culture and society in French				
[授業の概要・目的]					
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture and to enhance their conversational ability in the French language. It will address cultural, social, and political issues. Course materials will include articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills, and debates and other speaking exercises will be conducted during classes.</p> <p>(2) This course is partially built on a project-based pedagogy. The class will undertake an intercultural mediation project.</p>					
[到達目標]					
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentation skills - gain confidence and experience in public speaking 					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (Week 1) presenting the course goals and constituent exercises, we will debate on various themes (i.e., social and political issues in French culture and society, French cinema, and French contemporary literature) using written and visual materials (Weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total: 14 classes and 1 feedback session (Week 15).</p>					
[履修要件]					
<p>The course is open to all students who can speak and understand enough French to read the materials and participate in discussions.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their thoughts while also listening carefully to others and asking questions. The final grade largely depends on active class participation as well as on individual investment in the class project.</p>					
[教科書]					
<p>使用しない</p> <p>The instructor will provide all the reading materials. However, students are expected to bring a notebook to take notes during lectures, as well as a portfolio to collect and store all documents.</p>					
----- フランス語学フランス文学(演習) (2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Occasionally, students may be required to complete homework, such as reading, watching a movie, or completing an assignment for assessment.

(その他(オフィスアワー等))

Please arrange appointments directly with the lecturer.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学170

科目ナンバリング	G-LET21 73645 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Expression, culture and society in French				
[授業の概要・目的]					
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture while increasing their conversation ability. It will address cultural, social and political issues. Various documents will be used, such as articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>(2) This course is partially built on project-based pedagogy. The class conducts an intercultural mediation project.</p>					
[到達目標]					
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentative skills - gain confidence and experience in public speaking 					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes (i.e. social and political issues in French culture and society, French cinema, French contemporary literature), through written and visual documents (weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts, but also listening carefully to others and asking questions. The final grade mostly depends on this active participation during class and it also depends on the individual investment in the class project.</p>					
[教科書]					
<p>使用しない</p> <p>The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to</p> <p style="text-align: right;">フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く</p>					

フランス語学フランス文学(演習)(2)

take notes during each lecture, as well as a portfolio to collect the documents.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Occasionally, some homework may be required, such as preparing a reading, watching a movie or achieving an assessment.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 7M203 SJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Théories et méthodes académiques dans les études littéraires				
[授業の概要・目的]					
<p>Au premier semestre 2024, ce séminaire tentera d'éclairer la question suivante : la biographie de l'écrivain est-elle un outil pertinent pour analyser son œuvre dans les études littéraires ?</p> <p>En France, Charles Mauron imagine une méthode dite "psychocritique" pour analyser les œuvres de Mallarmé, puis de Racine. Alors que celui-ci s'appuie sur la psychanalyse, le théoricien marxiste Lucien Goldmann invite quant à lui à plutôt considérer les facteurs structurels et sociologiques : il met au point une méthode sociocritique. Toutefois, depuis la publication posthume de l'essai Contre Sainte-Beuve de Marcel Proust (1954), les approches académiques qui entendent éclairer l'œuvre littéraire à la lumière de la vie personnelle de l'auteur font l'objet d'une suspicion, au point que Roland Barthes proclame la "mort de l'auteur"(1967), tandis que Michel Foucault réduit l'auteur à une "fonction"(1969). Mais aujourd'hui, les approches en études de genre conduisent à rouvrir ce dossier, en particulier pour les auteurs encore vivants et reconnus coupables de violence à l'égard des femmes. Alors peut-on et faut-il dissocier l'œuvre de l'auteur ?</p>					
[到達目標]					
Ce séminaire a pour but d'initier les étudiants aux méthodes académiques dans le champ littéraire en France. Il a également pour objectif d'accompagner les étudiants dans la préparation de leur mémoire de recherche.					
[授業計画と内容]					
<p>Chaque séance commence par un temps de discussion ouverte sur l'avancement des mémoires : les étudiants peuvent librement poser des questions, demander des conseils, faire part des obstacles qu'ils rencontrent.</p> <p>Le séminaire prend ensuite la forme d'un atelier de lecture de textes théoriques en français. Chaque semaine, les étudiants arrivent en ayant lu un chapitre d'un essai ou un article. L'objectif de la séance est d'en faire émerger les principaux arguments et d'en discuter ensemble la pertinence et les limites. Le séminaire s'appuie sur la discussion collective et bienveillante qui permet à chacun d'apprendre l'un de l'autre.</p>					
[履修要件]					
Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui souhaitent trouver un espace pour discuter de leurs recherches et qui souhaitent développer leur connaissance du champ académique français. Le cours sera dispensé intégralement en français.					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Chaque étudiant rédigera un compte-rendu en français d'un article ou d'un essai du champ académique japonais en lien avec le thème du séminaire, dans lequel il résumera les arguments et les confrontera aux</p> <p style="text-align: right;">----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----</p>					

フランス語学フランス文学(演習)(2)

textes vus pendant le semestre.

【教科書】

使用しない

Un livret sera fourni au début du semestre par la professeure.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres théâtrales. Environ 8 à 15 pages seront données à la lecture chaque semaine.

(その他(オフィスアワー等))

Rendez-vous possible sur demande.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学172

科目ナンバリング	G-LET21 7M203 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Théories et méthodes académiques dans les études littéraires				
[授業の概要・目的]					
<p>Au deuxième semestre 2024, ce séminaire visera à initier les étudiants à la méthode académique française de la dissertation. Exercice aussi canonisé que redouté, la dissertation fait en France, dans les études littéraires, l'objet d'un long apprentissage qui commence dès le lycée et se poursuit jusqu'à l'agrégation. D'abord, nous découvrirons les étapes préparatoires qui demandent une connaissance d'extraits de textes. Puis nous verrons comment développer un sujet d'examen avec arguments structurés et exemples. Au cours du semestre, nous commencerons par traiter des sujets simples et progressivement nous étudierons des sujets plus exigeants.</p>					
[到達目標]					
<p>Ce séminaire a pour but d'initier les étudiants aux méthodes académiques dans le champ littéraire en France. Il a également pour objectif d'accompagner les étudiants dans la préparation de leur mémoire de recherche.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Chaque séance commence par un temps de discussion ouverte sur l'avancement des mémoires : les étudiants peuvent librement poser des questions, demander des conseils, faire part des obstacles qu'ils rencontrent.</p> <p>Puis la séance se poursuit par l'examen d'un sujet de dissertation, la lecture de textes préparatoires ou l'entra#238nement à la rédaction académique en français.</p>					
[履修要件]					
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui souhaitent trouver un espace pour discuter de leurs recherches et qui souhaitent développer leur connaissance du champ académique français. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Chaque étudiant rédigera une dissertation, qui pourra être choisie parmi les sujets abordés en classe.</p>					
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

Un livret sera distribué en début de semestre par la professeure.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres théâtrales.

(その他(オフィスアワー等))

Rendez-vous possible sur demande.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学173

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi				
[授業の概要・目的]					
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。今年度の前期は、前年度に引きつづいてタッソの対話作品の一つ『使者』“ Il messaggiero ”を精読しながら、天上の存在と地上の事物、精霊の役割、愛の性質などについてのタッソの見解と、彼の散文の論理的構成を検証します。					
[到達目標]					
イタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。					
[授業計画と内容]					
以下の予定で授業を進めていきます。 初回：イントロダクション。 第2回～14回：“ Il messaggiero ”の読解と考察 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
イタリア語文法を学んでいること。					
[成績評価の方法・観点]					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
[教科書]					
プリント配布。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介します。					
[授業外学修(予習・復習)等]					
原典の精読に基づく授業なので、自分なりに内容を理解できるまで予習をしましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学174

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi				
【授業の概要・目的】					
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクアート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。後期の授業では、前期にひきつづいて“ Il messaggiero ”を精読しながら、16世紀のイタリアのオーソドックスな世界観とタッソの散文の論理性を検証します。					
【到達目標】					
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めていきます。					
初回：イントロダクション。					
第2回～14回：“ Il messaggiero ”の読解と考察					
第15回 フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を学んでいること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原典の精読に基づく授業なので、自分なりにテキストの内容を把握できるまで予習をしましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学175

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana. "Io nel pensier mi fingo": immaginazione e poesia nell'opera di Giacomo Leopardi				
【授業の概要・目的】					
<p>Il corso di Letteratura italiana di quest'anno sarà inaugurato da un modulo monografico su Giacomo Leopardi. Dopo una breve introduzione al contesto storico-culturale ottocentesco, il seminario prenderà in esame la biografia e l'opera dell'autore. Leggeremo e commenteremo alcuni dei più importanti "Canti", con una particolare attenzione alle fonti, antiche e moderne, della poesia leopardiana. Esamineremo inoltre passi particolarmente significativi delle "Operette morali" e dello "Zibaldone". Sarà così possibile indagare il rapporto tra poesia e fantasia, imitazione e immaginazione, studiando uno dei grandi classici della letteratura italiana e quello che, con una felice definizione critica, è stato descritto come un 'pensiero poetante'.</p>					
【到達目標】					
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori poeti italiani, Giacomo Leopardi, e sapranno contestualizzarle nell'ambito della letteratura dell'Ottocento. Leggeranno e studieranno i Canti, mettendo a confronto i diversi commenti editi. Conosceranno gli elementi centrali del pensiero leopardiano e della sua speculazione filosofica. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>Letteratura italiana. "Io nel pensier mi fingo": immaginazione e poesia nell'opera di Giacomo Leopardi</p> <p>1: Introduzione e contesto storico-culturale.</p> <p>2-15: Giacomo Leopardi, analisi di brani scelti da: "Canti", "Operette morali" e "Zibaldone".</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
【履修要件】					
<p>È richiesto un buon livello di italiano.</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.</p>					
【教科書】					
<p>La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.</p>					
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

G. Leopardi, Poesie e Prose, a cura di R. Damiani e M. A. Rigoni, Milano, Mondadori, 2003.

G. Leopardi, Zibaldone di pensieri, a cura di R. Damiani, Milano, Mondadori, 2014.

Lessico leopardiano, a cura di N. Belluci, F. D'Intino, S. Gensini, Roma, Sapienza Universita' Editrice, 2014-2020 (consultabile online).

L. Blasucci, Leopardi e i segnali dell'infinito, Bologna, Il Mulino, 2001.

A. Prete, Il pensiero poetante: saggio su Leopardi, Milano, Feltrinelli, 2021.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verra'comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana. Inseguendo Angelica: percorsi attraverso l'"Orlando furioso"				
[授業の概要・目的]					
<p>Il corso di Letteratura italiana del secondo semestre vertera' sul poema epico di Ludovico Ariosto: l'"Orlando furioso". Dopo una introduzione e una contestualizzazione storica e biografica, il seminario prendera' in esame alcuni passi significativi, che verranno letti e commentati in classe. Una parte del corso sara' dedicata alla fortuna, letteraria e iconografica, del "Furioso" attraverso i secoli.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno alcuni dei passi piu' memorabili dell'"Orlando furioso". Acquisiranno un ' autonoma capacita' di analisi del testo poetico italiano, con particolare attenzione agli aspetti metrico-stilistici. Rifletteranno sulla fortuna del poema in un ' ottica transnazionale e interdisciplinare.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Letteratura italiana (II semestre). Inseguendo Angelica: percorsi attraverso l'"Orlando furioso".</p> <p>1-2: Introduzione e contestualizzazione. 3-10: L'"Orlando furioso". Analisi e commento di testi rappresentativi. 11-15: Sulla fortuna, letteraria e artistica, del poema ariostesco.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.					
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

L. Ariosto, Orlando furioso, a cura di C. Segre, Milano, Mondadori, 2022.

Galassia Ariosto. Il modello editoriale dell'Orlando furioso dal libro illustrato al web, a cura di L. Bolzoni, Roma, Donzelli, 2017.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	"Nel solco dell'emergenza". La poesia in tempo di guerra				
[授業の概要・目的]					
<p>Il corso di Letteratura italiana contemporanea del primo semestre prendera' in esame le opere di alcuni dei piu' importanti poeti italiani dal Novecento a oggi, con particolare attenzione al tema chiave: la poesia in tempo di guerra. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX e XXI secolo, si procedera' a una lettura dei testi poetici. Di ciascun autore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Verranno dunque commentati alcuni dei componimenti piu' significativi, con un' attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci piu' intense della letteratura italiana contemporanea, sara' possibile riflettere sul rapporto tra letteratura e conflitto nell' eta' contemporanea e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la letteratura italiana contemporanea e il suo contesto storico-culturale. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria. Acquisiranno una buona capacita' di analisi del testo poetico, padroneggiando le piu' importanti figure metriche e retoriche.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Letteratura italiana contemporanea (I semestre). Nel solco dell'emergenza. La poesia in tempo di guerra.</p> <p>1-2: La poesia in tempo di guerra: introduzione.</p> <p>3-15: Lettura e commento di testi poetici rappresentativi.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.					
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Poeti italiani del Novecento, a cura di P.V. Mengaldo, Milano, Mondadori, 2021.

Dopo la lirica, Poeti italiani 1960-2000, a cura di E. Testa, Torino, Einaudi, 2013.

P.G. Beltrami, Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana, Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, Sulla poesia moderna, Bologna, Il Mulino, 2021.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学178

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana contemporanea. Eugenio Montale e la poesia italiana del secondo dopoguerra				
[授業の概要・目的]					
<p>Dopo la ricognizione sulla poesia italiana contemporanea avviata nel primo semestre, il corso si concentrerà ora su uno dei massimi esponenti di questa stagione letteraria: il premio Nobel Eugenio Montale. Dopo un breve profilo biografico, il seminario prevede l'analisi di alcuni importanti testi di Montale, con specifico riferimento al "verso" della sua opera poetica, da "Satura" ad "Altri versi". Nella sua varietà tematico-stilistica, la produzione montaliana rappresenta un caso di studio particolarmente interessante e stimolante per concludere il corso annuale sulla poesia italiana del Novecento.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e l'opera di uno dei classici del Novecento italiano. Esamineranno una selezione di testi tratti dalle raccolte poetiche montaliane, analizzandone opportunamente temi e stile. Familiarizzeranno con l'edizione critica dell'"Opera in versi", esempio straordinario nel panorama della filologia del Novecento, di collaborazione tra l'autore vivente e i suoi editori, e con i principali commenti alle raccolte. Impareranno a interpretare il testo poetico, chiarendone i riferimenti culturali, individuandone le fonti, studiandone gli usi linguistici e metrico-stilistici.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Letteratura italiana contemporanea (II semestre). Eugenio Montale e la poesia italiana del secondo dopoguerra</p> <p>1-2: Introduzione e profilo biografico di Eugenio Montale</p> <p>3-15: L'Opera in versi. Lettura e commento dei testi</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
<p>授業中に指示する</p> <p>La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni</p>					
イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

E. Montale, L ' opera in versi, a cura di R. Bettarini e G. Contini, Torino, Einaudi, 1980.

E. Montale, Tutte le poesie, a cura di G. Zampa, Milano, Mondadori, 2021.

E. Montale, Antologia da " Altri versi " , Prefazione di A. Casadei, Introduzione, selezione e commento a cura di I. Duretto, Pisa, ETS, 2017.

L. Blasucci, Gli oggetti di Montale, Milano, Ledizioni, 2010.

P.V. Mengaldo, L ' opera in versi di Eugenio Montale, in La tradizione del Novecento, IV serie, Torino, Bollati-Boringhieri, 2000, pp. 66-113.

[授業外学修 (予習 ・ 復習) 等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate delle letture da svolgere a casa.

(その他 (オフィスアワー 等))

L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学179

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペトラルカの抒情詩				
【授業の概要・目的】					
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。					
【到達目標】					
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めます。					
初回：イントロダクション					
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで、作品の内容を検討していきます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学180

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペトラルカの抒情詩				
【授業の概要・目的】					
前期につづいて、フランチェスコ・ペトラルカの抒情詩を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。					
【到達目標】					
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めます。					
初回：イントロダクション					
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認しながら、作品の内容を検討していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの校訂作業についても検証します。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学181

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 外国語学部 准教授 内田 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19-20世紀のイタリア詩				
【授業の概要・目的】					
20世紀のイタリア詩の方向性を決めた2人の詩人、パスコリとダンヌンツィオの作品を中心に読みます。彼らが参照した19世紀の詩人(例えばレオパルディやカルドゥッチなど)の影響を確認しながら、19-20世紀のイタリア詩の大きな流れを把握します。					
【到達目標】					
19-20世紀のイタリア詩を正確に読み、文学史の中に位置づけながら学術的に評価できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回：イントロダクション					
第2-14回：前期は叙情詩的な、パスコリ『カステルヴェッキオの歌』(1903年)、ダンヌンツィオ『アルキュオネー』(1903年)を中心に、19-20世紀のイタリア詩を読みます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語の文法を一通り理解していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業への参加度、小テスト、小レポート)					
【教科書】					
プリントを配布します。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分なりの解釈や分析を準備して、授業に臨んでください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学182

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 外国語学部 准教授 内田 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19-20世紀のイタリア詩				
【授業の概要・目的】					
20世紀のイタリア詩の方向性を決めた2人の詩人、パスコリとダンヌンツィオの作品を中心に読みます。彼らが参照した19世紀の詩人(例えばレオパルディやカルドゥッチなど)の影響を確認しながら、19-20世紀のイタリア詩の大きな流れを把握します。					
【到達目標】					
19-20世紀のイタリア詩を正確に読み、文学史の中に位置づけながら学術的に評価できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回：イントロダクション					
第2-14回：後期は叙事詩的な、パスコリ『饗宴詩篇集』(1904年)、ダンヌンツィオ『マイア』(1903年)を中心に、19-20世紀のイタリア詩を読みます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語の文法を一通り理解していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業への参加度、小テスト、小レポート)					
【教科書】					
プリントを配布します。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分なりの解釈や分析を準備して、授業に臨んでください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	准教授 村瀬 有司 特定准教授 Ida Duretto	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語およびイタリア語
題目	論文演習				
[授業の概要・目的]					
研究論文作成をサポートする授業です。問題の設定、論証の進め方、論述の方法、また参考文献リストの表記や註・引用の仕方まで、実際の作業に即して学术论文の在り方を学びます。					
[到達目標]					
修士論文提出年度に当たる参加者にとっては、これを完成させることが授業の目標となります。修士1回生は、この授業を通じて修士論文のテーマを絞り込むことが課題となります。また博士後期課程の参加者は、研究テーマの考察を深めて一年に一本のペースで論文にまとめること、博士論文の構想を固めること、これを完成に導くことが授業の目標となります。					
[授業計画と内容]					
初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。					
2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。					
4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 論文の計画段階から各自の研究テーマについて順次発表をします。他の参加者には、積極的に意見を述べることで発表者の論文作成を支援することが求められます。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学术论文の形式・体裁についても再確認します。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を紹介する予定です。学会発表などを予定している参加者は、その予行演習として授業の場を活用することもできます。					
15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点：発表の内容、授業内での発言などに基づく。					
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者は事前に、レジュメ・資料などを研究室メンバー宛てにメール送信しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

原則的には隔週開講の授業ですが、希望があればこれに限定されることなく発表の場を設定します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学184

科目ナンバリング		U-LET12 11502 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国哲学史講義()				
[授業の概要・目的]					
中国哲学の特徴的な考え方や、「気」や「理」などの中国哲学の基本概念を講義し、中国哲学ならびに中国文化への理解を深める。					
[到達目標]					
中国哲学における「気」、「性」、「道」、「理」などの基本的諸概念の持つ意味を理解することにより、中国文化のみならず、人類の文化全体を考えるための基礎的な知識を身につける。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 中国哲学とは何か 2 中国哲学の特徴的な考え方について 3 「気」について 一 気思想概観(前編) 4 「気」について 二 気思想概観(後編) 5 「気」について 三 気の死生観(前編) 6 「気」について 四 気の死生観(後編) 7 「理」について 一 理思想概観 8 「理」について 二 太極図について 9 「性」について 一 孟子と荀子の性説 10 「性」について 二 朱子の性説 11 「道」について 一 儒家の考える道 12 「道」について 二 道家の考える道 13 「無」について 14 ふたたび「中国哲学とは何か」 15 試験及びフィードバック(詳細は授業時に解説) 					
[履修要件]					
同一科目コードの講義科目を複数履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。					
[成績評価の方法・観点]					
学期末試験による(100パーセント)					
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
漢文資料などは授業時に適宜コピーして配布します。

[参考書等]

(参考書)
島田虔次『朱子学と陽明学(岩波新書)』(岩波書店) ISBN:4004120284
その他は授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 11504 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国哲学史講義()				
[授業の概要・目的]					
中国の目録学について概要を示すことから始めて、中国哲学史上の重要な書物について、経部と子部の書物を中心にそれぞれの内容について解説し、その書物が学問全体においてもつ位置についての知識を深める。					
[到達目標]					
目録学の概要を学ぶことにより、目録学が持つ「学術史」としての意味、目録学の存在意義を理解するとともに、中国の経部書(儒教の経書に関わる書物群)、子部書(諸子百家と、いわゆる技術書とされるもの)といった、中国哲学が主に扱う分野の書物について、それぞれの書物がどういう経緯で作られ、いったい何が書かれているか、さらには、学術全体の中でその書物がどのような位置にあるのかなどを知り、中国学を学ぶ上で基礎的な知識を獲得する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 目録学とは何か 2 目録の歴史 一 焚書と学術の分類 3 目録の歴史 二 漢書藝文志について(前編) 4 目録の歴史 三 漢書藝文志について(後編) 5 子部の分類の概観 6 子部という分類が持つ特徴について 7 類書の概要とその問題点 8 道家類と釈家類について 9 経部の分類の概観 10 易 11 書と詩 12 礼 13 春秋 14 四書と小学書 15 フィードバック(詳細は授業時に解説する) 					
[履修要件]					
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。					
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末試験（100パーセント）

[教科書]

使用しない
資料はプリントして配布します。

[参考書等]

（参考書）
野間文史『五経入門 中国古典の世界(研文選書)』（研文出版）ISBN:4876363749
その他は授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 21550 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「孟子」の思想を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の最大の目的は、漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることである。そのため前期の中盤までは、漢文とその読み方について概説をする。</p> <p>概説の後には、実際の漢文読解の段階に進む。今年度はテキストに「孟子」の代表的な注釈書である清・焦循『孟子正義』を用いる。孟子については性善説など高校の授業でその思想に触れたことのある人も多いだろう。本授業では、原典を自分で読むことを通じて、孟子の思想と向き合ってみよう。その際、清朝の焦循が著した孟子の代表的な注釈書である『孟子正義』に導かれつつ読む。中国古典の読解に欠かせない「注釈」の意義を実感し、またその形式に慣れてもらうためである。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は前期を中心に概説し、また原典の読解も、履修者のペースに合わせて進めるので、漢文読解の経験、専攻分野を問わず、様々な興味関心から多くの学生の参加を期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>最初のうちは講義形式で進める。時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう場合もある。</p> <p>焦循『孟子正義』を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画、発言を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢籍に触れる：漢籍の歴史、形態について 3・4 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳について 5・6 漢文の読み方：典故について 7・8 漢文の読み方：注釈について 9 『孟子』とその注釈：その成立と趙岐、朱熹、焦循らによる注釈について 10~30 『孟子正義』の読解と討議(梁恵王章句上) 					
----- 中国哲学史(講読)(2)へ続く -----					

中国哲学史(講読)(2)

フィードバックの方法は授業時に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11602 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)				
[授業の概要・目的]					
<p>ヴェーダからウパニシャッドに至るヴェーダ聖典に触れ、古代インドの宗教・思想の展開、古代インド文化・社会のあり方について、学び、考える。古代インドの宗教や歴史について詳しく解説を行うが、それらの知識を得ることだけでなく、当時の宗教文献に向き合い、作者の宗教体験や世界観に迫る体験を、参加者と共に味わいたい。原典の日本語訳を精読し、まず最低限必要な解説をするが、その後は個人個人が文献と向き合う時間を取り、授業の最後にレポートとして提出してもらう。次の授業でそれらのレポートを基にして、様々な視点での解釈を互いに学びつつ、文献への理解を深めていく。古代インドの宗教や歴史を学ぶことを目的の一つとするが、それを広く古代インドを超えて世界を理解することに生かせる視点を養うことが、この授業の重要な目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>ヴェーダ文献およびその思想、社会的背景についての基本的な知識を得、古代文献の研究における様々な課題、難題について、理解する。思想や社会を研究する上で、様々な視点を持って研究対象を見ること、自分なりの問いを立てることを学ぶ。文献に書かれたことから思想や文化・社会を読み解く力、さらにその上に想像力を発揮する力も養いたい。古代インドに見られる様々な思想的、社会的事象を普遍的に捉え、古代インドを超えて広く世界全体を見る視点として生かすことを学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	古代インドの歴史と言語				
第2回	インド・アーリア人とヴェーダの宗教				
第3回	リグヴェーダにおける自然神への崇拜				
第4回	社会生活を反映したリグヴェーダの讃歌				
第5回	ヴェーダ期社会の「異文化的要素」とアタルヴァヴェーダ				
第6回	アタルヴァヴェーダの呪術(1)				
第7回	アタルヴァヴェーダの呪術(2)				
第8回	ヤジュルヴェーダと儀礼の発展				
第9回	ヤジュルヴェーダの呪術的儀礼				
第10回	アタルヴァヴェーダの哲学的讃歌(1)				
第11回	アタルヴァヴェーダの哲学的讃歌(2)				
第12回	ウパニシャッド哲学：輪廻と梵我一如(1)				
第13回	ウパニシャッド哲学：輪廻と梵我一如(2)				
第14回	マヌ法典に見られる哲学思想				
第15回	古代インドの宗教・哲学思想の発展と社会の変化について：まとめ				
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回授業の際に書く短いレポートを、総合して評価する。

【教科書】

必要な資料は授業中に配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は特に必要ない。毎回の授業で、その日の題材について考えを深め、それを短いレポートに書いて提出する。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶために、サンスクリット文献史(叙事詩以降)も受講することが望ましい。また、インド思想のその後の展開を知るためには、インド哲学史を受講することをすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11604 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット文献史(叙事詩以降)				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では、インド二大叙事詩『マハーバーラタ』(「偉大なるバラタ族の物語」)と『ラーマヤナ』(「ラーマの勲」)以降に作られたサンスクリット文献について、分野別とその歴史的背景と内容を多角的な視点をもって概説する。これを通じて、インド古代・中世の思想、文化、社会の基本的枠組みを学び、理解することを授業の目的とする。</p>					
【到達目標】					
<p>インド古代・中世の思想、文化、社会を形づくる基本的枠組みを学び、理解することにより、関心ある主題に関して自学する能力が育まれることが期待される。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 サンスクリット文献全般と授業で扱う分野の概説 第2回 二大叙事詩の内容と特徴 第3回 二大叙事詩の成立過程 第4回 叙事詩成立の歴史的背景 第5回 叙事詩における基本的な世界観 第6回 ダルマと人生の四大目的(法、実利、愛、解脱) 第7回 法典文献と政治学文献 第8回 ヒンドゥー教の形成：一神教信仰の成立とヒンドゥー神話 第9回 古伝承文献(プラーナ)の内容概観・形成史 第10回 プラーナの世界観・時間観 第11回 インドにおける説話：動物寓話と大説話 第12回 サンスクリット美文学(カーヴィヤ)のジャンル・内容概観 第13回 サンスクリット詩の諸特徴 第14回 演劇と美的体験の理論 第15回 全体の総括</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(70%)と期末レポート(30%)により評価する。					
【教科書】					
<p>教科書は特に使用しない。参照すべき資料は、授業内容に合わせて適宜紹介され、PandAにアップロードされる。叙事詩と説話、カーヴィヤについては、世界歴史大系「南アジア史1：先史・古代</p> <p style="text-align: right;">系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く</p>					

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

(山崎元一・小西正捷編) 山川出版社 (2007年) の「第9章：文学史の流れ」を主たる教材とする。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

各ジャンルごとの参考文献リストをPandAにアップロードする。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は必要ない。授業中に配布する資料などを使って、講義内容の復習をすること。また、平常点評価と授業の双方向性を保つために、ほぼ毎回授業のポイントや質問などをPandAの課題にアップロードしてもらう(要半時間から1時間程度)。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶためには、サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)、インド哲学史(前期と後期)も合わせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11702 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	History of Indian Philosophy A				
[授業の概要・目的]					
<p>This class aims to give an overview of the most influential traditions of Indian philosophical thought and to present brief summaries of the main doctrines as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義では、インドの哲学的思想において最も影響力をもっていた哲学諸派を概観します。授業では、それぞれの学派が伝承してきた主な原典を参照しつつ、それぞれの教義について見ていきます。それによって、それらの諸伝統を形成している思想の歴史的発展と、諸伝統の間で交わされた主要な議論について考えていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA(ティーチング・アシスト)による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や思想的立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week 1. Introduction. Is philosophy the same as tradition, darsana or tarka? How do we study it? Can we compare it to other traditions?</p> <p>Week 2. The Vedas and Upanishads as the source. The argument of infallible tradition. The counter-argument of omniscient founders.</p> <p>Week 3. The grammarians and the language of philosophy. The style and content of Patanjali's Great Commentary. The Vakyapadiya and linguistic monism.</p>					
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 4. Abhidharma and the conceptual vocabulary of Buddhist thought.

Week 5. Yogachara idealism. Phenomenological and ontological emptiness.

Week 6. Nyaya. Knowledge and realism. Liberation through knowledge.

Week 7. Vaisheshika categorization. Prasastapada.

Week 8. Samkhya dualism. The Samkhyakarika and the Yuktidipika.

Week 9. Yoga analysis of mental processes. The Yogasutra and its commentaries.

Week 10. Mimamsa hermeneutics. Kumarila and Prabhakara.

Week 11. Advaita Vedanta. Shankara and his followers

Week 12. Visistadvaita and Dvaita Vedanta. Theistic interpretations. Ramanujan and Madhva.

Week 13. Shaiva Siddhanta and Isvarapratyabhijna. Shaiva dualism and non-dualism

Week 14. Navya Nyaya. The Tattvacintamani and its influence on all schools of thought.

Week 15. Review.

第1週：序章。インド「哲学」は、インド思想における「ダルシャナ」や「タルカ」といった伝統と同じか？また、どのようにしてそれを学ぶのか？あるいは、他の伝統と比較することは可能なのか？

第2週：インド思想の資料としてのヴェーダとウパニシャッドについて。「無謬」についての伝統的な議論について。全知者としての創造者に対する反論。

第3週：文法学者と哲学の言語について。パタンジャリの『大注解』の文体と内容。バルトリハリの『ヴァーキャパディーヤ』と言語的一元論について。

第4週：アビダルマ思想および仏教の思想に見られる概念的な語彙について。

第5週：ヨーガーチャラ（瑜伽行）派の観念論（唯心論）。現象学のおよび存在論的な「空」の思想について。

第6週：ニヤーヤ学派の知識論と実在論。彼らの考える「知識による解脱」とは。

第7週：ヴァイシェシカ学派のカテゴリー論について。プラシャスタパーダによる著作を中心に。

第8週：サーンキヤ学派の二元論について。『サーンキヤ・カーリカー』と『ユクティ・ディーピカー』を中心に。

第9週：精神的なプロセスについてのヨーガ学派の考え方について。『ヨーガ・スートラ』とその注釈書を中心に。

第10週：ミーマーンサー学派の聖典解釈学について。クマーリラとプラバーカラの思想について。

第11週：アドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の不二一元論）について。シャンカラとその弟子たちの思想的伝統について。

第12週：ヴィシシュタ・アドヴァイタ（ヴェーダント学派の限定（制限）不二一元論）とドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の二元論）について。有神論的な解釈について。ラーマヌジャとマドゥヴァの思想。

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

第13週：シャイヴァ・シッターンタ（シヴァ教の伝統）と『イーシュヴァラ・プラティヤビジュニャー』について。シヴァ教の二元論と一元論。

第14週：ナヴィヤ・ニヤーヤ（新ニヤーヤ学派）について。『タットヴァ・チンターマニ』の内容と、その思想が他のすべての諸学派へ与えた影響について。

第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Garfield, Jay 『Treatise on the Three Natures (Trisvabhavanirdesa)』 (Oxford University Press) (pp. 35-45 in William Edelglass and Jay Garfield (eds.), Buddhist Philosophy: Essential Readings. 2009)

Franco, Eli 『On the Periodization and Historiography of Indian Philosophy.』 (Publications of the De Nobili Research Library) (Periodization and Historiography of Indian Philosophy. Vienna 2013.)

Halbfass, Wilhelm 『The Sanskrit Doxographies and the Structure of Hindu Traditionalism』 (: State University of New York Press) (India and Europe: An Essay in Understanding. Albany, 1988)

Materials distributed in class.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

Details provided in class.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

（その他（オフィスアワー等））

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11704 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	History of Indian Philosophy B				
[授業の概要・目的]					
<p>This class aims to give an overview of the most influential themes and problems debated in the Indian philosophical traditions as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義は、インドの哲学的伝統において最も影響力のあったテーマや、諸伝統の間で長年議論されてきた諸問題について概観します。授業では、原典の資料を紹介しながらそれぞれのテーマについて見ていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA(ティーチング・アシスト)による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>					
[授業計画と内容]					
Week 1. Introduction. Metaphysics, Ontology, Epistemology and Cosmology.					
Week 2. Pramana Epistemology. What is an instrument of knowing? How many instruments are there?					
Week 3. Perception					
Week 4. Error and Doubt. What is error? How many types of doubt are there?					
Week 5. Inference. How can vyapti be established?					
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 6. Verbal cognition. The relationship between word and meaning. What is a referent?

Week 7. Analogy. Is analogy reliable?

Week 8. Other means of knowledge.

Week 9. Competing ontologies. Elements, categories, or phenomena? Substances, qualities and relations.

Week 10. Theories of Causation.

Week 11. Transformatio, evolution, agency and action.

Week 12. The nature and qualities of the self.

Week 13. Non-existence.

Week 14. Theories of Time.

Week 15. Review.

- 第1週：序章。インド思想における重要なテーマ、形而上学、存在論、認識論、宇宙論について。
第2週：プラマーナ（認識論）について。正しく知るための道具とは何か？それはいくつあるのか？
第3週：正しい認識方法1。直接知覚について。
第4週：誤謬と疑いについて。認識における誤謬（誤り）とは何か？疑いにはどのような種類があるのか？
第5週：正しい認識方法2。推論について。推論における遍充関係はどのようにして確立されるのか？
第6週：正しい認識方法3。ことばによる認識について。ことばと意味の関係とは。ことばの指し示す対象とは何か？
第7週：正しい認識方法4。類推について。類推による認識は、正しい認識根拠として信頼できるのか？
第8週：その他の知識の手段について。
第9週：インド思想において論争される存在論について。存在は要素なのか、カテゴリーなのか、または現象なのか？物質と、性質、そしてそれらを結びつける諸関係について。
第10週：因果関係に関する理論。
第11週：物事の変様と展開について。行為の主体と行為について。
第12週：自己の本質と性質について。
第13週：非存在について。
第14週：インド思想における時間の理論について。
第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)へ続く

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

[成績評価の方法・観点]

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

[教科書]

Details provided in class.

[参考書等]

(参考書)

Taber, John 『A Hindu Critique of Buddhist Epistemology: Kumarila on Perception』 (Routledge) (London and New York:, 2005.)

Westerhoff, Jan 『The Dispeller of Disputes: Nagarjuna ' s Vignahavyavartani. 』 (Oxford University Press) (2010)

Dravid, N. S. 『A Bouquet of Flowers of Reasoning (Nayakusumanjali)』 (Indian Council of Philosophical Research) (New Delhi 1996)

Details provided in class.

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学191

科目ナンバリング		U-LET14 11802 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド・チベット仏教思想史				
[授業の概要・目的]					
インド・チベット仏教思想史のうち、インドで大乗仏教が興るまでの思想史の流れを概説する。仏教誕生の背景から仏教教義が体系化されていく様子を初期仏教、部派仏教の順に追う。					
[到達目標]					
大乗仏教興起以前のインド仏教の特徴的な思想について、基本的な事項を理解した上で、全体の流れを把握できるようになる。					
[授業計画と内容]					
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。					
<p>第1回 序論：仏教と仏教学</p> <p>第2回 仏教誕生の背景</p> <p>第3回 仏陀の生涯</p> <p>第4回 初期仏教：基本的な教説</p> <p>第5回 初期仏教：教説の特徴</p> <p>第6回 初期仏教：教団の発展</p> <p>第7回 部派仏教：アショーカ王と教団の分裂</p> <p>第8回 部派仏教：阿含(アーガマ)と論(アビダルマ)</p> <p>第9回 説一切有部の思想：概説</p> <p>第10回 説一切有部の思想：その世界観</p> <p>第11回 説一切有部の思想：五位七十五法の成立</p> <p>第12回 説一切有部の思想：五位七十五法</p> <p>第13回 説一切有部の思想：因果説と縁起解釈</p> <p>第14回 説一切有部の思想：実践と聖者の階位</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
特にないが、後期の仏教学講義をあわせて受講することが望ましい。					
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の十回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 11804 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド・チベット仏教思想史				
[授業の概要・目的]					
インド・チベット仏教思想史のうち、経量部の思想を含め、インドで大乗仏教が興って以降の思想史の流れを概説する。大乗仏教の興起とその展開を、大乗経典、中観学派、唯識学派、密教の順に追う。さらにチベット仏教について、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、宗派仏教の性格を持つ後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。					
[到達目標]					
インド・チベットにおける大乗仏教興起以降の特徴的な思想について、基本的な事項を理解し、全体の流れも把握できるようになる。					
[授業計画と内容]					
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。					
<p>第1回 経量部の思想：概説</p> <p>第2回 経量部の思想：三世実有説批判と五位七十五法の整理</p> <p>第3回 大乗運動と大乗経典：概説</p> <p>第4回 大乗運動と大乗経典：空性と慈悲</p> <p>第5回 中観学派の思想：概説</p> <p>第6回 中観学派の思想：『中論』に説かれる縁起と空</p> <p>第7回 唯識学派の思想：概説とアーラヤ識</p> <p>第8回 唯識学派の思想：三性説と空性理解</p> <p>第9回 仏教論理学派</p> <p>第10回 中期中観派</p> <p>第11回 後期インド仏教と密教</p> <p>第12回 前伝期のチベット仏教</p> <p>第13回 後伝期の仏教諸派の思想1(カダム派、サキャ派、カギユ派)</p> <p>第14回 後伝期の仏教諸派の思想2(ニンマ派、ジョナン派、ゲルク派)、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
-----系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[履修要件]

特にないが、後期の授業は前期の内容を引き継ぐものなので、前期の仏教学講義を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の十回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学193

科目ナンバリング		U-LET15 13100 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ギリシア・ローマ神話：神話が息づく文化				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義は、ヨーロッパの基礎である古代ギリシア・ローマの文化における神話を学ぶことを目的としています。神話はたんなる過去の御伽噺ではなく、時代や地域を超えて、現代の我々にまで影響を及ぼすものです。とりわけヨーロッパ文化のなかでは深く根付き、様々な形で用いられてきました。文学、美術、彫刻、哲学、天文学など、多様な媒体のなかで神話は表現され、比喩として用いられ、教養として継承されています。</p> <p>毎回の授業では、ギリシア・ローマ神話の主要な題材を扱いながら、神話の見方を学びます。それぞれの題材が意味するポイントを解説し、それと関連する美術や社会などについて確認します。この授業では神話を通して、古代の文化を知るとともに、神話とは何か、ということを考えていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>この講義は、古代ギリシア・ローマの神話を多様な観点から知るとともに、古代の社会・文化を理解することを目標としている。具体的な全体の到達目標は以下の通り。</p> <p>(1) 神話を描く文学作品や美術作品を正確に読解することができる。</p> <p>(2) 社会的・文化的な意味を分析することができる。</p> <p>(3) 古代の知識をもとに、現代について考えることができる。</p> <p>(4) 古代ギリシア・ローマの文化を理解できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下のスケジュールにしたがって授業を進める。ただし授業内で提示された疑問や議論の方向性などによっては、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イントロダクション：神話とは何か</p> <p>第2回 世界の始まり：創造神話(1)</p> <p>第3回 世界の始まり：創造神話(2)</p> <p>第4回 神々の系譜(1)</p> <p>第5回 神々の系譜(2)</p> <p>第6回 神話と信仰</p> <p>第7回 プロメテウス神話(1)</p> <p>第8回 プロメテウス神話(2)</p> <p>第9回 オリュンポスの神々(1)</p> <p>第10回 オリュンポスの神々(2)</p> <p>第11回 オリュンポスの神々(3)</p> <p>第12回 オリュンポスの神々(4)</p> <p>第13回 英雄伝説</p> <p>第14回 全体のまとめ</p>					
系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・授業内で毎回課すコメントペーパーで授業の理解度を確認するとともに、自らの考えを表現する(40%)
- ・学期終盤にレポートを課す(60%)

【教科書】

パワーポイント使用。プリント配布。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回の授業前に指定された参考文献や文学作品を読み、基礎知識を得ておく必要がある。また、授業後にコメントペーパーを課し、授業で扱った事柄についての考えをまとめる。また知識の体系化をはかるために、全体の復習を必要とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学194

科目ナンバリング	U-LET15 13102 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期ラテン文学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>長い歴史を持つラテン文学のうち、その草創期に重点を置きつつ、代表的な作家の作品を取り扱う講義です。</p> <p>しばしば「とっつきにくい」と言われるラテン文学ですが、ギリシア文学からの継承や同時代の状況を解説することで、それぞれの作品がどういった主題設定や問題意識のもとに展開されているかを解説しながら、鑑賞のポイントを紹介していきます。</p> <p>中心的に扱うのは共和政期の作家たちまでですが、そこに後の時代へつながるどのような発展の萌芽があるかにも触れることで、ラテン文学全体についても知識を深めることを目指します。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・初期ラテン語ラテン文学の歴史について、その全体像を把握する ・個々の作品の歴史的・文化的背景について理解を深める 					
[授業計画と内容]					
<p>講義はおおむね以下のプログラムにしたがって進めますが、テーマや回数配分を状況に応じて変える場合があります。</p> <p>第1回 イントロダクション：ラテン語とラテン文学の歴史概観 第2回 リーウィウス・アンドロニクスとホメーロスの「翻訳」 第3回 エンニウス『年代記』 第4回 ローマの演劇とその背景 第5回 ローマ喜劇：プラウトゥス1 第6回 ローマ喜劇：プラウトゥス2 第7回 ローマ喜劇：テレンティウス1 第8回 ローマ喜劇：テレンティウス2 第9回 古代の農業論：大カトー『農業論』，ウァッロー『農事論』 第10回 古代のラテン語論：ウァッロー『ラテン語について』 第11回 ルクレティウス『事物の本性について』1 第12回 ルクレティウス『事物の本性について』2 第13回 ルクレティウス『事物の本性について』3 第14回 ローマにおける弁論・修辞学の伝統 第15回 全体のまとめ</p>					
----- 系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）

学期末レポート（60％）

【教科書】

授業内で資料を配布

【参考書等】

（参考書）

逸身喜一郎 『ギリシャ・ラテン文学 韻文の系譜をたどる15章』（研究社，2018年）

松本仁助, 岡道男, 中務哲郎編 『ラテン文学を学ぶ人のために』（世界思想社, 1992年）

【授業外学修（予習・復習）等】

・ 配布資料を読んで授業の復習を行うこと

・ 授業内では原典の翻訳をはじめとして色々な文献を紹介するので，それらを実際に手に取って読んでみることに

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学195

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ギリシア語 (4時間コース) (語学) Greek(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 広川 直幸		
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月1,木1	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ギリシア語 (4時間コース)				
[授業の概要・目的]					
<p>ギリシア語 (正確にはギリシャ語) はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5～4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的よく実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献 (例えばホメロス) やそれ以後の文献 (例えば『新約』) を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくし、スムーズに原典講読に移行できるようになることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むギリシア語原典 (紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文まで) の読解に取りかかることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折 (いわゆる語形変化) なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期</p> <p>第1回 イントロダクション、第1課「文字と発音」の解説 第2回 第1課の練習問題、第2課「アクセント」の解説 第3回 第1課と第2課の復習 第4回 第3課の解説 第5回 第3課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第4課の解説 第6回～第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期</p>					
ギリシア語 (4時間コース) (語学)(2)へ続く					

ギリシア語（4時間コース）(語学)(2)

第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。
第39回～第60回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、疑問点を積極的に質問する受講態度）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。
出席数が全授業数の4分の3に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

夏季休暇の前に後期の講読までに揃えるべき辞書類を記した文献表を配布し詳しく解説する。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。一コマにつき1時間や2時間程度の予習復習では到底受講継続はできないと心得よ。また、他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、授業中であれ授業後であれ遠慮をせずに積極的に質問することを期待する。

授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。

遅刻は3回につき欠席1回とみなす。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ラテン語(4時間コース)(語学) Latin(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 佐藤 義尚		
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月2,金2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語(4時間コース)				
[授業の概要・目的]					
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。 古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいたろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>					
[到達目標]					
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。 フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期 第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。 第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。 第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期 第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。 第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。 後期定期試験。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----					

ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点60点，試験40点で評価する．

[教科書]

松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:4-8096-4301-8

教科書だけではわかりにくいので，解説資料を配布する．

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要．

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習してくること．

（その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易．逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる．

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29664 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級I）（語学） Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）					
[参考書等]					
（参考書） 授業中に紹介する					
----- ギリシア語（初級I）（語学）(2)へ続く -----					

ギリシア語（初級I）（語学）（2）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29665 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級II）（語学） Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。</p> <p>簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。</p> <p>古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説</p> <p>教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>					
[履修要件]					
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。</p> <p>詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）					
----- ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く -----					

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してこること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29666 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ラテン語（初級I）（語学） Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
[授業の概要・目的]					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
[到達目標]					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
[履修要件]					
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（30％）・毎回の小テストの得点（30％）・定期試験の得点（40％）の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く -----					

ラテン語（初級I）（語学）(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学200

科目ナンバリング	U-LET49 29667 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ラテン語（初級II）（語学） Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
[授業の概要・目的]					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
[到達目標]					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
[履修要件]					
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く -----					

ラテン語（初級II）（語学）(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学201

科目ナンバリング		U-LET16 13202 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代ロシア文化概説				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チャーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。しかし、ロシアの文学や思想が、どのような文化伝統の中で形成され、どのような状況の中で発展してきたのかについては、必ずしも十分に理解されてきたわけではありません。主要な幾つかのトピックに重点を置いて、18世紀末の近代ロシア文学の形成から1880年頃までのロシア文学・思想・絵画の流れを、できるだけ体系的に概観していきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 近代ロシアの文学・思想・絵画についての知識と理解を得る。 2) 欧米文化共通の特徴である作品・ジャンル・国の枠を超えた交差を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回：はじめに					
第2 - 3回：近代以前のロシア文化の流れ 東方正教、コサック・古儀式派の発生、ペテルブルグ建設など					
第4 - 13回：以下の2つの系譜を軸に、時代を追って19世紀ロシア文学・思想を概観します。					
<p>1) 自己意識の鏡としてのペテルブルグ神話の系譜： プーシキン『青銅の騎士』、ゴーゴリ『外套』『鼻』、ドストエフスキーのペテルブルグほか</p> <p>2 「ロシア的自然」の系譜： プーシキン、レールモントフの詩、ツルゲーネフ『獵人日記』、トルストイ『戦争と平和』『安娜・カレーニナ』、移動派の絵画ほか</p>					
第14回：農奴解放令以後の文学と社会状況					
第15回：まとめ					
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>					
系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

【教科書】

適宜プリントを配付します。

【参考書等】

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩(編著)『ロシア文学からの旅:交錯する人と言葉』(ミネルヴァ書房、2022年)ISBN:978-4-623-09400-4

その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学202

科目ナンバリング		U-LET16 13204 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代ロシア文化概説				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。しかし、そのようなロシア文学への関心は、おおむね19世紀末までに留まり、20世紀の文学や文化がどのように展開してきたのかは、日本ではほとんど知られていないと言っても過言ではありません。</p> <p>この講義では、19世紀末から20世紀に入り、ソ連期を経て、その崩壊後の文化状況までを概観します。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 19世紀末から20世紀のロシア(ソ連)の文学・思想・映画・絵画についての知識と理解を深める。</p> <p>2) 芸術作品や文化現象を分析・考察するための枠組みと方法を身に付ける。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回：はじめに					
第2 - 5回：19世紀末から20世紀初頭の文学・絵画・思想 象徴主義(フェート、イヴァノフ、ソログープほか)、リアリズム文学(ゴーリキー、チェーホフほか)、近代ロシア絵画の展開(クインジー、レヴィタン、ヴルーベリ、シャガールほか)					
第6 - 8回：「ロシア・アヴァンギャルド」の季節 ロシア・フォルマリズム(「異化」とその通時的展開)、未来派の文学と絵画(超意味言語詩、マレーヴィチの無対象絵画)、映画の展開(エイゼンシテイン、ジガ・ヴェルトフ、モンタージュほか)					
第9 - 13回：ソ連期の文学・思想・文化 文学：アフマトワ、ザミャーチン、バーベリ、ブルガーコフ、グロスマンほか 思想：全一性の詩学、規範としての社会主義リアリズムとその溶融 映画：エイゼンシテイン『イワン雷帝』の問題					
第14回：ソ連崩壊後の文化状況(ペレーヴィン、ソローキン、ウリツカヤほか)					
第15回：まとめ					
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>					
系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

[教科書]

適宜プリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩(編著)『ロシア文学からの旅：交錯する人と言葉』(ミネルヴァ書房、2022年) ISBN:978-4-623-09400-4

その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。
後期からの履修も認めます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学203

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
【ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」】					
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜4限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学204

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
[授業の概要・目的]					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
[到達目標]					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
[授業計画と内容]					
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
[ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」]					
初回授業で前期の要約を配布し、後期のみの受講者にも不便のないよう配慮する。 また、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
[教科書]					
使用しない プリントを配布する。					
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、火曜4限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学205

科目ナンバリング		U-LET18 13402 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英語学)(講義A) English Language (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史A				
[授業の概要・目的]					
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語等の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語の背景について学びます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： インド・ヨーロッパ語としての英語 第3回： 英語の外面史と内面史(導入) 第4回： 借用語(ラテン語を中心に) 第5回： 借用語(スカンディナヴィア語を中心に) 第6回： 借用語(フランス語を中心に) 第7回： 語形成、およびその歴史の変遷 第8回： 意味の歴史の変遷 第9回： ルーン文字とアルファベット、および綴り字の歴史の変遷 第10回： 発音の歴史の変遷 第11回： 人称代名詞の形態全般 第12回： 人称代名詞の数と格、およびその歴史の変遷 第13回： 指示代名詞の歴史の変遷 第14回： 関係代名詞の歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語等の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>					
----- 系共通科目(英語学)(講義A)(2)へ続く -----					

系共通科目(英語学)(講義A)(2)

[履修要件]

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Eva Zehentner）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（和田葉子）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（30%）およびレポート（70%）によって評価を行います。

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）

[参考書等]

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報あります。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

（その他（オフィスアワー等））

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学206

科目ナンバリング		U-LET18 13404 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英語学)(講義B) English Language (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史B				
[授業の概要・目的]					
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語等の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語との実践的な比較を行います。</p>					
[到達目標]					
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： 語形変化の実際 第3回： 語順の歴史の変遷と前置詞の使用の拡大 第4回： 主節と従属節の歴史の変遷 第5回： 不規則変化動詞とその歴史の変遷 第6回： 直説法と仮定法の歴史の変遷 第7回： 非人称動詞および過去現在動詞の歴史の変遷 第8回： 法助動詞の歴史の変遷 第9回： be動詞の歴史の変遷 第10回： 進行形と受動態の歴史の変遷 第11回： 完了形の歴史の変遷 第12回： 不定詞と動名詞の歴史の変遷 第13回： 否定構文の歴史の変遷 第14回： 助動詞doの歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解(言語の揺れを中心に)</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語等の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>					
[履修要件]					
<p>内容が英語史Aの続きとなっていますので、できるだけ英語史Aを受講した上で、本講義を受講するようにしてください。やむを得ない事情で英語史Bからの受講になる場合は、『ベーシック英語史』の前半部分を自習してから受講してください。</p> <p>英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Eva Zehentner)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、特殊講義(和田葉子)、特殊講義(滝沢直宏)、外国語</p>					
系共通科目(英語学)(講義B)(2)へ続く					

系共通科目(英語学)(講義B)(2)

実習 (Lachlan Rigby Jackson) も提供 (予定) しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度 (30%) およびレポート (70%) によって評価を行います。

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』 (ひつじ書房)

[参考書等]

(参考書)

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』 (中央大学出版)

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』 (CUP)

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』 (中公新書)

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報があります。

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

指定された教科書に目を通しておいてください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

(その他 (オフィスアワー等))

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学207

科目ナンバリング	U-LET18 13406 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英文学)(講義A) English Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文学史概説(中世 18世紀の風刺文学)				
[授業の概要・目的]					
<p>英文学史上の代表的な作品を紹介しながら、英文学の歴史の変遷について包括的に考える。前期は中世から18世紀前半までを扱う。風刺文学の歴史を取り上げ、ここから見えてくるこの時代の英文学全体、また、英国社会の一般的な状況を概観する。</p>					
[到達目標]					
<p>中世から18世紀の風刺文学を代表的なテキストに即しながら概観することを通じて、以下についての理解が深まることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中世から18世紀の英文学に使われている様々な英語表現の変遷 2. 形式と内容の関係 3. 中世から近代にいたる、イングランドの社会と文学との関係 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：英文学の範囲、特徴、歴史一般と文学史の関係についての解説 第2回：西洋文学における風刺文学の伝統についての解説 第3回：中世風刺文学の解説 第4回：講読(William Langland, Piers Plowman) 第5回：同(Geoffrey Chaucer, The Canterbury Tales, 'General Prologue') 第6回：16世紀風刺文学の解説 第7回：講読(John Donne, Satires) 第8回：同(William Shakespeare, Merry Wives of Windsor) 第9回：17世紀風刺文学の解説 第10回：講読(Ben Jonson, Bartholomew Fair) 第11回：同(John Dryden, Absalom and Achitophel) 第12回：18世紀風詩文学の解説 第13回：講読(Alexander Pope, The Rape of the Lock) 第14回：同(Jonathan Swift, Gulliver's Travels) 第15回：Review/Feedback 定期試験は行わない(成績評価は中間レポートと期末レポートによる)</p>					
[履修要件]					
後期に開講される英文学講義Bと今年度中に合わせて履修することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>中間、学期末レポート各50%、両方を提出していなければ成績評価の対象にならない。それぞれの題目、長さ、提出期限等詳細については授業中に口頭で指示をする。レポートの提出はPandAによる</p>					
系共通科目(英文学)(講義A)(2)へ続く					

系共通科目(英文学)(講義A)(2)

るものとする。

[教科書]

授業資料は予めPandA上に掲載する。終了後一定時間が経った時点で消去するので注意すること。

[参考書等]

(参考書)

Dinah Birch, Katy Hooper 『The Concise Oxford Companion to English Literature』 (Oxford UP) ISBN: 978-0199608218

[授業外学修(予習・復習)等]

辞書を丹念に引いて扱うテキストの内容を理解した上で授業に臨むこと。授業後は扱われた作品の文学史における位置づけについて考察すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学208

科目ナンバリング	U-LET18 13408 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英文学)(講義B) English Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文学史概説(小説・散文)				
[授業の概要・目的]					
<p>英文学史上の著名な小説・散文を紹介しながら、英文学における主題と文体の歴史的変遷を学ぶ。文学史は古いところから説き起こすのが常だが、この講義では新しい時代から遡る形で講義を進行し、「現代」ではなくなっていく変化を、個々の作品が生まれた時代背景とともに考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>英国小説についての一般的な基礎知識を身につけ、時代的な背景とともに特定の作家がどのような特性をもつかを理解できるようになる。また、作家の言葉に対する態度と「表現すること」、「物語ること」の変化を考察しながら、自らが関心をもった作家についてリサーチを進めることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction 第2回 Ian McEwan(1948-) 第3回 Kazuo Ishiguro(1954-) 第4回 Samuel Beckett(1906-1989) 第5回 George Orwell(1903-1950), E.M.Forster(1879-1970) 第6回 James Joyce (1882-1941), Virginia Woolf(1882-1941) 第7回 D.H.Lawrence(1885-1930), Joseph Conrad(1857-1924) 第8回 Thomas Hardy(1840-1928), George Eliot(1819-1880) 第9回 Charles Dickens(1812-1870), Elizabeth Gaskell (1810-1865) 第10回 Emily Brontë(1818-1848) 第11回 Jane Austen(1775-1817) 第12回 Mary Wollstonecraft Godwin Shelley(1797-1851) 第13回 Laurence Sterne (1713-1768) 第14回 イギリス文学史総覧+レポートの書き方 第15回 フィードバック(研究室にて授業内容に関連する質問に答える)</p>					
[履修要件]					
<p>前期の英文学講義と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。</p>					
系共通科目(英文学)(講義B)(2)へ続く					

系共通科目(英文学)(講義B)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、リアクションペーパー（60%）および学期末に提出してもらうレポート（40%）によって評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）

Dinah Birch 『The Concise Oxford Companion to English Literature 4th Edition』（OUP）ISBN:978-0199608218

[授業外学修（予習・復習）等]

予習として、授業中に指定する資料を読んでおくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13：00～14：30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学209

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカ出身の両親を有するLenny Henry作の一人芝居August in England (2023)を取り上げ、そこに見られるWest Indiesと英国との交流の歴史、ならびに英国社会の文化的多様性を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する 多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は</p> <p>a) 戯曲テキストの講読</p> <p>b) 講読する内容と連動した、指定のトピックに関するプレゼンテーション(担当者を指名する)</p> <p>c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション</p> <p>の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験により毎回の内容は前後することがある。</p> <p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / 戯曲テキストの読み方とAugust in England の概略</p> <p>第2週 講読: August in England scene 1 / プレゼンテーション・トピック: Windrush</p> <p>第3週 scene 2 / カリブ海地域の植民地化の歴史と現状</p> <p>第4週 scene 3 / 英国におけるfootballとcricket</p> <p>第5週 scene 4 / Notting Hill Carnivalとカリブ海地域の音楽、食文化</p> <p>第6週 scene 5 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第7週 scene 6 / 現在の英国政治における移民問題</p> <p>第8週 scene 7 / 英国における南アジア系移民の歴史と現状</p> <p>第9週 scene 8 / 英国における地域格差</p> <p>第10週 scene 9 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第11週 scene 10 (同上)</p> <p>第12週 scene 11 / Windrush Scandal</p> <p>第13週 英国における多文化主義、異文化交流の歴史と文学</p> <p>第14週: 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学(特殊講義)(2)

第15週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 30%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 30%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Lenny Henry 『August in England』 (Faber, 2023) ISBN:978-0571386437

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学210

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)を読む				
【授業の概要・目的】					
George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)の読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。オーウェルが社会問題として捉えていた拝金主義や商業主義の問題、芸術の衰退、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。サブテキストとして、John CareyのThe Intellectuals and the Masses: Pride and Prejudice Among the Literary Intelligentsia 1880-1939も参照予定である。					
【到達目標】					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 pp.1-22 (ch. 1)</p> <p>第3回 pp.23-38 (ch. 2)</p> <p>第4回 pp.39-66 (ch. 3)</p> <p>第5回 pp.67-86 (ch. 4)</p> <p>第6回 pp.87-112 (ch. 5)</p> <p>第7回 pp.113-135 (ch. 6)</p> <p>第8回 pp.136-168 (ch. 7)</p> <p>第10回 pp.169-197 (ch. 8)</p> <p>第11回 pp.198-226 (ch. 9)</p> <p>第12回 pp.227-247 (ch. 10)</p> <p>第13回 pp.248-269 (ch. 11)</p> <p>第14回 pp.270-277 (ch. 12)</p> <p>第15回 まとめ・質疑応答</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13：30～15：00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学211

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Fitzgerald, The Great Gatsbyを読む				
[授業の概要・目的]					
F. Scott Fitzgeraldの代表作The Great Gatsby (1925)を精読しながら、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、人種、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。あわせて作品の映画化(アダプテーション)についても考える。					
[到達目標]					
文学テキストを精確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Great Gatsbyおよびその作者Fitzgeraldについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらおう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 Chapter 1を読む					
第3回 Chapter 2を読む					
第4回 Chapter 3を読む					
第5回 The Great Gatsbyとアダプテーション					
第6回 Chapter 4を読む					
第7回 Chapter 5を読む					
第8回 Chapter 6を読む					
第9回 The Great Gatsbyとアダプテーション					
第10回 Chapter 7を読む					
第11回 Chapter 8を読む					
第12回 Chapter 9を読む					
第13回 The Great Gatsbyとアダプテーション					
第14回 総論とまとめ					
第15回 フィードバック					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

F. Scott Fitzgerald 『The Great Gatsby』（Penguin）ISBN:978-0141182636

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。また、有名な作品で翻訳も多数あるので、開講前にざっとでも一度通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学212

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ現代文学における病の表象について The Gifts of the Bodyを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、Rebecca BrownのThe Gifts of the Body (1994)を読みます。エイズ患者のホームケア・ワーカーを語り手に据えた本作は、「病」によってもたらされる種々の二分法(患者と健常者、寿命と病死、家族と他者)について省察を呼びかけるものです。現代アメリカではどのように「病」が小説で描かれるのか、本作の精読によって学ぶことを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における「病」の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Rebecca Brownと1990年代におけるエイズについて 第2回：The Gift of Sweatを読む 第3回：The Gift of Wholenessを読む 第4回：The Gift of Tearsを読む 第5回：The Gift of Skinを読む 第6回：The Gift of Hungerを読む 第7回：The Gift of Deathを読む 第8回：The Gift of Speechを読む 第9回：The Gift of Sightを読む 第10回：The Gift of Hopeを読む 第11回：The Gift of Mourningを読む 第12回：The Gifts of the Body全体を振り返る1 第13回：The Gifts of the Body全体を振り返る2 第14回：レポートワークショップ 第15回：【総論】The Gifts of the Bodyと小説ジャンルについて</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Brown, Rebecca 『The Gifts of the Body』 (Harper Perennial, 1995) ISBN: 9780060926533 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者は、翻訳で構わないので、第2回目授業までに一通り作品全体を読んでおくこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究の関係 5回：生成文法の視点から見た語法文法研究 6回：動的な文法理論と語法文法研究の関係 7回：動的な文法理論の視点から見た語法文法研究 8回：認知言語学と語法文法研究の関係 9回：認知言語学の視点から見た語法文法研究 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究の関係 12回：英語史の視点からの語法文法研究 13回：コーパスと語法文法研究の関係 14回：コーパスを用いた語法文法研究 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学215

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Margaret Atwoodの詩の読解と翻訳				
[授業の概要・目的]					
この授業では、カナダの詩人・作家であるマーガレット・アトウッドが、1968年に発表した第2詩集『あの国の動物たち』(The Animals in That Country, 1968)の読解と翻訳を行う。人間と動物、人間と環境の関係性や境界を問い直す本詩集は、動物倫理や環境問題といった今日的な問題へ接続できるだろう。また、アトウッドの評論『サバイバル』(Survival, 1972)を参照し、比較文化的視座から動物表象について考える。					
[到達目標]					
この授業を通じ、詩の読解能力を養うとともに、文芸翻訳に取り組む。また、比較文化的視座から動物表象について考察することにより、人間が動物を描くことの意味について理解する。					
[授業計画と内容]					
1.Introduction 2.The animals in that country 3.Attitudes towards the mainland 4.The green man 5.At the tourist centre in Boston 6.A night in the Royal Ontario Museum 7.River 8.What happened 9.Roominghouse, winter 10.It is dangerous to read newspaper 11.Progressive insanities of a pioneer (1) 12.Progressive insanities of a pioneer (2) 13.Speeches for Dr Frankenstein (1) 14.Speeches for Dr Frankenstein (2) 15.Speeches for Dr Frankenstein (3)					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

[教科書]

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学216

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポストモダン・アメリカ小説研究 Jhumpa Lahiriを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Jhumpa Lahiri (1967-) の第二短篇集Unaccustomed Earth (2008) および先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、現代アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、インド(ベンガル)系アメリカ移民である作者自身の出自を反映した同書の収録作品を講読する。</p>					
[到達目標]					
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテクストを読み解く批評眼を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 “Unaccustomed Earth”(1) 第3回 “Unaccustomed Earth”(2) 第4回 “Hell-Heaven” 第5回 “A Choice of Accommodations”(1) 第6回 “A Choice of Accommodations”(2) 第7回 “Only Goodness”(1) 第8回 “Only Goodness”(2) 第9回 “Nobody's Business”(1) 第10回 “Nobody's Business”(2) 第11回 “Once in a Lifetime” 第12回 “Year's End” 第13回 “Going Ashore” 第14回 エッセイ・インタビューおよび先行研究の概観 第15回 授業のまとめ・フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Jhumpa Lahiri 『Unaccustomed Earth』（Vintage Books, 2009）ISBN:978-0-307-27825-8

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』（Manchester UP, 2017）

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学217

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokov _The Luzhin Defense_ 研究				
[授業の概要・目的]					
<p>Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説_The Luzhin Defense_ (1963)を精読する。1930年に出版された、チェス名人を主人公とするロシア語小説_Zashichita Luzhina_の英語版である本作は、ナボコフの「ロシア語小説のうち、もっとも『ぬくもり』のある」作品であると自身が認めるものである。その「ぬくもり」や、散りばめられたさまざまなモチーフ、テーマ(とりわけ「音楽」のテーマ)を感じながら読み進める。</p>					
[到達目標]					
<p>技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 Chapter 1 輪読 第3回 Chapter 2 輪読 第4回 Chapter 3 輪読 第5回 Chapter 4 輪読 第6回 Chapter 5 輪読 第7回 Chapter 6 輪読 第8回 Chapter 7 輪読 第9回 Chapter 8 輪読 第10回 Chapter 9 輪読 第11回 Chapter 10 輪読 第12回 Chapter 11 輪読 第13回 Chapter 12 輪読 第14回 Chapter 13 輪読 第15回 Chapter 14 輪読</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析して</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

いるか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『The Luzhin Defense』 (Penguin, 2000) ISBN:ISBN-10: 0141185988

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

一回の授業で、できれば1章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学(1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学(2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学(3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像(1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像(2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像(3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

中間レポート、最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	抒情詩の語り手について考えるーW. B. イェイツの中後期の詩作品を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>抒情詩における語り手をテーマに据えながら、1920年代から30年代にかけて書かれた円熟期のイェイツの詩作品を精読する。"Meditations in Time of Civil War," "Among School Children," "Leda and the Swan," "Crazy Jane poems," "Man and the Echo," "The Curse of Cromwell"などを予定している。</p> <p>批評家Jonathan Cullerによると、近代以降の抒情詩には、語り手の思考プロセスの模倣ではなく、それを表現したものが描かれるという。そのような指摘をふまえ、本講義では、イェイツの中後期の詩作品において語り手の思考プロセスがどのように表現されているか考える。さらに、講義の後半では同時代に発表された他の詩人の作品を併せて読み、比較対象としたい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション、授業の進め方についての説明				
第2回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第3回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第4回	W. B. イェイツ "Leda and the Swan"				
第5回	W. B. イェイツ "Among School Children"				
第6回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第7回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第8回	W. B. イェイツ "Man and the Echo"				
第9回	W. B. イェイツ "The Curse of Cromwell"				
第10回	T. S. エリオットの詩を読む				
第11回	T. S. エリオットの詩を読む				
第12回	W. H. オーデンの詩を読む				
第13回	W. H. オーデンの詩を読む				
第14回	まとめ				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英文学(特殊講義) (2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。
口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。
授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学220

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charlotte Brontë, *Jane Eyre*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』は、時代を超えて愛読され、映画化され、批評されてきた。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。ヴィクトリア朝という作品の時代背景についても知識を増やし、これまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家への影響、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(授業の進め方の説明など) 第2回 *Jane Eyre* Chapter 1~2と小説の書き出しについて 第3回 *Jane Eyre* Chapter 3~4 第4回 *Jane Eyre* 映画鑑賞(Chapter 5~10) 第5回 *Jane Eyre* Chapter 11~13 第6回 *Jane Eyre* Chapter 14~16 第7回 *Jane Eyre* Chapter 17~19 第8回 *Jane Eyre* Chapter 20~23 第9回 *Jane Eyre* Chapter 24~26 第10回 *Jane Eyre* Chapter 27~28 第11回 *Jane Eyre* Chapter 29~32 第12回 *Jane Eyre* Chapter 33~35 第13回 *Jane Eyre* Chapter 36~38 第14回 先行研究と語り直しについて 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charlotte Brontë 『Jane Eyre』（Penguin）ISBN:9780141441146

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学221

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobotz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学222

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life
Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction
Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)
Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)
Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West
Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets
Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 10%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

（その他（オフィスアワー等））

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シェイマス・ヒーニーの初期の詩を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>北アイルランドのデリー州出身のシェイマス・ヒーニー(1939-2013)は、アイルランドのみならず英語圏で広く親しまれている現代詩人のひとりである。本講義では、ヒーニーの第一詩集Death of a Naturalist(1966)、第二詩集Door into the Dark(1969)、第三詩集Wintering Out(1972)所収の作品を精読する。これらの詩では、少年時代の回想、田舎暮らしや自然、詩の創作、アイルランドの政治的状況などのテーマが扱われる。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、英語の注釈、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>毎回の授業は作品の朗読、および口頭発表とディスカッションを中心に進める。う。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション：シェイマス・ヒーニーについて、および作品と関連する社会的文脈、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第3回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第4回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第5回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第6回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第7回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第8回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第9回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第10回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第11回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第12回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第13回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

授業計画は、状況によって変更することがあります。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	北海道大学大学院文学研究院 竹内 康浩 教授		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エドガー・アラン・ポーとその影響				
[授業の概要・目的]					
<p>探偵小説の始祖とされる19世紀米国作家エドガー・アラン・ポーの短編小説を読みながら、作家がいかに登場人物の混迷を描き、さらに読者を煙に巻くか、すなわち彼の創作原理を考察します。その原理とは、物理的な鍵のようなもので、謎をロックするときにもアンロックするときにも使えます。また応用編として、その原理を使ってポー以外の作家による作品も読み解いてみたいと思います。</p>					
[到達目標]					
<p>エドガー・アラン・ポーの作品を読むことで、彼の創作原理を理解し、その原理を使用して、ひろく文学作品を考察することができるようになります。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。</p>					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回、2回：“Thou Art the Man”(「お前が犯人だ」)を読む(講義) ・ 3回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回、5回：“A Tale of the Ragged Mountains”(「鋸山綺譚」)を読む(講義) ・ 6回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
3日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 7回、8回：“The Murders in the Rue Morgue”(「モルグ街の殺人」)を読む(講義) ・ 9回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
4日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10回、11回：“The Purloined Letter”(「盗まれた手紙」)を読む(講義) ・ 12回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
5日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 13回、14回：“The Black Cat”(「黒猫」)を読む(講義) ・ 15回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表（４０％）、授業での質疑応答（２０％）、レポート（４０％）で総合的に評価する。

【教科書】

エドガー・アラン・ポーの作品（英語）は以下のサイトで全て読むことができます。

<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

授業では、上記のマボット版を使用します。（ページ数に言及する際、この版のページを用います）。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講までに「授業計画」で挙げた諸作品を以下のサイトで熟読しておいて下さい。<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

余裕のある人は"The Fall of the House of Usher"と"The Sphinx"も読んでみて下さい。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、qze11357@gmail.com です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学225

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Investigating constructional alternations in recent English				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のEva Zehentner先生(チューリッヒ大学)が担当しますが家入が補助します。Zehentner先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Syntactic alternations most basically refer to cases where “two or more ways of saying the same thing” (Labov 1972: 271) are available, i.e. where two formally distinct patterns express equivalent or similar meanings. For example, in the well-known English dative alternation, a nominal pattern (give the student a book) is more or less interchangeable with a prepositional pattern (give a book to the student). Such alternations have featured centrally in most, if not all, theoretical approaches to syntax (see e.g. Pijpops 2020). Typical issues that have been raised in their regard are to determine the precise relation between the members of an alternation and its theoretical modelling, with e.g. one pattern postulated to underlie the other in deep structure, or both patterns being represented as largely independent from each other (e.g. Goldberg 1995; Rappaport Hovav & Levin 2008; and many others, on the English dative alternation). Furthermore, the factors impacting the choice between alternating variants have received ample attention, investigating the effect of language-internal properties like semantic or pragmatic differences or processing-related features, but also sociolinguistic, external predictors such as variety or genre (e.g. Grafmiller & Szmrecsanyi 2018). In Construction Grammar specifically, alternations were disregarded for some time (e.g. Goldberg 1995, 2006), but have been met with renewed interest ever since Cappelle’s (2006) seminal work on ‘allostructions’ and discussions on ‘horizontal’ links (also Perek 2012, 2015; Ungerer forthc.; for a recent overview of relevant developments see Zehentner 2023).</p> <p>The seminar will introduce relevant concepts and theoretical questions regarding syntactic alternations in Construction Grammar, and will use large standard corpora of contemporary and recent historical English to allow students to carry out research projects on selected alternation phenomena. Specifically, we will use corpora from the Mark Davies family available at www.english-corpora.org, such as COCA (Corpus of Contemporary American English), COHA (Corpus of Historical American English) and the BNC (British National Corpus), among others, which cover a wide range of genres and different timeframes. On the basis of few selected alternation phenomena, students will be guided in their research process, learning how to find topics, formulate specific questions, retrieve and annotate data, as well as analyse and interpret their findings. This will be done in a step-by-step, accessible, and hands-on way, with students receiving specific input on methodological and theoretical aspects of alternation studies.</p>					
[到達目標]					
<p>The goal of the course is to introduce students to syntactic alternations from a Construction Grammar perspective, discussing (i) theoretical questions that arise when dealing with variation between formally or functionally overlapping constructions, and (ii) providing a hands-on introduction to investigating</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

alternations with corpus data in contemporary and recent historical English. On the basis of representative phenomena such as the English dative alternation (gave them a book vs gave a book to them), the genitive alternation (the book 's pages vs the pages of the book), the particle alternation (take your shoes off vs take off your shoes), and the comparative adjective alternation (easier vs more easy), students will be familiarised with the history of alternation research in Construction Grammar, and will learn how to set up a small corpus research project on the alternations in question: This will include practical guidance on how to retrieve relevant data from corpora, how to operationalise factors that may impact the alternations, and how to interpret findings in a constructionist framework.

【授業計画と内容】

1. Introduction to the basics of Construction Grammar
2. Syntactic alternations and their treatment in Construction Grammar
3. Case studies: 4 (in)famous alternations in English
4. Research design I: topics and research questions
5. Research design II: dependent and independent variables
6. Corpus linguistics: standard corpora of English and their use
7. Retrieving alternations from corpora
8. Annotating and analysing alternation data (1)
9. Annotating and analysing alternation data (2)
10. Descriptive statistics (summing up results, observing frequency trends)
11. Inferential statistics (using Excel and R to run statistical tests and models)
12. Hands-on practice of descriptive and inferential statistical analysis
13. Interpreting results
14. Discussion of theoretical implications of empirical findings
15. Wrap-up on data analysis and constructionist approaches

【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,
data analyses 30%,
report (write-up of findings) 50%

【教科書】

授業中に指示する

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

【参考書等】

(参考書)

Corpora

英語学英文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英文学(特殊講義)(3)

BNC = Davies, Mark. 2004. British National Corpus (from Oxford University Press). <https://www.english-corpora.org/bnc/>.

COCA = Davies, Mark. 2008-. The Corpus of Contemporary American English (COCA). <https://www.english-corpora.org/coca/>.

COHA = Davies, Mark. 2010. The Corpus of Historical American English (COHA). <https://www.english-corpora.org/coha/>.

References

Cappelle, Bert. 2006. Particle placement and the case for “allostructions”. *Constructions* 1. 1-28. <https://doi.org/10.24338/cons-381>.

Goldberg, Adele. 1995. *Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.

Goldberg, Adele. 2006. *Constructions at work: The nature of generalization in language*. Oxford: Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/acprof:oso/9780199268511.001.0001>.

Grafmiller, Jason & Benedikt Szmrecsanyi. 2018. Mapping out particle placement in Englishes around the world. A case study in comparative sociolinguistic analysis. *Language Variation and Change* 30(03). 385-412. <https://doi.org/10.1017/S0954394518000170>.

Labov, William. 1972. *Sociolinguistic patterns*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

Perek, Florent. 2012. Alternation-based generalizations are stored in the mental grammar: Evidence from a sorting task experiment. *Cognitive Linguistics* 23(3). 601-635. <https://doi.org/10.1515/cog-2012-0018>.

Perek, Florent. 2015. Argument structure in usage-based Construction Grammar: Experimental and corpus-based perspectives. Amsterdam: Benjamins. <https://doi.org/10.1075/cal.17>.

Pijpops, Dirk. 2020. What is an alternation? Six answers. *Belgian Journal of Linguistics* 34. 283-294.

Ungerer, Tobias. forthcoming. Vertical and horizontal links in constructional networks: Two sides of the same coin? *Constructions and Frames*.

Zehentner 2023 Allostructions revisited. *Constructions* 15(1). 1-20. [Special Issue: 35 Years of *Constructions*]. <https://doi.org/10.24338/cons-569>.

[授業外学修(予習・復習)等]

Assigned reading

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学226

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 外国語学部・特別契約教授 和田 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期中英語文学を精読する。				
[授業の概要・目的]					
初期中英語で書かれた韻文と散文のテキストを精読しながら、古英語から中英語へと変容する過渡期の英語を観察する。この時期の英語に慣れ親しむとともに、当時の人々が読み、あるいは聴いていた文学を現代に生きる私たちも彼らとともに味わい楽しむ。					
[到達目標]					
英語史における初期中英語の特徴を理解し、グロッサリーや辞書を利用して、様々なジャンルのテキストを正確に読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
1回 イン트로ダクション 2回～14回 初期中英語で書かれた様々なジャンルの作品の抜粋を精読する。読む作品と順序は下記を予定しているが、進捗状況によって変更する可能性がある。 The Owl and the Nightingale Havelok The Fox and the Wolf Dame Sirith Saint Kenelm Lyrics 15回：総括					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
受講生は毎週、前もって与えられたテキストを精読し、授業で正確な読みを発表する(平常点:50パーセント)。初期中英語期の英語・英文学に関する課題のレポートを提出する(50パーセント)。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>(Middle English Dictionary (MED)がこのサイトで利用できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、与えられたテキストの精読をして授業に臨むことが必須である。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡方法は授業で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学227

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 外国語学部・特別契約教授 和田 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期中英語文学を精読する。				
[授業の概要・目的]					
初期中英語で書かれた韻文と散文のテキストを精読しながら、古英語から中英語へと変容する過渡期の英語を観察する。この時期の英語の文法を理解し、テキストを正しく読む訓練をすると同時に、当時の文学作品がどのような社会背景から生まれたのか、についても考察する。					
[到達目標]					
英語史における初期中英語の特徴を理解し、グロッサリーや辞書を利用して、様々なジャンルのテキストが正確に読めるようになる。この時期に書かれた文学作品が当時の社会とどのように関わっていたのかを理解できる。					
[授業計画と内容]					
1回 インTRODクション 2回～14回 初期中英語で書かれた様々なジャンルの作品の抜粋を精読する。読む作品と順序は下記を予定しているが、進捗状況によって変更する可能性がある。 The Land of Cokaygne Brut The Bestiary Ormulum Interludium De Clerico et Puella The Peterborough Chronicle Ancrene Wisse 15回：総括					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
受講生は毎週、前もって与えられたテキストを精読し、授業で正確な読みを発表する(平常点:50パーセント)。初期中英語期の英語英文学に関する課題のレポートを提出する(50パーセント)。					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>(Middle English Dictionary (MED)がこのサイトで利用できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、与えられたテキストの精読をして授業に臨むことが必須である。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡方法は授業で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文法の面白さと英語の多様性、変化				
[授業の概要・目的]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。</p>					
[到達目標]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Languageの中から指定する章を講読し、英文法を多様な視点から再確認します。合わせて英語学関係の論文を講読し、英語の多様性、変化への理解を深めるとともに、コーパス言語学の手法や談話分析の手法を習得することを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： イントロダクション 第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(1) 第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(2) 第4回： 文法化と語彙化の視点から(1) 第5回： 文法化と語彙化の視点から(2) 第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(1) 第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(2) 第8回： 歴史社会言語学と英語研究(1) 第9回： 歴史社会言語学と英語研究(2) 第10回： 歴史語用論的なアプローチ(1) 第11回： 歴史語用論的なアプローチ(2) 第12回： 英語の標準化と規範文法 第13回： 英語の地域性 第14回： 言語接触と英語 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括</p>					
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。 なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を習得するためのワークショップ・セミナー等を行うことがあります。</p>					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Eva Zehentner）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（和田葉子）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

Andreea S. Calude & Laurie Bauer 『Mysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language』（Routledge）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中英語入門				
[授業の概要・目的]					
指定した中英語文献を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。					
[到達目標]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
[授業計画と内容]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
授業計画と内容					
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法					
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項					
第3回： Chaucer's Boece の講読およびGeoffrey Chaucerの著作全般について					
第4回： Chaucer's Boece の講読および中英語の綴り字					
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論					
第6回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語順					
第7回： Chaucer's Boece の講読および中英語の名詞・形容詞					
第8回： Chaucer's Boece の講読および中英語の代名詞全般					
第9回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語彙					
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論					
第11回： Chaucer's Boece の講読および中英語の前置詞					
第12回： Chaucer's Boece の講読および中英語の副詞					
第13回： Chaucer's Boece の講読および中英語の助動詞					
第14回： Chaucer's Boece の講読および中英語の動詞					
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括					
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。					
なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのワークショップ等を行うことがあります。					
[履修要件]					
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Eva Zehentner)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、特殊講義(和田葉子)、特殊講義(滝沢直宏)、外国語					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習 I)(2)

実習 (Lachlan Rigby Jackson) も提供 (予定) しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度 (40%) およびレポート (60%) によって評価を行います。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Larry D. Benson et al. 『The Riverside Chaucer』 (OUP) ISBN:0199552096

Norman Davis 『Chaucer Glossary』 (OUP)

講読する中英語文献については、図書館のものを使用しますが、もし中英語文献への理解を深めたい、将来的に卒業論文等でも扱ってみたいと思う場合は、上記のThe Riverside ChaucerおよびChaucer Glossaryを購入することをお勧めします。The Riverside Chaucerは、ペーパーバックで比較的安価に入手することが可能です。

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

中英語テキストの予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学230

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回	Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について				
第2回	"The Sisters" (1-149)				
第3回	"The Sisters" (150-305)				
第4回	"An Encounter" (1-150)				
第5回	"An Encounter" (151-301)				
第6回	"Araby" (1-110)				
第7回	"Araby" (111-220)				
第8回	"Evelyn" (1-105)				
第9回	"Evelyn" (105-168)				
第10回	批評文献の読解(1) "The Sisters"; "An Encounter"				
第11回	批評文献の読解(2) "Araby"; "Evelyn"				
第12回	ChatGPTを用いた作品読解の試みー生成AIの可能性と限界				
第13回	レポートの書き方・文献調査法について				
第14回	予備回				
第15回	まとめ・質疑応答				
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学231

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について 第2回 "Two Gallants" (1-194) 第3回 "Two Gallants"(195-381) 第4回 "The Boarding House" (1-142) 第5回 "The Boarding House" (143-261) 第6回 "A Little Cloud" (1-160) 第7回 "A Little Cloud" (161-388) 第8回 "A Little Cloud" (389-496) 第9回 "Counterparts" (1-182) 第10回 "Counterparts" (182-400) 第11回 "Clay"(1-120) 第12回 "Clay"(121-240) 第13回 "A Painful Case" (1-162) 第14回 "A Painful Case" (163-348) 第15回 まとめ・質疑応答					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学232

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Interpreter of Maladiesを読むーアジア系アメリカ文学研究入門				
[授業の概要・目的]					
<p>インド系作家Jhumpa Lahiriの_Interpreter of Maladies_を読みます。2000年にピューリッツァー賞を受賞した本作は、インド系、パキスタン系の人々のアメリカでの暮らしをhighly readableな筆致で記しています。20世紀後半～21世紀アメリカ文学における特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の興隆を挙げることが出来ますが、本授業においてその代表作を読むことで、奥深いアジア系アメリカ文学の世界に足を踏み入れるきっかけを作ることが出来るでしょう。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 英語で書かれた小説を読み、その読書体験を他者と共有する 2) 20世紀後半のアメリカ文学の一大潮流であるアジア系アメリカ文学の代表作を読む 3) 現代アメリカにおける「移民」のフィクションでの捉え方を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者・作品紹介 第2回：A Temporary Matterを読む 第3回：When Mr. Pirzada Came to Dineを読む 第4回：Interpreter of Maladiesを読む 第5回：A Real Durwanを読む 第6回：Sexyを読む 第7回：Mrs. Sen'sを読む 第8回：This Bleed Houseを読む 第9回：The Treatment of Bibi Haldarを読む 第10回：The Third and Final Continentを読む 第11回：Hell-Heavenを読む 第12回：映画_The Namesake_鑑賞 第13回：レポートワークショップ 第14回：作品全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

【教科書】

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学233

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国系・日系女性作家の短編を読む アジア系アメリカ文学研究入門				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では20世紀に活躍した中国系・日系女性作家の短編を読みます。20世紀後半～21世紀アメリカ文学の特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の躍進が挙げられますが、本授業を通じて、中国系および日系移民の歴史を辿ると同時に、彼/彼女たちの歩みがどのようにフィクションの世界で表現されたかを学びます。取り上げる作家は、Jade Snow Wong、Maxine Hong Kingston、Amy Tan、Fae Myenne Ng、Hisae Yamamotoです。</p>					
【到達目標】					
<p>中国系、日系アメリカ人作家による短編を読むことで、アジア系アメリカ文学に親しむ。 英語で書かれた小説の読み方を学習する。 アメリカ小説における移民の表象を学ぶ。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および中国系、日系移民の歴史について 第2回：A Measure of Freedomを読む 第3回：No Name Womanを読む 第4回：Two Kindsを読む 第5回：A Red Sweaterを読む 第6回：Seventeen Syllablesを読む 第7回：The Legend of Miss Sasagawaraを読む 第8回：Yoneko's Earthquakeを読む 第9回：Morning Rainを読む 第10回：The Eskimo Connectionを読む 第11回：Underground Ladyを読む 第12回：A Day in Little Tokyoを読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>毎回の授業後にメールにてコメントシートを提出(20%)・発表(40%; 予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分か</p>					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

ら30分ほどの長さとする(残り時間は参加者全員によるディスカッション)。

[教科書]

テキストはすべてPandA経由で配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと(毎回およそ15~20ページほどの分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学234

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	War Poems講読				
[授業の概要・目的]					
<p>第一次世界大戦を契機に、またはその経験をした詩人によって書かれた詩をWar Poemsと呼ぶ。こうした詩の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 下記指定テキストに収録された詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね一篇を読み進めることを目指す。</p> <p>扱う詩人としては、Thomas Hardy, Edward Thomas, Siegfried Sassoon, Rupert Brooke, Wilfred Owen, Edmund Blundenを予定しているが受講者の希望も考慮する。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>					
[履修要件]					
2-4回生を対象とした講読の授業					
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

1. 第2週の授業開始前までに提出を求める、第一次世界大戦と英国の関係についてのレポート40%。これにより詩作品が生まれた背景を理解することを目的とする。詳細については第1週に指示をするので必ず出席すること。提出は単位取得の必要条件である。
2. 到達目標の達成度に基づく平常点60%。正当な理由なく2回欠席した場合は以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Tim Kendall, ed 『Poetry of the First World War』 (Oxford UP, 2014) ISBN:9780198703204

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学235

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)を読む				
[授業の概要・目的]					
George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)の読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。オーウェルが社会問題として捉えていた拝金主義や商業主義の問題、芸術の衰退、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。サブテキストとして、John CareyのThe Intellectuals and the Masses: Pride and Prejudice Among the Literary Intelligentsia 1880-1939も参照予定である。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 Introduction 第2回 pp.1-22 (ch. 1) 第3回 pp.23-38 (ch. 2) 第4回 pp.39-66 (ch. 3) 第5回 pp.67-86 (ch. 4) 第6回 pp.87-112 (ch. 5) 第7回 pp.113-135 (ch. 6) 第8回 pp.136-168 (ch. 7) 第10回 pp.169-197 (ch. 8) 第11回 pp.198-226 (ch. 9) 第12回 pp.227-247 (ch. 10) 第13回 pp.248-269 (ch. 11) 第14回 pp.270-277 (ch. 12) 第15回 まとめ・質疑応答					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13：30～15：00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学236

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	John Updikeの短篇を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀後半を中心に活躍したアメリカの小説家John Updike (1932-2009)の異色短篇2篇、"Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"と"Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を精読する。短篇集Pigeon Feathers (1962)に収録されたこれら2作は、奇妙に長いタイトル、バラバラのエピソードを連ねたような一見散漫な構成、小説ともエッセイともつかない語り口などを共通点として持つ。不思議な作品だが、アップダイク文学の小宇宙といった濃密な味わいがある。文章はやや難しめ。</p>					
[到達目標]					
<p>丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業では基本的に、訳読+参加者間の意見交換の形でテキストを丁寧に読んでいく。各作品を読み終えたところで、受講者の発表をもとに参加者全員で作品全体について話し合うディスカッションの回を設ける予定。</p> <p>おおよその進行予定は以下のとおり。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 "Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"を読む 第3回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第4回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第5回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第6回 "Blessed Man of Boston..."：まとめとディスカッション 第7回 "Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を読む 第8回 "Packed Dirt..."を読む 第9回 "Packed Dirt..."を読む 第10回 "Packed Dirt..."を読む 第11回 "Packed Dirt..."を読む 第12回 "Packed Dirt..."を読む 第13回 "Packed Dirt..."を読む 第14回 "Packed Dirt..."：まとめとディスカッション 第15回 フィードバック</p>					
<p>学期末には、<u>どちらか</u>ないし<u>両方</u>の<u>作品</u>を<u>英語</u>または<u>日本語</u>で<u>論じる</u><u>レポート</u>を提出してもらう。</p> <p style="text-align: right;">英語学英文学(講読)(2)へ続く</p>					

英語学英文学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

【教科書】

使用しない
テキストはプリントで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学237

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Daddy-Long-Legsを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業ではDaddy-Long-Legsを読みます。日本では『あしながおじさん』のタイトルで親しまれている本作ですが、原文で読むと、今から百年以上前に書かれたとは思えぬほど、生き生きとした語り口で綴られていることに驚きを感じることでしょう。本授業を通じて、英語で小説を読むことの楽しさを学んでください。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれた小説の読解法を学ぶ 書簡体小説の分析方法を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション--本授業で取り上げる作家たちについて 第2回：Daddy-Long-Legsを読む(1) 第3回：Daddy-Long-Legsを読む(2) 第4回：Daddy-Long-Legsを読む(3) 第5回：Daddy-Long-Legsを読む(4) 第6回：Daddy-Long-Legsを読む(5) 第7回：Daddy-Long-Legsを読む(6) 第8回：Daddy-Long-Legsを読む(7) 第9回：Daddy-Long-Legsを読む(8) 第10回：Daddy-Long-Legsを読む(9) 第11回：Daddy-Long-Legsを読む(10) 第12回：Daddy-Long-Legsを読む(11) 第13回：Daddy-Long-Legsを読む(12) 第14回：Daddy-Long-Legsを読む(13) 第15回：まとめ+フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学(講読)(2)

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Webster, Jean 『Dady-Long-Legs and Dear Enemy』 (Penguin Classics) ISBN:0143039067 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, written assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.					
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.					
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”					
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.					
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).					
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”					
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples					
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).					
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji					
英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く					

英語学英文学(外国語実習)(2)

Reading: “ Chionji ” (handout)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan

Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions

Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

英語学英文学(外国語実習)(3)へ続く

英語学英文学(外国語実習)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film "Water, the Lifeblood of Kyoto" (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 "Dry Landscapes"; pp. 133-138 "Tea Garden" "Tea Room".</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, "The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan" (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, "Machiya Townhouses" (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film "Traditional Skills in the Kyoto State Guest House" (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p>					
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学(外国語実習)(2)

9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.
Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters from textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

英語学英文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学240

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 #8211 Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Change (1) Endangered Languages & language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Language and Globalization</p> <p>13 (4) Global Englishes</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613
『 』

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学241

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics? 2 Module 1: Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI 3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication 4 (3) Are we losing the ability to communicate with one another? 5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload ' 6 Module 2: Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies 7 (2) Official Languages 8 (3) Revitalizing Endangered Languages & Language Rights 9 (4) Language Landscapes 10 Module 3: Language & Education (1) Discourses about Japanese Language Learners 11 (2) Bilingual Education 12 (3) Recent Directions in Language Education 13 (4) The Future of Language Learning 14 Presentation Workshop & Final Test 15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%;
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学242

科目ナンバリング		U-LET19 13502 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(アメリカ文学)(講義A) American Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学史 I				
[授業の概要・目的]					
<p>植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学の流れを振り返る。全15回の授業のうち、前半部はピューリタニズム・理神論・アメリカ啓蒙思想といった宗教・思想的話題が中心となる。後半部は、アメリカという歴史の浅い国において独自の「文学」を確立せんとさまざまな作家が苦闘した様子を追うことが主眼となる。本授業を通じて、アメリカ文学が近代性を獲得するまでの道程を包括的に把握することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
19世紀末までのアメリカ文学および思潮の流れを概覧し、文学における英文解釈法を学ぶ。					
[授業計画と内容]					
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論--新大陸の発見</p> <p>第2回：Jonathan Edwards/ Anne Bradstreet--ピューリタニズムの文学</p> <p>第3回：Benjamin Franklin--アメリカ啓蒙主義と理神論</p> <p>第4回：Ralph Waldo Emerson--超越主義：思想編</p> <p>第5回：Henry David Thoreau--超越主義：実践編</p> <p>第6回：Nathaniel Hawthorne--ロマンスとノヴェル</p> <p>第7回：Herman Melville--小説と世界</p> <p>第8回：Edgar Allan Poe--象徴主義</p> <p>第9回：Walt Whitman--詩と民主主義</p> <p>第10回：Emily Dickinson--詩と観念</p> <p>第11回：奴隷制度と文学--Harriet Beecher Stoweを中心に</p> <p>第12回：アメリカ家庭小説の系譜</p> <p>第13回：Mark Twain--口承文学と小説</p> <p>第14回：Henry James--近代小説</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>					
[履修要件]					
アメリカ文学(講義B)と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。					
-----系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)へ続く-----					

系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎授業後にメールにて提出するコメント（30％）と期末試験（70％）により評価する。優れたコメントは次回の授業において紹介する。持ち込み不可の期末試験では、授業で触れた事項の理解度を確認する。

[教科書]

使用しない
資料はプリントにて配布する。

[参考書等]

（参考書）

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485（初期から現代に至るまでの主要作家の紹介。各作家に付されている参考文献が有用。）

[授業外学修（予習・復習）等]

期末試験では授業内で取りあげたテキストから出題される。問題は講義内容を踏まえたものなので、試験対策として念入りな復習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学243

科目ナンバリング	U-LET19 13503 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(アメリカ文学)(講義B) American Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学史				
[授業の概要・目的]					
19～20世紀転換期から現在にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。					
[到達目標]					
アメリカの文学ならびにその背景となる文化に関する包括的な知識を習得すること、文学的な英語表現に親しむこと、アメリカ文学を本格的に学んでいくための土台を築くことを目的とする。					
[授業計画と内容]					
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：自然主義(Crane, Norris, Dreiserなど)</p> <p>第3回：Wharton, Cather, Anderson</p> <p>第4回：モダニズムと詩(Pound, Eliot, Steinなど)</p> <p>第5回：Hemingwayと失われた世代</p> <p>第6回：Fitzgeraldと1920年代</p> <p>第7回：1930年代の文学(Wolfe, Steinbeck, Westなど)</p> <p>第8回：Faulknerと南部文学</p> <p>第9回：演劇(O'Neill, Williams, Millerなど)</p> <p>第10回：アフリカ系文学(Wright, Ellison, Morrisonなど)</p> <p>第11回：ユダヤ系文学(Bellow, Malamud, Rothなど)</p> <p>第12回：その他戦後文学(Nabokov, Updikeなど)</p> <p>第13回：ポストモダン(Barth, Pynchonなど)</p> <p>第14回：その後の文学</p> <p>第15回：フィードバック</p> <p>(以上はあくまで予定であり、前期の講義A(アメリカ文学史I)との兼ね合いや、各回の話の進み具合によっては、上記のトピックをすべて扱いきれない場合もあります)</p>					
[履修要件]					
アメリカ文学(講義A)と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。					
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)へ続く -----					

系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（50％）とレポート（50％）により評価する。期末試験では、アメリカ文学・文化に関する基礎知識の習得度を評価する。レポートは、授業で紹介したアメリカ文学作品（長篇小説）について自由に論じるというもので、読解力、思考力、論述力、とりわけ小説を独創的におもしろく読む能力を評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』（南雲堂）ISBN:978-4523292432

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485

竹内理矢・山本洋平編 『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623090778

[授業外学修（予習・復習）等]

アメリカ文学の世界への導入を目的とした授業なので、予習、復習等は特に求めない（必要のある場合は授業中に指示する）。ただしその分の時間を使って、授業で紹介するアメリカ文学作品をなるべく多く読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学244

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Fitzgerald, The Great Gatsbyを読む				
[授業の概要・目的]					
F. Scott Fitzgeraldの代表作The Great Gatsby (1925)を精読しながら、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、人種、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。あわせて作品の映画化(アダプテーション)についても考える。					
[到達目標]					
文学テキストを精確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Great Gatsbyおよびその作者Fitzgeraldについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらおう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	Chapter 1を読む				
第3回	Chapter 2を読む				
第4回	Chapter 3を読む				
第5回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第6回	Chapter 4を読む				
第7回	Chapter 5を読む				
第8回	Chapter 6を読む				
第9回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第10回	Chapter 7を読む				
第11回	Chapter 8を読む				
第12回	Chapter 9を読む				
第13回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第14回	総論とまとめ				
第15回	フィードバック				
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

F. Scott Fitzgerald 『The Great Gatsby』（Penguin）ISBN:978-0141182636

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。また、有名な作品で翻訳も多数あるので、開講前にざっとでも一度通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学245

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ現代文学における病の表象について The Gifts of the Bodyを読む				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業は、Rebecca BrownのThe Gifts of the Body (1994)を読みます。エイズ患者のホームケア・ワーカーを語り手に据えた本作は、「病」によってもたらされる種々の二分法(患者と健常者、寿命と病死、家族と他者)について省察を呼びかけるものです。現代アメリカではどのように「病」が小説で描かれるのか、本作の精読によって学ぶことを目的とします。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における「病」の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
【授業計画と内容】					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Rebecca Brownと1990年代におけるエイズについて 第2回：The Gift of Sweatを読む 第3回：The Gift of Wholenessを読む 第4回：The Gift of Tearsを読む 第5回：The Gift of Skinを読む 第6回：The Gift of Hungerを読む 第7回：The Gift of Deathを読む 第8回：The Gift of Speechを読む 第9回：The Gift of Sightを読む 第10回：The Gift of Hopeを読む 第11回：The Gift of Mourningを読む 第12回：The Gifts of the Body全体を振り返る1 第13回：The Gifts of the Body全体を振り返る2 第14回：レポートワークショップ 第15回：【総論】The Gifts of the Bodyと小説ジャンルについて</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>毎授業後のメールでのコメントシートの提出(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキスト</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

トに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

[教科書]

Brown, Rebecca 『The Gifts of the Body』 (Harper Perennial, 1995) ISBN: 9780060926533 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

受講者は、翻訳で構わないので、第2回目授業までに一通り作品全体を読んでおくこと

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学246

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカ出身の両親を有するLenny Henry作の一人芝居August in England (2023)を取り上げ、そこに見られるWest Indiesと英国との交流の歴史、ならびに英国社会の文化的多様性を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は</p> <p>a) 戯曲テキストの講読</p> <p>b) 講読する内容と連動した、指定のトピックに関するプレゼンテーション(担当者を指名する)</p> <p>c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション</p> <p>の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験により毎回の内容は前後することがある。</p>					
<p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / 戯曲テキストの読み方とAugust in England の概略</p> <p>第2週 講読: August in England scene 1 / プレゼンテーション・トピック: Windrush</p> <p>第3週 scene 2 / カリブ海地域の植民地化の歴史と現状</p> <p>第4週 scene 3 / 英国におけるfootballとcricket</p> <p>第5週 scene 4 / Notting Hill Carnivalとカリブ海地域の音楽、食文化</p> <p>第6週 scene 5 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第7週 scene 6 / 現在の英国政治における移民問題</p> <p>第8週 scene 7 / 英国における南アジア系移民の歴史と現状</p> <p>第9週 scene 8 / 英国における地域格差</p> <p>第10週 scene 9 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第11週 scene 10 (同上)</p> <p>第12週 scene 11 / Windrush Scandal</p> <p>第13週 英国における多文化主義、異文化交流の歴史と文学</p> <p>第14週: 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

第15週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 30%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 30%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Lenny Henry 『August in England』 (Faber, 2023) ISBN:978-0571386437

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学247

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」				
[授業の概要・目的]					
<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。この際、昨今注目を浴びている生成AIのリテラシーと精読・翻訳の作業を言語理解に合流させることで、生成AIの利用が当たり前になる世代に対するコミュニケーションと教育方法を模索する。この目的のため、異文化性や固有の歴史性が埋め込まれた文学テキストの読解を中心に授業を進め、最終的に受講者には、生成AIによってより豊かな解釈可能性をもつAI-Augmented Textを提出してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 4) 異文化コミュニケーションにとっての文学の重要性を理解している。 5) 生成AIのリテラシーを習得し、その適正な利用方法を理解している。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction：新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」</p> <p>第2回 異文化理解の架橋と断絶 生成AIが異文化コミュニケーションにとってもちうる可能性と限界を検討する。</p> <p>第3回 「テキスト共同体」(Brian Stock)と「解釈共同体」(Stanley Fish) 異質な思考や文化的背景をもつ他者とコミュニケーションが可能な場を構想する。</p> <p>第4回 文学作品の原文精読(1) AIによる生成結果を信用しすぎないようにするための方法として、Oxford English Dictionaryを用いて、英語で書かれた短編作品を丹念に読解し、close-readingの方法に習熟する。</p> <p>第5回 文学作品への注釈付け(2) 前回扱った作品に注釈を施し、多様な歴史的、社会的、文化的意味によって織りなされたテキストであることの意味を深める。</p> <p>第6回 文学作品の翻訳(1) 異文化間コミュニケーションにおける翻訳の重要性を理解するために、グループ間で翻訳の実践を行う。</p> <p>第7回 文学作品の翻訳(2) 前回の翻訳に対して既存の複数の翻訳を比較し、翻訳の諸問題を理解する。</p> <p>第8回 ChatGPTを用いた文学作品の読解の試み 生成AIを通じて文学作品を読解・翻訳し、解釈や訳語の不自然さや妥当性を検討する。</p> <p>第9回 ChatGPTを用いた文学作品の「続編」作成の試み 生成AIを通じて文学作品を創造的に拡張し、原文テキストに埋め込まれた歴史的、社会的、文化的意味がどのようにして拡張され、ある</p>					
アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

いは変容を受けるのかを考察する。

第10回 文学作品とテキスト生成、音声生成 提出課題となるAI-Augmented Textの準備作業を行い、生成物に埋め込まれた「異文化性」を理解する。

第11回 文学作品と画像生成 前週と同様にAI-Augmented Textの作成作業を行う。文学作品の情景描写文から生成AIによる挿絵の作成の試みると同時に、AIによるハルシネーションや過剰/過少生成を見破るリテラシーを手に入れる。

第12回 AI-Augmented Text作成の試み(1) 発表グループ1

第13回 AI-Augmented Text作成の試み(2) 発表グループ2

第14回 講評とグループディスカッション 12,13回で発表されたAI-Augmented Textに対して講評を行い、その後グループに分かれて討議を行う。

第15回 まとめと質疑応答

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・提出物・口頭発表(60%)と学期末に提出する課題(40%)によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する配布物を事前に予習しておくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲や学習内容を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30~15:00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Margaret Atwoodの詩の読解と翻訳				
[授業の概要・目的]					
この授業では、カナダの詩人・作家であるマーガレット・アトウッドが、1968年に発表した第2詩集『あの国の動物たち』(The Animals in That Country, 1968)の読解と翻訳を行う。人間と動物、人間と環境の関係性や境界を問い直す本詩集は、動物倫理や環境問題といった今日的な問題へ接続できるだろう。また、アトウッドの評論『サバイバル』(Survival, 1972)を参照し、比較文化的視座から動物表象について考える。					
[到達目標]					
この授業を通じ、詩の読解能力を養うとともに、文芸翻訳に取り組む。また、比較文化的視座から動物表象について考察することにより、人間が動物を描くことの意味について理解する。					
[授業計画と内容]					
1.Introduction 2.The animals in that country 3.Attitudes towards the mainland 4.The green man 5.At the tourist centre in Boston 6.A night in the Royal Ontario Museum 7.River 8.What happened 9.Roominghouse, winter 10.It is dangerous to read newspaper 11.Progressive insanities of a pioneer (1) 12.Progressive insanities of a pioneer (2) 13.Speeches for Dr Frankenstein (1) 14.Speeches for Dr Frankenstein (2) 15.Speeches for Dr Frankenstein (3)					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

[教科書]

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポストモダン・アメリカ小説研究 Jhumpa Lahiriを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Jhumpa Lahiri (1967-) の第二短篇集Unaccustomed Earth (2008) および先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、現代アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、インド(ベンガル)系アメリカ移民である作者自身の出自を反映した同書の収録作品を講読する。</p>					
[到達目標]					
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテクストを読み解く批評眼を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 “Unaccustomed Earth”(1) 第3回 “Unaccustomed Earth”(2) 第4回 “Hell-Heaven” 第5回 “A Choice of Accommodations”(1) 第6回 “A Choice of Accommodations”(2) 第7回 “Only Goodness”(1) 第8回 “Only Goodness”(2) 第9回 “Nobody's Business”(1) 第10回 “Nobody's Business”(2) 第11回 “Once in a Lifetime” 第12回 “Year's End” 第13回 “Going Ashore” 第14回 エッセイ・インタビューおよび先行研究の概観 第15回 授業のまとめ・フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Jhumpa Lahiri 『Unaccustomed Earth』（Vintage Books, 2009）ISBN:978-0-307-27825-8

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』（Manchester UP, 2017）

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学250

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokov _The Luzhin Defense_ 研究				
[授業の概要・目的]					
<p>Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説_The Luzhin Defense_ (1963)を精読する。1930年に出版された、チェス名人を主人公とするロシア語小説_Zashichita Luzhina_の英語版である本作は、ナボコフの「ロシア語小説のうち、もっとも『ぬくもり』のある」作品であると自身が認めるものである。その「ぬくもり」や、散りばめられたさまざまなモチーフ、テーマ(とりわけ「音楽」のテーマ)を感じながら読み進める。</p>					
[到達目標]					
<p>技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨN 第2回 Chapter 1 輪読 第3回 Chapter 2 輪読 第4回 Chapter 3 輪読 第5回 Chapter 4 輪読 第6回 Chapter 5 輪読 第7回 Chapter 6 輪読 第8回 Chapter 7 輪読 第9回 Chapter 8 輪読 第10回 Chapter 9 輪読 第11回 Chapter 10 輪読 第12回 Chapter 11 輪読 第13回 Chapter 12 輪読 第14回 Chapter 13 輪読 第15回 Chapter 14 輪読</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析して</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

いるか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『The Luzhin Defense』 (Penguin, 2000) ISBN:ISBN-10: 0141185988

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

一回の授業で、できれば1章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学(1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学(2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学(3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像(1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像(2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像(3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

中間レポート、最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
<p>日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究の関係 5回：生成文法の視点から見た語法文法研究 6回：動的文法理論と語法文法研究の関係 7回：動的文法理論の視点から見た語法文法研究 8回：認知言語学と語法文法研究の関係 9回：認知言語学の視点から見た語法文法研究 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究の関係 12回：英語史の視点からの語法文法研究 13回：コーパスと語法文法研究の関係 14回：コーパスを用いた語法文法研究 15回：まとめ</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	抒情詩の語り手について考えるーW. B. イェイツの中後期の詩作品を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>抒情詩における語り手をテーマに据えながら、1920年代から30年代にかけて書かれた円熟期のイェイツの詩作品を精読する。"Meditations in Time of Civil War," "Among School Children," "Leda and the Swan," "Crazy Jane poems," "Man and the Echo," "The Curse of Cromwell"などを予定している。</p> <p>批評家Jonathan Cullerによると、近代以降の抒情詩には、語り手の思考プロセスの模倣ではなく、それを表現したものが描かれるという。そのような指摘をふまえ、本講義では、イェイツの中後期の詩作品において語り手の思考プロセスがどのように表現されているか考える。さらに、講義の後半では同時代に発表された他の詩人の作品を併せて読み、比較対象としたい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション、授業の進め方についての説明				
第2回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第3回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第4回	W. B. イェイツ "Leda and the Swan"				
第5回	W. B. イェイツ "Among School Children"				
第6回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第7回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第8回	W. B. イェイツ "Man and the Echo"				
第9回	W. B. イェイツ "The Curse of Cromwell"				
第10回	T. S. エリオットの詩を読む				
第11回	T. S. エリオットの詩を読む				
第12回	W. H. オーデンの詩を読む				
第13回	W. H. オーデンの詩を読む				
第14回	まとめ				
第15回	フィードバック				
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。
口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。
授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

【その他(オフィスアワー等)】

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charlotte Brontë, *Jane Eyre*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』は、時代を超えて愛読され、映画化され、批評されてきた。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。ヴィクトリア朝という作品の時代背景についても知識を増やし、これまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家への影響、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(授業の進め方の説明など) 第2回 *Jane Eyre* Chapter 1~2と小説の書き出しについて 第3回 *Jane Eyre* Chapter 3~4 第4回 *Jane Eyre* 映画鑑賞(Chapter 5~10) 第5回 *Jane Eyre* Chapter 11~13 第6回 *Jane Eyre* Chapter 14~16 第7回 *Jane Eyre* Chapter 17~19 第8回 *Jane Eyre* Chapter 20~23 第9回 *Jane Eyre* Chapter 24~26 第10回 *Jane Eyre* Chapter 27~28 第11回 *Jane Eyre* Chapter 29~32 第12回 *Jane Eyre* Chapter 33~35 第13回 *Jane Eyre* Chapter 36~38 第14回 先行研究と語り直しについて 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charlotte Brontë 『Jane Eyre』（Penguin）ISBN:9780141441146

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学256

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学257

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life
Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction
Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)
Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)
Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West
Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets
Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 10%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シェイマス・ヒーニーの初期の詩を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>北アイルランドのデリー州出身のシェイマス・ヒーニー(1939-2013)は、アイルランドのみならず英語圏で広く親しまれている現代詩人のひとりである。本講義では、ヒーニーの第一詩集Death of a Naturalist(1966)、第二詩集Door into the Dark(1969)、第三詩集Wintering Out(1972)所収の作品を精読する。これらの詩では、少年時代の回想、田舎暮らしや自然、詩の創作、アイルランドの政治的状況などのテーマが扱われる。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、英語の注釈、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>毎回の授業は作品の朗読、および口頭発表とディスカッションを中心に進める。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション：シェイマス・ヒーニーについて、および作品と関連する社会的文脈、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第3回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第4回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第5回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第6回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第7回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第8回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第9回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第10回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第11回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第12回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第13回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

授業計画は、状況によって変更することがあります。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	北海道大学大学院文学研究院 竹内 康浩 教授	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エドガー・アラン・ポーとその影響				
[授業の概要・目的]					
<p>探偵小説の始祖とされる19世紀米国作家エドガー・アラン・ポーの短編小説を読みながら、作家がいかに登場人物の混迷を描き、さらに読者を煙に巻くか、すなわち彼の創作原理を考察します。その原理とは、物理的な鍵のようなもので、謎をロックするときにもアンロックするときにも使えます。また応用編として、その原理を使ってポー以外の作家による作品も読み解いてみたいと思います。</p>					
[到達目標]					
<p>エドガー・アラン・ポーの作品を読むことで、彼の創作原理を理解し、その原理を使用して、ひろく文学作品を考察することができるようになります。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。</p>					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回、2回："Thou Art the Man"(「お前が犯人だ」)を読む(講義) ・ 3回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回、5回："A Tale of the Ragged Mountains"(「鋸山綺譚」)を読む(講義) ・ 6回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
3日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 7回、8回："The Murders in the Rue Morgue"(「モルグ街の殺人」)を読む(講義) ・ 9回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
4日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10回、11回："The Purloined Letter"(「盗まれた手紙」)を読む(講義) ・ 12回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
5日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 13回、14回："The Black Cat"(「黒猫」)を読む(講義) ・ 15回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表（４０％）、授業での質疑応答（２０％）、レポート（４０％）で総合的に評価する。

【教科書】

エドガー・アラン・ポーの作品（英語）は以下のサイトで全て読むことができます。

<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

授業では、上記のマボット版を使用します。（ページ数に言及する際、この版のページを用います）

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講までに「授業計画」で挙げた諸作品を以下のサイトで熟読しておいて下さい。<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

余裕のある人は"The Fall of the House of Usher"と"The Sphinx"も読んでみて下さい。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、qze11357@gmail.com です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Investigating constructional alternations in recent English				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のEva Zehentner先生(チューリッヒ大学)が担当しますが家入が補助します。Zehentner先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Syntactic alternations most basically refer to cases where “two or more ways of saying the same thing” (Labov 1972: 271) are available, i.e. where two formally distinct patterns express equivalent or similar meanings. For example, in the well-known English dative alternation, a nominal pattern (give the student a book) is more or less interchangeable with a prepositional pattern (give a book to the student). Such alternations have featured centrally in most, if not all, theoretical approaches to syntax (see e.g. Pijpops 2020). Typical issues that have been raised in their regard are to determine the precise relation between the members of an alternation and its theoretical modelling, with e.g. one pattern postulated to underlie the other in deep structure, or both patterns being represented as largely independent from each other (e.g. Goldberg 1995; Rappaport Hovav & Levin 2008; and many others, on the English dative alternation). Furthermore, the factors impacting the choice between alternating variants have received ample attention, investigating the effect of language-internal properties like semantic or pragmatic differences or processing-related features, but also sociolinguistic, external predictors such as variety or genre (e.g. Grafmiller & Szmrecsanyi 2018). In Construction Grammar specifically, alternations were disregarded for some time (e.g. Goldberg 1995, 2006), but have been met with renewed interest ever since Cappelle’s (2006) seminal work on ‘allostructions’ and discussions on ‘horizontal’ links (also Perek 2012, 2015; Ungerer forthc.; for a recent overview of relevant developments see Zehentner 2023).</p> <p>The seminar will introduce relevant concepts and theoretical questions regarding syntactic alternations in Construction Grammar, and will use large standard corpora of contemporary and recent historical English to allow students to carry out research projects on selected alternation phenomena. Specifically, we will use corpora from the Mark Davies family available at www.english-corpora.org, such as COCA (Corpus of Contemporary American English), COHA (Corpus of Historical American English) and the BNC (British National Corpus), among others, which cover a wide range of genres and different timeframes. On the basis of few selected alternation phenomena, students will be guided in their research process, learning how to find topics, formulate specific questions, retrieve and annotate data, as well as analyse and interpret their findings. This will be done in a step-by-step, accessible, and hands-on way, with students receiving specific input on methodological and theoretical aspects of alternation studies.</p>					
[到達目標]					
<p>The goal of the course is to introduce students to syntactic alternations from a Construction Grammar perspective, discussing (i) theoretical questions that arise when dealing with variation between formally or functionally overlapping constructions, and (ii) providing a hands-on introduction to investigating</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

alternations with corpus data in contemporary and recent historical English. On the basis of representative phenomena such as the English dative alternation (gave them a book vs gave a book to them), the genitive alternation (the book 's pages vs the pages of the book), the particle alternation (take your shoes off vs take off your shoes), and the comparative adjective alternation (easier vs more easy), students will be familiarised with the history of alternation research in Construction Grammar, and will learn how to set up a small corpus research project on the alternations in question: This will include practical guidance on how to retrieve relevant data from corpora, how to operationalise factors that may impact the alternations, and how to interpret findings in a constructionist framework.

【授業計画と内容】

1. Introduction to the basics of Construction Grammar
2. Syntactic alternations and their treatment in Construction Grammar
3. Case studies: 4 (in)famous alternations in English
4. Research design I: topics and research questions
5. Research design II: dependent and independent variables
6. Corpus linguistics: standard corpora of English and their use
7. Retrieving alternations from corpora
8. Annotating and analysing alternation data (1)
9. Annotating and analysing alternation data (2)
10. Descriptive statistics (summing up results, observing frequency trends)
11. Inferential statistics (using Excel and R to run statistical tests and models)
12. Hands-on practice of descriptive and inferential statistical analysis
13. Interpreting results
14. Discussion of theoretical implications of empirical findings
15. Wrap-up on data analysis and constructionist approaches

【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,
data analyses 30%,
report (write-up of findings) 50%

【教科書】

授業中に指示する

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

【参考書等】

(参考書)

Corpora

アメリカ文学(特殊講義)(3)へ続く

アメリカ文学(特殊講義)(3)

BNC = Davies, Mark. 2004. British National Corpus (from Oxford University Press). <https://www.english-corpora.org/bnc/>.

COCA = Davies, Mark. 2008-. The Corpus of Contemporary American English (COCA). <https://www.english-corpora.org/coca/>.

COHA = Davies, Mark. 2010. The Corpus of Historical American English (COHA). <https://www.english-corpora.org/coha/>.

References

Cappelle, Bert. 2006. Particle placement and the case for “allostructions”. *Constructions* 1. 1-28. <https://doi.org/10.24338/cons-381>.

Goldberg, Adele. 1995. *Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.

Goldberg, Adele. 2006. *Constructions at work: The nature of generalization in language*. Oxford: Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/acprof:oso/9780199268511.001.0001>.

Grafmiller, Jason & Benedikt Szmrecsanyi. 2018. Mapping out particle placement in Englishes around the world. A case study in comparative sociolinguistic analysis. *Language Variation and Change* 30(03). 385-412. <https://doi.org/10.1017/S0954394518000170>.

Labov, William. 1972. *Sociolinguistic patterns*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

Perek, Florent. 2012. Alternation-based generalizations are stored in the mental grammar: Evidence from a sorting task experiment. *Cognitive Linguistics* 23(3). 601-635. <https://doi.org/10.1515/cog-2012-0018>.

Perek, Florent. 2015. Argument structure in usage-based Construction Grammar: Experimental and corpus-based perspectives. Amsterdam: Benjamins. <https://doi.org/10.1075/cal.17>.

Pijpops, Dirk. 2020. What is an alternation? Six answers. *Belgian Journal of Linguistics* 34. 283-294.

Ungerer, Tobias. forthc. Vertical and horizontal links in constructional networks: Two sides of the same coin? *Constructions and Frames*.

Zehentner 2023 Allostructions revisited. *Constructions* 15(1). 1-20. [Special Issue: 35 Years of *Constructions*]. <https://doi.org/10.24338/cons-569>.

[授業外学修（予習・復習）等]

Assigned reading

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学261

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 外国語学部・特別契約教授 和田 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期中英語文学を精読する。				
[授業の概要・目的]					
初期中英語で書かれた韻文と散文のテキストを精読しながら、古英語から中英語へと変容する過渡期の英語を観察する。この時期の英語に慣れ親しむとともに、当時の人々が読み、あるいは聴いていた文学を現代に生きる私たちも彼らとともに味わい楽しむ。					
[到達目標]					
英語史における初期中英語の特徴を理解し、グロッサリーや辞書を利用して、様々なジャンルのテキストを正確に読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
1回 イン트로ダクション 2回～14回 初期中英語で書かれた様々なジャンルの作品の抜粋を精読する。読む作品と順序は下記を予定しているが、進捗状況によって変更する可能性がある。 The Owl and the Nightingale Havelok The Fox and the Wolf Dame Sirith Saint Kenelm Lyrics 15回：総括					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
受講生は毎週、前もって与えられたテキストを精読し、授業で正確な読みを発表する(平常点:50パーセント)。初期中英語期の英語・英文学に関する課題のレポートを提出する(50パーセント)。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>(Middle English Dictionary (MED)がこのサイトで利用できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、与えられたテキストの精読をして授業に臨むことが必須である。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡方法は授業で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学262

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学 外国語学部・特別契約教授 和田 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期中英語文学を精読する。				
[授業の概要・目的]					
初期中英語で書かれた韻文と散文のテキストを精読しながら、古英語から中英語へと変容する過渡期の英語を観察する。この時期の英語の文法を理解し、テキストを正しく読む訓練をすると同時に、当時の文学作品がどのような社会背景から生まれたのか、についても考察する。					
[到達目標]					
英語史における初期中英語の特徴を理解し、グロッサリーや辞書を利用して、様々なジャンルのテキストが正確に読めるようになる。この時期に書かれた文学作品が当時の社会とどのように関わっていたのかを理解できる。					
[授業計画と内容]					
1回 インTRODクシヨン 2回～14回 初期中英語で書かれた様々なジャンルの作品の抜粋を精読する。読む作品と順序は下記を予定しているが、進捗状況によって変更する可能性がある。 The Land of Cokaygne Brut The Bestiary Ormulum Interludium De Clerico et Puella The Peterborough Chronicle Ancrene Wisse 15回：総括					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
受講生は毎週、前もって与えられたテキストを精読し、授業で正確な読みを発表する(平常点:50パーセント)。初期中英語期の英語英文学に関する課題のレポートを提出する(50パーセント)。					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>(Middle English Dictionary (MED)がこのサイトで利用できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、与えられたテキストの精読をして授業に臨むことが必須である。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡方法は授業で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Interpreter of Maladiesを読むーアジア系アメリカ文学研究入門				
[授業の概要・目的]					
<p>インド系作家Jhumpa Lahiriの_Interpreter of Maladies_を読みます。2000年にピューリッツァー賞を受賞した本作は、インド系、パキスタン系の人々のアメリカでの暮らしをhighly readableな筆致で記しています。20世紀後半～21世紀アメリカ文学における特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の興隆を挙げることが出来ますが、本授業においてその代表作を読むことで、奥深いアジア系アメリカ文学の世界に足を踏み入れるきっかけを作ることが出来るでしょう。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 英語で書かれた小説を読み、その読書体験を他者と共有する 2) 20世紀後半のアメリカ文学の一大潮流であるアジア系アメリカ文学の代表作を読む 3) 現代アメリカにおける「移民」のフィクションでの捉え方を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者・作品紹介 第2回：A Temporary Matterを読む 第3回：When Mr. Pirzada Came to Dineを読む 第4回：Interpreter of Maladiesを読む 第5回：A Real Durwanを読む 第6回：Sexyを読む 第7回：Mrs. Sen'sを読む 第8回：This Bleed Houseを読む 第9回：The Treatment of Bibi Haldarを読む 第10回：The Third and Final Continentを読む 第11回：Hell-Heavenを読む 第12回：映画_The Namesake_鑑賞 第13回：レポートワークショップ 第14回：作品全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

【教科書】

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国系・日系女性作家の短編を読む アジア系アメリカ文学研究入門				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では20世紀に活躍した中国系・日系女性作家の短編を読みます。20世紀後半～21世紀アメリカ文学の特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の躍進が挙げられますが、本授業を通じて、中国系および日系移民の歴史を辿ると同時に、彼/彼女たちの歩みがどのようにフィクションの世界で表現されたかを学びます。取り上げる作家は、Jade Snow Wong、Maxine Hong Kingston、Amy Tan、Fae Myenne Ng、Hisae Yamamotoです。</p>					
[到達目標]					
<p>中国系、日系アメリカ人作家による短編を読むことで、アジア系アメリカ文学に親しむ。 英語で書かれた小説の読み方を学習する。 アメリカ小説における移民の表象を学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および中国系、日系移民の歴史について 第2回：A Measure of Freedomを読む 第3回：No Name Womanを読む 第4回：Two Kindsを読む 第5回：A Red Sweaterを読む 第6回：Seventeen Syllablesを読む 第7回：The Legend of Miss Sasagawaraを読む 第8回：Yoneko's Earthquakeを読む 第9回：Morning Rainを読む 第10回：The Eskimo Connectionを読む 第11回：Underground Ladyを読む 第12回：A Day in Little Tokyoを読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>毎回の授業後にメールにてコメントシートを提出(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分か</p>					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

ら30分ほどの長さとする(残り時間は参加者全員によるディスカッション)。

【教科書】

テキストはすべてPandA経由で配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない(毎回およそ15~20ページほどの分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学265

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文法の面白さと英語の多様性、変化				
[授業の概要・目的]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。</p>					
[到達目標]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Languageの中から指定する章を講読し、英文法を多様な視点から再確認します。合わせて英語学関係の論文を講読し、英語の多様性、変化への理解を深めるとともに、コーパス言語学の手法や談話分析の手法を習得することを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： イントロダクション 第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(1) 第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(2) 第4回： 文法化と語彙化の視点から(1) 第5回： 文法化と語彙化の視点から(2) 第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(1) 第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(2) 第8回： 歴史社会言語学と英語研究(1) 第9回： 歴史社会言語学と英語研究(2) 第10回： 歴史語用論的なアプローチ(1) 第11回： 歴史語用論的なアプローチ(2) 第12回： 英語の標準化と規範文法 第13回： 英語の地域性 第14回： 言語接触と英語 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括</p>					
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。 なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を習得するためのワークショップ・セミナー等を行うことがあります。</p>					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[履修要件]

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Eva Zehentner）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（和田葉子）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Andreea S. Calude & Laurie Bauer 『Mysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language』（Routledge）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中英語入門				
[授業の概要・目的]					
指定した中英語文献を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。					
[到達目標]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
[授業計画と内容]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
授業計画と内容					
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法					
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項					
第3回： Chaucer's Boece の講読およびGeoffrey Chaucerの著作全般について					
第4回： Chaucer's Boece の講読および中英語の綴り字					
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論					
第6回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語順					
第7回： Chaucer's Boece の講読および中英語の名詞・形容詞					
第8回： Chaucer's Boece の講読および中英語の代名詞全般					
第9回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語彙					
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論					
第11回： Chaucer's Boece の講読および中英語の前置詞					
第12回： Chaucer's Boece の講読および中英語の副詞					
第13回： Chaucer's Boece の講読および中英語の助動詞					
第14回： Chaucer's Boece の講読および中英語の動詞					
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括					
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。					
なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのワークショップ等を行うことがあります。					
[履修要件]					
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Eva Zehentner)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、特殊講義(和田葉子)、特殊講義(滝沢直宏)、外国語					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習 I)(2)

実習 (Lachlan Rigby Jackson) も提供 (予定) しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度 (40%) およびレポート (60%) によって評価を行います。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Larry D. Benson et al. 『The Riverside Chaucer』 (OUP) ISBN:0199552096

Norman Davis 『Chaucer Glossary』 (OUP)

講読する中英語文献については、図書館のものを使用しますが、もし中英語文献への理解を深めたい、将来的に卒業論文等でも扱ってみたいと思う場合は、上記のThe Riverside ChaucerおよびChaucer Glossaryを購入することをお勧めします。The Riverside Chaucerは、ペーパーバックで比較的安価に入手することが可能です。

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

中英語テキストの予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学267

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回	Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について				
第2回	"The Sisters" (1-149)				
第3回	"The Sisters" (150-305)				
第4回	"An Encounter" (1-150)				
第5回	"An Encounter" (151-301)				
第6回	"Araby" (1-110)				
第7回	"Araby" (111-220)				
第8回	"Evelyn" (1-105)				
第9回	"Evelyn" (105-168)				
第10回	批評文献の読解(1) "The Sisters"; "An Encounter"				
第11回	批評文献の読解(2) "Araby"; "Evelyn"				
第12回	ChatGPTを用いた作品読解の試みー生成AIの可能性と限界				
第13回	レポートの書き方・文献調査法について				
第14回	予備回				
第15回	まとめ・質疑応答				
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回	Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について				
第2回	"Two Gallants" (1-194)				
第3回	"Two Gallants"(195-381)				
第4回	"The Boarding House" (1-142)				
第5回	"The Boarding House" (143-261)				
第6回	"A Little Cloud" (1-160)				
第7回	"A Little Cloud" (161-388)				
第8回	"A Little Cloud" (389-496)				
第9回	"Counterparts" (1-182)				
第10回	"Counterparts" (182-400)				
第11回	"Clay"(1-120)				
第12回	"Clay"(121-240)				
第13回	"A Painful Case" (1-162)				
第14回	"A Painful Case" (163-348)				
第15回	まとめ・質疑応答				
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	John Updikeの短篇を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀後半を中心に活躍したアメリカの小説家John Updike (1932-2009)の異色短篇2篇、"Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"と"Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を精読する。短篇集Pigeon Feathers (1962)に収録されたこれら2作は、奇妙に長いタイトル、バラバラのエピソードを連ねたような一見散漫な構成、小説ともエッセイともつかない語り口などを共通点として持つ。不思議な作品だが、アップダイク文学の小宇宙といった濃密な味わいがある。文章はやや難しめ。</p>					
[到達目標]					
<p>丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業では基本的に、訳読+参加者間の意見交換の形でテキストを丁寧に読んでいく。各作品を読み終えたところで、受講者の発表をもとに参加者全員で作品全体について話し合うディスカッションの回を設ける予定。</p> <p>おおよその進行予定は以下のとおり。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 "Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"を読む 第3回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第4回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第5回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第6回 "Blessed Man of Boston...":まとめとディスカッション 第7回 "Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を読む 第8回 "Packed Dirt..."を読む 第9回 "Packed Dirt..."を読む 第10回 "Packed Dirt..."を読む 第11回 "Packed Dirt..."を読む 第12回 "Packed Dirt..."を読む 第13回 "Packed Dirt..."を読む 第14回 "Packed Dirt...":まとめとディスカッション 第15回 フィードバック</p>					
<p>学期末には、<u>どちらか</u>ないし<u>両方</u>の作品を英語または日本語で論じるレポートを提出してもらう。</p> <p style="text-align: right;">アメリカ文学(講読)(2)へ続く</p>					

アメリカ文学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

【教科書】

使用しない
テキストはプリントで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学270

科目ナンバリング	U-LET19 23551 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Daddy-Long-Legsを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業ではDaddy-Long-Legsを読みます。日本では『あしながおじさん』のタイトルで親しまれている本作ですが、原文で読むと、今から百年以上前に書かれたとは思えぬほど、生き生きとした語り口で綴られていることに驚きを感じることでしょう。本授業を通じて、英語で小説を読むことの楽しさを学んでください。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれた小説の読解法を学ぶ 書簡体小説の分析方法を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション--本授業で取り上げる作家たちについて 第2回：Daddy-Long-Legsを読む(1) 第3回：Daddy-Long-Legsを読む(2) 第4回：Daddy-Long-Legsを読む(3) 第5回：Daddy-Long-Legsを読む(4) 第6回：Daddy-Long-Legsを読む(5) 第7回：Daddy-Long-Legsを読む(6) 第8回：Daddy-Long-Legsを読む(7) 第9回：Daddy-Long-Legsを読む(8) 第10回：Daddy-Long-Legsを読む(9) 第11回：Daddy-Long-Legsを読む(10) 第12回：Daddy-Long-Legsを読む(11) 第13回：Daddy-Long-Legsを読む(12) 第14回：Daddy-Long-Legsを読む(13) 第15回：まとめ+フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(講読)(2)

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Webster, Jean 『Dady-Long-Legs and Dear Enemy』 (Penguin Classics) ISBN:0143039067 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学271

科目ナンバリング	U-LET19 23551 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	War Poems講読				
[授業の概要・目的]					
<p>第一次世界大戦を契機に、またはその経験をした詩人によって書かれた詩をWar Poemsと呼ぶ。こうした詩の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクション あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 下記指定テキストに収録された詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね一篇を読み進めることを目指す。</p> <p>扱う詩人としては、Thomas Hardy, Edward Thomas, Siegfried Sassoon, Rupert Brooke, Wilfred Owen, Edmund Blundenを予定しているが受講者の希望も考慮する。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>					
[履修要件]					
2-4回生を対象とした講読の授業					
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

1. 第2週の授業開始前までに提出を求める、第一次世界大戦と英国の関係についてのレポート40%。これにより詩作品が生まれた背景を理解することを目的とする。詳細については第1週に指示をするので必ず出席すること。提出は単位取得の必要条件である。
2. 到達目標の達成度に基づく平常点60%。正当な理由なく2回欠席した場合は以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Tim Kendall, ed 『Poetry of the First World War』 (Oxford UP, 2014) ISBN:9780198703204

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学272

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)を読む				
[授業の概要・目的]					
George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)の読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。オーウェルが社会問題として捉えていた拝金主義や商業主義の問題、芸術の衰退、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。サブテキストとして、John CareyのThe Intellectuals and the Masses: Pride and Prejudice Among the Literary Intelligentsia 1880-1939も参照予定である。					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 pp.1-22 (ch. 1)</p> <p>第3回 pp.23-38 (ch. 2)</p> <p>第4回 pp.39-66 (ch. 3)</p> <p>第5回 pp.67-86 (ch. 4)</p> <p>第6回 pp.87-112 (ch. 5)</p> <p>第7回 pp.113-135 (ch. 6)</p> <p>第8回 pp.136-168 (ch. 7)</p> <p>第10回 pp.169-197 (ch. 8)</p> <p>第11回 pp.198-226 (ch. 9)</p> <p>第12回 pp.227-247 (ch. 10)</p> <p>第13回 pp.248-269 (ch. 11)</p> <p>第14回 pp.270-277 (ch. 12)</p> <p>第15回 まとめ・質疑応答</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13：30～15：00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学273

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.					
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.					
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”					
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.					
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).					
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”					
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples					
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).					
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji					
					アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(2)

Reading: “ Chionji ” (handout)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan

Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions

Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

----- アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く -----

アメリカ文学(外国語実習)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学274

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film "Water, the Lifeblood of Kyoto" (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 "Dry Landscapes"; pp. 133-138 "Tea Garden" "Tea Room".</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, "The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan" (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, "Machiya Townhouses" (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film "Traditional Skills in the Kyoto State Guest House" (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p>					
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(外国語実習)(2)

9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Readings and discussion questions will be assigned for each class.

アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学275

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society : Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 - Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 - Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 - Language & Change (1) Endangered Languages & language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Language and Globalization</p> <p>13 (4) Global Englishes</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学276

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language and Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics? 2 Module 1: Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI 3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication 4 (3) Are we losing the ability to communicate with one another? 5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload ' 6 Module 2: Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies 7 (2) Official Languages 8 (3) Revitalizing Endangered Languages & Language Rights 9 (4) Language Landscapes 10 Module 3: Language & Education (1) Discourses about Japanese Language Learners 11 (2) Bilingual Education 12 (3) Recent Directions in Language Education 13 (4) The Future of Language Learning 14 Presentation Workshop & Final Test 15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 13604 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永盛 克也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	レトリックと文学 - フランス文学の場合				
[授業の概要・目的]					
<p>西洋の古代から近代に至るまで、言論に関するあらゆる技術の基盤となっていたのがレトリック(弁論術・修辞学)であるとすれば、そのレトリックが創作原理に応用されたものがポエティック(詩学)であった。つまり、レトリックと文学は古代より密接な関係を持っていたわけである。近現代においては創作におけるレトリックの直接的な影響は減じ、論証と説得というその本来の目的は遠景に退き、レトリックはむしろ修辞的文彩という文体の技術に限定されて受け継がれることになった。しかしながら今日でもなお、レトリックは受容と批評の観点から文学研究の重要な参照枠であり続けている。</p> <p>その一方で、レトリックに対して古代より批判的な視点が存在したことも事実である。「真の雄弁とは雄弁を馬鹿にするものである」と述べたパスカルに代表されるように、文学は常にレトリックの超克を目指す営みであるとも言える。</p> <p>以上のような論点をフランス文学史の流れに沿って検証し、レトリックと文学が取り結ぶ緊密かつ緊張感を伴った関係について考察を加えることにする。</p>					
[到達目標]					
レトリック(弁論術・修辞学)の体系を理解すること、文学におけるレトリックの役割をフランス文学史の流れの中で理解すること、またレトリックの観点をふまえた文学作品の分析の手法を修得することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。					
<p>第1回 イン트로ダクション レトリックとは何か レトリックと文学</p> <p>第2回～第4回 西洋におけるレトリックの体系と歴史</p> <p>第5回～第6回 16世紀フランス文学におけるレトリック - モンテーニュなど</p> <p>第7回～第8回 17世紀フランス文学におけるレトリック - パスカル、コルネイユ、ラシーヌなど</p> <p>第9回～第10回 18世紀フランス文学におけるレトリック - デュマルセ、ルソーなど</p> <p>第11回～第12回 19世紀フランス文学におけるレトリック - フォンタニエ、シャトーブリアン、ユゴーなど</p> <p>第13回～第14回 20世紀フランス文学におけるレトリック - ポーラン、バルト、ジュネットなど</p> <p>第15回 まとめ</p>					
----- 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(100%)

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

(参考書)

アリストテレス 『弁論術』(岩波文庫, 1992) ISBN:978-4003360484 (戸塚七郎訳 ISBN-10: 4003360486)

クルツィウス 『ヨーロッパ文学とラテン中世』(みすず書房, 1971) ISBN:978-4622007166 (南王路, 岸本, 中村訳 ISBN-10: 4622007169)

佐藤, 松尾, 佐々木 『レトリック事典』(大修館書店, 2006) ISBN:978-4469012781 (ISBN-10: 4469012785)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で抜粋を読んだ作品を通して読んでみる。授業で紹介する関連図書を参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 13606 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 森本 淳生	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス研究入門 文学・思想・映画				
[授業の概要・目的]					
<p>17世紀から現代にいたるフランスの文学と思想を、いくつかの代表的な作品を具体的に読み解き、ときに関連する映画を鑑賞しながら、概観する授業です(フランス語の知識は前提としません)。</p> <p>フランスは17世紀前半、リシュリュー枢機卿が宰相であった時代に中央集権的な王権の基礎を固め、世紀後半、ルイ14世の親政とともに絶対王政を確立します。この時代に、ラシーヌやモリエールといった作家たちが現在まで読み継がれる古典的な文学作品を生み出しました。授業では時代の背景を押さえつつ、映画『王は躍る』(2000年、ジェラルド・コルビオ監督)を鑑賞し、関連するモリエールの諸作品 とくに『タルチュフ』(1664) について考えます。</p> <p>つづく18世紀はいわゆる啓蒙主義が花開き、モンテスキュー、ヴォルテール、ディドロ、ルソーといった錚々たる思想家・文学者が現れた時代です。授業では、こうした時代の思潮をふまえて、パリを訪れたペルシア人による文明批評の手紙という体裁で書かれた『ペルシア人の手紙』(1721)を具体的に読み解いていきます。</p> <p>フランス革命を経た19世紀については、まず、ユゴーの有名な『レ・ミゼラブル』(1862)を映画版(1957年、ジャン=ポール・ル・シャノワ監督)およびテキストの抜粋を使いながら考えてみたいと思います。ユゴーはフランス革命の成果を「ヒューマンイズム」として捉え、それが実際には必ずしも十全に実現されていない現実の世界を生きる「惨めな人々」を描き出しています。19世紀はまた、そうした赤裸々な「現実」が、バルザック、フロベール、ゾラといった作家によって小説作品に描かれた、リアリズム、自然主義の時代でもありました。授業ではその記念碑的な作品のひとつであるフロベールの『ボヴァリー夫人』(1857)について映画版(1933年、ジャン・ルノワール監督)も見ながら考えてみます。</p> <p>以上のような産業主義の発展とともに爛熟するブルジョワ社会と悲惨を強いられ貧窮する庶民の生活を特徴とする「現実世界」への強い批判として、世紀後半には象徴主義と呼ばれるある手の理想主義的な思潮が生まれてきます。授業ではその代表的な詩人であるステファヌ・マラルメの作品を、同時代の美術作品なども参照しながら紹介したいと思います。</p> <p>20世紀については、いわゆる実存主義で著名なカミュの『異邦人』(1942)を映画版(1967年、ルキノ・ヴィスコンティ監督)も見ながら考えてみましょう。これは「神が死んでしまった」現代世界において生きるとはいかなることなのかを考えるうえできわめて重要な作品です。そして最後に、現代に特徴的な、記憶と世界の迷宮的なあり方を、ほとんど呪文的とも言える言葉と息をのむほどに美しい映像によって見事に表現した、レネ・ロブ=グリエの『去年マリエンバードで』(1961)を鑑賞して終えることにしたいと思います。</p>					
系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

【到達目標】

- フランス文学について、17世紀から現代にいたる流れの概略を理解し、いくつかの代表的作品について具体的なイメージを獲得する。
- 作品分析の基本的な作業について、具体的なイメージを獲得する。

【授業計画と内容】

イントロダクション：授業の概要と進め方

17世紀(1)：ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(1)

17世紀(2)：ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(2)

18世紀(1)：啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)

18世紀(2)：啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)

19世紀(1)：ヒューマンイズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む／見る(1)

19世紀(2)：ヒューマンイズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む／見る(2)

19世紀(3)：リアリズムと近代小説 フロベール 『ボヴァリー夫人』を読む／見る

19世紀(4)：世紀末と象徴主義 マラルメを読む

20世紀前半(1)：カミュ 『異邦人』を読む／見る(1)

20世紀前半(2)：カミュ 『異邦人』を読む／見る(2)

20世紀後半(1)：レネ／ロブ＝グリエ 『去年マリエンバード』を読む／見る(1)

20世紀後半(2)：レネ／ロブ＝グリエ 『去年マリエンバード』を読む／見る(2)

まとめ

期末試験

フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50パーセント、期末試験50パーセント

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

(参考書)

横山安由美、朝比奈美知子編著 『はじめて学ぶフランス文学史』(ミネルヴァ書房、2002年)

ISBN:4-623-03490-9(コンパクトかつ充実した概説書)

永井敦子、畠山達、黒岩卓編著 『フランス文学の楽しみかた』(ミネルヴァ書房、2021) ISBN:

978-4-623-09076-1(代表的作品の解説と、興味深い数々のコラム)

モリエール(鈴木力衛訳) 『タルチュフ』(岩波文庫) ISBN:978-4003251225(たぐいまれな名訳)

モンテスキュー(田口卓臣訳) 『ペルシア人の手紙』(講談社学術文庫) ISBN:978-4065193419(解説も充実した最新訳)

ユゴー(西永良成訳) 『レ・ミゼラブル(全五冊)』(平凡社ライブラリー)

フロベール(芳川泰久訳) 『ボヴァリー夫人』(新潮文庫) ISBN:978-4102085028(読みやすい新

系共通科目(フランス文学)(講義)(3)

訳)
マラルメ(渡辺守章訳)『マラルメ詩集』(岩波文庫)ISBN:978-4003750865
カミュ(窪田啓作訳)『異邦人』(新潮文庫)ISBN:978-4102114018
ロブ=グリエ(天沢退二郎・蓮実重彦訳)『去年マリエンバートで・不滅の女』(筑摩書房、1969年)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業でとりあげる作品については、「参考書等」の欄でしめした翻訳をひとつでもよいので実際に手にとり読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。
この授業は、2023年度後期と同一の内容です。ご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 23607 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学文学部 教授 小田 涼	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス語学概論				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、フランス語の語彙や構文の分析方法を学び、言語学としてフランス語を研究するための入門的な知識を身につけることである。ときに日本語や英語と比較しながらフランス語のさまざまな表現の違いについて考え、フランス語を学問として研究するための基本的な知識を学ぶ。					
[到達目標]					
フランス語とはどういう言語であるか、語彙論、意味論、統語論、語用論などの観点からアプローチしてその全体像を把握できるようになる。フランス語学についての基礎的知識と分析方法を習得する。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合やその他の事情によりテーマの順序やテーマの一部を変更することがある。また、1つのテーマを2回の授業で扱うこともある。					
<p>第1回：ソシュールと言語学の基本概念、言語学・フランス語学とは何か。</p> <p>第2回：「持つ(avoir)」的言語と「ある(etre)」的言語 (Have languageとBe language)</p> <p>第3回：フランス語の名詞の性は何のために存在するのか</p> <p>第4回：カテゴリー化 (= 範疇化) について (1)</p> <p>第5回：カテゴリー化 (= 範疇化) について (2)</p> <p>第6回：冠詞と意味の切り分け (英語の可算名詞と非可算名詞の区別はフランス語ではどのように現れるのか)</p> <p>第7回：総称 (ものごと一般) をあらわす定冠詞単数・複数と不定冠詞単数</p> <p>第8回：名詞を修飾する形容詞の位置 「le petit Chaperon rouge (赤頭巾ちゃん) では形容詞rougeを名詞の後ろにおくのに、Blanche Neige (白雪姫) では形容詞blancheを名詞の前におくのはなぜか」</p> <p>第9回：否定：分離的否定、否定の作用域</p> <p>第10回：叙法(mode)について (直説法、条件法、接続法、命令法)</p> <p>第11回：情報構造と語順「フランス語の補語人称代名詞はなぜ動詞の前に出るのか」</p> <p>第12回：不定代名詞のonとBenvenisteの人称論</p> <p>第13回：BenvenisteによるHistoireとDiscoursの区別</p> <p>第14回：代名動詞のさまざまな用法 (再帰用法・相互用法・受動的用法)</p> <p>第15回：まとめ (フィードバック)</p>					
----- 系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(フランス語学)(講義)(2)

[履修要件]

フランス語初級を習得しているか、あるいは基本的なフランス語の文法知識があること。

[成績評価の方法・観点]

授業の後に取り組んでもらう7回から10回の課題（オンライン提出）の達成度により評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

常日頃から外国語や日本語のさまざまな現象を観察して、言葉に関する直感を磨くよう心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学280

科目ナンバリング	U-LET21 33648 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	Introduction à la versification française				
[授業の概要・目的]					
フランス詩の古典的規則（詩法）の習得を主眼とし、テキスト読解、分析、詩作実践を通してフランス詩の研究方法の入門指導をする。					
[到達目標]					
フランス詩法の基礎を理解し、フランス詩の分析手法を身につけることをめざす。					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション フランス詩の特徴について				
第2回	音節数と脚韻（1）				
第3回	音節数と脚韻（2）				
第4回	音節数と脚韻（3）				
第5回	詩作実践のフィードバック				
第6回	韻律と句切り（1）				
第7回	韻律と句切り（2）				
第8回	脚韻の種類（1）				
第9回	脚韻の種類（2）				
第10回	詩作実践のフィードバック				
第11回	音と意味（1）				
第12回	音と意味（2）				
第13回	定型詩（1）				
第14回	定型詩（2）				
第15回	詩作実践のフィードバック				
[履修要件]					
中級程度のフランス語の語学力が必要。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（授業での発表と課題の提出）が重視される（70%）。そのほかに学期末レポートが課される（30%）。					
----- フランス語学フランス文学（演習I）(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

平常点が重視されるので、次回授業分の予習を全員がすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修科目である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学281

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	Introduction à l'analyse des textes littéraires				
[授業の概要・目的]					
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、批評的文章の和訳・要約を通じてフランス文学の研究手法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。					
[到達目標]					
文学的テキストの分析手法を身につけること、中級程度のフランス語で書かれたフランス文学に関する研究文献を読めるようになること。					
[授業計画と内容]					
批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。授業は以下のプランに沿って進める。					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 文学批評テキストの抜粋を和訳（1）					
第3回 文学批評テキストの抜粋を和訳（2）					
第4回 文学批評テキストの抜粋を和訳（3）					
第5回 文学批評テキストの抜粋を和訳（4）					
第6回 文学批評テキストの抜粋を和訳（5）					
第7回 文学批評テキストの抜粋を要約（1）					
第8回 文学批評テキストの抜粋を要約（2）					
第9回 文学批評テキストの抜粋を要約（3）					
第10回 文学批評テキストの抜粋を要約（4）					
第11回 受講者による発表（1）					
第12回 受講者による発表（2）					
第13回 受講者による発表（3）					
第14回 受講者による発表（4）					
第15回 受講者による発表（5）					
[履修要件]					
中級程度のフランス語の語学力が必要。					
----- フランス語学フランス文学（演習I）(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点評価

【教科書】

授業中にプリント等を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

平常点が重視されるので、次回授業分の訳読の予習を全員がすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学282

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀フランス詩を読む				
【授業の概要・目的】					
フランス・ロマン主義を代表する作家ヴィクトル・ユゴー (Victor Hugo, 1802-1885) は『レ・ミゼラブル』や『ノートルダム・ド・パリ』といった小説で広く知られるが、詩人としても偉業を残した。本授業ではユゴーの詩集のなかでも特に評価の高い『静観詩集』 (Les Contemplations, 1856)を精読する。					
【到達目標】					
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 詩作品の読解の方法を身につける。					
【授業計画と内容】					
第1回 イントロダクション 詩人と作品の紹介 第2回～第14回 毎回数篇の詩を対象として、受講者が音読および訳読を担当するかたちで進める。文法事項や詩の技法、各詩篇の歴史的・政治的背景、詩集における位置と役割などについて補足説明を行う。 第15回 フィードバック 授業中に指示					
【履修要件】					
受講者には毎回授業の予習と積極的な参加が求められる。					
【成績評価の方法・観点】					
授業での発表(100%)					
【教科書】					
プリントを配布する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと。 (その他(オフィスアワー等)) 授業内での積極的な質問を歓迎する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学283

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ジャン=ポール・サルトル 『嘔吐』を読む				
【授業の概要・目的】					
フランスの作家・哲学者ジャン=ポール・サルトル(1905-1980)の小説『嘔吐』(1938)を取り上げ、フランス語原典で精読する。必要に応じて作品の着想源や草稿なども紹介する。					
【到達目標】					
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。					
【授業計画と内容】					
該当場面をフランス語原文で、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。授業は以下のプランに沿って進める。					
第1回 イントロダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方の説明) 第2回~第14回 Jean-Paul Sartre, La Nausée (Paris, Gallimard, 1938)の抜粋をフランス語原典で精読 第15回 総括					
【履修要件】					
受講者には丁寧な予習が求められる。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点評価					
【教科書】					
プリントを配布する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
単語の発音および構文の把握。また未習の語彙、表現、固有名を辞書等で調べておくこと。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 柴田 秀樹		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フィリップ・サボ『哲学と文学』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>哲学と文学とは、今日では一般に異なる分野とみなされている。しかし、両者の境界は必ずしも自明なものではない。フーコー研究者として知られるフィリップ・サボが2002年に上梓した著作『哲学と文学：ひとつの問題への様々なアプローチと争点』は、その表題が示すとおり、哲学と文学との錯綜した関係を正面から扱ったものである。サボはこの著作で、プラトンからデカルトを経てハイデガー、フーコー、ドゥルーズやバディウに至る哲学者たちが文学をいかに論じてきたかを概観し、哲学と文学との理想的な関係のあり方を模索している。平易でありながら広範な哲学者・作家を俎上に載せたサボの議論は、哲学を志す者にとっても、文学に関心を持つ者にとっても刺激的なものだろう。本授業ではサボの著作を読解することを通じて、フランス語能力を向上させるとともに、西洋哲学・文学に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
フランス語文献の読解能力を身に着け、哲学と文学の関係について考察するための基礎的な知識を習得する。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション(授業の進め方についての説明、分担範囲の決定および読解のための前提知識の共有)</p> <p>第2回～第14回 担当者は割り当てられた箇所について訳文を作成し、適宜コメントを加えたレジュメを準備したうえで発表する。担当者ではない出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すこととする。</p> <p>第15回 総括</p>					
[履修要件]					
フランス語の基礎的な文法を一通り学習済みであること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(翻訳およびコメント)100%					
[教科書]					
教科書は使用せず、プリントを配布する。					
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：割り当てられた箇所を訳出し、適宜コメントを加えたレジюмеを作成する。担当者ではない出席者も、必ず一読して授業に臨むこと。

復習：授業で扱った範囲の内容や文法上重要な箇所を再確認する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学285

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（外国語実習） French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	フランス語
題目	Literary analyzis				
【授業の概要・目的】					
<p>This course offers an introduction and a reinforcement to methods of literary analyzis known as close-reading. Students will learn how to identify, analyze and interpret stylistic phenomena and linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical knowledge. They will also practise academic writing in French.</p>					
【到達目標】					
<p>This class is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - identify and analyze specific formal features in French literary texts - improve their academic writting skills in French <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercices of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercices on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
【履修要件】					
<p>This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also active participation in class (20%).</p>					
----- フランス語学フランス文学（外国語実習）(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)

【教科書】

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

It is necessary to prepare the texts before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学286

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（外国語実習） French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	フランス語
題目	Literary analyzis				
[授業の概要・目的]					
<p>This course offers an introduction and a reinforcement to methods of literary analyzis known as close-reading. Students will learn how to identify, analyze and interpret stylistic phenomena and linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical knowledge. They will also practise academic writing in French.</p>					
[到達目標]					
<p>This class is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - identify and analyze specific formal features in French literary texts - improve their academic writting skills in French <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercices of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercices on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also active participation in class (20%).</p>					
----- フランス語学フランス文学（外国語実習）(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)

【教科書】

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

It is necessary to prepare the texts before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学287

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	フランス語
題目	Advanced French				
【授業の概要・目的】					
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELFB2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> - Strengthen listening comprehension and reading from various documents - Consolidate grammar and lexical use - Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing - Develop communicative skills 					
【授業計画と内容】					
<p>After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELFB/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>					
【履修要件】					
To attend to this class, students must already have a good level in French.					
【成績評価の方法・観点】					
The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).					
----- フランス語（上級）（語学）(2)へ続く -----					

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』 (2022) ISBN:9782278103669 (Editor : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition.)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

(その他（オフィスアワー等）)

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	フランス語
題目	Advanced French				
【授業の概要・目的】					
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELFB2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> - Strengthen listening comprehension and reading from various documents - Consolidate grammar and lexical use - Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing - Develop communicative skills 					
【授業計画と内容】					
<p>After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELFB/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>					
【履修要件】					
To attend to this class, students must already have a good level in French.					
【成績評価の方法・観点】					
The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).					
----- フランス語（上級）（語学）(2)へ続く -----					

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』 (2022) ISBN:9782278103669 (Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition.)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

(その他（オフィスアワー等）)

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET22 13702 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア文学史(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア文学は、中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリア半島のみならずヨーロッパ各国の文化に大きな影響を及ぼしました。前期の講義では13世紀から14世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。宮廷風恋愛やアレゴリーといった西洋文化の重要概念についても言及する予定です。</p>					
[到達目標]					
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文化の重要なトピックについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>第2-14回：(1つの項目につき1-3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語(俗語)の成立とイタリア語の特徴 ・イタリア文学の元祖、シチリア派の詩人たち(ソネットの誕生) ・聖フランチェスコと『被造物の賛歌』 ・シチリアからトスカーナへ：清新体派の詩人たち ・ダンテと『神曲』について(数字の神秘・アレゴリー、比喩の魅力と語りの技法) ・ペトラルカと『カンツォニエーレ』(西欧の抒情詩の源泉) ・西洋における虚しさの感覚について ・ボッカッチョと『デカメロン』(笑いと教えるの百物語) ・人文主義の始まり <p>(レポートの註と参考文献の表記、引用の仕方についても授業のなかで紹介する予定)</p> <p>第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>イタリア語の知識は必要ありません。</p>					
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 (30%)

期末のレポート (70%)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

PandAの「授業資料」に掲載するプリントにできるだけ目を通しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学290

科目ナンバリング	U-LET22 13703 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア文学史(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア文学は中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリアのみならずヨーロッパ各国の文化に深甚な影響を及ぼしています。後期の講義では15-16世紀の主要な詩人・文人ならびに文化現象を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。</p>					
[到達目標]					
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>2回～14回：(1つの項目につき1～3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文主義について ・騎士物語(ボイアルドとアリオスト) ・16世紀の言語論争 ・arte(技・技術)とnatura(自然)について ・マキアベリと『君主論』 ・インプレーサとメタファーについて ・創作理論の探求(トルクアート・タツソの詩論) <p>第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
イタリア語の知識は必要ありません。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(30%) 期末のレポート(70%)</p>					
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講義) (2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

PandAに掲示する関連プリントにできるだけ目を通しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア史講読(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>16世紀のイタリアを概観したI. Montanelli / R. Gervasoの“ L'Italia della Controriforma 1492-1600 ”の第1部"La penisola"からユリウス2世とレオ10世を取り上げた章を読みます。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>本書は比較的平易なイタリア語で書かれており、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を簡単に紹介します。</p> <p>2回~14回 必要に応じてイタリア語文法を確認しながら読み進めます。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。</p> <p>15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
イタリア語文法を学んでいること。					
[成績評価の方法・観点]					
毎回提示する簡単な和訳の問題をもとに評価します。					
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習に際しては、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することに努めましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア史講読(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>100枚の写真に即してイタリア近現代史のトピックを紹介した“Storia d'Italia in 100 foto”(V. Vidotto, E. Gentile, S. Colarizi, G. De Luna著)を講読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p> <p>1860年から2017年までのイタリアを対象に、写真1枚につき1頁の解説をコンパクトに組み合わせた本書は、オーソドックスなイタリア語散文で書かれており、伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。</p> <p>2回~14回(講読) 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを読み進めます。重要な専門用語や固有名詞についても適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>					
[履修要件]					
イタリア語文法を学んでいること。					
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習にあたっては、文法の知識に基づいて正確に文を読み解くことを心がけましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学293

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語講読(前期)				
【授業の概要・目的】					
比較的平易な文学と新聞記事を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。					
【到達目標】					
平易なイタリア語の文章を自力で読解できるようになるとともに、イタリア文学の背景になる知識を身に着けます。					
【授業計画と内容】					
初回(ガイダンス)にごく平易な文章を読み、個々の参加者のイタリア語の読解力や興味の範囲を確認しながら、第2回以降の読み物を考えます。					
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらイタリア語の文章を精読します。授業の前半は新聞記事を、後半はごく平易な文学作品を読む予定です。					
15回 フィードバック					
期末試験を実施します。					
【履修要件】					
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し、背景となる知識についても前もって調べてきてください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜Zoomで予約制により、受け付けます(月曜日10:30-12:00)。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学294

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語講読(後期)				
【授業の概要・目的】					
イタリア文学について、なるべく平易な文章を読みながら基礎的な素養を身につける。同時に、個々の学生の専門性に応じて読む題材を絞り込みつつイタリア語の読解力も身につける。					
【到達目標】					
自力でイタリア語の原文を読み解く力をつけます。また、様々なイタリア語に慣れるとともに、文学史上必須の知識を学びます。学生個々の専門性に応じて、イタリア文学、あるいはイタリア文化の背景について考察ができるようになります。					
【授業計画と内容】					
初回(ガイダンス)					
2回~4回 ごく平易なイタリア語の文章を読みながら、本格的に読む題材を探します。					
5回~14回 2,3回ずつテーマや文章を決めつつ、イタリア語を精読するとともに、学生個々の専門の背景から1回は発表を行う。					
15回 期末試験・フィードバックを実施します。					
【履修要件】					
イタリア語文法の基礎知識を備え、イタリア語の文章を読んだ経験があること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。					
【教科書】					
プリント配布。場合によっては、PandAに前もってテキストをアップします。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し背景となる知識についても前もって調べてきてください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜Zoomで予約制により、受け付けます(月曜日10:30-12:00)。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	U-LET49 29668 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級I）（語学） Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（中級I）				
[授業の概要・目的]					
<p>講読を中心とした教科書に沿ってスペイン語の基礎文法を復習する。</p> <p>各課本文の読解を通してスペイン語圏諸国の文化的、社会的知識を学び、併せてその内容に関する口頭練習、空所補完リスニング、文法項目の練習問題に取り組む。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・自ら口頭でも発信することができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペイン語圏諸国の文化に関する理解を深める。 ・中級II（より難易度の高い文法事項の復習と発展）の学習に繋げる。 					
[授業計画と内容]					
<p>講読用テキストのボリュームに鑑み授業2回で1課を終える進捗で学習する。 各課のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。</p> <p>第1～2課 ガイダンス LECCION 1 "EL JUEGO DEL JAI ALAI" 【文法】受身表現 【講読】スポーツ バスク地方の伝統的球技</p> <p>第3～4回 LECCION 2 "LA LUCHA LIBRE" 【文法】前置詞 para/por の用法 【講読】スポーツ メキシコのプロレス</p> <p>第5～6回 LECCION 3 "LA SALSA" 【文法】関係詞 que の用法 【講読】ラテン音楽 サルサ</p> <p>第7～8回 LECCION 4 "EL RAGGAETON" 【文法】現在形と現在進行形 / 線過去と過去進行形 【講読】ラテン音楽 レゲトン</p> <p>第9～10回 LECCION 5 "SIMON BOLIVAR"</p>					
----- スペイン語（中級I）（語学）(2)へ続く -----					

スペイン語（中級I）（語学）(2)

【文法】再帰動詞

【講読】人物 シモン・ボリバル

第11～12回 LECCION 6 "HERNAN CORTES"

【文法】点過去 / 線過去 / 過去完了

【講読】人物 エルナン・コルテス

第13～14回 LECCION 7 "LA DIETA MEDITERRANEA"

【文法】形容詞節における法の選択

【講読】食文化 地中海式ダイエット

期末試験

第15回 フィードバック

- ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
- ・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

【履修要件】

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

【成績評価の方法・観点】

平常点：20% [発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する]

期末試験：80% [リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する]

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

岩崎ラファエリーナ,牛島万 『中級スペイン語読解への誘い』（三修社, 2021）ISBN:978-4-384-42019-7 C1087（スペイン語書名『SENDERILLO』）

【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://www.sanshusha.co.jp/text/onsei/isbn/9784384420197>(教科書音声ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

スペイン語（中級I）（語学）(3)へ続く

スペイン語（中級I）（語学）(3)

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29669 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級II）（語学） Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（中級II）				
[授業の概要・目的]					
<p>前期開講の「中級I」に続き、講読を中心とした教科書に沿って基礎文法を復習する。</p> <p>各課本文の読解を通してスペイン語圏諸国の文化的、社会的知識を学び、併せてその内容に関する口頭練習、空所補完リスニング、文法項目の練習問題に取り組む。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2～B1程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・自ら口頭でも発信することができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペイン語圏諸国の文化に関する理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>講読用テキストのボリュームに鑑み授業2回で1課を終える進度で学習する。 各課のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。</p> <p>第1～2課 ガイダンス LECCION 8 "EL TAMAL" 【文法】目的格人称代名詞 / 強調構文 【講読】食文化 中南米のタマル</p> <p>第3～4回 LECCION 9 "FERNANDO BOTERO" 【文法】動詞 llevar の用法 【講読】美術 フェルナンド・ボテロ</p> <p>第5～6回 LECCION 10 "ANTONIO GAUDI" 【文法】-ir型語幹母音変化動詞の点過去 【講読】美術 アントニオ・ガウディ</p> <p>第7～8回 LECCION 11 "GABRIEL GARCIA MARQUEZ" 【文法】無人称文（不定人称文） 【講読】文学 ガルシア・マルケス</p> <p>第9～10回 LECCION 12 "FEDERICO GARCIA LORCA" 【文法】比較表現 / 類似表現 【講読】文学 ガルシア・ロルカ</p>					
----- スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く -----					

スペイン語（中級Ⅱ）（語学）(2)

第11～12回 LECCION 13 "EL DOMINO"

【文法】条件文

【講読】娯楽 ドミノ

第13～14回 LECCION 14 "LA SIESTA ESPANOLA"

【文法】関係詞（前置詞を伴う用法、他）

【講読】娯楽 シエスタ

期末試験

第15回 フィードバック

- ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
- ・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

【履修要件】

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

【成績評価の方法・観点】

平常点：20% [発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する]

期末試験：80% [リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する]

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

岩崎ラファエリーナ,牛島万 『中級スペイン語読解への誘い』（三修社, 2021）ISBN:978-4-384-42019-7 C1087（スペイン語書名『SENDERILLO』）

【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://www.sanshusha.co.jp/text/onsei/isbn/9784384420197>(教科書音声ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

スペイン語（中級Ⅱ）（語学）(3)へ続く

スペイン語（中級II）（語学）(3)

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45sアットマークst.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29673 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スペイン語（初級）I Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（初級I）				
[授業の概要・目的]					
<p>スペイン語の発音および基礎文法（直説法過去時制まで）を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法の過去時制までを一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。 ・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。 ・初級Ⅱ（接続法、命令法、初級文法発展）の学習に繋げる。 					
[授業計画と内容]					
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入 第2回：第0課 [アルファベット、発音、音節の分け方] 第3回：第1課 [名詞の性数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞と動詞ser] 第4回：第2課 [動詞estar、存在のhay、指示詞、所有形容詞] 第5回：第3課 [直説法現在：規則動詞と不規則動詞] 第6回：復習（1）第1課～第3課の作文および応用問題 第7回：第4課 [直説法現在：その他の不規則動詞、接続詞] 第8回：第5課 [目的格人称代名詞、動詞gustar、時刻・日付の表現] 第9回：第6課 [前置詞、過去分詞、直説法現在完了] 第10回：復習（2）第4課～第6課の作文および応用問題 第11回：第7課 [再帰動詞、不定主語文、現在分詞] 第12回：第8課 [直説法点過去、天候の表現] 第13回：第9課 [直説法線過去、時間表現のhacer、直説法過去完了] 第14回：復習（3）第7課～第9課の作文および応用問題 期末試験 第15回：フィードバック</p>					
----- ス페인語（初級）I (2)へ続く -----					

スペイン語（初級）I (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

川口正道『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087（スペイン語書名『Mi gramatica』）

必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。

【参考書等】

（参考書）

辞書『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

（関連URL）

<https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=255113>(学習用音声配信ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29674 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スペイン語（初級）II Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（初級II）				
[授業の概要・目的]					
<p>前期開講の「スペイン語 初級I」と同じ教科書を用い、引き続きスペイン語の初級文法を学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち接続法、命令文、条件文までを学習する。</p>					
[到達目標]					
<p>CEFRのA 1程度のレベルを修得する。</p> <p>辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス [教科書第0課～9課の振り返り、第10課導入] 第2回：第10課 [関係詞] 第3回：第11課 [比較級、最上級] 第4回：復習(1) 第10課・第11課の作文および応用問題 第5回：第12課 [不定語・否定語、受身文] 第6回：第13課 [直説法の未来・過去未来・未来完了・過去未来完了] 第7回：復習(2) 第12課・13課の作文および応用問題 第8回：第14課 [接続法現在：名詞節における用法] 第9回：第15課 [接続法現在：関係詞節・副詞節における用法、命令文] 第10回：復習(3) 第14課・第15課の作文および応用問題 第11回：第16課 [接続法現在完了、接続法過去、接続法過去完了] 第12回：第17課 [条件文、譲歩文、話法] 第13回：復習(4) 第16課～第17課の作文および応用問題 第14回：文法発展 [平易なテキスト講読または中級文法練習問題] 期末試験 第15回：フィードバック</p>					
----- スペイン語（初級）II (2)へ続く -----					

スペイン語（初級）Ⅱ(2)

【履修要件】

前期開講の「スペイン語 初級I」を学修していること、もしくは同等（教科書第9課まで）の文法知識を有していることが望まれる。

【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087（スペイン語書名『Mi gramatica』）

【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=255113>(学習用音声配信ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29675 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級4時間コース）I Italian(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 菅野 類		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2,木3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	イタリア語（初級I）				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。 授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソドックスなものを想定している。 イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>					
[到達目標]					
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞] 第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere] 第4週：Lezione 3 [形容詞] 第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞] 第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞] 第7週：Lezione 6 [人称代名詞] 第8週：Lezione 7 [再帰動詞] 第9週：テストと解説 第10週：Lezione 8 [命令法] 第11週：Lezione 9 [直説法近過去] 第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去] 第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来] 第14週：Lezione 12 [受動態] 第15週：テストと解説</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- イタリア語（初級4時間コース）I(2)へ続く -----					

イタリア語（初級4時間コース）I(2)

[成績評価の方法・観点]

各課の締めくくりで行う小テスト（30%）
前期中2回行うまとめのテスト(70%)

[教科書]

杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5

[参考書等]

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020

『フリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学300

科目ナンバリング	U-LET49 29676 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級4時間コース）II Italian(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 菅野 類		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2,木3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	イタリア語（初級II）				
[授業の概要・目的]					
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。					
[到達目標]					
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週：Lezione 14 [関係詞] 第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ] 第4週：Lezione 16 [条件法] 第5週：文法補足 1 ciとne 第6週：Lezione 17 [接続法] 第7週：Lezione 17 [接続法・仮定文] 第8週：テスト 第9 - 14週：遠過去および講読 第15週：テスト・フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)					
[教科書]					
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜こちらが用意する。					
[参考書等]					
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859					
----- イタリア語（初級4時間コース）II(2)へ続く -----					

イタリア語（初級4時間コース）Ⅱ(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業前に60分前後の予習が求められる。
講読回では90分程度。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学301

科目ナンバリング		U-LET42 13902 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋文学入門(講義) Introduction to Western Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗 文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 教授 永盛 克也 文学研究科 教授 川島 隆 文学研究科 教授 中村 唯史 文学研究科 准教授 南谷 奉良 文学研究科 教授 森 慎一郎	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋文学入門				
【授業の概要・目的】					
西洋文化学系の専任教員7名によるリレー講義です。西洋古典文学、イタリア文学、英文学、ロシア文学、ドイツ文学、フランス文学、アメリカ文学の作品とその受容や語りの技法などをトピックとして、各担当者がその魅力を語ります。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的としますが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文化の世界へといざなう起点となることも期待しています。					
【到達目標】					
西洋文学のさまざまな作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を読み解くための基本的な技法を身につける。					
【授業計画と内容】					
西洋古典文学(河島) 第1週(4月11日)ホメロス『イリアス』:ギリシア文学のはじまり 第2週(4月18日)オウィディウス『変身物語』:ラテン文学における受容と変容					
イタリア文学(村瀬) 第3週(4月25日)ダンテ『神曲』の読み方 第4週(5月9日)マキアヴェッリ『君主論』の読み方					
フランス文学(永盛) 第5週(5月16日)モリエールの喜劇を読む 第6週(5月23日)マリヴォアの喜劇を読む					
ロシア文学(中村) 第7週(5月30日)ロシア文学におけるコーカサス表象(1):プーシキン『コーカサスの虜』 『エルズルム紀行』 第8週(6月6日)ロシア文学におけるコーカサス表象(2):トルストイ『コサック』読解					
ドイツ文学(川島) 第9週(6月13日)ドイツ文学の動物小説 エーブナー=エッセンバッハ『クランバンブリ』 第10週(6月20日)ドイツ文学の動物小説 ザルテン『バンビ』					
西洋文学入門(講義)(2)へ続く					

西洋文学入門(講義)(2)

英文学（南谷）

第11週（6月27日）動物・植物からみる英文学小説

第12週（7月4日）機械・AIからみる英文学小説

アメリカ文学（森）

第13週（7月11日）フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』概説

第14週（7月18日）フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』のさまざまな読み方

第15週（7月25日）まとめ・フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。レポートについては、KULASISの「レポート情報」によって周知する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業で取り上げる作品の多くは、下記のサイトでも紹介されている。

（関連URL）

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku_hyakunen.pdf#page=2（「西洋文学この百冊」）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り上げた作品、紹介された本や論文を、できるだけ自分でも読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

特定の国や作家に偏るのではなく、未知の国や作家の文学にも触れ、西洋文学の多様性の一端を実感してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【 大学院聴講生 】

※2024年3月11日現在

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス建番	備考
哲学	5131001	哲学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			三木 那由他	日本語	○	思想文化学1	
哲学	5131003	哲学(特殊講義)	2	前期	金	3			西郷 甲矢人	日本語	○	思想文化学2	
哲学	5131010	哲学(特殊講義)	2	後期	月	2			大塚 淳	日本語	○	思想文化学3	
哲学	5143009	哲学(演習I)	2	前期集中	他	他			近藤 和敬	日本語	○	思想文化学4	
哲学	5143005	哲学(演習I)	2	後期	水	2			大塚 淳	日本語	○	思想文化学5	
哲学	5143010	哲学(演習I)	2	前期	月	1			大西 琢朗・五十嵐 涼介	日本語	○	思想文化学6	
哲学	5143011	哲学(演習I)	2	前期	火	2			西村 正秀	日本語	○	思想文化学7	
哲学	5143012	哲学(演習I)	2	後期	火	4			久米 暁	日本語	○	思想文化学8	
哲学	M228001	哲学(演習I)	2	前期	金	4	金	5	出口 康夫・大西 琢朗・五十嵐 涼介	日本語及び英語	○	思想文化学9	
哲学	M228002	哲学(演習I)	2	後期	金	4	金	5	出口 康夫・大塚 淳・大西 琢朗・五十嵐 涼介	日本語及び英語	○	思想文化学10	
哲学	M450001	哲学(語学)	2	前期	金	4			西村 洋平	日本語	○	思想文化学11	
哲学	M451001	哲学(語学)	2	後期	金	4			西村 洋平	日本語	○	思想文化学12	
哲学	M452001	哲学(語学)	2	前期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	思想文化学13	
哲学	M453001	哲学(語学)	2	後期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	思想文化学14	
西洋哲学史(古代)	5230001	西洋哲学史(特殊講義)	4	通年	月	5			早瀬 篤	日本語	○	思想文化学15	
西洋哲学史(古代)	5231002	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			堀尾 耕一	日本語	○	思想文化学16	
西洋哲学史(古代)	5241001	西洋哲学史(演習)	2	前期	火	5			早瀬 篤	日本語	○	思想文化学17	
西洋哲学史(古代)	5241002	西洋哲学史(演習)	2	後期	火	5			早瀬 篤	日本語	○	思想文化学18	
西洋哲学史(古代)	5241003	西洋哲学史(演習)	2	前期	金	5			西村 洋平	日本語	○	思想文化学19	
西洋哲学史(古代)	5241004	西洋哲学史(演習)	2	後期	金	5			西村 洋平	日本語	○	思想文化学20	
西洋哲学史(中世)	5234001	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			志田 雅宏	日本語	○	思想文化学21	
西洋哲学史(中世)	5234002	西洋哲学史(特殊講義)	2	後期	木	2			周藤 多紀	日本語	○	思想文化学22	
西洋哲学史(中世)	5234003	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期	金	2			周藤 多紀	日本語	○	思想文化学23	
西洋哲学史(中世)	5242001	西洋哲学史(演習)	4	通年	木	4	木	5	周藤 多紀	日本語	○	思想文化学24	
西洋哲学史(中世)	5243001	西洋哲学史(演習)	2	前期	金	4			井澤 清	日本語	○	思想文化学25	
西洋哲学史(中世)	5243002	西洋哲学史(演習)	2	後期	金	4			井澤 清	日本語	○	思想文化学26	
西洋哲学史(中世)	5243003	西洋哲学史(演習)	2	前期	月	4			周藤 多紀	日本語	○	思想文化学27	
西洋哲学史(中世)	5243004	西洋哲学史(演習)	2	後期	月	4			周藤 多紀	日本語	○	思想文化学28	
西洋哲学史(近世)	5236001	西洋哲学史(特殊講義)	2	後期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	思想文化学29	
西洋哲学史(近世)	5236002	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	思想文化学30	
日本哲学史	5331001	日本哲学史(特殊講義)	2	前期	水	4			上原 麻有子	日本語	○	思想文化学31	
日本哲学史	5331002	日本哲学史(特殊講義)	2	後期	水	4			上原 麻有子	日本語	○	思想文化学32	
日本哲学史	5331004	日本哲学史(特殊講義)	2	後期	木	2			秋富 克哉	日本語	○	思想文化学33	
日本哲学史	5331005	日本哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			石田 正人	日本語	○	思想文化学34	
倫理学	5431002	倫理学(特殊講義)	2	前期	火	2			児玉 聡	日本語	○	思想文化学35	
倫理学	5431003	倫理学(特殊講義)	2	後期	火	2			児玉 聡	日本語	○	思想文化学36	
倫理学	5440001	倫理学(演習)	4	通年	火	4			児玉 聡	日本語	○	思想文化学37	
倫理学	5440002	倫理学(演習)	4	通年	金	3			児玉 聡	日本語	○	思想文化学38	
倫理学	5443003	倫理学(演習)	2	前期	金	5			永守 伸年	日本語	○	思想文化学39	
倫理学	5443004	倫理学(演習)	2	後期	金	5			永守 伸年	日本語	○	思想文化学40	
宗教学	5531001	宗教学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			佐藤 啓介	日本語	○	思想文化学41	
宗教学	5531003	宗教学(特殊講義)	2	前期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学42	
宗教学	5531004	宗教学(特殊講義)	2	後期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学43	
宗教学	5531005	宗教学(特殊講義)	2	前期	火	5			伊原 大祐	日本語	○	思想文化学44	
宗教学	5531006	宗教学(特殊講義)	2	後期	火	5			伊原 大祐	日本語	○	思想文化学45	
宗教学	5531009	宗教学(特殊講義)	2	後期	木	2			秋富 克哉	日本語	○	思想文化学46	
宗教学	5541001	宗教学(演習)	2	前期	水	5			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学47	
宗教学	5541002	宗教学(演習)	2	後期	水	5			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学48	
宗教学	5541003	宗教学(演習)	2	後期	木	2			安部 浩	日本語	○	思想文化学49	
宗教学	5541004	宗教学(演習)	2	前期	火	4			伊原 大祐	日本語	○	思想文化学50	
宗教学	5541005	宗教学(演習)	2	後期	火	4			伊原 大祐	日本語	○	思想文化学51	
宗教学	5551001	宗教学(講義)	2	前期	火	1			松葉 類	日本語	○	思想文化学52	
宗教学	5551002	宗教学(講義)	2	後期	火	1			松葉 類	日本語	○	思想文化学53	
キリスト教学	5631001	キリスト教学(特殊講義)	2	前期	月	4			村上 みか	日本語	○	思想文化学54	
キリスト教学	5631002	キリスト教学(特殊講義)	2	後期	月	5			津田 謙治	日本語	○	思想文化学55	
キリスト教学	5631003	キリスト教学(特殊講義)	2	前期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学56	
キリスト教学	5631004	キリスト教学(特殊講義)	2	後期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学57	
キリスト教学	5631005	キリスト教学(特殊講義)	2	前期	木	3			三輪 地塩	日本語	○	思想文化学58	
キリスト教学	5631006	キリスト教学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			佐藤 啓介	日本語	○	思想文化学59	
キリスト教学	5641001	キリスト教学(演習)	2	後期	木	5			淺野 淳博	日本語	○	思想文化学60	
キリスト教学	5641004	キリスト教学(演習)	2	前期	木	2			渡勢 邦生	日本語	○	思想文化学61	
キリスト教学	5641006	キリスト教学(演習)	2	前期	月	2			津田 謙治	日本語	○	思想文化学62	
キリスト教学	5641007	キリスト教学(演習)	2	後期	月	2			津田 謙治	日本語	○	思想文化学63	
美学美術史学	5731001	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	月	4			呉 孟晋	日本語	○	思想文化学64	
美学美術史学	5731002	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	月	2			呉 孟晋	日本語	○	思想文化学65	
美学美術史学	5731003	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	水	3			田中 健一	日本語	○	思想文化学66	
美学美術史学	5731004	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	水	3			田中 健一	日本語	○	思想文化学67	
美学美術史学	5731005	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	木	1			平川 佳世	日本語	○	思想文化学68	
美学美術史学	5731006	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	木	1			平川 佳世	日本語	○	思想文化学69	
美学美術史学	5731007	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	水	2			杉山 卓史	日本語	○	思想文化学70	
美学美術史学	5731008	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	水	2			杉山 卓史	日本語	○	思想文化学71	
美学美術史学	5731009	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	金	2			福本 泰生	日本語	○	思想文化学72	
美学美術史学	5731010	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	金	2			福本 泰生	日本語	○	思想文化学73	
美学美術史学	5731011	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	火	3			岡田 暁生	日本語	○	思想文化学74	
美学美術史学	5731012	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	火	3			岡田 暁生	日本語	○	思想文化学75	
美学美術史学	5731013	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	火	2			加須屋 明子	日本語	○	思想文化学76	
美学美術史学	5731014	美学美術史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			天野 知香	日本語	○	思想文化学77	
美学美術史学	5731015	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	月	3			武田 宙也	日本語	○	思想文化学78	
美学美術史学	5731016	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	月	3			武田 宙也	日本語	○	思想文化学79	
美学美術史学	5731018	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	月	5			筒井 忠仁	日本語	○	思想文化学80	
美学美術史学	5731019	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	月	5			筒井 忠仁	日本語	○	思想文化学81	
美学美術史学	5731020	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	月	4			松永 伸司	日本語	○	思想文化学82	
美学美術史学	5731021	美学美術史学(特殊講義)	2	前期	木	4			仲間 詢	日本語	○	思想文化学83	
美学美術史学	5731022	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	木	4			仲間 詢	日本語	○	思想文化学84	
美学美術史学	5745003	美学美術史学(演習II)	2	前期	木	2			杉山 卓史	日本語	○	思想文化学85	
美学美術史学	5745004	美学美術史学(演習II)	2	後期	金	3			平川 佳世	日本語	○	思想文化学86	
美学美術史学	5745005	美学美術史学(演習II)	2	前期	月	4			天王寺谷 千裕	日本語	○	思想文化学87	
美学美術史学	5745006	美学美術史学(演習II)	2	後期	火	2			天王寺谷 千裕	日本語	○	思想文化学88	
美学美術史学	5745007	美学美術史学(演習II)	2	前期	金	3			平川 佳世	日本語	○	思想文化学89	
哲学	5101001	系共通科目(哲学)(講義)	4	通年	金	3			出口 康夫	日本語	○	思想文化学90	学部科目
西洋哲学史(中世)	5204001	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	2	前期	水	2			周藤 多紀	日本語	○	思想文化学91	学部科目
西洋哲学史(中世)	5206001	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	2	後期	水	2			周藤 多紀	日本語	○	思想文化学92	学部科目
日本哲学史	5302001	系共通科目(日本哲学史)(講義)	2	前期	火	5			上原 麻有子	日本語	○	思想文化学93	学部科目
日本哲学史	5304001	系共通科目(日本哲学史)(講義)	2	後期	火	5			上原 麻有子	日本語	○	思想文化学94	学部科目
日本哲学史	5343001	日本哲学史(基礎演習)	2	前期	木	2			CRDA, Philip Kain	日本語	○	思想文化学95	学部科目
日本哲学史	5343002	日本哲学史(基礎演習)	2	後期	木	3			藤貫 裕	日本語	○	思想文化学96	学部科目
倫理学	5402001	系共通科目(倫理学)(講義A)	2	前期	金	2			児玉 聡	日本語	○	思想文化学97	学部科目
倫理学	5403001	系共通科目(倫理学)(講義B)	2	後期	金	2			児玉 聡	日本語	○	思想文化学98	学部科目
宗教学	5502001	系共通科目(宗教学A)(講義)	2	前期	月	1			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学99	学部科目
宗教学	5503001	系共通科目(宗教学B)(講義)	2	後期	月	1			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学100	学部科目

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
											大学院聴講生		
宗教学	5543001	宗教学(基礎演習)	2	前期	金	4	金	5	杉村 靖彦・伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学101	学部科目
宗教学	5543002	宗教学(基礎演習)	2	後期	金	4	金	5	杉村 靖彦・伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学102	学部科目
キリスト教学	5602001	系共通科目(キリスト教学)(講義)	2	前期	火	2			津田 謙治	日本語	○	思想文化学103	学部科目
キリスト教学	5604001	系共通科目(キリスト教学)(講義)	2	後期	火	2			津田 謙治	日本語	○	思想文化学104	学部科目
美学美術史学	5705001	系共通科目(美学)(講義)	2	前期	水	4			杉山 卓史	日本語	○	思想文化学105	学部科目
美学美術史学	5707001	系共通科目(美学)(講義)	2	後期	水	4			杉山 卓史	日本語	○	思想文化学106	学部科目
美学美術史学	5708001	系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)	2	後期	金	1			田中 健一	日本語	○	思想文化学107	学部科目
美学美術史学	5709001	系共通科目(西洋美術史)(講義)	2	前期	金	1			平川 佳世	日本語	○	思想文化学108	学部科目
美学美術史学	5745001	美学美術史学(演習I)	2	前期	木	3			足立 恵理子	日本語	○	思想文化学109	学部科目
美学美術史学	5745002	美学美術史学(演習II)	2	後期	木	5			山形 美有紀	日本語	○	思想文化学110	学部科目
美学美術史学	5753001	美学美術史学(講読)	2	前期	木	2			高井 たかね	日本語	○	思想文化学111	学部科目
美学美術史学	5753002	美学美術史学(講読)	2	後期	木	2			筒井 忠仁	日本語	○	思想文化学112	学部科目
哲学基礎文化学系	0012001	哲学基礎文化学系(ゼミナールI)	2	前期	木	2			周藤 多紀・西村 一輝・大島 弘・青木 真澄・井保 和也・森脇 透青	日本語	○	思想文化学113	学部科目
哲学基礎文化学系	0012002	哲学基礎文化学系(ゼミナールII)	2	後期	木	2			梶玉 聡・陳 洵漢・久富 峻介・岡崎 佑香・真田 萌依	日本語	○	思想文化学114	学部科目

思想文化学1

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 三木 那由他		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	コミュニケーションの哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>きょうの出来事について語りあうとき、自分の気持ちを相手に伝えるとき、将来のことについて約束を交わすとき、私たちはコミュニケーションをしている。コミュニケーションは私たちの日常の大きな、そして重要な部分を占める。だが、そもそもコミュニケーションとは何なのだろうか？ 私たちがコミュニケーションをしていると言われるとき、実のところ私たちは何をしているのだろうか？</p> <p>この授業では、分析哲学のアプローチのもとでコミュニケーションについて考えていく。分析哲学の伝統において、コミュニケーション論のパラダイムをなしているのは、イギリスの哲学者ポール・グライスによる枠組みであり、これは現在「意図基盤意味論(intention-based semantics)」と呼ばれている。グライスは、コミュニケーションの中核をなす「何かを意味する」という行為を、話し手の意図という観点から分析しようとした。グライスのこの理論は哲学のみでなく、言語学、心理学などに幅広い影響力を持ったが、その反面で厄介な問題も抱え込んでいた。</p> <p>グライスの意図基盤意味論とはいかなる理論であり、それはその後どのように発展していったのか？ その問題点はどこにあるのか？ それに代わる立場をどのように作っていくか？ 以上のトピックを順に取り上げていきたい。また、意図基盤意味論に代わって私が提案している「共同性基盤意味論」の立場のもとで、マンスプレイングのような不当なコミュニケーションの例がどのように扱われるかも論じる予定である。</p>					
[到達目標]					
意図基盤意味論の概要を説明できるようになる。また、共同性基盤意味論の発想のもとで具体的なコミュニケーションの事例を考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションをめぐる問題 2. 意図基盤意味論が提唱された背景 3. グライスの意図基盤意味論 4. 意図の無限交代問題 5. グライス以降の意図基盤意味論(1)：2000年以前の展開 6. グライス以降の意図基盤意味論(2)：近年の展開 7. 意図基盤意味論の問題点 8. 共同行為論と共同のコミットメント 9. 共同性基盤意味論 10. 言語行為とコミットメント 11. 対等でない者のあいだの共同行為 12. 対等でない者のあいだのコミュニケーション 13. マンスプレイングを説明する(1)：認識的不正義 14. マンスプレイングを説明する(2)：マンスプレイングに関する既存の立場 15. マンスプレイングを説明する(3)：マンスプレイングとは何なのか 					
哲学(特殊講義)(2)へ続く					

哲学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより成績を評価します。詳細は授業内で説明します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

三木那由他 『話し手の意味の心理性と公共性』(勁草書房, 2019年) ISBN:978-4-326-10278-5 (特に読んでおく必要はありませんが、この本での議論をベースに話します。)

三木那由他 『グライス 理性の哲学』(勁草書房, 2022年) ISBN:978-4-326-10301-0 (こちらも特にあらかじめ読んでおく必要はありませんが、グライスについて詳しく知りたいと思われた場合には、)

ポール・グライス(清塚邦彦訳) 『論理と会話』(勁草書房, 1998年) ISBN:978-4-326-10121-4 (大きく扱う予定なので、必要に応じて参照してください。)

H. P. Grice 『Studies in the Way of Words』(Harvard University Press, 1989) ISBN:978-0674852709 (上記の本の原著です。翻訳に収録されていない論文も多数あります。)

【授業外学修(予習・復習)等】

特にグライスの話のあたりは抽象的かつ複雑だと思うので、わからないところやついていけないところがあったら、確認するようにしてください。余裕のある方は、『論理と会話』収録の「意味」、「発話者の意味と意図」、「発話者の意味・文の意味・語の意味」、「意味再論」あたりを読んでみてもらえると嬉しいです(「意味再論」は良くも悪くもグライスらしさが満ち満ちていておすすめで、というか私が好きな論文です)。

(その他(オフィスアワー等))

質問などがありましたら、授業の前後に声をいただくか、miki.nayuta.hmt@osaka-u.ac.jpにメールをいただくようお願いします。また、授業を受けるうえで私のほうで配慮しておいてほしいことがありましたら、可能な限り対応いたしますので、ご連絡ください。

哲学は抽象的で概念的な学問ですが、他方でコミュニケーションはとても具体体で日常的な営みです。個人的には、「コミュニケーションを哲学的に考える」というなかで、哲学の概念が身近な出来事に接近し、生き生きとした姿を取り出すことに面白さを感じています。この授業を受けたからといって私のコミュニケーション観をみなさんが同じように採用する必要はまったくありませんが、「日々の出来事を哲学を使って捉えることもできるんだ」という感触を持っていただけたら嬉しいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学2

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	長浜バイオ大学 フロンティアバイオサイエンス学科 教授	西郷 甲矢人	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	数学について語るときに我々の語ること：ホワイトヘッド『数学入門』を手がかりに				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義において深めたいのは、「我々が数学について語るとき、実際には何について語っているのか」、という問いである。古くから数学は哲学的な議論の引き合いに出されてきたし、数学的な思考の発展が哲学にとって重要な役割を果たした例も少なくない。数学者として出発して偉大な哲学者となった人物も多い。そのような人物のひとりに、アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド (Alfred North Whitehead) があげられる。彼の多くの著作のうちでも、バートランド・ラッセルとの共著『数学原理』の第1巻と第2巻との「はざま」に出版された『数学入門』(An Introduction to Mathematics) は、この偉大な人物が数学について啓蒙的かつ率直に語った希有な書であり、そこで「数学についての語り」は同時に哲学的飛翔への滑走路ともなっている。本講義では、この『数学入門』を手がかりとして、「数学について語るときに我々の語ること」を哲学したい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトヘッド『数学入門』の語りによって、「変数」および「任意の」「ある」という根本概念を軸に(20世紀初頭までに登場した)数学の諸概念について理解を深める ・ 現代的な立場からホワイトヘッド『数学入門』を批判的に考察することを通じて、現代の数学的/哲学的思考の展開に親しむ ・ 「数学について語るときに我々の語ること」を共に哲学する 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 数学の抽象性と変数の概念：『数学入門』第1章・第2章を手がかりに 第2回 応用の方法：『数学入門』第3章を手がかりに 第3回 力学：『数学入門』第4章を手がかりに 第4回 数学における記号の使用：『数学入門』第5章を手がかりに 第5回 数の一般化：『数学入門』第6章を手がかりに 第6回 虚数：『数学入門』第7章を手がかりに 第7回 虚数(続き)：『数学入門』第8章を手がかりに 第8回 座標幾何学：『数学入門』第9章を手がかりに 第9回 円錐曲線：『数学入門』第10章を手がかりに 第10回 関数：『数学入門』第11章を手がかりに 第11回 周期性と三角関数：『数学入門』第12章・第13章を手がかりに 第12回 列：『数学入門』第14章を手がかりに 第13回 微分法：『数学入門』第15章を手がかりに 第14回 幾何学と量：『数学入門』第16章・第17章を手がかりに 第15回 まとめと展望：総合討論</p>					
ただし学生の関心、授業の進行状況に応じて内容を変更することがある					
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----					

哲学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価を行う（授業への参加状況、授業内での発言を総合的に評価する）。

【教科書】

Alfred North Whitehead 『An Introduction to Mathematics』（Project Gutenberg, 2012）（<https://www.gutenberg.org/ebooks/41568>）

【参考書等】

（参考書）

西郷甲矢人・能美十三 『指数関数ものがたり』（日本評論社、2018）

【授業外学修（予習・復習）等】

各回に対応する章（シラバス上 『数学入門』第 x 章を手がかりに と明記してある）を各自予め読んでおくことを前提とする。講義者からも各章に関連した議論を提示していくが、参加者が各章を読んで議論したいことを提起することを強く推奨し、その問題提起や議論を平常点評価において重視する。なお、高度な数学的素養は前提としない。それに結局のところ、（一応は数学者である講義者も含めて）我々は数学について初心者なのだと思う。

（その他（オフィスアワー等））

講義後に質問を受け付ける。時間が不足する場合には、そこで日時を相談して質問対応の継続を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学3

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 大塚 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	概念の哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>昨年に続き、本授業では「概念」とは何かという伝統的な哲学問題に対し、数学・機械学習理論・認知科学という3つの側面からアプローチする。とりわけ本年は、概念の帰納推論における役割に着目する。まず前半において、概念についての4つの理論的類型として、(1)束代数的概念論、(2)位相的概念論、(3)関数的概念論、(4)群論的概念論の区分を確認した後、それらの間の理論的な関連性を考察する。後半では、カントおよびカッシーラーの議論を参照軸としつつ、感覚の概念化に関する理論の素描、およびそこにおける帰納推論の位置づけを考える。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - 「概念」についての様々な哲学的理論と、その長所・短所を理解する - 様々な「概念」の捉え方を軸に、哲学・認知科学・機械学習の関連性を学ぶ - それぞれの概念理論の数理的基盤を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>主に以下の内容に基づき、各回ごと担当者が指定されたテキストをまとめ、議論する</p> <ul style="list-style-type: none"> - オリエンテーション(1回) - 概念についての4つの理論的アプローチ(3-4回) - 概念理論の統合(3回) - 感覚と概念の統合(3-4回) - 概念と帰納推論(3回) - まとめ(1回) 					
[履修要件]					
<p>束・位相・群についての初等的な知識、ないしそれらがどのようなものなのかについてのイメージが最低限あることが望ましい(2023年度授業「哲学のための数学」で扱われた範囲で十分)。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<ul style="list-style-type: none"> - 授業での発表(20%) - ディスカッションへの参加(10%) - 期末レポート(70%) 					
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----					

哲学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

カント 『純粹理性批判(上)』 (平凡社ライブラリー) ISBN:4582765270

(関連URL)

<https://grey-mall-db5.notion.site/2024F-7f2b978a00e7484395786e221c1fc69b?pvs=4>(オンラインシラバス)

[授業外学修(予習・復習)等]

各回、指定されたテキストを必ず読み、コメントを事前に考えた上で授業に望むこと

(その他(オフィスアワー等))

火曜日2限または個別予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学4

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習 I) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人間科学研究科 近藤 和敬 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	French Philosophy in the 20th century				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀後半のフランス哲学の具体例としてジル・ドゥルーズの博士主論文である『差異と反復』をとりあげ、それのおかれているフランス哲学の文脈を理解すると同時に、その本の内容を理解することを目指す。</p> <p>とりわけ、この著作がおかれている文脈として、1960年代の構造主義、とりわけ『分析手帳』との関係を取り上げ、その背景となる、19世紀後半以来の、実証主義との関係性を説明し、その文脈のなかで、テキストを理解することを試みる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀後半から20世紀にかけてのフランスの哲学の文脈の一つとしての実証主義から構造主義に至る筋道を理解する。 ・ドゥルーズの哲学のおかれている文脈を理解し、そのなかでドゥルーズの哲学および『差異と反復』を読むということの意味と方法を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ドゥルーズの『差異と反復』がおかれている時代状況および背景 3. 構造主義および『分析手帳』：アルチュセールとラカン 4. 19世紀後半のフランスの実証主義：コント、テーヌ、リボー、エスピナス、フイエ、ギュイヨー、ヴォルムス、タンヌリ、ミヨー 5. デュルケムの哲学的意義：集合表象論 6. デュルケム以後：モース、レヴィ＝ブリュール、アルバックス、バタイユ 7. エピステモロジーとデュルケム派、そして構造主義へ：レヴィ＝ストロース 8. 『差異と反復』を読む：既存の解釈の諸問題 9. 『差異と反復』の表象批判の意味と構造＝理念概念の解釈 10. 『差異と反復』の基本構図と形而上学の終焉への応答：カント、ニーチェ、ハイデガー 11. 『差異と反復』の時間論とシミュラクル論の意味と解釈 12. 強度的なもののシステムの解釈 13. 個体化、ドラマ化、第三の反復の解釈 14. まとめ 15. フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----					

哲学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートで評価する。

[教科書]

ジル・ドゥルーズ 『差異と反復』 ISBN:9784309462967

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

集中講義なので、事前に『差異と反復』にある程度目を通しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学5

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習 I) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 大塚 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	統計学の哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>「データを証拠に変える装置」としての統計学は、今日の科学において特権的な役割を担っている。しかしそれだけでなく、帰納推論への形式的アプローチとして見た場合、統計学はヒューム以来の哲学的問題に対する様々な示唆を含んでいる。本授業では、現代統計学を支える数理的枠組みを概観した後、ベイズ統計や古典検定理論を始めとした種々の統計学的手法と、そのもとにある哲学的思想を明らかにする。とりわけ、それらの統計的手法と、現代認識論における内在主義と外在主義とをそれぞれ比較し結びつけることで、統計学と哲学的認識論の関係性を浮かび上がらせる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - ベイズ統計・検定理論など、現代統計学の基本的なアイデアを理解する - 正当化の概念や内在主義・外在主義など、現代認識論の基本的なアイデアを理解する - 現代統計学のもとにある哲学的思想や問題を理解する - 哲学的問題に対する現代統計学の含意を理解する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. なぜ哲学/統計学は統計学/哲学の問題になるのか(序章) 3. 確率モデルと統計モデル 4. 意味論・認識論入門 5. 主観的確率解釈 6. ベイズ統計の基礎 7. ベイズ統計の認識論的問題 8. 頻度的確率解釈 9. 古典統計の基礎 10. 古典統計の認識論的問題 11. モデル適合と予測 12. モデル選択の基礎 13. AICと認識論的プラグマティズム 14. まとめ 15. フィードバック(授業なし) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<ul style="list-style-type: none"> - 授業コメント 20% - 小課題2回 20% 					
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----					

哲学(演習Ⅰ) (2)

- 期末レポート 60%

[教科書]

大塚淳 『統計学を哲学する』 (名古屋大学出版会) ISBN:4815810036

[参考書等]

(参考書)

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修(予習・復習)等]

- 復習：前回授業範囲でわからなかったところ、気になったところをリストアップする
- 予習：毎回、指定された教科書の範囲を読み、質問や気になったところをリストアップする
- 毎週授業日前日までに、コメントシートに質問・コメントを書き込む

(その他(オフィスアワー等))

- オフィスアワー：火2限
- 授業サイト：<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学6

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習 I) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 大西 琢朗 文学研究科 特定講師 五十嵐 涼介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Philosophical Clarity				
[授業の概要・目的]					
We will learn how to think clearly in philosophy. To that end, we will study some of the foremost examples of clear philosophical prose produced by influential twentieth-century analytic philosophers. Among the topics covered are: mind-body identity, discourse on action, analysis of indirect discourse, formal logic and informal conversation.					
[到達目標]					
As we learn how to think clearly in philosophy, we will acquire accurate understanding of the analytic philosophical method and cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.					
[授業計画と内容]					
This class will be conducted with Prof. Takashi Yagisawa of California State University, Northridge as a guest lecturer online.					
We will read four articles, (1) - (4), in the order listed below and examine the arguments found in them. If time is left after reading the four articles, we may proceed to articles (5) and (6).					
(1) Lewis, David K., 1966, ' An Argument for the Identity Theory ' , The Journal of Philosophy 63: 17-25.					
(2) Davidson, Donald, 1967, ' The Logical Form of Action Sentences ' , in N. Rescher (ed.), The Logic of Decision and Action, Pittsburgh: University of Pittsburgh Press.					
(3) Davidson, Donald, 1968, ' On Saying That ' , Synthese 19: 130-46.					
(4) Grice, H. P., 1975, ' Logic and Conversation ' , in P. Cole and J. L. Morgan (eds.), Syntax and Semantics 3: Speech Acts, New York: Academic Press: 41-58.					
(5) Gibbard, Allan, 1975, ' Contingent Identity ' , Journal of Philosophical Logic 4: 187-221.					
(6) Heller, Mark, 1984, ' Temporal Parts of Four Dimensional Objects ' , Philosophical Studies: An International Journal for Philosophy in the Analytic Tradition 46: 323-34.					
ere is a provisional class schedule, subject to change at any time:					
Date Reading					
04/08 article (1)					
04/15 article (1)					
04/22 article (1)					
04/29 no class Showa Day holiday					
05/06 no class Children ' s Day holiday (substitute)					
05/13 article (2)					
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----					

哲学(演習 I)(2)

05/20 article (2)
05/27 article (2)
06/03 article (3)
06/10 article (3)
06/17 article (3)
06/24 article (4)
07/01 article (4) writing assignment announced
07/08 article (4)
07/15 no class Ocean Day holiday
07/22 all wrapping it up

【履修要件】

Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.

【成績評価の方法・観点】

Active participation in class discussion and the term paper.

【教科書】

See (授業計画と内容) above. All articles will be provided electronically free of charge

【参考書等】

(参考書)

James Pryor ' s Guidelines on Reading and Writing Philosophy (online):

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici ' s Sample Philosophy Paper (online):

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/

(関連URL)

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>(James Pryor ' s Guidelines on Reading and Writing Philosophy)

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>(James Pryor ' s Guidelines on Reading and Writing Philosophy)

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/(Angela Mendelovici ' s Sample Philosophy Paper (online))

【授業外学修(予習・復習)等】

Read the articles, and be prepared to ask questions and express opinions in class discussion.

哲学(演習 I)(3)へ続く

哲学(演習Ⅰ)(3)

(その他(オフィスアワー等))

You are encouraged to ask the instructor questions in class and/or via email. Office hours are held by appointment; email the instructor to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学7

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習 I) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	滋賀大学 経済学部 教授 西村 正秀		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	人格同一性とその諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、人格同一性(personal identity)とその諸問題について、資料の読解を交えながら学ぶ。「10年前の私と現在の私を同一人格(人物)にするのは何だろうか?」のような、人格同一性が何に存するのかという問いは、西洋哲学において長く議論されている。その中で有力な見解の一つとされてきたのは、人格同一性の基準を記憶などの心理状態の連続性に求める「心理説」である。この講義では、最初に心理説とその問題点を検討する。具体的には、17世紀のロックと現代の新ロック主義者(パーフィット、ルイスなど)の理論を取り上げる。次に、心理説のライバル理論として、現代の生物学説(オルソン)を検討する。その後、人格同一性に関連するトピックとして、統合されていない意識について見る。具体的には、解離性同一症などの精神疾患が人格同一性にもたらす含意や、断片化された認知体系と合理性の関係を時間が許す限り検討する。なお、本講義は演習形態の授業なので、参加者には予習として資料を読んできてもらい、その内容の発表やディスカッションを随時行なってもらう予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>人格同一性についての様々な理論とその問題点、さらに、人格同一性に関連するいくつかのトピックについて理解する。また、原典資料(主に英語)を正確に読解する能力、ならびに、それを説明し批判的に論じる能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回: イントロダクション 第2回: 同一性とはなにか、ロックの心理説 第3~4回: ロックの心理説とそれに対する反論 第5回: 現代の心理説と記憶の問題(シューメイカー) 第6回: ウィリアムズによる心理説批判 第7~8回: パーフィットのサバイバル理論 第9回: ルイスの四次元主義理論 第10~11回: オルソンの生物学説 第12回: 精神疾患の基本知識(グレアム) 第13回: 解離性同一症と人格同一性(グレアム) 第14回: 信念の断片化モデル(ルイス、ヤルシン) 第15回: 信念の断片化モデルと合理性(ボルゴニー)</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----					

哲学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)とレポート(2回、各40点)により評価する。
平常点は資料内容のプレゼンテーションによって評価することを予定している(ただし、登録者数によっては、小課題などに変更する可能性あり)。
平常点とレポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

John Perry 『Personal Identity』(University of California Press, 2008) ISBN:978-0520256422(人格同一性に関する代表的著作・論文のアンソロジー。第2版)

その他の資料ならびに講義のハンドアウトについては、授業時に配布する。

[参考書等]

(参考書)

Harold Noonan 『Personal Identity』(Routledge, 2019) ISBN:978-1138092846(第3版)

Eric T. Olson 『The Human Animal: Personal Identity without Psychology』(Oxford University Press, 2008) ISBN: 978-0195134230

George Graham 『The Disordered Mind: An Introduction to Philosophy of Mind and Mental Illness』(Routledge, 2013) ISBN: 978-0415501248(第2版)

Cristina Borgoni, Dirk Kindermann, Andrea Onofri 『The Fragmented Mind』(Oxford University Press, 2021) ISBN:978-0198850670

その他の参考書は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

基本的に毎回資料を予習として読んでくることが求められる(資料の分量はこちらで適切なものに調整する)。資料の予習に基づいて授業中にディスカッションを行うので、予習に多くの時間を配分することになるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡はメールで行ってください。メールアドレスは以下です。

snishimu@biwako.shiga-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学8

科目ナンバリング	G-LET01 75143 SJ34				
授業科目名 <英訳>	哲学(演習 I) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学 文学部 教授 久米 暁		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヒューム『人間本性論』				
[授業の概要・目的]					
18世紀イギリスの哲学者デイヴィッド・ヒューム(David Hume)の『人間本性論』(A Treatise of Human Nature)を精読することを通じて、ヒューム哲学の特質・意義・可能性を明らかにする。					
[到達目標]					
本授業の到達目標は、テキストの厳密な読解方法に習熟するとともに、ヒューム哲学の特質・意義・可能性を深く理解することである。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 本授業の進め方と準備の方法を周知する。 精読するテキストを指示する。 David Hume, A Treatise of Human Natureに関する基礎知識を講義する。</p> <p>第2回～第14回 A Treatise of Human Natureの精読 David Hume, A Treatise of Human Natureを精読し、内容について討論する。</p> <p>第15回 フィードバック 精読の成果をまとめ、レポートに関して解説する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(精読や討論の評価)70点、レポート(1回)30点により評価する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----					

哲学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

第2回から第14回までは、毎回必ず前回までの授業内容を踏まえてテキストについて予習してくること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学9

科目ナンバリング		G-LET01 7M228 SB34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習I) Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 出口 康夫 文学研究科 特定准教授 大西 琢朗 文学研究科 特定講師 五十嵐 涼介	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4,5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Graduate Students Seminar II				
【授業の概要・目的】					
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a Q & A session among students, then by tutorial comments from their supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of each student with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.					
【到達目標】					
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.					
【授業計画と内容】					
1 Guidance for philosophical presentations and discussions 2 to 13 Presentation by students					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
Presentation 70%. Active participation to discussions 30%. Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.					
【教科書】					
使用しない					
----- 哲学(演習I) (2)へ続く -----					

哲学(演習I) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar until a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations.

All students are required to prepare power-point materials written in English.

All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学10

科目ナンバリング		G-LET01 7M228 SB34					
授業科目名 <英訳>	哲学(演習I) Philosophy (Seminars)			担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	教授	出口 康夫
					文学研究科	准教授	大塚 淳
				文学研究科	特定准教授	大西 琢朗	
				文学研究科	特定講師	五十嵐 涼介	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期		
曜時限	金4,5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語		
題目	Graduate Students Seminar II						
[授業の概要・目的]							
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a session of Q & A among students, then by tutorial comments from his/her supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of him/her with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.							
[到達目標]							
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.							
[授業計画と内容]							
1 to 15 Presentation by students							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・観点]							
Presentation 70%. Active Participation to discussions 30%. Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.							
[教科書]							
使用しない							
[参考書等]							
(参考書) 授業中に紹介する							
----- 哲学(演習I) (2)へ続く -----							

哲学(演習I) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations. All students are required to prepare power-point materials written in English. All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学11

科目ナンバリング	G-LET01 8M450 LJ48				
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）					
[参考書等]					
（参考書） 授業中に紹介する					
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----					

哲学（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学12

科目ナンバリング		G-LET01 8M451 LJ48			
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>					
[履修要件]					
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）					
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----					

哲学（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学13

科目ナンバリング	G-LET01 8M452 LJ48				
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
[授業の概要・目的]					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
[到達目標]					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
[履修要件]					
後期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----					

哲学（語学）(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学14

科目ナンバリング	G-LET01 8M453 LJ48				
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
[授業の概要・目的]					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
[到達目標]					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
[履修要件]					
前期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----					

哲学（語学）(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学15

科目ナンバリング		G-LET02 65230 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 早瀬 篤	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトンの総合と分割の方法の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ギリシア哲学を代表するプラトン(前424/423-前347)は、自らの哲学の中核にある、事物の实在・本質を把握するための方法を、「哲学的問答法」(ディアレクティケー)と呼びます。これはプラトンがほぼすべての対話篇において何らかの仕方を用いる方法ですが、とくに『パイドロス』(265c5-266c1)では、「総合」(シュナゴーゲー)と「分割」(ディアイレシス)の方法としてその手続きが詳しく規定され、また後期著作の『ソピステス』と『政治家』では、この総合と分割の方法の基本的な適用方法を示すために、これを用いた定義の探究が大がかりに遂行されます。この哲学的方法は、アリストテレスに受け継がれ、西洋の科学的探究の基礎に組み込まれることとなります。</p> <p>この総合と分割の方法を理解するためには、とくに次の三つの点を押さえることが重要です。(1)『パイドロス』でこれらの手続きがどのように規定されているのか、(2)この方法が対象とする「形相」あるいは「類」とは何であるのか、(3)具体的にこの方法をどのように適用すべきか。</p> <p>本講義では、講師のこれまでの研究にもとづいて(1)と(2)を解説した後で、『ソピステス』と『政治家』の関連箇所を焦点を当てながら、この総合と分割の方法の適用方法を詳しく調査します。このときとくに解釈上の問題となるのは、二つの対話篇で具体的手続きを補完するために与えられる、この方法の適用についての抽象的な記述(『ソピステス』253b9-254b7の「哲学者の方法」、『政治家』283b1-287b3の「機織りの技術」「測定術」「哲学的問答法の目的」)です。本講義では、従来の解釈を整理して、テキストを改めて詳しく検討し、これらの箇所をどのように理解すべきかを解明することで、総合と分割の方法の包括的な理解を得ることを目指します。</p>					
[到達目標]					
西洋の学問の体系化に深刻な影響を与えたプラトンの形而上学・哲学的方法論を基本から考え直すことを通じて、基礎的な形而上学・哲学的方法論のあり方を理解し、自分でも検討できるようになること。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下の計画に従って講義を進めます。ただし受講者の理解の程度を考慮して、必要に応じた変更を加えながら話を進めたいと思います。					
前期					
第1回 インTRODクシヨン					
第2回~第3回 哲学的問答法と総合と分割の方法					
第4回~第6回 『パイドロス』における総合と分割の方法の定式化					
第7回~第9回 プラトンの形而上学と「形相」「類」の身分					
第10回~第14回 『ソピステス』と『政治家』における総合と分割の適用の基礎					
第15回 これまでのまとめ					
第16回~第18回 『ソピステス』253b9-254b7における哲学者の方法					
西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く					

西洋哲学史(特殊講義)(2)

第19回~第20回 『政治家』(1): 機織りの技術の定義
第21回~第25回 『政治家』(2): 二つの測定術
第26回~第27回 『政治家』(3): 哲学的問答法の目的
第28回~第29回 プラトンの総合と分割の方法の全体像
第30回 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートによって評価します。レポートの課題、書き方などは授業中に指示します。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で参考書目を指示し、必要な資料を配付しますので、必要に応じて予習をして講義に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学16

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 堀尾 耕一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アリストテレス『弁論術』の構想				
[授業の概要・目的]					
<p>古典期のアテナイでは、発言権の平等 (isonomia) および言論の自由 (parrhêsia) のもと、ひろく政治や司法など社会生活の全般において弁論の力が意思決定を左右し、公の場において他者を説得する技術、すなわち弁論術 (technê rhêtorikê) がひとつの自覚的な営みとして定着する。多数者の賛同を目指すこうした言説のあり方を強く批判したプラトンは、これを斥けるかたちで問答法 (dialektikê) の意義を強調したが、アリストテレスは弁論術を問答法と一対をなす技術と位置づけ、その役割を再定義する。本講義では、アテナイの弁論文化を概観したうえで、哲学者アリストテレスがその活動の円熟期に弁論術講義を構想するに至った道筋をたどる。</p>					
[到達目標]					
<p>先行学説等ではなく、可能なかぎり原典資料そのものの検討から出発し、そこから読み取ることのできる思索と対峙すること。またそれを自らの問題関心と接続していくこと。こうした訓練の契機となれば幸いである。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> はじめに：「哲学」対「弁論術」その抗争の歴史 アテナイにおける弁論家の活動（アンティフォン、リュシ阿斯、イソクラテス） プラトンによるレトリック批判（『ゴルギアス』、『パイドロス』、『メネクセノス』） アリストテレス『弁論術』序論の検討 論理学の一形態として（『トピカ』、『ソフィスト的論駁』、『分析論』） 政治学＝倫理学の派生部門として（『政治学』、『ニコマコス倫理学』） 『弁論術』第1・2巻の構想 弁論術的説得の本体としてのピスティス（証し立て）：言論・人柄・感情 弁論術的推論＝エンテュメーマ（想到法）をめぐって 弁論術的命題＝ありそうなこと（蓋然性）について 「修辞学」＝言語表現の美質について 『弁論術』全3巻の構想 『弁論術』の後代への影響 i：教養学課（ars liberalis）としてのレトリック 『弁論術』の後代への影響 ii：ホップズ、ニーチェほか まとめ：弁論術の可能性について 					
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の知識を有することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

数回ごとに簡単な感想文を提出してもらい、これを平常点として加味したうえで（30%）、最終レポート（4,000字程度）により成績を評価する。

【教科書】

事前に資料集（ギリシア語原典の抜粋およびその和訳）を作成し、配布する予定である。

【参考書等】

（参考書）

堀尾耕一 訳 『アリストテレス「弁論術」（新版アリストテレス全集 18）』（岩波書店 2017年）

ISBN:978-4000927888

浅野梢英 『論証のレトリック - 古代ギリシアの言論の技術』（ちくま学芸文庫 2018年）ISBN:978-4480098603

廣川洋一 『イソクラテスの修辞学校』（講談社学術文庫 2005年）ISBN:978-4061597181

（関連URL）

<https://www.humaniores.org/>（【東京古典学会】）

【授業外学修（予習・復習）等】

配布予定の資料集、また上記の参考文献等にあらかじめ目を通しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

参加者の積極的な質問、発言、問題提起を歓迎する。

問い合わせは次のメールアドレスまで：horio@zephyr.dti.ne.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学17

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 早瀬 篤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アリストテレス『自然学』を読む(1)				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ギリシアを代表する哲学者のひとり、アリストテレス(前384-前322)の『自然学』の原典を精読します。『自然学』は、自然的事物を成立させる原理を究明することによって、自然的事物を最も一般的な水準で考察する著作です。この書は全8巻からなり、有名な「素材形態論」(ハイロモルフィズム)と四原因説を提示した後で(1-2巻)、自然的事物を「運動変化の内的原理をもつもの」として捉え、その解明の鍵となる「運動変化」「無限」「場所」「空虚」「時間」の詳しい論究へと進みます(3巻以降)。この著作には、近代に至るまで、自然哲学の領野で圧倒的影響力をもったという歴史的意義があるだけでなく、現代でも、近代科学とはまったく異なる仕方で時間や空間や変化を考察しているところに関心が集まっています。しかし非常に難解な著作であり、自然学の諸問題に対するアリストテレスの思考の道筋はいまだ十分に明らかにされていません。本授業では、現代における諸研究とシンプリキオスに代表される古代の註釈家たちの書物を参考にしながら、この難解な著作の核心的思考を捉えることを目指します。</p> <p>今期は『自然学』の冒頭から読み始め第1巻の半ばまで進む予定です。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は参加者による発表形式をとります。ひとりの参加者が『自然学』の標準的なテキストの1-2ページを担当して、その翻訳と注釈からなるレジュメを作成して授業で発表し、参加者全員でそれを検討するという手続きをとります。レジュメの作成に当たっては、関連する注釈書や研究書を調べた上で、分かりにくい箇所や問題を含む箇所について、学者たちがどのように理解してきたのか、そして担当者自身はどのように理解すべきだと考えるのかを説明することが期待されます。授業は以下のように進めます。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回-第14回 アリストテレス『自然学』第1巻の講読・検討 第15回 まとめ</p>					
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(演習)(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業での発表が60点、それ以外での積極的な参加が40点とします。

【教科書】

W. D. Ross. 『/Aristotelis Physica/ (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901) 使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

W. D. Ross. 『/Aristotle's Physics/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 1936)

Katerina Ierodiakonou, Paul Kalligas, and Vassilis Karasmanis. eds. 『/Aristotle's Physics Alpha/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 2019)

Diana Quarantotto. ed. 『Aristotle's Physics Book I: A Systematic Exploration. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2018)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者は、事前にレジュメ(ギリシア語テキストの翻訳および研究書・注釈書にもとづく注解)を作成するために、相当な時間が必要になります。またその他の参加者も、その回に講読する箇所
の予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学18

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 早瀬 篤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アリストテレス『自然学』を読む(2)				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ギリシアを代表する哲学者のひとり、アリストテレス(前384-前322)の『自然学』の原典を精読します。『自然学』は、自然的事物を成立させる原理を究明することによって、自然的事物を最も一般的な水準で考察する著作です。この書は全8巻からなり、有名な「素材形態論」(ハイロモルフィズム)と四原因説を提示した後で(1-2巻)、自然的事物を「運動変化の内的原理をもつもの」として捉え、その解明の鍵となる「運動変化」「無限」「場所」「空虚」「時間」の詳しい論究へと進みます(3巻以降)。この著作には、近代に至るまで、自然哲学の領野で圧倒的影響力をもったという歴史的意義があるだけでなく、現代でも、近代科学とはまったく異なる仕方で時間や空間や変化を考察しているところに関心が集まっています。しかし非常に難解な著作であり、自然学の諸問題に対するアリストテレスの思考の道筋はいまだ十分に明らかにされていません。本授業では、現代における諸研究とシンプリキオスに代表される古代の註釈家たちの書物を参考にしながら、この難解な著作の核心的思考を捉えることを目指します。</p> <p>今期は『自然学』の第1巻の半ばから読み始め第1巻の最後まで進む予定です。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は参加者による発表形式をとります。ひとりの参加者が『自然学』の標準的なテキストの1-2ページを担当して、その翻訳と注釈からなるレジュメを作成して授業で発表し、参加者全員でそれを検討するという手続きをとります。レジュメの作成に当たっては、関連する注釈書や研究書を調べた上で、分かりにくい箇所や問題を含む箇所について、学者たちがどのように理解してきたのか、そして担当者自身はどのように理解すべきだと考えるのかを説明することが期待されます。授業は以下のように進めます。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回-第14回 アリストテレス『自然学』第1巻の講読・検討 第15回 まとめ</p>					
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(演習)(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業での発表が60点、それ以外での積極的な参加が40点とします。

【教科書】

W. D. Ross. 『/Aristotelis Physica/ (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

W. D. Ross. 『/Aristotle's Physics/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 1936)

Katerina Ierodiakonou, Paul Kalligas, and Vassilis Karasmanis. eds. 『/Aristotle's Physics Alpha/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 2019)

Diana Quarantotto. ed. 『Aristotle's Physics Book I: A Systematic Exploration. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2018)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者は、事前にレジュメ(ギリシア語テキストの翻訳および研究書・注釈書にもとづく注解)を作成するために、相当な時間が必要になります。またその他の参加者も、その回に講読する箇所
の予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学19

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『カルミデス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>プラトン(427-347 BC)の『カルミデス』の原典を精読する。いわゆる「ソクラテ斯的対話篇」の一つとされる本著作では、「ソープロシュネー(節制)」とは何かをめぐって議論が交わされる。「もの静かさ」や「恥」といった一般的規定から、「自己自身を知ること」や「知の知」といった知的要素を含んだ定義が示されるが、いずれもソクラテスによって批判的に吟味され、不十分とされる。</p> <p>「ソープロシュネー」は、プラトンの主著『国家』はもちろんのこと、古代ギリシア思想全体をみても重要な徳であるだけでなく、ソクラテスの「無知の知」とも密接に関わる。また、ソクラテスの対話相手が、三十人政権のメンバーともなるクリティアスやカルミデスであることから、その歴史的背景やプラトンの政治思想との関連を指摘する論者も多い。本授業では、『カルミデス』の精読を通して、本対話篇がはらむ多岐にわたる問題群に複眼的視点を持って向き合いながら、プラトン哲学の理解の深化を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・ 注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・ 文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に『カルミデス』の内容および思想史的位置づけについて説明を行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『カルミデス』精読 『カルミデス』を冒頭から精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 前期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋哲学史(演習) (2)へ続く -----					

西洋哲学史(演習) (2)

[履修要件]

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

[教科書]

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

[参考書等]

(参考書)

Tsouna, Voula 『Plato's Charmides. An Interpretative Commentary』 (Cambridge U.P., 2022) ISBN:978-1-316-51111-4

Wolf, Raphael 『Plato's Charmides』 (Cambridge U.P. 2023) ISBN:978-1-009-30819-9

Tuozzo, Thomas M. 『Plato's Charmides. Positive Elenchus in a "Socratic" Dialogue』 (Cambridge U.P. 2011)

そのほか授業でも紹介する。

毎回読んでくるコメントリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

(その他（オフィスアワー等）)

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学20

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『カルミデス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>プラトン(427-347 BC)の『カルミデス』の原典を精読する。いわゆる「ソクラテ斯的対話篇」の一つとされる本著作では、「ソープロシュネー(節制)」とは何かをめぐって議論が交わされる。「もの静かさ」や「恥」といった一般的規定から、「自己自身を知ること」や「知の知」といった知的要素を含んだ定義が示されるが、いずれもソクラテスによって批判的に吟味され、不十分とされる。</p> <p>「ソープロシュネー」は、プラトンの主著『国家』はもちろんのこと、古代ギリシア思想全体をみても重要な徳であるだけでなく、ソクラテスの「無知の知」とも密接に関わる。また、ソクラテスの対話相手が、三十人政権のメンバーともなるクリティアスやカルミデスであることから、その歴史的背景やプラトンの政治思想との関連を指摘する論者も多い。本授業では、『カルミデス』の精読を通して、本対話篇がはらむ多岐にわたる問題群に複眼的視点を持って向き合いながら、プラトン哲学の理解の深化を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に前期まで読んだ『カルミデス』の内容について復習・おさらい、論点の整理などを行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を再度紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『カルミデス』精読 『カルミデス』を前期に続けて精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 後期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋哲学史(演習) (2)へ続く -----					

西洋哲学史(演習) (2)

[履修要件]

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所のため、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

[教科書]

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

[参考書等]

(参考書)

Tsouna, Voula 『Plato's Charmides. An Interpretative Commentary』 (Cambridge U.P., 2022) ISBN:978-1-316-51111-4

Wolf, Raphael 『Plato's Charmides』 (Cambridge U.P. 2023) ISBN:978-1-009-30819-9

Tuozzo, Thomas M. 『Plato's Charmides. Positive Elenchus in a "Socratic" Dialogue』 (Cambridge U.P. 2011)

そのほか授業でも紹介する。

毎回読んでくるコメントリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

(その他（オフィスアワー等）)

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学21

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東京大学大学院人文社会系研究科 志田 雅宏 講師		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中世ユダヤ哲学の展開と諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、中世ユダヤ哲学の歴史的な展開を概観し、そのなかで扱われたさまざまな問題についての考察をおこなう。ラビ・ユダヤ教の思想家たちにとって、哲学とは聖書やタルムードにおいて表現される思想とは異質の文化であり、自分たちの宗教的な伝統についての新たな解釈を提示しうるものであるだけでなく、ときにその伝統との緊張や論争を生じさせるものでもあった。</p> <p>本講義の目的は、中世ユダヤ哲学の主要な著作を読むことに加えて、異なる文化を持つ各地域のユダヤ人社会における哲学の受容について考察することで、この思想的な潮流の持つ多様な側面を明らかにすることである。</p>					
[到達目標]					
<p>この授業の到達目標は以下の三つである。</p> <p>(1) 中世ユダヤ哲学の主要な著作を講読し、理解する</p> <p>(2) 中世ユダヤ哲学が、同時代のユダヤ教の文化やユダヤ人たちの社会に与えた影響について理解する</p> <p>(3) 中世ユダヤ哲学の研究における具体的な論点について、自身の考察や意見を表現することができるようになる</p>					
[授業計画と内容]					
<p>各回の内容は以下のとおりである。</p> <p>なお進捗に応じて内容を変更することがある。</p> <p>第1回 序論：中世ユダヤ哲学とはなにか</p> <p>第2回 ラビ・ユダヤ教の成立と中世における展開</p> <p>第3回 中世ユダヤ哲学の嚆矢：サアディア・ガオン</p> <p>第4回 ユダヤ教新プラトン主義：シュロモ・イブン・ガビロール</p> <p>第5回 ユダヤ教の倫理思想：バフヤ・イブン・パクーダ</p> <p>第6回 哲学への批判：イエフダ・ハレヴィ</p> <p>第7回 イェフダ・ハレヴィ</p> <p>第8回 中世ユダヤ哲学の頂点：マイモニデス</p> <p>第9回 マイモニデス</p> <p>第10回 哲学と聖書解釈</p> <p>第11回 神義論：哲学者たちのヨブ記解釈</p> <p>第12回 哲学とユダヤ人社会：マイモニデス論争</p> <p>第13回 哲学とユダヤ人社会：キリスト教論駁</p> <p>第14回 中世西欧のユダヤ哲学：ハスダイ・クレスカス</p> <p>第15回 まとめ</p>					
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

- ・テキストについては試訳の日本語訳か既存の英訳を用意するので、原著の言語（ユダヤ・アラビア語とヘブライ語）を習得している必要はない。
- ・事前に「17. 参考書等」に挙げられている文献（和書）を読んでおくことが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

以下の二項目で評価する。
平常点（20％）、レポート（80％）

【教科書】

使用しない
テキストの抜粋（日本語訳）を中心としたレジユメを配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業内で適宜紹介する。
和書として、以下の二点を挙げる。
・井筒俊彦「中世ユダヤ哲学史」『岩波講座東洋思想第二巻 ユダヤ思想2』（岩波書店、1988年）所収
・志田雅宏「中世ユダヤ哲学」『世界哲学史4』（伊藤邦武ほか編、ちくま新書、2020年）所収
百科事典（英語）として、以下を挙げる
Encyclopaedia Judaica, Second Edition, F. Skolnik (editor in chief), 22 vols., Detroit: Macmillan Reference USA, Thomson Gale, c. 2007.
また、ユダヤ文献のオンラインツールであるSefariaを挙げる
<https://www.sefaria.org/texts>

【授業外学修（予習・復習）等】

予習として、講義資料を事前に読んでおくことが望ましい。
また、わからない人名やユダヤ教の専門用語が出てきたら、事典などでこまめに調べること。

（その他（オフィスアワー等））

授業内容だけでなく、わからないことや希望することなどがあれば、遠慮なく伝えてください。
メールでの連絡ももちろん対応いたします。メールアドレスは講義資料に記載いたします。
集中講義での授業となるため、面談などについては、原則として授業期間中のみの対応となることをご了承ください。
集中講義のため、成績報告が規定の採点報告日より遅れる予定です。ご了承ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学22

科目ナンバリング	G-LET03 65234 LJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	13世紀におけるアリストテレス倫理学の受容(2)				
[授業の概要・目的]					
十三世紀、大学制度の確立とアリストテレスの著作及びギリシア語・アラビア語で書かれたアリストテレス注解書の翻訳の普及によって、西洋倫理思想は大きく変化した。この授業は、その変容を考察することを目的としている。具体的には、十三世紀後半に、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』第二～五巻でなされているような徳についての議論がどのように受容されたかを、主に当時書かれた同書の注解書をもとに考察する。					
[到達目標]					
アリストテレス『ニコマコス倫理学』の二～五巻の内容について、13世紀にどのような問題が提起され、どのように論じられていたのかを理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション：アリストテレス倫理学著作の翻訳・影響概観					
第2-3回 十二世紀における徳概念					
第4-6回 十三世紀前半における徳概念					
第7-9回 十三世紀中盤(トマス・アクィナスを含む)における徳概念					
第10-13回 十三世紀後半(トマス・アクィナス以降)における徳概念					
第14回 まとめ：徳概念の変遷					
第15回 フィードバック：授業内容に対する質問受付					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末レポートによって評価する。					
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

授業で扱う箇所の翻訳等の資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

(事前に配布する)資料を事前に読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学23

科目ナンバリング	G-LET03 65234 LJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	13世紀におけるアリストテレス倫理学の受容(1)				
[授業の概要・目的]					
十三世紀、大学制度の確立とアリストテレスの著作及びギリシア語・アラビア語で書かれたアリストテレス注解書の翻訳の普及によって、西洋倫理思想は大きく変化した。この授業は、その変容を考察することを目的としている。具体的には、十三世紀後半に、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』第一巻及び十巻でなされているような倫理学・幸福についての議論がどのように受容されたかを、主に当時書かれた同書の注解書をもとに考察する。					
[到達目標]					
アリストテレス『ニコマコス倫理学』の一巻・十巻の内容について、13世紀にどのような問題が提起され、どのように論じられていたのかを理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション：アリストテレス倫理学著作の翻訳・影響概観					
第2-3回 十二世紀における倫理学と幸福論					
第4-6回 十三世紀前半における倫理学と幸福論					
第7-9回 十三世紀中盤(トマス・アクィナスを含む)における倫理学と幸福論					
第10-13回 十三世紀後半(トマス・アクィナス以降)における倫理学と幸福論					
第14回 まとめ：倫理学・幸福論の変遷					
第15回 フィードバック：授業内容に対する質問受付					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末レポートによって評価する。					
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

授業で扱う箇所の翻訳等の資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

(事前に配布する)資料を事前に読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学24

科目ナンバリング	G-LET03 75242 SJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	木4,5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中世哲学の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行う。発表及び発表内容についての議論を通じて、中世哲学史のさまざまな時代・領域の論点についての知識を深め、哲学・哲学史的分析力を高めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世哲学の諸問題について広く学び、歴史的連関と哲学的重要性について説明できるようになる。 ・自身の哲学的関心を原典テキストに基づいて明快に論じることができるようになる。 ・他者の批判的吟味を理解し、それを自分の議論展開や論文作成に活かすことができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。</p> <p>第1回 打ち合わせ、発表順の決定 第2-14回 各自の研究発表と質疑応答 第15回 まとめ、質問受付</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。発表の内容、討論への参加などにより評価するが、最低1回の発表を行うことが前提となる。					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

東郷雄二 『新版 文科系必修研究生活術』 (ちくま学芸文庫、2009年)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の特性上、発表担当者は授業外にその準備をすることが必要である。また、その他の出席者も担当者の予告した発表内容について、あらかじめ予習することが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

中世哲学史を専攻している学生は必修とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学25

科目ナンバリング	G-LET03 75243 SJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井澤 清		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	トマス・アキナス『対異教徒大全』精読Ⅰ				
【授業の概要・目的】					
トマス・アキナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。					
【到達目標】					
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味を理解できるようになる。 トマス・アキナスの哲学思想を原典に即して理解し、批判的吟味ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
本年度は昨年度に引き続き、第2巻98章以下第3巻2章までの箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「分離実体」と「能動者と善」に関する諸問題である。 (1回)イントロダクション (2~14回)『対異教徒大全』第2巻98章から第3巻2章までの精読 (15回)まとめと整理					
【履修要件】					
ラテン語の初級文法を習得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点によって評価する。					
【教科書】					
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学26

科目ナンバリング	G-LET03 75243 SJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井澤 清		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	トマス・アキナス『対異教徒大全』精読Ⅱ				
【授業の概要・目的】					
前期の「トマス・アキナス『対異教徒大全』精読Ⅰ」の続き。トマス・アキナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。					
【到達目標】					
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味を理解できるようになる。 トマス・アキナスの哲学思想を原典に即して理解し、批判的吟味ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、第3巻2章以下4章までの箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「能動者と善」、「悪」に関する諸問題となる。 (1回)イントロダクション (2~14回)『対異教徒大全』第3巻2章から4章までの精読 (15回)まとめと整理					
【履修要件】					
ラテン語の初級文法を習得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点によって評価する。					
【教科書】					
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学27

科目ナンバリング	G-LET03 75243 SJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アベラールの『哲学者、ユダヤ人、キリスト教徒の対話』を読む				
【授業の概要・目的】					
アベラールの Collationes (『哲学者、ユダヤ人、キリスト教徒の対話』)の読解を通して、自然法や最高善、徳についてのアベラールの基本的な考え方を理解する。					
【到達目標】					
自然法や最高善、徳についてのアベラールの基本的な考え方を理解する。 ラテン語で書かれたテキストを読むことができるようになる。					
【授業計画と内容】					
アベラールの Collationes (『哲学者、ユダヤ人、キリスト教徒の対話』)のラテン語テキストを丁寧に読む。アベラールが、信仰や自然法、最高善、徳について論じたテキストを読むことで、各問題について、アベラールの基本的な考え方を理解する。今年は、section 24 から読み始める。					
第1回:イントロダクション:文献案内とテキストのコピー配布 第2-14回:テキストの読解:Collationes 第15回:フィードバック:まとめ、質問受付					
【履修要件】					
ラテン語の初級文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
【教科書】					
Peter Abelard 『Collationes』(Oxford University Press, 2001)(ラテン語テキストと英訳。作品についての解説もある。)					
【参考書等】					
(参考書) Peter Abelard 『Ethical Writings』(Hackett, 1995)(比較的安価で入手が容易な英訳)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業で読む箇所の訳読ができるように予習する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学28

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	トマス・アキナスの『ニコマコス倫理学註解』を読む				
[授業の概要・目的]					
トマス・アキナス『ニコマコス倫理学註解』の第四巻を読み、トマス・アキナスによるアリストテレスの徳論の解釈を考察する。今年度は高邁の徳についての議論の部分を読む。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ラテン語で書かれたスコラ哲学のテキストを読むことができるようになる。 ・スコラ哲学(註解)特有の表現や術語に慣れる。 ・議論の構造を理解しながら、読むことができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
トマス・アキナスの『ニコマコス倫理学註解』第四巻を丁寧に読む。今年度は高邁の徳についての議論(第8講~)の部分を読む。					
(第1回)イントロダクション:文献案内、テキストのコピーの配布					
(第2-14回)テキストの精読					
(第15回)フィードバック:まとめ、質問受付					
[履修要件]					
ラテン語の初級文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。					
[教科書]					
Thomas Aquinas 『Sententia Libri Ethicorum』(Opera Omnia Iussu Leonis)(初回にテキストのコピーを配布する予定。)					
[参考書等]					
(参考書)					
Thomas Aquinas 『Commentary on Aristotle's Nicomachean Ethics』(Dumb Ox Books, 1993)					
R. A. Gauthier 『Magnanimite』(Vrin, 1951)					
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で読む箇所について訳読ができるように予習をすること。
ギリシア語の該当部分についても目を通しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学29

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 大河内 泰樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代哲学古典講読				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』(1807)について講義する。扱うのは「精神章」Cである。精神章Cは、「自分自身を確信する精神 道德性」と題されており、Bにおける近代の「疎外」を乗り越えた精神のあり方が、カントの道德論とヘーゲルの同時代のロマン主義的思潮に仮託して展開されることになる。今期は、そのなかでもc.のいわゆる良心論をあつかう。ヘーゲルは、当時のロマン主義の精神の中に、カントの実践理性の要請論を乗り越えた道徳的な天才としての良心を見出すが、その限界を指摘しながら、集合的主体としての『絶対精神』の形成のプロセスを描いており、ヘーゲルがここでいかなる「時代批判Zeitkritik」を展開しているのかを明らかにする。</p>					
[到達目標]					
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および精神章の構造と課題 第3回 ヘーゲルのカント批判 第4回 良心への導入 第5回 良心とはなにか？ 第6回 良心の自由 第7回 良心の限界 第8回 行為する意識と評価する意識 第9回 美しき魂 第10回 公共性としての普遍 第11回 個別的意識の欺瞞 第12回 普遍的意識の欺瞞 第13回 絶対精神と否定の否定 第14回 宗教へ 第15回 フィードバック</p>					
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----					

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

樫山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

【授業外学修(予習・復習)等】

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学30

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 大河内 泰樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代哲学古典講読				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』(1807)について講義する。扱うのは「精神章」Cである。精神章Cは、「自分自身を確信する精神 道德性」と題されており、Bにおける近代の「疎外」を乗り越えた精神のあり方が、カントの道德論とヘーゲルの同時代のロマン主義的思潮に仮託して展開されることになる。今期は、そのなかでもa.「道德的世界観」、b.「置き換え/ずらかし」を中心に扱う。カントの「実践理性の要請論」を踏まえながら、ヘーゲルがいかにそれを換骨奪胎し、精神の歴史の中に位置づけているのか、そしてその批判のポイントはどこにあるのかを検討していく。</p>					
【到達目標】					
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および精神章の構造と課題 第3回 フランス革命の帰結としての道德性 第4回 道德的世界観への導入 第5回 道德的世界観とはなにか 第6回 カントの実践的理性の要請論 第7回 第一要請論 第8回 第二要請論 第9回 第三要請論 第10回 なぜ要請論は「置き換え/ずらかし」なのか 第11回 第一要請論への批判 第12回 第二要請論への批判 第13回 第三要請論への批判 第14回 要請論の克服と良心 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----					

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

櫻山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

また、カントの『実践理性批判』のいずれかの訳書を参照のこと。

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学31

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	哲学の翻訳的展開				
【授業の概要・目的】					
<p>歴史的に見て、哲学は常に翻訳され、異文化へ伝えられてきた。翻訳と哲学の実用的な関係がここにあると言える。また逆に哲学者により翻訳が哲学された例も認められる。翻訳はいかに哲学されたのか。本講義は、これを根本的な問いとして設定する。さらに、新たな哲学が生成が翻訳に負っているということも、本講義が主張すべきことである。日本の哲学者には、ほとんど翻訳を哲学した例が見られない。しかし、「授業計画と内容」(下記)に示した翻訳関連のテキストを読解することで、日本哲学においても、翻訳により新たな哲学が生成したことに気づくはずだ。そのような説明を盛り込む予定である。</p>					
【到達目標】					
<p>翻訳というものを、一言語から他言語への転換と見る一般的な認識を見直し、それは実は哲学と密接な関係にあるということを理解することを目指す。また、そのために様々な哲学者による翻訳関連の言説を読み解き、哲学のあらたな考え方に視線を向けることにもなる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。</p> <p>1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2-6 哲学者による翻訳理論ーライブニッツ、ハイデガー、ベンヤミン、デリダ 7-9 翻訳を哲学する [1] ーJohn Sallis, On Translation 『翻訳について』 10-12 翻訳を哲学する [2] ーAntoine Berman, L'epreuve de l'etranger (『他者という試練』) 13-14 翻訳を哲学する [3] ーHenri Meschonnic, Poetique du traduire (翻訳することの詩学) 15 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点50%と期末のレポート試験50%による。					
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学32

科目ナンバリング	G-LET05 65331 LJ34				
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語で哲学する困難と可能性				
[授業の概要・目的]					
<p>哲学は、非言語的なものを言語化しなければ成立しない。しかし、例えば西田幾多郎の哲学には、非言語的なものも多分に含意されていると言える。というのも、西田は非言語的なものを言語化する動態を、その哲学の立場としたからだ。そのような西田はいかなる言語観をもっていたのか。また、西田は、日本語で哲学することをどのように捉えていたのか。本講義の目的は、西田を中心に、哲学的に彼と関連のある近現代の日本の哲学者の言語観、言語論を探り整理することにある。言語と思考の関係、哲学用語、日本語の文法の問題に特に焦点を当てて分析することになる。</p>					
[到達目標]					
<p>日本哲学における言語の問題の意義を考察する。西洋哲学を導入することを通して構築された日本哲学において、文法の問題が実は哲学的に重要であることを理解する。講義で扱う様々なテキストを、言語という観点から読み込み、新たな哲学的発見をすることになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。</p> <p>1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2-4 西田哲学における言語表現の問題、非言語的なものの言語化 5-7 和辻哲郎の「日本語と哲学の問題」における存在の言語表現 8-10 ゲストスピーカー、嶺秀樹教授による講義 11-12 ゲストスピーカー、氣多雅子教授による講義 13-14 井筒俊彦の言語哲学 15 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%と後期末のレポート試験50%による。					
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学33

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都工芸繊維大学 基盤科学系 教授	秋富 克哉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西谷啓治の「空」の立場 - ハイデッガーとの照応				
【授業の概要・目的】					
西谷啓治(1900-1990)における「空」の立場の確立と展開にとって、ハイデッガー(1889-1976)との対決は決定的であった。本講義では、西谷宗教哲学の展開の過程を、ニーチェ解釈に基づくニヒリズムの本質究明と超克という主題を出発点に、ハイデッガー思想との照応のもと考察する。戦後の『ニヒリズム』(1949年)から『宗教とは何か』(1961年)、およびその後のテクストをもとに、「世界」「歴史」「言葉」「技術」といった事象に接近することを試みる。					
【到達目標】					
京都学派を代表する思想家・西谷啓治が、自らの思想的立場を形成していく過程で、ハイデッガーとどのように対決していったかを、学ぶ。ハイデッガー思想および両思想家の哲学的関係について、理解を深める。					
【授業計画と内容】					
およそ以下のような内容を順次扱うが、変更の可能性もある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：趣旨説明と全体の展望 2. 『ニヒリズム』(1)ニヒリズムと歴史 3. 『ニヒリズム』(2)ニーチェ 4. 『ニヒリズム』(3)ハイデッガー 5. 『ニヒリズム』(4)「われわれ」とは誰か 6. 『宗教とは何か』(1)基本的立場 7. 『宗教とは何か』(2)宗教と科学 8. 『宗教とは何か』(3)虚無と空、現代技術 9. 『宗教とは何か』(4)空の立場 10. 『宗教とは何か』(5)時と歴史 11. 『禅の立場』(1)自己と心、根本気分 12. 『禅の立場』(2)世界と物 13. 「空と即」(1)詩的言語とロゴス(理) 14. 「空と即」(2)形象と構想力 15. 総括：残される課題とフィードバック 					
【履修要件】					
特になし					
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

西谷啓治 『西谷啓治著作集』(創文社、1986-1995年)

その他の参考文献や資料については、適宜指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

各自で参考文献を読み、自分なりの問題を見出す。

(その他(オフィスアワー等))

メールで行う(アドレスは、講義時に示す)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学34

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	ハワイ大学マノア校哲学部 石田 正人 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西田幾多郎の哲学概説				
[授業の概要・目的]					
<p>西田幾多郎は、京都学派哲学の創始者であり、近代日本哲学を代表する世界的哲学者である。本講義は、その前期・中期・後期哲学からテキストを抜粋し、それらを丁寧に読解しながら、西田の哲学思想の概説を行う。西田の生きた時代、日本思想史の中でみた西田、また海外での西田哲学の評価にも適宜言及する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本近代哲学および京都学派の哲学の出発点を理解する。 ・難解なテキストの読解を通じて、哲学を思考モデルとして構造的に理解する力を養う。 ・日本の哲学的伝統を考察する基本的視点を獲得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>本集中講義は、8月下旬の開講予定である。西田は、西洋哲学の徹底的な研究と、東洋思想の自覚的な継承により、独自の哲学的境地を切りひらいた側面をもつ。テキスト上では、西洋の哲学を縦横無尽に論じ、そこへ東洋的視点を加味し、最後は独特の哲学用語によって自身の立場を彫琢して行く、というパターンが多い。しかしより本質的には、西田は、東洋と西洋の哲学を事後的に統合しているのではなく、むしろはじめから両者共通の「根柢」を探究している。その「根柢」がたとえば初期西田では「純粋経験」として、中期西田では「場所」として、後期西田では「絶対矛盾的自己同一」としてあらわれる。本講義は、これら三つの概念の成立を中心として、哲学的な問題背景や関連諸概念にも目配りしつつ、西田独自の哲学的思考モデルを論じる。より具体的には、以下の諸テーマについて有機的な理解が得られるよう、キーパッセージを概ね年代順に考察してゆく。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西田の純粋経験 2. 実在と汎主体論的構成主義 3. 大正生命主義と倫理 4. 自覚的体系としての実在 5. 西田における数理と論理 6. 表現作用とは何か 7. 場所と創造的無 8. 叡智的世界・自己限定・身体性 9. 西田の時空論と物理学 10. 現実世界は論理構造をもつか 11. 行為的直観とポイエシス 					
日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く					

日本哲学史(特殊講義)(2)

12. 絶対矛盾的自己同一
13. 西田の臨濟禅・和辻の道元
14. 西田哲学と宗教対話
15. 日本哲学史における西田

最後の3項目(13-15)に関しては、年代に沿った考察が少々難しいので異なるアプローチをとり、むしろ参加者の討論参加を重視する。それまでの精読の成果を生かしながら、残された課題や疑問点について議論や意見交換を行い、フィードバックの一部とする。

【履修要件】

予備知識は想定していませんが、難解で知られる西田哲学ですので、理解にはある程度の努力と忍耐が必要です。岩波文庫所収『善の研究』『西田幾多郎哲学論集』(I)(II)(III)などに軽く目を通しておくと少し分かりやすくなります。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価します。質問・討論・感想の共有など何でもよいので、積極的な授業参加を心がけて下さい。講義の途中でも、質問や発言を遠慮する必要はありません。

【教科書】

使用しない
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
参考となる邦文献・欧文献は授業中に紹介します。

【授業外学修(予習・復習)等】

復習用の小課題(1ページ程度のレポート・まとめ)がある場合は、次の授業前に済ませておいて下さい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学35

科目ナンバリング	G-LET06 65431 LJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	加藤尚武の人と思想				
[授業の概要・目的]					
本講義の目的は、伝記の哲学的な重要性に着目しつつ、加藤尚武を例に取り、彼の思想を読み解くことである。本講義を通じて、現代日本の哲学・倫理学に対する一つの視座が得られるだろう。					
[到達目標]					
哲学理解における伝記・自伝の重要性を理解し、加藤尚武の哲学・倫理学の概要を説明できるようになること。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション 第2回-第5回 山形大・東北大時代とヘーゲル 第6回-第10回 千葉大時代と環境倫理・生命倫理 第11回-第12回 京大時代と応用倫理 第13回-第14回 その後の活動 第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業中の報告または課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書) 加藤尚武 『加藤尚武著作集』(未来社)(全15巻) 加藤尚武 『現代倫理学入門』(講談社学術文庫, 1997) ISBN:406159267X 廣松渉・加藤尚武 『ヘーゲル・セレクション』(平凡社, 2017) ISBN:4582768520					
[授業外学修(予習・復習)等]					
前の週に指定した文献を読んでくること。					
(その他(オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学36

科目ナンバリング	G-LET06 65431 LJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東京大学の哲学・倫理学				
【授業の概要・目的】					
本講義の目的は、主に戦後の東京大学の哲学・倫理学について、哲学者の人物像や人間関係に焦点を当てながら読み解くことである。本講義を通じて、現代日本の哲学・倫理学に関する一つの視座が得られるだろう。					
【到達目標】					
戦後の東京大学の哲学・倫理学の発展を理解し、主要な哲学研究者の思想についても説明できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回 イントロダクション 第2回-第4回 戦前・戦中まで(井上哲次郎、和辻哲郎など) 第5回-第9回 戦後-50年代まで(出隆、桂壽一、山本信、岩崎武雄、駒場教養学部など) 第10回-第14回 60年代(大森荘蔵、60年安保、68年大学紛争を含む) 第15回 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の報告または課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
事前に指定した文献を読んでくること。					
(その他(オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学37

科目ナンバリング	G-LET06 75440 SJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	倫理学の諸問題				
【授業の概要・目的】					
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。					
【到達目標】					
倫理学に関する論文執筆とプレゼンテーションの能力を身につける。					
【授業計画と内容】					
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジюмеを提出し、当日は発表スライドを用いて報告すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。なお、報告者は必ず報告の一週間前に完全原稿を配布すること。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
報告と討論への参加によって評価する。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
事前配布レジюмеを熟読のこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学38

科目ナンバリング	G-LET06 75440 SJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	応用倫理学演習				
【授業の概要・目的】					
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。					
【到達目標】					
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のための能力を養う。					
【授業計画と内容】					
生命倫理・環境倫理・情報倫理・ビジネス倫理・工学倫理など、広く応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジュメを提出し、当日は発表スライドを用いて報告すること。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
報告の評価と出席などの平常点による。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学39

科目ナンバリング	G-LET06 75443 SJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学文学部 准教授 永守 伸年		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	カント『判断力批判』の研究				
[授業の概要・目的]					
カントの『判断力批判』("Kritik der Urteilskraft")のドイツ語テキストを精読する。昨年度までは「序論」を講読してきたが、本年度はいよいよ本文に歩みを進め、「美の分析論」の第1節から読み進めていく。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、『判断力批判』を美学と倫理学の両面から考察することが本授業の目的である。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『判断力批判』の方法と構造を理解する。 ・『判断力批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション：カントの批判哲学の成り立ち 第2回 イン트로ダクション：『判断力批判』の位置 第3回 「美の分析論」第1契機：1節 第4回 「美の分析論」第1契機：1節 第5回 「美の分析論」第1契機：2節 第6回 「美の分析論」第1契機：3節 第7回 「美の分析論」第1契機：4節 第8回 「美の分析論」第1契機：5節 第9回 「美の分析論」第2契機：6節 第10回 「美の分析論」第2契機：7節 第11回 「美の分析論」第2契機：7節 第12回 「美の分析論」第2契機：8節 第13回 「美の分析論」第2契機：9節 第14回 「美の分析論」第2契機：9節 第15回 フィードバック：カント美学の概観					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(100%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 倫理学(演習)(2)へ続く -----					

倫理学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
イマヌエル・カント 『判断力批判 上』 (岩波書店, 1964)

[授業外学修(予習・復習)等]

精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学40

科目ナンバリング	G-LET06 75443 SJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学文学部 准教授 永守 伸年		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	カント『判断力批判』の研究				
[授業の概要・目的]					
カントの『判断力批判』("Kritik der Urteilkraft")のドイツ語テキストを精読する。昨年度までは「序論」を講読してきたが、本年度はいよいよ本文に歩みを進め、「美の分析論」の第1節から読み進めていく。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、『判断力批判』を美学と倫理学の両面から考察することが本授業の目的である。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『判断力批判』の方法と構造を理解する。 ・『判断力批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション：カントの批判哲学の成り立ち 第2回 イン트로ダクション：『判断力批判』の位置 第3回 「美の分析論」第3契機：10,11節 第4回 「美の分析論」第3契機：12節 第5回 「美の分析論」第3契機：13節 第6回 「美の分析論」第3契機：14節 第7回 「美の分析論」第3契機：15節 第8回 「美の分析論」第3契機：16節 第9回 「美の分析論」第3契機：17節 第10回 「美の分析論」第4契機：18節 第11回 「美の分析論」第4契機：19節 第12回 「美の分析論」第4契機：20節 第13回 「美の分析論」第4契機：21節 第14回 「美の分析論」第4契機：22節 第15回 フィードバック：カント美学の概観					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(100%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 倫理学(演習)(2)へ続く -----					

倫理学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
イマヌエル・カント 『判断力批判 上』 (岩波書店, 1964)

[授業外学修(予習・復習)等]

精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学41

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	上智大学 教授 佐藤 啓介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	死者をめぐる宗教哲学・宗教倫理				
[授業の概要・目的]					
<p>本科目は、伝統的に宗教文化と深く関連があり、儀礼その他の対象となってきた「死者」の概念をめぐって、近現代の宗教思想や宗教哲学、また「宗教的な」世俗思想(特に現代思想)がどのように考えてきたのか、また、「死者」をめぐって現代の宗教文化・「宗教的」文化がどのような問いに直面しているのかを考える講義科目である。とりわけ、とりわけ、「なぜ、どのように、どの程度まで私たちは死者を倫理的に配慮しなければならないのか」という、死者をめぐる倫理的な諸問題を中心に取り上げる。</p> <p>具体的には、現代の哲学・宗教哲学・心理学・法学などにおいて議論されている死者に対する倫理を、いくつかの学説に分類したうえで、それらの学説の妥当性を検討する。とりわけ、分析哲学、現代フランス哲学、近代日本思想、キリスト教思想などの死者論を検討対象とする予定である。また、応用的課題として、昨今の喫緊の課題である「死者AI」の問題についても考えたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・死者をめぐる宗教思想・宗教的思想の課題を理解することができる ・現代における死者をめぐる論叢の争点を体系化することができる ・死者をめぐる倫理について、宗教学および宗教学外(倫理学など)の観点から考察することができる 					
[授業計画と内容]					
<p>本科目は集中講義であり、開講日程は8月下旬を予定している、詳細については5月以降にKULASISを通して連絡する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 死者をめぐる倫理の基礎的諸問題 3. 現代の世俗社会における死者：特に法学的諸問題 4. 現代宗教学における宗教哲学と死者倫理 5. 観点1 死者の死後生とキリスト教思想 6. 観点1 死者の死後生とキリスト教思想(続き) 7. 観点2 死者の心理的関係説：グリーフケアと死者倫理 8. 観点3 死者の社会的実在説：分析哲学を中心に 9. 観点3 死者の社会的実在説(続き) 10. 観点4 死者の尊厳説：人間の尊厳の概念史とともに 11. 観点4 死者の尊厳説(続き) 12. 観点5 死者の他者説：現代宗教哲学を中心に 13. 観点6 死者の歴史学的存在説 14. 応用問題 死者AIの作成の可否を検討する 					
宗教学(特殊講義)(2)へ続く					

宗教学(特殊講義)(2)

15. 死者と現代宗教学

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

・ 議論への積極的な取り組み40%、レポート60%。

[教科書]

講義で取り上げる内容に関連したプリントを事前に配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

その他の文献については授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

集中講義なので、後日、KULASISにて指定するテキストを通読しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

この集中講義は採点報告日(前期8月中旬頃)以降の8月下旬に実施するため、他の科目に比べ、成績報告が遅れる見込みである。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学42

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「救い」の問題とその宗教/哲学的展開				
[授業の概要・目的]					
<p>私たちをとりまく種々の苦や悪からの「救い」とその道筋を言説化する「救済論(soteriology)」というのは、古来さまざまな宗教的伝統が提供してきたものであるが、同時にプラトンの語る「魂全体の向け変え」以来、種々の哲学的企てにおいて、「哲学による救い」と呼びうる事柄が繰り返し追究されてきた。そしてこの二つの流れはさまざまな仕方で交差しあい、私たちの「救い」の希求に対して応答してきた。</p> <p>この歴史的蓄積は、今日の苦や悪の経験に対してどのような意味をもちうるだろうか。この問題にかんする宗教哲学的考察の一端として、本講義では、ユダヤ・キリスト教のメシアニズムと仏教における浄土思想の流れをたどった上で、それらを取り込んで独自の哲学的思索を展開したものとして、ローゼンツヴァイク、ベンヤミン、レヴィナスなどの20世紀のユダヤ系哲学者たちと、田辺元の「懺悔道としての哲学」以来武内義範や長谷正當へと続く京都学派系列の浄土教哲学とを取り上げ、両者を行き来しつつ論じてみたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1. 「宗教哲学」と呼ばれる学的形態を学ぶ上で土台となるような哲学・宗教思想についての歴史的知識を身につける。</p> <p>2. 個々の主題や思想家、思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと関連づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の諸項目について、一項目あたり2～3回程度の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマ自体も変更の可能性もある。)</p> <p>1. 「救い」の問いとその現在 - 導入として (3回)</p> <p>2. メシアニズムと浄土仏教 - 「救済論」としての比較 (3回)</p>					
宗教学(特殊講義)(2)へ続く					

宗教学(特殊講義)(2)

- 3. 「哲学による救い」とその系譜 (3回)
- 4. 20世紀のユダヤ系哲学におけるメシアニズム (3回)
- 5. 京都学派の哲学的伝統における浄土思想 (3回)

フィードバックの仕方については、授業中に告知する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西谷宗教哲学の研究(4)				
[授業の概要・目的]					
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から、「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けついでいけるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、3年前から各年度の後期の特殊講義として進めてきたものであり、今期の授業はその続きであるが、来年度以降も同様の仕方で続けていく予定である。今年度は、前期西谷の到達点としての「根源的主体性」の立場を戦時中の歴史哲学・政治哲学的論考との関係において再検討した上で、それが戦後のニヒリズム論によってどのように変容/変質していったかを追跡していきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり1~4回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性がある。)</p> <p>1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために(1回)</p> <p>2. 昨年度の授業の要約 (2回)</p> <p>3. 「根源的主体性」と「近代の超克」 前期西谷宗教哲学の批判的考察(4回)</p> <p>4. 「虚無」と「無」の交錯 『ニヒリズム』と『神と絶対無』(4回)</p> <p>5. 「空の立場」の形成 1950年代の西谷 (4回)</p>					
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学44

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神秘体験の宗教哲学				
【授業の概要・目的】					
<p>西谷啓治によって「勝義における宗教哲学の祖」とされたF・シュライアマハーは、絶対者との間で成立する宗教体験を「絶対依存の感情」という言葉で表現した。のちにR・オットーはこの感情を彼が「被造物感情」と呼ぶものへと延長し、宗教体験(聖性の体験)の特性を哲学的方法によって再考している。これらの宗教哲学的思考によって捉えられたものは、いわゆる「神秘家」たちが内的に体験してきたものと符合する。</p> <p>本講義では、神秘体験という「えもいわれぬ」体験をいかにして哲学者たちが思考し、言語化し、場合によっては「変形」してきたかを追跡する。具体的な内容としては、まず前半部で、20世紀に入って登場したいくつかの哲学思想による神秘体験の説明を概観し、その意味内実を整理する。後半部では、哲学的思索を介した神秘体験の言語化という観点からA・ショーペンハウアーの思想を取り上げ、その宗教哲学的な解釈を試みる。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の宗教哲学における基本トピックを理解する。 2. 哲学と宗教学が交差する場で神秘体験の意味を深く考察することができる。 3. 複数の立場に関する学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>初回は導入に当てる。第2回から本格的な議論に入ってゆくが、講義の性質上、各トピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入的概説【1週】 2. 神秘体験への種々の見方～20世紀前半の宗教思想から【3週】 3. 神秘主義の批判的考察【2週】 4. 意志説の哲学的前提と宗教的含意【3週】 5. 世界認識の倫理的価値【2週】 6. 意志否定の積極的意義【3週】 7. フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業時に主要参考文献を紹介しておくので、予習として少しでも目を通しておくことで授業の理解が深まるだろう。授業後は、その回の講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学45

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ミシェル・アンリの哲学思想：宗教的なものへの問い				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では、前年度に続き、独創的な「生の現象学」を打ち立てた哲学者ミシェル・アンリ(1922-2002)の思想を扱う。アンリの著作群はすでにその初期から、あるタイプの宗教思想を考えるうえで有効な補助となる図式を提供してくれるものであり、今年度の講義はそのことを実証するための考察を意図している。本題に入る前に、アンリが使用する基本タームを実際のテクストに沿って説明していく。ここでは「生」「内在」「超越」「脱立」「自己触発」「情感性」「共パトス」といった諸概念が俎上に載せられる。そのうえで、1980年代末に着手した共同体論を背景にアンリが構想する「キリスト教哲学」の根本問題に取り組む。なかでも端緒となる著作『C'est moi la vérité』(1996)の解釈を通じて、アンリ宗教論の核心部分へとアプローチする。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ミシェル・アンリの哲学思想を正確に理解し、その特性を把握する。 2. 現代フランス現象学とキリスト教思想との関係を踏まえて、前者を後者に応用して思索することができる。 3. 複数の相互に関連する哲学的諸概念の学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>初回は導入に当てる。第2回から徐々に議論の核心へと近づいてゆくが、講義の性質上、各トピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション【1週】 2. アンリ現象学の捉え直し(1)：脱立的現象論【1週】 3. アンリ現象学の捉え直し(2)：内在と情感性【2週】 4. アンリ現象学の捉え直し(3)：アフェクトと共同体【2週】 5. 『現出の本質』における宗教論的モチーフの再考【2週】 6. 『われは真理なり』の基本前提：自己触発論の深化【3週】 7. 『われは真理なり』に依拠した宗教哲学の展開【3週】 8. フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

川瀬・米虫・村松・伊原木編 『ミシェル・アンリ読本』(法政大学出版局, 2022年) ISBN:978-4588151279

川瀬雅也 『生の現象学とは何か: ミシェル・アンリと木村敏のクロスオーバー』(法政大学出版局, 2019年) ISBN:978-4588151002

【授業外学修(予習・復習)等】

初回授業時に必要な基本文献を紹介するので、その中から各人の関心に基づいてテキストを選び、少しでも目を通しておくと授業の理解が深まるだろう。授業後は、その講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学46

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都工芸繊維大学 秋富 克哉 基盤科学系 教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西谷啓治の「空」の立場 - ハイデッガーとの照応				
【授業の概要・目的】					
西谷啓治(1900-1990)における「空」の立場の確立と展開にとって、ハイデッガー(1889-1976)との対決は決定的であった。本講義では、西谷宗教哲学の展開の過程を、ニーチェ解釈に基づくニヒリズムの本質究明と超克という主題を出発点に、ハイデッガー思想との照応のもと考察する。戦後の『ニヒリズム』(1949年)から『宗教とは何か』(1961年)、およびその後のテクストをもとに、「世界」「歴史」「言葉」「技術」といった事象に接近することを試みる。					
【到達目標】					
京都学派を代表する思想家・西谷啓治が、自らの思想的立場を形成していく過程で、ハイデッガーとどのように対決していったかを、学ぶ。ハイデッガー思想および両思想家の哲学的関係について、理解を深める。					
【授業計画と内容】					
およそ以下のような内容を順次扱うが、変更の可能性もある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：趣旨説明と全体の展望 2. 『ニヒリズム』(1)ニヒリズムと歴史 3. 『ニヒリズム』(2)ニーチェ 4. 『ニヒリズム』(3)ハイデッガー 5. 『ニヒリズム』(4)「われわれ」とは誰か 6. 『宗教とは何か』(1)基本的立場 7. 『宗教とは何か』(2)宗教と科学 8. 『宗教とは何か』(3)虚無と空、現代技術 9. 『宗教とは何か』(4)空の立場 10. 『宗教とは何か』(5)時と歴史 11. 『禅の立場』(1)自己と心、根本気分 12. 『禅の立場』(2)世界と物 13. 「空と即」(1)詩的言語とロゴス(理) 14. 「空と即」(2)形象と構想力 15. 総括：残される課題とフィードバック 					
【履修要件】					
特になし					
----- 宗教学(特殊講義) (2)へ続く -----					

宗教学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

西谷啓治 『西谷啓治著作集』(創文社、1986-1995年)
その他の参考文献や資料については、適宜指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

各自で参考文献を読み、自分なりの問題を見出す。

(その他(オフィスアワー等))

メールで行う(アドレスは、講義時に示す)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学47

科目ナンバリング	G-LET07 75541 SJ34				
授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Paul Ricœur, La symbolique du mal を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ポール・リクール『悪のシンボリズム』は、1960年に『有限性と罪責性』の第2分冊として刊行され、リクールを解釈学的哲学への転じさせた記念碑的著作である。同時にこの著作は、その大部分が聖書や諸文明の神話から渉猟した悪の象徴的・神話的表現の意味解釈に充てられており、リクールが自らの哲学的立場を更新するにあたって、従来の哲学の境界を踏み越え、宗教的表現の生成現場へと深く沈潜したことが見て取れる。</p> <p>この著作は二部構成であるが、本演習では、その第一部「一次的象徴：穢れ・罪・負い目」の「結論」と、第二部「始まりと終わりの神話」の「序論」を通読する。リクール解釈学の原点における哲学と宗教の交差の有りようを検討することによって、宗教哲学の諸可能性を探究するための材料としたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1．演習での訳読作業を通して、フランス語の哲学・宗教哲学のテクストを読みこなすための基本的な語学力を身につける。</p> <p>2．演習での教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテクストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p> <p>3．リクールの重要著作の一つを教師の指導と解説の下で精読することによって、リクール思想の根本問題とその哲学的・宗教哲学的意義を把握できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回-第2回 導入 テクストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。</p> <p>第3回 第15回 リクール『悪のシンボリズム』第一部「結論」と第二部「序論」の全体を、1回当たり2頁程度のペースで精読していく。出席者による訳出や内容要約に教員が詳細なコメントを加えた後、それを元に全員でさまざまな角度からの検討や考察を行っていく。</p> <p>*フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>					
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----					

宗教学(演習)(2)

【履修要件】

受講の絶対要件として特定の科目の履修や予備知識を求めることはないが、演習なので、継続的に出席し、授業に主体的かつ積極的に関わることを求めたい。
フランス語を中級まで履修済みであることが望ましいが、それを絶対条件にはしない。内容への強い関心を前提として、さまざまな形で参加を認める用意はあるので、必要に応じて相談してもらいたい。

【成績評価の方法・観点】

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)に基づき評価する。

【教科書】

Paul Ricœur, 『Philosophie de la volonté, t. 2. Finitude et Culpabilité 』 (Points, 2009) ISBN:(ISBN-10) 2757813293 (使用範囲をコピーして配布するが、可能ならば事前に購入しておくこと。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との連関で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意してこること。
授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西田幾多郎とMaine de Biranの交差的読解				
【授業の概要・目的】					
<p>小論「フランス哲学についての感想」(1936)に記されているように、西田は「フランス哲学独特な内感的哲学」に強い共感を寄せている。この共感が組織的な考察として展開されることはほとんどなかったが、中期西田哲学の転機を画する重要著作『無の自覚的限定』(1932)では、自らの哲学的立場を更新するための道案内の一人として、メヌ・ド・ビランの思索を集中的に取り上げ、「感じる」こと自体に内属する知から展開する哲学のあり方を探っている。西田はビランの「内感的哲学」にどこまで同行し、どこで袂を分かつか。西田のテキストと『心理学の基礎(Essai sur les fondements de la psychologie)』(1812)などのビランのテキストを交差させて読み進めることで、双方の思索の特徴とその可能性を新たな仕方理解することを目指したい。</p>					
【到達目標】					
<p>1. メヌ・ド・ビランのテキストの訳読作業を通して、フランス語の哲学・宗教哲学のテキストを研究していくために不可欠な水準の語学力を身につける。 2. 西田哲学を始めとする京都学派の哲学の研究において、そこで参照され取り込まれた西洋哲学の諸要素との関係を明確にしながら複眼的に理解していく手法を学んでいく。 3. 演習での教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテキストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回-第2回 導入 テキストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。 第3回 第15回 『無の自覚的限定』等で西田がメヌ・ド・ビランに言及している箇所を精読するとともに、それに対応するメヌ・ド・ビランの論述を『心理学の基礎』等から抜粋して訳読していく。出席者による訳出や内容要約に教員が詳細なコメントを加えた後、それを元に全員でさまざまな角度からの検討や考察を行っていく。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>					
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----					

宗教学(演習)(2)

【履修要件】

受講の絶対要件として特定の科目の履修や予備知識を求めることはないが、演習なので、継続的に出席し、授業に主体的かつ積極的に関わることを求めたい。
フランス語を中級まで履修済みであることが望ましいが、それを絶対条件にはしない。内容への強い関心を前提として、さまざまな形での参加を認める用意はあるので、必要に応じて相談してもらいたい。

【成績評価の方法・観点】

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)に基づき評価する。

【教科書】

西田幾多郎 『西田幾多郎全集第五巻 無の自覚的限定』(岩波書店 2002年) ISBN: 9784000925259
(使用範囲をコピーして配布する。)

Maine de Biran 『Oeuvres TomeVII-1: Essai sur les fondements de la psychologie』(J.Vrin, 2001) ISBN: 978-2-7116-2066-1 (使用範囲をコピーして配布する。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との連関で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意してくる。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学49

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 安部 浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シェリングの自由論				
[授業の概要・目的]					
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲートの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと前期の復習 2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22) 3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-59) 4. 「悪の現実性の演繹・その5」(60-63/18) 5. 「悪の現実性の演繹・その6」(63/19-66/4) 6. 「神の自由・その1」(66/5-70/29) 7. 「神の自由・その2」(70/30-/75/10) 8. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その1」(75/11-79/17) 9. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その2」(79/18-82/8) 10. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(82/8-84/31) 11. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(84/32-87) 12. 辻村公一「無底ーシェリング『自由論』に於ける」 13. 園田坦「無底・意志・自然ーJ.ベームの意志-形而上学について」 14. 総括と総合討論 					
宗教学(演習)(2)へ続く					

宗教学(演習)(2)

15. フィードバック

[履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)

辻村公一 『ドイツ観念論断想』 (創文社)

藪田坦 『無底と意志-形而上学-ヤーコブ・ベーム研究』 (創文社) ISBN:978-4-423-17158-5

[参考書等]

(参考書)

シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)

F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学50

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Jean-Paul Sartre, Esquisse d'une théorie des émotionsを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、ジャン＝ポール・サルトルが1939年に発表した論考『情動論素描』を扱う。本書は、サルトルが現象学に強い関心を示していた時期の哲学的論考であり、フッサールとハイデガーの影響下でありつつも、のちの『存在と無』(1943)に結実するような独自の思想世界を垣間見せている小著である。今年度は前半部分をスキップし、最後の章にあたる「現象学的理論の素描」を中心に読んでいく予定である。これはフランス語圏における「感情の現象学」の試みの嚆矢にあたるものであり、その道具立ての古さは否めないものの、サルトルらしい才気に満ち溢れており、よく読めば今でも刺激的なアイデアが見いだされる。授業では、ディスカッションを重視したうえでの精読を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2. 哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3. 感情に関する諸問題を哲学的思考にもとづいて把握できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 本演習で扱う著作およびその著者について知っておくべき最低限の事柄を説明する。</p> <p>第2～14回 『情動論素描』を読み進めてゆく。進度は出席者の語学力に合わせて調整する。</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
訳読・議論への参加度(40%)と学期末のレポート(60%)により評価する。					
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----					

宗教学(演習)(2)

[教科書]

J.-P. Sartre 『Esquisse d ' une théorie des émotions』 (Hermann, 1965) ISBN:2705651780

[参考書等]

(参考書)

J P・サルトル著 ; 竹内芳郎訳・解説 『自我の超越 ; 情動論粗描』 (人文書院、2000年) ISBN: 4409030558

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

初回授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学51

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Viktor E. Frankl, ... Trotzdem Ja zum Leben sagen を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、ヴィクトール・E・フランクルの著作『... Trotzdem Ja zum Leben sagen』を扱う。この書物は、本邦でも『夜と霧(原題:強制収容所におけるある心理学者の体験)』で知られるフランクルが、強制収容所での体験を経て解放された翌年に行った3つの講演を収めたものである。主要なテーマは「生きる意味と価値」であり、20世紀前半の「生の哲学」や「実存哲学」の観点から、また昨今議論されることの多い「人生の意味」論といった観点から、あるいは「神の死」以後の現代宗教哲学という観点からも有益な示唆に富んでおり、論じるに値する多くの問題が伏在している。テキストの精読を通じて、参加者一人一人が自身の思索を深めていくことが期待される。今年度は、フランクル思想の要点が詰まった第一講演を中心に読み進めてゆく。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語で書かれた思想書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2. 思想書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3. フランクルの実存思想を踏まえつつ、生の意味に関わる宗教哲学的課題に取り組むことで、その意義を把握できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 本演習で扱うテキストおよびその著者フランクルについて知っておくべき最低限の事柄を紹介する。</p> <p>第2~14回 「... Trotzdem Ja zum Leben sagen」を1回2~3頁程度のペースで読み進めてゆく。</p> <p>第15回 フィードバック フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
訳読・議論への参加度(40%)と学期末のレポート(60%)により評価する。					
[教科書]					
Viktor E. Frankl 『Trotzdem Ja zum Leben sagen : drei Vorträge gehalten an der Volkshochschule Wien-Ottakring』(Deuticke, 1947)					
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----					

宗教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

V・E・フランクフル著；山田邦男, 松田美佳訳 『それでも人生にイエスと言う』（春秋社, 1993年）
ISBN:4393363604

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

(その他（オフィスアワー等）)

初回の授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学52

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(講読) Religion (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 松葉 類	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Judith Butler, Precarious Life: The Powers of Mourning and Violence(2004)を読む 1				
[授業の概要・目的]					
J・バトラーのPrecarious Life: The Powers of Mourning and Violence(日本語題『生のあやうさ』)を読む。本書は、今日までつづく「9・11以降」という時代状況において、生の条件を問い直すことを目的として書かれている。本書の提示する「宗教学」「哲学」「政治学」を横断することで、世界各地で現在も行われている(宗教)戦争に対する、わたしたちのかかわり方について考えたい。授業では、表題作「生のあやうさ」を中心に、英語で読解していく。					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。 2. 宗教哲学に隣接するテキストを宗教哲学の思索に活用していくことができるようになる。 3. 自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*フィードバックについては授業内で周知する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%、学期末レポート50% (受講者数によってはこの限りではない)					
[教科書]					
授業中にテキスト(Judith Butler, Precarious Life: The Powers of Mourning and Violence, London and New York: Verso, 2004)のコピーを配布する。					
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----					

宗教学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

訳読中心の授業であるため、翻訳と内容についてしっかり予習をして来ること。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは次のとおり。欠席や緊急の連絡などに用いてください。r.matsuba.office1@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学53

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(講読) Religion (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 松葉 類	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Judith Butler, Precarious Life: The Powers of Mourning and Violence(2004)を読む2				
[授業の概要・目的]					
<p>J・バトラーのPrecarious Life: The Powers of Mourning and Violence(日本語題『生のあやうさ』)を読む。本書は、今日までつづく「9・11以降」という時代状況において、生の条件を問い直すことを目的として書かれている。本書の提示する「宗教学」「哲学」「政治学」を横断することで、世界各地で現在も行われている(宗教)戦争に対する、わたしたちのかかわり方について考えたい。授業では、表題作「生のあやうさ」を中心に、英語で読解していく。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。 2. 宗教哲学に隣接するテキストを宗教哲学の思索に活用していくことができるようになる。 3. 自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*フィードバックについては授業内で周知する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点50%、学期末レポート50% (受講者数によってはこの限りではない)</p>					
[教科書]					
<p>授業中にテキスト(Judith Butler, Precarious Life: The Powers of Mourning and Violence, London and New York: Verso, 2004)のコピーを配布する。</p>					
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----					

宗教学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

訳読中心の授業であるため、翻訳と内容についてしっかり予習をして来ること。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは次のとおり。欠席や緊急の連絡などに用いてください。r.matsuba.office1@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学54

科目ナンバリング	G-LET08 65631 LJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学 神学部 教授 村上 みか		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツの宗教改革 - ルター -				
[授業の概要・目的]					
この講義では、宗教改革の成立と展開のプロセスを、教会史、神学史のみならず、政治史、経済史、社会史の視点より考察し、諸勢力を取り込んで成立した宗教改革が多様なあり方をもって展開してゆく歴史の様相を学ぶ。さらに、宗教改革神学の基礎となるルターの神学が、このプロセスの中で周囲との議論を通じて展開されてゆく様子を学び、この歴史的な文脈の中でルターの神学思想の内容を理解し、その意義について考察を行う。					
[到達目標]					
1. 宗教改革を16世紀の多様な歴史的錯綜のもとに理解することができるようになる。 2. 宗教改革の神学の基礎を理解し、その意義を歴史的に考察する力を身につける。					
[授業計画と内容]					
以下の計画にしたがって講義を進める。ただし講義の進み具合、参加者の関心に応じて、実施回が変更になる場合がある。					
第1回	授業概要の説明				
第2回	<宗教改革成立の背景> 政治史、経済史				
第3回	社会史				
第4回	教会史				
第5回	神学史				
第6回	<宗教改革の成立と展開> 初期ルター：信仰の歩みと独自の神学の形成				
第7回	ローマ教会との神学論争				
第8回	改革運動の形成と拡大：ルターの支持者たちと教会改革				
第9回	<ルター神学の展開> (1) 信仰義認論、聖書の権威、教皇制度				
第10回	(2) 全信徒祭司論、修道制				
第11回	(3) キリスト者の自由、サクラメント論				
第12回	(4) 自由意志論と奴隷意志論、二つの統治				
第13回	(5) 律法と福音、聖餐論				
第14回	(6) 教会論、教職制度				
第15回	総括				
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

キリスト教学(特殊講義)(2)

[履修要件]

キリスト教に関する基本的な知識があることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（議論への参加）：30点

レポート：70点（レポートの評価は、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の考察や優れた表現については、高く評価する。）

[教科書]

授業時にテキストを配布する。

[参考書等]

（参考書）

土井、久松、村上、芦名、落合 『1冊でわかるキリスト教史』（日本キリスト教団出版局、2018年）
ISBN:9784818409989

A.E.マクグラス（高柳俊一訳）『宗教改革の思想』（教文館、2000年）ISBN:9784764271944

金子春勇、江口再起 共編 『ルターを学ぶ人のために』（世界思想社、2008年）ISBN:
9784790713036

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストや参考書をもとに復習し、事象や神学について歴史的な視点から考察を行う。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールを通じて行う。
メールアドレスは授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学55

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「初期キリスト教教理史I/A」				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義の目的は、ニカイア公会議(325年)以前までの初期キリスト教の中で形づくられた教理の発展の歴史を、個々の主題に沿って提示することにある。教理とは、教会の中で唱えられたキリスト教の教えであるが、最初期のキリスト教の時代から教説の正統性をめぐって様々な問題が生じ(例えば、一神教やキリスト論の問題など)、その都度それらに対処することによって教理が形成されてきた。本講義では、キリスト教とユダヤ思想や諸哲学との間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。</p>					
[到達目標]					
<p>主として4世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本年度後期のテーマは、「初期キリスト教教理史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. キリスト教の教父たち 3. ユダヤ教とキリスト教 4. ヘレニズムのユダヤ教 5. キリスト教を取り巻く諸宗教 6. 古代哲学とキリスト教 7. 新プラトン主義とキリスト教 8. グノーシス思想 9. 信仰の原則と教理 10. 最初期キリスト教の教理的規範 11. 2世紀後半以降の教理的規範 12. 3世紀以降の教理的規範 13. 権威としての教父 14. 旧約聖書 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----					

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。

レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史上使徒教父からニカイア公会議まで』（一麦出版社）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。

・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学56

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「救い」の問題とその宗教/哲学的展開				
[授業の概要・目的]					
<p>私たちをとりまく種々の苦や悪からの「救い」とその道筋を言説化する「救済論(soteriology)」というのは、古来さまざまな宗教的伝統が提供してきたものであるが、同時にプラトンの語る「魂全体の向け変え」以来、種々の哲学的企てにおいて、「哲学による救い」と呼びうる事柄が繰り返し追究されてきた。そしてこの二つの流れはさまざまな仕方で交差しあい、私たちの「救い」の希求に対して応答してきた。</p> <p>この歴史的蓄積は、今日の苦や悪の経験に対してどのような意味をもちうるだろうか。この問題にかんする宗教哲学的考察の一端として、本講義では、ユダヤ・キリスト教のメシアニズムと仏教における浄土思想の流れをたどった上で、それらを取り込んで独自の哲学的思索を展開したものとして、ローゼンツヴァイク、ベンヤミン、レヴィナスなどの20世紀のユダヤ系哲学者たちと、田辺元の「懺悔道としての哲学」以来武内義範や長谷正當へと続く京都学派系列の浄土教哲学とを取り上げ、両者を行き来しつつ論じてみたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1. 「宗教哲学」と呼ばれる学的形態を学ぶ上で土台となるような哲学・宗教思想についての歴史的知識を身につける。</p> <p>2. 個々の主題や思想家、思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと関連づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の諸項目について、一項目あたり2～3回程度の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマ自体も変更の可能性はある。)</p> <p>1. 「救い」の問いとその現在 - 導入として 2. メシアニズムと浄土仏教 - 「救済論」としての比較</p>					
キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く					

キリスト教学(特殊講義)(2)

3. 「哲学による救い」とその系譜
4. 20世紀のユダヤ系哲学におけるメシアニズム
5. 京都学派の哲学的伝統における浄土思想

フィードバックの仕方については、授業中に告知する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学57

科目ナンバリング	G-LET08 65631 LJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西谷宗教哲学の研究(4)				
[授業の概要・目的]					
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から、「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けついでいけるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、3年前から各年度の後期の特殊講義として進めてきたものであり、今期の授業はその続きであるが、来年度以降も同様の仕方で続けていく予定である。今年度は、前期西谷の到達点としての「根源的主体性」の立場を戦時中の歴史哲学・政治哲学的論考との関係において再検討した上で、それが戦後のニヒリズム論によってどのように変容/変質していったかを追跡していきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり1~4回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性がある。)</p> <p>1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために 2. 昨年度の授業の要約 3. 「根源的主体性」と「近代の超克」 前期西谷宗教哲学の批判的考察 4. 「虚無」と「無」の交錯 『ニヒリズム』と『神と絶対無』 5. 「空の立場」の形成 1950年代の西谷</p>					
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探っていってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学神学部 助教 三輪 地塩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本プロテスタント・キリスト教の神学思想と教派				
[授業の概要・目的]					
この講義は明治初期から昭和中期までの日本プロテスタント・キリスト教の基礎的な知識を提示することにある。特に日本という特殊な宗教背景や歴史的文脈の中で起こった神学をたどり、日本プロテスタント神学思想の成り立ちを考察する。					
[到達目標]					
受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。 ・幕末明治期から昭和中期までの日本プロテスタント・キリスト教の神学者並びに神学思想の基礎的な知識を得ることができる。 ・日本プロテスタント史における教派の歴史と神学的特徴の概要を説明することが出来る。					
[授業計画と内容]					
以下のテーマを中心として進める予定であるが、受講者の興味関心によって適宜順序や内容を変更する場合がある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 幕末明治期の日本とキリスト教 2 復古神道と明治初期キリスト教 3 日本基督教会と日本組合基督教会 4 植村正久とその思想(1) 横浜バンドと植村正久の人物像 5 植村正久とその思想(2) 伝道者・神学者としての植村正久 6 内村鑑三とその思想(1) 札幌バンドと内村鑑三の人物像 7 内村鑑三とその思想(2) 不敬事件・無教会・非戦論者 8 新島襄とその思想・同志社英学校と教育論 9 海老名弾正とその思想(1) 熊本バンド・陽明学的キリスト教 10 海老名弾正とその思想(2) 植村海老名論争 11 大正期における都市化とキリスト教の進展 12 中田重治ときよめ派・日ユ同祖論 13 ホーリネス教会(日本聖教会)とアジア太平洋戦争期のホーリネス弾圧 14 宗教団体法と日本基督教団の創立 15 総括・大戦後の日本プロテスタント・キリスト教会 					
[履修要件]					
特になし					
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----					

キリスト教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）と学期末レポート（50点）により評価する。
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価を行なう。

[教科書]

教科書は使用しない。別途、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業内で適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・予習：特になし。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献等を用いて授業内容の理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

講義形式で行なう。授業終了時には毎回コメントシートを提出してもらい、翌週以降の授業内で紹介・応答する。質問については授業内もしくはメールなどで受け付け、翌週以降の授業内で回答する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学59

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	上智大学 教授 佐藤 啓介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	死者をめぐる宗教哲学・宗教倫理				
[授業の概要・目的]					
<p>本科目は、伝統的に宗教文化と深く関連があり、儀礼その他の対象となってきた「死者」の概念をめぐって、近現代の宗教思想や宗教哲学、また「宗教的な」世俗思想(特に現代思想)がどのように考えてきたのか、また、「死者」をめぐって現代の宗教文化・「宗教的」文化がどのような問いに直面しているのかを考える講義科目である。とりわけ、とりわけ、「なぜ、どのように、どの程度まで私たちは死者を倫理的に配慮しなければならないのか」という、死者をめぐる倫理的な諸問題を中心に取り上げる。</p> <p>具体的には、現代の哲学・宗教哲学・心理学・法学などにおいて議論されている死者に対する倫理を、いくつかの学説に分類したうえで、それらの学説の妥当性を検討する。とりわけ、分析哲学、現代フランス哲学、近代日本思想、キリスト教思想などの死者論を検討対象とする予定である。また、応用的課題として、昨今の喫緊の課題である「死者AI」の問題についても考えたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・死者をめぐる宗教思想・宗教的思想の課題を理解することができる ・現代における死者をめぐる論叢の争点を体系化することができる ・死者をめぐる倫理について、宗教学および宗教学外(倫理学など)の観点から考察することができる 					
[授業計画と内容]					
<p>本科目は集中講義であり、開講日程は8月下旬を予定している、詳細については5月以降にKULASISを通して連絡する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 死者をめぐる倫理の基礎的諸問題 3. 現代の世俗社会における死者：特に法学的諸問題 4. 現代宗教学における宗教哲学と死者倫理 5. 観点1 死者の死後生とキリスト教思想 6. 観点1 死者の死後生とキリスト教思想(続き) 7. 観点2 死者の心理的関係説：グリーフケアと死者倫理 8. 観点3 死者の社会的実在説：分析哲学を中心に 9. 観点3 死者の社会的実在説(続き) 10. 観点4 死者の尊厳説：人間の尊厳の概念史とともに 11. 観点4 死者の尊厳説(続き) 12. 観点5 死者の他者説：現代宗教哲学を中心に 13. 観点6 死者の歴史学的存在説 14. 応用問題 死者AIの作成の可否を検討する 					
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----					

キリスト教学(特殊講義)(2)

15. 死者と現代宗教学

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

・ 議論への積極的な取り組み40%、レポート60%。

[教科書]

講義で取り上げる内容に関連したプリントを事前に配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

その他の文献については授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

集中講義なので、後日、KULASISにて指定するテキストを通読しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

この集中講義は採点報告日(前期8月中旬頃)以降の8月下旬に実施するため、他の科目に比べ、成績報告が遅れる見込みである。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学60

科目ナンバリング	G-LET08 75641 SJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学神学部 教授 浅野 淳博		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	コロサイ書の講読				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義の目的は、受講者がギリシャ語原典で新約聖書を読むことをとおして、ギリシャ語文法への理解、さらに扱う文献の思想への理解を深めることです。本講義はコロサイ書を扱います。 The purpose of the lecture is for students to practice reading the text of New Testament in the original Greek language, in order to deepen their understanding of the Greek grammar and the theology of the text, which is the letter to the Colossians.</p>					
[到達目標]					
<p>この講義を終えた際、受講者は以下のことを修得していることが期待されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習のギリシャ語文法を介して、原典テキストを理解する。 2. ネストレ・アラント28版を用いて、本文批評を行う。 3. コロサイ書に特徴的な神学を理解する。 <p>At the end of the course, the students are expected;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to be able to utilize the knowledge of the grammar to make sense of the text. 2. to be able to use the apparatus of NA 28 for the textual analysis. 3. to have a better understanding of particular theological issues of Colossians 					
[授業計画と内容]					
<p>10/3 導入 Orientation 10/10 講義#1：コロサイ書の著者 Authorship of Colossians 10/17 講読#1 (コロサイ2.6-8 Col 2.6-8) 10/24 講読#2 (コロサイ2.9-11 Col 2.9-11) 10/31 講読#3 (コロサイ2.12-14 Col 2.12-14) 11/7 講読#4 (コロサイ2.15-17 Col 2.15-17) 11/14 講義#2：本文批評の理論 Theory of Textual Criticism 11/28 講義#3：本文批評の実践 Practice of Textual Criticism 12/5 講読#5 (コロサイ2.18-20 Col 2.18-20) 12/12 講読#6 (コロサイ2.21-13 Col 2.21-13) 12/19 講読#7 (コロサイ3.1-3 Col 3.1-3) 12/26 講義#4：コロサイ書の反対者 Paul's Opponents in Colossians 1/9 講読#8 (コロサイ3.4-6 Col 3.4-6) 1/16 講読#9 (コロサイ3.7-9 Col 3.7-9) 1/23 総括試験とフィードバック Examination</p>					
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----					

キリスト教学(演習)(2)

[履修要件]

初級のギリシャ語を履修していることが望まれる。
Students are expected to have learnt the basic NT Greek Grammar.

[成績評価の方法・観点]

1. ギリシャ語の翻訳 Translation from Greek to Japanese
2. 演習内での貢献度 Contribution inside the class

[教科書]

講師が用意した講義ノートを用いる。
The student note will be provided by the lecturer.

[参考書等]

(参考書)

Nestle-Aland 『Novum Testamentum Graece, 28th edition』 (Deutsche Bibelgesellschaft, 2013) ISBN: 978-3-438-05162-2

ジェレミー・ダフ 『エレメンツ新約聖書ギリシャ語教本改訂第3版』 (新教出版社、2020年) ISBN: 978-4-400-11-28-6 C1087

津村春英 (訳) 『ギリシア語新約聖書 (第28版) 序文』 (日本聖書協会、2013年) ISBN: 978-4-8202-9231-9

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回のギリシャ語を翻訳してくる。
Translation of Greek to Japanese.

(その他 (オフィスアワー等))

基本的にメールで対応するが、演習後にも対応可。
The lecturer can be reached by the email

quee0921@kwansei.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学61

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 波勢 邦生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	終末論				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業の目的は、キリスト教神学の中心問題である終末論についての文献(英語)を精読することを通して、キリスト教独自の世界・歴史理解を学ぶことである。授業の前半では、キリスト教神学の最終項目「終末論」を学ぶために必要な前提を据える。授業中盤以降より、終末論についての歴史的概観を古代から現代に向けて追いかけて、基本的知識を学ぶ。出席者が「終末論」について概説可能な段階に到達することを目指す。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・終末論について歴史的観点から説明することができる。 ・キリスト教思想における終末論の重要性を理解することができる。 ・演習における訳読作業を通して、英語の専門的なテキストを読みこなすことができる。 					
【授業計画と内容】					
<p>初回はオリエンテーション(授業の概要、目的、進め方について)となる。</p> <p>演習前半では、終末論を問うための概略的前提を据える。旧新約聖書から始め、神学の概論的講義を行う。</p> <p>演習中盤以降で、古代、中世、近代までの終末論的運動を取り上げる。また20世紀米国で隆盛した終末論ディスペンセーションナリズム、また日本の終末論的運動として内村鑑三の再臨運動などを扱う。</p> <p>また演習後半に時間が許せば、他宗教における終末思想などへの考察発表なども求める。</p> <p>受講者には、宗教運動としての「終末論」の起源と構造を把握し、それらの運動への哲学的・批判的視点を獲得する努力が求められる。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。毎回の訳読のほか、議論の参加度などから総合的に評価する。					
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----					

キリスト教学(演習)(2)

[教科書]

使用するテキストについては、コピーを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は、各人が毎回テキストを精読し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

演習に関わる質問は、各週の演習後か、メール(hasekunio@gmail.com)で行う。氏名・所属・学籍番号を明記の上で「京大・終末論クラスの質問です」とタイトル入力。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学62

科目ナンバリング	G-LET08 75641 SJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	教父学の基本的研究を読むIII/A				
[授業の概要・目的]					
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。					
[到達目標]					
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。					
[授業計画と内容]					
今年度の前期では、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。					
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 異端文書 3. 正統と異端 4. グノーシス主義 5. 『ナグ・ハマディ文書』 6. バシレイデス 7. ウァレンティノス 8. マルキオン 9. モンタノス主義 10. モナルキア主義 11. 正統主義の反応 12. エイレナイオス 13. 『異端反駁』 14. 『使徒的使信の表明』 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----					

キリスト教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学63

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	教父学の基本的研究を読むIII/B				
[授業の概要・目的]					
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。					
[到達目標]					
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。					
[授業計画と内容]					
前期に引き続き、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。					
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ヒッポリュトス 3. 『全異端反駁』 4. 『教会規則』 5. キリスト教学派の始まり 6. フィロン 7. アレクサンドリアのクレメンス 8. 『ギリシア人への勧め』 9. 『教師』 10. 『ストロマテイス』 11. オリゲネス 12. 註解書的著作 13. 靈的神学 14. 『原理論』 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----					

キリスト教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学64

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 呉 孟晋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀東アジアの前衛絵画				
[授業の概要・目的]					
<p>前期の講義からの継続として、日本、中国、台湾、韓国をふくむ東アジア地域において欧米のモダニズム芸術に影響を受けた前衛絵画の流れを概観する。日中戦争からの戦時期を経て、東西冷戦やその後のグローバル化の流れもふくめて前衛絵画のあり方を考えてみたい。各回とも講義レジュメを配布し、それにもとづいて関連する作品を紹介する。受講者の関心にそって、適宜、討議も交えることで、現代美術史にたいする理解を深めてもらうことをめざす。</p>					
[到達目標]					
<p>近現代の東アジア地域で展開した絵画をはじめとする視覚芸術の様相について多面的な理解を深めることで、日本や中国の美術史のみならず東アジア近現代史など関連分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし前期からの講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(講義のすすめ方など) 2. 戦時期日本の前衛絵画 3. 抗戦期中国の絵画 4. 抗戦期中国の前衛絵画 5. 戦後日本の前衛絵画 6. 韓国の前衛絵画 7. 五月画会と東方画会 8. 劉国松について 9. 戦後台湾での李仲生について 10. 戦後台湾における前衛演劇と現代美術 11. 戦後台湾美術におけるモダニズム 12. 中国の社会主義リアリズム絵画 13. 改革開放以後の中国の絵画 14. 台湾の現代アートと中国の現代アート 15. まとめ 					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
前期と同じ。

【授業外学修（予習・復習）等】

博物館や美術館などで美術作品に親しんでもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学65

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 呉 孟晋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀東アジアの前衛絵画				
[授業の概要・目的]					
<p>なぜ、20世紀の美術は「伝統」と対峙しようとしたのであろうか。本講義では、日本、中国、台湾、朝鮮(戦後は韓国)をふくむ東アジア地域において、欧米のモダニズム芸術に影響を受けた前衛絵画の流れを概観することで、その問いについて考えてみたい。とくに民国期中国の絵画運動に注目して、1930年代の東京に集まった中国や台湾、朝鮮からの留学生の活動と日本の画壇とのかかわりを「前衛」という概念によって捉え直してみたい。各回とも講義レジュメを配布し、それにもとづいて関連する作品を紹介する。受講者の関心にそって、適宜、討議も交えることで、近代美術史にたいする理解を深めてもらうことをめざす。</p>					
[到達目標]					
<p>近現代の東アジア地域で展開した絵画をはじめとする視覚芸術の様相について多面的な理解を深めることで、日本や中国の美術史のみならず東アジア近現代史など関連分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(講義のすすめ方など) 2. モダニズム芸術について 3. 欧米の前衛絵画の流れ 4. 日本の前衛絵画1 5. 日本の前衛絵画2 6. 中国の伝統絵画にみる革新性 7. 上海と広東の絵画運動について 8. 日本の前衛画壇と中国の画学生たち 9. 中華独立美術協会について 10. 李仲生について 11. 雑誌と画家たち 12. 植民地期台湾の前衛絵画 13. 植民地期朝鮮の前衛絵画 14. 中国を旅した日本の前衛画家たち 15. まとめ 					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

呉孟晋 『移ろう前衛：中国から台湾への絵画のモダニズムと日本』（中央公論美術出版、2024年刊行予定）

【授業外学修（予習・復習）等】

博物館や美術館などで美術作品に親しんでもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学66

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	平安時代後期の仏教彫刻；東アジア美術における位置				
[授業の概要・目的]					
<p>歴代天皇・上皇や摂関家の願になる寺院の創建が相継いだ平安時代後期において、造像に際する規範意識はどのようなものだったのだろうか。近年、当該期の造形史研究においては、いわゆる「遣唐使の停止」後における「唐物」流入状況の評価をめぐって議論が活発化し、東アジア世界における位置が明らかになりつつある。かかる研究動向を受け、本講義では如上の問題意識に照らして興味深い事例を選定して検討を加える。日本彫刻史研究の動向を理解するとともに、研究能力を涵養することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>当該期の代表的な遺品について、正しく観察および記述ができること。 日本彫刻史の研究動向を理解し説明できること。 当該期の宗教や社会について洞察を深めること。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>取り上げる主な課題は以下の通り。講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、適宜講義担当者が調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 仏教彫刻の基礎知識 2 「国風文化論」の動向(1) 3 「国風文化論」の動向(2) 4 摂関期の事例(1) 5 摂関期の事例(2) 6 摂関期の事例(3) 7 摂関期の事例(4) 8 多数仏像の造立(1) 9 多数仏像の造立(2) 10 多数仏像の造立(3) 11 多数仏像の造立(4) 12 舎利信仰と関連造像(1) 13 舎利信仰と関連造像(2) 14 舎利信仰と関連造像(3) 15 まとめ 					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常時に提出する小課題（50％）：作品を観察・記述する。
まとめのテスト（50％）：対象作品について関連する学問領域に言及しつつ、彫刻史の展開上の位置を論じる。

【教科書】

使用しない
授業資料を配付する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で配付する資料に基づき予習・復習を行うこと。
可能な作品については博物館・寺社で実物を観察すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本彫刻史における観音造像の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>日本彫刻史における観音像の重要作例を取り上げる。近年、国土観(辺土意識・中華意識とのせめぎ合い)、王権思想との相互依存関係、舍利信仰といった、東アジアの仏教国に顕著な心性が、東アジアの仏教美術史を理解する上での重要な鍵として注目を集めている。こうした研究動向を踏まえて、本講では観音造像に際して求められた心性を探ることを目的とする。観音は大乗仏教の代表的な菩薩であり、その居処とされる補陀落山は日本における聖地意識に強く影響した。また造像に関わる儀軌は木彫像製作にあたり常に意識された。さらに「応現」する観音の在り方は中世の仏像観を考えるうえで示唆に富む。</p> <p>毎回の講義では対象作品の「形状」「造像技法」等の基本情報を確認し、教学や実践、社会史的背景、海流交流史などを視野に入れつつ、造形的・思想的変遷を検討する。また、近年の注目すべき研究成果を取り上げて研究動向の理解を得ることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>観音像の代表的な遺品について、正しく観察および記述ができること。 日本彫刻史の研究動向を理解し説明できること。 当該期の宗教や社会について洞察を深めること。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>観音像を主な対象として、主要な作品について考察する。取り上げる課題は下記のとおりである。なお、対象作品や進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、適宜講義担当者が調整する。</p>					
第1回	イントロダクション	仏教美術の基礎知識			
第2回	飛鳥時代の観音像像	法隆寺夢殿観音立像			
第3回	奈良時代の観音造像(1)	東大寺法華堂不空羂索観音立像			
第4回	奈良時代の観音造像(2)	東大寺法華堂不空羂索観音立像2			
第5回	奈良時代の観音造像(3)	聖林寺十一面観音立像			
第6回	奈良時代の観音造像(4)	滋賀百濟寺、静岡南禅寺の十一面観音立像			
第7回	平安時代の観音造像(1)	奈良法華寺、滋賀向源寺の十一面観音立像			
第8回	平安時代の観音造像(2)	大阪観心寺如意輪観音坐像			
第9回	平安時代の観音造像(3)	奈良法隆寺如意輪観音像			
第10回	鎌倉時代の観音像像(1)	興福寺南円堂不空羂索観音像			
第11回	鎌倉時代の観音像像(2)	愛知瀧山寺観音菩薩・梵天・帝釈天像			
第12回	鎌倉時代の観音像像(3)	京都大報恩寺六観音像			
第13回	鎌倉時代の観音像像(4)	京都妙法院千手観音坐像			
第14回	奈良長谷寺十一面観音立像				
第15回	まとめ				
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義) (2)

フィードバック方法は授業中に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常時に提出する小課題（50％）：作品を観察・記述する。
まとめのテスト（50％）：対象作品を選定し、関連する学問領域に言及しつつ、彫刻史の展開上の位置を論じる。

【教科書】

使用しない
参考資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学68

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	キリスト教美術と宗教改革				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本年度前期は、宗教改革と美術について、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・キリスト教における信仰と美術の関係性について、理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>16世紀のドイツに端を発した宗教改革を機に、キリスト教における画像の使用について深淵な議論が交わされるようになった。そもそも、キリスト教は偶像崇拝を禁止しており、宗教実践における絵画や彫刻といったイメージの利用は、潜在的な問題をはらんでいたのである。本講義では、宗教実践における画像の使用に対するプロテスタントの批判とカトリック側の応答について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 イントロダクションと問題意識の共有 第3～8回 プロテスタントによる批判とイコノクラスム 第9～14回 カトリックの内部刷新 トリエント公会議を中心に 定期試験 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外学修の一環として、各自、授業中に指示する美術館や展覧会等を訪れて、芸術作品を直接鑑賞し、その造形的特徴を美術史的な観点から分析する能力を養うことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心をもち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	17世紀の花の静物画 - 制作と受容の多重性をめぐって				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本講義は、近世ヨーロッパ絵画における花の静物画の制作と受容に注目して、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・絵画制作と受容の関係について、見識を深める。 					
[授業計画と内容]					
ヨーロッパにおける花の静物画の絵画ジャンルとしての成立は17世紀初頭にさかのぼる。本年度前期は、花の静物画成立当初の制作と受容の在り方について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。					
第1回 ガイダンス 第2～4回 イントロダクション 花の静物画の成立と制作の実態 第5～10回 花の静物画の受容の諸様態 フェデリーコ・ボッローメオの芸術観 第11～14回 花の静物画の受容の諸様態 ダニエル・セーヘルズとイエズス会 定期試験 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(出席状況および議論への参加など、30点)と期末レポートまたは試験(70点)に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。					
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業外学修の一環として、各自、授業中に指示する美術館や展覧会等を訪れて、芸術作品を直接鑑賞し、その造形的特徴を美術史的な観点から分析する能力を養うことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学70

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学史研究 さらに新しい視点から見たカント『判断力批判』				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、美学史の再構築を通じて美学研究の(一つの)ありようを示すことにある。今学期は、カント(Immanuel Kant, 1724-1804)生誕300周年に鑑み、近代美学の古典である彼の『判断力批判』の今日的解釈を試みる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・一次文献に基づく広義の美学(史)研究の方法に習熟する。 ・カントを中心とする近世美学の諸相について、見識を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に1回の授業で1§を取り上げ(長大であったり解釈が困難な§には複数回費やすこともありうる)、既存の各国語訳や注釈を駆使して解釈上の問題点を洗い出し、それについて出席者全員で議論する(そのため、演習の性格を持つ特殊講義となることを了承されたい)。取り上げる§は、担当教員と受講者双方の興味関心に基づいて決定する(ので、受講者は積極的に希望を申し出てほしい)。以下では、担当教員のシラバス作成時の興味関心に基づく仮の計画を示す。</p> <p>第1回イントロダクション 第2回 §1 「趣味判断はästhetischな判断である」 第3回 §9 「趣味判断においては快の感情が対象の判定に先行するのか、あるいはその逆なのかという問題の考察」 第4回 §17 「美の理想について」 第5回 §18 「趣味判断の様相とは何か」 第6回 §26 「崇高なものの理念に必要な、自然物の量測定について」 第7回 §40 「共通感覚について」 第8回 §43 「技術について」 第9回 §44 「芸術について」 第10回 §49 「天才を形成する心の能力について」 第11回 §51 「芸術の分類について」 第12回 §53 「芸術相互の美的価値の比較」 第13回 §59 「道徳性の象徴としての美について」 第14回まとめと補足 第15回フィードバック</p>					
[履修要件]					
美学講義を履修済みであることが望ましい。					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業中の発言・議論への貢献度）60点＋期末レポート40点により評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。詳細な評価基準はレポート課題提示時に併せて提示する。

[教科書]

上述のように、本授業は『判断力批判』の逐条的解釈を遂行する予定なので、ドイツ語既習者は同書のドイツ語原典を、未習者は英訳を手許に携えて授業に臨んでほしい。ドイツ語原典はKlemme編哲学文庫版を、英訳はGuyer・Matthews訳ケンブリッジ版を最も勧めるが、他のものでもよい。オンライン・テキストもいくつかある。詳細は初回授業時に指示する。

[参考書等]

（参考書）

ゲルノート・ベーメ（河村他訳）『新しい視点から見たカント『判断力批判』』（晃洋書房、2018年）ISBN:9784771030480

小田部胤久『美学』（東京大学出版会、2020年）ISBN:9784130120647

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

上述のように、本授業は演習の性格を持つ特殊講義として計画されているので、予習として次回取り上げる箇所の本文・各国語訳・注釈に目を通して自分なりの問題点を明らかにしておくことが求められる。また復習として、授業での議論を基に問題を掘り下げ、その次の授業につなげることが求められる。もちろん、これらすべてを最初から完遂することを求めるものではなく、習熟度に応じた予習・復習を適宜個別に指示するので、臆せず積極的に参加してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学71

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代日本美学思想研究 ポイエーシスとプラクシスの相克と協働				
【授業の概要・目的】					
本講義の目的は、西洋哲学を輸入した明治以降の近代日本思想を素材に美学研究の(一つの)ありようを示すことにある。その初回となる今学期は、「ポイエーシス(制作)」と「プラクシス(実践)」という(対)概念を補助線として、近代日本美学思想の諸相を浮かび上がらせることを試みる。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・一次文献に基づく広義の美学(史)研究の方法に習熟する。 ・近代日本美学思想の諸相について、見識を深める。 					
【授業計画と内容】					
以下を仮の計画として示しておくが、「特殊講義」という性格上、担当教員の研究の進展度によって変更されうる。また、受講者の関心の所在や理解度によっても変更されうる。その場合は、授業内およびKULASISにて指示する。					
第1回 イントロダクション					
第2回 背景 西洋古代哲学におけるポイエーシスとプラクシス					
第3回 背景 西洋近代美学におけるポイエーシスとプラクシス					
第4回 前期西田芸術哲学概観					
第5回 後期西田芸術哲学概観					
第6回 京都学派のフィードラー受容					
第7回 西田はゴーガンの「色」を見たか? 『哲学研究』という場					
第8回 西田はゴーガンの「色」を見たか? 最初期京都学派の美学(深田)					
第9回 西田はゴーガンの「色」を見たか? 前期植田芸術哲学					
第10回 西田はゴーガンの「色」を見たか? 京都学派と美術史学					
第11回 西田はゴーガンの「色」を見たか? カラー映写の技術史					
第12回 前期西田哲学における芸術の役割					
第13回 後期西田哲学における芸術の役割					
第14回 まとめと補足					
第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート80点+授業中の発言・議論への貢献度20点(加点方式、発言しない場合は0点)により評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。詳細な評価基準はレポート課題提示時に併せて提示する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

神林恒道『近代日本「美学」の誕生』(講談社、2006年) ISBN:9784061597549
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

特殊講義は、教員による研究の「実演」である。講義内容を基に、自分ならどう考えるか、を常に意識して授業に臨むこと。そのためにも、授業で紹介する文献を閲読すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学72

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 稲本 泰生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア仏教美術研究				
[授業の概要・目的]					
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>					
[到達目標]					
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本年度前期は東アジアの僧形像に注目し、いくつかの事例検討を通して論点を共有するとともに、研究動向の把握と展望を行う。ただし担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視点と問題意識【1～2週】 2. 東アジアの高僧像をめぐる問題点【4～5週】 3. 東アジアの羅漢像をめぐる問題点【4～5週】 4. 東アジアの僧形菩薩像等をめぐる問題点【3～4週】 5. フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する 必要な資料を配付する。</p>					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学73

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 稲本 泰生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア仏教美術研究				
[授業の概要・目的]					
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>					
[到達目標]					
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本年度後期は中国北魏時代に開鑿された石窟寺院の彫刻・絵画に注目し、いくつかの重要作例を取り上げてその東アジア仏教美術史上における意義を検討するとともに、研究動向の把握と展望を行う。ただし担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視点と問題意識【1～2週】 2. 甘粛・陝西地区の石窟(炳靈寺・敦煌など)をめぐる諸問題【3～4週】 3. 雲岡石窟をめぐる諸問題【4～5週】 4. 龍門石窟をめぐる諸問題【4～5週】 5. フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する 必要な資料を配付する。</p>					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学74

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀音楽とは何だったか				
[授業の概要・目的]					
<p>21世紀が始まって既に四半世紀。かつて同時代(=私が生きている時代)だった20世紀は今やほぼ完全に「前世紀」になりつつある。この授業では、20世紀が「私が確かに生きた時代」であった世代の立場から、「あの世紀とは何であったか」を批判的に、しかしある種ノスタルジーも込めて考える。前期は20世紀前半の音楽潮流を、19世紀との対比で理解する。20世紀がいまだ完全に「前の時代」にはなっていないのと同様、20世紀は19世紀からの連続性と亀裂という視点抜きには理解しえない。</p>					
[到達目標]					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する					
[授業計画と内容]					
<p>1・2回：クラシック音楽とは何か：19世紀から理解する 3回：音楽は誰に奉納されてきたか：神・王・市民・大衆 4回：19世紀ヨーロッパが「音楽に国境はない」イデオロギーを作った 5・6回：第一次大戦の音楽史的意味 7・8回：芸術は未来を予言する？ 9・10回：第一次大戦のあと：1920年代と「大家」の消滅 10 - 13回：「ジャズ・エイジ」は大正童謡の同時代現象 14 - 15回：映画音楽とミュージカルはクラシックから生まれた</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学75

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀音楽とは何だったか 2				
【授業の概要・目的】					
21世紀が始まって既に四半世紀。かつて同時代(=私が生きている時代)だった20世紀は今やほぼ完全に「前世紀」になりつつある。この授業では、20世紀が「私が確かに生きた時代」であった世代の立場から、「あの世紀とは何であったか」を批判的に、しかしある種ノスタルジーも込めて考える。後期は20世紀前半の音楽潮流を、21世紀との対比で理解する。20世紀が私たちにとっていまだ完全に「前の世紀」にはなっていない。					
【到達目標】					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の問題として考えることを期待する					
【授業計画と内容】					
1・2回：冷戦時代の音楽史構図について 3回：前衛音楽の過激化と世界観 4回：「自由」の探求とケージ 5 - 7回：前衛音楽の全盛期はポップスの全盛期 8・9回：モダン・ジャズとは何か 10 - 12回：1970年代とポストモダンの始まり 13 - 15回：癒しとテクノロジー					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
【教科書】					
使用しない ネット動画などでとりあげられる音楽作品を自分自身で出来るだけ聴くこと					
【参考書等】					
(参考書) 岡田暁生『西洋音楽史』(中公新書)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学76

科目ナンバリング	G-LET09 65731 LJ34				
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都市立芸術大学美術学部 教授 加須屋 明子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代美術研究				
[授業の概要・目的]					
多様化する同時代における、現代美術の様々なありかたを考察する。具体的には、60年代以降のいわゆる現代美術の諸様相を検討しつつ、とりわけ近年顕著になった社会的関与芸術の成り立ち、それがどのように社会状況と関わりながら美術が変容してきたのかを考える。					
[到達目標]					
現代美術の成り立ちについて理解し、西欧諸国のみならず、旧東欧地域における美術の様相について基本的事項を知り、同時代の芸術表現について積極的に関わり、論述する姿勢を養う。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要, ガイダンス 1 2 ガイダンス 2 3 芸術と参加 60年代南米 4 オスカル・マソタ 5 オスカル・ボニー 6 封鎖された画廊 7 見えない演劇 8 参加のアクション 9 社会主義の内側 1 10 社会主義の内側 2 11 プラハ 12 スロヴァキア 13 公共空間 14 モスクワ 15 まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
評価方法: レポート					
[教科書]					
使用しない 適宜、プリント資料等を共有する。					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

クレア・ビショップ 『人工地獄』 (フィルムアート)

加須屋明子 『現代美術の場としてのポーランド』 (創元社)

山本浩貴 『現代美術史』 (中央公論新社)

アーサー・C. ダントー他 『アートとは何か: 芸術の存在論と目的論』 (人文書院)

[授業外学修(予習・復習)等]

積極的な予習復習を歓迎します

(その他(オフィスアワー等))

質問等はメールで kasuya@kcuu.ac.jp まで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学77

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	お茶の水女子大学基幹研究院 天野 知香 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	モダン・アートの諸問題				
【授業の概要・目的】					
フランスを中心に19世紀後半から20世紀前半の美術における諸問題を取り上げて論じる。特に旧来のモダニズム的な美術史観を批判的に捉え直すべく、装飾、ジェンダー、「他者」といった観点を中心に、通史的ではなく、論点にとって関連する作例を上げながら具体的に議論する。様式展開や巨匠中心の美術史の語り捉え直し、より多様な視野からいわゆるモダン・アートの時代の諸問題を取り挙げ、美術の理解を深めることで、多様な領域における美術作品や視覚表象への向き合い方自体を問い直す視点を養う。					
【到達目標】					
受講者は、第一に19世紀後半から20世紀前半におけるフランスを中心とした美術とそれを取り巻く状況を理解する。第二に自らをとりまく視覚表象をジェンダーや「他者」といった視点を含めて批判的に捉える視点を獲得する。上記二点から、より広範な視覚表象に向き合う際に自らの視点から多様な見方で対象を捉え、批判的に考えることができるようになる。					
【授業計画と内容】					
1回 イントロダクション 伝統とモダン・アート 2回 装飾とモダン・アート1 産業芸術とデザイン改良運動 3回 装飾とモダン・アート2 産業芸術から装飾芸術へ 4回 世紀末における装飾芸術の展開1 装飾と芸術の融合 5回 世紀末における装飾芸術の展開2 壁画とアンティミテ 6回 20世紀の諸問題 7回 「プリミティヴィズム」と他者表象1 ゴーガン 8回 「プリミティヴィズム」と他者表象2 20世紀 9回 ジェンダーとアート1 概論 10回 ジェンダーとアート2 ローランサンとレンピッカ 11回 ジェンダーとアート3 アイリーン・グレイ 12回 ジェンダーとアート4 クイアとロメイン・ブルック 13回 ケース・スタディ 1 14回 ケース・スタディ 2 15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポート課題(100%)。評価にあたっては、授業で獲得したいずれかの視点を各自自由に選んだ具体的な作例やテーマに応					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

用し、実証と先行研究に基づいて自らの見方で論じる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

様々な作例にできれば実際に触れながら授業に関連する論点から向き合い、疑問点をまとめて授業において質問できるようにする。
事前に関連する文献にあたり、自分なりの理解を深めておく。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレス、連絡手段など初回授業で伝達する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学78

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	芸術生成論				
【授業の概要・目的】					
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。					
【到達目標】					
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。					
【授業計画と内容】					
<p>1. 現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2. 受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3. それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4. 講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1)「関係性」によって成り立つ作品、2)「鑑賞者参加型」という特徴、3)リレーショナル・アートに見られる社会批判的な側面、4)ニコラ・プリオーと『関係性の美学』、5)芸術と社会批判、6)「関係性の美学」の日本への影響、7)ミニマリズム、8)アルテ・ポーヴェラともの派、9)コンセプチュアル・アート、10)パフォーマンス・アート、11)リレーショナル・アートの系譜、12)「関係性としての敵対」、13)プロトタイプ、14)アート・プロジェクトの問題点。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>					
【履修要件】					
後期の連続的な履修が望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
ニコラ・ブリーオー 『関係性の美学』(水声社、2023)
ニコラ・ブリーオー 『ラディカント：グローバルゼーションの美学に向けて』(フィルムアート社、2022)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学79

科目ナンバリング	G-LET09 65731 LJ34				
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	芸術生成論				
【授業の概要・目的】					
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。					
【到達目標】					
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。					
【授業計画と内容】					
<p>1. 現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2. 受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3. それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4. 講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) アウトサイダー・アート、2) ジャン・デュビュッフェ、3) 芸術と臨床、4) ジャン・ウリトラ・ポルド病院、5) 『すべての些細な事柄』、6) 『創造と統合失調症』、7) 生の美学、8) 収集とプリコラージュ、9) ヘテロトピア、10) フェルナン・ドゥリニイの地図作成、11) 放浪と漂流、12) 「非口頭的な言語」としての身振り、13) ジャン・マリと『この子ども』、14) 身振りと現代美術。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>					
【履修要件】					
前期の連続的な履修が望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
ジャン・ウリ 『コレクティブ：サン・タンヌ病院におけるセミナー』(月曜社、2017)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学80

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 筒井 忠仁		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世絵画論研究				
[授業の概要・目的]					
<p>桃山～江戸時代に書かれた絵画論を取り上げ、その内容について理解することがこの講義の目的である。画論は、著名な語句・言い回しだけが切り取られて人口に膾炙することが多く、全体像が理解されることは少ない。本講義では、各画論の全体を取り上げることで、執筆者が何を言おうとしていたのか、何を意図していたのかを総合的に把握することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>近世に書かれた絵画に関する言説を読むことで、この時代の人々の絵画観・芸術観に関する知識を修得する。併せて、前近代の絵画技法および材料・用具についての基礎知識を得る。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前期は、以下の画論を取り上げ、内容について考察する。なお、講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。</p> <p>1 序論 2～4 『等伯画説』長谷川等伯・日通 5～7 『後素集』狩野一溪 8～11 『畫筌』林守篤 12～14 『畫法彩色法』西川祐信 15 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
[授業外学修(予習・復習)等]					
<p>授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。</p> <p>(その他(オフィスアワー等))</p> <p>特になし。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

思想文化学81

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 筒井 忠仁		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世絵画論研究				
[授業の概要・目的]					
<p>桃山～江戸時代に書かれた絵画論を取り上げ、その内容について理解することがこの講義の目的である。画論は、著名な語句・言い回しだけが切り取られて人口に膾炙することが多く、全体像が理解されることは少ない。本講義では、各画論の全体を取り上げることで、執筆者が何を言おうとしていたのか、何を意図していたのかを総合的に把握することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>近世に書かれた絵画に関する言説を読むことで、この時代の人々の絵画観・芸術観に関する知識を修得する。併せて、前近代の絵画技法および材料・用具についての基礎知識を得る。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>後期は、以下の画論を取り上げ、内容について考察する。なお、講義の順序や進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。</p> <p>1 序論 2～3 『畫巧潜覽』 大岡春卜 4～5 『畫法綱領』 佐竹曙山 6～7 『西洋畫談』 司馬江漢 8～10 『畫道金剛杵』 中林竹洞 11～14 『山中人饒舌』 田能村竹田 15 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学82

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化と芸術存在論				
[授業の概要・目的]					
<p>芸術存在論(ontology of art)は、現代英語圏の芸術哲学(いわゆる分析美学)の一分野である。芸術存在論では、芸術作品や芸術的パフォーマンスがどのようなあり方で存在しているのか(それらはどんな種類の存在者なのか)、芸術形式ごとに作品の存在のあり方はどのように異なるのか、作品の同一性は何によって決まるのか、といった問題が論じられる。</p> <p>従来の芸術存在論で扱われてきたのは、主に音楽(クラシック音楽)や文学や絵画・彫刻のようなオーソドックスな芸術形式だった。一方で、現代の文化(とりわけポピュラーカルチャー)の中には、きわめて多様な文化形式のアイテムがある(「芸術」と呼びづらいようなものも含め)。</p> <p>この講義では、そうした現代の諸文化形式のアイテムがそれぞれどのようなあり方で存在しているのかについて、芸術存在論の観点と道具立てを使って考えてみたい。</p> <p>芸術存在論は、それ自体としては純粋に哲学的な関心でなされるものだが、作品の批評、作品の修復や保存、贋作と真作の区別、さらには著作権のような作品の法律上の取り扱いといった実践的な諸問題にも直結する。</p> <p>授業の目的は、一方では芸術存在論を通して現代文化の一面を明らかにすることにあるが、もう一方では現代文化にそれを適用することを通して芸術存在論の有用さと不十分さをはっきりさせることにもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・芸術存在論の基本的な考え方と概念を理解する。 ・諸々の芸術形式の存在論的な違いを理解する。 ・現代文化を存在論の枠組みから眺める視点を得る。 ・芸術存在論の実践的な意義や応用可能性を理解する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス				
第2回	芸術存在論の問いとモチベーション				
第3回	芸術存在論の基本概念				
第4回	音楽の存在論				
第5回	ポピュラー音楽の存在論				
第6回	ピエール・メナールのケース				
第7回	贋作について				
第8回	「未完の作品」について				
第9回	デジタル画像の存在論				
第10回	ビデオゲームの存在論				
美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く					

美学美術史学(特殊講義)(2)

- 第11回 フィクショナルキャラクターの存在論
- 第12回 VTuberの存在論
- 第13回 生成AIと芸術存在論
- 第14回 「アウラ」とブロックチェーン
- 第15回 フィードバック

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：50%

期末レポート：50%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「独特の存在のあり方をしていると思われるアイテムを挙げ、それを授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい(字数自由)」のような課題になる予定。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学83

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定准教授 仲間 絢		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ゴシック美術の神秘的イメージと視覚性				
【授業の概要・目的】					
<p>中世ヨーロッパは、社会のなかでイメージが重要な役割をもつようになり、美術が機能する枠組みが成立した転換点にあるといわれている。本講義では、ゴシック美術の展開とその特徴を、大聖堂の総合空間の演出が生み出した革新的な視覚性から議論する。見えるものを通して見えないものへと到達しようとする人間の想像力は、神との一体を求め、多様な神秘的イメージを創造した。当時、視覚は宗教や科学からどのように理解され、人々の感情や意識とどのように関わっていたのだろうか。建築、彫刻、絵画、写本や工芸作品を対象として、聖と俗、公と私の領域を超える視覚性のダイナミズムを歴史的な脈から検討する。</p>					
【到達目標】					
<p>西洋中世美術を、様式論や図像学などの伝統的な方法論に加えて、近年の新しい議論である視覚性や身体性などの観点から理解できるようになることを目標とする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 ゴシック美術とは(1) 第3回 ゴシック美術とは(2) 第4回 ゴシックの視覚と神学思想 第5回 ゴシックの視覚と光学理論 第6回 ゴシック美術の視覚と空間性(1) 第7回 ゴシック美術の視覚と空間性(2) 第8回 ゴシック美術の視覚と時間性(1) 第9回 ゴシック美術の視覚と時間性(2) 第10回 聖書解釈とイメージの複層性 第11回 見えないものを見る、不在のものに命を与えるとは 第12回 Imitatio Christi: イメージを通してキリストに倣うこと 第13回 ゴシック美術における自然と宇宙 第14回 ゴシック美術における芸術家と鑑賞者 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況、授業内での発言等、30点）、期末レポート（70点）により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

画集などでヨーロッパの中世美術作品に眼を通しておくこと。中世ヨーロッパ以外にも、美術館や博物館の展覧会をできるだけ訪れ、美術作品をよく観察すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学84

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定准教授 仲間 絢		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋中世彫刻研究 フランスとドイツのゴシックを中心に				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、ゴシック発祥の地であるフランスと、独自のゴシックを確立したドイツの聖堂の代表的な作品を中心とし、西洋の中世彫刻におけるイメージの多様性について議論する。サン・ドニ、ランス、シャルトル、ラン、ストラスブル、バンベルク、マグデブルク、ナウムブルグ、マインツ、マイセンを例とした聖堂彫刻、後期ゴシックの祭壇彫刻、私的な礼拝に使用された祈念像、墓標などにおける石彫や木彫の多種多様な作品を、当時の宗教と芸術実践の歴史的な脈に照らし合わせて考察する。中世彫刻は、宗教的メッセージを伝えるだけでなく、鑑賞者のイメージ経験を想定して機能的に創造されたものであり、その造形効果、装飾、色彩、展示空間はさまざまな演出によって地上と天上を結び付ける。</p>					
【到達目標】					
西洋中世彫刻の歴史を体系的に把握するとともに、各聖堂の崇敬の背景や鑑賞者を想定したイメージの機能など多角的な観点から理解することを目標とする。					
【授業計画と内容】					
第1回	イントロダクション				
第2回	西洋中世彫刻とは(1): ロマネスク以前				
第3回	西洋中世彫刻とは(2): ロマネスク				
第4回	西洋中世彫刻とは(3): ゴシック				
第5回	フランス・ゴシックの聖堂彫刻(1): サン・ドニ、シャルトル				
第6回	フランス・ゴシックの聖堂彫刻(2): ランス、ラン、ストラスブル				
第7回	ドイツ・ゴシックの聖堂彫刻(3): バンベルク、マグデブルク				
第8回	ドイツ・ゴシックの聖堂彫刻(4): ナウムブルク、マインツ、マイセン				
第9回	ゴシック聖堂彫刻の総括				
第10回	祈念像(Andachtsbild)(1)				
第11回	祈念像(Andachtsbild)(2)				
第12回	後期ゴシックの祭壇彫刻(1)				
第13回	後期ゴシックの祭壇彫刻(2)				
第14回	ゴシックの墓標彫刻				
第15回	フィードバック				
【履修要件】					
特になし					
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況、授業内での発言等、30点）、期末レポート（70点）により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

画集などで西洋中世彫刻作品に眼を通しておくこと。西洋中世以外にも、美術館や博物館の展覧会をできるだけ訪れ、美術作品をよく観察すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学85

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学史研究・講読編ーヴィンケルマン『芸術美の感覚能力』を読むー				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、哲学的美学にかんするドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について理解を深めることを目指す。今学期は、ヴィンケルマン(Johann Joachim Winckelmann, 1717~1768)の『芸術美の感覚能力とその教授についての考察(Abhandlung von der Fähigkeit der Empfindung des Schönen in der Kunst und dem Unterrichte in derselben)』(1763年)を講読し、ヴィンケルマンによる美術史学の基礎づけにおいて「感覚(Empfindung)」能力の哲学的考察がどのような役割を担っているかを検討する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた美学の古典を的確に読解する能力を習得する。 ・美学/美術史学史についての知見を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は原典講読の演習であり、受講者の人数およびドイツ語読解能力によって進度は大きく異なるため、本シラバス作成時点で毎回の予定を明確に示すことはできないが、原著で30頁の比較的短いテキストなので、学期中に読み切ることを目標とし、以下にはその計画を示す。</p> <p>第1回導入(講読予定のテキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する)</p> <p>第2回 1~4段落</p> <p>第3回 5~8段落</p> <p>第4回 9~12段落</p> <p>第5回 13~16段落</p> <p>第6回 17~20段落</p> <p>第7回 21~24段落</p> <p>第8回 25~28段落</p> <p>第9回 29~32段落</p> <p>第10回 33~36段落</p> <p>第11回 37~40段落</p> <p>第12回 41~44段落</p> <p>第13回 45~48段落</p> <p>第14回まとめと補足</p> <p>第15回フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>ドイツ語の初級文法を習得しており、程度に差はあれ、辞書があればドイツ語の文章が読解できること。</p>					
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学(演習II)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（毎回の訳読および議論への参加状況）60% + 期末レポート（独文エッセイ）40%によって評価する。

理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には、単位認定を行わない。

【教科書】

授業中に指示する

講読予定テキストには、さまざまな版（オンライン・テキストを含む。後掲の「関連URL情報」参照）がある。初回授業で解説した上で、どの版を用いるかを受講者と協議して決定し、必要な場合は紙または電子媒体のコピーを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

（関連URL）

<https://books.google.co.jp/books?id=Eo9LAAAACAAJ>(初版)

<http://www.zeno.org/Philosophie/M/Winckelmann,+Johann+Joachim/Abhandlung+von+der+F%C3%A4higkeit+der+Empfindung+des+Sch%C3%B6nen+in+der+Kunst+und+dem+Unterrichte+in+dieselben>(オンライン・テキスト)

【授業外学修（予習・復習）等】

講読箇所を翻訳して授業に臨むこと。単に日本語に置き換えるだけでなく「なぜそう訳したのか」と問われて答えられるようにしておくこと。不明点はどこか（文法なのか語意なのか内容なのか）を可能な限り明確にし、授業中にその疑問を解消するよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	絵画作品の解釈について				
[授業の概要・目的]					
本演習では、美術史に関するドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で執筆された美術史に関する専門的な文献を読解する能力を習得する。 ・美術史学における基礎的な思考法についての知見を得る。 					
[授業計画と内容]					
<p>本年度も、引き続き、Oskar Baetschmann, Einfuehrung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik(Darmstadt, 1986; 2001)の精読を通じて、「絵画作品の解釈」をめぐる諸問題について理解を深めることをめざす。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明するとともに、参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1回の授業につき1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。なお、おおよその講読内容は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージの多義性 デューラーの版画を題材にして ・ヨハネス・イッテンの絵画解釈の試み、等々 <p>《期末試験》</p> <p>第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明します)</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の初級文法を独学でもよいので習得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(毎回の訳読および議論への参加状況)40%+期末試験60%。 授業を4回以上欠席した場合には、原則として、単位認定を行わない。					
[教科書]					
授業中に指示する 初回の授業時に、講読テキストを配布します。					
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業には十分な予習をもって臨むこと。また、テレビ、ラジオ、インターネット、映画などを通じて、ドイツ語に親しむよう心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業の前後、またはメールやPandAを用いたZOOM面談などにより、随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学87

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 天王寺谷 千裕		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀フランスの美術批評を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>本演習では、西洋美術史に関するフランス語文献の講読をおこないます。講義を通じて、フランス語の実践的読解力を高めると同時に、西洋美術史の諸問題について考察することを目指します。</p> <p>講読する文献は以下です。 Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000. 19世紀に執筆された美術批評を精読し、当時の美術界の様相や構造、批評システムに関する知見を深めます。また、一次文献に触れることで、当該時期の批評にみられる独特な表現にも慣れていきましょう。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。 ・19世紀フランスの美術システムについて知見を深める。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス テキストの概要、参考文献、予習方法、評価方法などの授業の基本方針を説明します。テキストのコピーを配布するので、受講を希望する人は必ず初回に出席してください。</p> <p>第2～14回 指定書籍を受講者で一文ずつ輪読します。進み具合は受講者の習熟度により異なりますが、適宜、画像を使いながら作品解説を行うほか、文法事項や専門用語に関して説明を加えます。</p> <p>第15回 フィードバック(授業内で詳細をお伝えします。)</p>					
【履修要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・中級以上のフランス語知識を身につけていることが望ましい。 					
【成績評価の方法・観点】					
<p>平常点(授業での訳読および議論への参加度)50点、期末レポート(自分の専門分野に関わる論文の翻訳)50点</p> <p>原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。</p>					
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学(演習II)(2)

遅刻・早退は欠席扱いとします。

[教科書]

初回にテキストのコピーを配布します。

Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

授業中に随時参考文献を紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

各授業内にて、次回の講読箇所をお伝えします。

授業参加の前に各自でテキストを精読し、単語や文法事項を調べ、適切な日本語訳文をつかった上で参加してください。

本文中で参照する固有名詞や図版に関しても事前に調べてください。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業中およびその前後、またはメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 天王寺谷 千裕		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀フランスの美術批評を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、西洋美術史に関するフランス語文献の講読をおこないます。講義を通じて、フランス語の実践的読解力を高めると同時に、西洋美術史の諸問題について考察することを目指します。</p> <p>講読する文献は以下です。 Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000. 19世紀に執筆された美術批評を精読し、当時の美術界の様相や構造、批評システムに関する知見を深めます。また、一次文献に触れることで、当該時期の批評にみられる独特な表現にも慣れていきましょう。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。 ・19世紀フランスの美術システムについて知見を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス テキストの概要、参考文献、予習方法、評価方法などの授業の基本方針を説明します。テキストのコピーを配布するので、受講を希望する人は必ず初回に出席してください。</p> <p>第2～14回 指定書籍を受講者で一文ずつ輪読します。進み具合は受講者の習熟度により異なりますが、適宜、画像を使いながら作品解説を行うほか、文法事項や専門用語に関して説明を加えます。</p> <p>第15回 フィードバック(授業内で詳細をお伝えします。)</p>					
[履修要件]					
フランス語の中級以上の知識を習得していること。					
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業での訳読および議論への参加度）50点、期末レポート（自分の専門分野に関わる論文の翻訳）50点

原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。
遅刻・早退は欠席扱いとします

[教科書]

初回にテキストのコピーを配布します。
Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000.

[参考書等]

（参考書）
適宜授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業内にて、次回の講読箇所をお伝えします。
授業参加の前に各自でテキストを精読し、単語や文法事項を調べ、適切な日本語訳文をつかった上で参加してください。
本文中で参照する固有名詞や図版に関しても事前に調べてください。

（その他（オフィスアワー等））

- ・質問や相談は、授業前や授業中に、あるいはメールでも受け付けます。
- ・ラジオやオンライン教材、講演会などを活用し、実践的なフランス語運用能力を養う機会を積極的に設けてください

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	肖像画の諸問題				
[授業の概要・目的]					
本演習では、美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・美術史に関するイタリア語専門文献を的確に読解する能力を養う。 ・テキストの内容を吟味し、問題意識を持って批判的に専門文献を読む力を身につける。 ・西洋美術史の専門用語・基礎的知識を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>本年度も引き続き、Enrico Castelnuovo, <i>Ritratto e Societa in Italia</i>, curato da F. Crivello e M. Tomasi, Torino, 2015などの講読を通じて、肖像画について多角的に理解することを目指す。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 肖像画に関する諸論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>定期試験</p> <p>第15回 フィードバック(フィードバックの方法は授業中に説明します)</p>					
[履修要件]					
<ul style="list-style-type: none"> ・初級以上のイタリア語を習得していること。 ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識を持ち、未知の用語は事前に調べるなどして、積極的に授業に参加してほしい。 					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(出席状況および担当箇所の精読の発表、50%)と期末試験(50%)に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。					
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学(演習II)(2)

- ・ 授業を欠席した場合は、減点の対象となる可能性がある。
- ・ 原則として、授業を4回以上欠席した場合には、単位を認めない。
- ・ 原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

講読テキストは印刷して配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の準備として、各自テキストを精読し、不明な単語は調べておくこと。また、文法構造を正しく理解するよう努め、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学90

科目ナンバリング		U-LET01 25101 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(哲学)(講義) Philosophy (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 出口 康夫	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代哲学入門				
[授業の概要・目的]					
西洋哲学は、神との本格的な決別を果たすことで「現代哲学」へと変貌を遂げました。本授業では、西洋近世哲学の一つの完成形態であるカントやヘーゲルの哲学から説き起こし、大きく大陸哲学と分析哲学という二つの流れに沿いながら、19世紀から21世紀初頭にかけての哲学の動向を概観します。					
[到達目標]					
分析哲学や大陸哲学といった個々の学派の内部に閉じ籠ることなく、現代哲学の流れに関する包括的な俯瞰図を得ることができる。また現在進行中の新たな哲学動向に触れることもできる。					
[授業計画と内容]					
前期					
1 カント：聖域(サンクチュアリ)に隔離された神 I					
2 カント：聖域(サンクチュアリ)に隔離された神 II					
3 カント：聖域(サンクチュアリ)に隔離された神 III					
4 ヘーゲル：歴史的二級市民としての神 I					
5 ヘーゲル：歴史的二級市民としての神 II					
6 ショーペンハウワー：「生の領域」の発見 I					
7 東西思想交流史 I					
8 東西思想交流史 II					
9 フォイエルバッハ：愛と二人称の哲学					
10 ニーチェ：現状肯定の実存哲学 I					
11 ニーチェ：現状肯定の実存哲学 II					
12 続東西思想交流史 I					
13 続東西思想交流史 II					
14 続東西思想交流史 III					
15 ブーバー：「私とあなた」と老荘的コミュニケーション					
後期					
1 ハイデガー：現存在と共存在 I					
2 ハイデガー：現存在と共存在 II					
3 リオタールのポストモダン I					
4 リオタールのポストモダン II					
5 分析哲学とは何か/論理学革命					
6 ラッセルの確定記述理論					
7 ウィーン学団とカルナップの実証主義/クワインのホーリズム I					
8 ウィーン学団とカルナップの実証主義/クワインのホーリズム II					
9 ポスト分析哲学/科学的存在論/心の哲学/分析形而上学 I					
10 ポスト分析哲学/科学的存在論/心の哲学/分析形而上学 II					
系共通科目(哲学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(哲学)(講義)(2)

- 11 価値の哲学/バルネラビリティ（可傷性/脆弱性）の哲学/環境哲学 I
- 12 価値の哲学/バルネラビリティ（可傷性/脆弱性）の哲学/環境哲学 II
- 13 AI/ロボットの哲学
- 14 分析アジア哲学
- 15 「われわれ」の哲学へ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の小レポート（50%）+ 全授業終了後のレポート（50%）

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、授業内容のスライドを配布する。それをもとに小レポートを作成し提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学91

科目ナンバリング	U-LET03 15204 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋中世哲学史講義 I				
[授業の概要・目的]					
西洋中世哲学の歴史の大まかな流れについての知識を得るとともに、主要な哲学者の教説について理解することを目的とする。中世哲学は古代哲学やキリスト教と深く連関しているので、それらとの関係についての歴史的な理解を深めることも目標とされる。					
[到達目標]					
古代末期から十二世紀までの西洋哲学史の大まかな流れを理解し、説明できるようになる。この時期の主要な思想家の中心思想を理解し、説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回:イントロダクション：中世哲学史の時代区分と学ぶ意義 第2回:アウグスティヌス(1)生涯と主要著作、魂・認識論 第3回:アウグスティヌス(2)神 第4回:アウグスティヌス(3)倫理・政治思想 第5回:ボエティウス(1)生涯と主要著作、分有論 第6回:ボエティウス(2)普遍の問題 第7回:エリウゲナ(1)生涯と主要著作、『神の予定について』 第8回:エリウゲナ(2)『ペリフェセオン』 第9回:アンセルムス(1)生涯と主要著作、倫理思想 第10回:アンセルムス(2)神の存在論的証明 第11回:十二世紀の思想概観 第12回:アベラール(1)生涯と主要著作、倫理思想 第13回:アベラール(2)普遍論争 第14回:シャルトル学派 第15回:フィードバック：期末試験や授業内容についての質問受付					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末試験により評価する。					
----- 系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)

[教科書]

ほぼ毎回プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

マレンボン『哲学がわかる 中世哲学』(岩波書店、2023年)
その他参考書については、授業中、あるいはPandAで紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を読んでおく。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学92

科目ナンバリング	U-LET03 15206 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋中世哲学史講義 II				
[授業の概要・目的]					
前期「西洋中世哲学史講義 I」の続き。西洋中世哲学の歴史の大まかな流れについての知識を得るとともに、十三世紀以降の主要な思想家の思想について理解することを目的とする。					
[到達目標]					
十三世紀のアリストテレス導入から十四世紀までの西洋哲学史の大まかな流れを理解し、説明できるようになる。 この時期の主要な思想家の中心思想を理解し、説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回：イントロダクション：十三世紀の思想的傾向性と歴史的背景 第2回：アルベルトゥス・マグヌス 第3回：トマス・アキナス(1)生涯と主要著作、存在論 第4回：トマス・アキナス(2)神の存在証明 第5回：トマス・アキナス(3)認識論 第6回：トマス・アキナス(4)倫理学・政治思想 第7回：ボナヴェントゥラ 第8回：「ラテン・アヴェロエス主義」 第9回：14世紀の思想的傾向性と歴史的背景 第10回：エックハルト 第11回：ドゥンス・スコトゥス(1)生涯と主要著作、形而上学 第12回：ドゥンス・スコトゥス(2)認識論、倫理学 第13回：オッカム(1)生涯と主要著作、論理学と形而上学 第14回：オッカム(2)認識論、倫理学 第15回：フィードバック：期末試験や授業内容についての質問受付					
[履修要件]					
西洋中世哲学史Iを前提として説明も多いので、西洋中世哲学史Iを先に履修していることが望ましい。					
-----系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験による。

[教科書]

ほぼ毎回プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

マレンボン『哲学がわかる 中世哲学』(岩波書店、2023年)
その他参考書については、授業中、あるいはPandAで紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学93

科目ナンバリング	U-LET05 25302 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学史講義 1				
[授業の概要・目的]					
日本哲学史を 西田幾多郎、近代日本哲学の発展から京都学派の哲学への二部に分けて日本哲学の形成過程を概観し、さらに、これまで論じられてきた主要問題を通して日本哲学のあり方、意義について検討する。このようにして日本哲学史についての理解を深めることが、授業の目的である。					
[到達目標]					
日本哲学における近代初頭から京都学派(第二次世界大戦まで)の主要テーマ、主要問題を理解し、さらにそれを自ら批評することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
以下のような課題に基づき、授業を進める予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「日本哲学」の現状 2 西田幾多郎の哲学 1 3 西田幾多郎の哲学 2 4 西田幾多郎の哲学 3 5 西田幾多郎の哲学 4 6 明治期から西田幾多郎までの日本哲学史概要 7 明治期から西田幾多郎までの日本哲学史概要 8 井上哲次郎の現象即實在論 9 清沢満之の仏教的哲学 10 平塚らいてうのフェミニズム 11 京都学派の哲学－概要 12 三木清の哲学 13 戸坂潤の哲学 14 中井正一の哲学 15 フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%と前期末のレポート試験50%による。					
[教科書]					
使用しない					
----- 系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で配付する資料、および授業中紹介する図書を参考に、学んだ内容について理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学94

科目ナンバリング	U-LET05 25304 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学史講義2				
[授業の概要・目的]					
京都学派とその周辺の哲学者の思想を、いくつかのテーマを追う形で考察することが、この授業の目的である。さらに、講義で考察する日本哲学の問題が、私たち各自の経験においてどのような意義をもつのか、その経験とどのように結びつき得るのかについても検討する。					
[到達目標]					
テーマについて理解を深め、さらにそれを自ら批評することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
以下のような日本哲学史上の主要問題を課題とし、授業を進める予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 翻訳と言語：翻訳から見る哲学と近代日本の問題 3 翻訳と言語：西田幾多郎の翻訳論 4 翻訳と言語：和辻哲郎の「日本語と哲学の問題」 5 芸術の時間論：九鬼周造－1 6 芸術の時間論：九鬼周造－2 7 芸術と実存：九鬼周造－3 8 実存協同：田辺元－1 9 実存協同：田辺元－2 10 自他論：西田幾多郎と田辺元－1 11 自他論：西田幾多郎と田辺元－2 12 風土：和辻哲郎－1 13 表現：木村素衛－1 14 表現：木村素衛－2 15 フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%と後期末のレポート試験50%による。					
----- 系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で紹介する参考書を手がかりとし、学んだ内容について理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学95

科目ナンバリング		U-LET05 25343 SJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 CERDA Sova P.K.		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学における家族、日本家族における哲学				
[授業の概要・目的]					
この基礎演習では、「近代化における家族」を糸口として日本哲学の中心概念を深く探求していきます。西田幾多郎、和辻哲郎、西谷啓治などの哲学者たちの重要な概念を考察し、さまざまなメディアに描かれる「日本家族」の中に見られる哲学的問題を掘り下げることが主な課題です。これをより、一見すると硬く見える哲学的概念を日常生活の文脈で識別し、その流動的な働き方について考える方法を学びます。					
[到達目標]					
受講生は、哲学的な「思考力」と「理解力」を磨きます。思考力の強化には、哲学的テキストを深く考察し評価するための批判的読書力と、戯曲や映画、マンガなどというメディアを分析し議論するための観察力との養成が含まれます。一方で、理解力の向上のため、受講生は「近代化と哲学」、「自律性と愛」、「作為と自然」といった問題領域に対して理解を深めます。					
[授業計画と内容]					
第一部：近代化において「哲学」と「家族」を位置づける					
・第1回 批判的な研究・哲学的な批評					
・第2回 エトスとしての近代化 一 ヨーロッパ					
・第3回 エトスとしての近代化 二 日本					
・第4回 家族と自律性					
・第5回 家族と愛					
第二部：「作為」と「自然」の哲学的考察					
・第6回 自然性 一 哲学者たちにとって「真理」とは何か？					
・第7回 自然性 二 動物たちにとって「真理」とは何か？					
・第8回 作為性の問題 一 「立場」のある動物としての人間					
・第9回 作為性の問題 二 自覚と意志					
・第10回 近代化と倫理 再考					
第三部：「家族」という問題領域					
・第11回 近代化において「母」を位置付ける					
・第12回 ある少年から見た「母」のこと					
・第13回 ある少女から見た「母」のこと					
・第14回 「生かされて生きる」					
日本哲学史(基礎演習)(2)へ続く					

日本哲学史(基礎演習)(2)

-
- ・第15回 家族で、あるいは家族でない形で共に生きる
まとめ
哲学的な批評の実践

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

・成績評価の方法（スペシフィケーション方法）

受講生は、学期初めに0ポイントからスタートし、各課題を完遂することでポイントを獲得します。一つの課題につき最大10ポイントが得られ、合計で最大100ポイントまで獲得可能です。実際の得点は、課題の達成度に応じて異なります。例えば、ある課題で2.5点、別の課題で10点を獲得した場合、合計で12.5ポイントが得られます。各課題の内容とその評価基準の詳細は、コースの最初の日に紹介されます。

・受講生の主体性

受講生は約19の課題の中から任意に選びますが、合格には最低60ポイントの獲得が必要です。私の役割は案内人として受講生がスキルを身につける手助けをすること。受講生の役割は自身の目標を設定し、計画を立て、実行すること。どの課題に取り組むか、どのような成績を目指すか、学習目標の達成に向けた手段や進捗管理は、受講生が自ら決めます。もちろん、困ったことがあれば、いつでも相談を受け付けます。

【教科書】

藤田尚志・宮野真生子編 『家族 共に生きる形とは？ 』（ナカニシヤ出版, 2016年）ISBN: 978-4-7795-1009-0

【参考書等】

（参考書）

上記の「教科書」を除き、課題達成に必要なテキストは提供します。映画鑑賞は原則として各自で行いますが、希望があれば鑑賞の機会を授業時間外に設けることを検討します。

【授業外学修（予習・復習）等】

採点は、「成績評価の方法」に記載されている方法に従って行われます。それに従い、テキストを読むことや映画を鑑賞することだけでは、成績のポイントを得ることはできません。ただし、このゼミナールに登録することにより、受講生はクラスメートの時間や努力を尊重し、必要な準備をする責任があることに同意したことになります。予期せぬ困難が生じることもあるため、常に準備が可能とは限りませんが、各週のディスカッションに真摯に取り組むことが期待されます。準備が困難になった場合は、早めに相談してください。

日本哲学史(基礎演習)(3)へ続く

日本哲学史(基礎演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25343 SJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 藤貫 裕		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大森荘蔵の立ち現われ一元論(講読)				
[授業の概要・目的]					
<p>本基礎演習では、現代日本の哲学者大森荘蔵(1921-1997)の論文集『物と心』(1976)に収録された論文「ことだま論 言葉と「ものごと」」(1973)を精読する。</p> <p>日本哲学の文献読解で直面する困難の一つとして、身近で具体的な事柄から論述が出発したはずであるのに、それぞれの哲学者による極めて強靱な思索の結果、いつの間にか思いも寄らぬ結論まで導かれてしまう、という点が挙げられる。例えば今回取り扱う「ことだま論」では、賀茂川という非常に馴染み深い題材が平明な表現で論じられる一方で、京都で目の当たり見る賀茂川も東京で思い浮かべられる賀茂川も一つの「じかの」「立ち現われ」 厳密には、前者が知覚的立ち現われで後者が思いの立ち現われ である、という特異な立ち現われ一元論が主張される。その主張に至る理路や、それが有する理論的ないし現代的射程(例えば大森の論は認識論以外にも身体論や意味論にも密接なかかわりを持つ)は決して自明ではない。精読を要する所以である。そこで本演習では、近年盛んになりつつある国内外の大森研究も踏まえながら参加者同士で議論する中で大森の論述を慎重に吟味し、大森のひいては日本哲学の文献を正確かつ批判的に読み抜くために必要な「技術」や「視点」を身につけることが目指される。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大森荘蔵の立ち現われ一元論とその関連思想に関する基礎的な知識を得る。 2. 資料作成やディスカッションを通じて各自の理解を深めるとともに、日本哲学史の文献を読み解く上で有用な技能を身に付ける。 					
[授業計画と内容]					
<p>毎回一名が講読範囲に関する報告(要約と問題提起)を行った後、講師を含む参加者全員でコメントやディスカッションを行う。講読範囲は授業の進度によって前後しうるが、原則として各回に一節(数頁程度/区切りは論文の節立てに従う)ずつ取り扱う予定である。各回の予定は以下の通りである。</p>					
第一回	イントロダクション 大森荘蔵とテキスト紹介・担当者決め				
第二回	第一部(1)「言葉の働き その多様性」				
第三回	第一部(2)「声は身のうち 声振りによる触れ合い」				
第四回	第一部(3)「「意味」と二元論的構図」				
第五回	第一部(4)「「立ち現われ」 そのさまざま」				
第六回	第一部(5)「ことだまの働き 話し手と聞き手」				
第七回	これまでの補足と振り返り(第一部)				
第八回	第二部(6)「対象、の問題 同一性・同類性・同族性」				
第九回	第二部(7)「同一体制」				
日本哲学史(基礎演習)(2)へ続く					

日本哲学史(基礎演習)(2)

- 第十回 第二部(8)「一元論的構図での「対象」「意味」」
第十一回 第二部(9)「真理・実在・生き方」(一)
第十二回 これまでの補足と振り返り(第二部)
第十三回 ことだま論をめぐる論戦 「ことだま論」をめぐる
第十四回 総まとめ(全体)
第十五回 フィードバック

【履修要件】

特になし。大森荘蔵や日本哲学史に興味のある学生の受講を広く歓迎する。

【成績評価の方法・観点】

平常点...60% (発表内容やディスカッションにおける参加状況他)
学期末レポート...40%

【教科書】

大森荘蔵 『物と心』(ちくま学芸文庫、2015年) ISBN:9784480096432

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者はレジュメ(要約と問題提起)を作成する。その他の参加者は、各授業の前に講読範囲に目を通し、ディスカッションに向けた準備を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学97

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	系共通科目(倫理学)(講義A) Ethics (Lectures A)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	倫理学概論				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義の目的は、現代社会における倫理的問題について哲学的に考える仕方を受講者に身につけてもらうことである。本講義では、哲学的に考えるために重要な概念や理論をある程度は紹介しているが、それは知識を身につけるためではなく、倫理的な問題を哲学的に考える仕方を学ぶためである。本講義は『実践・倫理学』を主たるテキストとして、死刑や安楽死といった問題を取り上げて、講義とディスカッションを行う。</p>					
【到達目標】					
<p>規範倫理学における諸理論や重要な諸概念について基本的な知識を習得する。また、それを基に、現代社会の問題について批判的に検討する力を身に付ける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第一回 倫理学について 第二回 死刑の是非(1)賛成論 第三回 死刑の是非(2)反対論 第四回 嘘をつくこと 第五回 自殺と安楽死(1)賛成論 第六回 自殺と安楽死(2)反対論 第七回 喫煙 第八回 ベジタリアニズム(1)賛成論 第九回 ベジタリアニズム(2)反対論 第十回 善いことをする義務(1)許容と義務 第十一回 善いことをする義務(2)超義務 第十二回 善い行いをする動機 第十三回 津波てんでんこ 第十四回 法と道徳 第十五回 全体のまとめとディスカッション</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業中のグループディスカッション参加と課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
【教科書】					
児玉聡 『実践・倫理学』(勁草書房, 2020) ISBN:9784326154630 (毎回、講義で扱う章を事前に読んでおくことが求められる。)					
系共通科目(倫理学)(講義A)(2)へ続く					

系共通科目(倫理学)(講義A)(2)

指定した教科書について、授業中に指示した章を読んでもらうこと。また、授業でわからないことについては授業中、あるいはPandAなどを利用して積極的に質問することを期待する。

[参考書等]

(参考書)

赤林朗・児玉聡 『入門・倫理学』 (勁草書房, 2018) ISBN:4326102659 (倫理学の全体像を知りたい受講生に勧める。)

[授業外学修(予習・復習)等]

前の週に指定した文献を読んでもらうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学98

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	系共通科目(倫理学)(講義B) Ethics (Lectures B)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	倫理学概論				
【授業の概要・目的】					
本講義の目的は、倫理学という学問分野について、その基本的な知見を獲得することである。とくに、西洋倫理学の基本文献について詳しく知ることを目的とする。					
【到達目標】					
倫理学という学問の基本的な知見を獲得し、倫理的な課題に関して自分の頭で考えることができるようになることを目指す。					
【授業計画と内容】					
第一回 導入 第二回 プラトン『ゴルギアス』(1)利己主義の主張 第三回 プラトン『ゴルギアス』(2)利己主義と正義 第四回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(1)快樂説 第五回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(2)友情 第六回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(3)正義 第七回 ミル『功利主義論』(1)功利主義と快樂説 第八回 ミル『功利主義論』(2)功利主義の動機と証明 第九回 ミル『功利主義論』(3)功利主義と正義 第十回 カント『人倫の形而上学の基礎づけ』(1)導入 第十一回 カント『人倫の形而上学の基礎づけ』(2)完全義務の事例 第十二回 カント『人倫の形而上学の基礎づけ』(3)不完全義務の事例 第十三回 ミル『自由論』(1)言論の自由 第十四回 ミル『自由論』(2)行為の自由 第十五回 全体のまとめとディスカッション					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業中のグループディスカッション参加と課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
【教科書】					
プラトン『ゴルギアス』(岩波書店, 1967) ISBN:4003360125 (他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。) アリストテレス『ニコマコス倫理学』(岩波書店, 1971) ISBN:4003360419 (他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。) カント『プロレゴメナ・人倫の形而上学の基礎づけ』(中央公論新社) ISBN:4121600762 (野田					
系共通科目(倫理学)(講義B)(2)へ続く					

系共通科目(倫理学)(講義B)(2)

又夫訳がよいと思うが、他の翻訳を参照してもよい。）

ミル『自由論』（岩波文庫, 2020）ISBN:4003900022（他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。）

ミル『功利主義』（岩波文庫, 2021）ISBN:4003900049（他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。）

指定したテキストについて、授業中に指示した章を読んでくること。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

前の週に指定した文献を読んでくること。授業でわからないことについては授業中、あるいはPandAなどを利用して積極的に質問することを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学99

科目ナンバリング		U-LET07 25502 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(宗教学A)(講義) Philosophy of Religion A (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	宗教哲学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教と哲学は、人間存在の根本に関わる問いを共有しながらも、歴史的に緊張をはらんだ複雑な関係を結んできた。その全体を視野に入れて思索しようとする宗教哲学という営みは、多面的な姿ととりながら歴史的に進展し、現代でも大きな思想的可能性を秘めている。この授業では、その今日までの変遷を通時的に追うことによって、宗教哲学という複雑な構成体について、受講者が一通りの見取図を得られるようにすることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>宗教と哲学の関係とその変遷を、両者が切れ結ぶ根本の問いにまで遡ってとらえる態度を身につける。それによって、宗教のもつ広大な意味世界への関心を養うとともに、哲学の概念的思考を生きた問題につなげられるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のテーマについて授業を行っていく(細部は変更の可能性あり)。</p> <p>第1回 宗教と哲学：根本の問いから考える。 第2回 ミュートスからロゴスへ：哲学の誕生 第3回 ソクラテス、プラトン、アリストテレス：哲学における神 第4回 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教：啓示と信仰の神 第5回 ヘブライズムとヘレニズムの出会い：キリスト教神学の成立 第6回 中世における神学と哲学：スコラ哲学と神秘主義 第7回 近世形而上学：デカルトと哲学的神学の流れ 第8回 宗教哲学の成立と展開(1)：カントとシュライアマハー 第9回 宗教哲学の成立と展開(2)：ヘーゲルとキルケゴール 第10回 「神の死」とニヒリズム：ニーチェ 第11回 哲学と宗教の「解体」的反復：ハイデガー 第12回 日本の宗教哲学と仏教的伝統(1)：西田幾多郎 第13回 日本の宗教哲学と仏教的伝統(2)：九鬼周造 第14回 アウシュヴィッツ以降の宗教哲学：レヴィナス 第15回 フィードバック</p> <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>					
----- 系共通科目(宗教学A)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(宗教学A)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末の定期試験（筆記）による。試験は小論文形式をとり、課題は1か月前に告知する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前日までにはPandAに授業レジュメを掲示するので、あらかじめ目を通しておくこと。授業後は分からなかった点を自分で調べるなどして理解に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の宗教学B（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学100

科目ナンバリング		U-LET07 25503 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(宗教学B)(講義) Philosophy of Religion B (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月1	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	宗教学と宗教学 基本文献解題				
【授業の概要・目的】					
<p>宗教学とは、哲学の一形態であると同時に、宗教学研究のさまざまな道の一つでもある。この両面性とそれによる独自の意義が理解できるように、この授業では、宗教学と宗教学の歴史的関係を明らかにした上で、基本となる文献を幅広く選び、それぞれについて読解の手がかりとなるような解題を行っていく。それを通して、この分野における過去の重要な思索を自ら追思索し、宗教学という事象を視野に入れた哲学的・学問的思索の一端に触れることが、この授業の目的である。</p>					
【到達目標】					
<p>宗教学と宗教学がどのような問いを開拓し、それをどのように思索してきたかを理解するとともに、思想的な文献に触れることを通して自ら思索する方法を学び、研究のための基礎力を身につけられるようにする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のテーマについて授業を行っていく(細部は変更の可能性あり)。</p> <p>第1回 宗教学と宗教学(1): 歴史的位置づけ 第2回 宗教学と宗教学(2): さまざまなアプローチ 第3回 宗教学と宗教学(3): 現代的課題 第4回 パスカル『パンセ』: 考える葦と隠れたる神 第5回 ヒューム『宗教の自然史』: 経験主義的宗教論の嚆矢 第6回 カント『単なる理性の限界内の宗教』: 根源悪論と宗教学 第7回 ニーチェ『道徳の系譜学』: ラディカルな宗教批判 第8回 ジェイムズ『宗教的経験の諸相』: 宗教心理学の方法 第9回 西田幾多郎『善の研究』: 日本の宗教学の出発点 第10回 モース『贈与論』: 宗教社会学の豊饒な可能性 第11回 ハイデガー『存在と時間』: 「現存在」と「死への存在」 第12回 ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』: 静的宗教と動的宗教 第13回 エリアーデ『聖と俗』: 宗教現象学の射程 第14回 ヨナス『アウシュヴィッツ以後の神概念』: 神概念の解体的変容 第15回 フィードバック</p> <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 系共通科目(宗教学B)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(宗教学B)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末の定期試験（筆記）による。試験は小論文形式をとり、課題は1か月前に告知する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前日までにはPandAに授業レジュメを掲示するので、あらかじめ目を通しておくこと。授業後は分からなかった点を自分で調べるなどして理解に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、前期の宗教学A（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学101

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学（基礎演習） Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4,5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	宗教哲学基礎演習A				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教哲学の諸問題を考えるための基本となる文献を選び、宗教学専修の大学院生にも協力を仰ぎながら、それらを共に読み進み、問題を掘り起こし、議論を行う場となる授業である。授業への能動的な参加を通して、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。宗教学専修の学部生の必修授業であるが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<p>宗教哲学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、宗教哲学・宗教学に関する自らの研究課題を発見し、それを掘り下げていくための基本的能力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>「宗教哲学」という分野の思索様式には、どうしても概説的紹介には馴染まない面がある。宗教の問いと哲学の問いがその源泉において交差連関し、しかもそれが人間が生きていくこと自体にまつわる問題と直結するという、このことを見据えた学問的研究がいかなる形をとりうるかということは、その「実例」となる仕事の熟読を通して学んでいくしかない。</p> <p>今期の授業では、京大宗教学専修の長い歴史の一端に触れてもらうという意味も込めて、これまでの専修担当教員や専修出身者の論考の内、専門的な議論に終始せず幅広い視座で具体的な問題にも触れているものを取り上げ、毎回読み進めていきたい。なお、実際に何を読むかは、履修者の関心によって調整することもありうるので、シラバスにはあらかじめ記さないことにする。</p> <p>各回2,3人の担当者を決め、授業の前半は、担当者の内容要約および考察の発表に充てる。授業の後半では、教員の司会進行の下、発表内容をめぐって、チューターの大学院生たちも交えて、質疑応答と議論を行っていく。隔週授業のため、全7回として各回のテーマを記しておく。（詳細は変更の可能性あり）</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (2回) 2. 論考1についての発表と議論 (2回) 3. 論考2についての発表と議論 (2回) 4. 論考3についての発表と議論 (2回) 5. 論考4についての発表と議論 (2回) 6. 論考5についての発表と議論 (2回) 7. 総括 (2回) 					
* フィードバックの方法は授業中に指示する。					
----- 宗教学（基礎演習）(2)へ続く -----					

宗教学（基礎演習）（2）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（発表・討論への参加、場合によっては小レポート等）による。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、とにかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、教員の説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の「宗教哲学基礎演習B」と狙いを共有し、密接な連関をもつものである。宗教学専修の学部生は、必修授業となるので、必修単位数を満たすように計画的に履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学102

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学（基礎演習） Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4,5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	宗教哲学基礎演習B				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教哲学の基本文献を教師とチューター役の大学院生の解説を手がかりに読み進めていくことで、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。4回生以上の宗教学専修在籍者にとっては、卒論の中間発表の場ともなる。</p> <p>宗教学専修の学部生を主たる対象とするが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<p>宗教哲学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、卒業論文の作成に向けての準備態勢が整えられるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>宗教哲学の基本文献といえる著作や論文を選んで各回の授業に割り振り、事前に出席者に読んできてもらう。そして、毎回チューター役の大学院生の解説を踏まえて、教員の司会進行の下で、質疑応答と議論を行っていく（その際、履修者には特定質問者の役割を少なくとも1回は担当してもらう）。また、卒論の中間発表の際には、論述の仕方や文献の扱い方なども指導し、論文の書き方を学ぶ機会とする。</p> <p>隔週の授業のため、全7回（+フィードバック）として各回のテーマを記しておく。なお、どのような文献を取り上げるかは、前期の「宗教哲学基礎演習A」の様子を見て決めることにする。それによって、各回で取り上げる文献の種類も、以下の記したものと異なる可能性もある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・卒業論文の中間発表（2回） 2. 宗教哲学の基本文献(近代フランス)の読解・解説・考察（2回） 3. 宗教哲学の基本文献(近代ドイツ)の読解・解説・考察（2回） 4. 宗教哲学の基本文献(近現代英米)の読解・解説・考察（2回） 5. 宗教哲学の基本文献(現代フランス)の読解・解説・考察（2回） 6. 宗教哲学の基本文献(現代ドイツ)の読解・解説・考察（2回） 7. 宗教哲学の基本文献(京都学派の哲学)の読解・解説・考察（2回） 					
宗教学（基礎演習）(2)へ続く					

宗教学（基礎演習）（2）

8．フィードバック（1回）

* フィードバックの方法は授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

特定質問をはじめとする平常点、および学期末のレポートによる。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、とにかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、チューターの説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、前期の「宗教哲学基礎演習A」と狙いを共有し、密接な関連をもつものである。宗教学専修の学部生は、必要単位数を勘案しつつどちらも出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学103

科目ナンバリング		U-LET08 35602 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	キリスト教学A(講義)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、キリスト教の思想的源泉の一つである聖書を基本的な文献として分析しつつ、そこに記述された多様な諸問題を論じることを目的とする。聖書は我々から遥かに隔たった古代に成立したテキストであり、その理解のためには当時の歴史、慣習、思想など様々な事柄を学ぶ必要がある。この講義では、それらの事柄に触れつつ、教理や文化などに関連させながら、いくつかの主題が後の時代に及ぼした影響を分析する。尚、前期は基本的にユダヤ教の聖書を用いる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文化、思想の中で暗示され、また基礎となっている聖書中の物語や背景などを読み取ることができる。 ・キリスト教思想における諸問題を、聖書の記述に即して分析することができる。 ・聖書の成立や正典史などの分析を通して、文献を批判的に扱うことを学ぶことができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ユダヤ教の聖書と正典の成立 3. ユダヤ教の聖書の歴史的背景 4. 世界と人間の創造 5. ノアの方舟 6. アブラハムとその子孫たち 7. ヨセフとエジプトへの移住 8. 出エジプト 9. イスラエル王国の成立とダビデ 10. ソロモンと王国の分裂 11. 預言者の活躍 12. バビロン捕囚 13. 知恵文学 14. マカバイ戦争とローマの介入 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

・授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学104

科目ナンバリング	U-LET08 35604 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	キリスト教学B(講義)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、キリスト教の思想的源泉の一つである聖書を基本的な文献として分析しつつ、そこに記述された多様な諸問題を論じることを目的とする。聖書は我々から遥かに隔たった古代に成立したテキストであり、その理解のためには当時の歴史、慣習、思想など様々な事柄を学ぶ必要がある。この講義では、それらの事柄に触れつつ、教理や文化などに関連させながら、いくつかの主題が後の時代に及ぼした影響を分析する。尚、後期は基本的に新約聖書を用いる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な文化、思想の中で暗示され、また基礎となっている聖書中の物語や背景などを読み取ることができる。 ・ キリスト教思想における諸問題を、聖書の記述に即して分析することができる。 ・ 聖書の成立や正典史などの分析を通して、文献を批判的に扱うことを学ぶことができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 新約聖書と正典の成立 3. 新約聖書の歴史的背景 4. イエスの誕生 5. 洗礼者ヨハネ 6. イエスの奇跡 7. 山上の説教 8. 十字架と復活 9. 使徒たちの活動 10. パウロの回心 11. パウロ書簡 12. 牧会書簡 13. 公同書簡 14. 黙示録 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

・授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学105

科目ナンバリング		U-LET09 25705 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学入門・分析篇				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、美学という学問の輪郭(美学においてどのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか)を示すことにある。今学期は「分析篇」とし、美学が扱う多くの問題のうちの代表的ないくつか(以下の「授業計画と内容」を参照)を取り上げ、20世紀後半以後の英語圏において主流となった「分析美学」の方法に主として依拠しつつ、これを考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>美学という学問において、どのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか、を分析的に理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入【1】 2. 「分析美学」とは何か【1】 3. 芸術は(いかにして)定義可能か【3】 4. 「完全な贋作」の何が悪いのか【3】 5. 芸術作品の解釈に際して作者の「意図」をどの程度・どのように考慮すべきか【3】 6. 芸術作品の批評に用いられる言葉はどのような特徴を持つか【3】 7. フィードバック【1】 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(毎回課す小レポート)60点と期末レポート40点に基づき評価する。詳細は初回授業時に説明する。</p>					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
<p>(参考書) ロバート・ステッカー(森功次訳)『分析美学入門』(勁草書房)ISBN:9784326800537 西村清和(編・監訳)『分析美学基本論文集』(勁草書房)ISBN:9784326800568</p>					
系共通科目(美学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(美学)(講義)(2)

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介した参考文献・芸術作品などを、自らの関心・問題意識に照らして調べること。授業中に紹介した考え方を、別の事例・現象に適用して考察すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学106

科目ナンバリング		U-LET09 25707 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学入門・歴史篇(近現代)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、美学という学問の輪郭(美学においてどのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか)を示すことにある。後期は「歴史篇」とし、今日に連なる美学的問題をいつ・だれが・どのように・なぜ(いかなる動機・背景の下で)扱ってきたかを概観・考察する。今年度は、主として19世紀~20世紀前半の西洋(ヨーロッパ大陸)を範囲とする。</p>					
[到達目標]					
<p>美学という学問において、どのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか、を歴史的に理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおよそ以下の各項目を以下の順で講述するが、受講者の理解度や興味関心を勘案して前後・多少することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 本講義の視点：美学を学ぶのになぜ美学史を学ぶのか 3. 19世紀初頭の状況：ロマン主義と観念論 4. アンチ・ロマン主義としてのヘーゲル美学 5. ヘーゲル学派の美学 6. ヘルバルト主義の美学 7. 実存主義の美学 ショーペンハウアー 8. 実存主義の美学 ケルケゴール 9. 実存主義の美学 ニーチェ 10. 下からの美学 11. 美学と芸術学の分離 12. 現象学的美学 13. 解釈学的美学 14. まとめと補足 15. フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
-----系共通科目(美学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(美学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回課す小レポート）60点と期末レポート40点に基づき評価する。詳細は初回授業時に説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会、2009年）ISBN:9784130120586
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介した参考文献・芸術作品などを、自らの関心・問題意識に照らして調べること。授業中に紹介した考え方を、別の事例・現象に適用して考察すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 25708 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本・東洋美術史)(講義) Japanese Art History (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金1	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本美術史研究入門：仏教美術を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>美術作品はそれを生み出した人や社会とどのように関わるのでしょうか。どのように観察し、どのような問題意識を持てば、作品から人の営みを語ることができるのでしょうか。本講義は特に仏教美術に焦点を当てて日本美術・日本文化の特徴を考えます。</p> <p>毎回の講義では、日本仏教美術の代表的な作品を取り上げて「形」と「製作技法」を観察し、研究史上の問題点を検討します。これによって日本美術史研究の基礎的知識を習得するとともに問題意識を理解し、その運用能力を涵養することを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<p>美術作品の鑑賞方法について理解し、実作品を正しく見る能力を養うこと。</p> <p>主要な作品に対する理解を深め、日本美術の歴史的展開について説明ができるようになること。</p> <p>日本美術の様々な要素について学習し、日本美術とは何か、日本文化とは何かについて考える力を身に付ける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業で取り上げる主な課題は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 仏像の観察と解釈 (1) 仏の身体特徴と衣服：法隆寺金堂釈迦如来像 3. 仏像の観察と解釈 (2) 太い/細い、深い/浅い：薬師寺金堂薬師如来像 4. 仏像の観察と解釈 (3) 群像の構成を読み解く：教王護国寺講堂諸像 5. 仏像の観察と解釈 (4) 作者の個性を見出す：東大寺南大門木造金剛力士像 6. 木彫像の製作技法と思想 (1) 用材の変遷：唐招提寺木彫群 7. 木彫像の製作技法と思想 (2) 割矧造と寄木造：平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像 8. 木彫像の製作技法と思想 (3) 表面仕上げ：安倍文殊院文殊菩薩騎獅像 9. 木彫像の製作技法と思想 (4) 仏像の内部をみる：清涼寺釈迦如来立像 10. 仏画の製作技法と思想 (1) 世界観を読み解く：法隆寺玉虫厨子 11. 仏画の製作技法と思想 (2) 死生観を読み解く：聖衆来迎寺六道絵 12. 仏画の製作技法と思想 (3) 支持体・線・色を読み解く：応徳涅槃図 13. 仏画の製作技法と思想 (4) 臨終の場：金戒光明寺山越阿弥陀図 14. 肖像製作に求められたこと：唐招提寺鑑真和上像・東大寺重源上人像 15. まとめ 小テスト 					
系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業内（最終日）に行う小テストにより評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り上げる作品は、寺院や博物館で実際に見ることが出来るものが多いので、事前・事後にできるだけ実物を見てください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【実務経験のある教員による授業】

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容
文化財調査および文化財修理指導

実務経験を活かした実践的な授業の内容

思想文化学108

科目ナンバリング		U-LET09 25709 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋美術史)(講義) European Art History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋美術史概論(16世紀のドイツ美術に注目して)				
[授業の概要・目的]					
美術史における諸問題の考察を通じて、研究の基礎となる方法論や思考法に親しむとともに、西洋美術に関する基礎知識を習得することを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析など美術史学の基礎的な方法論について、理解する。 ・16世紀のドイツ美術の展開について、基礎的な知識を習得する。 ・具体的な作品を美術史学の観点から分析しうる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
<p>本年度は、16世紀のドイツ美術について、他の地域の美術との関係、宗教、政治、社会、経済など様々な観点から論じる。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 美術史学とは？ 第3回 西洋美術史における16世紀 第4回～第8回 デューラーと北方ルネサンス 第9回～第13回 アルトドルファーと風景の発見 第14回 まとめと今後の課題 《期末試験》 第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明します)</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(出席状況および小レポートなど、30点)と期末試験(70点)に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した者には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 					
-----系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習については、授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

受講に際して、西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。また、関連作品の展覧会等には自主的に足を運び、実作品を鑑賞する機会を持つことが好ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学109

科目ナンバリング	U-LET09 35745 SJ34				
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 足立 恵理子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代美学研究・講読 Yuriko Saito 『日常美学』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、哲学的美学にかんする英語文献を講読し、それを通じて英語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について知見を深める。</p> <p>今学期は、芸術を主な考察対象とする西洋近代美学の伝統的な問題意識への批判として、日常における感性的なものを主題としたSaito Yuriko, <i>Everyday Aesthetics</i>, Oxford University Press, 2007.を取り上げ、第5章「Moral-Aesthetic Judgements of Artifacts」を読み進める。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた美学の議論を正確に理解することができるようになる。 ・現代美学の諸課題へのアプローチ方法を学ぶ。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション テキスト・参考文献について紹介(コピー配布)・解説し、授業の進め方と準備の方法を説明する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの講読 テキストを精読し、内容についても議論する。原則として毎回の授業で1人1回は訳を担当する。範囲としては、毎回3ページ程度を予定。</p> <p>第15回 まとめ 本演習の内容を総括・議論する。</p> <p>(具体的な方法については受講者の学習状況を踏まえ決定する)。</p>					
[履修要件]					
美学講義を履修済みであることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(輪読における訳読状況、議論への参加度)60%+期末レポート(テキスト未読箇所の翻訳または講読内容にかんする英文エッセイ、詳細は授業中に指示する)40%によって行う。</p> <p>理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には単位認定を行わない。</p>					
[教科書]					
Yuriko Saito 『Everyday Aesthetics』(Oxford University Press, 2007) ISBN:9780199575671(初回到講読箇所のコピーを配布)					
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された範囲の英文の構文・単語・事項を調べ、当てられた際にその場で訳せるように準備しておくこと。また、内容に基づいた議論ができるように「この問題を自分ならどう考えるか」、「自分の興味関心と結びつけ、応用することは可能か」など、内容についても考えてくる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET09 35745 SJ34				
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山形 美有紀		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	15世紀ドイツの三連祭壇画				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、西洋美術史に関する英語文献を講読し、アカデミックな英語の読解力の習得を目指します。昨年度に引き続き、15世紀ドイツの三連祭壇画を包括的に論じた以下の書籍を読み進めます。</p> <p>Lynn F. Jacobs, The Painted Triptychs of Fifteenth-Century Germany: Case Studies of Blurred Boundaries, Amsterdam University Press, 2022.</p> <p>具体的な講読箇所は未定ですが、コンラート・フォン・ゾースト(Conrad von Soest)、マイスター・ベルトラム(Meister Bertram)、シュテファン・ロホナー(Stefan Lochner)、聖バルトロマイ祭壇画の画家(Meister des Bartholomaeus-Altars)など、14世紀末・15世紀・16世紀初頭のドイツで活動した画家たちのいずれかを取り上げます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で執筆された西洋美術史の専門書を、正確に読解する力を養成します。</p> <p>西洋美術史研究の方法論、英語での作品記述、専門用語の訳し方に慣れてもらいます。</p> <p>キリスト教図像学や聖書についての基礎的な知識を身に付けてもらいます。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション テキストのコピーを配布し、予習の進め方を指示します。テキストで言及される画家や作品について講義を行います。受講生の興味関心や学習状況を把握するためのアンケートを実施します。履修希望者は必ず、初回授業に出席してください。</p> <p>第2回-第14回 テキストの輪読 テキストの指定箇所を輪読します。進捗状況は受講生の習熟度に応じて変動しますが、毎回2-3ページを目安に予習してもらいます。テキストで言及される画家や作品、専門用語の定訳については、適宜、補足説明を行います。</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
西洋美術史の予備知識の有無は問いませんが、毎回予習をしたうえで授業に臨んでください。					
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学(演習II)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（約60%；授業中の訳読）およびレポート（約40%；詳細は授業中に指示します）に基づいて評価します。なお括弧内の割合は、受講生の習熟度に応じて変動することがあります。原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。原則として、遅刻・早退も欠席扱いにします。

【教科書】

Lynn F. Jacobs 『The Painted Triptychs of Fifteenth-Century Germany: Case Studies of Blurred Boundaries』
(Amsterdam University Press, 2022) ISBN:9789463725408 (初回授業で講読箇所のコピーを配布します。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習の進め方：構文と不明な単語を確認し、和訳を作成してください。テキストで言及される作品については、図版を丹念に観察しておきましょう。
復習の進め方：授業中の解説に基づいて予習時の和訳を修正し、専門用語の定訳を暗記してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学111

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 高井 たかね		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学美術史学(講読)				
[授業の概要・目的]					
<p>日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。今年度は明、屠隆『考槃余事』(龍威秘書所収本)をテキストとし、文人の用いる家具や服飾について扱った起居器服箋から読む。授業では、出席者に訓読および現代語訳をしてもらい、語法の確認をしながら漢文読解の訓練をおこなう。各回の担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・漢文読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・具体的には、漢文の語法について基礎的理解を得る、また訓読、現代語訳のために必要な基本的な工具書を知り、それらを使いこなせるようになること。 ・文章の背景にある中国文化に対する理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 講義趣旨説明 明、屠隆『考槃余事』の概要説明。授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な工具書、参考図書の紹介。</p> <p>第2～13回 『考槃余事』の精読。 進度は、はじめは1回に半葉程度になるかと思われるが、これを2, 3回続けたあとは毎回約1葉は進むようになる。</p> <p>第14回 総括 読解部分についてまとめ、疑問点を再考する。また、前回までの進み具合によっては引き続き会読をおこなうための予備日とする。</p> <p>第15回 見学 漢籍書庫の見学をおこなう予定。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点評価 授業時の訓読・現代語訳の発表、および議論への参加により評価する。</p>					
[教科書]					
<p>漢和辞典が必要。 テキスト、参考資料はコピーを配付する。</p>					
----- 美学美術史学(講読)(2)へ続く -----					

美学美術史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の精読箇所について、必ず予習が必要。漢和辞典等を使用して訓読、現代語訳しておく。

(その他(オフィスアワー等))

毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学112

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 筒井 忠仁		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	くずし字講読				
[授業の概要・目的]					
日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、くずし字で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。初め数回は基本的な変体仮名を学び、その後平安時代・鎌倉時代の絵巻物や江戸時代の画論書をテキストとして翻刻・現代語訳を作成する。毎回課題を設定し、参加者には授業時に発表を行ってもらう。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・絵巻物のテキストを理解するための基本的な方法を身につける。 ・絵巻物のテキストと絵画表現との照合作業を通じて美術史学の研究能力を涵養する。 					
[授業計画と内容]					
第1～2回 講義趣旨説明 授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な図書の紹介。基本的な変体仮名の習得。 第3～6回 江戸時代の画論書を読む 第7～10回 平安時代の絵巻物を読む 第11～14回 鎌倉時代の絵巻物を読む 第15回 学習到達度の確認					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 60% 授業時の訓読・現代語訳の発表、および議論への参加により評価。 小テスト 40% 最終回に小テストを行い評価。					
[教科書]					
テキスト、参考資料はコピーを配付する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する 利用しやすい辞典として以下がある。 児玉幸多『くずし字用例辞典』(東京堂出版)					
----- 美学美術史学(講読)(2)へ続く -----					

美学美術史学(講読)(2)

児玉幸多『くずし字解読辞典』（東京堂出版）

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の精読箇所について、必ず予習が必要。訓読・現代語訳しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36			
授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	教授 周藤 多紀 非常勤講師 西村 一輝 非常勤講師 大島 弘 非常勤講師 青木 眞澄 非常勤講師 井保 和也 非常勤講師 森脇 透青
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	哲学基礎文化学入門				
【授業の概要・目的】					
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>					
【到達目標】					
哲学基礎文学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス(周藤)</p> <p>第2回 井保和也講師「私たちは自由なのか? 現代自由意志論入門1」</p> <p>第3回 井保和也講師「私たちは自由なのか? 現代自由意志論入門2」</p> <p>第4回 大島弘講師「哲学史における翻訳と注解: トマス・アキナス『分析論後書注解』における論証と定義1」</p> <p>第5回 大島弘講師「哲学史における翻訳と注解: トマス・アキナス『分析論後書注解』における論証と定義2」</p> <p>第6回 青木眞澄講師「感情を哲学するーヒュームの情念理論1」</p> <p>第7回 青木眞澄講師「感情を哲学するーヒュームの情念理論2」</p> <p>第8回 青木眞澄講師「感情を哲学するーヒュームの情念理論3」</p> <p>第9回 西村一輝講師「W・パネンベルクにおける組織神学の基礎づけ1」</p> <p>第10回 西村一輝講師「W・パネンベルクにおける組織神学の基礎づけ2」</p> <p>第11回 西村一輝講師「W・パネンベルクにおける組織神学の基礎づけ3」</p> <p>第12回 森脇透青講師「ジャック・デリダと「秘密」の哲学1」</p> <p>第13回 森脇透青講師「ジャック・デリダと「秘密」の哲学2」</p> <p>第14回 森脇透青講師「ジャック・デリダと「秘密」の哲学3」</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----					

哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36			
授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡 非常勤講師 陳 洵漢 非常勤講師 久富 峻介 非常勤講師 岡崎 佑香 非常勤講師 真田 萌依	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	哲学基礎文化学入門				
【授業の概要・目的】					
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってまいります。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>					
【到達目標】					
哲学基礎文化学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス(児玉)</p> <p>第2回 陳洵漢講師「中観哲学入門1」</p> <p>第3回 陳洵漢講師「中観哲学入門2」</p> <p>第4回 陳洵漢講師「中観哲学入門3」</p> <p>第5回 久富峻介講師「初期ドイツ観念論(ヤコービ、ヘルダーリン含む)1」</p> <p>第6回 久富峻介講師「初期ドイツ観念論(ヤコービ、ヘルダーリン含む)2」</p> <p>第7回 久富峻介講師「初期ドイツ観念論(ヤコービ、ヘルダーリン含む)3」</p> <p>第8回 前半の振り返り</p> <p>第9回 岡崎佑香講師「ヘーゲル哲学における性差の問題1」</p> <p>第10回 岡崎佑香講師「ヘーゲル哲学における性差の問題2」</p> <p>第11回 岡崎佑香講師「ヘーゲル哲学における性差の問題3」</p> <p>第12回 真田萌依講師「西田幾多郎の哲学1」</p> <p>第13回 真田萌依講師「西田幾多郎の哲学2」</p> <p>第14回 真田萌依講師「西田幾多郎の哲学3」</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----					

哲学基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【 大学院聴講生 】

※2024年3月11日現在

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス連番	備考
日本史学	6631001	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	2			谷川 稔	日本語	○	歴史文化学1	
日本史学	6631002	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	4			三宅 正浩	日本語	○	歴史文化学2	
日本史学	6631003	日本史学(特殊講義)	2	後期	金	1			本庄 総子	日本語	○	歴史文化学3	
日本史学	6631004	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	2			岩城 卓二	日本語	○	歴史文化学4	
日本史学	6631006	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	2			福家 崇洋	日本語	○	歴史文化学5	
日本史学	6631007	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	4			斎木 涼子	日本語	○	歴史文化学6	
日本史学	6631008	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	3			岩崎 泰緒子	日本語	○	歴史文化学7	
日本史学	6631009	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	1			吉田 賢司	日本語	○	歴史文化学8	
日本史学	6631010	日本史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			遠藤 慶太	日本語	○	歴史文化学9	
日本史学	6631011	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	4			東谷 智	日本語	○	歴史文化学10	
日本史学	6631014	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	歴史文化学11	
日本史学	6631015	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	歴史文化学12	
日本史学	6631016	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	2			吉江 崇	日本語	○	歴史文化学13	
日本史学	6631017	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	2			吉江 崇	日本語	○	歴史文化学14	
日本史学	6631019	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	5			坂口 正彦	日本語	○	歴史文化学15	
東洋史学	6731001	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学16	
東洋史学	6731002	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学17	
東洋史学	6731003	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学18	
東洋史学	6731004	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学19	
東洋史学	6731005	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	2			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学20	
東洋史学	6731006	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	2			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学21	
東洋史学	6731009	東洋史学(特殊講義)	2	前期	金	2			河上 麻由子	日本語	○	歴史文化学22	
東洋史学	6731010	東洋史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			森部 豊	日本語	○	歴史文化学23	
東洋史学	6731013	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	1			矢木 毅	日本語	○	歴史文化学24	
東洋史学	6731014	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	1			矢木 毅	日本語	○	歴史文化学25	
東洋史学	6731018	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	3			承 志	日本語	○	歴史文化学26	
東洋史学	6731019	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	3			承 志	日本語	○	歴史文化学27	
東洋史学	6731023	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	歴史文化学28	
東洋史学	6731024	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	歴史文化学29	
東洋史学	6731027	東洋史学(特殊講義)	2	前期	水	1			古松 崇志	日本語	○	歴史文化学30	
東洋史学	6731028	東洋史学(特殊講義)	2	後期	水	1			古松 崇志	日本語	○	歴史文化学31	
東洋史学	6741001	東洋史学(演習I)	2	前期	金	3			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学32	
東洋史学	6741002	東洋史学(演習I)	2	後期	金	3			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学33	
東洋史学	6743001	東洋史学(演習II)	2	前期	火	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学34	
東洋史学	6743002	東洋史学(演習II)	2	後期	火	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学35	
東洋史学	6745001	東洋史学(演習III)	2	前期	木	1			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学36	
東洋史学	6745002	東洋史学(演習III)	2	後期	木	1			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学37	
東洋史学	M303001	東洋史学(演習)	2	前期	金	5			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学38	
東洋史学	M303002	東洋史学(演習)	2	後期	金	5			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学39	
東洋史学	M303003	東洋史学(演習)	2	前期	金	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学40	
東洋史学	M303004	東洋史学(演習)	2	後期	金	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学41	
東洋史学	M303005	東洋史学(演習)	2	前期	月	5			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学42	
東洋史学	M303006	東洋史学(演習)	2	後期	月	5			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学43	
西南アジア史学	6831004	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	木	3			仁子 寿晴	日本語	○	歴史文化学44	
西南アジア史学	6831005	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	月	3			山口 元樹	日本語	○	歴史文化学45	
西南アジア史学	6831006	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	火	3			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学46	
西南アジア史学	6831007	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	水	2			森谷 知可	日本語	○	歴史文化学47	
西南アジア史学	6831009	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			帯本 一夫	日本語	○	歴史文化学48	
西南アジア史学	6831011	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	火	3			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学49	
西南アジア史学	6842001	西南アジア史学(演習II)	4	通年	火	2			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学50	
西南アジア史学	6842002	西南アジア史学(演習II)	4	通年	水	3			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学51	
西南アジア史学	6844001	西南アジア史学(演習II)	2	前期	金	3			伊藤 隆部	日本語	○	歴史文化学52	
西南アジア史学	6844002	西南アジア史学(演習II)	2	後期	金	3			伊藤 隆部	日本語	○	歴史文化学53	
西南アジア史学	6850001	西南アジア史学(講義)	4	通年	金	1			今松 泰	日本語	○	歴史文化学54	
西南アジア史学	6851002	西南アジア史学(講義)	2	前期	火	4			中西 竜也	日本語	○	歴史文化学55	
西南アジア史学	6851003	西南アジア史学(講義)	2	後期	月	3			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学56	
西南アジア史学	9608001	イラン語(初級)(語学)	4	通年	金	2			杉山 雅樹	日本語	○	歴史文化学57	
西洋史学	6931001	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			安平 弦司	日本語	○	歴史文化学58	
西洋史学	6931002	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	3			安平 弦司	日本語	○	歴史文化学59	
西洋史学	6931003	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	4			阪師 宣忠	日本語	○	歴史文化学60	
西洋史学	6931004	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			塚本 優一郎	日本語	○	歴史文化学61	
西洋史学	6931005	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	歴史文化学62	
西洋史学	6931006	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	歴史文化学63	
西洋史学	6931007	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学64	
西洋史学	6931008	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学65	
西洋史学	6931009	西洋史学(特殊講義)	2	後期	木	3			田崎 直美	日本語	○	歴史文化学66	
西洋史学	6931010	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	3			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学67	
西洋史学	6931011	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	4			小関 隆	日本語	○	歴史文化学68	
西洋史学	6931012	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	4			小関 隆	日本語	○	歴史文化学69	
西洋史学	6931014	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	歴史文化学70	
西洋史学	6931015	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	歴史文化学71	
西洋史学	6931016	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			福本 薫	日本語	○	歴史文化学72	
西洋史学	6931017	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	2			栗原 麻子	日本語	○	歴史文化学73	
西洋史学	6931018	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学74	
西洋史学	6931019	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学75	
西洋史学	6931020	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4			林田 敏子	日本語	○	歴史文化学76	
西洋史学	6961001	西洋史学(講義)	2	前期	火	4			小山 哲	日本語	○	歴史文化学77	
西洋史学	6961002	西洋史学(講義)	2	後期	火	4			小山 哲	日本語	○	歴史文化学78	
西洋史学	6971001	西洋史学(演習I)	2	前期	金	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学79	
西洋史学	6971002	西洋史学(演習I)	2	後期	金	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学80	
西洋史学	6972001	西洋史学(演習II)	2	前期集中	他	他			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学81	
西洋史学	6972002	西洋史学(演習II)	2	後期	金	5			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学82	
西洋史学	6973001	西洋史学(演習III)	2	前期	金	5			小山 哲・安平 弦司	日本語	○	歴史文化学83	
西洋史学	6973002	西洋史学(演習III)	2	後期	金	5			小山 哲・安平 弦司	日本語	○	歴史文化学84	
西洋史学	6974001	西洋史学(演習IV)	2	前期	金	5			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学85	
西洋史学	6974002	西洋史学(演習IV)	2	後期	金	5			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学86	
考古学	7031001	考古学(特殊講義)	2	前期	金	2			吉井 秀夫	日本語	○	歴史文化学87	
考古学	7031002	考古学(特殊講義)	2	後期	月	2			吉井 秀夫	日本語	○	歴史文化学88	
考古学	7031009	考古学(特殊講義)	2	前期	金	3			下垣 仁志	日本語	○	歴史文化学89	
考古学	7031010	考古学(特殊講義)	2	後期	金	3			下垣 仁志	日本語	○	歴史文化学90	
日本史学	6601001	系共通科目(日本史学)(講義)	4	通年	火	3			上島 雅	日本語	○	歴史文化学91	学部科目
東洋史学	6701001	系共通科目(東洋史学)(講義)	4	通年	火	2			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学92	学部科目
東洋史学	6750001	東洋史学(講義)	4	通年	水	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学93	学部科目
東洋史学	6750002	東洋史学(講義)	4	通年	水	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学94	学部科目
東洋史学	6761001	東洋史学(実習)	2	通年	水	5			吉本 道雅・中砂 明德・箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学95	学部科目
西南アジア史学	6801001	系共通科目(西南アジア史学)(講義)	4	通年	水	2			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学96	学部科目
西南アジア史学	6840001	西南アジア史学(演習I)	4	通年	水	4			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学97	学部科目
西南アジア史学	6861001	西南アジア史学(実習)	1	後期	月	4			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学98	学部科目
西南アジア史学	6861002	西南アジア史学(実習)	1	前期	月	4			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学99	学部科目
西洋史学	6901001	系共通科目(西洋史学)(講義)	4	通年	火	5			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学100	学部科目
西洋史学	6956001	西洋史学(講義)	2	前期	月	2			小侯ラポー 日登美	日本語	○	歴史文化学101	学部科目
西洋史学	6956002	西洋史学(講義)	2	後期	月	2			小侯ラポー 日登美	日本語	○	歴史文化学102	学部科目

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
											大学院聴講生		
西洋史学	6957001	西洋史学(講読)	2	前期	水	4			菅原 百合絵	日本語	○	歴史文化学103	学部科目
西洋史学	6957002	西洋史学(講読)	2	後期	水	4			菅原 百合絵	日本語	○	歴史文化学104	学部科目
西洋史学	6958001	西洋史学(講読)	2	前期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学105	学部科目
西洋史学	6958002	西洋史学(講読)	2	後期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学106	学部科目
考古学	8007001	博物館学III(講義)	2	後期	水	2			宮川 禎一	日本語	○	歴史文化学107	学部科目
歴史基礎文化学系	0042001	歴史基礎文化学系(ゼミナールI)	2	前期	木	1			下垣 仁志・伊藤 啓介・佐藤 早紀子・田口 佳奈・殷 捷・勅使河原 拓也・岩永 絃和・山下 耕平・平良 聡弘・堀 雄高・酒嶋 恭平・小山田 真帆	日本語	○	歴史文化学108	学部科目
歴史基礎文化学系	0042002	歴史基礎文化学系(ゼミナールII)	2	後期	木	1			下垣 仁志・西 真輝・松島 隆真・小野木 聡・中村 慎之介・大津谷 馨・葉 勝・徐 口・藤田 風花・中辻 柚珠・辻田 明子・高野 紗奈江・西原 和代	日本語	○	歴史文化学109	学部科目
歴史基礎文化学系	0042003	歴史基礎文化学系(ゼミナールIII)	2	前期	木	1			磯貝 健一・葉 勝・松島 隆真・西 真輝・徐 口・小野木 聡・大津谷 馨・辻田 明子・中辻 柚珠・西原 和代	日本語	○	歴史文化学110	学部科目
歴史基礎文化学系	0042004	歴史基礎文化学系(ゼミナールIV)	2	後期	木	1			磯貝 健一・平良 聡弘・佐藤 早紀子・田口 佳奈・勅使河原 拓也・殷 捷・岩永 絃和・伊藤 啓介・小山田 真帆・堀 雄高・山下 耕平	日本語	○	歴史文化学111	学部科目

歴史文化学1

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 谷川 穰		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「排外」的思想の近代日本社会史				
[授業の概要・目的]					
<p>幕末から明治初期を生き、輸入品排斥を訴えることで熱狂的支持を得た僧侶の思想・政治行動の軌跡。その軌跡を1930年代にたどった、社会学者・著述家の歴史叙述のありよう。この二つの(全く)知られざる様相を未刊行史料をもとに解明することを通じて、幕末から総力戦体制期までを貫く近代日本の「排外」的思想・社会の一側面をとらえる。多様な原史料を用いて実証的に論じる歴史学の手法を示すとともに、明治維新と1930年代という変革期—戦争とテロの時代、「維新」と「国益」の時代でもある—における人間・社会の歴史的理解へと思考を及ぼしていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>戦前期日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の能力を高めることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回はイントロダクション、最終回は「まとめ」。以下のトピックを1回ずつ講じる予定であるが、受講生の理解等に応じて適宜組み替えを試みることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近世後期の仏教天文学と佐田介石の 世界観 ・幕末の政局と内戦回避の政治行動 ・明治維新と仏教 ・明治政府への建白書と「消費」社会論 ・アジア観と「排外」の自覚 ・舶来品排斥論と結社・演説の時代 ・内地雑居直前期の介石顕彰 ・吉野作造と明治文化研究 ・浅野研真の社会学とプロレタリア教育運動 ・中国・満洲情勢とアジア観の変容 ・介石研究への旋回と邪教撲滅・仏教復興運動 ・総力戦期における経済思想史・明治仏教史の 発見 ・幻の『佐田介石全集』とその行方 					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）をふまえて、総合的に判断する。

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学2

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 三宅 正浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世政治史研究				
【授業の概要・目的】					
<p>近年の日本近世政治史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。担当者は、主に武家文書(書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料)を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、近世国家の構造・特質を意識しつつ、近世大名の領国統治およびその理念について、近世成立期を中心に分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>					
【到達目標】					
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を向上させ、発展的に応用する視角と方法論を獲得する。期末には、自己の課題にもとづいて様々な史料をとりあげて読み込み、レポートを作成できるようにする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世大名の政治理念について 【2週】 2. 近世前期武家社会の学問観【3週】 3. 近世初頭の領国統治とその理念【4週】 4. 近世前期の領国統治とその理念【4週】 5. 近世中後期への展望【1週】 6. まとめと総括【1週】 					
【履修要件】					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートで評価する

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、関連する学術文献を各自で収集して読む。また、自身の課題を設定して史料を収集・分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学3

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 本庄 総子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代社会構造の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本科目では、日本古代史研究の方法論を提示する。 日本古代史研究においては、他分野協働の必要性が強調されて久しい。現存する史料が僅少であるため、多様な情報を研究に生かすための創意工夫が重ねられてきた。特に考古学や東洋史学との協働による成果は目覚ましいものがある。さらに近年では、古代DNAや古気候学の研究が飛躍的に進展しているため、文理の壁を超えた協働すら模索されつつある。 ただし、それぞれの研究分野にはそれぞれの方法論があり、その方法論に即した強みと弱みがある。この事実を踏まえることなく、他分野の研究成果を無批判に取り入れるならば、それは最早協働ではなく盲従であろう。協働にあたっては、各学問分野が自身の方法論を常に鍛え直しながら他分野に対峙する必要がある。 本科目では、以上の問題意識に基づき、日本古代の社会構造について、飢饉や疫病といったエラーの発生に留意しつつ探求する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本古代史における史料解釈の方法を理解する。 ・日本古代史をとりまく学問的環境を他分野との関係性から理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>下記のテーマに沿って進める予定。 ただし、最新の研究動向や、科目担当者自身の研究の進展状況に応じて随時変更する。</p> <p>導入(1回) 人口動態 - 増加説と減少説(2回) 土地開発 - 理念、耕地面積、生産性(3回) 飢饉・疫病の背景 - 自然災害、社会構造(3回) 飢饉・疫病の歴史的展開 - 8世紀以前、9世紀以降(2回) 飢饉・疫病対策 - 救恤、農政とリスク回避(3回) 展望(1回)</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学4

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岩城 卓二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	下級武士論ー地役人・手附・手代ー				
【授業の概要・目的】					
下級武士、とくに幕府代官所の実務を担った地役人・手附・手代を中心に、その出自・人生について、彼らが残した手紙類を用いて明らかにし、近世身分制について考える。授業では手紙の翻刻文を配布し、近世史料の読解力を習得する。					
【到達目標】					
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。					
【授業計画と内容】					
1, 幕府代官所の武士(2回) 2, 地役人(4回) 3, 水野正太夫の人生(4回) 4, 非正規雇用の武士(4回) 5, まとめと総括(1回) * なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。					
【履修要件】					
一定の漢文読解力を必要とする。					
【成績評価の方法・観点】					
授業の理解度を確かめる期末レポート					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示する史料の精読。					
(その他(オフィスアワー等))					
授業中に指示する。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学5

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 福家 崇洋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史研究事始				
[授業の概要・目的]					
<p>概要：講師の専門（近現代日本の社会運動史、社会思想史、史学史）に基づく、歴史研究の導入教育。</p> <p>目的：講師が歴史研究のプロセスを受講者に開示する。歴史研究における問題意識・目的・方法などを受講者が批判的に検討することで、自身の歴史研究や社会認識の糧にしてもらうことが本講義の目的である。なお、本講義は必ずしも他分野の歴史研究の参考となるわけではないことをご理解いただきたい。</p>					
[到達目標]					
歴史研究の意義を理解し、その目的・方法を習得することができる。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テーマ設定、先行研究の整理と分析 3 施設見学と資料調査1 4 施設見学と資料調査2 5 施設見学と資料調査3 6 施設見学と資料調査4 7 その他の資料調査（古書、聴き取り） 8 収集資料の整理・保存と研究活用 9 資料の読解1 10 資料の読解2 11 資料の読解3 12 歴史を叙述する1 13 歴史を叙述する2 14 歴史を叙述する3 15 まとめ <p>なお、授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学6

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	奈良国立博物館学芸部 列品室長 齋木 涼子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	平安時代の宗教儀礼と天皇				
[授業の概要・目的]					
<p>平安時代、朝廷では様々な儀礼が整備され、やがて儀礼が政務となり、同時に政務が儀礼化していった。そのなかでも、仏教法会・神祇祭祀など宗教的要素を持つものは、朝廷において大きな比重を占めていた。</p> <p>儀礼は、文化史や宗教史の一要素として捉えられることも多いが、それらの成立背景には、何らかの社会的必然性や需要が存在する。</p> <p>本講義では、摂関期から院政期に至るまでの朝廷における神祇祭祀や仏事、また天皇や院にかかわる宗教儀礼が、政治構造とどのように関係していったのか、そこに表れる天皇権威がどのように変化していったのかを取り上げる。</p>					
[到達目標]					
<p>平安時代を中心とした日本史の具体的な知識を得るとともに、平安時代の政治・社会への理解を深め、イメージを豊かなものにする。また様々な史料研究の方法を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には下記の予定で進めるが、話題の関係で内容が前後する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 律令国家の宗教儀礼体制と天皇(第1回) 2. 平安時代の神祇祭祀(第2~3回) 3. 護国体制の変化 密教導入の革新(第4~5回) 4. 護持される天皇と11世紀の変化(第6~9回) 5. 院政と密教(第10~12回) 6. 神仏習合(第13回) 7. 聖教という史料(第14回) 8. まとめ(第15回) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業中の小レポート(30点)と期末レポート(70点)により総合的に判断する。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

プリントの復習、参考文献を読む。授業で触れた史跡や場所を訪れてみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学7

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38				
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	総合博物館 教授 岩崎 奈緒子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世後期の対外認識 12				
[授業の概要・目的]					
「鎖国」外交が成立する過程を、近世後期の対外認識との関係から考察する。					
[到達目標]					
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。					
[授業計画と内容]					
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座【1週】 2. 「鎖国」の研究史【5週】 <ul style="list-style-type: none"> ・1945年以前の研究 ・1945年以降の研究 3. 対ロシア外交と「鎖国」【8週】 <ul style="list-style-type: none"> ・対ラクスマン外交 ・対レザノフ外交 5. フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポート					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学8

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	龍谷大学文学部 教授 吉田 賢司	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本中世の権力と制度				
[授業の概要・目的]					
建武政権の成立や南北朝内乱の勃発が、日本中世の権力や制度のありように及ぼした影響について考える。これらを通して、14世紀前半を画期として区分される、「中世後期」の時代状況や特質について、理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
日本中世史に関する理解を深めるとともに、史料の読解力を高めることを目標とする。					
[授業計画と内容]					
第1回 御家人制研究の成果と論点 第2回～第4回 御家人制「廃止」の実態 第5回～第7回 建武政権の京都大番役 第8回～第10回 建武政権の軍制構想 第11回・第12回 京都大番役の廃絶 第13回・第14回 室町期の内裏門役 第15回 総括と展望					
(以上の計画・内容は、講義の進度に応じて変更する場合があります)					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解能力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
学期末に講義内容に即した定期試験を課し、その内容で成績評価をおこなう(90%)。また、授業の出席者に求める史料の読み下し・解釈についても、平常点として加味する(10%)。					
[教科書]					
使用しない 講義形式で授業をおこなうが、プリント(史料)を配付して出席者に読み下し・解釈を随時求める。					
[参考書等]					
(参考書) 早島大祐・大田壮一郎・松永和浩・吉田賢司 『首都京都と室町幕府』(吉川弘文館、2022年) ISBN:978-4-642-06864-2 その他については、必要に応じて、授業中に紹介する。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 授業前には、配付した史料の未読部分を予習のうえ、授業にのぞむこと。
- ・ 授業後には、読解した史料の読み下し・解釈をもとに、授業内容の復習をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学9

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	皇學館大学文学部 教授 遠藤 慶太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本書紀の形成と受容				
[授業の概要・目的]					
この講義は、日本最初の公式な歴史書である『日本書紀』について、基礎的な知識や調査の方法を習得することを目的とする。『日本書紀』は古代史の基本史料であるだけでなく、古典として長く読み継がれてきた。現在のわたしたちが目にする活字や電子テキストの背後には、時代ごとの写本や刊本、個性的な解釈が存在する。そこでこの講義では、『日本書紀』の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意しながら、歴史を書き記す意味について考えてゆく。					
[到達目標]					
『日本書紀』の成り立ちや特色について、史料的根拠や歴史学の研究の現状に即して理解し、その内容を説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト(写本、刊本、注釈)を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていきたい。					
[授業計画と内容]					
「日本書紀の形成と受容」というテーマで、古代史書の材料や内容、それが読み継がれたことの意味について、下記のような内容で講義する。					
第1回 開講ガイダンス/日本書紀の概説					
第2回 日本紀講と写本のながれ					
第3回 大王系譜(帝紀)の成り立ち					
第4回 神社の鎮座伝承					
第5回 日本武尊と婚姻伝承					
第6回 神功皇后伝承と史料批判					
第7回 倭の五王と古墳研究					
第8回 武烈天皇の暴虐記事					
第9回 継体天皇と6世紀の倭王権					
第10回 仏教伝来記事					
第11回 聖徳太子研究の現状と課題					
第12回 大化改新の再評価					
第13回 藤原鎌足の伝記					
第14回 壬申紀の叙述					
第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。レポートの評価基準については、教室で開示する。

[教科書]

使用しない

毎回の授業で史資料のプリントを配布して解説する。

[参考書等]

(参考書)

國學院大學博物館 『日本書紀 神と人とを結ぶ書物』(國學院大學博物館, 2021)

遠藤慶太ほか 『日本書紀の誕生』(八木書店, 2018)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業は短期間の集中講義形式で行うので、上記参考書のうちいずれか一つだけでも事前に目を通すと、講義内容が理解しやすくなると思われる。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーを特に設けることはしない。質問等があれば各回の授業終了後に適宜受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学10

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	甲南大学文学部 教授 東谷 智		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	江戸時代の支配の仕組み				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、江戸時代の藩と大名を素材として、支配の仕組みについて論じる。 参勤交代を行う大名は国元と江戸を往復し、両所に拠点を持つ。江戸と国元、それぞれの拠点での藩政機構のあり方や役割について論じることで、江戸時代の領主について理解を深めたい。講義では、武家文書や地方文書を具体的に示しながら、大名や藩の世界に分け入っていくことから、京都大学総合博物館所蔵の古文書を実験する機会を設けたい。 また大名の儀礼を取り扱うことから、大名御殿の指図(設計図)なども用いるとともに、二条城二の丸御殿の見学など学外講義も行い、空間的把握にも留意したい。</p>					
【到達目標】					
藩と大名について基礎的な知見を得ると共に、史料の基本的な分析が出来るようになることを目指す。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 大名の姿 3. 大名の家族と交際 4. 大名の官位と役職 5. 江戸の大名屋敷 6. 江戸城における儀礼 7. 国元における城下町 8. 国元の屋敷と儀礼 9. 家臣団 10. 番方と役方 11. 藩政機構 12. 行政の仕組み 13. 機構改編と藩政改革 14. 支配の広がり 15. まとめ 					
【履修要件】					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 40%

期末レポート 60%

[教科書]

授業中に指示する
レジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

史料を読む講義を受講することを心懸けて下さい。

期末レポートでは、具体的に史料を分析してもらう課題を出します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学11

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本中世の西国と東国				
[授業の概要・目的]					
鎌倉時代通史の再検討I					
<p>今期は、日本中世史のうち、鎌倉時代、なかでも承久の乱からモンゴル襲来までを取りあげ、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。					
<p>第1回 承久の乱の衝撃 第2回 北条泰時の時代(1) 第3回 北条泰時の時代(2) 第4回 北条泰時の時代(3) 第5回 北条経時の時代 第6回 宮騒動と宝治合戦 第7回 建長の政変と親王将軍の下向 第8回 北条時頼の出家 第9回 北条時頼の死と陰謀の黒幕 第10回 連署・北条時宗の時代 第11回 二月騒動と文永の役 第12回 高麗出兵計画と幕府諸勢力の西下 第13回 弘安の役と北条時宗の死 第14回 弘安徳政とその終焉 第15回 学習到達度の評価</p>					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学12

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	伊賀国の古代・中世史				
[授業の概要・目的]					
鎌倉時代通史の再検討II					
<p>今期は、鎌倉時代、なかでもモンゴル襲来後から鎌倉幕府滅亡までを取りあげ、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。					
第1回	後期鎌倉幕府政治史への展望				
第2回	霜月騒動と平頼綱政権の始動				
第3回	平頼綱政権と持明院統				
第4回	平頼綱政権と『とはずがたり』				
第5回	伏見天皇、あわや暗殺				
第6回	平禅門の乱				
第7回	北条貞時の集権化(1)				
第8回	北条貞時の集権化(2)				
第9回	北条貞時の集権化(3)				
第10回	北条貞時の挫折				
第11回	北条高時の誕生と嘉元の乱				
第12回	得宗専制の敗北				
第13回	北条高時の時代				
第14回	鎌倉幕府の滅亡				
第15回	学習到達度の評価				
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

[教科書]

前もってプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学13

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 吉江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、律令国家の根底に存在した氏族制に焦点をあて、氏族のあり方やその変容という観点から、律令制期の宮廷社会の姿を具体的に検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、日本の律令国家の根底に存在した氏族制に焦点をあてながら、律令制期の宮廷社会の特質について検討する。まずは前代から続く氏族制が、唐から継受した律令法の中にいかに規定されたかを確認し、律令国家における氏族の位置付けについて整理する。次いで、政治の中枢にあった藤原氏の様相に焦点をあて、天皇と藤原氏との関係を検討しながら、奈良時代の氏族の姿を具体的に描き出す。最後に、新撰姓氏録の編纂や摂政・関白の出現を取り上げ、平安時代における氏族制の展開について検討する。</p> <p>授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。</p>					
<p>イントロダクション(第1回)</p> <p>1 問題の所在 律令国家と氏族制 (第2回~第3回)</p> <p>2 奈良時代の天皇と藤原氏の権力(第4回~第6回)</p> <p>3 新撰姓氏録の編纂にみる氏族制の展開(第7回~第10回)</p> <p>4 摂政・関白の出現と宮廷社会の変質(第11回~第13回)</p> <p>総括(第14回)</p> <p>《期末試験》</p> <p>フィードバック(第15回)</p>					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学14

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 吉江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究				
[授業の概要・目的]					
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、平安時代における「家」の様相について具体的に検討し、「家」の分立という観点から古代から中世への展開を考察する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、平安時代における「家」の様相に焦点をあてながら、宮廷社会の変遷過程を検討する。まずは「氏」と「家」の概念について整理し、「氏」と「家」を素材に宮廷社会を考察することの意義を明確にする。次いで、政治の中枢にあった摂関家と、実務官僚を輩出した勸修寺流藤原氏とを取り上げ、平安時代の「家」の様相を具体的に検討する。最後に、「家」の分立が政治・宗教といかに関係するかについて概観し、宮廷社会の古代から中世への展開を考察する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。					
イントロダクション(第1回)					
1 問題の所在 「氏」と「家」 (第2回～第3回)					
2 摂関家の成立(第4回～第6回)					
3 勸修寺流藤原氏にみる実務官僚の「家」(第7回～第10回)					
4 「家」の分立と政治および宗教(第11回～第13回)					
総括(第14回)					
《期末試験》					
フィードバック(第15回)					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学15

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪商業大学経済学部 准教授 坂口 正彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代日本の村社会				
【授業の概要・目的】					
<p>地域社会における共同性の構築が社会的な課題となっている。また、人びとはなぜ・どのように共同するのか(しないのか)という問いは、学問領域を超えた普遍的なものに属するだろう。この講義では近現代日本の農山村、なかでも村社会(村落社会)の共同性について検討する。具体的にはまず村社会における共同性の特質を地主小作関係・合意形成をキーワードとして捉える。そのうえで、明治期から戦争を経て高度経済成長期という変転著しい歴史過程において、国家の政策が村社会においてどのように受容・執行されたのかに焦点を当てることにより、村社会の特質を把握する。</p>					
【到達目標】					
<p>近現代日本における村社会の機能(意義・限界)とその歴史的展開について理解を得ることができる。 国際比較や国内比較を行うことにより、各地域における村社会の共通性と差異について理解を得ることができる。 地域に関する歴史研究の学問的・社会的意義を理解し、調査研究の方法を知ることができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1 村社会とは何か 2 合意形成の方法 3 明治後期・大正期の村社会と国家 「改良」の時代 4 戦前期の村社会と国家 「更生」の時代 5 アジア・太平洋戦争期の村社会と国家 「動員」の時代 6 アジア・太平洋戦争期の「満洲」移民 7 戦後改革期の村社会と国家 「改革」の時代 8 高度経済成長期の村社会と国家 農村の「変化」 9 高度経済成長期の村社会と国家 山村の「変化」 10 家とは何か 11 共同労働(むら仕事)からみた村社会 12 倹約規範からみた村社会 13 アジアのなかの日本の村社会 14 村社会の研究法 15 まとめ <p>受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性がある。</p>					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度をはかるため、期末レポートを実施する。

【教科書】

使用しない
プリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

日本村落研究学会編(鳥越皓之責任編集)『むらの社会を研究する フィールドからの発想』
(農山漁村文化協会、2007年) ISBN:9784540061516

坂口正彦『近現代日本の村と政策 長野県下伊那地方 1910～60年代』(日本経済評論社、2014年) ISBN:9784818823419

【授業外学修(予習・復習)等】

授業時にさまざまな参考文献を紹介する。
参考文献や授業プリントを用いて予習・復習をおこなうこと。
その他、予習・復習の詳細については授業時に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

教員と学生との連絡方法については授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学16

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	戦国時代の歴史認識				
【授業の概要・目的】					
西周王朝の滅亡(771BC)と秦始皇帝の統一(221BC)に挟まれた549年間は今日一般に「春秋戦国時代」と称されている。『春秋経』が記述する時代、すなわち本来の意味での春秋時代を前後と区分された一つの時代として扱うことは、前2世紀の公羊学派の言説に初見し、前4世紀後期の『孟子』に示唆されるが、前4世紀前中期の『左伝』や清華簡『繫年』にはなお見えない。本講義では、『左伝』『繫年』『孟子』を分析することで、前4世紀後期における歴史認識の急激な変容および、それをもたらした政治的背景を考察する。					
【到達目標】					
中国古代史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。					
【授業計画と内容】					
以下の項目を逐次論ずる。 第1回～第2回 序論 第3回～第6回 『左伝』 第7回～第10回 『繫年』 第11回～第14回 『孟子』 第15回 結論 *フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。					
【教科書】					
講義資料は担当者が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に別途指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学17

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	孔子伝の展開				
【授業の概要・目的】					
前漢中期の『史記』孔子世家は、孔子伝の基本的な枠組みを提示した。前漢後期から後漢における緯書や、魏晉における『孔子家語』『孔叢子』は孔子の事蹟を新たに創作した。北宋以降、孔子年譜の編纂が試みられ、明代以降、孔子絵伝たる聖蹟図が盛行した。本講義では、仇英・文徵明『聖蹟図』、夏洪基『孔子年譜綱目』を素材に、孔子世家以降の孔子伝の展開を考察する。					
【到達目標】					
歴史文献学に基づく、中国文献の批判的分析の方法論を習得する。					
【授業計画と内容】					
以下の項目を逐次論ずる。 第1回～第2回 序論 第3回～第14回 『聖蹟図』の分析 第15回 結論 * フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。					
【教科書】					
講義資料は担当者が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に別途指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学18

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	17世紀のイエズス会年報				
[授業の概要・目的]					
<p>イエズス会の海外布教は17世紀初年に高潮を迎える。それを表すのが、現地からの年次報告をまとめた諸年報であり、とくにイタリアで多く刊行された。本授業では、17世紀のイタリア語年報を読み解き、イエズス会の布教の広がりを確認するとともに、年報が果たした役割について考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>近世におけるカトリックの世界的展開について知ることができる。 イエズス会の出版物の性格について知ることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1、導入 2、16世紀のイエズス会年報 3、ニコラ・ピメンタのインド巡察書簡(1601.02年刊) 4、1603年日本年報(1605年刊) 5、布教報告集 ムガル・モノモタパ・ヴェルデ岬・マドゥライ(1615年刊) 6・7、日本・中国・ゴア・エチオピア年報(1621年刊) 8・9、エチオピア・マラバル・ブラジル・ゴア年報(1627年刊) 10、エチオピア年報(1628年刊) 11・12、エチオピア・中国年報(1629年刊) 13、日本年報(1632年刊) 14、まとめ 15、フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。					
[教科書]					
使用しない プリントを配布する。					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学19

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世ヨーロッパ人の世界認識				
[授業の概要・目的]					
<p>フランスの史家セルジュ・グリュジンスキは、スペイン・ハプスブルク家のフェリペ2世が1580年にポルトガル王となることで成立した帝国のもとで、グローバルな意識を持つ人々が生まれてきたと論じている。しかし、そうした作品の多くは今日ではあまり顧みられていない。本授業では、ヨーロッパを越えた世界記述を行った作品をとりあげてその内容を紹介するとともに、テキスト産生の背景をさぐる。</p>					
[到達目標]					
<p>1, 近世の西欧人の世界認識を知ることができる。 2, 忘れ去られたテキストの持つ意味について考えることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1、導入 2～4、ジョバンニ・ボテロ『一般誌』(1595) 5、ヘロニモ・デ・ロマン『世界の共和国』第三部(1595) 6、トマソ・カンパネッラ『スペイン王国論』(1600) 7、ジョアン・ドス・サントス『東エチオピア』(1609) 8、コルネリス・ヴィートフリート『東西インド一般史』(1611) 9、ピエール・デュ・ジャリック『東インド布教史』(1608-14) 10・11、ピエール・ダヴィティ『世界諸国誌』(1613) 12、サミュエル・パーチャス『巡礼』(1625) 13、アンソニー・シャーリー『全世界の政治的重み』(1622) 14、ヨハネス・デ・ラエト『新世界』(1625) 15、フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学20

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	清末中国における国際法の受容と外交				
[授業の概要・目的]					
清末中国における近代国際関係、とくに国際法の受容については、国際法関連書の翻訳や主権などの概念理解など、思想史研究が盛んに行われてきた。本講義では実際の外交交渉と国際法受容の関係を中心に考察を行い、清末中国における近代国際関係の受容の特徴を検討する。					
[到達目標]					
清末中国における対外関係や国際環境の変化について基本的な事項を理解する。あわせて、清末中国の外交において国際法がどのように理解され、利用されていたのかを学び、清末中国における国際法観や近代国際関係の受容の特徴について考察を深めることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 導入：清代の対外関係 第2回 近代国際法について 第3回 アヘン戦争時期の国際法翻訳 第4回 『万国公法』の翻訳 第5回 清朝による領事裁判権の要求 第6回 台湾出兵、在外公館設置と国際法 第7回 在外公館と国際法 駐米公使の場合 第8回 在外公使と国際法 駐英公使の場合 第9回 日清戦争後の変化 第10回 第1回ハーグ平和会議への参加とその影響 第11回 第2回ハーグ平和会議への参加とその影響 第12回 マカオ領域確定交渉(1) 歴史的経緯 第13回 マカオ領域確定交渉(2) 領海問題と国際法 第14回 まとめ 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業へのコメント(40点)、学期末レポート(60点)					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』(ミネルヴァ書房,2019年) ISBN:
9784623084906

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学21

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代中国における「主権」意識について				
【授業の概要・目的】					
近代中国には租界や租借地、中東鉄道収用地など、中国の領土でありながら外国が行政や司法を行使する空間が様々な形態で存在した。日清戦争後には清朝もその問題性を認識し、自開商埠の設置によって対抗しようとしはじめる。近年、近代中国の「主権」意識については「領土」意識の形成との関係で議論がなされているが、本講義では租界など外国の行政・司法が行使された空間の存在が近代中国の「主権」意識に与えた影響を検討する。					
【到達目標】					
清末中国における対外関係や国際環境の変化について、基本的な事項を理解する。あわせて、中国に存在した租界などの空間の設置課程とその性質、清朝の認識の変化について学び、近代中国における「主権」意識の特徴について考察を深めることができる。					
【授業計画と内容】					
第1回 導入：前近代の広州における外国人への姿勢					
第2回 アヘン戦争と上海租界の設置					
第3回 第二次アヘン戦争と上海租界の拡大					
第4回 租界の諸相：法制度					
第5回 租界の諸相：社会					
第6回 日清戦争後の租界の増加					
第7回 利権獲競争と租借地					
第8回 自開商埠の登場					
第9回 満洲における自開商埠の拡大					
第10回 中東鉄道収用地					
第11回 日露戦争後の満洲の状況					
第12回 ハルビン自治問題 問題の性質					
第13回 ハルビン自治問題 露清交渉と清朝の「主権」					
14．まとめ					
15．フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業へのコメント(40点)、期末レポート(60点)

[教科書]

毎回レジュメを配布します。

[参考書等]

(参考書)

岡本隆司『ハンドブック近代中国外交史』(ミネルヴァ書房, 2019年) ISBN:9784623084906

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学22

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 河上 麻由子 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代アジアの対外交渉と仏教				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、5世紀から10世紀のアジアの諸国間交渉において、仏教がどのような役割を果たしたのかを解説する。具体的には、仏教を鍵として行われた諸国間交渉(主として対中国交渉)を時代ごとに取り上げ、国際関係の推移とともに紹介する。それと同時に、仏教を鍵とする交渉を受け入れた側が、人々が仏教信仰に向けるエネルギーを王権に取り込むにあたって、どのような政策を実施していたのかを分析し、個々の交渉がいかなる政治的意味を持っていたのかを講義する。以上を通じて、受講生が、アジアの国際交渉の多様なあり方を理解する手がかりを得るとともに、アジア(特に中国)の王権の重層性を知ることが本授業の目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>5世紀から10世紀に、アジア諸国間で、仏教を鍵とする国家間交渉が行われていたことについて、基礎的な事項を正確に列記することができるようになる。 そのような交渉が行われる背景として、当時のアジア(特に中国)で、仏教が王権強化に果たした役割を、適切・具体的に説明することができるようになる。 本授業で得た知識を他アジア地域・時代に応用し、授業では取り上げなかったアジアの諸国間交渉について、独自に論述することができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容や回数を調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中華思想と仏教 2. 北朝の仏教 3. アジア諸国ー北朝の交渉と仏教 4. 南朝の仏教 5. アジア諸国ー南朝前半の交渉と仏教 6. アジア諸国ー南朝後半の交渉と仏教 7. 隋の皇帝の受菩薩戒 8. アジア諸国ー隋の交渉と仏教 9. 唐の皇帝の受菩薩戒(唐前半期) 10. 唐の皇帝の受菩薩戒(唐後半期) 11. アジアの諸国王たちの受菩薩戒 12. アジア諸国ー唐の交渉と仏教(唐前半期) 13. アジア諸国ー唐の交渉と仏教(唐後半期) 14. アジアの諸国間交渉と僧侶 15. まとめと振り返り 					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況（10点）、学期末のレポート（90点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
毎回、資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
河上麻由子 『古代アジア世界における対外交渉と仏教』（山川出版社、2011年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で使用する史料は、受講者にも予習することを期待する。事前に配布された史料については、各自で読み込んで、内容を確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

メールでアポイントメントを取った上で、授業後、またはズームにて面談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学23

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	関西大学文学部 教授 森部 豊	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	唐・五代史における墓誌研究 (Study of epitaphs in the Tang Dynasty and the Five Dynasties)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、唐・五代史の政治・軍事・エスニック集団という諸問題を取り上げ、墓誌を用いて分析する研究方法を提示し、その可能性と限界を見極め、21世紀の東洋史研究の方向を考えていきたい。</p> <p>(1) 政治：唐後半期の政治史に大きな影響をあたえた地方軍閥(藩鎮)のうち、唐朝に対し一貫として半独立割拠の姿勢をとりつづけた河朔三鎮を取り上げ、その構造を石刻史料を通じ概観し、唐から五代史の展開の中でどのようなポジションをとったのか考察する。</p> <p>(2) 軍事：唐代軍制の代名詞ともいべき「府兵制」は、近年、典籍史料の見直しなどを通じ、従来の理解を大幅に修正しつつある。しかし、石刻史料から見ると、実は「府兵制」崩壊後も、軍府官は存在し続けている。石刻史料はこの事実に対し、どのような答えを提示できるのか、分析していく。</p> <p>(3) 民族：唐王朝が多様なエスニック集団を内包し、または絶えず外から受け入れていたことは周知のことだが、そのエスニック集団の統治を、従来の「羈縻支配」の語で片づけてしまうのは、もはや時代錯誤である。墓誌をはじめとする石刻史料は、この問題に対し、どこまで新しい姿を提示できるのか、考察していく。</p> <p>(英訳：In this lecture, we will take up various issues related to politics, military, and ethnic groups in the history of the Tang Dynasty and the Five Dynasties, present a research method that analyzes epitaphs, identify its possibilities and limitations, and guide the direction of Oriental history research in the 21st century. I want to think about it.</p>					
[到達目標]					
<p>20世紀以来構築されてきた唐五代史の通説に対し、新しい見方と知識を身につけることができる。中国前近代史研究の新しい史料ともいべき墓誌の使い方、その有用性と限界を理解することができる。</p> <p>(英訳：1) You will be able to acquire new perspectives and knowledge on the commonly held theories about the history the Tang Dynasty and the Five Dynasties that have been established since the 20th century. 2) You will be able to understand the use of epitaphs, which can be called new historical materials for the study of pre-modern Chinese history, and their usefulness and limitations.</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション				
第2回	河朔三鎮と藩鎮昭義				
第3回	「魏博節度使何弘敬墓誌」考察				
第4回	「魏博節度使何進滔德政碑」考察				
第5回	河朔三鎮のソグド系武人の淵源				
東洋史学(特殊講義)(2)へ続く					

東洋史学(特殊講義)(2)

- 第6回 六州胡に関する墓誌
- 第7回 五代におけるソグド武人
- 第8回 沙陀・李克用墓誌の考察
- 第9回 安祿山と契丹・奚
- 第10回 遼寧省朝陽市出土の契丹人墓誌と唐の羈縻支配
- 第11回 唐朝の羈縻支配再論
- 第12回 契丹人「李永定墓誌」の考察
- 第13回 唐代府兵制概論
- 第14回 墓誌と折衝府
- 第15回 フィードバック

(英訳)

- 1 : Introduction
- 2 : Heshuo Sanzhen and Zhoayi
- 3: Consideration of the epitaph of He Hongjing
- 4 : Consideration of the epitaph of He Jintao
- 5: The origin of the Sogdian warriors in Heshuo Sanzhen
- 6: Epitaphs about Liuzhou-Hu
- 7: Sogdian warriors in the Five Dynasties
- 8: Consideration of the epitaph of Li Keyong
- 9 : An Lushan and Qidan, Xi
- 10: Qidan epitaphs discovered in Chaoyang City, Liaoning Province and the control of Tang Dynasty
- 11: Re-examination of the Tang Dynasty's control over fibers
- 12 : Consideration of the epitaph of Li Yongding
- 13 : Introduction of Fubing Military System
- 14 : Epitaphs and Fubing Military System
- 15 : Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義への参加度：評価60%（毎回の授業でのコメントシート提出も含む）
レポート：評価40%（各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、レポートにまとめる）
(英訳)Participation in lectures: 60% /Report: Evaluation 40%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

森部豊 (MORIBE Yutaka) 『ソグド人の東方活動と東ユーラシア世界の歴史的展開 (Activities of the Sogdians in China and historical development of the East Eurasian world)』 (関西大学出版部、2010年 (Kansai University Press, 2010))
森部 (MORIBE Yutaka) 『安祿山 (An Lushan)』 (山川出版社、2013年 (Yamakawa Shuppansha Ltd., 2013))

東洋史学(特殊講義)(3)へ続く

東洋史学(特殊講義)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に適宜参考資料等を指示するので、必ず目を通して理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡は電子メール(y-moribe@kansai-u.ac.jp)で行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学24

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 矢木 毅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮史詳説(古代篇1)				
[授業の概要・目的]					
<p>朝鮮半島に展開した諸部族・諸国家の歴史を概観し、古代における政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国史)との関係にも留意しつつ、朝鮮の歴史への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝鮮史の舞台 2. 衛氏朝鮮と楽浪郡 3. 高句麗の建国 4. 遼東の公孫氏政権 5. 遼東の慕容氏政権 6. 高句麗の遼東進出 7. 百済の建国 8. 加耶諸国と倭国 9. 新羅の建国 10. 新羅の建国(続き) 11. 隋唐帝国と高句麗 12. 百済の滅亡 13. 高句麗の滅亡 14. 高句麗の滅亡(続き) 15. まとめ(史料講読) 					
[履修要件]					
<p>中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(学部専門課程の講読授業履修程度)を身につけていることが望ましい。</p>					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期中 2 回の課題レポート（各50点）、および平常点（授業時の質疑応答等）を勘案して総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを印刷して配布する。

[参考書等]

（参考書）

李成市ほか『朝鮮史1』（山川出版社）ISBN:9784634462137

井上秀雄『古代朝鮮』（講談社）ISBN:9784061596788

姜在彦『朝鮮半島史』（角川ソフィア文庫）ISBN:9784044006419

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』（塙書房）ISBN:9784827331110

（関連URL）

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

（その他(オフィスアワー等)）

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学25

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 矢木 毅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮史詳説(古代篇2)				
【授業の概要・目的】					
朝鮮半島に展開した諸部族・諸国家の歴史を概観し、古代における政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国史)との関係にも留意しつつ、朝鮮の歴史への理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本語で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 百済遺民の動向 2. 高句麗遺民の動向 3. 新羅の「三韓」統一 4. 渤海と日本 5. 唐・平盧軍と渤海・新羅 6. 新羅の骨品制 7. 新羅の骨品制(続き) 8. 張保臯と円仁 9. 張保臯と円仁(続き) 10. 新羅海賊の出没 11. 新羅末の群盗 12. 崔致遠の帰国 13. 崔致遠の帰国(続き) 14. 唐朝の滅亡と新羅 15. まとめ(史料講読) 					
【履修要件】					
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(学部専門課程の講読授業履修程度)を身につけていることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
学期中2回の課題レポート(各50点)、および平常点(授業時の質疑応答等)を勘案して総合的に評価する。					
【教科書】					
使用しない 講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを印刷して 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く					

東洋史学(特殊講義)(2)

配布する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社) ISBN:9784634462137
井上秀雄『古代朝鮮』(講談社) ISBN:9784061596788
姜在彦『朝鮮半島史』(角川ソフィア文庫) ISBN:9784044006419
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』 ISBN:9784827331110

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学26

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 基盤教育機構 教授 承 志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究				
【授業の概要・目的】					
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点					
【教科書】					
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業前の予習を必須とする。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学27

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 基盤教育機構 教授 承 志	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究				
【授業の概要・目的】					
<p>マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。前期の3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点					
【教科書】					
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業前の予習を必須とする。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学28

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 宮宅 潔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古代制度史と出土文字史料				
【授業の概要・目的】					
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。					
【到達目標】					
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．中国簡牘史料の発見史 3．楚簡の概観 4．秦簡の概観 5．墓葬出土漢簡の概観 6．辺境出土漢簡の概観 					
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。					
【履修要件】					
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
期末のレポート(50点)に平常点(授業中の質問・発言、小テスト 50点)を加味して評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学29

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 宮宅 潔	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	法廷から眺めた中国古代				
[授業の概要・目的]					
<p>近年公表されている中国古代の出土文字史料のうち、裁判に関連する文献(睡虎地秦簡「封診式」、岳麓書院所蔵簡や張家山漢簡の裁判記録)を活用し、統一秦の頃から漢代初期に至るまでの、政治や社会の状況について講義する。まず、裁判が行われる場やその手続きについて整理し、制度の特徴や限界を明らかにする。そのうえで居住区や交易の場など、当時の地域社会の様子について紹介する。さらに秦～漢初の政治状況、たとえば統一に伴う混乱や、皇帝と諸侯王との関係などについて、いくつかトピックを取りあげて講義する。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 裁判制度について <ol style="list-style-type: none"> (1) 秦漢時代の法制史料 (2) 裁きの場 獄という場所 (3) 裁判手続きの概要とその特徴 3. 社会のありさま <ol style="list-style-type: none"> (1) 里の風景 (2) 市の風景 4. 秦～漢初の諸相 <ol style="list-style-type: none"> (1) 秦と楚 (2) 戦争と平和 (2) 逃亡者たち <p>ガイダンスの後、各単元を1～2回に分けて講義する。</p>					
[履修要件]					
<p>中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。</p>					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(50点)に平常点(50点 授業への参加態度、特に授業内での質問・発言)を加味して評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学30

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古松 崇志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国石刻史料の研究				
[授業の概要・目的]					
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料(京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む)を読み解きながら学んでいく。					
[到達目標]					
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(1回) 2. 石刻学・石刻研究史の概観(2~3回) 3. 石刻史料へのアクセス(伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど)概観(2~3回) 4. 石刻史料積読(7~9回) 5. まとめ(1回) <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹(遼)・宋・金・元(モンゴル帝国)時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影(拓本の写真)のあるものを用いるが、典籍文献(伝統的な石刻文献や地方志、文集など)のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>					
[履修要件]					
前期・後期つづけて履修することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業での発表など)50点、期末レポート50点					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

积読史料はプリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

积読する史料を指定したあとは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学31

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古松 崇志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国石刻史料の研究				
[授業の概要・目的]					
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料(京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む)を読み解きながら学んでいく。					
[到達目標]					
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。					
[授業計画と内容]					
1. ガイダンス(1回) 2. 石刻史料積読(13回) 3. まとめ(1回)					
積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹(遼)・宋・金・元(モンゴル帝国)時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影(拓本の写真)のあるものを用いるが、典籍文献(伝統的な石刻文献や地方志、文集など)のみに載せられているものも適宜取り上げる。					
[履修要件]					
前期・後期つづけて履修することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業での発表など)50点、期末レポート50点					
[教科書]					
積読史料はプリントなどを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

積読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学32

科目ナンバリング	G-LET24 76741 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	『春秋左伝正義』				
【授業の概要・目的】					
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。					
【到達目標】					
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。					
【授業計画と内容】					
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 * フィードバック方法は授業中に説明する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学33

科目ナンバリング	G-LET24 76741 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	『春秋左伝正義』				
【授業の概要・目的】					
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。					
【到達目標】					
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。					
【授業計画と内容】					
前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。 第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学34

科目ナンバリング		G-LET24 76743 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	天啓年間の政争				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では、明末の党争に関する重要な史料とされている金日升の『頌天臚筆』巻5・6に収録される「東林六君子」関係の文章を読む。「東林六君子」とは、天啓年間に朝政を掌握した宦官魏忠賢に抵抗して処刑ないし自死した人々である。政争の敗者であった彼らは崇禎年間に名誉回復される。本書を通じてその過程をみてゆく。</p>					
【到達目標】					
<p>1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、明末の政治情勢を知ることができる。 3、政争のメカニズムを知ることができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。 第1回 史料の性質について説明 第2～9回 巻5(楊漣、左光斗、袁化中) 第10～14回 巻6(魏大中、周朝瑞、顧大章) 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
テキストはこちらから配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学35

科目ナンバリング	G-LET24 76743 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『明清档案』				
[授業の概要・目的]					
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治八年(1651)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>1回 『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治年間前半の政治情勢について解説する。1コマにつき一、二本を読む予定。</p> <p>2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。</p> <p>反乱(山西、湖広、江西、浙江)、漕運、殺人、胥吏、黄河の治水、官員の挙劾など</p> <p>15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 東洋史学(演習II)(2)へ続く -----					

東洋史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学36

科目ナンバリング	G-LET24 76745 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ⅲ） Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木1	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	薛福成『庸庵海外文編』				
【授業の概要・目的】					
薛福成は清末の洋務思想家、外交官として知られる。この授業では、彼がイギリスを中心に欧州に赴任していた時期の著作を集めた『庸庵海外文編』を輪読し、清末の知識人・外交官の海外認識や洋務思想について理解する。					
【到達目標】					
清末の漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する歴史事象や史料を調査できるようにする。 清末知識人の海外認識と洋務思想について理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 薛福成とその著作について 第2回 清末文書の読解方法について（教員による読解） 第3回～第14回 『庸庵海外文編』の輪読 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
受講生の状況にあわせて進度は調整するが、毎回2葉程度の予習は必要となる。関連する歴史事象や文献の調査も行うこと。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学37

科目ナンバリング	G-LET24 76745 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	薛福成『庸庵海外文編』				
【授業の概要・目的】					
清末の洋務思想家・外交官として知られる薛福成の『庸庵海外文編』を輪読し、あわせて郭嵩燾など他の清末知識人の思想との比較を行い、薛福成の洋務思想の位置づけ、変法思想との関係などを検討する。					
【到達目標】					
清末の漢文史料の正確な読解能力を身につけるとともに、関連する歴史事象や文献を調査できるようになる。薛福成の洋務思想を他の清末知識人の思想と比較し、薛の洋務思想の特徴を理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 清末の洋務・変法思想について 第2回 清末の漢文史料の読解について(教員による読解) 第3回-第14回 『庸庵海外文編』の輪読、関連文献との比較 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
受講生の状況にあわせて進度は調整するが、毎回2葉程度の予習は必要。関連する歴史事象や文献の調査なども行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学38

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古代史史料学				
【授業の概要・目的】					
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。					
【到達目標】					
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。					
【授業計画と内容】					
<p>昨年度の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。</p> <p>第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
講義資料は担当者が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学39

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古代史史料学				
【授業の概要・目的】					
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。					
【到達目標】					
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。					
【授業計画と内容】					
前期の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。 第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
講義資料は担当者が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学40

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	『清史鏡鑑』				
[授業の概要・目的]					
<p>21世紀にはじまった中国の清史編纂事業の副産物である『清史鏡鑑』を選読し、討論する。本シリーズは、この事業に関係する研究者たちの短文を集めて2006年に編集が開始された『清史参考』をもとに、一般向けに出版したもので、現在まで13冊が刊行されている。「真実の歴史をもって青年・大衆を教育することを目的とする」本シリーズを概観することで、現在の中国における公式的な清朝史観を把握することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>1、中国の清史研究の現況を把握できる。 2、歴史研究のアクチュアリティについて考察を深めることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1、国家清史編纂事業について 2、馬大正「清朝の辺境政策の現代への啓示」 3、「新修『清史』台湾関係人物伝稿」鄭成功、施琅、劉銘伝、丘逢甲 4、趙晨嶺「台湾版『清史』の得失」「趙爾巽の『清史稿』への貢献と限界」 「台湾“国史館”と“新清史”」 5、李文海「辛亥革命百年の歴史観」「清朝滅亡百周年随想」 6、楊東梁「日本の釣魚島占領」「清代の中国と琉球」 7、戴逸「中日甲午戦争と世界史」王曉秋「甲午戦争と中華民族の覚醒」 8、秦暉「太平天国：伝統的な民変の特殊標本」 9、王汎森「清末の歴史記憶と国家の構築」 10、周永平「新疆統治の経験」 11、張世明「八旗衰退の原因」 12、楊益茂「満洲人の漢化」 13、劉鳳雲「“新清史”“内陸アジア”研究の視角について」 14、楊念群「漢化論と満洲特性論をこえて」 15、フィードバック</p>					
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----					

東洋史学（演習）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当者は、その授業で取り上げる著者の履歴や著作をリストアップしたレジюмеを作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

書講師がコピーを提供します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学41

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	外国語論文のレビュー				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、受講者が自らの関心にしたがって外国語（受講者にとっての外国語。英語でも、中国語でも、他の言語でもよい）の論文を選んで、その内容を紹介するとともに、その論文の学界における位置づけを参加者（講師も含む）にわかりやすいように行う。</p> <p>かつては、言語ごとに論文のスタイルはずいぶん異なっていた。現在でも、日本語、中国語、英語それぞれ特有の「癖」は存在するが、英語論文の影響により、かなり平準化してきている。外国語論文を読むことで、ある種のスタンダードを知るとともに、その問題点を個々の受講者が感じ取るようになれば、この授業の目的は達成される。</p>					
【到達目標】					
<p>1、外国語論文の「癖」を知ること、自国語論文のスタイルについて再考することができる。</p> <p>2、日本では数少ない「論文のレビュー」（『史学雑誌』の「回顧と展望」は、単なる紹介に過ぎない）を授業の場で公表し、それに対する疑義を受け止めるなかで、自分なりの評価の型を作ることができる。</p> <p>3、査読者の立場に身を置くことで、投稿者としての自己を振り返ることができる（ちなみに、査読付きの論文だからといって、これ以上の査読を必要としないほどに完成しているわけではない）。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>1回 全体の趣旨説明</p> <p>2～14回 受講者が1回分を担当する。時間の半分を論文の紹介、評にあて、残り半分の時間で、出席者全員による質疑応答を行う。受講者の数が少ない場合には、適宜受講者自身の研究発表の場を設ける。</p> <p>15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による評価を行う。					
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----					

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当論文を口頭で紹介する際に、補助材料としてレジュメを作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

参加者は少ないことが予想されるので、他専修からの参加も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学42

科目ナンバリング	G-LET24 7M303 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『外交報』と関連史料の精読				
【授業の概要・目的】					
『外交報』は、日本の『外交時報』にならい、1902年に張元済らによって創刊された外交・国際問題の評論誌であり、日本をはじめ海外の外交・国際関係に関する論説、報道も多数翻訳されている。この授業では、『外交報』から巖復らの論説や海外の論説・報道の翻訳記事などを選んで精読する。海外の論説・報道の翻訳記事については、もとの文献と比較し、近代的概念の翻訳状況や語彙の変化についても考察する。後半は受講生が自らの関心によって文章を選択し、関連文献とあわせて読解を担当する。					
【到達目標】					
20世紀初めの漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する文献を調査する方法を理解する。翻訳記事をもとの文献と照らしあわせて精読することで、近代中国における近代的概念の翻訳状況や清末知識人の認識、語彙の変化などについても理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス：史料の説明や担当について 第2回-第9回 『外交報』の中から重要な文章を選んで輪読（翻訳記事についてはもとの文献もあわせて読む） 第10回-第14回 受講生が選んだ記事を担当して読解（関連文献もあわせて読む） 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前半は輪読のため、毎回の予習が必要。後半は自分の担当会にはレジュメを作成すること。関連文献の調査も必要となる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学43

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『外交報』と関連史料の精読				
【授業の概要・目的】					
『外交報』は、日本の『外交時報』にならい、1902年に張元済らによって創刊された外交・国際問題の評論誌であり、日本をはじめ海外の外交・国際関係に関する論説、報道も多数翻訳されている。この授業では、前期に引き続き『外交報』から巖復らの論説や海外の論説・報道の翻訳記事などを選んで精読する。海外の論説・報道の翻訳記事については、もとの文献と比較し、近代的概念の翻訳状況や語彙の変化についても考察する。後半は受講生が自らの関心によって文章を選択し、関連文献とあわせて読解を担当する。					
【到達目標】					
20世紀初めの漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する文献を調査する方法を理解する。翻訳記事をもとの文献と照らしあわせて精読することで、近代中国における近代的概念の翻訳状況や清末知識人の認識、語彙の変化などについても理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス：史料の説明や担当について 第2回-第9回 『外交報』の中から重要な文章を選んで輪読（翻訳記事についてはもとの文献もあわせて読む） 第10回-第14回 受講生が選んだ記事を担当して読解（関連文献もあわせて読む） 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前半は輪読のため、毎回の予習が必要。後半は自分の担当会にはレジュメを作成すること。関連文献の調査も必要となる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イスラーム言語哲学史研究				
[授業の概要・目的]					
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>通常のイスラーム思想史においてほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態(なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学)がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。ここ数年は、そうした言語哲学を集中的に扱ってきた。古典期バスラ系カラム(神学)、イブン・ハズムの極端なタイプのザーヒル主義、哲学者ファーラービーの言語思想を論じたのは、そうした流れにおいてだ(言語哲学的色彩が強いイスラーム思想家としてハンバル派法学者イブン・タイミーヤ、更には、後期アシュアリー派神学も視野に入る)。昨年度講義では、ジャック・ランガド(Jacques Langhade)の『クルアーンから哲学へ』(Du coran a la philosophie)を採り上げた。ランガドは、ファーラービー(abu Nasr al-Farabi, 西暦950年歿)の言語思想に焦点を合わせていくのだが、副題(La langue arabe et la formation du vocabulaire philosophique de Farabi)が示すようにランガドは、西暦十世紀までにファーラービーの言語であるアラビア語を省察してきたアラビア語=イスラーム文化の言語思想を網羅的に調べ、ファーラービーが如何にその言語思想の歴史を己れの哲学言語形成に組み込んだかを丹念に追う。その研究は、ファーラービーの哲学的思惟に新たな光を当てるだけでなく、元来、外来思想とのみ目されてきた哲学(ファルサファ)の持つ重要な、だがイスラーム思想史記述からはすっぽりと抜け落ちる局面を浮彫にする。</p> <p>本講義は、ガザーリー(西暦1111年歿)以降後期アシュアリー学団神学の動向を決定づけた最重要人物ファフルッディーン・アッ=ラーズィー(西暦1209年歿)である。アシュアリー学団の神学の転換点にあるファフルッディーン・アッ=ラーズィー(西暦一二〇九年歿)の思想を採り挙げる。私が最も信頼する研究者Roger Arnaldezの研究書(Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe)の内容を追うことでファフルッディーン・アッ=ラーズィーの思想を探る端緒としたい。</p> <p>ファフルッディーン・アッ=ラーズィーは、哲学者イブン・スィーナ(西暦1037年歿)の『指示と勧告』(al-Isharat wal-tanbihat)に批判的註を施したことで知られるが、更に言えば、神学者で初めてイブン・スィーナの著作に附註したばかりでなく、或る意味で、西暦12世紀ないし13世紀から始まる(少なくとも20世紀初めまで続く)イスラーム思想界における注疏伝統の発端となる人物である。イスラーム思想界における注疏伝統の一つの局面は、伝統的神学(カラム)と哲学、更には神秘主義が独特なし方で統合されることだ。ファフルッディーン・アッ=ラーズィーにおいてその局面がどのように立ち現れるのかを観ることは、イスラーム後期思想を考察し探究するために必須だと思われる。そしてその局面がファフルッディーン・アッ=ラーズィーではイスラームにとって欠かすことのできないクルアーン注釈の形式の下で現れる。それと共に、こうした後期神学の開拓者の一人であるファフルッディーン・アッ=ラーズィーにおいて、古典期神学の言語哲学とファルサファに見えた言語哲学が如何なるし方で統合されるのか、更には、その統合される場をラーズィーがどのように設定するのかに注視したい。</p> <p>講義は、Roger Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, J. Vrin, 2002の章立てに沿って行なう。第1回講義で必要最小限概説したのち、第2回から第4回にファフルッディーン・アッ=ラーズィーの文化的思想的環境を、第5回から第7回に、文献から知られるファフルッディーン・アッ=ラーズィーが行った論争の実態を追う。第8回から第12回までは、ファフルッディーン</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

ン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註を題材に、法学問題群・神学問題群・神秘主義問題群・哲学問題群を彼が如何に把握するのかを問う。第13回から第15回は、ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学著作二篇を概観する。

西暦12世紀以降のイスラーム思想では、これまでに為されてきた学問的営為の総合／統合が標榜される。それは、イスラーム思想史において重要な局面であるとともに800年以上続く精練の途でもある。その発端となるファフルッディーン・アッ＝ラーズィーは、その重要性をいくら主張してもしすぎることはない。

和訳並びに必要な箇所を配布するので、事前に読んで講義に備えてほしい。

[到達目標]

本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語／アラビア語」を研究対象とする者は、限られた思想家だけでない。或る意味でクルアーンにおいてそうした傾向が既に見えるし、主要な思想家たちがほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想／言語哲学であることを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来のイスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。

イスラーム思想は、西暦11世紀・12世紀に転換点をもつ。取り分けて本講義では、初期イスラーム思想と後期イスラーム思想の転換点であるファフルッディーン・アッ＝ラーズィーを採り挙げる。初期イスラーム思想と後期イスラーム思想がどの点で違うのかを明確に説明できるようになる。その転換点に立つファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの思想を少なくとも大掴みにすることができるようになる。

[授業計画と内容]

基本的にR・アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』の章立てに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい 鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に日本語訳を配布するので出来る限り眼を通しておいていただきたい。

- | | | | |
|------|---------------------------------|--|--|
| 第1回 | 概説 | アシュアリー学団，西暦12世紀以降の神学、そしてファフルッディーン・アッ＝ラーズィーについて | |
| 第2回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが受け継ぐ文化的遺産(1) | | 文法学と法学 |
| 第3回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが受け継ぐ文化的遺産(2) | | 神学諸学派 |
| 第4回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが受け継ぐ文化的遺産(3) | | 神秘家たちと哲学者たち(ファーラービー，ミスカウィフ，イブン・スィーナ，イスマーイル派の思想家たち) |
| 第5回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの論争(1) | | 法学基礎論をめぐる問題群 |
| 第6回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの論争(2) | | 実定法をめぐる問題群 |
| 第7回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの論争(3) | | 神学的問題 |
| 第8回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(1) | | クルアーンとは何か |
| 第9回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(2) | | 文献学的註と法学的註 |
| 第10回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(3) | | 宗教的・道徳的命令と神学的問題(神の属性群，人間の自由の問題等) |
| 第11回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(4) | | 神秘主義への開き |
| 第12回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(5) | | 科学と哲学 |
| 第13回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学思想(1) | | 『東方探究』(al-Mabahith al-Mashriqiyya) 1 |
| 第14回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学思想(2) | | 『東方探究』(al-Mabahith al-Mashriqiyya) 2 |
| 第15回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学思想(3) | | 『イブン・スィーナ「指示と勧告」註』 |

西南アジア史学(特殊講義)(3)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用テキストは、R. Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, Paris: V. Vrin, 2002.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学45

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East				
【授業の概要・目的】					
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものに見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料を参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係性について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソンゴ(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学46

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の成立とオスマン朝の「古典期」統治体制の成立と変容 Reserch of the Ottoman Empire I: Its Origin and Ruling System in the "Classical Period"				
【授業の概要・目的】					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に15-17世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語(アラビア文字表記トルコ語)の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。実際の史料を読み解くために、トルコ語およびオスマン語の文法事項も解説する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 15-17th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. The lecturer also explains Turkish and Ottoman Turkish grammar to read and understand the historical documents.</p>					
【到達目標】					
<p>前近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the pre-modern Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1週：ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の成立および「古典期」統治体制の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~9週：トルコ語・オスマン語文法解説 第10~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the Ottoman Empire and its administration system weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-9: Turkiush and Ottoman Turkish grammar. weeks 10-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials week 15: Feedback and discussion</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50％）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50％）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

野田納嘉子 『改訂版 ゼロから話せるトルコ語』（三修社,2014）ISBN:978-4-384-04587-1

岩本佳子 『帝国と遊牧民：近世オスマン朝の視座より』（京都大学学術出版会,2019）ISBN:9784814001828

教科書やレジュメ類は講師から受講生に配布する。受講生は事前に教科書を用意する必要はない。

Reading Texts and Handouts will be shared through the Internet Cloud System. Course instructor prepares the reading materials or textbook in the first week; thus, students do not need to prepare the textbook in advance.

【授業外学修（予習・復習）等】

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学47

科目ナンバリング	G-LET25 66831 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 帯谷 知可		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相				
[授業の概要・目的]					
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。					
[到達目標]					
中央アジアの近現代(ロシア帝政支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで)の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。					
[授業計画と内容]					
以下の予定に従って、講義を行う。					
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要(第1-2週) * 民族史の記述(第3-4週) * ペレストロイカと歴史の見直し(第5-7週) * 中央アジア諸国の独立後の新しいナショナリズムと歴史研究(第8-9週) * 評価の逆転(ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動)(第10-12週) * 新しい正史(第13-14週) * まとめ(第15週) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
宇山智彦(編著)『中央アジアを知るための60章』(明石書店)ISBN:978-4-7503-3137-9(中央アジア研究の入門書)					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』(東京大学出版会) ISBN:4-13-025027-2
(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)
宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』
(国立民族学博物館地域研究企画交流センター)(ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)
帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・
臼杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』(東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)
帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。
連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	東京大学東洋文化研究所 教授 森本 一夫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	預言者ムハンマド一族から見るイスラーム史				
[授業の概要・目的]					
<p>世界には、イスラーム教の創始者ムハンマドの一族とされる人々が多数存在している。彼らの中心をなすのは、ムハンマドの一族であるだけでなく、スンナ派にとっての第4代正統カリフにしてシーア派にとっての初代イマームであるアリー一族を称す人々である。この集中講義では、このムハンマド一族に関わる歴史上のいくつかのトピックを扱うなかで、彼ら自身についてのみならず、イスラーム史の全体的な展開や、さまざまな時代や地域のイスラーム教・ムスリム諸社会のあり方についても理解を深める。このテーマは、「社会における聖なる血統」を扱うものとも言える。その意味では、ムスリム諸社会をこえた人間社会一般に対する洞察が得られるような内容にできればとも考えている。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史の展開を、ムハンマド一族という独自の視点から理解する。 ・ムハンマド一族の聖なる血統をムスリム諸社会がどのように扱い、内包してきたのか、制度と言説のあり方を理解する。 ・スンナ派とシーア派というイスラーム教の二大宗派の共通点や相違点について、ムハンマド一族という視点から理解を深める(あるいは、初めて理解する)。 ・ムハンマド一族をめぐる歴史書、宗教書、系譜書といったさまざまな文献の事例を知ることを通じて、テキスト生成の背景にある社会的契機を考える眼力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画にしたがって進めるが、受講者の理解や授業の進み具合に応じて手直しをする可能性がある。</p> <p>第1回：導入(I) ムハンマド一族とは誰か 第2回：導入(II) イスラーム史研究・イスラーム研究とムハンマド一族 第3回：いできたり(I) ムハンマドとその近親者たち 第4回：いできたり(II) 共同体の指導者位をめぐる争いと「ムハンマド一族」 第5回：いできたり(III) 特別扱いの制度化とムハンマド一族の拡散 第6回：「サイド」と「シャリーフ」の時代の到来 第7回：地域別ケース・スタディ(I) モロッコ・インドネシアの事例 第8回：地域別ケース・スタディ(II) 中東地域からの事例 第9回：言説の構築(I) 何が違うのか、どうして大事にせねばならぬのか？ 第10回：言説の構築(II) どのように対さねばならぬのか？ 第11回：言説の構築(III) スンナ派・シーア派という二分法との関係 第12回：ほんものにとせもの(I) 系譜記録・系譜学の世界</p>					
西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

第13回：ほんものとしもの(Ⅱ) 世論の力とその形成要因

第14回：ほんものとしもの(Ⅲ) イスラーム法の態度

第15回：まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより評価する予定である。ただし、4月下旬の履修者確定時点で履修者が10名以下であることが判明した場合には、平常点(授業への能動的参加)50%とレポート50%の組み合わせとする。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

森本一夫『聖なる一族』(山川出版社, 2010年) ISBN:978-4634474642

森本一夫『アリー』(山川出版社, 2024年予定) ISBN:Not yet fixed (世界史リブレット人シリーズ。4月後半刊行予定)

【授業外学修(予習・復習)等】

あらかじめ参考書『聖なる一族』を読んでおけば、より能動的に講義内容にコミットできるであろう(が必須ではない)。なお、事前にKLASISを通じて課題を課す可能性がある(履修者数に大きく左右されるのでシラバス記入時には決定不可)。

(その他(オフィスアワー等))

・授業中の質問を歓迎し、メールによる質問を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学49

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の転換と近代化 Reserch of the Ottoman Empire II: Its Transformation and Modernization				
【授業の概要・目的】					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に18 - 20世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語(アラビア文字表記トルコ語)の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。また、卒業論文や修士論文執筆を目指す受講生などから希望があれば、適宜、オスマン語文献を講読する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 18-20th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. In this lecture, Ottoman literature will be lectured on request by students who wish to write their graduation thesis or master's thesis, as appropriate.</p>					
【到達目標】					
<p>近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。 また、史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができるようになる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will: (1) understand the feature of the ruling systems of the modern Ottoman Empire, as well as their origin and transformation. (2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の近代化の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じた近代オスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the modern Ottoman Empire weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials Week 15: Feedback and Discussion</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学50

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic				
【授業の概要・目的】					
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。授業参加者の希望を聞いての講読箇所を選定。</p> <p>第2回~第14回 初回授業で選定した箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Mulukの講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work</p>					
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習II)(2)

Weeks 2-14: Reading the chapter of the Suluk al-Muluk we will select in the 1st week.

Week 15: Feedback and Discussion

Weeks 16-29: Reading the chapter of the Suluk al-Muluk

Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない

PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学51

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の遊牧民と国家 Reserch of the nomadic people in the Ottoman Empire				
[授業の概要・目的]					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」に焦点をあてて、オスマン朝における遊牧民と国家の関係を、近年の新たな研究動向を参考にしつつ、オスマン語(アラビア文字表記トルコ語)で書かれた行財政文書など実際の史料を取り上げて考察する。また、卒業論文や修士論文執筆を目指す受講生などから希望があれば、適宜、オスマン語文献を講読する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines nomadic people in the Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. In this lecture, Ottoman literature will be lectured on request by students who wish to write their graduation thesis or master's thesis, as appropriate.</p>					
[到達目標]					
<p>オスマン朝の遊牧民支配のシステムの持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前期</p> <p>第1週：前期ガイダンス</p> <p>第2~第4週：オスマン朝およびオスマン朝の遊牧民統治システムの概説</p> <p>第5~第6週：研究史料の解説</p> <p>第7~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第15週：まとめ</p> <p>後期</p> <p>第16週：後期ガイダンス</p> <p>第17~第20週：研究史料の解説</p> <p>第21~29週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第30週：まとめ</p> <p>Spring Term</p> <p>week 1: Guidance</p> <p>weeks 2-4: Outline of the nomadic people in the pre-modern Ottoman Empire</p> <p>weeks 5-6: Introducing historical materials.</p> <p>weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials</p>					
西南アジア史学(演習II) (2)へ続く					

西南アジア史学(演習II) (2)

week 15: Feedback and discussion

Autumn Term

week 16: Guidance

weeks 17- 20 : Outline of the nomadic people in the modern Ottoman Empire

weeks 21-29: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials

week 30: Feedback and discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

i以下の史料を講読する可能性が高い。

・ Evliya Celebi, Seyhatname. (Evliya Celebi Seyahatnamesi. Evliya Celebi b. Dervisa Mehemed Zili, Seyit Ali Kahraman et al. (eds.) Istanbul: Yapi Kredi Yayinlari, 2011.)

・ Muhimme defteri no.3 (3 numarali muhimme defteri, 966-968/1558-1560. Istanbul: T.C. Basbakanlik Devlet Arsivleri Genel Mudurlugu, 1993.)

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

This class will read the above-mentioned historical materials, but these are changeable.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

適宜、研究書、論文、オスマン語行財政文書（ラテン文字転写含）を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西南アジア史学(演習II) (3)へ続く

西南アジア史学(演習II) (3)

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学52

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の代表的な歴史家の一人である Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>					
[到達目標]					
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>					
[履修要件]					
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準：アラビア語文を適切に音読し文法に即して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>					
[教科書]					
講読教材および関連資料は配布する。					
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学53

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習				
【授業の概要・目的】					
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>					
【到達目標】					
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>					
【履修要件】					
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>					
【教科書】					
講読教材および関連資料は配布する。					
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学54

科目ナンバリング	G-LET25 76850 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代トルコ語文法・講読				
[授業の概要・目的]					
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語(オスマン語)文献の講読をおこなう。					
[到達目標]					
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。					
[授業計画と内容]					
第1回 インTRODクシヨン 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞(1) 第5回 格接尾辞(2)、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞(分詞、連体形) 第13回 副動詞ほか *以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学55

科目ナンバリング		G-LET25 76851 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 中西 竜也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語講読 Reading Persian historical text				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、Fakhr al-Din `Ali b. Husayn Wa`iz Kashifiがペルシア語で著した、スーフィズムの一派、ナクシュバンディー派の聖者伝、Rashahat `ayn al-hayat(1503-4年完成)を読む。とくにKhwaja Ahrar (1490年没)について書かれた箇所などを読み、ティムール朝末期の中央アジアにおける宗教文化を考察する。</p> <p>In this course, we read some parts of Rashahat `ayn al-hayat, a Persian hagiography of Naqshbandiyya, compiled by Fakhr al-din Ali b. Husain al-Wa'iz Kashifi in 1503-4. Particularly, we read some parts of the work where the author describes regarding Sufis including Khwaja Ahrar (d.1490). Thus, we aim to explore the religious cultures in Central Asia during the late Timurid period.</p>					
【到達目標】					
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品の説明 第2回~第14回 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Rashahat `ayn al-hayat. Weeks 2-14: Reading some parts of Rashahat `ayn al-hayat. Week 15: Feedback and Discussion</p>					
【履修要件】					
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>					
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

予習の成果と講読への取組を基準として、平常点により評価する。

Preparation for reading and participation in discussion

[教科書]

使用しない

必要な資料はPANDAで配布。

The texts and other materials will be shared through Panda.

[参考書等]

(参考書)

Beatrice Forbes Manz 『Power, Politics and Religion in Timurid Iran』 (Cambridge University Press, 2007)

Itzhak Weismann 『The Naqshbandiyya: Orthodoxy and Activism in a Worldwide Sufi Tradition』 (Routledge, 2007)

川本正知 『15世紀中央アジアの聖者伝 ホージャ・アフラルのマカーマート』 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2005年)

その他、授業中にも適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学56

科目ナンバリング	G-LET25 76851 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語講読 Reading Persian historical text				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、ミールホンド(1498年没)が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、ティムールによるシリア攻撃(1400-01年)を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course record the events which occurred during Timur's campaign toward Syria (1400-01). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>					
[到達目標]					
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、1400年から翌年にかけてのシリア攻撃に関する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning Timur's campaign toward Syria in 1400-01. Week 15: Feedback and Discussion</p>					
[履修要件]					
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>					
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。

Participation in class and preparation for reading

[教科書]

使用しない
必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学57

科目ナンバリング		G-LET49 89608 LJ48			
授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）（語学） Iranian	担当者所属・ 職名・氏名	京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	イラン語（初級）				
[授業の概要・目的]					
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。					
[到達目標]					
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。					
[授業計画と内容]					
（前期）					
第1回 イントロダクション、文字					
第2回 発音と表記の注意点					
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞					
第4回 形容詞、エザーフエ、人称代名詞					
第5回 過去形、前置詞					
第6回 現在形、複合動詞					
第7回 現在形、未来形、副詞					
第8回 現在完了形、命令形					
第9回 仮説法、助動詞					
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態					
第11回 接続詞					
第12回 関係詞、祈願文、副詞					
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他					
第14回 数詞					
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について					
（後期）					
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）					
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）					
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）					
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）					
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。					
後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。					
原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。					
イラン語（初級）（語学）(2)へ続く					

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジюмеを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーを事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、第1回授業で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 安平 弦司	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世オランダにおける宗派共存とカトリックのサバイバル				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教改革後のヨーロッパを生き延びた人々にとって宗派共存は大きな課題・試練であった。なぜなら、当時のヨーロッパで宗教的多様性は、一般的に公的秩序や政治=社会的安定への脅威として認識されていたからである。そうした近世ヨーロッパの中であって、改革派(カルヴァン派)を唯一の公的教会とするオランダ共和国は、宗派共存が機能していた社会として知られ、ときに「寛容の楽園」とも称される。他方、オランダ共和国においてカトリックは潜在的な国家反逆者の烙印を押され、公的領域における多くの権利を剥奪されていた。本講義は、近世オランダの宗派共存を、従来の研究で主に用いられてきた改革派の統治戦略の視角のみならず、カトリックの生存戦術の視角からも捉えなおす。そうすることで、現代世界の喫緊の課題でもある共存や寛容といった問題を、政治=宗教的マジョリティと政治=宗教的マイノリティ双方の視点から歴史的・多角的に理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパ、特にオランダ共和国における宗派共存を、政治=宗教的マジョリティの統治戦略と政治=宗教的マイノリティの生存戦術という2つの視点から考察できるようになる。 ・共存や寛容といった通時代的問題を近世ヨーロッパ史、中でも近世オランダ史を通じて考察できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：近世オランダの宗派共存とカトリックのサバイバルについて学ぶ意義 2. オランダ共和国の宗教的状況概観 3. 改革派の統治戦略：迫害(1) 4. 改革派の統治戦略：迫害(2) 5. 改革派の統治戦略：寛容(1) 6. 改革派の統治戦略：寛容(2) 7. カトリックの生存戦術：社会的地位とネットワーク(1) 8. カトリックの生存戦術：社会的地位とネットワーク(2) 9. カトリックの生存戦術：空間実践(1) 10. カトリックの生存戦術：空間実践(2) 11. カトリックの生存戦術：空間実践(3) 12. カトリックの生存戦術：自己表象言説(1) 13. カトリックの生存戦術：自己表象言説(2) 14. カトリックの生存戦術：自己表象言説(3) 15. まとめとフィードバック <p>なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 安平 弦司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世オランダにおけるカトリックとジャンセニスム論争2				
[授業の概要・目的]					
<p>近世のオランダ共和国は、改革派(カルヴァン派)を唯一の公的教会とするプロテスタント国家であり、かつ多宗派共存社会でもあった。オランダのカトリック共同体は、差別的待遇を受けながらも17世紀の過程で再建されていったが、ジャンセニスム論争を経て、1723年にユトレヒト教会分裂を経験した。ジャンセニスムとは、近世カトリック教会内部で異端視された思想である。教会分裂により、オランダのカトリック共同体は、ローマ教皇に認可されるもプロテスタントのオランダ政府には否認されたローマ・カトリックと、教皇に否認されるもオランダ政府には認可された古カトリック(ジャンセニスト)に分裂し、両者の分断は現在も続いている。本講義では、ジャンセニスム論争を通じて、17・18世紀のオランダ共和国のカトリック共同体の復興と内部分裂を考察する。そうすることで、宗教改革後の近世ヨーロッパにおける複数宗派の共存・競合という問題を多角的に理解することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパにおける宗教的多様性を、プロテスタント国家オランダにおけるカトリック共同体の復興と内部分裂を通じて考察できるようになる。 ・宗教問題、特にカトリックとジャンセニスム論争を通じて近世ヨーロッパを理解するための視座を得る。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：近世オランダのカトリックについて学ぶ意義 2. 古代・中世のキリスト教と低地地方 3. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革(1) 4. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革(2) 5. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革(1) 6. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革(2) 7. ジャンセニスム論争の教会史(1) 8. ジャンセニスム論争の教会史(2) 9. ジャンセニスム論争の政治文化史(1) 10. ジャンセニスム論争の政治文化史(2) 11. ジャンセニスム論争の社会経済史(1) 12. ジャンセニスム論争の社会経済史(2) 13. ジャンセニスム論争の宗教文化史(1) 14. ジャンセニスム論争の宗教文化史(2) 15. まとめとフィードバック 					
<p>なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学60

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	甲南大学 文学部 教授 函師 宣忠	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西欧中世における紛争と裁判				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、中世ヨーロッパの紛争や裁判に関するトピックを取り上げ、史料のあり方に着目しながら「メディアとコミュニケーション」という観点から具体的に検討していく。過去のヨーロッパ社会を生き残った人々は、争いや諍いにどのように対応していたのか。あるいはいかに裁かれたのか。法と裁判のあり方(ひいては紛争と紛争解決のあり方)は、その時代の社会の構造や人々の価値観を映し出す。紛争の記録や裁判記録など関連する史料を読み解きながら、当時の社会について理解を深めたい。また現代の日本社会との比較を通じて、私たちが当たり前に取り扱っている現代社会のありようを見つめ直すきっかけをもちたい。</p>					
[到達目標]					
<p>歴史的な知識の習得：中世ヨーロッパ社会の歴史過程について基本的な知識を習得する。 歴史学的なまなざしの獲得：歴史的な史料の性質を踏まえて、そこから読み取れる内容について判断できるようになるとともに、歴史を学ぶ意味について考えを深める。 法的思考の涵養：法の根本的な価値や考え方を理解し、社会的判断力を培う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン：中世とは何か？ 第2回 中世における記憶と記録 第3回 紛争のなかのヨーロッパ中世 第4回 紛争と紛争解決1：神判・宣誓・決闘裁判 第5回 紛争と紛争解決2：フェーデと神の平和 第6回 ローマ法とカノン法 第7回 中世におけるキリスト教と異端 第8回 異端審問と権力1：異端審問とは何か？ 第9回 異端審問と権力2：審問記録の作成・保管・利用 第10回 ジャンヌ・ダルク裁判1：ジャンヌ・ダルクとその時代 第11回 ジャンヌ・ダルク裁判2：審問記録を読む 第12回 都市裁判と刑罰：中世都市における暴力 第13回 近世への展望1：国王裁判と恩赦嘆願 第14回 近世への展望2：魔女裁判と拷問による自白 第15回 まとめ：中世史とは何か？</p>					
<p>授業計画は一部変更になる可能性がある。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の小レポート（30点）

期末レポート（70点）

（授業中の小レポートでは、授業内容の理解度を確認する。期末レポートでは、独自の問いを立てて適切な論理展開のもとでレポート作成ができているかを見る。）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

ジョン・アーノルド（図師宣忠、赤江雄一訳）『中世史とは何か』（岩波書店、2022年）ISBN: 9784000615778

服部良久・山辺規子・南川高志編『大学で学ぶ西洋史 古代・中世』（ミネルヴァ書房、2006年）ISBN:9784623045921

その他、各回の講義内容に関連する文献については授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：関連文献を読み、授業内容へのイメージをつかむ。

復習：授業内容について批判的に振り返りを行う。

（その他（オフィスアワー等））

授業後に質問を受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学61

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学文学部 教授 坂本 優一郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	証券投資と近現代イギリス社会				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では「投資と貯蓄」が近現代社会に与えた影響を歴史学の立場から評価することを目的とする。</p> <p>「投資と貯蓄」というテーマは、これまでおもに経済学ないし経済史学の領域にて経済学の視点からアプローチされることがほとんどであった。この講義ではこうした「投資と貯蓄」という対象を社会史や文化史の視座からとらえなおしてみたい。そこでは「投資と貯蓄」の主体の実像が明らかにされつつ、公債や株式への投資が19世紀以降の近現代社会にいかなる衝撃を与えたのか、また、現在のわれわれの生きる社会の基盤をいかに構成してきたのかといった諸点について、長期的な把握を試みることになるであろう。</p> <p>具体的な検討対象として取り上げられるのは、19世紀から20世紀にかけての近現代イギリスの経験である。19世紀イギリスにおける近代社会の成長、同世紀後半からの第一次グローバル化の到来と帝国の拡大、二度の大戦とその狭間の戦間期、戦後の福祉国家の生成、1970年代以降のネオ・リベリズムの到来と第二次グローバル化といった教科書上の主要な動きについて、「投資と貯蓄」の主体となる人びとの存在を可視化して問い直すと、それぞれどのような像として現れうるだろうか。そして、それが現在の社会のありかたとどう関係するのであろうか。こうした問題群を受講生の皆さんと共に考えていきたい。</p>					
[到達目標]					
近現代イギリスの歴史的な歩みを金融という側面から説明できるようになる。同時に二度のグローバル化という現象を歴史学的な視点から論じることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進行状況や受講生の理解に応じて、テーマを扱う順序や取り上げる回数を変更する場合がある。</p> <p>第1回：ガイダンスと金融史および近現代イギリス史の基本事項確認</p> <p>「投資社会」の勃興【第2～4週】</p> <p>第2回：「投資社会」の起源（～17世紀）</p> <p>第3回：「投資社会」の勃興（18世紀）</p> <p>第4回：「投資社会」の勃興（18世紀）</p> <p>ヴィクトリア朝の証券投資【第5～8週】</p> <p>第5回：「コンソル公債」とは何だろうか。</p> <p>第6回：文学と証券投資</p> <p>第7回：女性投資家の諸相</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

第8回：帝国の拡大と証券投資

福祉国家とグローバル化【第9～14週】

第9回：二度の世界大戦と戦債

第10回：総力戦体制と貯蓄運動

第11回：社会民主主義はどう向き合ったのか 福祉国家と証券投資 1

第12回：ロンドン・シティの変容と機関投資家の登場 福祉国家と証券投資 2

第13回：大衆社会と「投資と貯蓄」 サッチャリズムの歴史的前提

第14回：グローバル化と「ソブリン・ウェルス・ファンド」の世界

期末レポート

第15回：フィードバック

【履修要件】

17世紀末から20世紀にいたるイギリス史の基本的な事項を確認しておくことが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

コメントペーパー（40％）、期末レポート（60％）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

坂本優一郎 『投資社会の勃興：財政金融革命の波及とイギリス』（名古屋大学出版会、2015年）

山室信一他編 『現代の起点 第一次世界大戦 2 総力戦』（岩波書店、2014年）

【授業外学修（予習・復習）等】

社会史の対象として金融を扱うため過度に経済学的な議論には深入りしないが、場合によっては操作概念の都度の確認や歴史的な文脈の確認が必要となる。そのため、授業前、授業後に、事典などを用いた概念や用語の確認作業、概説書などを用いた基本的な歴史上の流れなどを、自主的に進める姿勢が必要となる。

（その他（オフィスアワー等））

授業前・授業後の時間的な制約が大きいため、質問などはメールでも受け付ける。メールアドレスは初回授業で案内する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学62

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
【授業の概要・目的】					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前年度に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。					
【到達目標】					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
【授業計画と内容】					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
プリントを配布。					
【参考書等】					
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999))					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学63

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』(およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』, 『カエリウス弁護演説』)を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストと注釈を読み，予習と復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学64

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア帝国末期のジョージア				
[授業の概要・目的]					
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下の南コーカサス史を、ジョージア中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やジョージア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。南コーカサスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出した。一方、「治安の悪さで悪名高い」南コーカサスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とジョージア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>					
[到達目標]					
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリムのジョージア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学65

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	第一次世界大戦期の南コーカサス				
[授業の概要・目的]					
<p>南コーカサスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージアの社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南コーカサスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>					
[到達目標]					
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>					
[教科書]					
<p>プリントを配布する。</p>					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学66

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都女子大学発達教育学部 教授 田崎 直美	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	第二次世界大戦期のフランス：音楽文化史の視点より				
[授業の概要・目的]					
第二次世界大戦期に4年間(1940-44年)ナチス・ドイツに占領されたパリでは、実のところ戦前以上に、多彩で活発な音楽活動が展開していた。ここでは音楽/音楽活動にどのような「力」が作用しどのような意味を纏うことになったのか、そして後世にどのような影響を及ぼしたのか。本講義では、ヴィシー政権下のフランスの音楽界を主な対象として、史料研究より明らかになった事実・事例を紹介しつつ、社会のなかで音楽と政治が直接的/間接的に影響しあう諸相について検討し、現代にも通じる文化史の意義について考えることを目的とする。					
[到達目標]					
第二次世界大戦期のフランス史を政治的・軍事的側面と(音楽)文化の側面から併せて検証することで、歴史をマクロ/ミクロ双方の視点から有機的かつ多面的に考察することができるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 導入：西洋史学と音楽学の交差するところ					
第2回 音楽と政治の関係(1)：文化政策について					
第3回 音楽と政治の関係(2)：文化装置としての音楽					
第4回 ヴィシー期フランス(1940-44)の概要					
第5回 「国民革命」と音楽(1)：プロパガンダを考える					
第6回 「国民革命」と音楽(2)：「変わらなさ」の演出、フランス音楽の促進					
第7回 「国民革命」と音楽(3)：芸術家の生活保障					
第8回 反ユダヤ主義の音楽界への影響(1)：第三共和政期からヴィシー期まで					
第9回 反ユダヤ主義の音楽界への影響(2)：ヴィシー期					
第10回 戦争捕虜と音楽					
第11回 マスメディアとしての音楽：ラジオを中心に					
第12回 音楽と政治の関係(3)：ミクロヒストリーの視点より					
第13回 ヴィシー期の音楽家たちの態度					
第14回 「集合的記憶」と音楽：解放後の音楽家たち					
第15回 総括とフィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学年末レポート(60点)、授業への参加状況(40点)

・授業の最後にも書いてもらうコメントペーパーを通して、授業の理解度をはかるとともに授業への参加状況を判断する。

・レポート評価については、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

講義資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

田崎直美 『抵抗と適応のポリトナリテ ナチス占領下のフランス音楽』(アルテスパブリッシング、2022年) ISBN:4865592482

ロバート・O・パクストン/渡辺和行・剣持久木 共訳 『ヴィシー時代のフランス 対独協力と国民革命 1940-1944』(柏書房、2004年) ISBN:476012571X

渡辺和行 『ナチス占領下のフランス 沈黙・抵抗・協力』(講談社、1994年) ISBN:4062580349

[授業外学修(予習・復習)等]

上記参考文献および授業中に紹介する文献を読み、学期末レポートに活かしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

積極的な質問やコメントを期待します。質問については、毎回のコメントペーパーで受け付けます(次回以降の授業のなかで、できる限り回答します)。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じて tazaki@kyoto-wu.ac.jp にメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学67

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中世イタリアのコミュニティ・国家・政治文化				
【授業の概要・目的】					
<p>中世イタリアでは、都市コムーネと「地域/領域国家」を舞台に高度な政治文化が繁栄した。そこでは社会の幅広い層の人々が日常の「政治」行為に関与し、現実の政治経験と政治理論の緊密な関係が見られた。近現代の政治、国家、社会と思想も、中世イタリアの歴史と切り離せない関係にあるのである。その中でも近年目覚ましい研究の進展が見られたのが、中世後期の党派(ゲルファ党とギベリン党)とシニョリーア制である。本講義では、党派とシニョリーアに関するテーマを導入し、中世後期の政治反乱とコミュニティを分析する。これにより広い意味での政治文化と幅広い層の人々の政治行為をつなぎ、中世イタリア政治史を長い歴史の中に位置づける考察を学ぶ。</p>					
【到達目標】					
<p>1. 中世イタリアの政治史、国制史、政治文化史に関する基本的事項を理解し説明することができる。</p> <p>2. 中世イタリアの政治史、国制史、政治文化史に関する専門的課題と研究状況を理解し説明することができる。</p> <p>3. 1・2をヨーロッパ史の広い文脈の中に位置づけて理解し説明することができる。</p> <p>4. 1～3について適切な参考文献や史料に基づいて、明確で論理的な文章で表現することができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イントロダクション：なぜ中世イタリア政治史を学ぶのか</p> <p>第2～3回 中世イタリア政治制度史概説：都市コムーネから地域/領域国家へ</p> <p>第4～6回 中世イタリアの政治と政治理論</p> <p>第7～9回 党派とシニョリーア再考</p> <p>第10～12回 政治反乱に見る党派とコミュニティ</p> <p>第13～14回 政治反乱に見るシニョリーアとコミュニティ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布し、随時参考文献を紹介する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学68

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦間期再考				
【授業の概要・目的】					
現代世界の起点となった第一次世界大戦は「未完の戦争」であった。いわゆる大戦間期においても、「次なる戦争」への懸念は広く共有され、実際に第一次世界大戦終結の約20年後には第二次世界大戦が到来した。この授業では、ナショナリズム、デモクラシー、帝国主義、資本主義、等、さまざまな視点から大戦間期の動向を再検討し、特にイギリスに注目しながら、二度目の世界大戦を防ぐことがなぜできなかったのかを考える。					
【到達目標】					
2つの世界大戦を連続性において把握し、その戦後世界に対する深甚な影響を理解する能力を身に着けること。					
【授業計画と内容】					
(1)第一次世界大戦の記憶(1回) (2)大戦間期 : ナショナリズム(1回) (3)大戦間期 : デモクラシー(1回) (4)大戦間期 : 帝国主義(1回) (5)大戦間期 : 資本主義(1回) (6)大戦間期 : 芸術(1回) (7)大戦間期 : 平和主義(1回) (8)大戦間期 : 開戦へ(2回) (9)第二次世界大戦概略(5回) (10)総括(1回)					
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。					
【履修要件】					
前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
学期末のレポートによって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の関心に合わせて、両世界大戦に関連する書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学69

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イギリスの第二次世界大戦経験				
【授業の概要・目的】					
前期の授業を受け、後期にはイギリスが第二次世界大戦をいかに経験したか、に焦点を合わせる。「至上の時」の神話、戦時経済、戦時メディア、核兵器、等の論点を取りあげるが、中でも、首相として大戦を指導し、戦後には歴史家として今日でも影響力の強い大戦回顧録を執筆した、ウィンストン・チャーチルに注目する。					
【到達目標】					
首相として、そして歴史家として、いわば第二次世界大戦を二度戦った人物がどのように歴史像を構築したか、理解する能力を身に着けること。					
【授業計画と内容】					
(1)チャーチル政権(2回) (2)「至上の時」(3回) (3)戦時経済(2回) (4)戦時メディア(1回) (5)チャーチル『第二次世界大戦回顧録』(4回) (6)核時代(2回) (7)総括(1回)					
【履修要件】					
前期の授業を受講していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
学期末のレポートによって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分の関心に合わせて、第二次世界大戦やイギリスに関連する書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学70

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末にレポートを課す。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学71

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学72

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 福本 薫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	造形芸術から見た古代ギリシア・ローマ世界				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、造形芸術を通して古代ギリシア・ローマ世界の変遷を概観する。古代ギリシア・ローマの造形芸術は、その後のヨーロッパ社会の文化に大きな影響を与えた。しかし、古代ギリシア・ローマの文化として、一体的に受容されることで、その変遷や差異は捨象されがちである。本講義では、古代ギリシアにおける造形芸術の始まりから、古代ローマにおけるその受容と変遷、キリスト教美術の誕生までを、代表的な美術作品を取り上げ概観することを通して、古代ギリシア・ローマ世界に生きた人々のあり様を共に探究することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>古代ギリシア・ローマ美術の代表的な作品に関する基本的な事項を理解し、またそれを自分の言葉で表現できるようになることを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>具体的には次のように進めるが、受講生の理解度などに応じて、順番や内容を変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 古代ギリシア・ローマ世界 2. エーゲ・ミュケナイ文明 《アガメムノンのマスク》 3. 東方化様式 《誕生のピトス》 4. アルカイック 《アナヴィソスのクーロス》 5. アルカイック エクセキアス作《アイアスとアキレウス》 6. エトルリア 墓壁画 7. クラシック パルテノン神殿 8. クラシック 白地レキュトスの墓辺図 9. ヘレニズム ペルガモン大祭壇彫刻 10. ローマ プリマポルタのアウグストゥス 11. ローマ ポンペイ 12. ローマ トラヤヌス記念柱 13. ローマ 属州のモザイク 14. 初期キリスト教 サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂モザイク 15. 古代ギリシア・ローマ美術の研究の今 フィードバックの方法は、授業中に説明します。 					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ 期末レポート(50点)
提示されたテーマについて、講義の内容を踏まえ、参考文献を活用したうえで、自身の考えを論理的に述べることを問う。
- ・ 平常点(50点)
毎回、講義の内容に関するミニ課題を設ける。作品を言葉にすることや、授業内容の要約など。課題は毎回授業の最初に提示し、対面授業であればその授業の最後に、オンライン授業であればPandAなどで1週間を目安に提出してもらう。それを通じて、講義の内容の理解度を確認する。なお、課題への回答に加えて、講義内容についての質問などを書いてよい。

【教科書】

毎回講義のレジュメを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・ 毎回出すミニ課題については、次回の授業の冒頭で解説を行う。授業内容を復習して理解を深め、自分なりに参考文献などを読んで知識を深める。
- ・ 関連書籍をなるべく読む。

(その他(オフィスアワー等))

講義に関する質問には、授業後に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学73

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学人文学研究科 教授 栗原 麻子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	女たちの古代ギリシア				
【授業の概要・目的】					
<p>古代ギリシアでは、民主政下であっても女性は参政権を持たなかった。同時代の戦争と外交を描くトゥキュディデス『歴史』には、個人名を伴う女性が3名しか登場しない。本講義の目的は、そのように声なき存在であった女性たちの視線から、古代ギリシア史を描きなおすことである。研究史を踏まえたうえで、女性たちひとりひとりに光を当て、女性とポリス共同体との関係性、宗教、法制度との関わり、親族ネットワーク、ジェンダー規範といった問題について論じたい。なお、資料的限界から分析は古典期のアテナイを中心とするが、他地域とヘレニズム時代についても展望する。</p>					
【到達目標】					
ジェンダー史が、どのように社会にかんする理解を修正しうるのかを、具体的な事例から理解することができる。					
【授業計画と内容】					
<p>以下のような流れで実施する。</p> <p><はじめに></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性中心のギリシア史から女たちのギリシア史へ 2. 資料的限界と本講義の方法 <p><第1部 事例></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 結婚と女の一生 4. 色男にご注意：姦通罪 5. 戦う母：女性たちの法廷闘争 6. 生家と女性 7. 祈る女・申う女・呪う女 8. 銀行家の妻 9. 女性の職業 10. 老女 <p><第2部 ポリスと女性></p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 女性市民とは何か(3回) 12. ヘレニズムへの展望 13. レポートへのフィードバック(1回)*フィードバック方法は授業中に説明 					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポート（80点） 講義内容に即した記述ができているかどうかと，到達目標の達成度とに基づき評価する。

平常点（20点） 講義中に記入するコメントシートおよび授業態度

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講義内容，配布資料について，授業前に見直しておくこと。授業中に別途指示することもありうる。

（その他（オフィスアワー等））

講義内容に関して不明な点があれば，積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学74

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド史の窓から ヨーロッパ史のもうひとつの視角				
【授業の概要・目的】					
<p>19世紀前半、ポーランドの詩人ユリウシュ・スウォヴァツキは「ヨーロッパがニンフなら/ナポリが彼女の碧い瞳/ワルシャワが心臓/.../パリが頭、ロンドンがぱりっとたった衿/ローマは僧侶の胸当て」と歌った。ポーランドから見ると、ヨーロッパ史はどのように見えるのだろうか。ポーランドの人びとは、ヨーロッパ世界のなかに、どのように自らを位置づけてきたのだろうか。そのさいに「東」と「西」の区分とその境界には、どのような意味が与えられてきたのだろうか。東に隣接するウクライナとの関係にも論及しながら、中世から近現代までの幅のなかで、ポーランド史におけるヨーロッパ認識の変遷について考察する。</p>					
【到達目標】					
<p>ヨーロッパ東部に視座をおくことによって、ヨーロッパ史の見え方がどのように変わるかを認識する。ヨーロッパの自己意識の多様で重層的な内実について理解を深めると同時に、地域アイデンティティの歴史的な構築性について考える手がかりとする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のテーマに従って、講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポーランドから見るヨーロッパ 問題への誘い(第1回) 2. 「ポーランド史」とは何か(第2・3回) 3. 中世ヨーロッパにおけるポーランドの「発見」(第4・5回) 4. サルマチア 近世ポーランドの自己認識(第6~8回) 5. 東と西のあいだで 近現代ポーランドにおけるヨーロッパ認識(第9~11回) 6. ポーランドからみるウクライナ 歴史のなかで考える(第12~14回) 7. フィードバック(第15回) 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学75

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヤン・フリゾストム・パセクの世界 17世紀のポーランド貴族の回想録から				
[授業の概要・目的]					
<p>ポーランドの17世紀は「日記・回想録の時代」とも呼ばれる。出版を想定しない手書きの記録が多数残され、書き手の多くは貴族身分の男性であった。本講義では、そのようなテキスト群のなかから、ヤン・フリゾストム・パセクJan Chryzostom Pasek (c.1636 - 1701)の回想録をとりあげ、その内容を紹介しながら、17世紀のポーランド貴族が自らの生きる世界をどのように認識し記述したか、その歴史的特質を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>近世ポーランドの貴族共和政の担い手の自己認識と世界認識の特徴を認識することをつうじて、ヨーロッパ東部の近世史についての理解を深める。併せて、エゴ・ドキュメントを史料として用いる歴史研究の可能性と制約性について考える手がかりとする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のようなテーマに従って、講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポーランド史における日記・回想録 問題への導入(第1・2回) 2. 近世ポーランドの日記・回想録(第3・4回) 3. ヤン・フリゾストム・パセクのプロフィール(第5・6回) 4. パセクの回想録を読む(第7~14回) 5. フィードバック(第15回) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。</p>					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	奈良女子大学大学院生活環境科 学系(生活環境学部)教授 林田 敏子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦とジェンダー 軍隊・記憶・セクシュアリティ				
[授業の概要・目的]					
<p>二〇世紀に起こった二度にわたる世界大戦は、銃後を広く巻き込む総力戦として多くの女性たちを動員した。前線にまで拡大した女性の戦時活動は、ときに「男の領域の侵犯」ととらえられ、様々な手段でジェンダー秩序の維持がはかられた。本講義では両大戦期のイギリスを対象に、大規模な戦時動員が引き起こした諸問題をジェンダーとセクシュアリティの観点から考察する。戦争に主体的に関わることを求められた女性たちの活動や経験を、軍隊(前線)と家庭(銃後)という二つの空間の重なりや連続性のなかに位置づけてみたい。女性に求められた戦時の役割や女性表象が果たした機能、戦時の「男らしさ」をめぐる価値観の揺らぎ、そして長い「戦後」という時空間における大戦の記憶の変遷に焦点をあてながら、女性たちの長い「戦い」を論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>総力戦となった両大戦期において、なぜ、そしていかなる形でジェンダー問題が顕在化し、どのような対処がなされたのかを、現代社会とのつながりのなかで理解する。大戦とジェンダー研究の複数の論点への理解を深めることで、汎用性のあるアプローチ方法を獲得し、それを自らの問題関心にひきつけて、新たな研究の可能性を探ることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の授業計画に沿って進めるが、講義の進捗や受講生の関心や理解度によって、回数や順序、テーマを微調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. パンプスを履いた女性兵士 戦うことと「女らしさ」 2. 大戦とジェンダーをめぐるトピックと論点 3. 女性の戦時動員とセクシュアリティ 4. 第一次世界大戦と女性部隊 5. 第二次世界大戦と女性部隊 6. 軍隊のなかのジェンダー秩序 制服の下の女らしさ 7. 軍隊のなかのジェンダー秩序 誰が引き金を引くか 8. 近代戦とマスキュリニティ 9. 軍隊とマスキュリニティ 兵士になれない男たち 10. 軍隊とマスキュリニティーシェルショック 11. 軍隊と同性愛 排除が黙認か 12. キッチン・ソルジャー 主婦たちの世界大戦 13. 語り出す女性たち 「忘れられた軍隊」の記憶 14. 「普通の人々」の大戦経験 Mass Observationと第二次世界大戦 15. Mass Observationと第二次世界大戦 ある主婦の日記をもとに 					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に出される課題（30％）、学期末のレポート（70％）で成績を評価する。
到達目標に掲げた水準に達しているか否かで達成度を測る。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

大戦とジェンダーに関する文献（授業中に適宜紹介する）を積極的に参照すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学77

科目ナンバリング		G-LET26 76961 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（講読） European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Marcin Kula, Historia w terańiejszońi, terańiejszońw historii, Gdańsk 2022.					
本書はポーランド現代史の研究者が、コロナ感染の拡大やウクライナでの戦争をはじめとする同時代の問題をふまえながら、歴史と現代の関係について考察した論集である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、今日の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。					
----- 西洋史学（講読）(2)へ続く -----					

西洋史学（講読）(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

（その他（オフィスアワー等））

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学78

科目ナンバリング	G-LET26 76961 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、近世の歴史にかんする章を講読する。					
Dzieje polskiego parlamentaryzmu, redakcja naukowa: Dariusz Kupisz, Warszawa 2022.					
本書は最新のポーランド議会史の通史である。全体は15世紀から現代までを扱っているが、そのなかから近世(1569~1793年)にかかわる章を読む。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド近世史・国制史をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2~14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学79

科目ナンバリング		G-LET26 76971 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習I） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 I（西洋古代史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>					
[到達目標]					
<p>西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、ローマ帝国の統合論に大きなインパクトを与えたClifford Ando, <i>Imperial Ideology and Provincial Loyalty in the Roman Empire</i> (2000) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（同時双方向型メディア授業、1回） 2. 遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、2回） 3. テキスト講読と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、3回） 4. 受講生の研究報告（対面授業、8回、5月24日（金）、5月31日（金）、6月7日（金）を中心に行う） 5. まとめ・フィードバック（1回） 					
[履修要件]					
<p>西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。</p>					
<p>----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----</p>					

西洋史学（演習I）(2)

【成績評価の方法・観点】

報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。

【教科書】

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学80

科目ナンバリング	G-LET26 76971 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習I） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習I（西洋古代史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>					
[到達目標]					
<p>西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の研究報告と関連文献の講読ならびに遺跡等の紹介（同時双方向型メディア授業、6回） 2. 受講生の研究報告と関連文献の講読（対面授業、8回、10月25日（金）、11月1日（金）、11月8日（金）を中心に行う） 3. まとめ・フィードバック（1回） 					
[履修要件]					
<p>西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。</p>					
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習I）(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学81

科目ナンバリング		G-LET26 76972 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習II） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 II（西洋中世史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史を中心に扱うが、テキストの一部は近世も対象としている。</p> <p>今回のテーマは中・近世における「市民権 citizenship」である。市民権は近代国民国家において、国内の社会統合を支え国民の権利を保障し義務を定めてきたが、このような市民権概念はグローバル化時代の人の移動の拡大と恒常化にともない見直しを余儀なくされている。それとともに、移動する人間が関わる今日の政治的・社会的コミュニティの多様な姿と新たな課題と可能性が浮かび上がってきてつつある。このような現代社会に磨かれた新しい目で、中・近世ヨーロッパ史の大動脈である「都市」と「共同体」という問題に、市民権を軸に、真正面から飛び込んでみたい。そして長い研究の蓄積の中で「都市」と「共同体」と四つに組み合ってきたヨーロッパ前近代史からこそ得られる、現代社会と長い歴史の不断の対話の可能性に手を伸ばしてみたい。</p> <p>今回の演習では、この問題に関する最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業は総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>Christian D. Liddy, <i>Contesting the City: The Politics of Citizenship in English Towns, 1250-1530</i>, Oxford University Press, 2017.</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回はイントロダクションとして、取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また、ヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、補足的な導入用文献の配布を行う。</p> <p>第2回は日本語の参考文献を用いて導入的な議論を行う。</p>					
西洋史学（演習II）(2)へ続く					

西洋史学（演習II）(2)

第3回～第12回はContesting the City: The Politics of Citizenship in English Towns, 1250-1530文献の読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。

第13回・第14回はまとめと討論を行う。

各回の内容は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2回 日本語参考文献に基づく導入的学習

第3回 Contesting the City, 1. Introduction

第4回 Contesting the City, 2. Citizenship and Citizens

第5回 Contesting the City, 3. Space: Boundaries

第6回 Contesting the City, 4. Civic Time: Elections (1)

第7回 Contesting the City, 4. Civic Time: Elections (2)

第8回 Contesting the City, 5. Communication: Sound and Sight (1)

第9回 Contesting the City, 5. Communication: Sound and Sight (2)

第10回 Contesting the City, 6. Written Constitutions; Text and Object (1)

第11回 Contesting the City, 6. Written Constitutions; Text and Object (2)

第12回 Contesting the City, 7. Conclusion

第13回 まとめと討論 1

第14回 まとめと討論 2

第15回 フィードバック

[履修要件]

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

[教科書]

Christian D. Liddy 『Contesting the City: The Politics of Citizenship in English Towns, 1250-1530』（Oxford University Press, 2017.）ISBN:9780198705208（テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

西洋史学（演習II）(3)へ続く

西洋史学（演習II）(3)

（その他（オフィスアワー等））

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためにお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間とオフィスアワーに受け付ける他、メール連絡にも対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学82

科目ナンバリング		G-LET26 76972 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習II） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 II （西洋中世史演習）				
[授業の概要・目的]					
西洋中世史学の研究方法と研究成果を表現し他者に伝える方法を学ぶ。そのためにまず西洋中世史料論を学び、ついで各参加者が自らの研究課題を定め、具体的な研究を実践し、研究報告を行う。					
[到達目標]					
各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 1回生は、自らの研究課題を深め、史資料や文献を収集、分析するとともに、史料の類型や性質に関する理解を深める。 2回生は、自らの研究を深化発展させ、まとめ上げる力を身に着ける。					
[授業計画と内容]					
研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習に一部の時間を充てる。高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』第1部を参考資料としつつ、各回に具体的な史料を取り上げ学習する。 次いで、参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。その際、研究を進めるプロセスの各ステップにおいて習得すべき事柄に毎回焦点を当てる。 第1回と第9回～第14回は「欧米歴史社会論演習IIB」と合同で行う。 総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部の授業と共通。 基本的に以下の計画にそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。					
第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第2回 『西洋中世学入門』序論「西洋中世学の世界」（高山博・池上俊一）					
第3回 『西洋中世学入門』第1章 古書体学・古書冊学					
第4回 『西洋中世学入門』第2章 文書形式学					
第5回 『西洋中世学入門』第3章 刻銘学・第4章 暦学					
第6回 『西洋中世学入門』第5章 度量衡学・第6章 古銭学					
第7回 『西洋中世学入門』第7章 第8章					
第8回 『西洋中世学入門』第9章 第10章					
第9回 受講生の研究発表 -先行研究を整理し問を設定する（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第10回 受講生の研究発表 -史料の性格を把握する（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第11回 受講生の研究発表 -史料を分析する（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第12回 受講生の研究発表 議論を論理的に組み立てる（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第13回 受講生の研究発表 自説を位置付ける・意義付ける（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
西洋史学（演習II）(2)へ続く					

西洋史学（演習II）(2)

第14回 研究発表の振り返りと総合討論（欧米歴史社会論演習IIBと合同）
第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

高山博・池上俊一（編）『西洋中世学入門』（東京大学出版会，2005年）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

演習での研究は、世界にたった一つのあなたの研究成果です。演習ではそれぞれの「たった一つ」を対話の中でともに育て磨き上げてゆきます。積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学83

科目ナンバリング		G-LET26 76973 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	教授 講師	小山 哲 安平 弦司
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近世史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヨーロッパの近世史上の主要な問題である寛容について多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>Benjamin J. Kaplan and Jaap Geraerts (eds.), Early Modern Toleration: New Approaches, Routledge: London and New York, 2024.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、近世ヨーロッパ史における寛容とはどのような行為実践・思想であるのか、それを可能にしたあるいは妨げた政治的・社会経済的・文化的条件はどのようなものであったのか、近世ヨーロッパの寛容を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるのか、最新の研究ではどのような視点や研究手法が取り入れられているのか、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【成績評価の方法・観点】

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学84

科目ナンバリング		G-LET26 76973 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	教授 講師	小山 哲 安平 弦司
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近世史演習）				
【授業の概要・目的】					
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回以降： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>					
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・ 文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学85

科目ナンバリング	G-LET26 76974 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近代史演習）				
[授業の概要・目的]					
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きな近代史共通のテーマを扱っている文献Beatrice de Graaf, Ido de Haan and Brian Vick (ed.), <i>Securing Europe after Napoleon: 1815 and the New European Security Culture</i> (CUP, 2019)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。</p>					
<p>第1回 西洋近代史について</p> <p>第2回 19世紀ヨーロッパの国家・帝国の体制について</p> <p>第3回 Vienna 1815: Introducing a European Security Cultureを読む</p> <p>第4回 chapter 1 - Cultures of Peace and Security from the Vienna Congress to the Twenty-First Centuryを読む</p> <p>第5回 chapter 2 - Historicising a Security Cultureを読む</p> <p>第6回 chapter 3 - The Congress of Vienna as a Missed Opportunityを読む</p> <p>第7回 chapter 4 - The Central Commission for the Navigation of the Rhineを読む</p> <p>第8回 chapter 5 - From the Balance of Power to a Balance of Diplomacy? とchapter 6 - The London Ambassadors' Conferences and Beyondを読む</p> <p>第9回 chapter 7 - The Allied Machine とchapter 8 The German Confederationを読む</p> <p>第10回 chapter 9 - Constructing an International Conspiracy とchapter 10 - Security and Transnational Policing of Political Subversion and International Crime in teh German Confederation after 1815を読む</p> <p>第11回 chapter 11 - The Papacy, Reform and Intervention とchapter 12 - From Augarten to Algiersを読む</p> <p>第12回 chapter 13 - Friedrich von Gentz and His Wallachian Correspondentsを読む</p> <p>第13回 chapter 14 - Diplomats as Power Brokersを読む</p> <p>第14回 chapter 15 - Economic Insecuriy, 'Securities' and a European Security Culture after the Napoloenic Warsを読む</p> <p>第15回 全体の総括と議論</p>					
西洋史学（演習Ⅳ）(2)へ続く					

西洋史学（演習Ⅳ）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

【教科書】

Beatrice de Graaf, Ido de Haan and Brian Vick 『Securing Europe after Napoleon: 1815 and the New European Security Culture』（CUP, 2019）ISBN:978-1-108-44642-6

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけでなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学86

科目ナンバリング		G-LET26 76974 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近代史演習）				
【授業の概要・目的】					
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 					
【授業計画と内容】					
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。					
第1回 授業のねらいについて 第2回 研究報告1、史実に注目して議論する 第3回 研究報告2、学説史に注目して議論する 第4回 研究報告3、先行研究に注目して議論する 第5回 研究報告4、時代区分に注目して議論する 第6回 研究報告5、トランスナショナルな視点から議論する 第7回 研究報告6、グローバルな視点から議論する 第8回 研究報告7、比較史の観点から議論する 第9回 研究報告8、言語論的転回を意識して議論する 第10回 研究報告9、ジェンダーの視点を意識して議論する 第11回 研究報告10、階級に注目して議論する 第12回 研究報告11、帝国に注目して議論する 第13回 研究報告12、資本主義に注目して議論する 第14回 研究報告13、ネイション、エスニシティに注目して議論する 第15回 全体の総括					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋史学（演習Ⅳ）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習Ⅳ）(2)

[成績評価の方法・観点]

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）

[授業外学修（予習・復習）等]

自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学87

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉井 秀夫		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	百済の考古学				
[授業の概要・目的]					
<p>朝鮮三国の中でも、百済は日本と密接な関係にあったことが知られている。また、最近の百済に関係する遺跡の発掘調査では、古代東アジア世界の地域間関係を知る手がかりとなる、さまざまな新発見が続いている。本講義は、最近の百済考古学の研究状況を紹介し、その歴史的意義を検討する。</p>					
[到達目標]					
<p>百済の考古学に対する基本的な知識を得る。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角・方法を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 百済考古学を学ぶ意味 第2回 百済考古学の研究史(1) 第3回 百済考古学の研究史(2) 第4回 漢城百済の王都考 第5回 考古学からみた漢城時代の中央と地方 第6回 百済における横穴式石室の受容様相 第7回 熊津・泗比時代の百済王陵 第8回 熊津・泗比時代における横穴式石室の展開 第9回 熊津・泗比時代の王都と寺院(1) 第10回 熊津・泗比時代の王都と寺院(2) 第11回 土器の搬入・搬出からみた百済と倭 第12回 冠・飾履からみた百済と倭 第13回 百済からみた栄山江流域 第14回 百済の滅亡と亡命百済人の行方 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(小レポートなど)約30%、学期末レポート 約70%					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学88

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉井 秀夫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	高句麗の考古学				
[授業の概要・目的]					
<p>朝鮮三国の中でも、高句麗は日本とは離れた位置にある国であり、朝鮮民主主義人民共和国と中華人民共和国にわたって分布している。本講義では、今西龍コレクションの高句麗関係遺物の観察と検討をおこないながら、高句麗の考古学的研究の現状について学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>高句麗の考古学に対する基本的な知識を得る。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角・方法を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 百済考古学を学ぶ意味 第2回 高句麗考古学の研究史(1) 第3回 高句麗考古学の研究史(2) 第4回 集安出土遺物を観察する(1) 第5回 集安出土遺物を観察する(1) 第6回 集安の高句麗積石塚の変遷 第7回 千秋塚出土有銘線の検討 第8回 集安積石塚出土瓦の生産と供給 第9回 平壤周辺出土遺物を観察する(1) 第10回 平壤周辺出土遺物を観察する(2) 第11回 平壤周辺における高句麗遺跡の調査と瓦に対する認識 第12回 平壤周辺出土高句麗瓦の製作技術(1) 第13回 平壤周辺出土高句麗瓦の製作技術(2) 第14回 平壤高句麗瓦の拡散 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>レポート試験70% 平常点評価30%(講義についての小レポートなど)</p>					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中、数回にわたって瓦の観察をおこない、その成果報告をもとに議論を進める。そのため、観察した瓦に関連する学習や、観察成果のレポート作成などを行う必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学89

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古墳時代像の再構築				
[授業の概要・目的]					
<p>近年、古墳がマスコミなどで人気を博している。古墳研究の裾野が広がるのは結構なことだが、研究の論理や歴史、肝腎のデータを省略して「楽しい古墳」像が広められているという問題点もある。本講義では、研究史的にも重要であり、かつ現在も議論が続いている論点を俎上に載せつつ、現在の考古学的資料状況に即して古墳時代像を再構築する。</p>					
[到達目標]					
<p>古墳という過去の物証から歴史を再構築する考古学の手法を学びとり、かつ関連諸分野とのつながりの重要性を認識できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 多様な古墳研究【2週】 3. 考古学から探る邪馬台国【2週】 4. 前方後円墳の誕生【2週】 5. 古墳時代と三角縁神獣鏡【2週】 6. 「畿内」の生成と古墳【2週】 7. 産業・開発と古墳【2週】 8. 考古学から探る国家形成【2週】 * 計15週実施する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポートにより成績を評価する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学90

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38				
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古墳が築かれた時代				
【授業の概要・目的】					
古墳は日本列島に16万基もあり、国家形成期という重大な時代であるにもかかわらず文書史料が稀少な3～6世紀の社会状況に関する物証を現在に伝えてくれている。本講義では、古墳から当時の社会関係、とりわけ地位継承や被葬者像、ジェンダー関係などを検討し、古墳時代の社会・政治状況を豊かに復元することを目指す。					
【到達目標】					
考古資料の多角的な分析方法を学び、そうした方法から過去の社会像を復元するアプローチを学びとる。また他分野との連携の重要性を具体的に理解できるようになる。					
【授業計画と内容】					
1. イントロダクション【1週】 2. 古墳から探る女性の地位【1週】 3. 王宮と都市【1週】 4. 古墳時代に戦争はあったのか【2週】 5. 王朝交替論と古墳【2週】 6. 古墳と地位継承【2週】 7. 古墳と在地首長制論【2週】 8. 古墳の被葬者を探る【2週】 9. 古墳はなぜ築かれたのか【2週】 * 計15週実施する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
学期末のレポートにより成績を評価する。					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学91

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上島 享	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本史学史・日本中世史概論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、日本史学史概論(主に前期)と日本中世史概論(主に後期)のふたつのテーマを扱う。日本史学史概論では、主に明治以降の近代史学のおゆみを振り返りながら、古代・中世・近世という時期区分論の形成や京都大学における日本史学の特色などについて論じたい。次に、日本中世史概論では、中世社会の形成から解体までの約600年間の歴史をテーマごとに通観する。特に、中世社会の形成と転換を政治・社会・経済・文化・宗教の側面から具体的に論じ、それらの歴史的意義を明確にしたい。随時、自身の最新の研究成果も盛り込む予定である。なお、本講義は、日本史全体の研究入門という役割ももっている。</p>					
[到達目標]					
日本史学および日本中世史に関する基本的な知識を身につけるとともに、新たな歴史認識を獲得するための方法を体得する。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、自身の研究の進捗状況に応じて、新たなテーマも盛り込む予定である。そのため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えたい。</p> <p>第1回 本講義の視角と問題意識</p> <p>第2～9回目：日本史学史概論</p> <p>第2回 日本史における時期区分</p> <p>第3回 前近代・明治期における日本史研究</p> <p>第4回 草創期における京都大学の日本史研究</p> <p>第5回 大正・昭和期(戦前)における日本史研究</p> <p>第6回 戦後歴史学と日本史研究</p> <p>第7回 研究視角の転換と新たな潮流</p> <p>第8回 近年の日本史研究の動向と課題</p> <p>第9回 小括</p> <p>第10～30回：日本中世史概論</p> <p>第10回 中世 という時代をどう考えるのか</p> <p>第11回 アジア世界の変化と日本</p> <p>第12回 火災の発生と貴族生活の変化 『源氏物語』の時代</p> <p>第13回 大規模造営の時代</p> <p>第14回 新たな神祇秩序の形成</p> <p>第15回 藤原道長と院政</p> <p>第16回 中世仏教の成立 顕教と密教</p>					
系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第17回 荘園制の形成と国家財政
第18回 都鄙間交流の展開
第19回 治承・寿永の内乱の歴史的意義 鎌倉幕府の成立
第20回 小括 古代社会から中世社会へ
- 第21回 鎌倉前期の社会と承久の乱
第22回 平安後期・鎌倉前期文化の特質
第23回 モンゴルインパクトと社会の変化
第24回 宋代禅と中世仏教の転換
第25回 南北朝動乱の歴史的意義
第26回 室町期の政治・社会経済・文化
第27回 応仁の乱の歴史的意義
第28回 戦国期社会へ
第29回 中世における神仏習合の展開
第30回 総括 世界史のなかの日本史

【履修要件】

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(2回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
上島享 『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4
上島享ほか編 『論点・日本史学』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623093496
その他は必要に応じて指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で参考文献等を示すので、積極的に読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学92

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国専制国家の形成				
[授業の概要・目的]					
<p>秦始皇帝の天下統一(221BC)から清朝宣統帝の退位(1912)までの2000年あまり、中国では、皇帝が官僚を用いて集権的に人民を支配する専制国家が持続した。中国専制国家は自らを「中華」とし周辺諸民族を「四夷」とみなす「中華帝国」であった。「中華帝国」のもとで培われた政治文化は21世紀の現代に至るまでその痕跡をとどめている。本講義では秦の天下統一に至る歴史的推移を概観しつつ、中国専制国家の特質を考える。</p>					
[到達目標]					
中国史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。					
[授業計画と内容]					
以下の項目を逐次論ずる。					
第1回 「中華帝国」の推移					
第2回 「中華帝国」起源論としての先秦史					
第3回 龍山期・二里头文化：国家の形成					
第4回 夏王朝					
第5回 殷前期・中期					
第6回 殷後期					
第7回 西周前期：周王朝の建国					
第8回 西周中期・後期：周王朝の変容					
第9回 『春秋』					
第10回 『左伝』					
第11回 『繫年』					
第12回 東遷期					
第13回 春秋前期前半：鄭莊公の小覇					
第14回 春秋前期後半：齊桓公の覇権					
第15回 春秋中期：晋文公の覇者體制					
第16回 秦					
第17回 楚					
第18回 吳					
第19回 春秋後期：晋覇の動揺					
第20回 『史記』					
第21回 孔子					
第22回 『竹書紀年』					
第23回 戦国前期：魏文侯・魏武侯					
第24回 戦国中期：魏恵王					
系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

- 第25回 孟子
第26回 戦国後期：秦の独走
第27回 華夷思想
第28回 秦始皇帝の天下統一
第29回 前漢前期の秦史認識
第30回 「封建」と「郡縣」：伝統中国における専制国家批判

*フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学93

科目ナンバリング	U-LET24 26750 LJ36				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『資治通鑑』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を学び取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>					
[到達目標]					
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>今年北齊・北周の最終決戦、隋朝の中国統一を取り上げる。なお、南朝の動向については華北の情勢と関係しない限りは取り上げない。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介</p> <p>2～10回 北齊の滅亡(572～577)</p> <p>11～19回 隋朝の成立(578～581)</p> <p>20～29回 陳朝を併合(582～589)</p> <p>30回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
プリントしたものを配布する。					
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----					

東洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(A3用紙1枚分)ので、そのなかの担当分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学94

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>法輪功のルポルタージュにより、2001年にピューリッツァー賞を受賞したイアン・ジョンソンの最新作Sparks: China's Underground Historians and Their Battles for the Future, 2023を読む。習近平体制の「歴史独占」に抗してグラスルーツの歴史を紡ぎだす作家、映像制作者、芸術家たちの営為を描き出した作品である。著者は、体制による検閲の強化にもかかわらず、デジタル・テクノロジーの進化が彼ら「江湖」の作家たちの仕事の静かな広がりを可能にしていると主張する。本書を一年かけて読むことで、日本ではあまり知られていない中国の知的胎動に触れる。本書に関する英語の文章も選読する予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>1, 正確な英文和訳の力を身に着けることができる。 2, 中国新世代の知的胎動に触れることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
1回	著者の紹介				
2回	1 Introduction				
3~4回	2 The Ditch				
5~6回	3 The Sacrifice				
7~9回	4 Spark				
10~11回	5 History as Weapon				
12回	6 History as Myth				
13回	7 The Limits of Amnesia				
14回	8 The Lost City				
15~16回	9 The Gateway				
17~18回	10 Remembrance				
19~20回	11 Lay Down the Butcher's Knife				
21~22回	12 Virus				
23~24回	13 Empire				
25回	14 The Land of Hermits				
26回	15 Conclusion				
27~29回	ジョンソン氏が取り上げた文章				
30回	フィードバック				
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----					

東洋史学(講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

授業で配布する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

担当範囲の英文を日本語訳して提出する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学95

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36					
授業科目名 <英訳>	東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科 文学研究科	教授 教授 教授	吉本 中砂 箱田	道雅 明德 恵子
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期		2024・通年	
曜時限	水5	授業形態	実習(対面授業科目)		使用言語	日本語	
題目	東洋史学(実習)						
【授業の概要・目的】							
全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。							
【到達目標】							
東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。							
【授業計画と内容】							
第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。							
【履修要件】							
特になし							
【成績評価の方法・観点】							
平常点と「小論文」の発表を評価する。							
【教科書】							
授業中に指示する							
----- 東洋史学(実習)(2)へ続く -----							

東洋史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひ
ごろから関心を持っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は各教員の研究室で行う

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学96

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項(たとえばイスラーム教の基本的な教義など)の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world.</p> <p>(2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観(2回) イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識(2回) コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観(12回) イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法(3回) イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門(3回) 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の類型など ・ワクフ(2回) ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達(2回) 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフイズム(2回) 「スーフイズム(イスラーム神秘主義)」の概要、歴史研究におけるスーフイズムなど 					
系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

・イスラーム法廷（2回）

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

・ Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)

・ Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)

・ Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)

・ Islamic law (3 weeks)

・ How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)

・ Waqf (pious donation) (2 weeks)

・ The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)

・ Sufism in history (2 weeks)

・ Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジюмеを教科書とする。尚、レジюмеは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学97

科目ナンバリング	U-LET25 36840 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習 I) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子		
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history				
[授業の概要・目的]					
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説(詳細は「授業計画と内容」を参照)を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語・ペルシア語・トルコ語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ること、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Islamic world history. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic, Persian and Turkish technical terms into English.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamic world.</p> <p>(2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field.</p>					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、講義の際に事前に適宜指定する。 ・各回の授業では、受講者全員がテキストの翻訳を実施する。 <p>Each student will be required to translate the English text into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) 受講生と相談のうえ講読テキストを決定する Deciding the text we will read in this course by consulting with students.</p> <p>Weeks 2-29: 講読 Reading of the assigned text</p> <p>Week 30: (これまで講読した内容についての議論) Having discussion on the key issues presented by the authors.</p>					
----- 西南アジア史学(演習 I)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習 I)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

Edited by Hamit Bozarslan, Cengiz Gunes, Veli Yadirgi 『The Cambridge History of the Kurds』 (Cambridge University Press, 2021) ISBN:9781108623711

講読史料やその他必要な資料は適宜PDF化したうえで、Web上で共有する。

講師が受講生全員分の講読史料を用意するので、教科書を事前に受講生が用意する必要はない。

Reading Texts and Handouts will be shared through the Internet Cloud System. Course instructor prepares the reading materials or textbook in the first week; thus, students do not need to prepare the textbook in advance.

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDF化したうえで、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修（予習・復習）等】

授業では受講生全員が翻訳に参加する。必ず予習をしておくこと。

All Students are required to make an adequate preparation for reading the text so that they can participate in translation work.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学98

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history				
[授業の概要・目的]					
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 後期授業の進め方について 第2回 期末の研究発表に向けての個人指導 第3-5回 日本語論文の内容紹介発表 第6回 期末の研究発表に向けての個人指導 第7-9回 英語論文の内容紹介発表 第10回 期末の研究発表に向けての個人指導 第11-13回 英語論文の内容紹介発表 第14-15回 研究発表</p> <p>Week 1: Explaining the tasks which will be assigned to students in the 2nd semester Week 2: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 3-5: Making a presentation about a research essay written in Japanese Weeks 6: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 7-9: Making a presentation about a research essay written in English</p>					
西南アジア史学(実習)(2)へ続く					

西南アジア史学(実習)(2)

Weeks 10: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester

Weeks 11-13: Making a presentation about a research essay written in English

Weeks 14-15: Making a research talk

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学99

科目ナンバリング	U-LET25 36861 PJ36				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史学実習				
[授業の概要・目的]					
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジюме付きで発表することができる。 					
[授業計画と内容]					
第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明 第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明 第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践 第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジюме化の方法について 第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジюме付きの発表を実施 第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジюме付きの発表を実施 第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語(または、それ以外の外国語)の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジюме付きの発表を実施					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(50点)と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容(50点)による。平常点は取り組む姿勢(授業時の質疑応答への積極的な参加等)による。					
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学100

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学序説				
[授業の概要・目的]					
授業全体のテーマ：ヨーロッパ史学史から学ぶ歴史への複眼的接近法					
<p>過去は変えられない。しかし、歴史は変わる。歴史とは、過去の見方である。すなわち、歴史を学ぶとは、単に重要な過去の事実を幅広く記憶するというだけではなく、多分に、過去の見方の多様性や変遷を知ることにはかならない。そして、さまざまな見方に触れるほどに、過去や未来の諸課題にも、柔軟性をもって取り組むことができるであろう。そこで本講義では、近代歴史学の基礎をなし、現在もなお世界の歴史研究にとって重要なインスピレーションの源となっているヨーロッパの歴史叙述の歴史を概観する。それによって、決して時代遅れでも有効期限切れでもない、しかも、互いに相いれないがいずれも説得的であるような、多彩な過去の見方を紹介し、歴史学的思考を深める素材を提供することを目的とする。そして、「西洋史学」の由来や現状や意義を解説する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴について理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 					
[授業計画と内容]					
(授業計画と内容)					
以下のようなテーマをとりあげる予定である。					
<p>第1回 過去とは何か / 歴史叙述とは何か / 「西洋史学」とは何か 第2回 古代ギリシアと歴史の誕生 第3回～第4回 古代ローマの歴史叙述 第5回～第6回 中世ヨーロッパにおける歴史叙述 附：ビザンツ帝国の歴史叙述 第7回 ルネサンスと歴史叙述 第8回 宗教改革の時代における歴史叙述 第9回～第10回 啓蒙の時代の歴史叙述 第11回～第12回 近代歴史学の誕生 ランケとブルクハルト 第13回～第14回 ヘーゲル、マルクス、ヴェーバー 第15回 歴史主義への反発 (以上、前期) 第16回 論争する現代歴史学 第17回～第18回 アナール学派(第一世代) 第19回～第20回 アナール学派(第二世代)</p>					
系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

第21回～第22回 アナール学派（第三世代）
第23回～第24回 アナール学派（第四世代）
第25回 17世紀危機論争
第26回 「西洋の勃興」をめぐる論争
第27回 ジェンダーをめぐる論争
第28回 ナショナリズムをめぐる論争
第29回 感情・感覚をめぐる論争
第30回 授業の内容をふまえた総論

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

前期末に、レポートの提出を求める。また、後期末に定期試験を行う。成績の評価は提出されたレポート40%、後期末定期試験60%とする。

【教科書】

授業中に資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編 『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』（京都大学学術出版会、2010年）ISBN:978-4-87698-948-5（京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。）

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）ISBN:978-4-62308-779-2

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学101

科目ナンバリング	U-LET26 26956 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	デジタル・ヒューマニティーズ入門書購読				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツはデジタル・ヒューマニティーズ先進国である。各地の様々な大学にこの方法論に特化した研究所が設立され、新たな分析ツールが開発され、それを用いた研究が推進されている。統計学的な分析は、もともと歴史学ではアナル学派によって積極的に活用されていたが、現在はさまざまなツールの開発により、経済史や人口学以外の分野(例えば文学/史・宗教史など)でもこの分析方法の目覚ましい活用が見られる。</p> <p>本講義では、ドイツで2017年に初版が発行された以下の基本的なテキストを輪読することで、この新しい学問手法に触れる機会とする。本テキストは、2024年9月に新版の公刊が予定されているが、適宜関連する情報や論文を紹介することで古い情報を補う予定である。</p> <p>Fotis Jannidis et al. (hrsg.), "Digital Humanities: Eine Einfuehrung", J.B. Metzler, 2017.</p>					
[到達目標]					
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語圏で実施されているデジタル・ヒューマニティーズの研究の状況に触れることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第14回 テキスト講読</p> <p>第15回 内容確認のテスト</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の基礎文法を既習していること。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的参加および学習態度（70パーセント）、最後の内容確認のテスト（30パーセント）。平常点の比率が高いため、毎回出席できる方が望ましいが、やむを得ない事情により欠席した場合は、診断書を見せるなど教師に納得のいく説明を行い、休んだ回に読み進められたテキストの翻訳を提出することで補うことができる。最終テストは、内容が理解できたかどうかを確認するためのテストで、学期中に読み進めたテキスト内容を理解している必要がある。

[教科書]

授業中に指示する

授業のテキストは、第一回に配布するため、出席希望者は第一回に参加する方が良い。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

出席者は日本語翻訳をあらかじめ全員が予習して用意してくるのが望ましい。輪読であるため、授業中に出席者全員をあてて、一文ずつ翻訳していく。講義参加者人数が多く、授業内で翻訳があたりなかった場合には、授業中に読み進んだ部分の翻訳を授業後に提出することで、評価の代わりとする。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて連絡。オフィスアワーに常に在室しているとは限らないため、必ずメールでアポをとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学102

科目ナンバリング	U-LET26 26956 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	デジタル・ヒューマニティーズ入門書購読				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツはデジタル・ヒューマニティーズ先進国である。各地の様々な大学にこの方法論に特化した研究所が設立され、新たな分析ツールが開発され、それを用いた研究が推進されている。統計学的な分析は、もともと歴史学ではアナル学派によって積極的に活用されていたが、現在はさまざまなツールの開発により、経済史や人口学以外の分野(例えば文学/史・宗教史など)でもこの分析方法の目覚ましい活用が見られる。</p> <p>本講義では、ドイツで2017年に初版が発行された以下の基本的なテキストを輪読することで、この新しい学問手法に触れる機会とする。本テキストは、2024年9月に新版の公刊が予定されているが、適宜関連する情報や論文を紹介することで古い情報を補う予定である。</p> <p>Fotis Jannidis et al. (hrsg.), "Digital Humanities: Eine Einfuehrung", J.B. Metzler, 2017.</p>					
[到達目標]					
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語圏で実施されているデジタル・ヒューマニティーズの研究の状況に触れることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第14回 テキスト講読</p> <p>第15回 内容確認のテスト</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の基礎文法を既習していること。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的参加および学習態度（70パーセント）、最後の内容確認のテスト（30パーセント）。平常点の比率が高いため、毎回出席できる方が望ましいが、やむを得ない事情により欠席した場合は、診断書を見せるなど教師に納得のいく説明を行い、休んだ回に読み進められたテキストの翻訳を提出することで補うことができる。最終テストは、内容が理解できたかどうかを確認するためのテストで、学期中に読み進めたテキスト内容を理解している必要がある。

[教科書]

授業中に指示する

授業のテキストは、第一回に配布するため、出席希望者は第一回に参加する方が良い。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

出席者は日本語翻訳をあらかじめ全員が予習して用意してくるのが望ましい。輪読であるため、授業中に出席者全員をあてて、一文ずつ翻訳していく。講義参加者人数が多く、授業内で翻訳があたりなかった場合には、授業中に読み進んだ部分の翻訳を授業後に提出することで、評価の代わりとする。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて連絡。オフィスアワーに常に在室しているとは限らないため、必ずメールでアポをとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学103

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、モンテスキュー(1689-1755)の『ローマ人盛衰原因論(Considerations sur les causes de la grandeur des Romains et de leur decadence)』を講読する。名高い大著『法の精神』によって政治思想家として言及されることの多いモンテスキューだが、その『法の精神』を含め、彼の作品はいずれもきわめて該博な歴史の知識に裏打ちされている。当時のフランスに山積していた課題を考えるにあたって、彼はつねに縦(時間)と横(地域)の広がりを目を向けていた。『ローマ人盛衰原因論』における考察も、そうした彼の問題意識と切り離すことができない。ランケにより実証主義的な「歴史(学)」が確立される19世紀以降とは異なる18世紀フランスの特異な「歴史」のありように目を向けつつ、歴史家としてのモンテスキューの姿をテキストを通じて追うことを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語でテキストを読む力を身につける ・とくに18世紀のフランス語に馴染む ・モンテスキューおよび当時の歴史家たちの歴史的アプローチについての理解を深める 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(1) : 授業の概要、『ローマ人盛衰原因論』の説明、今後の進め方 第2回 イントロダクション(2) : モンテスキューおよび当時の歴史(学)についてのレクチャー 第3回-第15回 『ローマ人盛衰原因論』の精読</p> <p>* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前にテキスト約1頁分ほどの訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。</p>					
[履修要件]					
フランス語文法をひと通り習得していること。中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表(40%)および期末レポート(60%)によって評価する					
[教科書]					
<p>授業中に指示する なお、本講義では Montesquieu, Considerations sur les causes de la grandeur des Romains et de leur decadence suivi de Reflexions sur la monarchie universelle en Europe (edition de Catherine Volpilhac-Augier avec la</p> <p style="text-align: right;">西洋史学(講読)(2)へ続く</p>					

西洋史学(講読)(2)

collaboration de Catherine Larrere), Gallimard, coll. "folio classique", 2008
を底本とする。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

「授業計画と内容」で記したように、第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、担当者に講義の前に訳稿を提出してもらいます。単位が必要な方は、最低1回はこの訳読にあたってもらうことが必要です。
提出の仕方等については、初回講義にて説明します。

(その他(オフィスアワー等))

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学104

科目ナンバリング	U-LET26 26957 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、ルネ・ポモー著『彼自身によるヴォルテール』(スイユ社、1955)を講読する。現在では『カンディード』などの哲学的コントや『寛容論』によって名高いヴォルテールだが、彼は18世紀フランス随一の悲劇作者であり、さらに王室史料編纂官として『ルイ14世の世紀』を執筆するなど、歴史家としても活躍した。歴史はいかに書かれるべきかを考究した歴史哲学者としての側面も無視することができない。そのような人物の足跡を体系的にたどり、コンパクトにまとめた文献としてテキストを読んでいきたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語でテキストを読む力を身につける ・ヴォルテールおよび当時の歴史家たちの歴史的アプローチについての理解を深める 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション：授業の概要、ヴォルテールや本講義で扱う文献、今後の進め方についての説明 第2回 当時の歴史(学)についてのミニレクチャーおよび『彼自身によるヴォルテール』の精読 第3回-第14回 『彼自身によるヴォルテール』の精読(つづき) 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
フランス語文法をひと通り習得していること。中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表(訳読の提出)によって評価する					
[教科書]					
<p>授業でテキストを配布する。 なお、本講義では Rene Pomeau, Voltaire par lui-meme, Paris, Edition du Seuil, "Ecrivains de toujours" 1955 を底本とする。</p>					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

「授業計画と内容」で記したように、第2回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、担当者に講義の前に訳稿を提出してもらいます。単位取得には、最低1回はこの訳読にあたってもらうことが必須要件です。
提出の仕方等については、初回講義にて説明します。

(その他(オフィスアワー等))

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学105

科目ナンバリング	U-LET26 26958 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
[ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」]					
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜4限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学106

科目ナンバリング	U-LET26 26958 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
[授業の概要・目的]					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
[到達目標]					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
[授業計画と内容]					
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
[ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」]					
初回授業で前期の要約を配布し、後期のみの受講者にも不便のないよう配慮する。 また、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
[教科書]					
使用しない プリントを配布する。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、火曜4限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 28007 LJ36			
授業科目名 <英訳>	博物館学III(講義) Museum Science III		担当者所属・ 職名・氏名	京都国立博物館 学芸課 特任研究員 宮川 禎一	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	博物館学 (博物館資料論)				
[授業の概要・目的]					
<p>博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の収集・搬入の方法、また作品の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。すなわち資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらには実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館・美術館の成り立ちと意義 - 博物館とはなにかを理解する 2 作品の種類と性質 - 資料の性質と収蔵の問題を考えて理解する 3 博物館における作品の収集とは - 寄託・寄贈・購入の実態を理解する 4 作品の保存処理 - 作品を科学的に守る方法を理解する 5 収蔵庫の要件 - 保存環境の問題を理解する 6 作品の貸借と作品保護 - 保存と公開のあいだにある問題を理解する 7 展覧会の作り方1 - 展示を構想し出品をめざすことの意味を理解する 8 展覧会の作り方2 - 展示に際しての諸問題があることを理解する 9 展覧会図録の作り方 - 鑑賞を助け、未来に記録する意義を理解する 10 良い展覧会とは何か? - 人と作品の関係と展覧会の意義を考える 11 実際に展示を見学しよう - 実際の展示からわかる保存と公開の問題を考える 12 博物館美術館の未来 - デジタル化の行方と未来の展示を考える 13 世界の博物館・美術館 - 世界にある様々な博物館美術館のありかたを考える 14 学芸員になるには - 求められる学芸員の資質に関して考える 15 博物館をめぐるディスカッション - これまでの講義を受けて学生と討論する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館美術館の成り立ちと意義 2 作品の種類と性質 3 博物館における作品の収集 4 作品の保存処理 5 収蔵庫の要件 6 作品の貸借と作品保護 7 展覧会の作り方(1) 8 展覧会の作り方(2) 9 展覧会図録の作り方 10 良い展覧会とは何か? 11 実際に展示を見学しよう(京都大学総合博物館の展示見学) 12 博物館美術館の未来 					
----- 博物館学III(講義)(2)へ続く -----					

博物館学III(講義)(2)

- 13 世界の博物館・美術館
- 14 学芸員になるには
- 15 博物館をめぐるディスカッション

【履修要件】

学芸員資格を得ようとするのであるから、日頃から博物館美術館を積極的に訪れて興味を高め、疑問をもつようにして欲しい。そこから自己の学問研究にも刺激があるはずである。

【成績評価の方法・観点】

受講態度およびレポートの成績で評価する。
受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。

【教科書】

講義中に適宜資料等を配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

博物館・美術館の展覧会図録を図書館などで読んで、図録のありかたに興味をもってほしい。また日本歴史・考古学・美術史などの図書も積極的に読んで欲しい。

【授業外学修(予習・復習)等】

学芸員を目指し、資格を得ようとする学生のための講義であるので、受講生は日ごろから問題意識をもって博物館・美術館などの見学を行ってほしい。また講義を超えて展示物や解説から自己の学術的興味の範囲を広げてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

日時は定めていないが、京都国立博物館での講義(例えば土曜日午後など)を行うのでそのつもりでいてほしい。

【履修上の注意点】

資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 佐藤 早紀子 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 殷 捷 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 岩永 紘和 非常勤講師 山下 耕平 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 堀 雄高 非常勤講師 酒嶋 恭平 非常勤講師 小山田 真帆	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木1	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(1)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 伊藤 啓介「古気候データと前近代日本史研究」					
第2回 佐藤 早紀子「平安時代の貴族装束について」					
第3回 田口 佳奈「平安時代の穢れと怪異」					
第4回 殷 捷「中世朝廷の官司制度とその変遷」					
第5回 伊藤 啓介「渡来銭と中世貨幣経済」					
第6回 勅使河原 拓也「院政期の政治史と荘園制」					
第7回 岩永 紘和「戦国時代と宗教 臨済宗妙心寺派に注目して」					
第8回 山下 耕平「日本近世前期の政治と儒者」					
第9回 山下 耕平「日本近世における学問と社会集団」					
第10回 平良 聡弘「対日使節派遣運動の展開と日本開国 ペリー来航の再検討」					
第11回 平良 聡弘「幕末維新时期灯台建設をめぐる内外動向 近代的インフラ整備の国際環境」					
第12回 堀 雄高「近代日本の農村と学校教育」					
第13回 酒嶋 恭平「古代ギリシア世界におけるペルシア戦争の記憶」					
第14回 小山田 真帆「アテナイ民主政の中の男性同性愛」					
第15回 下垣 仁志:フィードバック					
歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く					

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

* コーディネーター：下垣 仁志

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマがかわるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。
・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」》、《「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、ⅠとⅡ、または、ⅢとⅣの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志 非常勤講師 西 真輝 非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 小野木 聡 非常勤講師 中村 慎之介 非常勤講師 大津谷 馨 非常勤講師 葉 勝 非常勤講師 徐 口 非常勤講師 藤田 風花 非常勤講師 中辻 柚珠 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 高野 紗奈江 非常勤講師 西原 和代	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(2)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 西 真輝 「統一秦代の統治制度「新地」と「新地主」」					
第2回 松島 隆真 「呉楚七国の乱はなぜ起こったのか？ 前漢時代の転換点」					
第3回 小野木 聡 「唐代における官僚制の変容」					
第4回 中村 慎之介 「大覚國師義天の焼身供養」					
第5回 大津谷 馨 「中世メッカ・メディナにおける地方史叙述」					
第6回 葉 勝 「清朝の旗・民関係研究序説」					
第7回 徐 口(玉偏に路) 「満洲へ越境する日本人新聞人」					
第8回 藤田 風花 「東地中海世界と宗教改革」					
第9回 中辻 柚珠 「ハプスブルク帝国の解体と後継諸国の誕生」					
第10回 辻田 明子 「古代メソポタミアの神々とジェンダー」					
第11回 辻田 明子 「古代メソポタミアの神々とジェンダー」					
第12回 高野 紗奈江 「縄文原体を可視化する」					
第13回 高野 紗奈江 「縄文土器研究における知能情報学的方法の応用」					
第14回 西原 和代 「かごを編む人々：新石器時代の植物資源管理の考古学」					
第15回 下垣 仁志：フィードバック					
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----					

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

* コーディネーター：下垣 仁志

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（40％）と、学期末のレポート（60％）にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールI」と「ゼミナールII」》、《「ゼミナールIII」と「ゼミナールIV」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、IとII、または、IIIとIVの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学110

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールIII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一 非常勤講師 葉 勝 非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 西 真輝 非常勤講師 徐 口 非常勤講師 小野木 聡 非常勤講師 大津谷 馨 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 中辻 柚珠 非常勤講師 西原 和代		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(3)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 葉 勝 「清朝駐防八旗の駐屯地における社会関係研究序説」					
第2回 葉 勝 「清朝前期における江寧の旗・民関係」					
第3回 葉 勝 「康熙朝中期における盛京八旗軍の食糧保障について」					
第4回 松島 隆真 「『東アジア世界』を再考する その研究史を軸に」					
第5回 西 真輝 「『功令』と漢代官僚組織の人事制度について」					
第6回 徐 口(玉偏に路) 「満洲へ越境する新聞人」					
第7回 徐 口(玉偏に路) 「近代中国における日系漢字新聞とその購読者」					
第8回 徐 口(玉偏に路) 「情報と近現代中国—史料の収集・分析について」					
第9回 小野木 聡 「唐代監察制度の展開」					
第10回 大津谷 馨 「中世メッカ・メディナにおけるシーア派・スンナ派関係の諸相」					
第11回 辻田 明子 「古代メソポタミアの神々とその融合の過程」					
第12回 磯貝 健一 「ロシア帝政期中央アジアのシャリーア法廷」					
第13回 中辻 柚珠 「ハプスブルク帝国の近代化と国民形成」					
第14回 西原 和代 「かごを編む人々：縄文時代の植物資源管理の考古学」					
第15回 磯貝 健一：フィードバック					
*コーディネーター：下垣 仁志					
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールIII)(2)へ続く -----					

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅢ) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」》、《「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、ⅠとⅡ、または、ⅢとⅣの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学111

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールIV) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 佐藤 早紀子 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 殷 捷 非常勤講師 岩永 紘和 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 小山田 真帆 非常勤講師 堀 雄高 非常勤講師 山下 耕平	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(4)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 平良 聡弘 「幕末維新期の日本観 「文明」と世界資本主義の論理」					
第2回 佐藤 早紀子 「装束からみる平安貴族社会」					
第3回 田口 佳奈 「平安時代の思想文化」					
第4回 勅使河原 拓也 「鎌倉幕府の守護制度」					
第5回 勅使河原 拓也 「鎌倉幕府の地頭制度」					
第6回 殷 捷 「建武政権の官司制度」					
第7回 殷 捷 「官司制度と文書」					
第8回 岩永 紘和 「日本中世の食」					
第9回 平良 聡弘 「勝海舟『開国起原』の史料学 国際認識と歴史編纂」					
第10回 伊藤 啓介 「中世の手形と信用」					
第11回 小山田 真帆 「古典期アテナイにおける市民権とセクシュアリティ」					
第12回 堀 雄高 「明治期の教育観と農業学校」					
第13回 山下 耕平 「近世日本社会における学者」					
第14回 山下 耕平 「近世日本の儒教式葬儀」					
第15回 磯貝 健一：フィードバック					
*コーディネーター：下垣 仁志					
歴史基礎文化学系(ゼミナールIV)(2)へ続く					

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅣ) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。
・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」》、《「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、ⅠとⅡ、または、ⅢとⅣの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【 大学院聴講生 】

※2024年3月11日現在

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス建番	備考
心理学	7131001	心理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			佐治 伸郎	日本語	○	行動文化学1	
心理学	M341001	心理学(特殊講義)	2	後期	火	2			森口 佑介	日本語	○	行動文化学2	
心理学	M341002	心理学(特殊講義)	2	前期	水	3			藤田 宏	日本語	○	行動文化学3	
心理学	M341003	心理学(特殊講義)	2	後期	火	4			齋木 潤	日本語	○	行動文化学4	
心理学	M341004	心理学(特殊講義)	2	前期	月	2			熊田 孝恒・西田 真也・中島 亮一・水原 啓暁・三好 清文・佐藤	日本語	○	行動文化学5	
心理学	M341006	心理学(特殊講義)	2	前期	水	2			黒島 妃香	日本語	○	行動文化学6	
言語学	7231001	言語学(特殊講義)	2	前期	月	2			大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学7	
言語学	7231002	言語学(特殊講義)	2	後期	木	5			浅尾 仁彦	日本語	○	行動文化学8	
言語学	7231003	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学9	
言語学	7231006	言語学(特殊講義)	2	前期	水	4			谷口 一美	日本語	○	行動文化学10	
言語学	7231007	言語学(特殊講義)	2	後期	水	4			谷口 一美	日本語	○	行動文化学11	
言語学	7231009	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3			山本 武史	日本語	○	行動文化学12	
言語学	7231010	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			宮本 陽一	日本語	○	行動文化学13	
言語学	7231011	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			鈴木 博之	日本語	○	行動文化学14	
言語学	7231013	言語学(特殊講義)	2	前期	月	2			Tao PAN	英語	○	行動文化学15	
言語学	7231014	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2			Tao PAN	英語	○	行動文化学16	
言語学	7231016	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2			大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学17	
言語学	7231017	言語学(特殊講義)	2	後期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学18	
言語学	7231018	言語学(特殊講義)	2	前期	水	5			松本 亮	日本語	○	行動文化学19	
言語学	7231019	言語学(特殊講義)	2	後期	火	4			萩原 裕敏	日本語	○	行動文化学20	
言語学	7231020	言語学(特殊講義)	2	前期	金	1			野原 将輝	日本語	○	行動文化学21	
言語学	7231021	言語学(特殊講義)	2	後期	火	5			大崎 紀子	日本語	○	行動文化学22	
言語学	7231022	言語学(特殊講義)	2	前期	木	3			守田 貴弘	日本語	○	行動文化学23	
言語学	7231023	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2			横森 大輔	日本語	○	行動文化学24	
言語学	7231024	言語学(特殊講義)	2	前期	月	4			千田 俊太郎	日本語	○	行動文化学25	
言語学	7231025	言語学(特殊講義)	2	後期	月	4			千田 俊太郎	日本語	○	行動文化学26	
言語学	7241001	言語学(演習)	2	前期	木	2			山岡 翔	日本語	○	行動文化学27	
言語学	7241002	言語学(演習)	2	前期	木	2			パリ/ハワダ ムルチラ	日本語	○	行動文化学28	
言語学	7241003	言語学(演習)	2	前期	金	3			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学29	
言語学	7241004	言語学(演習)	2	後期	金	3			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学30	
言語学	7241010	言語学(演習)	2	後期	金	3			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学31	
言語学	7241011	言語学(演習)	2	前期	金	3			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学32	
言語学	9624001	スワヒリ語(初級)(語学)	2	前期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学33	
言語学	9625001	スワヒリ語(中級)(語学)	2	後期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学34	
言語学	9652001	満洲語(初級)	2	前期	金	2			松岡 雄太	日本語	○	行動文化学35	
言語学	M351001	言語学(特殊講義)	2	前期	火	4			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学36	
言語学	M351002	言語学(特殊講義)	2	後期	火	4			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学37	
言語学	M352001	言語学(演習)	4	通年	金	4	金	5	千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学38	
社会学	7331001	社会学(特殊講義)	2	前期	月	2			山本 耕平	日本語	○	行動文化学39	
社会学	7331002	社会学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			筒井 淳也	日本語	○	行動文化学40	
社会学	7331003	社会学(特殊講義)	2	後期	火	2			Stephane Heim	日本語	○	行動文化学41	
社会学	7331004	社会学(特殊講義)	2	後期	水	5			筒井 淳也	日本語	○	行動文化学42	
社会学	7331005	社会学(特殊講義)	2	前期	水	3			岸 政彦	日本語	○	行動文化学43	
社会学	7331008	社会学(特殊講義)	2	前期	水	2			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学44	
社会学	7331026	社会学(特殊講義)	2	前期	金	4			安里 和晃	英語	○	行動文化学45	
社会学	M361002	社会学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			安里 和晃・Stephane Heim	日本語	○	行動文化学46	
社会学	M361003	社会学(特殊講義)	2	前期	月	2			丸山 里美	日本語	○	行動文化学47	
社会学	M361004	社会学(特殊講義)	2	通年	水	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学48	
社会学	M362001	社会学(演習)	4	通年	水	5			Stephane Heim	日本語	○	行動文化学49	
社会学	M362002	社会学(演習)	4	通年	月	5			丸山 里美	日本語	○	行動文化学50	
社会学	M362003	社会学(演習)	4	通年	金	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学51	
社会学	M362005	社会学(演習)	4	通年	火	5			田中 紀行	日本語	○	行動文化学52	
社会学	M362006	社会学(演習)	4	通年	月	4			岸 政彦	日本語	○	行動文化学53	
地理学	7431001	地理学(特殊講義)	2	前期	月	3			埴淵 知哉	日本語	○	行動文化学54	
地理学	7431002	地理学(特殊講義)	2	後期	木	2			埴淵 知哉	日本語	○	行動文化学55	
地理学	7431003	地理学(特殊講義)	2	前期	金	2			米冢 泰作	日本語	○	行動文化学56	
地理学	7431004	地理学(特殊講義)	2	後期	金	2			米冢 泰作	日本語	○	行動文化学57	
地理学	7431008	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			松久 雄騎	日本語	○	行動文化学58	
地理学	7431009	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			杉山 和明	日本語	○	行動文化学59	
地理学	7431010	地理学(特殊講義)	2	前期	月	2			立見 淳哉	日本語	○	行動文化学60	
地理学	7431011	地理学(特殊講義)	2	前期	月	5			佐藤 廉也	日本語	○	行動文化学61	
地理学	7431012	地理学(特殊講義)	2	後期	月	4			三木 理史	日本語	○	行動文化学62	
地理学	7431013	地理学(特殊講義)	2	後期	火	5			稲垣 稜	日本語	○	行動文化学63	
地理学	7431014	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			山崎 孝史	日本語	○	行動文化学64	
地理学	7431017	地理学(特殊講義)	2	前期	水	2			杉江 あい	日本語	○	行動文化学65	
地理学	7431018	地理学(特殊講義)	2	後期	水	2			杉江 あい	日本語	○	行動文化学66	
心理学	7102001	系共通科目(心理学)(講義I)	4	通年	月	3			藤田 宏・阿部 修士・熊田 孝恒・黒島 妃香・森口 佑介・Duncan Wilson・藤本 花音	日本語	○	行動文化学67	学部科目
心理学	7108001	系共通科目(心理学)(講義Ib)	2	前期	月	2			黒島 妃香	日本語	○	行動文化学68	学部科目
心理学	7109001	系共通科目(心理学)(講義Ic)	2	後期	火	2			藤田 宏	日本語	○	行動文化学69	学部科目
心理学	7113001	系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)	2	前期	火	2			森口 佑介	日本語	○	行動文化学70	学部科目
心理学	7132001	心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)	2	前期	火	2			畑中 千紘	日本語	○	行動文化学71	学部科目
心理学	7133001	心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)	2	後期	火	2			野口 寿一	日本語	○	行動文化学72	学部科目
心理学	7134001	心理学(特殊講義A)(神経・生理心理学)	2	前期	月	1			月浦 崇	日本語	○	行動文化学73	学部科目
心理学	7135001	心理学(特殊講義B)(神経・生理心理学)	2	後期	月	1			月浦 崇	日本語	○	行動文化学74	学部科目
心理学	7136001	心理学(特殊講義A)(知覚・認知心理学)	2	前期	金	2			齋木 潤	日本語	○	行動文化学75	学部科目
心理学	7137001	心理学(特殊講義B)(知覚・認知心理学)	2	後期	金	2			齋木 潤	日本語	○	行動文化学76	学部科目
言語学	7202001	系共通科目(言語学)(講義I)	2	前期	水	4			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学77	学部科目
言語学	7204001	系共通科目(言語学)(講義I)	2	後期	水	4			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学78	学部科目
言語学	7206001	系共通科目(言語学)(講義II)	2	前期	月	3			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学79	学部科目
言語学	7208001	系共通科目(言語学)(講義II)	2	後期	月	3			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学80	学部科目
言語学	7246001	言語学(基礎演習)	2	前期	木	2			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学81	学部科目
言語学	7246002	言語学(基礎演習)	2	後期	木	2			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学82	学部科目
言語学	9648001	朝鮮語(初級A)(語学)	2	前期	金	1			杉山 豊	日本語	○	行動文化学83	学部科目
言語学	9649001	朝鮮語(初級B)(語学)	2	後期	金	1			杉山 豊	日本語	○	行動文化学84	学部科目
社会学	7302001	系共通科目(社会学)(講義)	2	前期	水	2			田中 紀行	日本語	○	行動文化学85	学部科目
社会学	7304001	系共通科目(社会学)(講義)	2	後期	水	2			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学86	学部科目
社会学	7361002	社会学(実習)	2	通年	水	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学87	学部科目

行動文化学1

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	早稲田大学人間科学部 准教授 佐治 伸郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語習得論				
[授業の概要・目的]					
<p>言語は人間のコミュニケーションや思考の仕方を特徴づける。認知科学，認知心理学ではこの言語の習得がどのようにして可能になるのか，様々な理論が提案され，また反証されてきた。本講義では複数の理論的立場を取り上げ，個体発生の過程で言語がどのように習得されるのかについて概説を行い，現代何が問題とされているのかを明かにする。更に個別言語を習得することにより人間は世界の眺め方をどのように変えていくのか，言語と思考研究の立場から議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>子どもの言語習得を説明する理論について理解する。 子どもの言語習得の機序について説明できる。 言語習得と思考の発達の関係について理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の通り講義を進める。ただし講義の進みぐあいにより変更されることがある。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 言語とは何か 第3回 言語習得の理論的背景1(行動学習理論) 第4回 言語習得の理論的背景2(普遍文法理論，制約理論) 第5回 言語習得の理論的背景3(状況論，社会語用論) 第6回 統計学習と言語習得(音韻習得，状況横断型学習) 第7回 言語とマルチモダリティ(言語の身体的基盤，類像性，指標性) 第8回 社会的認知と言語習得(意図共有，向社会性) 第9回 養育者とのやりとり(敏感調整と及び文化的継承) 第10回 個別言語の多様性(言語普遍性と個別性) 第11回 個別言語の意味体系の習得(意味の再編成問題) 第12回 言語と思考(色，空間など) 第13回 言語と思考(数，感情など) 第14回 言語習得を巡る社会的問題(多言語社会の問題) 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----					

心理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

小レポート(50点)、最終レポート(50点)により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

佐治伸郎 『信号、記号、そして言語へ: コミュニケーションが紡ぐ意味の体系』 (共立出版)
ISBN:4320094638

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学2

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46				
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 森口 佑介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知発達特論				
【授業の概要・目的】					
本授業では、認知発達とその生物学的基盤を、発達心理学、認知神経科学、生理心理学などの知見を参照しながら理解することを目的とする。内容としては、実行機能、意識、メタ認知、注意、記憶、視覚イメージなどの認知機能の発達とその脳内基盤について、講義と受講者の発表を織り交ぜながら検討する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知発達とその生物学的基盤を理解する ・ 様々な認知発達の関連性を理解する 					
【授業計画と内容】					
1 イントロダクション 2 ~ 4 認知発達理論の復習 5 ~ 14 認知発達についての最新知見 15 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
【評価方法】発表を割り当てるので、その発表(80点)および平常点(20点) 【評価基準】到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
【予習】参考書程度の知識は授業前に身につけておく 【復習】授業の課題論文について、復習する (わからない部分があれば、教員に積極的に質問に来てください)					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学3

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46				
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	視覚科学特論				
[授業の概要・目的]					
<p>視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について議論する。視覚科学の理論的基礎と方法論を習得するとともに、知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。前半は視覚科学の基礎に関する講義を行い、後半は参加者に最近の論文を読んで報告することを求める。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚科学に関して、最新の研究について理解し、自らの研究を実践するための基礎となる高度な知識と批判的議論の能力を獲得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前半では、下記のテーマについて、それぞれ1-2週ずつ講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 視覚刺激と信号 3 受容野とたたみこみ 4 初期視覚処理のモデル 5 視覚実験刺激の基礎 6 MRIの基礎 7 fMRIと分析手法 <p>後半、8-14週は、参加者それぞれが最近の論文を読んで報告し、全員で議論を行う。参加者の数によって前半の講義の内容と週数を調整する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 フィードバック 					
[履修要件]					
<p>学部で実験心理学または周辺領域(神経科学など)の基礎を学んでいること 議論に参加できる日本語能力を持つこと</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点評価(発表と議論への参加)</p>					
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://foundationsofvision.stanford.edu/>(視覚科学の教科書(無料オンライン版))

[授業外学修(予習・復習)等]

前半は授業中に指示する。
後半は各自が論文を選んで内容を報告する。読むべき論文は前週までに報告し、他の参加者は予め概要を読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは固定しない。まずメール等で相談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学4

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	視覚認識論				
[授業の概要・目的]					
<p>視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>正答率や反応時間を主たる指標とする行動実験のデータ解析に必要な基本的スキルを身に付ける。単に手法を学ぶのではなく、その理論的背景を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で講義を行う。各テーマ2週程度の授業を行う。講義の進捗により若干の内容の変更がありうる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 - 2回．心理物理学的測定法 3 - 4回．信号検出理論の基礎 5 - 6回．信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索 7 - 8回．信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶 9 - 10回．信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識 11 - 12回．反応時間解析 13回．脳波測定とその解析 14回．授業内試験(問題演習) 15回．フィードバック 					
[履修要件]					
<p>心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 50% 試験 50%</p> <p>試験は最終回の授業時に行う。持込可にする予定。 平常点は、PandA を通じて毎回授業後に授業に関するコメントを提出することによって評価する</p>					
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は用いない。

[参考書等]

(参考書)

なし。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分自身の実験データなどで使ってみる。実験を計画する際に解析手法まで考える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学5

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	情報学研究科 教授 熊田 孝恒 情報学研究科 教授 西田 眞也 情報学研究科 准教授 中島 亮一 情報学研究科 准教授 水原 啓暁 情報学研究科 助教 三好 清文 非常勤講師 佐藤 弥		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知科学基礎論				
[授業の概要・目的]					
<p>視覚認知、注意、記憶、意識、実行機能、感情などを中心に人間の認知機能に関わる概念、及び、その脳内メカニズムを解説する。また、認知機能を理解するための心理学的手法、認知機能と脳との関係を明らかにするための機能的脳画像解析手法などについても詳細に解説する。さらには、社会への適用に関するトピックスも取り上げる。</p> <p>This lecture elaborates on the issue of brain mechanisms such as visual recognition, attention, memory, consciousness, executive function, and emotion. In addition, technical issues of experimental psychology and functional brain imaging are introduced. The applied aspects of these issues are also explained.</p>					
[到達目標]					
<p>人間の認知過程を理解するのに必要な認知科学の基礎知識を得ることができる。また、心理学実験や脳計測実験の実例を通して、基礎的な知見がどのように得られたかを理解できるようになる。さらには、情報学などの関連領域との関係、ならびに、基礎的な知見がどのように日常生活における認知的な問題と関係しているかについても理解を広げることができる。</p> <p>Basic knowledge and techniques for understanding of human cognitive system can be learned.</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 脳の基礎(水原) 3. 視覚情報処理の基礎(西田) 4. 基本的な視覚属性の知覚(西田) 5. 複雑な視覚属性の知覚(西田) 6. 知覚的意思決定(三好) 7. 注意(中島) 8. アクション(中島) 9. 記憶(水原) 10. 意識(三好) 11. 実行機能(熊田) 12. 感情(佐藤) 13. 社会的認知(佐藤) 14. 認知の個人差, 加齢変化, 障害(熊田) 15. フィードバック 					
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(2)

1. Introduction
2. Basics of the brain
3. Basic of visual information processing
4. Visual perception for simple attributes
5. Visual perception for complex attributes
6. Perceptual decision
7. Attention
8. Action
9. Memory
10. Consciousness
11. Executive function
12. Emotion
13. Social cognition
14. Individual difference, aging and deficits of cognition
15. Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回、講義中に行うまたは、講義中に出題し、期限内に提出を求める小レポートにより評価（講義の最後実施するとは限らないので要注意）

これらは通常のテストと同等に扱う。

フィードバックを除く14回分を10点満点で採点し、合計140点満点を合計100点に換算する（小数点以下切り上げ）。したがって、6回以上、小テストを受けていない場合には、残りが満点であったとしても合格点には達しないので注意すること。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中の指示により、予習復習を行うこと。

心理学(特殊講義)(3)へ続く

心理学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学6

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46				
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 黒島 妃香		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	比較認知特論				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、ヒトを含む多様な動物の認知能力に関する最先端の研究を学び、比較認知科学的観点から心の進化を考察することにある。					
[到達目標]					
比較認知科学では、対象とする動物種に応じた適切な実験手続きが求められる。最先端の研究を通して、多様な実験手法について学ぶとともに、実験から得られた結果をどのように位置づけ、比較し、考察するかについて習得する。また、実証的研究を通して心の進化について考察する。主に、意識、内省、感情に関連する内容を扱う。					
[授業計画と内容]					
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 講師から2回ないし3回にわたり、ヒトやヒト以外の動物を対象とした認知に関連する研究を紹介し、基礎的知識を養ってもらう。続く回では、各受講者に講義で扱ったトピックに関連する最新の研究論文を紹介してもらい、受講者全員で研究法、考察に関する具体的な議論を行う。講義は基本3回ないし4回で1トピックの割合で進める。 第15回 心の進化に関する議題に対して各受講者に意見を発表してもらい、全員で議論する。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
毎回の討論内容(30%)及び、発表担当回での発表と討論(40%)、最終回での討論(30%)により評価する。					
[教科書]					
特に用いない。必要な資料は準備する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
毎回トピックに関連した文献を調べ、議論に積極的に参加すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学7

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 大竹 昌巳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文字研究のあゆみ				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀初頭のF. de Saussureの言語研究に端を発する現代言語学では、文字は言語を表わすための記号体系であって、言語体系自体を構成する要素ではないとみなされ、その役割は軽視されてきた。その一方で、現代言語学の概念には、その母胎となったヨーロッパの文字体系であるアルファベットによるバイアスが色濃く反映しており、いかに文字が人間の認知に多大な影響を与えるかをかえって鮮明に示している。</p> <p>この授業では、世界の様々な文字体系に通用する枠組みの構築を目指す「一般文字学(文字論)」の取り組みを紹介することを通して、文字とは何か、文字と言語とはどのような関係にあるかを考えたい。授業では、文字の言語学的研究を構想した河野六郎(1912~1998)の文字論および西田龍雄(1928~2012)の文字学を取り上げて彼らの著作を読むとともに、文字研究で鍵となるいくつかの術語・概念を取り上げて関連文献を読み、それらの考え方の有用性や問題点について検討する。</p>					
[到達目標]					
文字と言語の関わりを考察するために必要となる観点について理解し、従来の考え方がどこまで有用でどのような問題点があるのかを具体的な事例を通して考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
いくつかの文献(論文と著書の一節)を批判的に読むことを軸として授業を進める。その後、各受講者には自ら設定した課題について発表してもらうので、その話題について全員で討議する。取り上げる文献については授業内で説明するが、トピックとしては以下を予定している。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 河野文字論 3. 河野文字論(続) 4. 西田文字学 5. 西田文字学(続) 6. 書字方向 7. 文字体系の分類 8. 文字体系の分類(続) 9. 「表音」「表語」再考 10. 「表音」「表語」再考(続) 11-13. 発表と討議 14. 総括 15. フィードバック 					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 (40%)、授業内での発表 (60%)

[教科書]

使用しない
資料を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字等々、日本語の表記は複雑で多様性に富み、河野六郎が言うように「文字とは何であるかということを考えるには、逆説的ながら、日本こそ最も恵まれている土壌だ」と言えるので、みなさんには「文字とは何であるか」を主体的に自由に考えてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学8

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 浅尾 仁彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	コーパスと言語研究				
[授業の概要・目的]					
言語研究において近年重要な役割を果たすようになってきているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。					
[到達目標]					
言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション 第2回 コーパスの基本概念とテキストデータ 第3回 検索と正規表現 第4回 頻度と統計(1) 基本 第5回 頻度と統計(2) 進んだ話題 第6回 論文紹介(1) 第7回 論文紹介(2) 第8回 Pythonによるテキスト処理(1) 基本 第9回 Pythonによるテキスト処理(2) 検索 第10回 Pythonによるテキスト処理(3) 集計 第11回 Pythonによるテキスト処理(4) 進んだ話題 第12回 研究発表(1) 第13回 研究発表(2) 第14回 研究発表(3) 第15回 まとめ 授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（30％）、宿題（30％）、期末レポート（40％）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』（ひつじ書房, 2021）

浅尾仁彦・李在鎬 『言語研究のためのプログラミング入門』（開拓社, 2013）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容の復習として、シンプルな宿題を課すことがあります。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いすることがありますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

（その他（オフィスアワー等））

・パソコンを授業に持ち込めることが望ましい（OSなどは問わない）ですが、難しい場合は相談に応じます。
・授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学9

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるように、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学10

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知構文論				
【授業の概要・目的】					
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 					
【授業計画と内容】					
<p>認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック</p>					
【履修要件】					
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況 (20%)、学期末のレポート (80%) から総合的に評価する。

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学11

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知意味論研究				
[授業の概要・目的]					
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学(特に認知意味論)の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化(導入) 第4回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化(考察) 第5回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性(導入) 第6回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性(考察) 第7回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー(導入) 第8回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー(考察) 第9回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ(導入) 第10回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ(考察) 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味(導入) 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味(考察) 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポート(80%)、授業への取り組みの状況(20%)から総合的に評価する。					
[教科書]					
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学12

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学 大学院人文学研究科 教授 山本 武史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語の音声・音韻				
[授業の概要・目的]					
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。					
[到達目標]					
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。					
[授業計画と内容]					
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末試験（実施が困難な状況においてはレポート）（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』（Wiley-Blackwell）ISBN: 9781119533740

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（yamamoto.takeshi.hmt@osaka-u.ac.jp）によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学13

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院言語文化研究科 宮本 陽一 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	統語論研究				
[授業の概要・目的]					
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心(mind)を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文(移動現象)に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。					
[到達目標]					
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語(特に英語と日本語)の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約(基本概念)</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約(帰結)</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約(問題点)</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論(基本概念)</p> <p>第9回：障壁理論(練習)</p> <p>第10回：障壁理論(帰結)</p> <p>第11回：障壁理論(問題点)</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較(削除と移動)</p> <p>第15回：日英語比較(数量詞と量化詞)</p>					
[履修要件]					
言語学概論程度の知識があることが望ましい。					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行い、更にその帰結を提示した期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない
ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）
宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学14

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鈴木 博之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チベット・ビルマ諸語の地域言語学研究				
[授業の概要・目的]					
文化圏を単位とする言語の多様性・多層性・多重性について、チベット系諸言語(シナ・チベット語族チベット・ビルマ諸語)を例に紹介する。チベット系諸言語の共時的な特徴について理解するとともに、通時的発展や言語接触のありようについて詳細に取り扱う。また、言語地図の作成と分析についても実践的な視点から取り上げる。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・文化圏を単位とする諸言語を並行的に取り扱う基礎的な考え方を身につける。 ・対象言語への共時的アプローチと通時的アプローチを同時に扱う方法論を身につける。 ・言語地図の作成を通して言語現象の分布を可視化する方法論と技術を身につける。 					
[授業計画と内容]					
以下の予定で講義を進める。ただし進度によって多少変更する場合もある。					
【9月24日】					
第1回：チベット文化圏とチベット・ビルマ諸語、社会言語学的側面の概説					
第2回：チベット系諸言語の文字と発音					
第3回：音声・音韻の多様性と分析の枠組み					
【9月25日】					
第4回：言語分類にみる諸特徴：音韻、語彙、形態統語概説					
第5回：音変化の類型的特徴と自然性					
第6回：チベット系諸言語の語彙的特徴と派生					
第7回：形態統語論(1)：人称・数の範疇、定・不定標識、指示詞					
【9月26日】					
第8回：形態統語論(2)：格体系					
第9回：形態統語論(3)：動詞形態論と分類					
第10回：形態統語論(4)：チベット系諸言語に特化した証拠性の枠組み					
第11回：形態統語論(5)：テンス・アスペクト・証拠性・認識性					
【9月27日】					
第12回：チベット文化圏の地理言語学					
第13回：言語地図の作成と分析					
第14回：言語地図から言語特徴を読み解く(1)					
第15回：言語地図から言語特徴を読み解く(2)およびフィードバック					
[履修要件]					
チベット・ビルマ諸語に関する知識は特に必要ないが、言語学概論程度の知識があることが望ましい。					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

授業時にノートパソコンまたはタブレットを持参するのが望ましい(参考書がpdf形式のため、またオンラインソフトを用いた講義を含むため)。

[成績評価の方法・観点]

平常点(授業への参加状況)(30%)およびレポート(70%)とする。

[教科書]

授業中にハンドアウト・資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

Nicolas Tournadre & Hiroyuki Suzuki 『The Tibetic languages』(LACITO Publications, 2023) ISBN:978-2-490768-08-0

Hiroyuki Suzuki 『Geolinguistics in the eastern Tibetosphere: An introduction』(Geolinguistic Society of Japan, 2022) ISBN:978-4815031930

Graham Thurgood & Randy LaPolla (eds) 『The Sino-Tibetan languages. 2nd ed.』(Routledge, 2017) ISBN:978-0367570453

(関連URL)

<https://doi.org/10.5281/zenodo.10026628>(参考書1のダウンロード先(無償))

<https://doi.org/10.5281/zenodo.5989176>(参考書2のダウンロード先(無償))

<https://www.arcgis.com/home/webmap/viewer.html>(言語地図の作成に用いるArcGIS onlineのアクセス)

[授業外学修(予習・復習)等]

参考書情報欄に示した1.の文献を事前にダウンロード(無償・46MB)し、予習しておくのが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

- ・この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。
- ・履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。
- ・オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学15

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.					
[到達目標]					
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (2007)
Michael Weiss 『Kusinne Kantwo : elementary lessons in Tocharian B』 (2022)
Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch』 (1960)
<https://www.univie.ac.at/tocharian>
Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学16

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.					
[到達目標]					
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne. Textes et grammaire』 (Paris, 2008)

Michael Weiss 『Kusinne Kantwo : elementary lessons in Tocharian B』 (2022)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学17

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 大竹 昌巳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア音韻研究				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、東アジアの諸言語を題材として、いくつかの音声・音韻事象を取り上げて概説する。直接音声を観察可能な現代語だけでなく歴史上の言語も対象とし、共時的な音韻分析の方法や通時的な音変化の実態、背景にある音声学的動機などについて検討することを通して人間言語の音声・音韻を形づくるメカニズムや制約について理解を深める。主に取り上げる対象言語はシナ・チベット諸語、モンゴル諸語、トゥングース諸語、朝鮮語、日琉諸語などアジア東部に分布する言語ではあるが、扱う音韻事象自体は世界の諸言語でも観察されるもので、記述や分析も他の言語に適用できるものなので、この地域以外の言語の音声・音韻に興味がある者の受講も歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1)多様な言語音の背景にあるしくみや制約を理解する。 (2)任意の音韻事象について、それがどのような事象なのかを正確に記述できるようになる。 (3)任意の音韻事象について、単に正確に記述できるだけでなく、その背景にある動機について音声学等の知見から考察することができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>講師が各トピックについて講義したのち、各受講者には任意の言語の音韻事象について、授業内の発表か期末レポートかを選択して報告してもらうので、発表についてはその内容を全員で討議する。 以下のトピックを扱う予定であるが、受講者数等に応じて回数や内容を調整することがある。詳細は第1回の授業で説明する。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 母音の音声学的基盤 3. 子音の音声学的基盤 4. 母音調和 5. 咽頭化と硬口蓋化 6. そり舌音とR音 7. 舌尖母音 8. 前鼻音と脱鼻音化 9. 喉頭特徴と声調 10. 音節声調と語声調 11-13. 課題発表 14. まとめ 15. フィードバック 					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

言語学（特に音声学・音韻論）の初歩的知識があることが望ましい。ない場合は事前に斎藤純男『日本語音声学入門』（2006年改訂版、三省堂）を一読することをお薦めする。

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）、授業内での発表もしくは期末レポート（60％）

[教科書]

使用しない
資料を配布する

[参考書等]

（参考書）

Peter Ladefoged & Ian Maddieson 『The sounds of the world ' s languages 』（Wiley-Blackwell, 1996）
ISBN:9780631198154

その他、授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げられた音韻現象の中で興味を持ったものについて、関連文献を読むなどして自身でさらに掘り下げて理解してもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学18

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるように、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学19

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 松本 亮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シベリア諸言語研究				
[授業の概要・目的]					
ロシアには多数の少数民族、諸言語が話されています。そのうち、日本に地理的にも近く、言語類型論的にも近いとされるシベリアの諸言語について概観し、いくつかの言語について文法・テキスト読解を通して理解していきます。					
[到達目標]					
シベリアに分布する諸言語を外観した後、地域的な言語学・社会言語学的情報を知る。具体的に取り上げる言語を、語彙や辞書、グロスをもとに構造を理解できるようになるとともに、言語学的トピックについて考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1～3回 シベリアの言語状況の概観 第4～9回 エヴェンキ語を取り上げる 第10～14回 ネネツ語を取り上げる 第15回 まとめ					
[履修要件]					
言語学入門が履修済であることが望ましい またロシア語の知識があるとなお良い(こちらはなくとも良いが、ロシア語文献が主でありキリル文字は知っておいて欲しい)					
[成績評価の方法・観点]					
授業中に課す数回の課題(60%)と最終まとめのレポート(40%)で評価する					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

日本語で読めるロシアやシベリアの諸数民族に関する文献は見ておいてください。
また授業で配布する文献を読む、課題を解く時間に当ててください。
受講生が関心を持つ、専攻とする言語との類型論的な比較ができるように各自言語学的トピックに関心を持って調べてください。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて受け付けるとともに、連絡が前もってあれば授業の前後の時間を空けることが可能です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学20

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 荻原 裕敏		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ソグド語文献から見るイラン語史研究				
[授業の概要・目的]					
<p>ソグド語について講義する。ソグド語は中期イラン語に位置づけられ、コータン語やホレズム語などとともに、東イラン語に分類される。残された資料は紀元1~2世紀以降のもので、碑文や貨幣銘の他に、紙及び木簡に書かれた文書が知られており、仏教・マニ教・キリスト教の宗教文献が大部分を占める。ソグド語文献は、主に中国甘粛省の敦煌と新疆ウイグル自治区のトゥルファンから発見されているが、ソグド人が古代内陸アジア交易で重要な役割を果たしていたことから、ソグド研究は中央アジア史研究においても重要な位置を占める。加えて、ソグド人の交易活動を背景とした漢人との接触の結果、ソグド語に見られる漢語からの借用語は、中古漢語の音韻の再建にも利用されてきた。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、代表的なテキストの講読を通して、イラン語史研究の方法論やその可能性について解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>ソグド語の文法を学び、ローマ字転写されたテキストの読解を通して、工具書を利用して自らソグド語のテキストを読むことができるようになるとともに、古代イラン語から現代イラン語に至る言語変化についての概観的な知識を得ることを目指す。また、文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 研究史、イラン語におけるソグド語の位置づけ及び資料・工具書の紹介</p> <p>2 ソグド語の基礎【6週】 ソグド語を表記する文字:ソグド文字・マニ文字・シリア文字 ソグド語の音韻・文法</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【7週】 出土文献資料の扱い方 ソグド語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と文献成立の背景</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート（70％）・平常点（小レポート）（30％）

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Emmerick, Ronald E. and Maria Macuch (eds.) 『The Literature of Pre-Islamic Iran: Companion Volume I to A History of Persian Literature』 (I. B. Tauris, 2009)

Gershevitch, Ilya 『A Grammar of Manichean Sogdian』 (Blackwell, 1954)

Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』 (Routledge, 2009)

Gharib, Badresaman 『Sogdian Dictionary: Sogdian-Persian-English (2nd ed.)』 (Farhangian Publications, 2004)

Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』 (Reichert, 1989)

Sims-Williams, Nicholas 『A Dictionary: Christian Sogdian, Syriac and English (2nd ed., rev.)』 (Reichert, 2021)

Sims-Williams, Nicholas and Desmond Durkin-Meisterernst 『Dictionary of Manichaean Sogdian and Bactrian (2nd ed., rev.)』 (Brepols, 2022)

吉田 豊 『ソグド語文法講義』 (臨川書店, 2022年)

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学21

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語音韻学：中古音について				
【授業の概要・目的】					
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項(特に中国語学の専門用語、字書、義書等)についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>					
【到達目標】					
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>					
【授業計画と内容】					
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。</p> <p>第11回－第14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>議論への積極的な参加(20%) 小テスト(50%) レポート(30%)</p>					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学22

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 大崎 紀子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チュルク語概説				
[授業の概要・目的]					
<p>チュルク語は、西はアナトリア半島のトルコ語から、東はシベリアのサハ語に至るまで、ユーラシア大陸を横断する広大な地域で用いられている言語で、30余りの方言(言語)が認められている。この講義では、分布域のほぼ中央位置で話されているキルギス語のデータや研究成果を中心に、チュルク語に見られる言語現象を考察する。共通して見られる言語特徴と、個別言語間の違いを理解し、研究の視点や手法を身に着けることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>チュルク語に共通する言語特徴を理解し、説明することができる。 チュルク語の個別言語間の違いを理解し、説明することができる。 個別の言語現象に問題点を見出す観察力を養う。 見出した問題点を解決する視点を持てるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 1 分布と分類 2. Introduction 2 類型論的特徴 3. 音韻的特徴 1 4. 音韻的特徴 2 5. 文字と書記体系 6. 名詞と格 7. 名詞と所有接尾辞 8. 動詞の構造 1 9. 動詞の構造 2 10. 態(ヴォイス) 1 11. 態(ヴォイス) 2 12. 補助動詞 1 13. 補助動詞 2 14. 名詞修飾節 15. フィードバック 					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加 20点（授業内での発言や質問を含む）小課題：10点×2回、最終レポート：60点

【教科書】

授業中に資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）

アクマタリエワ ジャクシルク・大崎紀子 『大学のキルギス語』（東京外国語大学出版会、2024）
（印刷中）

Johanson, Lars. 『Turkic』（Cambridge University Press, 2021.）ISBN:978-0-521-86535-7

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に必ず質問をするか、または講師からの問いに答えられるように準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学23

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 守田 貴弘		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ダイクシスとコミュニケーション				
[授業の概要・目的]					
構造・機能相関論の観点から，人間言語の特質について考察する．特に，意図を共有する手段としての指示詞や各種ダイクシス表現(時間，空間，人称)について考える．また，具体的な言語現象を理論的に分析する手法についても学ぶ．					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の言語現象に対する興味・関心を養う． ・ 無意識で使い分けしている言語表現の背後にどのような論理がはたらいっているのか考える力を身につける． ・ 言語学的に主張を論証するための手続きが理解できる． 					
[授業計画と内容]					
以下のテーマについて，それぞれ2-3週で講義する．各項目に充てる時間数は履修者の理解度を見ながら調整する．					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 何のために言語は存在するのか (2) 習得可能性と表現力の相関 (3) 事例1：さまざまな言語における指示詞 (4) 事例2：さまざまな言語におけるダイクシス表現 (5) 事例3：さまざまな言語における人称表現 					
授業はフィードバックを含め全15回である．					
[履修要件]					
言語科学I，IIなどの入門科目を履修していることが望ましい．					
[成績評価の方法・観点]					
授業期間中の3, 4回の小レポート50%および定期試験50%． いずれにおいても講義内容を理解した上で，自らの考えを言語学的に論証する力で評価する．					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
ときどき資料提示のためにスライドを使用するが、基本的には板書のみで講義を行う。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義内容を復習し不明点は次回に質問すること。

(その他(オフィスアワー等))

一方通行の知識の伝授を目的とするものではなく、学生との対話によって授業はどのように展開するか未知の部分があります。積極的な発言を歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学24

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 准教授 横森 大輔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	会話分析から迫る言語とコミュニケーション				
[授業の概要・目的]					
<p>どのような言語現象やコミュニケーション現象も、人と人との相互行為(インタラクション)の中で生み出されています。相互行為の実態とメカニズムを明らかにする学問分野として、会話分析(Conversation Analysis)というものがあります。この授業では、会話分析の基礎とそれを応用した言語分析について学び、人間の言語やコミュニケーションについての洞察力を深めることを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・現実の会話における言語使用の実態について理解を深める ・個々の語彙や構文が相互行為の中で果たす役割について分析できる ・「ターン(発話順番)」「リペア(修復)」「行為連鎖」「隣接対」など会話分析の基礎概念についての知識を理解する ・身の回りやメディアで起きているコミュニケーションに対して、学術的な視点から観察・理解を行うことができるようになる 					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・学期を通じて、文献講読とデータ分析実習を(概ね交互に)実施します。 ・文献講読では、担当者による発表と、担当者以外の受講者(全員)による事前コメントに基づくディスカッションを行います。会話分析分野の書籍や論文を読んでいます。 ・データ分析実習では、各受講生が見つけた具体的な会話事例と照らし合わせながら、これまでの研究における知見や論点の検証を行います。 					
<p>第1回 イントロ</p> <p>第2回 (講読) 会話分析最短入門!</p> <p>第3回 (実習) 会話データの文字起こし方法とその理念</p> <p>第4回 (講読) 発話すること = 他者に対する行為</p> <p>第5回 (実習) 行為連鎖の分析</p> <p>第6回 (講読) 文 vs. 発話</p> <p>第7回 (実習) ターン交替の分析</p> <p>第8回 (講読) 聞き手の役割</p> <p>第9回 (実習) 聞き手行動の分析</p> <p>第10回 (実習) 方法論: 会話データの観察から学術的知見へ</p> <p>第11回 (講読) 期末レポート構想ディスカッション</p> <p>第12回 (講読) イントネーション・パラ言語的特徴と相互行為</p> <p>第13回 (講読) 身体・環境と相互行為</p> <p>第14回 (実習) 期末レポート中間発表</p>					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

第15回 フィードバック

各回で取り上げるテーマは、受講生のニーズに応じて変更する可能性があります。

【履修要件】

事前知識は特に要求されませんが、「話しことば」「コミュニケーション」「会話」といったトピックに学術的に取り組む強い意欲をもっていることが求められます。

また、履修にあたっては、毎週の課題（下記）についてよくご確認ください。

【成績評価の方法・観点】

授業課題（予習課題、データ分析実習、発表担当）への取り組み：70点

期末レポート：30点

期末レポートでは、各自が定めたテーマ（相互行為の中の言語現象あるいはコミュニケーション現象）について、具体的な会話事例の詳細な観察に基づく論考（4000~8000字程度）を課す予定です。

【教科書】

オンラインで読める論文または電子書籍を取り上げていきます。URL等は授業で案内します。

【参考書等】

（参考書）

串田秀也・平本毅・林誠 『会話分析入門』（勁草書房, 2017年）（京大図書館のサイトから電子書籍版にアクセス可能）

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実（編） 『会話分析の広がり』（ひつじ書房, 2018年）

（関連URL）

<https://sites.google.com/site/yokomoling/lab/recommended-readings>(CA/ILを学ぶための文献)

【授業外学修（予習・復習）等】

文献講読の予習課題やデータ分析実習課題は毎週全員に課せられます（毎週金曜締切の予定）。

単位取得を必要としない参加（いわゆる聴講）も歓迎しますが、毎週の課題に取り組むことが参加の条件となります。

（その他（オフィスアワー等））

質問等がある場合は、授業後または別途調整した日程にて受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学25

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドム語概説(1)				
[授業の概要・目的]					
ドム語は、パプアニューギニア高地、シンブー州のグミネ地区の一部とシネシネ地区の一部にまたがって存在するドム地域で主として話される言語である。本講義ではドム語の文法を概説する。前期は音韻論、形態論のほか、基本的な統語的特徴をいくつか取り上げる。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドム語といふ個別言語の研究を通じて音韻論、形態論、統語論にわたる言語事実の観察と分析の実際を知る。 ・個別言語の記述と言語類型論との関係を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入: ドム語の概要 2. 音韻論(分節音) 3. 音韻論(超分節音) 4. 重複 5. 語類 6. 形態論、形態音韻論(動詞、名詞、指示詞) 7. 語順 8. 人稱・数 9. 他動性1(自他両用述語) 10. 他動性2(結合價を増やす方法) 11. 動詞連続(存在、設置、抛棄、知覚) 12. 動詞連続(移動、所有、その他) 13. 文タイプ、否定 14. 指示詞 15. まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート					
[教科書]					
使用しない					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習と復習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

面談等が必要な場合は授業中、あるいは授業の前後に申し出ていただければ個別に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学26

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドム語概説(2)				
[授業の概要・目的]					
ドム語は、パプアニューギニア高地、シンブー州のグミネ地区の一部とシネシネ地区の一部にまたがって存在するドム地域で主として話される言語である。本講義ではドム語の文法を概説する。後期は若干複雑な統語的特徴のほか、ドム語の類型的な位置付けや系統的な位置付けについて取り上げる。また最近の聞き出し調査の結果を検討する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドム語といふ個別言語の研究を通じて音韻論、形態論、統語論にわたる言語事実の観察と分析の実際を知る。 ・個別言語の記述と言語類型論との関係を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入: ドム語とトク・ピシン (借用など) 2. 複文など 3. スイッチレファレンス 4. 引用 5. 数詞、形容詞 6. シンブー諸語とドム語 (音対応) 7. シンブー諸語とドム語 (所有接辞) 8. 受動的表現、アスペクト的表現 9. モダリティ的表現、ヴォイス的表現 10. 所有・存在表現、他動性に關する表現 11. 連用修飾複文、情報構造と名詞述語文 12. 情報構造の諸要素、連體修飾その他 13. ドム語とトク・ピシン (諸表現の対照) 14. 時間表現、場所表現 15. まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート					
[教科書]					
使用しない					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習と復習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

面談等が必要な場合は授業中、あるいは授業の前後に申し出ていただければ個別に対応する。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学27

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山岡 翔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	音声学				
[授業の概要・目的]					
話し言葉の学習/研究にはその媒体である音声についての理解が欠かせません。しかし、音声はふつう目に見えませんし、発した途端消えてしまうものなので、理解するに当たっては少々厄介です。そこで、この授業では調音・音響・聴覚の各側面の実習を通して、音声についての理解を深めていきます。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な音声を産出時の内省や聴覚印象に沿って観察することができる ・ 音声の基本的な特性を音響/知覚実験を通して確認することができる 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の内容を予定していますが、進度によっては変更の可能性があります。</p> <p>第1回：イントロダクション、音声器官のしくみ</p> <p>第2回：気流と発声</p> <p>第3回：破裂音・鼻音</p> <p>第4回：はじき音・ふるえ音</p> <p>第5回：摩擦音</p> <p>第6回：接近音、その他の子音</p> <p>第7回：子音の音響的観察</p> <p>第8回：第一次基本母音</p> <p>第9回：第二次基本母音、その他の母音</p> <p>第10回：母音の音響的観察</p> <p>第11回：聴覚印象による音声の書き起こし</p> <p>第12回：超分節的特徴</p> <p>第13回：超分節的特徴の音響的観察</p> <p>第14回：知覚実験</p> <p>第15回：この授業のまとめ</p>					
[履修要件]					
<p>言語学概論等で音声学の基礎を学んでいることが望ましいですが、必須ではありません。音声に関心のある学生を広く歓迎します。</p> <p>なお、授業の特定の回では各自PCの持参を求めます。もし持参できるPCがない場合は事前に担当者まで相談してください。</p> <p>また、受講生は授業内で指定された音声を発音することが求められます。何らかの事情によりこの要求に応えられない場合は、事前にメール等で担当者まで相談してください。</p>					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：30点
課題：70点

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認するようにしてください。
授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要に応じて次回以降の授業後に担当者に確認してください。
授業で学んだことにもとづき、ぜひ自分の身の回りの音声をあらためて観察してみてください。

(その他(オフィスアワー等))

質問や相談がある場合は以下のアドレスにメールするか、授業の前後に直接伝えてください。
yamaoka.sho.25s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 パリハワダ ナルチラ		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究				
[授業の概要・目的]					
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何だろうか。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的な分析を行う。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。					
[到達目標]					
本授業の到達目標は、 (1) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。 (2) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めることである。					
[授業計画と内容]					
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。					
第1回 ガイダンス、初級日本語学習者の言語行動の疑似体験、テーマ選定・グループ形成					
第2回 日本語学習者の初歩的動機・グループワーク : 選定した学習項目の特徴・初級学習者を惹きつける要因の分析					
第3回 学習ニーズと多様な日本語(やさしい日本語、アカデミック日本語、ビジネス日本語、専門日本語)・グループワーク : 学習ニーズへの配慮					
第4回 コースデザイン・グループワーク : コースにおける位置づけ・到達目標設定					
第5回 教授法とシラバス・グループワーク : 教授法の検討					
第6回 漫画・アニメ・J-Popの日本語・グループワーク : メディアの活用法及び教材化の課題と利点					
第7回 教室活動・グループワーク : 教室活動と教科書分析					
第8回 中間発表会と前半の総括					
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは?・グループワーク : テーマ選定・グループ形成及びアウトライン作り					
第10回 自然な日本語と教科書で用いられる日本語の問題点・グループワーク : 典型的な使用場面と状況					
第11回 教科書分析の方法・グループワーク : 教科書分析					
第12回 類推と転移・グループワーク : 他言語との比較					
第13回 誤用分析の方法・グループワーク : 誤用分析					
第14回 学習者ビリーフと動機付け : 期末発表の準備 グループ別期末発表					
第15回 フィードバック					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

【履修要件】

日本語・日本文化研修留学生、文学部、文学研究科の学生専用科目

【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：30%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：40%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

【教科書】

使用しない

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学29

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「自己らしさ」(egophoricity)をめぐる通言語的検討				
[授業の概要・目的]					
<p>「人は自己の心を知るようには他者の心を知ることはできない」という普遍的事実を，言語は常に忠実に反映するわけではない。そこには当該の言語ならではの「癖」がある。「自己らしさ」はさまざまな文法概念との関わりの中で，また社会的文脈や状況の中で，言語に反映されたり，されなかったりする。この演習では，通言語的な研究をまとめて読み議論することによって，「自己らしさ」への理解を深めつつ，言語学の基礎的能力の涵養をはかりたい。</p>					
[到達目標]					
世界の諸言語が「自己らしさ」に関して有する個別的特徴，さらに言語一般に共通する特徴について，多彩な現象と分析方法を知ることができる。					
[授業計画と内容]					
<p>下記の論文集を通読しつつ議論により理解を深める。授業では各回，学部の学生と大学院の学生がチームになり，割りあてられた部分について，ハンドアウトを使って内容を解説するとともに，問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。</p> <p>第1回 教材の紹介と入手法，授業の進め方 第2回・第3回 Chapter 1: An Introduction (Lila San Roque, Simeon Floyd and Elizabeth Norcliffe) 第4回・第5回 Chapter 2: “ Am I blue? ” : Privileged access constraints in Kathmandu Newar (David Hargreaves) 第6回・第7回 Chapter 3: Mirativity and egophoricity in Kurt#246p (Gwendolyn Hyslop) 第8回・第9回 Chapter 4: Interactions of speaker knowledge and volitionality in Sherpa (Barbara Kelly) 第10回・第11回 Chapter 5: Egophoricity and differential access to knowledge in Yongning Na (Mosuo) (Liberty Lidz) 第12回・第13回 Chapter 6: Egophoricity in Wutun (Erika Sandman) 第14回・第15回 Chapter 7: Egophoricity in Mangghuer: Insights from pragmatic uses of the subjective/objective distinction (Robert W. Fried), 全体総括 (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計による：（１）授業でのプレゼン（30%），（２）討論への積極的な参加（20%），（３）期末レポート（50%）。

[教科書]

Floyd, Simeon, Elizabeth Norcliffe and Lila San Roque 『Egophoricity』 (John Benjamins, 2018) ISBN: 978-90-272-0699-2 (入手法については第1回授業を参照のこと)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。担当部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

(その他（オフィスアワー等）)

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学30

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「自己らしさ」(egophoricity)をめぐる通言語的検討				
[授業の概要・目的]					
<p>「人は自己の心を知るようには他者の心を知ることはできない」という普遍的事実を、言語は常に忠実に反映するわけではない。そこには当該の言語ならではの「癖」がある。「自己らしさ」はさまざまな文法概念との関わりの中で、また社会的文脈や状況の中で、言語に反映されたり、されなかったりする。この演習では、通言語的な研究をまとめて読み議論することによって、「自己らしさ」への理解を深めつつ、言語学の基礎的能力の涵養をはかりたい。</p>					
[到達目標]					
世界の諸言語が「自己らしさ」に関して有する個別的特徴、さらに言語一般に共通する特徴について、多彩な現象と分析方法を知ることができる。					
[授業計画と内容]					
<p>前期に続いて、下記の論文集を通読しつつ議論により理解を深める。授業では各回、学部の学生と大学院の学生がチームになり、割りあてられた部分について、ハンドアウトを使って内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。</p> <p>第1回(含イントロ)・第2回 Chapter 8: Morphological innovations in Mangghuer and Shirongolic: Reconstructing the formal emergence of the subjective vs. objective distinction (Keith W. Slater) 第3回・第4回 Chapter 9: Egophoricity and argument structure in Cha ' palaa (Simeon Floyd) 第5回・第6回 Chapter 10: Egophoricity and evidentiality in Guambiano (Nam Trik) (Elizabeth Norcliffe) 第7回・第8回 Chapter 11: The role of sentence type in Ika (Arwako) egophoric marking (Henrik Bergqvist) 第9回・第10回 Chapter 12: The evidential nature of conjunct-disjunct terms: Evidence from Oksapmin and Newar (Robyn Loughnane) 第11回・第12回 Chapter 13: Egophoric patterns in Duna verbal morphology (Lila San Roque) 第13回・第14回 Chapter 14: Learning how to know; Egophoricity and the grammar of Kaluli (Bosavi, Trans New Guinea), with special reference to child language (Lila San Roque and Bambi B. Shieffelin) 第15回 Chapter 15: Self-ascription in conjunct-disjunct systems (Stephen Wechsler), 全体総括(但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)</p>					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

以下の合計による：（１）授業でのプレゼン（30%）、（２）討論への積極的な参加（20%）、（３）期末レポート（50%）。

【教科書】

Floyd, Simeon, Elizabeth Norcliffe and Lila San Roque 『Egophoricity』（John Benjamins, 2018）ISBN: 978-90-272-0699-2（入手法については第1回授業を参照のこと）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。担当部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学31

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スラヴ語学概論				
[授業の概要・目的]					
「スラヴ語学概論」と題し、英語で書かれたスラヴ語学の概説書を輪読し、スラヴ諸語間の相違性や各スラヴ語に関する理解を深める。					
[到達目標]					
言語について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。					
[授業計画と内容]					
授業で扱うテキストは、各スラヴ語を統一した方式で記述している。受講者の関心も考慮に入れた上でテーマを決め、事前に担当箇所(担当言語)を割り当て、各回の授業で発表・報告してもらう。テキストの解説のほかに、各自で補足して調べることが望ましい。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 音韻・文字 3. 音韻・文字 4. 語彙 5. 語彙 6. 語彙 7. 形態論 8. 形態論 9. 形態論 10. 統語論 11. 統語論 12. 言語と社会 13. 言語と社会 14. 言語と社会 15. 総括 					
[履修要件]					
スラヴ語の学習歴があることが望ましい。					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

発表・報告などの平常点：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Bernard Comrie and Greville G. Corbett 『The Slavonic Languages』 (1993)
Bernard Comrie and Greville G. Corbett 『The Slavonic Languages』 (1993)
授業で扱うテキストはコピーを配布する。
その他授業中に指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

スラヴ語の学習歴があることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学32

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究所 准教授 堀口 大樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラトビア語				
[授業の概要・目的]					
インド・ヨーロッパ語族バルト語派のラトビア語の実践的な学習を通じて、系統をともにする、または異にする言語間に見られることばの体系性や普遍性、相違点を明らかにする。					
[到達目標]					
ラトビア語の実践的な学習を通じて、ことばの普遍性や体系性、個別言語間の相違を明らかにする。 ことばをその周辺の諸現象(文化、社会、歴史、技術革新など)に有機的に関連付ける視点を得る。 既習の外国語や言語学の知識、言語学習の経験や学習に対する動機が、ゼロから半期で学ぶ言語の学習の進捗や理解度にどのように影響するかを自身で確かめる。					
[授業計画と内容]					
授業回数は全14回、その他期末試験、フィードバックの回を設ける。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文字と発音 2. be動詞、名詞と形容詞の性・数 3. 第2変化動詞、位格 4. 第3変化動詞、対格 5. 属格 6. 第1変化動詞、与格 7. 復習 8. 動詞未来形 9. 動詞過去形、アスペクト 10. 形容詞の定・不定 11. 複合時制 12. 命令法、願望法 13. 義務法、伝聞法 14. 復習 15. 試験 16. フィードバック 					
また、折に触れてラトビアの文化や社会についても紹介する。					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度などの平常点（50％）・試験（50％）。

[教科書]

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』（白水社、2018年）

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

他は授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内外に限らず、言語の学習では音読を重視する。

（その他（オフィスアワー等））

教室定員の枠で受講生を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学33

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）(語学) Swahili	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（初級）				
【授業の概要・目的】					
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。教科書を用いて会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また教科書の会話表現には、衣食住や習慣など文化的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関する知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する。 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる。 3：短い日常会話の流れを把握できる。 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----					

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社, 2018）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/sw/index.html>（大阪大学言語文化研究科言語社会専攻/日本語専攻）高度外国語教育全国配信システムプロジェクトによるスワヒリ語独習コンテンツ。「文字と発音」では、実際の発音を映像付きで確認できる。）

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学34

科目ナンバリング		G-LET49 89625 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）(語学) Swahili	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（中級）				
[授業の概要・目的]					
<p>教科書はスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。教科書の基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する。 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる。 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる。 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----					

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社, 2018）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の名課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学35

科目ナンバリング	G-LET49 89652 LJ48				
授業科目名 <英訳>	満州語（初級）(語学) Manchu	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学外国語学部 教授 松岡 雄太		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	満洲語入門および満洲語学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>17世紀以降、中国に清朝を起こした満洲族の言語であり、かつ清朝の公用語でもあった満洲語の文語を入門レベルから学ぶ。満洲語はいわゆるアルタイ型言語の一つだが、同じアルタイ型言語に含まれる日本語などと比べながら学習することで、言語類型論に関する知識の修得も目指す。また、過去の先人たちが満洲語をいかに学習・研究してきたかを知ること、話者数の多さや実用性ばかりに目が行きがちな外国語学習の現状にあって、外国語(特に少数民族言語)を学ぶ意義について考える機会にもしたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 満洲文字を読み、かつローマ字で転写できるようになる。 ・ 満洲語の基本的な文法知識を修得する。 ・ 満洲語がどのような言語か、類型論的な観点から理解する。 ・ 辞書さえあれば今後も引き続き独学で満洲語を学習・研究できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回~第2回 満洲族と満洲語、満洲語を学ぶ意義、学習工具類の紹介など 第3回 満洲語の音韻体系 第4回 満洲語の文構造 第5回~第7回 満洲文字の読み書きとローマ字転写の練習 第8回~第11回 満洲語文献の読解練習 第12回 朝鮮半島における満洲語研究 第13回~第14回 日本における満洲語研究史 第15回 授業の総括</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(授業への参加状況、予習・復習、小テスト、授業内の発言など)					
----- 満洲語（初級）(語学)(2)へ続く -----					

満州語（初級）(語学)(2)

[教科書]

使用しない
適宜、プリントを配布する

[参考書等]

（参考書）

河内良弘・清瀬義三郎則府 『満洲語文語入門』（京都大学学術出版会, 2002）ISBN:9784876984459

津曲敏郎 『満洲語入門20講』（大学書林, 2002）ISBN:9784475018579

河内良弘 『満洲語辞典 増補改訂版』（松香堂書店, 2018）ISBN:9784879747457

河内良弘 『満洲語辞典 改訂増補版 日本語語彙索引』（松香堂書店, 2021）ISBN:9784879747617

[授業外学修（予習・復習）等]

満洲文字の学習や文献講読の回になると、毎週のように次回の授業までにやってくる授業外学修課題（宿題）が出されるだろう。その課題に耐えられるだけの忍耐力、授業外学習時間の確保、体調管理が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学36

科目ナンバリング	G-LET29 6M351 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語学概論				
[授業の概要・目的]					
「ロシア語学概論」と題し、文字・音声から形態論・統語論、さらには社会言語学など、ロシア語学の様々な下位分野における基本的な概念や諸問題を学ぶ。					
[到達目標]					
ロシア語学の様々な下位分野における基本的な概念や諸問題を理解し、考察できる力を見につける。					
[授業計画と内容]					
基本的には講義形式であるが、用例の報告など演習形式も併用する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 音 2. 文字 3. 語彙論 4. 借用 5. 人名 6. 語形成論 7. 語形成論 8. 語形成論 9. 形態論 10. 統語論 11. 旧ソ連におけるロシア語話者 12. ソフトパワーとしてのロシア語 13. 言語アイデンティティ 14. その他の諸問題 15. 総括 					
授業回数は15回とする。					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

【履修要件】

全学科目「ロシア語IIB（文法）」など、ロシア語の初級・中級文法を一通り終えていることが望ましい。ロシア語の知識はないが、本授業の履修や聴講を希望する場合は相談のこと。

【成績評価の方法・観点】

成績評価については、平常点（60%）・学期末レポート（40%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

日頃から母語と外国語の運用能力を高める努力をしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

メールで事前に連絡のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点60%、期末レポート40%とする。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃からロシア語の運用能力を高める努力をしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学38

科目ナンバリング		G-LET29 7M352 SJ37					
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)			担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	教授	千田 俊太郎
					文学研究科	教授	CATT, Adam Alvah
		文学研究科	教授	定延 利之			
		文学研究科	講師	大竹 昌巳			
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年		
曜時限	金4,5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語		
題目	言語学の諸問題						
[授業の概要・目的]							
修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。							
[到達目標]							
1. 発表、それに関する質疑を通じて、自分の研究を深める。 2. 専門を異にする研究者に対して、自分の研究をわかりやすくプレゼンテーションすることができるようになる。 3. 自分と専門が違う研究者の発表を理解し、簡潔で、適切な質問ができるようになる。 4. 発表の論理を理解し、論理の問題点などを指摘できる。							
[授業計画と内容]							
大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、年30回の授業の中で少なくとも1回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ1回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学の問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に、自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。 前期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ 後期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・観点]							
授業時での発表や他の院生の発表に対する批判的なコメントや質問など、平常点で評価する							
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----							

言語学(演習)(2)

[教科書]

ハンドアウトを使用する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者はハンドアウトを発表週の月曜日までに提出すること。ハンドアウトは読むだけで、論旨がわかるものとする。発表者以外は発表当日までに読み、質問を準備すること。質問、コメントは簡潔でわかりやすく、かつ、答えることが可能なものとする。

(その他(オフィスアワー等))

大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 耕平		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査入門 (社会調査士科目A)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、私たちの社会で行われている「社会調査」について、その歴史や目的および意義、設計に関する基本的な考え方、具体的な調査手法の種類や特徴、自分たちが調査を行なうときには気をつけるべきこと、といった基本的事項を学ぶ。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。</p>					
[到達目標]					
<p>社会調査の目的や歴史を学び、調査の種類や仮説の立て方、対象者の選び方といった社会調査を設計する上でのもっともベーシックな知識とスキルを身につけるとともに、メディアを通じて触れるさまざまな社会調査の結果を適切に読み解くリサーチ・リテラシーを習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(授業の目標、進め方、評価方法など) 2. 社会調査の目的とリサーチ・リテラシー 3. 社会調査の種類 4. 社会調査における仮説設定 5. 社会調査のサイクル 問題発見と仮説検証 6. 既存統計の利用 7. サンプリングと総調査誤差 8. 調査票の設計 9. 社会調査の歴史 10. 質問紙調査の事例 11. インタビュー調査の事例 12. 参与観察の事例 13. 相互行為分析の事例 14. ドキュメント分析の事例 15. 社会調査の倫理 					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

ワーク（50％）：各回の授業内容に関連した小テストないし小レポート。授業内容を踏まえた答案を作成できているかどうかで評価される。

期末レポート（50％）：授業で学んだ調査方法を用いた社会調査のプランを作成する。授業で学んだ諸点を踏まえてテーマ設定ができているか、調査のテーマに適合的な方法や対象者を根拠にもとづいて選択しているか、倫理的な配慮がなされているか、などの点から評価される。

[教科書]

特に指定しない。適宜、リーディング・アサインメントとして資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

松木洋人・中西泰子・本多真隆（編）『基礎からわかる社会学研究法 具体例で学ぶ研究の進めかた』（ミネルヴァ書房, 2023年）

松本渉『社会調査の方法論』（丸善出版, 2021年）

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』（有斐閣, 2013年）

井頭昌彦（編）『質的研究アプローチの再検討 人文・社会科学からEBPsまで』（勁草書房, 2023年）

ジェリー・Z・ミュラー『測りすぎ なぜパフォーマンス評価は失敗するのか？』（みすず書房, 2019年）

[授業外学修（予習・復習）等]

リーディング・アサインメントが配布された際は、予習として通読してくることが求められる。

期末レポートの作成のため、関心のある調査テーマおよび調査手法、調査倫理について、自身でリサーチすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

他の社会調査土科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学40

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学 教授 筒井 淳也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代社会と家族変動：「生涯学」の観点から				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、家族や生涯(人生、ライフコース)をめぐる変化を、より広い文脈や多様な視角から学ぶ。私たちが経験する家族や人生は、人口学的特性が異なる時代で経験されたものとは全く異なっている。たとえば平均寿命が60歳前後である時代では、現在のように長い高齢期は存在しなかった。しかし100歳以上人口が8万人を超えた今では、「人生100年」を見据えることは決しておかしいことではない。</p> <p>家族や生涯はまた、時代や社会ごとの経済的環境や制度的環境によっても異なって経験される。たとえば一部の東アジア社会では、欧米の女性が一時期経験した主婦化が経験されていない。講義では、時代観・地域観比較の観点から、こういった多様性について論じる。</p> <p>また、社会学の近隣分野(心理学や人類学など)が生涯に対してどうアプローチしているのかについても紹介し、家族と生涯に対する複合的な見方を説明する。</p>					
[到達目標]					
<p>家族と生涯(人生、ライフコース)について、社会的見方を軸にしつつ、複合的な観点から理解できるようになること。特に時代や地域ごとの多様性を踏まえつつ、人口学的特性や制度の概念を用いて、できるかぎり一貫した理論枠組みから家族と生涯を理解することを目指す。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 家族と近代化の基本理論1：家経済から雇用へ 第2回 家族と近代化の基本理論2：結婚の変化 第3回 家族と近代化の基本理論3：東アジアの「近代化」 第4回 家族の概念と法制度1：結婚 第5回 家族の概念と法制度2：親子関係 第6回 生涯学1：老いは衰退か？老年学と行動科学 第7回 生涯学2：幼年期の経験はその後の人生に影響するか？ 第8回 生涯学3：人々の「生涯観」の実態 第9回 人口学的変化とライフコース変動1：高齢期経験の変化 第10回 人口学的変化とライフコース変動2：女性のライフコースの変化 第11回 日本の家族と仕事1：福祉レジーム論 第12回 日本の家族と仕事2：日本的雇用と日本社会システム 第13回 日本の家族と仕事3：家族主義の多様性 第14回 現代社会と家族のこれから << 期末レポート >> 第15回 フィードバック</p>					
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----					

社会学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

筒井淳也・前田泰樹 『社会学入門』（有斐閣）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで。連絡先は授業中に知らせる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学41

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 Stephane Heim		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	産業と労働社会学				
[授業の概要・目的]					
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ 第2回 雇用システムと労使関係 第3回 企業内労働市場の形成 第4回 日本型雇用システム 第5回 日本労働市場の形成 第6回 日本労働市場の変容 第7回 賃金格差と社会階層の変化 第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化 第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題 第10回 失業と非正規雇用の国際比較 第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題 第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係 第13回 自動車産業と労働市場の国際比較 第14回 授業のまとめ 第15回 フィードバック</p> <p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（70％）、出席（30％）による

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学42

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学 教授 筒井 淳也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	家族社会学：理論と実証				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、社会学の一分野である家族社会学について、理論と実証の両方の観点から体系的に説明する。</p> <p>家族社会学は、近代化論を軸とした基礎的な理論枠組み（たとえば直系家族制から夫婦家族制への移行）を持ちつつも、その実態の多様性から、常に理論研究と実証研究が絡み合いながら発展してきた分野である。本講義では、主に計量社会学の研究を参照しつつ、家族の変化や多様性について説明する際に必要な実証研究における概念や調査のあり方について説明する。</p>					
[到達目標]					
<p>家族を説明するための基礎的な理論枠組み、概念、実証における測定手法などを体系的に説明できるようになる。それをもとに、家族社会学の実証研究を読み解き、現代家族のあり方について深い見方を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 家族の実証研究の特性：質的・量的調査</p> <p>第2回 記述と分析：標準的な分析手法</p> <p>第3回 人口学と社会調査</p> <p>第4回 社会統計の基礎単位としての世帯</p> <p>第5回 家族の変化と社会構造</p> <p>第6回 結婚の理論と実証1：配偶者選択と同類婚</p> <p>第7回 結婚の理論と実証2：結婚タイミング、幸福度</p> <p>第8回 親子関係の理論と実証1：「系」の概念と測定</p> <p>第9回 第9回 親子関係の理論と実証2：成人親子関係</p> <p>第10回 家族とネットワーク</p> <p>第11回 多様な絆：事実婚、同棲、同性婚の実態把握</p> <p>第12回 無償労働：家事分担の実証</p> <p>第13回 家族・ケア労働・生活保障</p> <p>第14回 家族のこれからを考える</p> <p><< 期末レポート >></p> <p>第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----					

社会学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50点（授業への積極的参加）、期末レポート50点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで連絡してください。（連絡先は授業内でお知らせします。）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学43

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 岸 政彦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法論(社会調査士科目F)				
[授業の概要・目的]					
<p>「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。</p>					
[到達目標]					
この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。					
[授業計画と内容]					
<p>1 導入 質的調査は何をするのか</p> <p>2 一般化という問題 普遍性と固有性のあいだで</p> <p>3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1)</p> <p>4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2)</p> <p>5 「理由のある行為」とは何か(1) ウィリスとブルデュー</p> <p>6 主体的なものと状況的なもの 丸山里美</p> <p>7 身体と意味 石岡丈昇</p> <p>8 「裸足」とは何か 上間陽子</p> <p>9 男であること社会学 打越正行</p> <p>10 語りのなかに引きずり込まれる 岸政彦(1)</p> <p>11 語り手から名前を呼ばれる 岸政彦(2)</p> <p>12 聞くという経験を書く 岸政彦(3)</p> <p>13 「理由のある行為」とは何か(2) ウェーバー</p> <p>14 方法/倫理/政治</p> <p>15 まとめ 質的調査は何をすればよいのか</p>					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%。

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学44

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	基本的な統計資料とデータの分析(社会調査士科目C)				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、データの分布を要約する方法やグラフを使った視覚化の方法や質的データのまとめ方や読み方を概説する。大量のデータを扱う場合、それらをすべて読者に提示することは不可能なので、データをうまく要約する必要が生じることが多い。このような方法論は、データを扱う多くの学問分野で役に立つだろう。</p> <p>なお、この授業は社会調査士科目Cに該当する。</p>					
【到達目標】					
<p>この授業の到達目標はデータを要約するための方法の習得である。具体的には、自分自身で、そのような方法を用いて、データを要約できるようになるだけでなく、他人が要約したデータを読解できるようになることを目指す。</p>					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1.問題：大量のデータをどう処理するか？ 2.度数分布表と代表値とバラツキの尺度 3.不平等の指標 4.クロス表の分析 5.相関係数と非線形関係 6.因果分析と相関、疑似相関 7.データの視覚化：グラフの種類と作成、読解時の注意 8.多重クロス表の分析 9.公開されている集計表と表計算 10.ソフトを利用した二次分析の実習 11.オンライン集計システムを使った二次分析の実習 12.データの分類：クラスター分析 13.大量の質的データをどう扱うか？内容分析、テキストマイニングとコンピュータ支援質的データ分析ソフトウェア(CAQDAS) 14.「何人インタビューすればいいか？」問題：研究目的、研究対象、調査/分析プラン 15.フィードバック 					
【履修要件】					
特になし					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを2本提出し、それらの平均点を成績とする。2つレポートを提出することが必須。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

盛山和夫 『社会調査法入門』 (有斐閣) ISBN:978-4641183056

轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法〔第4版〕2ステップで基礎から学ぶ』 (法律文化社) ISBN:978-4-589-04141-8

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ Googleアカウントが必要。
- ・ 授業時には、インターネットに接続できる自身のPC (またはPCに準じる機器) が必要。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学45

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 安里 和晃	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Qualitative Research and Community Fieldwork in Kyoto				
[授業の概要・目的]					
<p>This class will cover social research methods, mainly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.</p> <p>Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through experience, observation, participation, interviews, action, questionnaires, and so forth, and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, and how people think and feel the way they do. Finally, researchers approach social reality through research and sometimes change reality through action. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue.</p> <p>During the first month, a lecture is given on his research experiences. The purpose is to stimulate discussion by making his experience a reference point. Then we will read some literature on qualitative research covering conventional interview research, which is subjective-objective binary used by many researchers. This will be useful for students in conducting qualitative research. In addition, we will also deal with research on colonial/post-coloniality, low-end globalization, and papers on non-binary research such as action research and commitment. Though spotty for this class, fieldwork will also be conducted at social welfare facilities, public schools, and the historical buraku community.</p>					
[到達目標]					
<p>This course provides an opportunity for mainly non-Japanese students to explore aspects of Japanese society that students may not be able to learn through prior knowledge. The course format involves studying topics such as outcast community, ethnic minorities, undocumented migrants, homelessness, and nursing homes, then students will gain a deeper understanding by actually visiting these communities and conducting interviews.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>The organization of the course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. research experience (1) fieldwork in a rural community 3. research experience (2) interviewing migrants/stakeholders 4. research experience (3) approach to the vulnerable and reciprocity in research 5. research experience (4) advocacy 6-7. experiencing community visits: houseless and economic development 8-9. experiencing community visits: being undocumented in Japan 10-11. experiencing community visits: ethnic Koreans under gentrification 					
社会学(特殊講義)(2)へ続く					

社会学(特殊講義)(2)

12-13. experiencing community visits: elderly care and ability to perceive scape

14. reading ethnography: globalizations

15. reading ethnography: community landscape

【履修要件】

This course is primarily designed for graduate students enrolled in the joint degree master program in Transcultural Studies at Kyoto and Heidelberg University who seek to understand Japanese society through qualitative research. Due to the nature of the course, accommodating many students may be challenging. Please kindly understand this in advance.

【成績評価の方法・観点】

Short papers based on community visits and class participation.

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, "The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology," *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, "The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research," *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, "Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment," *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation and review of relevant literature on community visits.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	准教授 准教授	安里 和晃 Stephane Heim
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop				
[授業の概要・目的]					
<p>この科目は16年間にわたって実施されてきた「次世代グローバルワークショップ」をベースにしたものである。2024年度のワークショップのテーマは"Transculturality in Asia and Europe" (仮題)を予定しており、京都大学での開催を予定している。募集要項は5月に示され、応募書類のスクリーニングをもって報告者が決定される。ワークショップは9月末を予定しているが、それまでにフルペーパーの提出が必要であり、これらの論文はProceedingsに掲載される予定となっている。詳細情報については、5月初旬ごろ以下のアジア研究教育ユニットのウェブサイトで公開される予定。これまでのワークショップについても以下よりアクセスが可能である。 http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see the details in the call for papers as follows after April http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</p>					
[到達目標]					
<p>示されたテーマに従い英語論文を執筆し、研究者間の交流を主体的に進めつつ、英語で研究報告を行う。京都大学での開催であり、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、大きな成果が期待される。</p> <p>Proceedingsは以下よりアクセス可能。 https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through the mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen their understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context. You can access the workshop proceedings below. https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982</p>					
[授業計画と内容]					
<p>示されたテーマにしたがって英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。報告にあたっておおまかなプロセスは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タイトルの作成 2. 要旨の作成 					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

3. 応募書類の作成と応募
4. 論文執筆(6000語程度)
5. 校閲
6. 発表原稿作成
7. 発表演習
8. 修正
9. 報告
10. 大学教員からのコメントと返答
11. 全体のディスカッション
12. 研究者間交流
13. 論文のリライトと編集
14. 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
15. プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

【履修要件】

応募が必要。発表要旨を提出し、選考を通った者のみが報告を認められる。単位は認められないがオブザーバーとしての参加も可能。

Applicants must submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to give a presentation.

【成績評価の方法・観点】

ワークショップへの参加・研究報告(50%)と提出論文(50%)により評価する。

Based on the workshop participation/presentation (50%) and final paper(50%).

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Tasks are based on calls for papers. 募集要項に従って準備を進める。

(その他(オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

社会学(特殊講義)(3)へ続く

社会学(特殊講義)(3)

を通じてアポを取ること。(@)は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法（専門社会調査士科目J）				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、質的調査の特徴と、代表的な手法および質的データの分析方法、および質的調査をめぐる現代的な課題について学ぶ。質的調査の手法として、参与観察、インタビューなどがあり、質的データの分析方法として、ライフヒストリー分析、グラウンデッドセオリーなど異なる方法と、それらの背後にある対象選定とデータ解釈に対する異なる態度がある。また今日において質的調査を実施するには、現場で経験する政治的社会的不正義への姿勢、個人の人権やプライバシーの尊重、対象者への成果の還元、書くことの権力性への自省など、判断することを求められる倫理的態度がある。これら質的調査をめぐる異なる手法とその態度、倫理的課題について、どのような議論がなされているかを、具体的な事例をもとに、演習形式で検討する。それを通して、自ら質的調査を実施し、質的調査に基づいた論文を書けるようになることが目的である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の特徴を説明できるようになる ・ 質的調査を計画し、実施することができる ・ 質的調査において必要となる倫理的態度を理解する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、自己紹介 2. 質的調査の特徴 3. 質的調査の歴史 4. 質的データの解釈と態度（1） 5. 質的データの解釈と態度（2） 6. 質的調査の倫理（1） 7. 質的調査の倫理（2） 8. 質的調査の代表的な成果（1）：インタビュー 9. 質的調査の代表的な成果（2）：参与観察 10. 質的調査の代表的な成果（3）：ライフヒストリー分析 11. 質的調査の代表的な成果（4）：相互行為分析 12. 質的調査の代表的な成果（5）：グラウンデッドセオリー 13. 質的調査データの検討（1） 14. 質的調査データの検討（2） 15. 質的調査データの検討（3） 					
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----					

社会学（特殊講義）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50% + 期末レポート50%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業は、質的調査を行ったことがある / 行う予定があることを前提にする。議論には積極的に参加してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学48

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際（社会調査士科目G）				
【授業の概要・目的】					
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつとおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。					
【到達目標】					
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施（調査票の配布・回収、面接） 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11平均値の差の検定 					
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----					

社会学（特殊講義）(2)

- 12 多重クロス表分析
- 13 回帰分析の基礎
- 14 回帰分析の応用
- 15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』（法律文化社）ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

【授業外学修（予習・復習）等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学49

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 Stephane Heim	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査に基づく研究				
[授業の概要・目的]					
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。					
[到達目標]					
質的調査にもとづいて書かれた研究や、質的調査に関する諸問題に関する理論的知見を批判的に検討し、自身の研究に関する視座を獲得すること。					
[授業計画と内容]					
(前期)					
第1回 イン트로ダクション 自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定					
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。					
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。					
第15回 まとめ					
(後期)					
第1回 イン트로ダクション 講読文献の決定、発表担当者の決定					
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。					
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。					
第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

報告と討議への参加によって評価する

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学50

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査にもとづく研究				
【授業の概要・目的】					
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。質的調査にもとづいて書かれた国内外のトップジャーナルに掲載された論文を輪読し、上記の点について議論する。あわせて、受講者の修士論文・博士論文・投稿論文等について、中間報告を行い、議論する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の方法と特徴について理解する ・ 質的調査にもとづく研究論文の記述の仕方を理解する 					
【授業計画と内容】					
<p>【前期】</p> <p>第1回 導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定</p> <p>第2～14回 質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定</p> <p>第2～14回 質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。</p> <p>第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業での報告 60% + 議論への参加 40%					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各々のテーマに沿った研究報告を行うための準備をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学51

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際とデータ分析(専門社会調査士科目H・I)				
[授業の概要・目的]					
<p>社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する。また、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。</p>					
[到達目標]					
<p>データ分析の応用力を身につけ、データ分析のためのテクニックの幅を広げる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査方法論、調査倫理 2. 調査企画と設計(1) 3. 調査企画と設計(2) 4. 仮説構成 5. 尺度構成法 6. サンプルないし対象者・フィールドの選定(1) 7. サンプルないし対象者・フィールドの選定(2) 8. 調査票の作成(1) 9. 調査票の作成(2) 10. 実査 11. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(1) 12. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(2) 13. グラフ作成、仮説の検証(1) 14. グラフ作成、仮説の検証(2) 15. 報告書の作成 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回帰分析の復習 2. 非線形モデル(対数変換、二乗項の投入) 3. 交互作用効果の検討 4. モデルの選択(AIC, BIC, F検定) 5. モデルの診断(残差プロット、VIF) 6. 二項ロジスティック回帰分析(1) 7. 二項ロジスティック回帰分析(2) 8. 最尤推定法と尤度比検定(1) 9. 最尤推定法と尤度比検定(2) 					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

10. 多項ロジスティック回帰分析(1)
11. 多項ロジスティック回帰分析(2)
12. 順序ロジスティック回帰分析(1)
13. 順序ロジスティック回帰分析(2)
14. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(1)
15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(2)

[履修要件]

すでに社会調査士の資格を取得しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習重視。宿題がでる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学52

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学理論のフロンティア				
[授業の概要・目的]					
<p>社会学理論の現在の研究状況を概観できる英文の論文集を精読し、現代の主要な社会学理論の到達点と問題点・課題等について幅広く検討する。取り上げる理論は文化社会学、ミクロ社会学、フェミニズム、世界システム論、ポストコロニアル理論、合理的選択理論、社会システム論、界(field)理論、ポスト構造主義、ネットワーク論、アクター・ネットワーク理論、ネオ・プラグマティズムなど多岐にわたっている。</p> <p>またこれとあわせて受講者による修士論文・博士論文等の中間報告も適宜行う。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 社会学の理論系の英語文献の読解力を高める。 主要な現代社会学理論の特徴・問題点・課題について理解を深める。 自分が準拠している(または関心をもっている)社会学理論について、それが旧来の理論とどのような影響関係にあり、他の競合する理論と比較してどのような長所や短所をもっているのかを理解する。 自分の従事する経験的研究にどの理論がどのように利用できるかを学び、社会学理論への関心を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>前期</p> <p>【第1回】イントロダクション</p> <p>【第2回～第15回】テキストの講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>後期</p> <p>【第1回～第14回】テキストの講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>【第15回】まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
報告レジュメと授業中の発言によって評価する。					
[教科書]					
Claudio E. Benzecry et al.(eds.) 『Social Theory Now』 (University of Chicago Press, 2017) ISBN: 9780226475288					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は毎回テキストの該当箇所を予習してくることを求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 岸 政彦	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>前期は文献の購読をおこなう。「質的調査」とは何か、質的調査を通じて論文を書くことはどのようにして可能か、質的調査はどのように捉えられ、どのように批判され、それに対してどのように応答されてきたのか。あるいはより実践的に、これまで質的調査を通じた論文はどのようにして書かれてきたのか、そしてこれからどのように書いていくことが可能なのか。主にこれらの点について、国内外のトップジャーナルに掲載された論文の分析と批評を通じて、参加者全員によるディスカッションをおこなう。</p> <p>後期は、質的調査をおこなっている参加者がいれば、その方ご自身の研究について報告してもらう。調査計画の検討、データセッション、理論枠組みと分析概念の彫琢、そして実際の論文執筆まで、参加者全員で議論したい。</p> <p>もちろん質的調査をしない方も履修可能である。</p>					
[到達目標]					
<p>質的調査とは何か、質的調査を研究するとはどのようなことかについて専門的な知識と実践的な方法について学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 質的調査は何をするのか 2 質的調査の論文のレビューと分析、批判(1) 3 質的調査の論文のレビューと分析、批判(2) 4 質的調査の論文のレビューと分析、批判(3) 5 質的調査の論文のレビューと分析、批判(4) 6 質的調査の論文のレビューと分析、批判(5) 7 質的調査の論文のレビューと分析、批判(6) 8 質的調査の論文のレビューと分析、批判(7) 9 参加者による調査報告とディスカッション(1) 10 参加者による調査報告とディスカッション(2) 11 参加者による調査報告とディスカッション(3) 12 参加者による調査報告とディスカッション(4) 13 まとめ(1) 質的調査は何をしていくのか 14 まとめ(2) 何をすれば質的調査になるのか 15 まとめ(3) 質的調査の研究の研究 16 各自の調査計画の検討(1) 17 各自の調査計画の検討(2) 18 各自の調査計画の検討(3) 19 各自の調査計画の検討(4) 					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

- 20 各自の調査計画の検討 (5)
- 21 データセッション 情報整理と分析の実際 (1)
- 22 データセッション 情報整理と分析の実際 (2)
- 23 データセッション 情報整理と分析の実際 (3)
- 24 データセッション 情報整理と分析の実際 (4)
- 25 データセッション 情報整理と分析の実際 (5)
- 26 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (1)
- 27 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (2)
- 28 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (3)
- 29 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (4)
- 30 1年のまとめ データと理論の接合をめざして

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート50%、平常点50%

【教科書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』 (2016)
ISBN:978-4-641-15037-9

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学54

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 埴淵 知哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	地域統計・社会調査の理論と実践				
[授業の概要・目的]					
<p>地域で起こる多様な現象の特徴を把握するためには、さまざまな種類の調査法を利用する必要がある。同様に、収集したデータの分析にも多くの方法が存在する。本講義ではとくに量的データに注目し、統計的・系統的な地域調査法に関する基礎的な概念・理論を紹介するとともに、調査の困難化やデジタル化といった現代的課題についても検討する。具体的なトピックとしては、国勢調査や標本調査、インターネット調査、デジタルデータなどが含まれる。また、地理的なデータの分析方法についても可能な限り本授業の中で取り上げ、簡単な実習を含めて、地域を俯瞰的にみる方法を広く議論することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・統計的・系統的なデータの収集・分析・表現に関する基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 ・様々な地域調査法の長所と短所を理解し、課題に対して適切な方法を選択できる能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：人文地理学におけるデータ収集の方法 第3回：国勢調査の利点と欠点 第4回：国勢調査データによる地域特性の把握1（データ収集） 第5回：国勢調査データによる地域特性の把握2（データ加工） 第6回：国勢調査データによる地域特性の把握3（データ分析） 第7回：標本調査の利点と欠点 第8回：インターネット調査の可能性と限界 第9回：公開データと二次分析 第10回：標本調査データによる意識・行動の把握1（データ収集） 第11回：標本調査データによる意識・行動の把握2（データ加工） 第12回：標本調査データによる意識・行動の把握3（データ分析） 第13回：系統的社會観察の可能性と限界 第14回：デジタルデータの可能性と限界 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際にデータを扱う実習を組み込む予定です。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)、作業課題(30点)、レポート(50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

埴淵知哉・村中亮夫編 『地域と統計: 調査困難時代のインターネット調査』(ナカニシヤ出版、2018年) ISBN:4779513405

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。授業時間内で終わらなかった作業課題については授業時間外に完了させること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学55

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 埴淵 知哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	地図で描く都市・地域の諸相				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、さまざまな現象や問題を観察・表現する方法として地図に注目し、地図を通して都市・地域の諸相を理解することを試みる。取り上げる地図はデータマップ、メンタルマップ、デジタルマップなどである。データマップは都市・地域における諸現象の地理的な広がりを可視化し、各地域の特徴や問題を浮き彫りにする。メンタルマップは頭の中にある空間的なイメージを表すもので、私たちが世界や都市をどうとらえているのかを知る手がかりを与えてくれる。またGISやデジタルデータの広がりによって新しいデジタルマップが生み出される一方で、場所の経験を重視して街の特徴を描くユニークな地図帳も登場している。本講義では、こういった様々な種類の地図について学ぶとともに、それによって都市を多面的にとらえることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地図表現の特徴および長所・短所を説明できるようになる。 ・現代都市の諸問題に対して地図を通してアプローチする能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：データマップで描く都市 第3回：都市の歩行環境 第4回：都市の食環境 第5回：都市の社会経済的状況 第6回：都市の社会環境 第7回：地図による推論 第8回：メンタルマップで描く都市 第9回：都市のイメージ 第10回：デジタル地図と方向感覚 第11回：地図の歴史とGIS 第12回：位置情報ビッグデータ 第13回：地域らしさを描く地図帳 第14回：五感と想像力で描く地図 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際に地図を制作する実習を組み込む予定です。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)、作業課題(30点)、レポート(50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

マイケル・ボンド 『失われゆく我々の内なる地図 空間認知の隠れた役割』(白揚社、2022年)
ISBN:4826902379

若林芳樹 『地図の進化論 地理空間情報と人間の未来』(創元社、2018年) ISBN:4422400371

デービッド・バニス, ハンター・ショービー 『ポートランド地図帖 地域の「らしさ」の描きかた』
(鹿島出版会、2018年) ISBN:4306046699

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学56

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 米家 泰作		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか - 山村の歴史地誌 -				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、紀伊山地を事例として、歴史地理学的な視点から、山村地域の成り立ちについて議論する。自然環境、古代史、宗教史、政治史、集落形成、環境の利用と改変、焼畑、林業、人口動態に留意しながら、山地斜面に多くの集落が分布するこの地域の特色を理解していく。紀伊山地の人口は集落の形成とともに歴史的に漸増してきたが、1960年頃をピークとして急減していく。その背景には、環境利用の高度化によって、経済地理の拡大に対応できず、生業の柔軟性を低下させたという事情がある。</p>					
[到達目標]					
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 山村という視点 第2回 限界集落の時代 第3回 山地環境と集落立地 第4回 古代の伝承とその痕跡 第5回 修験道と大峯山 第6回 寺領荘園と山村の形成 第7回 近世を迎えた山村地域 第8回 山村の多様な生業 第9回 『和州吉野郡群山記』にみる近世山村の世界 第10回 焼畑による巧みな森林利用 第11回 焼畑から林業へ 第12回 失われゆく多様な生業 第13回 育成林業の近代 第14回 山村地域の行方 第15回 フィードバック(方法は授業中に説明)</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(30%)と学期末のレポート(70%)により評価する。前者は授業数回ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

米家泰作『紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか』(古今書院、2024) ISBN:978-4-7722-6123-4 (本書に沿って授業を進めるが、購入・持参を義務づけるものではない。)

[参考書等]

(参考書)

米家泰作『森と火の環境史』(思文閣出版) ISBN:9784784219735

米家泰作『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:9784751733508

白水智『中近世山村の生業と社会』(吉川弘文館) ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智『山と森の環境史』(文一総合出版) ISBN:9784829911999

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学57

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 米家 泰作		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	山村の歴史地理と近世近代史料				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、山村の歴史地理にかかわる近世・近代の文書を講読し、どのような史料がどのような形で伝存しているのか、またそこから何が読みとれるのかを検討する。具体的には、授業担当者が研究上関わってきた奈良県吉野郡川上村と十津川村の史料から、山村地域の歴史地理的な特色を伝える史料を幾つか選び、順次、読み進める。受講生には、割り振られた史料について、簡単な内容紹介の担当をお願いする。</p> <p>なお史料は、基本的には『川上村史』、『十津川村史』の翻刻を用いる。くずし字の解読は扱わない。</p>					
[到達目標]					
<p>村落の歴史地理を研究する上で基本となる史料の性格を理解し、調査や研究に取り組むための基礎知識を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1. はじめに(ガイダンス)</p> <p>【近世の部】</p> <p>2. 検地帳</p> <p>3. 村明細帳</p> <p>4. 村絵図</p> <p>5. 国絵図・郷絵図</p> <p>6. 嘆願書</p> <p>7. 土地売買文書</p> <p>8. 由緒書・旧記</p> <p>【近代の部】</p> <p>9. 皇国地誌</p> <p>10. 地籍図・土地台帳</p> <p>11. 林業税(口役銀/開産金)</p> <p>12. 林業組合</p> <p>13. 秣山/草山</p> <p>14. ダム開発</p> <p>15. フィードバック(方法は授業中に指示する)</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

前期に同じ曜日時限で開講する「山村の地域誌 - 紀伊山地の歴史地理」と、内容的には連動しているため、それを受講しておくことで理解の助けとなるが、必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点（50％）と学期末のレポート（50％）により評価する。前者は割り振られた史料の内容紹介にもとづく。後者は授業で扱った史料について自由に考察する学期末レポートによる。

[教科書]

米家泰作『紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか』（古今書院、2024）ISBN::978-4-7722-6123-4（本書と内容的に深くかかわるが、購入・持参を義務づけるものではない。）

[参考書等]

（参考書）

米家泰作『森と火の環境史』（思文閣出版、2019）ISBN:9784784219735

米家泰作『中・近世山村の景観と構造』（校倉書房、2002）ISBN:9784751733508

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>（講師の業績など（京都大学教育研究活動データベース））

<https://researchmap.jp/tkomeie/>（リサーチマップ（科学技術振興機構））

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>（ORCID（Open Researcher and Contributor ID））

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>（講師のフェイスブック）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業を講読形式で進めるので、担当を割り当てられた史料の紹介については、あらかじめ準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。メールアドレスは授業時に開示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	防災研究所 教授 松四 雄騎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月3日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地） 9月4日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス） 9月5日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検 京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料</p>					
<p>地理学(特殊講義)(2)へ続く</p>					

地理学(特殊講義)(2)

の採集を行う。

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

関連する資料等を授業の中で配布・紹介する。

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

[参考書等]

(参考書)

塚本 良則 『森林・水・土の保全 湿潤変動帯の水文地形学』（朝倉書店，1998）ISBN:4254470274

[授業外学修（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので，ホームワークとしてこなすこと．

(その他（オフィスアワー等）)

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため，動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上，虫よけや雨具，筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること．

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学59

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	流通経済大学経済学部 教授 杉山 和明		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会・文化地理学から考える「レジャーの空間」の光と影				
[授業の概要・目的]					
<p>現代の日常生活が営まれる舞台となる都市空間の成り立ちと都市の文化の特徴について知っておくことは、自らの生活環境の諸問題を把握し考察していく際に不可欠である。この講義では、近現代のさまざまな地域の事例を取り上げなら、都市の文化としての余暇活動について理論的かつ経験的に理解することを目的とする。社会・文化地理学ならびにその近接分野で蓄積されてきた知見をもとに、余暇活動に関わる具体的なテーマを通じて、さまざまな社会的立場によって見方が変化する、都市文化の正と負の側面について考えていく。</p>					
[到達目標]					
<p>社会・文化地理学の枠組みから都市の文化(「レジャーの空間」)を理解することによって、自らの生活環境の諸問題を主体的に考察するための基礎的な力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：受講ガイダンス 2. 都市の文化とは何か：諸分野のアプローチとキーワード 3. 産業革命・都市化・余暇活動：近代化とレジャーの変容 4. 都市の文化としての身近な余暇活動：『レジャー白書』の定義 5. 余暇活動の多様化と交通・通信の発達 6. 余暇活動と事故・病理・逸脱・非行・犯罪 7. 産業としてのギャンブル(1)：公営競技とパチンコ・パチスロ 8. 産業としてのギャンブル(2)：国際観光振興とIR、カジノ論争 9. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(1)：風営法と飲食業 10. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(2)：「サードプレイス」としての酒場 11. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(3)：世界のアルコール関連問題と飲酒規制 12. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(4)：青少年条例と「有害環境」 13. 都市とメガイベント：東京オリンピックにみる都市改編とレガシー 14. 未来都市の文化：労働と余暇の新たな関係？監視資本主義とスマートシティ 15. まとめ：重要事項の確認，期末レポートの注意など <p>講義計画に従って進める予定ですが、進行の具合、時事問題への言及などに応じて、順序や同一テーマの回数を変えることがあります。</p>					
[履修要件]					
<p>ノートPCを持参してください(資料の閲覧、小レポートの執筆に必須)。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>・授業中の小レポートおよびそれらを一つにまとめて全体の感想を書いた期末レポート(100%)を中心に、自己紹介文の提出状況も踏まえて、総合的に判断します。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

- ・ 独自の見解が盛り込まれたレポートには高い点を与えます。

[教科書]

- ・ 教科書は指定しません。担当者が用意する資料を用いて講義を行います。
- ・ 資料の配布（ペーパーレス）やレポート課題の提出は、KULASIS（あるいはGoogle Classroom）で告知します。

[参考書等]

（参考書）

授業中に随時紹介します。映像資料なども活用します。

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 資料を各自で閲覧し、授業に備えてください。
- ・ 講義で扱った内容について小レポートを書くことで理解を深めていってください。
- ・ 優秀な小レポートについては、KULASIS（あるいはGoogle Classroom）に匿名で掲載し、講義中に適宜紹介します。

（その他（オフィスアワー等））

- ・ 集中講義の開講日程によっては、前期の成績報告が遅れることがあります。
- ・ 以下は担当者の紹介ページです。

杉山 和明 | 流通経済大学

<https://www.rku.ac.jp/faculty/professors/27749/>

杉山 和明 (Kazuaki Sugiyama) - マイポータル - researchmap

<https://researchmap.jp/read0141402/>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学60

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪市立大学経営学研究科・商学部 立見 淳哉 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	産業集積論を中心に地域発展をめぐる論点およびその変化を理解する				
[授業の概要・目的]					
<p>産業集積論を中心に地域発展を考察する学術的議論を扱う。産業集積とは特定の地理的範囲に多くの企業が集まっている状態のことをいい、都市あるいは大都市圏もひとつの巨大な集積地域もしくは集積地域の複合体である。この授業では、具体的な事例を交えながら、主として産業集積論の理論的エッセンスについて紹介していく。1980年代のポスト・フォーディズム論を背景とした産業集積への注目から、今日に続く、知識創造、集団学習、イノベーション、価値づけに関する議論までを整理する。</p>					
[到達目標]					
<p>講義を通じて、現代資本主義における経済活動と地理的環境の相互関連を理解する。都市・地域産業政策の理論的背景とともに、イノベーションに果たす外部環境の多面的な意味を各自が理解し、説明できるようになることを目指す。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 産業集積論の系譜 第3回 外部経済と外部不経済：住工混在問題 第4回 柔軟な専門化 第5回 取引費用論を用いたスコットのアプローチ 第6回 産業集積と制度 第7回 イノベティブ・ミリュー論1：ミリューと制度 第8回 イノベティブ・ミリュー論2：ミリューの機能 第9回 産業集積と制度：中間まとめ 第10回 「生産の世界論」1 第11回 「生産の世界論」2 第12回 コーディネーションから「価値づけ」の空間へ 第13回 価値付けと産業集積：「地域の価値」への着目 第14回 ソーシャル・イノベーションの産業「集積」：PTCE 第15回 フィードバック</p> <p>・受講生の関心に応じて講義内容や順番を変更することがあります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、各回の課題（ミニレポート等）100%とする。
課題については、到達目標の達成度について評価を行う。

[教科書]

立見淳哉 『産業集積と制度の地理学: 経済調整と価値づけの装置を考える』（ナカニシヤ出版，2019）ISBN:4779513871

[参考書等]

（参考書）

山本泰三編 『認知資本主義』（ナカニシヤ出版，2016）ISBN:4779509378

[授業外学修（予習・復習）等]

講義は各回の授業で扱う概念を積み重ねながら展開していきますので、内容を十分に復習するようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

質問があればメール等でも受け付けますので、お気軽にご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学61

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 佐藤 廉也 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文化地理学からみるアジア・アフリカの人と環境				
【授業の概要・目的】					
この講義では、主として文化地理学的なアプローチから、アジア・アフリカ諸地域の人間と環境との関係を理解することを目的とします。各地の農耕文化や知識・技術、価値観といった文化要素をとりあげつつ、それらにアプローチするための理論やフィールドワークの方法についても併せて紹介します。					
【到達目標】					
以下の3点を到達目標とします。 ・文化とは何かということ、および文化にどのようにアプローチすることができるか、その理論と方法を身につけること ・アジア・アフリカ各地域の文化を空間的広がりの中からとらえ、理解すること ・人間と環境との関係に対して、文化という概念を介在させてその動態を理解する具体的な方法を身につけること					
【授業計画と内容】					
01 イントロダクション：地理学からみる世界 02 焼畑とはどんな農法か？(1) 03 焼畑とはどんな農法か？(2) 04 そもそも文化とは何か？文化にどのようにアプローチできるのか？ 05 エチオピアという多様で不思議な世界 06 エチオピアのマイノリティ社会 07 人と環境をむすぶ文化の役割：自然に関する知識の獲得と継承 08 乾燥とたたかう農業・雑草とたたかう農業 09 イネのアジア地誌：稲作にとって灌漑と田植えはあたりまえ？ 10 「食事日誌」からみたラオス少数民族社会の食料獲得戦略 11 変わりゆく中国・黄土高原の暮らし 12 世界の<価値観>はどのように進化しているのか？ 13 暴力と戦いの人類誌：戦争はなくせる？無理？ 14 ところで「環境決定論」っていけない考え方なの？ 15 フィードバック(具体的内容は授業中に指示する)					
【履修要件】					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート試験の成績(60%)と、小コメント(40%)の充実度、で評価します。
毎回の授業終了後に小コメントを提出してもらいます。

[教科書]

使用しない
スライド(配布資料)に従って講義を進めます。

[参考書等]

(参考書)

佐藤廉也・宮澤仁(編)『人文地理学からみる世界』(放送大学教育振興会、2022)ISBN:9784595323249(講義内容に関連する章があります。必読ではありません。参考にしてください。)

佐藤廉也『大学の先生と学ぶ はじめての地理総合』(KADOKAWA、2023)ISBN:9784046060617(必読ではありませんが、教員免許取得を考えている受講生の方は参考にしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義スライドは授業支援システムから配布します(紙の資料は配りません)。予習に活用してください。

毎回の授業後に小コメントを提出してもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

質問は講義終了後、および随時メール等で受け付けます。メールアドレスは以下です。
rsato7788(アット)gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学62

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	奈良大学 文学部 教授 三木 理史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	鉄道廃止の地理学的研究				
[授業の概要・目的]					
<p>コロナ禍以後に注目の高まってきた日本の鉄道廃止の問題を、近年のコロナ禍や人口減少につなげて考えるにとどめず、歴史的に遡ってその変化から考えてみることを課題とする。日本にとどまらず、世界的にも鉄道は近代化の象徴と見られてきたことから、地理学はもとより関連分野においても路線網の「拡大」過程に関する研究や言及は数多いが、その「縮小」過程に関する研究は少ない。また交通に関わる研究では、交通の盛衰から人口、都市、農村など他の要因を説明する要素としての言及は多いが、交通そのものの盛衰に関わる研究は少数にとどまる。それら地理学および隣接分野での交通の取り扱い方にも注意を払いながら、日本の鉄道廃止を考えてみる。</p>					
[到達目標]					
<p>担当者の専門分野を中心とする人文地理学の基礎的な考え方や見方を学ぶとともに、その知見を活用して現代社会の抱える問題にどのような見方や考え方が可能なのにもつながるように講義してみたい。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には、以下の構成に従って講義を進める。なお、講義の順序や内容の細部を変更する場合があります。</p> <p>第1回 地理学での交通の取り扱い：授業の序説として 第2回 鉄道廃止をめぐる研究動向(1) 第3回 鉄道廃止をめぐる研究動向(2) 第4回 日本の鉄道廃止の大勢(1) 第5回 日本の鉄道廃止の大勢(2) 第6回 明治期の鉄道廃止と沿線地域(1) 第7回 明治期の鉄道廃止と沿線地域(2) 第8回 利用減少が原因か(1) 第9回 利用減少が原因か(2) 第10回 第二次世界大戦期の特殊性 第11回 炭砦集落崩壊と鉄道廃止 第12回 国鉄改革と鉄道廃止(1) 第13回 国鉄改革と鉄道廃止(2) 第14回 地域交通の持続可能性と鉄道廃止 第15回 まとめと総括</p> <p>*フィードバック方法は授業中に説明します。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

討論への積極的な参加（20点）、小レポート（30点）、試験または期末レポート（50点）により評価する。

【教科書】

使用しない

担当者の関係する論文などは授業内で紹介するが、主なものは<https://researchmap.jp/>の担当者ページからPDFデータを取得できるので、事前に一読しておいてもらえれば講義内容がより理解しやすくはなると思う。

【参考書等】

（参考書）

堀内重人 『鉄道・路線廃止と代替バス』（東京堂出版,2010年）ISBN:9784490206968（本書で21世紀初頭の鉄道廃止状況を概観し、そこを出発点に考えてみましょう。）

辻本勝久 『交通基本法時代の地域交通政策と持続可能な発展 - 過疎地域・地方小都市を中心に』（白桃書房,2011年）ISBN:9784561761914（本書で近年の持続可能性論との関わりで問題を見つめ直してみよう。）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示します。

（その他（オフィスアワー等））

授業後の声掛けには応じますので遠慮なく質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学63

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 稲垣 稜		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大都市圏構造の変化				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、20世紀に形成された大都市圏が、どのように変容して現在に至っているのか、どのような課題を抱えているのかを考える。まずは、大都市圏の形成過程について解説し、その構造がいかにして変容してきたのかを議論する。そのうえで、大都市圏を、都心、郊外(内部郊外)、外縁部(外部郊外)に区分し、それぞれの地域において生じている諸現象を、日常生活行動の観点から明らかにしていく。私たちの日常生活行動において重要な指標である通勤行動と買い物行動に着目し、その行動パターンが、世代、性別などによって大きく異なることを明らかにし、それが大都市圏構造をかかわっていることに目を向ける。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大都市圏という地域構造から、私たちの住む都市地域の変化を理解することができる。 2. 大都市圏で生じている諸課題に対し、主体的に検討することができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 大都市圏とは？ 第3回 大都市圏構造の変容 第4回 大都市圏郊外における中心都市通勤者の減少要因 第5回 大都市圏郊外の鉄道駅周辺における居住と通勤の特性 第6回 大都市圏外縁部における新旧住民の通勤行動 第7回 都心の人口回復と職住関係 第8回 大都市圏郊外における買い物行動の縦断分析 第9回 大都市圏郊外における買い物困難者の実態 第10回 大都市圏外縁部における新旧住民の買い物行動 第11回 都心居住者の買い物行動と都心商業地区 第12回 郊外第二世代の就業行動 第13回 郊外第二世代の居住行動 第14回 郊外第二世代と求人・求職 第15回 まとめとフィードバック</p> <p>授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に実施する小テストに基づく平常点（50点）、期末レポート（50点）で評価する。

[教科書]

稲垣稜 『日常生活行動からみる大阪大都市圏』（ナカニシヤ出版，2021年）ISBN:9784779515897

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前後に教科書を読んで予習・復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学64

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪公立大学 文学研究科 教授 山崎 孝史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「政治」を地理学する 政治地理学の方法論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、地理学において「政治」がどのように考察・分析されるかを講述する。政治事象を対象とする地理学、つまり政治地理学が扱うのは、今日多様なスケールにおける多様な主体が関わる営みや実践としての「政治」であり、その範疇も権力・政策・支配・自治といった領野を越えている。したがって、そうした「政治」の多様性や重層性に応じた地理学方法論を考察するのが本授業の目的である。政治地理学方法論のテキストを用いて、3部15章を構成する様々なトピックについて各週で講述する。</p>					
[到達目標]					
<p>政治地理学において活用される理論と方法論を理解し、現代世界における多様な政治事象を地理学的観点から考察・分析できる資質を養う。また、政治的争点の地理的構成を理解することを通して、政治事象に対する多面的な視点を獲得できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1週 民主主義 第2週 支配と対立 第3週 地方自治 第4週 外交・安全保障 第5週 環境をめぐる政治 第6週 宗教 第7週 ジェンダー 第8週 観光 第9週 農産物 第10週 大阪と佐世保 第11週 ウトロ 第12週 沖縄島 第13週 対馬 第14章 ランペドゥーザ島 第15章 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

各週のショート・レポート(60%)およびフィードバック・レポート(40%)によって評価する。

[教科書]

山崎孝史編 『「政治」を地理学する 政治地理学の方法論』(ナカニシヤ出版、2022年) ISBN: 978-4-7795-1661-0

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://polgeog.jp/>(教員ウェブサイト「政治地理のページ」)

[授業外学修(予習・復習)等]

各週のテキスト内容について予習した結果を事前のショート・レポートとして提出すること。フィードバック・レポートは最終週以後に提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

授業終了後にオフィスアワーの時間を設けることが可能なので、事前に連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学65

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的研究とフィールドワーク				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では質的研究を行うための基本的な視座・方法を学ぶ。それと同時に、フィールドワークの方法や民族誌・地誌の記述をめぐって展開されてきた議論を踏まえた上で、近年注目されている新たな方法や潮流について学び、その可能性や限界について考える。</p> <p>なお、この授業では事前に指定された論考をレジュメにまとめ、解説する担当者を各回で決める。担当者以外の受講生も事前に指定された論考を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加することが求められる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的研究を行うための基本的な視座・方法について理解する。 ・ フィールドワークや民族誌・地誌の記述において生じる諸問題と、それらを乗り越えるための視座・方法の可能性について、自ら考え、意見を述べることができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第2回目 アートとしての質的研究</p> <p>第3回目 フィールドワークの人間関係</p> <p>第4回目 フィールドワーカーのポジショナリティ 1 ポストコロニアリズム</p> <p>第5回目 フィールドワーカーのポジショナリティ 2 地理的表象の危機</p> <p>第6回目 フィールドで/フィールドワークから考える</p> <p>第7回目 フィールドノーツ</p> <p>第8回目 インタビューの技法</p> <p>第9回目 インタビューの構築性</p> <p>第10回目 フィールドワーク・場所・身体 1 あわいの空間</p> <p>第11回目 フィールドワーク・場所・身体 2 自己変容</p> <p>第12回目 フィールドノーツをもとに記述する</p> <p>第13回目 ラディカル・オーラル・ヒストリー</p> <p>第14回目 オート・エスノグラフィー</p> <p>第15回目 まとめとフィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>・ この授業では事前に指定された論考をレジュメにまとめ、解説する担当者を各回で決める。担当者以外の受講生も事前に指定された論考を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加することが求められる。担当決めや進め方の詳細は履修生の人数を考慮して授業内で説明する。</p>					
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----					

地理学(特殊講義) (2)

- ・積極的なディスカッションへの参加（20点）とレジюме作成・解説（40点）、期末レポート（40点）で評価する。
- ・レジюмеと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の渉猟をするなどの努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

授業で事前に指定した論考と受講生が作成したレジюме，また必要に応じて参考資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法』（2022）

森川 洋 『人文地理学の発展 英語圏とドイツ語圏との比較研究』（2004、古今書院）ISBN:978-4772240536

[授業外学修（予習・復習）等]

レジюме作成担当者は決められた期限までにPandAにレジюмеをアップロードする。事前に指定された論考を読んで授業に臨み，ディスカッションに参加できるように準備しておく。

（その他（オフィスアワー等））

面談は必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「被災地」における場所の喪失と再構築－岩手県陸前高田市を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、東日本大震災で甚大な津波被害を受けた岩手県陸前高田市を中心として、「被災地」における場所の喪失と再構築を人文地理学の観点からよみとく。</p> <p>この授業は次の2つの進め方に分かれる。</p> <p>1. 授業担当者が映像資料なども用いて陸前高田の震災と復興の経験について講義し、人文地理学および隣接分野の概念やアプローチを援用しながら「被災地」をめぐる諸問題を提示する。</p> <p>2. 受講生が講義で提示された諸問題に関連する著作を1人1つずつ選んで発表し、著作の内容を解説・批評する(授業計画の文献発表 ~)。</p> <p>この2つを交互に行い、担当者を含む授業の参加者が「被災地」をめぐる諸問題についてディスカッションすることで、理解を深める。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・「被災地」で生起している現象を、地理学の重要概念を用いて理解・説明できるようになる。 ・「被災地」に関する著作を自分で読み、解説・批評できるようになる。 ・「被災地」をめぐる諸問題について、各自が自分の意見を述べるができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第2回目 陸前高田の地理と歴史</p> <p>第3回目 震災による場所の喪失 1 高田町, 気仙町</p> <p>第4回目 震災による場所の喪失 2 広田町, そのほか</p> <p>第5回目 文献発表 地理・歴史・震災</p> <p>第6回目 大文字・小文字の復興</p> <p>第7回目 文献発表 「復興」とは何か</p> <p>第8回目 復興による場所の喪失と再構築</p> <p>第9回目 文献発表 復興災害</p> <p>第10回目 震災と復興を通じたつながり</p> <p>第11回目 文献発表 NPO・移住者</p> <p>第12回目 哀悼の場所</p> <p>第13回目 語り / 語ることと可傷性</p> <p>第14回目 文献発表 災禍と語り</p> <p>第15回目 まとめとフィードバック</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ディスカッションへの貢献（20点）とレジюме作成・解説（40点）、期末レポート（40点）で評価する。
- ・授業担当者は文献発表 ~ で取り上げる著作のリストを提示するが、関連する内容で、ほかに取り上げたい著作があればそれを選択してもかまわない。
- ・担当者以外の受講生も事前に発表される著作を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加することが求められる。担当決めや進め方の詳細は履修生の人数を考慮して授業内で説明する。
- ・レジюмеと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の渉猟をするなどの努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

【教科書】

授業でレジюмеを配布する。

【参考書等】

（参考書）

宮城 孝ほか編 『仮設住宅その10年 陸前高田における被災者の暮らし』（2020）ISBN:978-4275021274

中井 検裕ほか編 『復興・陸前高田 ゼロからのまちづくり』（2022）ISBN:978-4306073616

大門 正克ほか著 『「生存」の歴史をつなぐ 震災10年、「記憶のまち」と「新たなまち」の交差から』（2023）ISBN:978-4881161272

【授業外学修（予習・復習）等】

文献 ~ のレジюме作成担当者は決められた期限までにPandAにレジюмеをアップロードする。他の受講生も事前に発表される著作を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加できるように準備しておく。

（その他（オフィスアワー等））

面談は必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学67

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義 I) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏 人と社会の未来研究院 教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 講師 Duncan Wilson 文学研究科 助教 藤本 花音	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	実験心理学概論				
【授業の概要・目的】					
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。					
【到達目標】					
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。					
第1回 実験心理学とは何か(全員)					
第2回 脳と神経(蘆田)					
第3回 感覚知覚の諸相(蘆田)					
第4回 感覚知覚の歴史と基本法則 クロスモーダル知覚(蘆田)					
第5回 心理物理学的測定法(蘆田)					
第6回 知能(蘆田)					
第7回 社会的認知(阿部)					
第8回 意思決定(阿部)					
第9回 注意(熊田)					
第10回 実行機能(熊田)					
第11回 バーチャルリアリティ(藤本)					
第12回 身体(藤本)					
第13回 学習理論(黒島)					
第14回 記憶(黒島)					
第15回 前期総括(黒島)					
第16回 後期導入(黒島)					
第17回 思考・推理(黒島)					
第18回 社会的知性(黒島)					
系共通科目(心理学)(講義 I)(2)へ続く					

系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)

- 第19回 メタ認知(黒島)
第20回 動物心理学と動物の福祉(Wilson)
第21回 認知バイアスと感情(Wilson)
第22回 脳と行動の側優位性(Wilson)
第23回 顔認知(Wilson)
第24回 発達理論(森口)
第25回 知覚発達(森口)
第26回 認知発達(森口)
第27回 社会性発達(森口)
第28回 感情発達(森口)
第29回 総括(全員)
第30回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験(筆記)による(100%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
京都大学心理学連合『心理学概論』(ナカニシヤ出版)ISBN:9784779503993(心理学の全貌を基礎から知るための概論書。)

【授業外学修(予習・復習)等】

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義IIb) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 黒島 妃香	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	知性と感情の系統発生論				
[授業の概要・目的]					
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。					
[到達目標]					
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。					
[授業計画と内容]					
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習1(学習の基本的諸原理) 3．学習2(学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚1(色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚2(形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考1(推論) 8．動物たちの思考2(概念) 9．動物たちのコミュニケーション 10．動物たちの感情 11．動物たちの社会的知性1(欺きと協力) 12．動物たちの社会的知性2(社会的知性の諸要素) 13．動物たちの意識と内省1(自己認知・メタ認知) 14．動物たちの意識と内省2(心的時間旅行) 15．総括 					
-----系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)へ続く-----					

系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

評価方法：講義後に行う小クイズや小レポートなどによる平常点（50%）、及び期末レポート（50%）により評価

評価基準：期末レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の講義内容を、レジюмеや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学69

科目ナンバリング		U-LET28 27109 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義IIe) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学講義IIe：知覚心理学				
[授業の概要・目的]					
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。					
[授業計画と内容]					
講義内容は次の通り。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 感覚知覚の一般的特徴 3 視覚システムと基礎機能 4 色の知覚 5 明るさとコントラストの知覚 6 かたちの知覚 7 3次元空間の知覚 8 運動の知覚 9 聴覚 10 音楽知覚 11 その他の感覚と相互作用 12 感性工学 13 視覚の諸相 14 総括 15 期末試験 16 フィードバック(実施方法は授業中に指示する) 					
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。					
[履修要件]					
特になし					
-----系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)へ続く-----					

系共通科目(心理学)(講義Ile)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。
授業内での発言等により加点する場合がある。

[教科書]

吉澤達也 編 『感覚知覚の心理学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-52034-7（購入必須ではないが強く推奨する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本，ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに，各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学70

科目ナンバリング		U-LET28 27113 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 森口 佑介	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知発達論(発達心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>ヒトの認識はいかに発生するのか。19世紀末から本格的に問われるようになった認知発達に関する問題は、20世紀に著しく発展し、21世紀には神経科学や生物学、言語学、社会学、経済学、教育学などとの接点を得て、新しい展開を迎えている。本講義では、認知発達に関する歴史的経緯を概観したのちに、認知発達の最新の知見について紹介する。意識、記憶、実行機能、社会的認識などを例に取り上げながら、認識がいかに発生するか、遺伝的要因と環境的要因にいかなる影響をうけるかを講義する。</p>					
[到達目標]					
ヒトの認知発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 認知発達理論小史(1)ピアジェ 3 認知発達理論小史(2)ヴィゴツキーから新生得主義まで 4 認知発達理論小史(3)情報処理理論からコネクショニズムまで 5 脳の発達理論 6 遺伝と環境 7 記憶の発達 8 実行機能の発達 9 社会的認識の発達 10 自己の発達 11 想像力の発達 12 情動の発達 13 意識の発生 14 発達障害 15 まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(50点)およびレポート課題を課す(50点)					
[教科書]					
使用しない					
-----系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)(2)へ続く-----					

系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)

[参考書等]

(参考書)

森口佑介 『おさなごころを科学する 進化する乳幼児観』 (新曜社)
森口佑介 『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』 (講談社現代新書)
森口佑介 『子どもの発達格差 将来を左右する要因は何か』 (PHP新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学71

科目ナンバリング		U-LET28 37132 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義)(感情・人格心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 畑中 千紘		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、人格(パーソナリティ)と感情が心理学においてどのように捉えられているのかを論じる。まず、人格の概念について基本的な理論を説明した後、その個人差を捉える方法や、人格の形成過程や偏りについて解説する。次に、感情に関する理論と感情喚起の機序について基本的な考え方を紹介する。そして、心理臨床と人格との関連についても論じる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格に関する基本的な心理学理論や測定法について説明できるようになる。 ・ 人格の形成過程に影響を与える要因について理解する。 ・ 感情に関する理論を学び、感情の仕組みについて心理学的視点から説明できるようになる。 ・ 感情が行動に及ぼす影響を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合や受講生の理解の状況に応じて内容や順序を変えることがある。なお、授業は基本的にフルオンライン(同期型)を予定している。</p>					
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 人格の概念 第3回 人格の形成過程 第4回 人格の理論(1)特性論 第5回 人格の理論(2)類型論 第6回 人格の測定(1)心理査定の方法 第7回 人格の測定(2)心理査定の実際 第8回 人格の測定(3)心理査定と研究 第9回 人格と病理 第10回 人格の変容 第11回 感情の基礎 第12回 感情の形成過程 第13回 感情と社会 第14回 人格と時代・文化 第15回 フィードバック</p>					
----- 心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

平常点評価：100%（コメントカード：60%，小テスト：40%）

【評価方針】

到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。

【教科書】

講義に必要な資料はその都度配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 授業時に提示された参考文献を読んで、授業内容についてのさらなる理解を深める。
- ・ 授業を通じて得た知識や疑問等をきっかけに、自ら積極的に関連する資料を収集し、理解を深めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業前後の時間や授業毎に提出するコメントカードで、考えたことや疑問等を受け付ける。必要なフィードバックを行うことで、対話的に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学72

科目ナンバリング		U-LET28 37133 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 野口 寿一		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、心理的援助を行う際に必要な、精神医学的見地からの精神疾患の診断とその治療の基礎を学ぶことにある。講義では、まず精神疾患の症状や診断、治療法についてその基礎を系統的に提示し、続いて代表的な精神疾患について、症状、診断、薬物療法、心理治療、連携などを論じる。					
[到達目標]					
心理的援助を行うにあたり必要となる、精神疾患についての基礎的知識を習得する。特に、代表的疾患の症状、診断、治療法等についての理解を深める。					
[授業計画と内容]					
授業は以下のアウトラインに沿って行うが、内容は適宜変更となる。					
第1回 精神疾患と精神医療 第2回 精神症状の見方 第3回 精神疾患の診断 第4回 統合失調症について 第5回 統合失調症の経過 第6回 統合失調症の心理的アプローチ 第7回 うつ病、双極性障害について 第8回 神経症圏の疾患について 第9回 人格障害について 第10回 外因性精神病について 第11回 心的外傷およびストレス因関連障害群について 第12回 自閉症スペクトラム障害 第13回 ADHD、LDその他の発達の問題について 第14回 児童期、思春期の問題について < 期末試験 > 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)(2)

[成績評価の方法・観点]

定期試験 60点
平常点評価 40点

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

三村将、幸田るみ子、成木迅編 『精神疾患とその治療』(医歯薬出版 2019)
中井久夫ら 『看護のための精神医学 第2版』(医学書院 2019)
滝川一廣ら 『子どものための精神医学』(医学書院 2017)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37134 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 月浦 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神経心理学				
[授業の概要・目的]					
<p>脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが、脳が様々な疾患(脳梗塞・脳出血・変性疾患等)によって(局所的に)損傷されると、その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。その事実は、損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し、そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる。本講義では、様々な高次脳機能障害を解説することによってその病態を臨床的に理解し、そこからヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスと神経心理学の方法の概説 2. 基本的脳解剖 3. 視覚認知の障害 4. 行為の障害 5. 言語の障害 6. 言語の障害 7. 記憶の障害 8. 記憶の障害 9. 感情と情動の障害 10. 前頭葉機能の障害 11. 神経心理学的検査 12. 神経心理学的検査 13. 「知・情・意」の神経心理学 14. 教養教育実習 15. 期末試験 					
心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)へ続く					

心理学(特殊講義A)(神経・生理心理学)(2)

16. フィードバック(フィードバック方法は別途連絡します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)

石合純夫『高次脳機能障害学』(医歯薬出版)

山鳥重『神経心理学入門』(医学書院)

河村満・高橋伸佳『高次脳機能障害の症候辞典』(医歯薬出版)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学74

科目ナンバリング		U-LET28 37135 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 月浦 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神経心理学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法(fMRI)などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、高次脳機能障害を呈する脳損傷患者の事例と、健常者を対象とした高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を対比して解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳機能イメージングの方法についての基礎的知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。ヒト認知機能の脳内メカニズムに関しては、伝統的に脳損傷患者を対象として損傷領域と特定の認知機能の障害パターンから研究が行われてきた。しかし、近年の脳機能イメージング技術の発達により、健常者を対象として認知機能に關与する脳内機構を可視化することが可能になってきた。本講義では、脳損傷患者に対する研究と脳機能イメージング法から得られた様々な高次な認知機能を媒介する脳内機構の研究の両方を対比して概説し、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンスと神経心理学の方法の概説 2. 基本的脳解剖 3. 知覚の脳機能イメージング 4. 異種感覚統合と行為の脳機能イメージング 5. コミュニケーションの脳機能イメージング 6. コミュニケーションの脳機能イメージング 7. 記憶の脳機能イメージング 8. 記憶の脳機能イメージング 9. 感情と情動の脳機能イメージング 10. 前頭葉機能の脳機能イメージング 11. 社会的認知の脳機能イメージング 12. 脳機能イメージングの応用 13. 「知・情・意」の神経心理学 14. 教養教育実習 					
心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)へ続く					

心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)

15. 期末試験
16. フィードバック (フィードバック方法については別途指示します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学75

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学 (知覚・認知心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合 第15回 試験 第16回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点 (100点満点) で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。</p>					
----- 心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----					

心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学76

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学 (知覚・認知心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割 第15回 試験 第16回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点(100点満点)で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。</p>					
----- 心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----					

心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学77

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学概論 音声学・音韻論・形態論を中心に				
【授業の概要・目的】					
言語学は、人間のコトバに関わる現象の分析を通じてコトバの使用やその能力を人間が理解可能な形で明らかにしようとする学問である。私たちにとってコトバはきわめて身近な存在でありながら多くの受講生にとって言語学はなじみのない学問領域であると思われる。この授業では、言語学の専門的知識をもたない学生を対象として、言語や言語音を研究するためにこれまで用いられてきた基礎的な概念や用語、分析方法について紹介し、その必要性や問題点を概観する。					
【到達目標】					
言語学の各分野で使われている概念・用語や分析方法についての基礎的知識を修得し、そうした知識を用いて実際に言語データを分析することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
この授業では、人間言語の特徴と言語研究の方法について概観したのち、言語学を構成する主要分野のうち音声学・音韻論と形態論に関するトピックを中心に解説する。以下のようなスケジュールと題目で授業を進める予定である。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。					
第1回	ガイダンスとイントロダクション				
第2回	言葉を話す 人間言語の特徴				
第3回	言葉を探究する 言語研究の方法				
第4回	音を出す 調音音声学				
第5回	音を書く 国際音声記号				
第6回	音を見る 音響音声学				
第7回	音を別ける 音素分析				
第8回	音を分ける 音節とモーラ				
第9回	音を上げる・下げる アクセントとイントネーション(1)				
第10回	音を上げる・下げる アクセントとイントネーション(2)				
第11回	語を分ける 形態素分析				
第12回	語を変える 派生と屈折				
第13回	語を合わせる 複合				
第14回	語を再考する 形態論と統語論				
第15回	フィードバック				
----- 系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く -----					

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（不定期の小レポート）【40%】および定期試験（筆記）【60%】により評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で分からなかった概念・用語や興味をもった事柄は、授業で紹介される文献等を参考に自分で調べて知識として定着させてほしい。ただし、大学での学びにおいて唯一絶対の正解は存在しない。教師の言うことや本に書いてあることには常に疑いの目を向け、自分なりにあれこれ考えてみる大切である。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学概論II - - 談話文法, 統語論, 意味論を中心に				
[授業の概要・目的]					
この授業では, さまざまな研究者の言説の解説を通じて, 言語学の理論的前提と方法論を教授し, 同時に言語の奥深さを体験してもらう。					
[到達目標]					
言語学の理論と基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) 何が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような考えがあるのか。 3) それらの考えの背後に, どのような言語観ひいては人間観があるのか。					
[授業計画と内容]					
言語学の目的は, 言語の考察を通して人間を理解することにあるが, その道は一つではなく多様である。この授業では現代言語学のさまざまな考えを紹介しながら, その問題意識をなるべく具体的な形で解説する。中心的なトピックは, 統語論, 談話文法, 意味論である。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、言語学の下位分野、反証可能性 2. ソシユールの記号的な言語観 3. コミュニケーション1 4. コミュニケーション2 5. 言語とその他のコミュニケーション行動 6. 談話と文 7. アメリカ構造主義言語学 8. アメリカ構造主義言語学と「認知革命」 9. チョムスキー言語学の合理主義的特徴 10. プロトタイプカテゴリと認知言語学 11. 表象主義と状況論 12. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 1 13. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 2 14. 「する」言語と「なる」言語 15. まとめ 					
-----系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く-----					

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

[履修要件]

前期の言語学講義Ⅰを履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

筆記試験

[教科書]

資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学79

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37					
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)			担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期		
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語		
題目	言語変化の考え方						
【授業の概要・目的】							
言語学についての予備知識がない学生を対象にして、歴史言語学の考え方を紹介する。音変化、類推、文法化、統語変化、語彙変化、比較方法、祖語の再建などの基本的な概念を取り上げて、 (1) 言語はどのように変化するのか (2) 言語はなぜ変化するのか という問題について考える。							
【到達目標】							
言語変化の基本的な考え方が把握され、歴史言語学の分野が理解できるようになる。							
【授業計画と内容】							
Bybee (2015) の以下の章について、順次に考察する。なお、今年度は Adam A. Catt がすべての授業を担当する。							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業紹介 2. 第1章 言語変化の研究 3. 第2章 音変化 4. 第3章 より広い観点からの音変化と音韻変化 5. 第4章 音変化と文法間の相互作用 6. 第5章 類推変化 7. 第6章 文法化 8. 第7章 文法化の共通経路 9. 第8章 統語変化 10. 第9章 語彙変化 11. 第10章 比較、再建、および類型論 12. 第11章 言語変化はなぜ起こるのか 13. まとめと諸問題 14. まとめと諸問題 15. まとめと諸問題 							
【履修要件】							
特になし							
-----系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く-----							

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に指示する課題（75％）と平常点（25％）を勘案する。

[教科書]

Joan Bybee 『Language Change』（Cambridge University Press, 2015）ISBN:978-1-107-65582-9

Joan Bybee 『言語はどのように変化するのか』（開拓社, 2019）ISBN:978-4-7589-2272-2

使用する教科書は、英語版と和訳があります。内容は同じですので、自分にとって使いやすい方を買ってください。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習と復習を必ずすること。

（その他（オフィスアワー等））

授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学80

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学の歴史				
[授業の概要・目的]					
<p>言語の研究は長い歴史を有するが、高校までの教科に「言語学」科目が存在しないため、多くの受講生にとってなじみの薄い研究分野になるのではないかと懸念される。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から現代に至る言語研究の歴史を概観することによって、人間が言語に対してもってきた関心の向け方と捉え方の変遷を辿り、今日の言語学の研究方法や、そこで使用される概念・用語の成立の背景について講義する。</p>					
[到達目標]					
<p>過去の言語研究の流れの概要を把握し、現在の言語学の術語や概念の成立の事情が理解する。さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>言語研究に大きな影響を及ぼした個人や分析手法を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は千田俊太郎がすべての授業を受け持つ。解説は、以下の順序に沿って行ってゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 古代の言語学 2. 母語の「発見」と異民族語の「発見」 3. 「インド」との遭遇 4. フンボルト 5. 言語学と科学 6. 青年文法学派 7. 言語学の多様化: ドイツ語圏 8. 言語学の多様化: 非ドイツ語圏 9. 新しい言語学の兆し 10. アメリカの言語学 11. 日本と言語学 12. プラーク学派 13. 言語普遍の探究へ 14. 現代言語学 15. まとめ 					
-----系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く-----					

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

【履修要件】

他の「言語学講義(I, II)」のどれかを履修済みであることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

積極的な授業参加(60%)、定期試験(40%)

【教科書】

資料配布

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学81

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語研究の現代的手法				
[授業の概要・目的]					
現代の言語研究を総合的に理解するための、現代の古典にあたる基礎的論文をテキストにして、重要な概念や分析手法をまなぶ。この授業では、類型論・言語普遍についての論文を取り上げる。					
[到達目標]					
類型論・言語普遍についての基礎的な知識と分析手法を身につける。					
[授業計画と内容]					
今年度のこの授業は千田俊太郎がすべての授業を担当する。この授業では、受講者は講師の用意した論文リストから受け持つ論文(の一部)を選び、内容を紹介した上で批判的に検討する。次は論文リストのサンプルである。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hockett, Charles F. (1960) The Origin of Speech, Scientific American 203, 88-111 Reprinted in: Wang, William S-Y. (1982) Human Communication: Language and Its Psychobiological Bases, Scientific American pp. 4-12. 2. Ladd, D. Robert (2012) What is duality of patterning, anyway? Language and Cognition 4(4): 261 - 273. 3. Evans, Nicholas and Levinson, Stephen C. (2009) "The myth of language universals: Language diversity and its importance for cognitive science", Behavioral and Brain Sciences 32, 429-492 4. Zwicky, Arnold (1978) On markedness in morphology, Die Sprache 24, 129-143. 5. Haiman, John (1983) "Iconic and economic motivation", Language 59(4), 781-819 6. Joseph H. Greenberg (1960) A Quantitative Approach to the Morphological Typology of Language, International Journal of American Linguistics 26:3, 178-194. 7. Greenberg, Joseph H. (1963) Some universals of grammar with particular reference to the order of meaningful elements, in Greenberg, Joseph H. (ed) Universals of Language, 58--90, The M.I.T. Press 8. Croft, William (1995) Modern syntactic typology. In Shibatani, Masayoshi and Theodora Bynon (Eds.), Approaches to language typology, pp. 85-144. Oxford University Press. 9. Dahl, Osten (1990) Standard Average European as an exotic language, in Toward a typology of European languages: Empirical approaches to language typology 8, 3-8 					
<p>第1回：導入 第2-14回：受講生の発表と討論 第15回：まとめ</p>					
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----					

言語学(基礎演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への積極的な参加と受け答え(50%)，レポート(50%)の合計による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

復習を怠らないようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

予約をとってもらえば質問などに応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語創造を通して学ぶ言語のしくみ 言語類型論入門				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、受講者に自分だけの言語をつくってもらう。その作業を通して、人間言語に通底するしくみやそれを分析・記述するための言語学的枠組みを実践的に理解してもらおうというのがこの授業のねらいである。</p> <p>言語を創作するためには、人間言語をどんな観点から見ればよいか、その観点に関して人間言語はどんな選択肢をとりうるかについて知っておく必要がある。この授業ではまず担当講師が、実際の世界の言語のあり方について、特に文法構造に着目していくつかの項目を取り上げ解説する。受講者は解説を聞いて創作する言語について構想を練り、具体的な形式で肉付けして、どんな言語を創り上げたかを中間報告として発表する。言語を創作する際には、どの特徴とどの特徴を組み合わせれば効率的なコミュニケーションが達成可能な言語となるかを考えてもらいたい。実際の言語は、まったく恣意的に諸特徴を組み合わせ成り立っているのではなく、その構造には一定の傾向が見られる。そうした傾向やその背景にあると考えられる原理について中間報告を聞いたのち担当講師が解説するので、それをふまえて自分の創作言語を改訂し、最終的にレポートにまとめて提出してもらおう。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間言語の分析・記述に必要な言語学的枠組みを知識として習得するとともに、それを自分で使いこなす能力を修得する。 ・人間言語に通底する原理について理解し、具体的な言語特徴との関連を考察することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業は3つのパートから成る。第I部では担当講師が文法構造の類型論的基礎知識について講義する。第II部では第I部の内容をふまえ、各受講者が自分たちが創作した言語について発表する。受講者数にもよるが、数人のグループに分かれての作業を予定している。第III部では受講者がつくった言語を取り上げながら、実際の言語に見られる傾向との相違や、言語構造を形づくる原理について担当講師がコメント・解説する。最終的には、第III部の内容をふまえて第II部で発表した創作言語を改訂し、期末レポートとして提出してもらおう。</p> <p>授業は以下の予定に沿って進めるが、受講者数に応じてスケジュールが変更される可能性があるため、【 】内に示した回数はいくまでも目安である。なお、今年度は大竹昌巳がすべての回を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション【第1回】 授業の方針についてガイダンスを行なう。 ・第I部 レクチャー篇【第2回～第7回】 第2回：語順の類型論 					
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----					

言語学(基礎演習)(2)

- 第3回：格標示の類型論
 - 第4回：名詞句の類型論
 - 第5回：動詞句の類型論
 - 第6回：複文の類型論
 - 第7回：その他
 - ・第II部 プレゼン篇【第8回～第12回】
 - ・第III部 コメント篇【第13回～第14回】
 - ・フィードバック【第15回】
- フィードバックの内容については授業内で説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

発表(50%)と期末レポート(50%)に基づき総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

リンゼイ・J・ウェイリー(著), 大堀壽夫 古賀裕章 山泉実(訳) 『言語類型論入門：言語の普遍性と多様性』(岩波書店, 2006年) ISBN:9784000227605

風間伸次郎 山田怜央(編著) 『28言語で読む「星の王子さま」：世界の言語を学ぶための言語学入門』(東京外国語大学出版会, 2021年) ISBN:978-4-904575-87-1

(関連URL)

<https://wals.info/>(The World Atlas of Language Structures Online)

[授業外学修(予習・復習)等]

言語を創作するためには細部を肉付けする必要があるため、そのための時間を適宜設ける必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学83

科目ナンバリング	U-LET49 29648 LJ48				
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（初級A）(語学) Korean	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	朝鮮語（初級）				
【授業の概要・目的】					
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。					
【到達目標】					
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。					
【授業計画と内容】					
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。					
第1回：ガイダンス 第2回：文字(1)（第1課相当） 第3回：文字(2)（第1課相当） 第4回：発音(1)（第2課相当） 第5回：発音(2)（第2課相当） 第6回：単語の表記(1)（第3課相当） 第7回：単語の表記(2)（第3課相当） 第8回：単語の発音(1)（第4課相当） 第9回：単語の発音(2)（第4課相当） 第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当） 第11回：名詞と助詞（第6課相当） 第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当） 第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当） 第14回：否定と肯定（第8課相当） 第15回：期末試験・フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（30点）と学期末試験（70点）。					
【教科書】					
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0					
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----					

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学84

科目ナンバリング	U-LET49 29649 LJ48				
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（初級B）(語学) Korean	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	朝鮮語（初級）				
【授業の概要・目的】					
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。					
【到達目標】					
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。					
【授業計画と内容】					
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。					
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言)（第18課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>					
【履修要件】					
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（30点）と学期末試験（70点）。					
【教科書】					
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0					
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----					

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学85

科目ナンバリング		U-LET30 27302 LJ45			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学概論I				
[授業の概要・目的]					
<p>社会学のディシプリンとしての性格について隣接する学問領域と比較しつつ解説し、社会学の成立から現代までの歴史的展開を辿った後、R. コリンズ(『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』)の整理に従って社会学の主要な理論的伝統を4つに分け、それぞれについて代表的な社会学者の学説を取り上げてその基本的な考え方の特徴を体系的に解説し、それらの成立過程、異同や相互関係について概説する。</p>					
[到達目標]					
<p>社会学的なものの見方の特徴について学び、社会学の代表的な基礎理論についてそれぞれのアプローチの特徴を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。</p> <p>第1回 社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 第3回 機能主義的伝統(1) デュルケム 第4回 機能主義的伝統(2) パーソンズ 第5回 機能主義的伝統(3) マートン、ルーマン、ネオ機能主義 第6回 コンフリクト理論的伝統(1) マルクス、ヴェーバー 第7回 コンフリクト理論的伝統(2) ヴェーバー 第8回 コンフリクト理論的伝統(3) 比較歴史社会学、批判理論 第9回 ミクロ相互作用論的伝統(1) ジンメル、ミード 第10回 ミクロ相互作用論的伝統(2) シンボリック相互作用論、ゴフマン 第11回 ミクロ相互作用論的伝統(3) 現象学的社会学、エスノメソドロジー 第12回 功利主義的伝統 第13回 理論的総合の試み 第14回 まとめと展望 《期末試験》 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----					

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

定期試験による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

ランドル・コリンズ 『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』 (有斐閣、1997) ISBN: 9784641075955

友枝敏雄ほか (編) 『社会学の力(改訂版)』 (有斐閣、2023) ISBN:9784641174818

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は特に必要ないが、授業中に紹介する社会学者の著作を各自の関心に応じて読んでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学概論 II				
[授業の概要・目的]					
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会学的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。					
[到達目標]					
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会学的想像力を身につけることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 社会変動論と現代社会論 第2回 近代化論 第3回 大衆消費社会論 第4回 後期近代とモダニティ論 第5回 階級闘争と社会革命 第6回 社会階層と社会的地位 第7回 中間試験 第8回 社会移動と学歴 第9回 社会学方法論 第10回 科学と知識の社会学 第11回 年齢・時代・コーホートと社会変動論 第12回 家族とジェンダー 第13回 政治と福祉の社会学 第14回 社会学はどう役立つか 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 20%、試験 80%					
[教科書]					
使用しない					
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----					

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

友枝敏雄, 浜日出夫, 山田真茂留 『社会学の力 -- 最重要概念・命題集 改訂版』 (有斐閣) ISBN: 978-4-641-17481-8

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中指示した基本文献を読むこと

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学87

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(実習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際(社会調査士科目G)				
【授業の概要・目的】					
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつとおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。					
【到達目標】					
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施(調査票の配布・回収、面接) 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11 平均値の差の検定 					
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----					

社会学(実習)(2)

- 12 多重クロス表分析
- 13 回帰分析の基礎
- 14 回帰分析の応用
- 15 フィードバック

[履修要件]

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

[授業外学修(予習・復習)等]

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【 大学院聴講生 】

※2024年3月11日現在

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
											大学院聴講生		
科学哲学科学史	8231001	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	月	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学1	
科学哲学科学史	8231002	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	月	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学2	
科学哲学科学史	8231003	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	金	2			伊勢田 哲治	英語	○	現代文化学3	
科学哲学科学史	8231004	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	金	2			伊勢田 哲治	英語	○	現代文化学4	
科学哲学科学史	8231007	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			平岡 隆二	日本語	○	現代文化学5	
科学哲学科学史	8231011	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学6	
科学哲学科学史	8231012	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学7	
科学哲学科学史	8241001	科学哲学科学史(演習)	2	前期	火	3			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学8	
科学哲学科学史	8241002	科学哲学科学史(演習)	2	後期	火	3			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学9	
科学哲学科学史	8241003	科学哲学科学史(演習)	2	前期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学10	
科学哲学科学史	8241004	科学哲学科学史(演習)	2	後期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学11	
メディア文化学	8931001	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	水	1			河崎 吉紀	日本語	○	現代文化学12	
メディア文化学	8931004	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	月	3			山本 昭宏	日本語	○	現代文化学13	
メディア文化学	8931006	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	火	2			山本 昭宏	日本語	○	現代文化学14	
メディア文化学	8931009	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	月	4			松永 伸司	日本語	○	現代文化学15	
メディア文化学	8931020	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	月	4			西山 伸	日本語	○	現代文化学16	
メディア文化学	8931023	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	金	4			藤田 裕史	日本語	○	現代文化学17	
メディア文化学	8931026	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	月	2			山本 耕平	日本語	○	現代文化学18	
メディア文化学	8931029	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	金	3			谷口 文和	日本語	○	現代文化学19	
メディア文化学	8931034	メディア文化学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			梅田 拓也	日本語	○	現代文化学20	
メディア文化学	8941001	メディア文化学(演習IA)	2	前期	金	2			喜多 千草	日本語	○	現代文化学21	
メディア文化学	8941002	メディア文化学(演習IB)	2	後期	水	5			松永 伸司	日本語	○	現代文化学22	
メディア文化学	8944007	メディア文化学(演習II)	2	前期	火	3			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学23	
メディア文化学	8944008	メディア文化学(演習II)	2	後期	火	3			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学24	
メディア文化学	8944009	メディア文化学(演習II)	2	前期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学25	
メディア文化学	8944010	メディア文化学(演習II)	2	後期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学26	
メディア文化学	M432001	メディア文化学(演習)	4	通年	水	2			喜多 千草・松永 伸司	日本語	○	現代文化学27	
現代史学	8433001	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	3			小野沢 透	日本語	○	現代文化学28	
現代史学	8433002	現代史学(特殊講義)	2	前期	火	4			林田 敏子	日本語	○	現代文化学29	
現代史学	8433003	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	1			河崎 吉紀	日本語	○	現代文化学30	
現代史学	8433004	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学31	
現代史学	8433005	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学32	
現代史学	8433006	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	2			高木 博志	日本語	○	現代文化学33	
現代史学	8433007	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	2			高木 博志	日本語	○	現代文化学34	
現代史学	8433008	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	2			石川 禎浩	日本語	○	現代文化学35	
現代史学	8433009	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	2			石川 禎浩	日本語	○	現代文化学36	
現代史学	8433010	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	3			西山 伸	日本語	○	現代文化学37	
現代史学	8433011	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	3			松田 利彦	日本語	○	現代文化学38	
現代史学	8433018	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	4			衣笠 太郎	日本語	○	現代文化学39	
現代史学	8433020	現代史学(特殊講義)	2	前期	金	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学40	
現代史学	8433021	現代史学(特殊講義)	2	後期	金	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学41	
現代史学	8433023	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	4			西山 伸	日本語	○	現代文化学42	
現代史学	8433024	現代史学(特殊講義)	2	後期	木	3			田崎 直美	日本語	○	現代文化学43	
現代史学	8433025	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	4			KNAUDT, Till	日本語	○	現代文化学44	
現代史学	8433026	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	4			KNAUDT, Till	日本語	○	現代文化学45	
科学哲学科学史	8202001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	前期	水	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学46	学部科目
科学哲学科学史	8204001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	後期	水	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学47	学部科目
科学哲学科学史	8206001	系共通科目(科学史I)(講義)	2	前期	水	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学48	学部科目
科学哲学科学史	8208001	系共通科目(科学史II)(講義)	2	後期	水	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学49	学部科目
メディア文化学	8902001	系共通科目(メディア文化学)(講義A)	2	前期	月	4			松永 伸司	日本語	○	現代文化学50	学部科目
メディア文化学	8904001	系共通科目(メディア文化学)(講義B)	2	後期	金	2			喜多 千草	日本語	○	現代文化学51	学部科目
現代史学	8407001	系共通科目(現代史学)(講義I)	2	前期	水	3			小野沢 透	日本語	○	現代文化学52	学部科目
現代史学	8408001	系共通科目(現代史学)(講義II)	2	後期	水	3			塩出 浩之	日本語	○	現代文化学53	学部科目
現代史学	8433027	現代史学(特殊講義)	2	前期	火	5			坂口 正彦	日本語	○	現代文化学54	学部科目
基礎現代文化学系	0062001	基礎現代文化学系(ゼミナールI)	2	前期	木	5			伊藤 憲二・白木 正俊・鈴木 真奈・TATARZUK Marcin Adam・平岡 久代・福田 耕佑	日本語	○	現代文化学55	学部科目

現代文化学1

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	軍事研究の科学技術史(1): マイクロ波研究開発を中心として				
[授業の概要・目的]					
この授業では軍事研究をめぐるさまざまな考えを整理しながら、主に20世紀の具体的な事例を通して軍事研究と科学技術史とのかかわり、とくに軍事研究によって科学技術がどう変わるのか、何を 得て、何を失うのかを検討するものである。事例を通して戦争と軍事技術の内容にも立ち入ること を目指す。前期の授業では科学技術と戦争および戦略思想との関係を概観したのち、レーダーなど と深いかわりのあるマイクロ波の研究と開発を中心とした事例を扱う。受講者の関心などによっ て講義内容を変更することがある。					
[到達目標]					
軍事技術と科学史とのかかわりを通して、科学が社会とどのように相互作用して発展し、性格を変 えていくのかについての理解を深める。					
[授業計画と内容]					
1. オリエンテーション：軍事研究とはなにか 2. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(1) 古代・中世 3. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(2) 近世 4. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(3) 18世紀から19世紀 5. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(4) 20世紀初頭 6. 索敵と科学技術：光学、音響、電波 7. 通信技術と軍事 8. 真空管の発明とマグネトロン 9. 英国におけるマイクロ波研究とマグネトロン開発 10. アメリカにおけるマイクロ波研究とマグネトロン開発 11. 日本におけるマイクロ波研究とマグネトロン開発 12. マイクロ波研究と基礎物理学 13. 戦後の電子工学と軍事研究 14. まとめ：軍事研究には良いこともあるのか？ 15. フィードバック (履修者の関心などにより内容を変更することがある)					
[履修要件]					
特になし					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート1回(100%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

M スーザン リンディ 『軍事の科学』(ニュートンプレス, 2022) ISBN:978-4315526011

小野寺 拓也, 田野 大輔 『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』(岩波書店, 2023) ISBN:978-4002710808

古川安 『科学の社会史 ルネサンスから20世紀まで』(筑摩書房, 2018) ISBN:978-4480098832

コリン・S・グレイ 『現代の戦略』(中央公論新社, 2015) ISBN:978-4120048074

[授業外学修(予習・復習)等]

上記の参考書のほか、適宜参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

軍事研究の科学技術史(1)と軍事研究の科学技術史(2)はそれぞれ単独で履修して構わない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学2

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	軍事研究の科学史(2):核兵器を中心として				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では軍事研究をめぐるさまざまな考えを整理しながら、主に20世紀の具体的な事例を通して軍事研究と科学技術史とのかかわり、とくに軍事研究によって科学技術がどう変わるのか、何を 得て、何を失うのかを検討するものである。事例を通して戦争と軍事技術の内容にも立ち入ること を目指す。後期の授業では第二次世界大戦期における核研究・核開発とそれが戦後に及ぼした変化 を中心とした事例を扱う。核反応論や同位体元素の分離技術を含む原爆開発の具体的な詳細を検討 しつつ、それによる科学者の社会的な役割の変化、そしてオッペンハイマーという人物の理解に大 きな重点を置く。受講者の関心などによって講義内容を変更することがある。</p>					
[到達目標]					
軍事技術と科学史とのかかわりを通して、科学が社会とどのように相互作用して発展し、性格を変 えていくのかについての理解を深める。					
[授業計画と内容]					
1. オリエンテーション:世界戦略と科学技術 2. 20世紀原子物理学の理論と実験 3. エックス線と放射能性物質と人体への影響 4. 核分裂の発見と連鎖反応の理論 5. アインシュタインの責任?:質量欠損および核分裂による電磁的エネルギーの放出 6. 英国における核物理、戦時核研究・核開発 7. マンハッタン計画(1) 8. マンハッタン計画(2) 9. オッペンハイマー 10. ドイツにおける戦時核研究 11. 日本における戦時核研究 12. 放射線影響研究と生物学 13. 戦後日本における軍事研究と学術会議 14. まとめ:軍事研究には良いこともあるのか? 15. フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポート1回 (100%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

M スーザン リンディ 『軍事の科学』 (ニュートンプレス, 2022) ISBN:978-4315526011
ジム・バゴット 『原子爆弾 1938~1950年 いかにも物理学者たちは、世界を残酷と恐怖へ導いていったか?』 (作品#64091, 2015) (品切れ)
カイ・バード, マーティン・シャーウィン 『オープンハイマー 上・中・下』 (早川書房, 2024) ISBN:978-4150506056
伊藤憲二 『励起 仁科芳雄と日本の芸大物理学、下巻』 (みすず書房, 2023) ISBN:978-4622096191
出口康夫, 大庭弘継編 『軍事研究を哲学する』 (昭和堂, 2022) ISBN:978-4812221297
杉山滋郎 『軍事研究』の戦後史 科学者はどう向きあってきたか』 ISBN:978-4623078622
リチャード・J. サミュエルズ 『富国強兵の遺産 技術戦略にみる日本の総合安全保障』 (三田出版会, 1997) ISBN:978-4895831833

[授業外学修(予習・復習)等]

上記の参考書のほか、適宜参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

軍事研究の科学技術史(1)と軍事研究の科学技術史(2)はそれぞれ単独で履修して構わない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学3

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	科学哲学入門上級 Advanced Introduction to Philosophy of Science				
[授業の概要・目的]					
<p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science using a recent textbook, Recipes For Science. The textbook covers basic topics of philosophy of science using many concrete examples from scientific practice. In this semester we go through chapters on the definition of science, experimental method, models, inference and probability. Through lectures and class discussions, this class try to convey the basic concerns of philosophy of science.</p>					
[到達目標]					
<p>To understand philosophical way of looking at science. In particular, this means understanding philosophical arguments and positions covered in the lecture.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>The lectures will be given in English, and structured according to the textbook.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 The importance of science 2 Defining science 3 Recipes for science 4 Experiment 5 Controlled experiment 6 Non-experimental method 7 Models in science 8 Varieties of models 9 Learning from models 10 Deductive reasoning 11 Hypothesis testing 12 Inductive and abductive reasoning 13 Roles of statistics and probability 14 Probability theory 15 Wrap-up 					
[履修要件]					
<p>No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.</p>					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

[教科書]

Potochnik, A. et al. 『Recipes for Science: An Introduction to Scientific Methods and Reasoning』 (Routledge)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他(オフィスアワー等))

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学4

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34			
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	気候科学の哲学 Philosophy of Climate Science				
[授業の概要・目的]					
Climate science is a field of research which plays an essential role in policy making as to climate change. Because of the importance, climate science also became a focus of philosophical investigations in recent years. We will look at some basic issues in philosophy of climate science using Eric Winsberg's book, Philosophy and Climate Science, as a guide.					
[到達目標]					
To understand philosophical ways of looking at climate science, and to acquire capacity to analyze them critically.					
[授業計画と内容]					
The lectures will be given in English, and structured according to the textbook.					
1 Introduction 2 Data (1): nature of scientific data 3 Data (2): evidence of warming 4 Models (1): energy balance model 5 Models (2): mediating models 6 Simulations (1): what is computer simulation? 7 Simulations(2):the purposes of climate modeling 8 Probability 9 Confidence (1) sources of uncertainty 10 Confidence (2) quantification of uncertainty 11 Decision (1): probability and inference 12 Decision (2): risk and uncertainty 13 Value (1): risk 14 Value (2): values and biases 15 wrap-up					
[履修要件]					
No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

[教科書]

Winsberg, E. 『Philosophy and Climate Science』 (Cambridge University Press)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他 (オフィスアワー等))

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学5

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 平岡 隆二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	江戸の宇宙観				
[授業の概要・目的]					
江戸時代の天文暦学者たちは、西洋や中国から伝来する古今東西の天文学知識を手掛かりに、独自の宇宙観・自然認識を練り上げていった。その成立と変遷をたどることで、科学史・思想史・日本文化史・東西交流史についての理解を深める。また、京大が所蔵する関連史料の現地調査に参加し、その整理や取り扱いの方法を学ぶ。					
[到達目標]					
現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義を、当時の文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。					
[授業計画と内容]					
1．本授業の位置づけ 2・3．近世日本天文学とその史料 4・5．キリシタンと科学伝来 6・7．西学書の渡来と影響 8・9．江戸後期の天文暦学 蘭学と梵暦運動 10～14．書誌調査とその方法 15．フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(70%)とレポート(30%)。レポートはこの授業に関連する史料や研究にもとづいて作成すること。					
[教科書]					
使用せず、プリントを配布する。					
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

渡辺敏夫 『近世日本天文学史 上・下』 (恒星社厚生閣、1986-87年)

嘉数次人 『天文学者たちの江戸時代：暦・宇宙観の大転換』 (ちくま書房、2016年)

その他、授業中にも適宜紹介します。

(関連URL)

<http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学6

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編『食と農のいま』					
藤原辰史『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史『ナチスのキッチン』					
科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く					

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学7

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学8

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	分類の科学論：歴史的存在論と知識のインフラストラクチャー				
[授業の概要・目的]					
我々はいかに世界の構造を作り上げ、我々自身を作り上げるか？世界の構造の典型が分類であり、分類について語ることは存在論を語ることである。同時に分類は個人によってではなく知識のインフラストラクチャーによってこそ可能になる。従って、分類について語ることは知識のインフラストラクチャーについて語ることでもある。存在論や知識がそれ自体歴史を持つように、分類もまた、それ自体歴史をもつ。従って分類は、科学史あるいは知識の歴史の対象となる。この授業では、歴史的存在論と知識のインフラストラクチャーを横断する、分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の著作のうち、比較的重要で、入門的なものを取り上げ、分類についての科学論の出発点とする。とくに重点を置くのは、精神疾患や生物の分類である。取り上げる文献は、入手可能性、参加者の関心・語学力等に応じて、変更する可能性がある。					
[到達目標]					
分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の入門的な文献の読解を通して、分類についての科学論的理解を深めると同時に、関連分野の文献を理解し、討論する技能を高める。					
[授業計画と内容]					
1) オリエンテーション：ミシェル・フーコー『言葉と物』から「序」					
2) 歴史的存在論：ハッキング『知の歴史学』から第1章「歴史的存在論」(pp. 1 - 66)と第6章「人々を作り上げる」(pp. 209 - 235)					
3) ジェンダーと分類：ロンダ・シービンガー『女性を弄ぶ博物学』から「なぜ哺乳類は哺乳類と呼ばれるのか？」(pp. 52 - 88)と「ジェンダーと人種の理論」(pp. 163 - 204)					
4) 体系学の発展と生物学の哲学(1)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第1章「第一幕：薄明の前史 一九三〇年代から一九六〇年代まで」(pp. 21-126)					
5) 体系学の発展と生物学の哲学(2)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第2章「第二幕：論争の発端 一九五〇年代から一九七〇年代まで」(pp. 127-204)					
6) 体系学の発展と生物学の哲学(3)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第3章「第三幕：戦線の拡大 一九七〇年代から現代まで」(pp. 205-308)					
7) 体系学の発展と生物学の哲学(4)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第4章「生物学の哲学はどのように変容したか：科学と科学哲学の共進化の現場から」(pp. 309-344)					
8) 体系学論争を越えて：Beckett Sterner and Scott Lidgard, "Moving Past the Systematics Wars," Journal of the History of Biology 51 (2018): 31-67.					
9) 分類とインフラストラクチャー(1): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, <u>Sorting Things Out: Classification and Its Consequences</u> (MIT Press, 1999), "Introduction"(pp. 1-32), Chapter 1 "Some Tricks of					
科学哲学科学史(演習)(2)へ続く					

科学哲学科学史(演習)(2)

the Trade in Analyzing Classification" (pp. 33-50).

10) 分類とインフラストラクチャー(2): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "I. Classification and Large-Scale Infrastructure"(p. 51), Chapter 2, "The Kindness of Strangers: Kinds and Politics in Classification Systems," (pp. 53-106)

11) 分類とインフラストラクチャー(3): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), Chapter 3, "The ICD as Information Infrastructure"(pp. 107-133) (Chapter 4, "Classification, Coding, and Coordination," pp. 135-161).

12) 分類とインフラストラクチャー(4): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "IV The Theory and Practice of Classifications"(pp. 283-284), Chapter 9, "Categorical Work and Boundary Infrastructures: Enriching Theories of Classification"(pp. 285-317), Chapter 10, "Why Classifications Matter" (pp. 319-326)

13) 種問題の科学哲学: 網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』(勁草書房, (2020)から、第一章「種問題とは何か」、第四章「「投げ捨てられることもあるはしご」としての種」

14) 分類と種問題に対する実践的・新物質主義的アプローチ

David Ludwig, "From Naturalness to Materiality: Reimagining Philosophy of Scientific Classification," *European Journal for Philosophy of Science* 13, 8 (2023). <https://doi.org/10.1007/s13194-023-00509-w>.

15) フィードバック

(参加者の関心によって内容を変えることがある)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(授業参加・担当箇所の発表) (50%)

レポート1回(50%)

ただし、発表回数によってはレポートを免除することがある。

【教科書】

三中信宏『系統体系学の世界』(勁草書房, 2018) ISBN:978-4326154517

Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star『Sorting Things Out: Classification and Its Consequences』(MIT Press, 1999) ISBN:978-0262269070 (附属図書館で電子書籍を所蔵)

その他の文献は配布する。

【参考書等】

(参考書)

ハッキング『知の歴史学』(岩波書店, 2012) ISBN:978-4000238779

網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』(勁草書房, 2020) ISBN:978-4326102884

【授業外学修(予習・復習)等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学9

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史研究法：理論と実践				
[授業の概要・目的]					
科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。					
[到達目標]					
科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。					
[授業計画と内容]					
この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の6回目と14回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。					
理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習					
実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。					
ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。					
1. ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール					
2. 理論：実験と研究者集団の科学史的分析: Kohler, “Moral Economy”					
実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書					
レポート課題1発表					
3. 理論：技術の社会構築: MacKenzie, “Nuclear Missile Testing”					
実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他					
4. 理論：標準の科学論: Schaffer, “Late Victorian Metrology”					
実践：文献の入手と整理の実践(書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法)					
5. 理論：実験室の科学史: Shapin, “House of Experiment”					
実践：リーディングとノートテイキングの技法					
課題1レポート提出期限					
6. 研究計画書ワークショップ					
7. 理論：非西洋科学: Hart, “On the Problem of Chinese Science”					
実践：書評と査読					
レポート課題2発表					
8. 理論：「パラダイム論」を超えて: Galison, “Trading Zone”					
実践：アーカイブズ調査/資料撮影とその整理					
9. 理論：科学と表象: Martin, “Toward an Anthropology of Immunology”					
実践：新聞データベースの利用					
10. 理論：実験室とANT: Latour, “Give Me a Laboratory”					
科学哲学科学史(演習)(2)へ続く					

科学哲学科学史(演習)(2)

実践：学会発表とスライド

11. 理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer, “ Institutional Ecology ”

実践：ライティングの技法とバックアップ

12. 理論：実験と物質の科学論: Pickering, “ The Mangle of Practice ”

実践：スタイルと論文投稿と改稿

13. 理論：新物質主義とフェミニズム: Barad, “ Agential Realism ”

実践：科学史における研究倫理

レポート課題2 提出期限

14. 書評 / 査読報告ワークショップ

15. フィードバック

(履修者の関心と必要に応じて内容を変えることがある)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業参加）（50%）

課題2回（50%）

[教科書]

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

[参考書等]

（参考書）

トーマス・S・マラニー, クリストファー・レア 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』(筑摩書房, 2023) ISBN:978-4480837257

戸田山 和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK出版, 2022) ISBN: 978-4140912720

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学10

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	化学の哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>化学はどのような点で哲学の問題となるだろうか。この問題を考える化学の哲学は1990年代から分野としての形を整え、次第に科学哲学の一分野としての存在感を増している。この授業では、近年の論文集からいくつかの論文を読むことで、化学と物理学の関係や化学の存在論など化学の哲学の主要なテーマについて理解を深める。</p>					
[到達目標]					
<p>化学の哲学における主要なテーマと主な立場を理解し、それらの立場を批判的に検討できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の論文集からいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Scerri, E. and Fisher, G. eds. (2016) Essays in the Philosophy of Chemistry. Oxford University Press. (S&F) Scerri, E. and McIntyre, L. eds, (2015) Philosophy of Chemistry: Growth of a New Discipline. Springer. (S&M)</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する(担当者は事前に決めておく)。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当 Scerri "The changing views of a philosopher of chemistry on the question of reduction (2回) (S&F) Manafu "A novel approach to emergence in chemistry" (2回) (S&M) Harre "Causality in chemistry; regularities and agencies (3回) (S&F) Chang "Scientific realism and chemistry" (3回) (S&F) Hendry "Natural Kinds in Chemistry" (2回) (S&F) Needam "One substance or more?" (2回) (S&M)</p>					
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(演習)(2)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学11

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	確率の哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>確率の哲学は哲学の諸問題だけでなく隣接するさまざまな問題領域に適用される応用範囲の広い分野である。しかしその基礎概念は必ずしもよく理解されているとは言えない。この演習では確率の哲学に関するアンソロジーを利用して、この分野についてのより正確で深い理解を身に付けていくことを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>確率の哲学の様々な立場を正しく理解し、それらを批判的に検討できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Hajek, A. and Hitchcock, C. eds. (2016) The Oxford Handbook of Probability and Philosophy. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する(担当者は事前に決めておく)。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) La Caze "Frequentism" (3回) Zynda "Subjectivism" (3回) Gillies "The propensity interpretation" (2回) Millstein "Probability in biology" (3回) Kotzen "Probability in Epistemology" (3回)</p>					
[履修要件]					
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準</p>					
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(演習)(2)

になる。

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学12

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学社会学部メディア学科 河崎 吉紀 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
コミュニケーション論をふまえつつ、メディア産業と文化の関係を取り上げ、メディアの社会的な機能や効果について学説を紹介する。文献の講読を行う場合がある。					
[到達目標]					
メディアが文化や社会に与える影響について、これまでどのように論じられてきたのかを理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション 第2回 非言語のコミュニケーション(1) 第3回 非言語のコミュニケーション(2) 第4回 言語によるコミュニケーション(1) 第5回 言語によるコミュニケーション(2) 第6回 メディア産業と文化(1) 第7回 メディア産業と文化(2) 第8回 メディア産業と文化(3) 第9回 メディアの社会的機能(1) 第10回 メディアの社会的機能(2) 第11回 メディアの社会的機能(3) 第12回 メディアの効果(1) 第13回 メディアの効果(2) 第14回 メディアの効果(3) 第15回 全体のふり返りとまとめ 授業計画を変更し、特定の内容を集中的に取り上げる可能性がある。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 30% 受講態度を評価する。 期末試験 70% 授業の内容において出題する。					
[教科書]					
使用しない					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く					

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された参考書や論文を読む。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業終了後に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36			
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	医療・衛生から見る近代日朝関係史				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、朝鮮の開国(1876年)から日本の植民地統治期(1910~1945年)を対象として、朝鮮において近代医学がどのように導入され、朝鮮社会にどのような影響をもたらしたか、また、朝鮮社会がどのように対応したのかを考える。</p> <p>前近代朝鮮において形成された伝統医学(韓医学)は、近代に入り欧米の宣教師と日本人によってもたらされた医学知識・医療施設の影響を受けつつ、大韓帝国(1897年~)の医療制度整備に組み込まれた。しかし、日本の韓国併合(1910年)以降、伝統医学は周辺化され、西洋医学を主体とした病院・医学教育機関の整備が進められた。</p> <p>近代朝鮮における伝統医学と西洋医学の葛藤、医学を通じた植民地支配体制の確立、植民地を対象とした医学研究、朝鮮人知識人・朝鮮社会の衛生論と朝鮮民衆、等々の問題を最新の研究に即して考察する。全体を、I朝鮮開港~韓国併合、II1910年代、III1920年代~30年代前半、IV戦時期に分け、各時期の医療衛生制度の特徴を概説するとともに、それぞれの時代を特徴的に表すテーマを取り上げ「トピック」として論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>コロナパンデミックによって、国境を越えた感染症の歴史が改めて注目されている。講義の履修によって、第一に、近代日朝・日韓関係史についての基本的な歴史の流れを把握することができる。第二に、植民地医学研究における基本的な概念を理解することができる。これらをベースとして、第三に、近代転換期における朝鮮の医療体制の形成、植民地期における日本の朝鮮支配政策と医療・医学の関係について知識を深めることができるだろう。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス：近代の中の日朝関係と医療・衛生				
第2回	I 朝鮮における西洋医学の流入(1)				
第3回	朝鮮における西洋医学の流入(2)				
第4回	トピック：大韓帝国期・漢城の水道整備				
第5回	トピック：日本赤十字社と大韓帝国				
第6回	II 植民地期初期の医療体制				
第7回	トピック：売買春制度の形成				
第8回	トピック：軍医と植民地医療				
第9回	III 1920年代における医療政策・医学研究の変化(1)				
第10回	1920年代における医療政策・医学研究の変化(2)				
第11回	トピック：志賀潔と朝鮮				
第12回	トピック：京城帝国大学とロックフェラー財団				
第13回	IV 戦時期の医療衛生(1)				
第14回	戦時期の医療衛生(2)				
第15回	朝鮮解放と医療				
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート(60%)、授業への参加(40%。随時小テストを行う)をもとに評価します。

[教科書]

毎回レジュメを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する文献を読み各自で理解を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学14

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸市外国語大学外国語学部 山本 昭宏 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「戦後」日本文化史研究 小説・映画・マンガ				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、「戦争が生み出した表現」という観点から「戦後」日本文化史を辿る。なお、この授業でいうところの「戦後」は、便宜的に1945年から73年までを指すが、この期間の文化史を考える際には、それ以前と以後の時代を踏まえる必要がある。そのため、授業では適宜「戦後」の枠を越えた議論を行うだろう。対象は小説・映画・マンガだが、文学研究・映像研究・マンガ研究という個別の方法論に即して論じるのではなく表象論と思想史研究によって各ジャンルを横断的に論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>到達目標は以下のとおりである。</p> <p>(1) 戦後史および文化史の基本的事項を理解すること。</p> <p>(2) 個別の表現ジャンルの動向を、同時代の他のジャンルや思想と関連付けて説明できるようになること。</p> <p>(3) 表現者や文化産業の動向を、「戦争が生み出した文化」という観点で説明できるようになること。</p>					
[授業計画と内容]					
以下の授業計画はあくまで予定であり、受講生の関心に応じて微修正を行う。					
<ol style="list-style-type: none"> 1、「戦後」「日本」「文化」を論じるとはどのようなことか?(ガイダンス) 成績評価の説明 2、占領下の文化 映画 黒澤明を中心に 3、占領下の文化 文学 戦後派の小説を読む 4、占領下の文化 漫画 手塚治虫を中心に 5、1950年代の文化と政治 50年代概説 6、50年代の文化 新世代の文学 石原・開高・大江を中心に 7、50年代の文化 木下恵介・今井正と戦後民主主義 8、1960年代 松竹ヌーベルバーグと「政治」 9、60年代の文化 漫画雑誌の布置 少年漫画・少女漫画・貸本漫画 10、60年代の文化 水木しげるの表現 11、60年代の文化 サブカルチャーとアングラ 映画と音楽 13、60年代の文化 補遺 14、「戦後」「日本」「文化」とは何だったのか? 授業のふりかえりと補遺 15、「戦後」「日本」「文化」とは何だったのか? 授業のふりかえりと補遺 					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）40点、期末の筆記試験60点で評価する。

【教科書】

授業中に指示する
授業中に配布するレジュメと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
参考文献については、授業中に適宜指示します。

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学15

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36			
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化と芸術存在論				
[授業の概要・目的]					
<p>芸術存在論(ontology of art)は、現代英語圏の芸術哲学(いわゆる分析美学)の一分野である。芸術存在論では、芸術作品や芸術的パフォーマンスがどのようなあり方で存在しているのか(それらはどんな種類の存在者なのか)、芸術形式ごとに作品の存在のあり方はどのように異なるのか、作品の同一性は何によって決まるのか、といった問題が論じられる。</p> <p>従来の芸術存在論で扱われてきたのは、主に音楽(クラシック音楽)や文学や絵画・彫刻のようなオーソドックスな芸術形式だった。一方で、現代の文化(とりわけポピュラーカルチャー)の中には、きわめて多様な文化形式のアイテムがある(「芸術」と呼びづらいようなものも含め)。</p> <p>この講義では、そうした現代の諸文化形式のアイテムがそれぞれどのようなあり方で存在しているのかについて、芸術存在論の観点と道具立てを使って考えてみたい。</p> <p>芸術存在論は、それ自体としては純粋に哲学的な関心でなされるものだが、作品の批評、作品の修復や保存、贋作と真作の区別、さらには著作権のような作品の法律上の取り扱いといった実践的な諸問題にも直結する。</p> <p>授業の目的は、一方では芸術存在論を通して現代文化の一面を明らかにすることにあるが、もう一方では現代文化にそれを適用することを通して芸術存在論の有用さと不十分さをはっきりさせることにもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術存在論の基本的な考え方と概念を理解する。 ・ 諸々の芸術形式の存在論的な違いを理解する。 ・ 現代文化を存在論の枠組みから眺める視点を得る。 ・ 芸術存在論の実践的な意義や応用可能性を理解する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス				
第2回	芸術存在論の問いとモチベーション				
第3回	芸術存在論の基本概念				
第4回	音楽の存在論				
第5回	ポピュラー音楽の存在論				
第6回	ピエール・メナールのケース				
第7回	贋作について				
第8回	「未完の作品」について				
第9回	デジタル画像の存在論				
第10回	ビデオゲームの存在論				
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

- 第11回 フィクショナルキャラクターの存在論
- 第12回 VTuberの存在論
- 第13回 生成AIと芸術存在論
- 第14回 「アウラ」とブロックチェーン
- 第15回 フィードバック

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：50%

期末レポート：50%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「独特の存在のあり方をしていると思われるアイテムを挙げ、それを授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい(字数自由)」のような課題になる予定。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学16

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大学文書館 教授 西山 伸		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「学徒出陣」を考える				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、「学徒出陣」について考察する。「学徒出陣」とは、一般的にアジア・太平洋戦争時における学生生徒の陸海軍への入隊を指す用語であり、世間的にも広く知られているものだが、学問的分析はほとんど行われていないのが実態である。本講義では、近代日本における兵役と学徒との関係、軍隊における学徒兵の位置づけ、入隊後の学徒兵の実態、「学徒出陣」に関する戦後の語りなど、「学徒出陣」を総合的・実証的に検討することを目的とする。さらにこの検討を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深めることも目的とする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・史料を読み込むことにより、「学徒出陣」の制度・背景・多様性およびそれぞれの時代状況について理解する。 ・「学徒出陣」についての理解を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深める。 					
【授業計画と内容】					
第1回	学徒出陣とはなにか				
第2回	兵役と学徒				
第3回	日中戦争期の学徒(1)				
第4回	日中戦争期の学徒(2)				
第5回	1943年夏の大量動員				
第6回	戦時体制下の高等教育				
第7回	学徒の一斉入隊(1)				
第8回	学徒の一斉入隊(2)				
第9回	戦争末期の学徒出陣				
第10回	学徒兵の残した記録(1)				
第11回	学徒兵の残した記録(2)				
第12回	学徒兵の残した記録(3)				
第13回	学徒出陣の戦後(1)				
第14回	学徒出陣の戦後(2)				
第15回	(まとめ)フィードバック				
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>毎回の授業時に提出するコメントとレポート試験により評価する。コメントおよびレポートについては、授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。なお、両者の割合はコメント</p>					
メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く					

メディア文化学(特殊講義)(2)

30%、レポート70%とする。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

多数の資料を配付するので、授業後にそれらの資料をよく読み返し自分の理解を確認すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学17

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都精華大学デザイン学部 蘆田 裕史 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ファッション論入門				
[授業の概要・目的]					
<p>私たちはみな、衣服を身に着けて社会生活を送っている。しばしば「ファッションに興味がない」と主張する人がいるが、そのような人であっても衣服なしで生活できるわけではない。つまり、関心があるとなかろうと、ファッションは私たちにとって必要不可欠なものなのである。なぜ私たちはファッションを必要とするのか。この授業では、ファッションにまつわる様々なトピックを論じることで、ファッションについて考えると同時に、ファッションを通して人間や社会について考えることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション論の基本的事項を理解する。 ・社会におけるさまざまな事象や行為をファッションの観点から考察できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>イントロダクション：ファッションの定義 ファッションと社会：流行のメカニズム ファッションと社会：消費の諸様態 ファッションとコミュニケーション：ファッションのもつ意味 ファッションとアイデンティティ：インターフェイスとしてのファッション ファッションと倫理：他者を傷つけずにファッションを楽しむことは可能か ファッションと美：外見を気にするのは軽薄なのか ファッションと身体：衣服は第二の皮膚なのか ファッションとジェンダー：ファッションを通じて作られる「女らしさ/男らしさ」 ファッションと産業：ファッションは文化かビジネスか ファッションと環境：サステナブルファッションの展開 ファッションとメディア：イメージの生成と伝播 ファッションとデザイン：ファッションデザイナーはなにをデザインしているのか ファッションとアート：美術家はファッションをどのように捉えてきたか フィードバック</p> <p>授業の進行具合によって各回の順番や内容が変わる可能性があります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

講義への参加度：60%（毎回のコメントシートによって評価します）
レポート：40%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日常的にファッションに関連する事項について考えるようにし、それをコメントシートや授業中の質問などに反映させてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外に連絡する必要がある場合はEメール（ashida@kyoto-seika.ac.jp）でお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学18

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 耕平		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
本講義では、私たちの社会で行われている「社会調査」について、その歴史や目的および意義、設計に関する基本的な考え方、具体的な調査手法の種類や特徴、自分たちが調査を行なうときには気をつけるべきこと、といった基本的事項を学ぶ。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。					
[到達目標]					
社会調査の目的や歴史を学び、調査の種類や仮説の立て方、対象者の選び方といった社会調査を設計する上でのもっともベーシックな知識とスキルを身につけるとともに、メディアを通じて触れるさまざまな社会調査の結果を適切に読み解くリサーチ・リテラシーを習得する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(授業の目標、進め方、評価方法など) 2. 社会調査の目的とリサーチ・リテラシー 3. 社会調査の種類 4. 社会調査における仮説設定 5. 社会調査のサイクル 問題発見と仮説検証 6. 既存統計の利用 7. サンプルングと総調査誤差 8. 調査票の設計 9. 社会調査の歴史 10. 質問紙調査の事例 11. インタビュー調査の事例 12. 参与観察の事例 13. 相互行為分析の事例 14. ドキュメント分析の事例 15. 社会調査の倫理 					
[履修要件]					
特になし					
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

ワーク(50%)：各回の授業内容に関連した小テストないし小レポート。授業内容を踏まえた答案を作成できているかどうかで評価される。

期末レポート(50%)：授業で学んだ調査方法を用いた社会調査のプランを作成する。授業で学んだ諸点を踏まえてテーマ設定ができているか、調査のテーマに適合的な方法や対象者を根拠にもとづいて選択しているか、倫理的な配慮がなされているか、などの点から評価される。

[教科書]

特に指定しない。適宜、リーディング・アサインメントとして資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

松木洋人・中西泰子・本多真隆(編)『基礎からわかる社会学研究法 具体例で学ぶ研究の進めかた』(ミネルヴァ書房,2023年)

松本渉『社会調査の方法論』(丸善出版,2021年)

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』(有斐閣,2013年)

井頭昌彦(編)『質的研究アプローチの再検討 人文・社会科学からEBPsまで』(勁草書房,2023年)

ジェリー・Z・ミュラー『測りすぎ なぜパフォーマンス評価は失敗するのか?』(みすず書房,2019年)

[授業外学修(予習・復習)等]

リーディング・アサインメントが配布された際は、予習として通読してくることが求められる。

期末レポートの作成のため、関心のある調査テーマおよび調査手法、調査倫理について、自身でリサーチすることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査土科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都精華大学メディア表現学部 谷口 文和 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	音楽のポピュラリティとその価値				
[授業の概要・目的]					
<p>多くの人が身近に慣れ親しんでいるという意味で、音楽はポピュラーな文化の一つである。しかしその身近さゆえか、音楽がどうしても多くの人を惹きつける価値を持つのかをとらえようとしても、「カッコいい」「癒やされる」「共感できる」といった漠然とした思考に陥ってしまいがちである。そこで本講義では、こんにちの音楽が帯びる「ポピュラーなもの」としての価値のありように分け入り、上記のような感覚をより詳細に言語化していくことを試みる。</p> <p>本講義では特に、音楽のポピュラリティという問題について、メディアの作用(mediation)という切り口から検討する。音が人間にとって根源的なコミュニケーション・メディアであると同時に、はかなく消えてしまう音を記録し広めるメディア(楽譜や録音、放送、インターネットetc.)があり、音楽はその二重のメディアの上に成り立つ表現である。この構造の中で音楽の価値や聴覚的・身体的経験がどのように媒介されているのかに着目する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽をメディア文化の一種として理解できる ・音の聴覚性や身体性を経験の構造という側面から考察できる 					
[授業計画と内容]					
第1回	導入：メディアから見た音楽のポピュラリティ				
第2回	メディアにおける聴覚性の問題				
第3回	音楽の客体化と作品概念				
第4回	複製技術と音楽の商品化				
第5回	録音技術の歴史(1)：初期の録音体験				
第6回	録音技術の歴史(2)：レコード産業の成立				
第7回	録音技術の歴史(3)：あらゆる音を音楽にする試み				
第8回	美的概念としてのサウンド(1)：理論化をめぐる問題				
第9回	美的概念としてのサウンド(2)：拡張される身体				
第10回	美的概念としてのサウンド(3)：リアリティの変容				
第11回	レコード音楽とライブ音楽の相互作用				
第12回	レコード文化における音楽体験の多様性				
第13回	脱パッケージ時代(1)：ビジネスモデルの変化				
第14回	脱パッケージ時代(2)：レコード/ライブの再編				
第15回	全体のまとめ				
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業内小レポート 60%

最終レポート 40%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

谷口文和、中川克志、福田裕大『音響メディア史』(ナカニシヤ出版) ISBN:9784779509513 (音響メディアにまつわる基本事項をまとめてあり、授業内でも随時参照する。)

(関連URL)

<http://taninen.jp/>(講師の個人ウェブサイト)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で提示される問いかけについて、必要なりサーチを行い、自身の見解をまとめること。また、授業内で音源・映像を紹介できる時間が限られているため、プレイリストなどを通じて多様な音楽に触れる時間を作るよう心がけること。最終レポート作成に向けて、自身が特に関心をもったトピックに関する文献を探し、読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問はメール(taninen@kyoto-seika.ac.jp)で随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学20

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 梅田 拓也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フリードリヒ・キットラーの理論の発展過程				
[授業の概要・目的]					
<p>フリードリヒ・キットラー (Friedrich Kittler, 1943-2011) は、現代のドイツで活躍した文芸批評家・メディア研究者です。彼は蓄音機、映画、タイプライター、コンピュータなどのテクノロジーについての思想を展開し、2000年代以降の文化研究・メディア研究に大きな影響を与えました。本講義では、約40年間にわたるキットラーの研究の発展過程を同時代の学的・社会的文脈とあわせてたどりながら、彼の思想の狙いについて考察します。これを通して、メディア研究の基礎的な知識や考え方を身につけ、思想史研究・学説史研究一般の方法論についても学ぶことを目指します。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フリードリヒ・キットラーの思想の核心を理解する。 ・メディア研究の基礎的な知識や考え方を習得する。 ・思想史研究・学説史研究一般の方法論を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業は集中講義形式で実施し各日3コマの授業時間を用います。授業は毎回配布するレジюмеに即して進め、適宜質疑応答を受け付けます。</p>					
<p>【1日目 8/19(月) 3限-5限：初期のキットラー】 1970年代のキットラーは19世紀のドイツ文学の批評を進めていました。『夢と語り』(1977)や『原光景』(1977)など、まだ無名だった彼が残した論考の内容を踏まえ、キャリアの初期の関心を明らかにします。</p>					
<p>【2日目 8/20(火) 3限-5限：初期から中期のキットラー】 1980年代前半のキットラーは、20世紀の文学の批評の中で「メディア」というテーマを発見しました。後にメディア研究に大きな影響を与えた『書き取りシステム1800・1900』(1985)などの読解を踏まえ、彼のメディア論の始まりを振り返ります。</p>					
<p>【3日目 8/21(水) 3限-5限：中期のキットラー】 1980年代半ばからキットラーは、文学研究の看板を下ろし、メディア史研究へと歩を進めました。彼の出世作『グラモフォン・フィルム・タイプライター』(1986)などの読解を踏まえ、この中期のメディア史研究の全体像を考察します。</p>					
<p>【4日目 8/22(木) 3限-5限：中期から後期のキットラー】 1990年代のキットラーは、当時急速に発展・普及したコンピュータ技術とIT産業についての時評的な議論を展開しました。デジタルメディア研究の嚆矢として知られる『ドラキュラの遺言』(1993)に収録された論考などの読解を踏まえ、その狙いを紐解きます。</p>					
<p>【5日目 8/23(金) 3限-5限：後期のキットラー】</p>					
メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く					

メディア文化学(特殊講義)(2)

2000年代のキットラーは、古代から現代に至るヨーロッパ文化史を記号とメディアから描き直す研究を始めましたが、2011年の彼の死によって未完のまま途絶しました。この計画の全貌を『音楽と数学』シリーズなどの残された著作から推理します。

【履修要件】

キットラーの研究関心は、文学に始まり、音楽や映像などの文化、コンピュータ、古代ギリシャ文化など多岐にわたります。メディア研究に関心のある方はもちろんのこと、文化史、技術史、思想史など様々な関心・予備知識をお持ちの方に受講頂き、多角的にキットラーの思想を考察する場となることを期待しています。

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加姿勢と各回のGoogle Formレポート(80%)、最終レポート(20%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

フリードリヒ・キットラー 『書き取りシステム1800・1900』(インスクリプト, 2021) ISBN: 9784900997882

フリードリヒ・キットラー 『グラモフォン・フィルム・タイプライター』(筑摩書房, 1999) ISBN: 9784480847065

フリードリヒ・キットラー 『ドラキュラの遺言』(産業図書, 1998) ISBN:9784782801161

Geoffrey Winthrop-Young 『Kittler and the Media』(Polity, 2011) ISBN:9780745644066

伊藤守(編) 『メディア論の冒険者たち』(東京大学出版会, 2023) ISBN:9784130502092

【授業外学修(予習・復習)等】

必須ではありませんが、下記の邦訳文献を読んでから参加するのが望ましいです。また授業後にこれらの文献を読み直すことで、キットラーの理論がより深く理解できます。

(1日目)「われらの自我の幻想と文学心理学」深見茂訳、『ドイツロマン派全集』(前川道介編、国書刊行会、1984)収録

(2日目)「序言」・「導入」石光泰夫・石光輝子訳、『グラモフォン・フィルム・タイプライター上』(フリードリヒ・キットラー著、ちくま学芸文庫、2006)収録

(3日目)「コミュニケーション技術の歴史」縄田雄二訳、『現代思想』第24巻第4号(1996)収録

(4日目)「プロテクト・モード」大宮勘一郎訳、『ドラキュラの遺言』(フリードリヒ・キットラー著、産業図書、1998年)収録

(5日目)「数と数字」梅田拓也訳、『現代思想』第51巻第8号(2023)収録

メディア文化学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

連絡先：t-umeda@dwc.doshisha.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学21

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習IA) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法(前期)				
[授業の概要・目的]					
メディア文化研究では、資料の形態が多岐に渡る。この演習では、そうした多様な資料を扱い、論文を仕上げていくための実践的な技法を学ぶ。					
[到達目標]					
取り上げる資料の扱いに習熟し、各々の研究テーマに合わせて柔軟に技法を組み合わせ研究を行うことができる基礎力を養う。					
[授業計画と内容]					
第1回 オリエンテーション 第2回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第3回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第4回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第5回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第6回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第7回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第8回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第9回 映像分析を用いた論文調査 第10回 映像分析を用いた論文調査 第11回 映像分析の実践 第12回 映像分析の実践 第13回 映像分析の実践 第14回 映像分析の実践 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(課題60%、発表40%)					
[教科書]					
使用しない					
-----メディア文化学(演習IA)(2)へ続く-----					

メディア文化学(演習IA)(2)

[参考書等]

(参考書)

佐藤郁哉 『質的データ分析法』 (新曜社、2008年) ISBN:9784788510951

藤田真文編著 『メディアの卒論 第2版』 (ミネルヴァ書房、2016年) ISBN:9784623077199

トニー・アダムス他著 『オートエスノグラフィー』 (新曜社、2022年) ISBN:4788517922

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げた技法を使って、実際にデータ収集、分析を行う課題を出すので、しっかり取り組むこと。できるだけ自分のパソコンを持参すること。

(その他(オフィスアワー等))

PandAおよびscrapboxにコースサイトを作成し、それを通じて授業連絡を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学22

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習IB) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英語圏で主流の美学・芸術哲学(いわゆる分析美学)は、ある種の思考の割り切り(単純化と明晰さ)をベースにしつつ、活発な議論(批判と反論の応酬)を通じて協働的に美・芸術・文化・感性についての理解を深めていくことを特徴とする。</p> <p>この演習では、理論的なテキストを正確に読解することを通して、メディア文化を理解・研究するためのひとつの手法として、哲学的な文化研究の視点や論じ方を学ぶ。</p> <p>具体的に取り上げるテキストは、現代の身近な文化実践を考える上で役に立ちそうな分析美学の古典的文献や最近の論文になる予定。いずれにせよ日本語のテキスト(邦訳の場合はできるだけ原文も付ける)になる。昨年度は、ケンダル・ウォルトン「芸術のカテゴリー」とケンダル・ウォルトン『フィクションとは何か』を取り上げた。</p> <p>授業の補助ツールとしてDiscordを利用する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを正確・厳密に読むという態度を身につける。 ・分析美学のトピックと考え方に触れる。 ・理論を具体的な文化実践に適用することの意義・利点・限界について考える。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2～14回 議論と解説 第15回 フィードバック</p> <p>第2～14回は、各回数人ずつに担当箇所を割り振り、それぞれの担当者がレジюмеを作成するというかたちの輪読形式を進める。場合によっては、レジюме担当者に加えて質問担当者の役割を設ける可能性がある。</p>					
[履修要件]					
必須ではないが、系共通科目(メディア文化学)講義Aを受講済みであることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末レポート：40% 平常点：60%</p> <p>期末レポートは、教員がピックアップした日本語論文のリストからひとつを選んでレジюмеを作成</p>					
----- メディア文化学(演習IB)(2)へ続く -----					

メディア文化学(演習IB)(2)

するという課題になる予定。

平常点は、レジュメ作成の担当実績・クオリティと、授業内での積極的な参加度で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レジュメ担当になっていない場合でも、次回の授業で読むテキストの範囲を毎回予習しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

授業外での質問は、基本的にメールまたはDiscordのDMをお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学23

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	分類の科学論：歴史的存在論と知識のインフラストラクチャー				
[授業の概要・目的]					
我々はいかに世界の構造を作り上げ、我々自身を作り上げるか？世界の構造の典型が分類であり、分類について語ることは存在論を語ることである。同時に分類は個人によってではなく知識のインフラストラクチャーによってこそ可能になる。従って、分類について語ることは知識のインフラストラクチャーについて語ることでもある。存在論や知識がそれ自体歴史を持つように、分類もまた、それ自体歴史をもつ。従って分類は、科学史あるいは知識の歴史の対象となる。この授業では、歴史的存在論と知識のインフラストラクチャーを横断する、分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の著作のうち、比較的重要で、入門的なものを取り上げ、分類についての科学論の出発点とする。とくに重点を置くのは、精神疾患や生物の分類である。取り上げる文献は、入手可能性、参加者の関心・語学力等に応じて、変更する可能性がある。					
[到達目標]					
分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の入門的な文献の読解を通して、分類についての科学論的理解を深めると同時に、関連分野の文献を理解し、討論する技能を高める。					
[授業計画と内容]					
1) オリエンテーション：ミシェル・フーコー『言葉と物』から「序」					
2) 歴史的存在論：ハッキング『知の歴史学』から第1章「歴史的存在論」（pp. 1 - 66）と第6章「人々を作り上げる」（pp. 209 - 235）					
3) ジェンダーと分類：ロンダ・シービンガー『女性を弄ぶ博物学』から「なぜ哺乳類は哺乳類と呼ばれるのか？」（pp. 52 - 88）と「ジェンダーと人種の理論」（pp. 163 - 204）					
4) 体系学の発展と生物学の哲学(1)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第1章「第一幕：薄明の前史 一九三〇年代から一九六〇年代まで」（pp. 21-126）					
5) 体系学の発展と生物学の哲学(2)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第2章「第二幕：論争の発端 一九五〇年代から一九七〇年代まで」（pp. 127-204）					
6) 体系学の発展と生物学の哲学(3)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第3章「第三幕：戦線の拡大 一九七〇年代から現代まで」（pp. 205-308）					
7) 体系学の発展と生物学の哲学(4)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第4章「生物学の哲学はどのように変容したか：科学と科学哲学の共進化の現場から」（pp. 309-344）					
8) 体系学論争を越えて：Beckett Sterner and Scott Lidgard, "Moving Past the Systematics Wars," Journal of the History of Biology 51 (2018): 31-67.					
9) 分類とインフラストラクチャー(1): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, <i>Sorting Things Out: Classification and Its Consequences</i> (MIT Press, 1999), "Introduction"(pp. 1-32), Chapter 1 "Some Tricks of					
メディア文化学（演習II）(2)へ続く					

メディア文化学（演習II）(2)

the Trade in Analyzing Classification" (pp. 33-50).

10) 分類とインフラストラクチャー(2): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "I. Classification and Large-Scale Infrastructure"(p. 51), Chapter 2, "The Kindness of Strangers: Kinds and Politics in Classification Systems," (pp. 53-106)

11) 分類とインフラストラクチャー(3): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), Chapter 3, "The ICD as Information Infrastructure"(pp. 107-133) (Chapter 4, "Classification, Coding, and Coordination," pp. 135-161).

12) 分類とインフラストラクチャー(4): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "IV The Theory and Practice of Classifications"(pp. 283-284), Chapter 9, "Categorical Work and Boundary Infrastructures: Enriching Theories of Classification"(pp. 285-317), Chapter 10, "Why Classifications Matter" (pp. 319-326)

13) 種問題の科学哲学：網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』(勁草書房, (2020)から、第一章「種問題とは何か」、第四章「「投げ捨てられることもあるはしご」としての種」

14) 分類と種問題に対する実践的・新物質主義的アプローチ

David Ludwig, "From Naturalness to Materiality: Reimagining Philosophy of Scientific Classification," *European Journal for Philosophy of Science* 13, 8 (2023). <https://doi.org/10.1007/s13194-023-00509-w>.

15) フィードバック

(参加者の関心によって内容を変えることがある)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業参加・担当箇所の発表）（50%）

レポート1回（50%）

ただし、発表回数によってはレポートを免除することがある。

【教科書】

三中信宏『システム学の世界』（勁草書房, 2018）ISBN:978-4326154517

Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star『Sorting Things Out: Classification and Its Consequences』（MIT Press, 1999）ISBN:978-0262269070（附属図書館で電子書籍を所蔵）

その他の文献は配布する。

【参考書等】

（参考書）

ハッキング『知の歴史学』（岩波書店, 2012）ISBN:978-4000238779

網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』（勁草書房, 2020）ISBN:978-4326102884

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

メディア文化学（演習II）(3)へ続く

メディア文化学（演習Ⅱ）(3)

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学24

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	科学史研究法：理論と実践				
[授業の概要・目的]					
科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。					
[到達目標]					
科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。					
[授業計画と内容]					
この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の6回目と14回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。					
理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習					
実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。					
ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。					
1. ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール					
2. 理論：実験と研究者集団の科学史的分析: Kohler, “Moral Economy”					
実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書					
レポート課題1発表					
3. 理論：技術の社会構築: MacKenzie, “Nuclear Missile Testing”					
実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他					
4. 理論：標準の科学論: Schaffer, “Late Victorian Metrology”					
実践：文献の入手と整理の実践（書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法）					
5. 理論：実験室の科学史: Shapin, “House of Experiment”					
実践：リーディングとノートテイキングの技法					
課題1レポート提出期限					
6. 研究計画書ワークショップ					
7. 理論：非西洋科学: Hart, “On the Problem of Chinese Science”					
実践：書評と査読					
レポート課題2発表					
8. 理論：「パラダイム論」を超えて: Galison, “Trading Zone”					
実践：アーカイブズ調査 / 資料撮影とその整理					
9. 理論：科学と表象: Martin, “Toward an Anthropology of Immunology”					
実践：新聞データベースの利用					
10. 理論：実験室とANT: Latour, “Give Me a Laboratory”					
メディア文化学（演習II）(2)へ続く					

メディア文化学（演習II）(2)

実践：学会発表とスライド

11. 理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer, “ Institutional Ecology ”

実践：ライティングの技法とバックアップ

12. 理論：実験と物質の科学論: Pickering, “ The Mangle of Practice ”

実践：スタイルと論文投稿と改稿

13. 理論：新物質主義とフェミニズム: Barad, “ Agential Realism ”

実践：科学史における研究倫理

レポート課題2 提出期限

14. 書評 / 査読報告ワークショップ

15. フィードバック

（履修者の関心と必要に応じて内容を変えることがある）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業参加）（50%）

課題2回（50%）

【教科書】

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

【参考書等】

（参考書）

トーマス・S・マラニー, クリストファー・レア 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』（筑摩書房, 2023）ISBN:978-4480837257

戸田山 和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK出版, 2022）ISBN: 978-4140912720

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学25

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	化学の哲学				
【授業の概要・目的】					
化学はどのような点で哲学の問題となるだろうか。この問題を考える化学の哲学は1990年代から分野としての形を整え、次第に科学哲学の一分野としての存在感を増している。この授業では、近年の論文集からいくつかの論文を読むことで、化学と物理学の関係や化学の存在論など化学の哲学の主要なテーマについて理解を深める。					
【到達目標】					
化学の哲学における主要なテーマと主な立場を理解し、それらの立場を批判的に検討できるようになる。					
【授業計画と内容】					
以下の論文集からいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Scerri, E. and Fisher, G. eds. (2016) Essays in the Philosophy of Chemistry. Oxford University Press. (S&F) Scerri, E. and McIntyre, L. eds, (2015) Philosophy of Chemistry: Growth of a New Discipline. Springer. (S&M)					
基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。					
授業の進行は以下のとおり。					
イントロダクション(1回) 学生による発表担当 Scerri "The changing views of a philosopher of chemistry on the question of reduction (2回) (S&F) Manafu "A novel approach to emergence in chemistry" (2回) (S&M) Harre "Causality in chemistry; regularities and agencies (3回) (S&F) Chang "Scientific realism and chemistry" (3回) (S&F) Hendry "Natural Kinds in Chemistry" (2回) (S&F) Needam "One substance or more?" (2回) (S&M)					
【履修要件】					
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。					
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----					

メディア文化学（演習II）(2)

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学26

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	確率の哲学				
【授業の概要・目的】					
<p>確率の哲学は哲学の諸問題だけでなく隣接するさまざまな問題領域に適用される応用範囲の広い分野である。しかしその基礎概念は必ずしもよく理解されているとは言えない。この演習では確率の哲学に関するアンソロジーを利用して、この分野についてのより正確で深い理解を身に付けていくことを目指す。</p>					
【到達目標】					
<p>確率の哲学の様々な立場を正しく理解し、それらを批判的に検討できるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Hajek, A. and Hitchcock, C. eds. (2016) The Oxford Handbook of Probability and Philosophy. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) La Caze "Frequentism" (3回) Zynda "Subjectivism" (3回) Gillies "The propensity interpretation" (2回) Millstein "Probability in biology" (3回) Kotzen "Probability in Epistemology" (3回)</p>					
【履修要件】					
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準</p>					
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----					

メディア文化学（演習II）(2)

になる。

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学27

科目ナンバリング	G-LET37 7M432 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究の諸問題（大学院）				
【授業の概要・目的】					
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。					
【到達目標】					
修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。					
【授業計画と内容】					
第1回－第2回: 研究テーマに関する個人面談 第3回－第14回: 各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。 第15回：フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（報告内容50%、および他者の報告に応じた適切な発言内容および発言頻度50%）					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） なし					
【授業外学修（予習・復習）等】					
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、枚数制限は設けないが、報告時間が1時間以内におさまる分量にすること。					
（その他（オフィスアワー等））					
専修のDiscordを連絡手段として活用する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小野沢 透		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	米・中東関係の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については(当事国である米国においてさえ)正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>					
[到達目標]					
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>					
[授業計画と内容]					
以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(1回) 2. 中東の近代: Western impactから主権国家システムの生成(2回) 3. 西側統合政策の展開と挫折(1950年代)(4回) 4. オフショア・バランスの時代(1960-80年代)(3回) 5. 覇権的政策の盛衰(1990年代以降)(4回) 6. まとめとフィードバック(1回) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポート					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）
五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に適宜指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	奈良女子大学大学院生活環境科 学系(生活環境学部)教授 林田 敏子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦とジェンダー—軍隊・記憶・セクシュアリティ				
[授業の概要・目的]					
<p>二〇世紀に起こった二度にわたる世界大戦は、銃後を広く巻き込む総力戦として多くの女性たちを動員した。前線にまで拡大した女性の戦時活動は、ときに「男の領域の侵犯」ととらえられ、様々な手段でジェンダー秩序の維持がはかられた。本講義では両大戦期のイギリスを対象に、大規模な戦時動員が引き起こした諸問題をジェンダーとセクシュアリティの観点から考察する。戦争に主体的に関わることを求められた女性たちの活動や経験を、軍隊(前線)と家庭(銃後)という二つの空間の重なりや連続性のなかに位置づけてみたい。女性に求められた戦時の役割や女性表象が果たした機能、戦時の「男らしさ」をめぐる価値観の揺らぎ、そして長い「戦後」という時空間における大戦の記憶の変遷に焦点をあてながら、女性たちの長い「戦い」を論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>総力戦となった両大戦期において、なぜ、そしていかなる形でジェンダー問題が顕在化し、どのような対処がなされたのかを、現代社会とのつながりのなかで理解する。大戦とジェンダー研究の複数の論点への理解を深めることで、汎用性のあるアプローチ方法を獲得し、それを自らの問題関心にひきつけて、新たな研究の可能性を探ることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の授業計画に沿って進めるが、講義の進捗や受講生の関心や理解度によって、回数や順序、テーマを微調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. パンプスを履いた女性兵士 戦うことと「女らしさ」 2. 大戦とジェンダーをめぐるトピックと論点 3. 女性の戦時動員とセクシュアリティ 4. 第一次世界大戦と女性部隊 5. 第二次世界大戦と女性部隊 6. 軍隊のなかのジェンダー秩序 制服の下の女らしさ 7. 軍隊のなかのジェンダー秩序 誰が引き金を引くか 8. 近代戦とマスキュリニティ 9. 軍隊とマスキュリニティ 兵士になれない男たち 10. 軍隊とマスキュリニティー—シェルショック 11. 軍隊と同性愛 排除が黙認か 12. キッチン・ソルジャー 主婦たちの世界大戦 13. 語り出す女性たち 「忘れられた軍隊」の記憶 14. 「普通の人々」の大戦経験 Mass Observationと第二次世界大戦 15. Mass Observationと第二次世界大戦 ある主婦の日記をもとに 					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に出される課題（30％）、学期末のレポート（70％）で成績を評価する。
到達目標に掲げた水準に達しているか否かで達成度を測る。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

大戦とジェンダーに関する文献（授業中に適宜紹介する）を積極的に参照すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学30

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学社会学部メディア学科 河崎 吉紀 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
コミュニケーション論をふまえつつ、メディア産業と文化の関係を取り上げ、メディアの社会的な機能や効果について学説を紹介する。文献の講読を行う場合がある。					
[到達目標]					
メディアが文化や社会に与える影響について、これまでどのように論じられてきたのかを理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション 第2回 非言語のコミュニケーション(1) 第3回 非言語のコミュニケーション(2) 第4回 言語によるコミュニケーション(1) 第5回 言語によるコミュニケーション(2) 第6回 メディア産業と文化(1) 第7回 メディア産業と文化(2) 第8回 メディア産業と文化(3) 第9回 メディアの社会的機能(1) 第10回 メディアの社会的機能(2) 第11回 メディアの社会的機能(3) 第12回 メディアの効果(1) 第13回 メディアの効果(2) 第14回 メディアの効果(3) 第15回 全体のふり返りとまとめ 授業計画を変更し、特定の内容を集中的に取り上げる可能性がある。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 30% 受講態度を評価する。 期末試験 70% 授業の内容において出題する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された参考書や論文を読む。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業終了後に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学31

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 食をめぐる研究の方法					
2 明治大正期の食					
3 アジア太平洋戦争までの食					
4 戦後の食					
5 牛乳の歴史学					
6 品種改良の歴史学					
7 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末にレポートを課す。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学32

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	京都の近代をめぐる政治文化史				
[授業の概要・目的]					
<p>近代京都をめぐる政治史と文化史から複眼的に考察する。1869年の東京遷都、1889年の帝都東京と明治宮殿の落成により、歴史都市、古都としての京都が国土のなかで定置される。古都京都のイメージとしては、貴族文化・国風文化、町衆・桃山文化とともに、現代では「もてなし」の文化が流布する。平安朝の貴族文化が日清・日露戦争期に、織豊・桃山・寛永文化が大正期の「帝国」の時代に顕彰されることには歴史的背景があった。また大正期から1930年代の大衆社会状況とともに、祇園や舞妓が「京都らしさ」の表象となることは、文学・美術・学術・映画など総合的な時代思潮の中にあつた。また昨年度後期に引き続き、華やかな京都イメージの実態として、大衆社会状況下で全国一、芸娯妓の人口比が多い府県であった京都の売買春観光や遊廓の立地について明らかにする。花街・遊廓としての祇園・宮川町・七条新地・橋本などを例に、芸娯妓の心性、肉声、悩みに迫りたい。</p>					
[到達目標]					
注のある形式の論文が作成できる。「京都の近代をめぐる政治文化史」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統種を重んじる京都の桜とソメイヨシノの近現代 ・ 明治維新と京都 ・ 1869年東京遷都と皇室の文化の変容 ・ 1883年の岩倉具視の「京都皇宮保存に関する意見書」と「伝統文化」 ・ 帝都東京と古都京都 ・ 1895年の平安遷都千百年記念祭と平安時代 ・ 大正期の南蛮・キリシタン・安土桃山文化顕彰 ・ 名所、嵯峨のジェンダーの変容 女性性や貴族性の浮上 ・ 名所、宇治のジェンダーの変容 女性性や貴族性の浮上 ・ 「祇園もの」と舞妓表象の成立 ・ 鴨川・東山の周縁性 性・差別・死 ・ 近代京都の花街・遊廓 ・ 祇園・宮川町・七条新地・橋本 ・ 「大衆買春社会」と京都 ・ 金光教と歌舞伎・映画(マキノ省三・尾上松之助・中村鴈治郎ら) 					
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志編 『近代京都と文化－「伝統」の再構築』（思文閣出版、2023年）

高木博志 『近代天皇制と伝統文化－その再構築と創造』（岩波書店、2024年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「京都の近代をめぐる政治文化史」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	奈良の近代をめぐる政治文化史				
[授業の概要・目的]					
<p>近代奈良を政治史と文化史の複眼から考えたい。 近世には奈良町周辺の大仏観光の地であった奈良は、三都の京都とは違い地方都市にすぎなかった。それが現代の教科書の古代の叙述のほとんどが、奈良盆地の歴史として描かれる。その理由は、第1に奈良が明治維新を通じて、神武創業の地として浮上し、第2に1880年代のフェノロサ、岡倉天心以来、ギリシャに匹敵する文明の始まり、古代文化の揺籃の地と位置づけられたからである。第1の問題は、江戸時代には桓武天皇以来の平安京の天皇たちの菩提を弔う仏教的な先祖意識に対して、神話上の神武天皇から始まる奈良盆地の古事記・日本書紀叙述の「天皇の系譜」が浮上する問題がある。とりわけ初代神武天皇をめぐる神話は、1868年の王政復古の号令にはじまり、1940年の紀元2600年記念式典にいたるまで、大きな影響を及ぼす。第2の7世紀の法隆寺に始まる古代文化については、1889年の帝国憲法発布の時期に、「日本美術史」が成立し、今日の飛鳥・白鳳・天平文化といった時代区分が成立する。また文化財保護の歴史においても古都奈良は重要な役割を果たし、奈良帝室博物館は、古代文化を総覧する役割を果たす。20世紀には修学旅行や「古寺巡礼」のツーリズムの場となってゆく。 古代奈良の近現代における意味を考えることになる。</p>					
[到達目標]					
注のある形式の論文が作成できる。「奈良の近代をめぐる政治文化史」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新と奈良 ・ 文久の修陵事業と神武天皇陵の造営 ・ 明治10年(1877)明治天皇の奈良行幸 ・ 正倉院宝物 中国の文物世界から天平文化へ ・ 正倉院御物の成立、大和三山の皇室財産化 ・ 陵墓の近代 ・ 岡倉天心・フェノロサと奈良の出会い ・ 法隆寺をめぐる政治文化 文明のはじまり ・ 宝物調査・奈良帝室博物館・古代美術史の成立 ・ ポストン美術館とフェノロサ・岡倉天心 ・ 吉野山の桜の保存と名勝化 ・ 国民道徳と聖徳太子像 ・ 修学旅行と奈良 					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

- ・ 紀元2600年記念事業と神武天皇聖蹟調査
- ・ 古都奈良と京都をめぐる

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究 天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）
（KURENAIオープンアクセス）

高木博志 『近代天皇制と伝統文化 その再構築と創造』（岩波書店、2024年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「奈良の近代をめぐる政治文化史」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国近現代流行歌曲史				
[授業の概要・目的]					
<p>「歌は世につれ、世は歌につれ」というように、流行歌は時々の世相を反映するだけでなく、近代国民国家や社会主義体制では、文化芸術政策や大衆向け宣伝活動といったある種の政治的使命を負わされることもあった。本講義では、20世紀100年の中国を対象に、近代的国家建設、革命運動、抵抗運動、政治運動、戦争などの社会変動の中から生まれた流行歌を中心に60曲ほどをとりあげ、音楽の時代背景や歌手、作曲家の活動、その時々の政治状況などを解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>日ごろ耳にすることの少ない20世紀中国の歌曲を実際に鑑賞し、それら歌曲が映し出す清末、民国、人民共和国の社会体制や世相の変遷を総合的、感覚的に理解し、それを通して中国近現代史に対する理解を深める。また、聴覚系の芸術作品(楽曲、演劇、語りモノ)を歴史学の資料として扱う場合の技術を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス(流行歌とは何か 日本との比較) 2 国民国家・国民文化の誕生と流行歌の発生(清末) 3 西洋音楽体系の導入(民国初期の学堂楽曲) 4 革命運動と音楽(国民革命時期 軍歌と革命歌) 5 民国国歌史(中国国民党と党歌、国歌) 6 商業文化と音楽の商品化(上海モダン) 7 ナショナリズムの高まりと救亡歌 8 抗日戦争期の中国歌曲(義勇軍行進曲) 9 人民共和国建国期の流行歌(宣伝と動員) 10 音楽家の使命 毛沢東の芸術論・音楽論 11 赤い音楽家たち(李劫夫、王双印)と毛主席詩歌・語録歌 12 改革・開放期と海外音楽の氾濫(テレサ・テン、侯徳健の位置) 13 価値観の多様化と流行音楽の衰退(民主化運動とロック) 14 ナショナリズムとメディアの変容、そして流行歌の行方、まとめ 15回 フィードバック 					
[履修要件]					
<p>20世紀の中国史について概要を予習しておいて欲しい。中国語歌詞の解説のため中国語資料を用いるので、できれば中国語の基礎があることが望ましい。</p>					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート

[教科書]

使用しない
その都度プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

石川禎浩 『中国共産党、その百年』 (筑摩書房、2021) ISBN:978-4-480-01733-8

石川禎浩 『中国近現代史3 革命とナショナリズム』 (岩波書店(岩波新書)) ISBN:
9784004312512

久保亨 『中国近現代史4 社会主義への挑戦』 ISBN:9784004312529

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>中国共産党にとって、革命の歴史を如何に描くか、および自党や各指導者の役割を如何に位置づけるかは、路線闘争と権力確立のための重要課題であったがゆえに、政治と歴史(研究)とは、半ば一体不可分であったと言える。中国共産党が結党以来3度(1945年、1981年、2021年)にわたって、歴史叙述と歴史解釈を党の決議事項として定めたことはその最も見やすい例である。</p> <p>本講義では、中国共産党史上のいくつかの事件、トピックを対象として、それらに関する歴史記述や評価が如何に変遷してきたのかを、時々の革命情勢、党内事情(例えば、延安整風運動や『毛沢東選集』の編纂)と結びつけながら考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>中国共産党の歴史をその自己認識と合わせて概述することにより、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史について、同党自身が折々に提示する公的な歴史像がどのように形作られ、その時々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 党史と歴史決議、『毛沢東選集』 2 マルクス主義の伝播と党の結成(1919-1921年) 3 国民革命(中国国民党との合作とその崩壊 1923-1927年) 4 農村革命への転換 5 中華ソヴィエト共和国の樹立(人民共和国のプロトタイプ) 6 長征(1930年代中期)と毛沢東の台頭 7 抗日統一戦線政策(1930年代後期)と西安事変 8 抗日戦争と第二次国共合作 9 延安整風運動と毛沢東の指導権(1940年代前期) 10 抗日戦争の終結と国共内戦の開始(1940年中期) 11 国共内戦の帰趨と中華人民共和国の成立(1940年代後期) 12 中ソ同盟への道と朝鮮戦争(1950-53年) 13 中国共産党による社会管理(単位、戸籍、政治運動、思想改造) 14 毛沢東論、革命家として、政治家として、文化人として 15.フィードバック 					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポート

【教科書】

使用しない
その都度プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
石川禎浩 『中国共産党、その百年』 (筑摩書房、2021) ISBN:978-4-480-01733-8

【授業外学修(予習・復習)等】

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学37

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大学文書館 教授 西山 伸		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	1960年代の大学				
【授業の概要・目的】					
<p>日本の大学は1960年代に大きく変化した。理工系を中心とした拡大、進学率の上昇やベビーブーム世代の入学による学生数の急増、学生の気質の変化、そして60年安保闘争に始まり大学紛争にまで至る学生運動など、変化の内容は多岐にわたる。そして、このときの変化が現在の大学のありようを一定程度規定していることも間違いない。本講義では、1960年代の日本の大学について実証的に分析し、この変化の内実に迫ることを目的とする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none">・史料を読み込むことにより、1960年代の大学に起きた変化について理解する。・1960年代の大学についての理解を通じて、現在の大学についても理解を深める。					
【授業計画と内容】					
第1回	戦後高等教育改革				
第2回	1950年代の大学と学生(1)				
第3回	1950年代の大学と学生(2)				
第4回	60年安保闘争(1)				
第5回	60年安保闘争(2)				
第6回	大学管理問題				
第7回	高度経済成長期の大学と学生(1)				
第8回	高度経済成長期の大学と学生(2)				
第9回	大学紛争(1)				
第10回	大学紛争(2)				
第11回	大学紛争(3)				
第12回	大学紛争(4)				
第13回	大学紛争後の大学と学生				
第14回	その後の大学				
第15回	まとめ(フィードバック)				
【履修要件】					
特になし					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業時に提出するコメントとレポート試験により評価する。コメントおよびレポートについては、授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。なお、両者の割合はコメント30%、レポート70%とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

多数の資料を配付するので、授業後にそれらの資料をよく読み返し自分の理解を確認すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	医療・衛生から見る近代日朝関係史				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、朝鮮の開国(1876年)から日本の植民地統治期(1910~1945年)を対象として、朝鮮において近代医学がどのように導入され、朝鮮社会にどのような影響をもたらしたか、また、朝鮮社会がどのように対応したのかを考える。</p> <p>前近代朝鮮において形成された伝統医学(韓医学)は、近代に入り欧米の宣教師と日本人によってもたらされた医学知識・医療施設の影響を受けつつ、大韓帝国(1897年~)の医療制度整備に組み込まれた。しかし、日本の韓国併合(1910年)以降、伝統医学は周辺化され、西洋医学を主体とした病院・医学教育機関の整備が進められた。</p> <p>近代朝鮮における伝統医学と西洋医学の葛藤、医学を通じた植民地支配体制の確立、植民地を対象とした医学研究、朝鮮人知識人・朝鮮社会の衛生論と朝鮮民衆、等々の問題を最新の研究に即して考察する。全体を、I朝鮮開港~韓国併合、II1910年代、III1920年代~30年代前半、IV戦時期に分け、各時期の医療衛生制度の特徴を概説するとともに、それぞれの時代を特徴的に表すテーマを取り上げ「トピック」として論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>コロナパンデミックによって、国境を越えた感染症の歴史が改めて注目されている。講義の履修によって、第一に、近代日朝・日韓関係史についての基本的な歴史の流れを把握することができる。第二に、植民地医学研究における基本的な概念を理解することができよう。これらをベースとして、第三に、近代転換期における朝鮮の医療体制の形成、植民地期における日本の朝鮮支配政策と医療・医学の関係について知識を深めることができるだろう。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス：近代の中の日朝関係と医療・衛生				
第2回	I 朝鮮における西洋医学の流入(1)				
第3回	朝鮮における西洋医学の流入(2)				
第4回	トピック：大韓帝国期・漢城の水道整備				
第5回	トピック：日本赤十字社と大韓帝国				
第6回	II 植民地期初期の医療体制				
第7回	トピック：売買春制度の形成				
第8回	トピック：軍医と植民地医療				
第9回	III 1920年代における医療政策・医学研究の変化(1)				
第10回	1920年代における医療政策・医学研究の変化(2)				
第11回	トピック：志賀潔と朝鮮				
第12回	トピック：京城帝国大学とロックフェラー財団				
第13回	IV 戦時期の医療衛生(1)				
第14回	戦時期の医療衛生(2)				
第15回	朝鮮解放と医療				
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（60％）、授業への参加（40％。随時小テストを行う）をもとに評価します。

[教科書]

毎回レジュメを配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する文献を読み各自で理解を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学大学院国際文化学研究所 衣笠 太郎 講師		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツと中東欧の近現代史				
[授業の概要・目的]					
<p>近代以降の「ドイツ」の歴史・文化・社会を、現在のドイツ領域のみならず、広く旧ドイツ領やドイツ語圏の広がりをも踏まえつつ多角的に概観する。19世紀初頭のナポレオンによるヨーロッパ中央部の支配以来、いわゆるドイツ地域ではドイツ・ナショナリズムが興隆し、1848年革命を経て、1871年のドイツ帝国創設＝統一国家成立へと至ることになる。しかし、この19世紀以降のドイツ統一国家の形成・展開過程では、多様な言語・文化・宗派・帰属意識を持つ人々が入り乱れることになったがために、そこに居住する人々をめぐって包摂と排除が繰り返された。本講義では、そうした「ドイツ」の多様性や包摂・排除の側面に光を当てながら、ドイツ・中東欧の近現代史について見ていくこととする。</p>					
[到達目標]					
19世紀以降の歴史的な「ドイツ」や中東欧の社会・文化を学び、それを現代ドイツやヨーロッパのあり方と比較・対照しながら、両者の共通点・相違点について理解できるようになること。					
[授業計画と内容]					
<p>全体の構成としては、初回から第8回までの前半で、ドイツや中東欧に関する重要な歴史的テーマを学んだのち、後半の第9回以降は様々な境界地域やテーマに沿って大きく6つの視点からその近現代史をより深く考察する。</p>					
第1回	「ドイツ」とは何か 前近代のドイツ・中東欧				
第2回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(1)				
第3回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(2)				
第4回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(3)				
第5回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(4)				
第6回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(5)				
第7回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(6)				
第8回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(7)				
第9回	ドイツ・中東欧の境界地域(1)				
第10回	ドイツ・中東欧の境界地域(2)				
第11回	ドイツ・中東欧の境界地域(3)				
第12回	ドイツ・中東欧の境界地域(4)				
第13回	ハプスブルク史の重要テーマ				
第14回	ロシア地域におけるドイツ語話者				
第15回	これまでの講義内容のまとめ				
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%、学期末課題50%を原則とする総合評価を行う。毎授業後のコメントペーパーの提出に基づいて平常点を算出し、第15回付近でレポートを課して学期末課題とする。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレス：tkinugasa@harbor.kobe-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学40

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小堀 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代日本社会経済史				
[授業の概要・目的]					
<p>近世からアジア太平洋戦争期における日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く工業化と経済成長とを成し遂げ、それと同時に帝国主義国にもなった日本の経験について理解を深めることは、現代日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、発展途上国の経済開発や今後の国際関係などについて考察する際にも有益であろう。</p>					
[到達目標]					
<p>日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 経済史研究の視角 2 . 近世前期の経済 3 . 近世後期の経済 4 . 幕末開港から明治維新へ 5 . 勸業政策と明治農業 6 . 産業革命 7 . 帝国主義日本の形成 8 . 第1次世界大戦と重化学工業化 9 . 大衆消費社会の萌芽と社会政策 10 . 井上財政から高橋財政へ 11 . 農山漁村経済更生運動 12 . 1930年代の重化学工業化 13 . 軍需工業化とインフレ景気 14 . 戦時統制経済の形成と崩壊 15 . フィードバック 					
<p>受講者の関心等に応じて変更の場合あり。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

中間レポート（25%）+ 期末レポート（75%）によって評価する。

[教科書]

レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』（東京大学出版会、2021）

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』（有斐閣、2007）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学41

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小堀 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エネルギーからみる日本の近現代				
【授業の概要・目的】					
本講義の目的は、近現代日本の社会経済史をエネルギーの観点から追究することである。エネルギーの確保がどのように行なわれてきたのかを理解すると同時に、その変化が自然環境や人びとの生産・生活にどう影響したのかを検討することを通じて、現代のエネルギー問題を長期的な観点から考察する能力を養いたい。					
【到達目標】					
資源・環境・エネルギーについて、多角的・歴史的な視点から考察する能力を養う。					
【授業計画と内容】					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 イントロダクション【1週】					
2 日本のエネルギー史概説【1週】					
3 薪炭、帆船、人力車:「在来」エネルギーの興亡【2週】					
4 石炭:筑豊と大阪【2週】					
5 水力:山梨と東京【1週】					
6 帝国から脱帝国へ【2週】					
7 エネルギー革命:中東と太平洋ベルト【2週】					
8 原子力:若狭と関西【2週】					
9 「失われた30年」とエネルギー【1週】					
10 フィードバック【1週】					
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。					
【履修要件】					
前期の特殊講義「近代日本社会経済史」を履修していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
期末レポートによって評価する。					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

平井健介・島西智輝・岸田真編著 『ハンドブック日本経済史：徳川期から安定成長期まで』（ミネルヴァ書房、2021）ISBN:9784623091942

中西聡編 『経済社会の歴史：生活からの経済史入門』（名古屋大学出版会、2017）ISBN:9784815808938

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、講義中に紹介する著書、論文、史料などに積極的に目を通すこと。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学42

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大学文書館 教授 西山 伸		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「学徒出陣」を考える				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、「学徒出陣」について考察する。「学徒出陣」とは、一般的にアジア・太平洋戦争時における学生生徒の陸海軍への入隊を指す用語であり、世間的にも広く知られているものだが、学問的分析はほとんど行われていないのが実態である。本講義では、近代日本における兵役と学徒との関係、軍隊における学徒兵の位置づけ、入隊後の学徒兵の実態、「学徒出陣」に関する戦後の語りなど、「学徒出陣」を総合的・実証的に検討することを目的とする。さらにこの検討を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深めることも目的とする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・史料を読み込むことにより、「学徒出陣」の制度・背景・多様性およびそれぞれの時代状況について理解する。 ・「学徒出陣」についての理解を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深める。 					
【授業計画と内容】					
第1回	学徒出陣とはなにか				
第2回	兵役と学徒				
第3回	日中戦争期の学徒(1)				
第4回	日中戦争期の学徒(2)				
第5回	1943年夏の大量動員				
第6回	戦時体制下の高等教育				
第7回	学徒の一斉入隊(1)				
第8回	学徒の一斉入隊(2)				
第9回	戦争末期の学徒出陣				
第10回	学徒兵の残した記録(1)				
第11回	学徒兵の残した記録(2)				
第12回	学徒兵の残した記録(3)				
第13回	学徒出陣の戦後(1)				
第14回	学徒出陣の戦後(2)				
第15回	(まとめ)フィードバック				
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>毎回の授業時に提出するコメントとレポート試験により評価する。コメントおよびレポートについては、授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。なお、両者の割合はコメント</p>					
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

30%、レポート70%とする。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

多数の資料を配付するので、授業後にそれらの資料をよく読み返し自分の理解を確認すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学43

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都女子大学発達教育学部 教授 田崎 直美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	第二次世界大戦期のフランス：音楽文化史の視点より				
【授業の概要・目的】					
第二次世界大戦期に4年間(1940-44年)ナチス・ドイツに占領されたパリでは、実のところ戦前以上に、多彩で活発な音楽活動が展開していた。ここでは音楽/音楽活動にどのような「力」が作用しどのような意味を纏うことになったのか、そして後世にどのような影響を及ぼしたのか。本講義では、ヴィシー政権下のフランスの音楽界を主な対象として、史料研究より明らかになった事実・事例を紹介しつつ、社会のなかで音楽と政治が直接的/間接的に影響しあう諸相について検討し、現代にも通じる文化史の意義について考えることを目的とする。					
【到達目標】					
第二次世界大戦期、ドイツ占領下フランスの音楽界における歴史的・文化的事象のケーススタディを通して、大きく偏り歪められた権力構図のなかでの(音楽)文化のもちうる意味、及び現代社会への影響について、史料批判を交えつつ考察できるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回	導入：西洋史学と音楽学の交差するところ				
第2回	音楽と政治の関係(1)：文化政策について				
第3回	音楽と政治の関係(2)：文化装置としての音楽				
第4回	ヴィシー期フランス(1940-44)の概要				
第5回	「国民革命」と音楽(1)：プロパガンダを考える				
第6回	「国民革命」と音楽(2)：「変わらなさ」の演出、フランス音楽の促進				
第7回	「国民革命」と音楽(3)：芸術家の生活保障				
第8回	反ユダヤ主義の音楽界への影響(1)：第三共和政期からヴィシー期まで				
第9回	反ユダヤ主義の音楽界への影響(2)：ヴィシー期				
第10回	戦争捕虜と音楽				
第11回	マスメディアとしての音楽：ラジオを中心に				
第12回	音楽と政治の関係(3)：ミクロヒストリーの視点より				
第13回	ヴィシー期の音楽家たちの態度				
第14回	「集合的記憶」と音楽：解放後の音楽家たち				
第15回	総括とフィードバック				
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
学年末レポート(60点)、授業への参加状況(40点) ・授業の最後を書いてもらうコメントペーパーを通して、授業の理解度をはかるとともに授業への参加状況を判断する。					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

・レポート評価については、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
講義資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

田崎直美 『抵抗と適応のポリトナリテ ナチス占領下のフランス音楽』(アルテスパブリッシング、2022年) ISBN:4865592482
ロバート・O・パクストン/渡辺和行・剣持久木 共訳 『ヴィシー時代のフランス 対独協力と国民革命 1940-1944』(柏書房、2004年) ISBN:476012571X
渡辺和行 『ナチス占領下のフランス 沈黙・抵抗・協力』(講談社、1994年) ISBN:4062580349

[授業外学修(予習・復習)等]

上記参考文献および授業中に紹介する文献を読み、学期末レポートに活かしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

積極的な質問やコメントを期待します。質問については、毎回のコメントペーパーで受け付けます(次回以降の授業のなかで、できる限り回答します)。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じて tazaki@kyoto-wu.ac.jp にメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学44

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀日本技術社会史－マイクロコンピュータと日本社会				
【授業の概要・目的】					
特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。					
【到達目標】					
技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から歴史を吟味し、考察することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 技術社会史の理論的基礎回 第一部 帝国 第4回 情報通信と帝国 第5回 戦争とコンピュータ 第二部 戦後日本のコンピュータ 第6回 鉄道のコンピュータネットワーク 第7回 コンピュータとカウンター・カルチャー 第8回 コンピューターマシンの作成 第三部 1980年代の「マイコン」 第9回 子供たちとコンピュータ 第10回 大学におけるコンピュータとジェンダー 第11回 「海賊」とコンピュータ 第12回 大人のコンピュータ 第13回 反コンピュータ運動 第14回 冷戦中のコンピュータ 期末試験 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（1回、40点）、試験（50点）により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学45

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本の左翼のグローバルヒストリー				
【授業の概要・目的】					
日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。					
【到達目標】					
グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から社会運動・思想史を吟味し、考察することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション 第2回 「レフト」というのは何か 第3回～第5回 グローバル資本主義と社会主義 第6回～第9回 日本帝国とレフトの活動 第10回～第13回 日本レフトの内なる帝国 第14回 まとめ 期末試験 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
討論への積極的な参加(10点)、報告(1回、40点)、試験(50点)により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	U-LET32 28202 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学哲学入門(上)				
【授業の概要・目的】					
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題を、科学全体に関わるテーマと個別の領域に関わるテーマに分けて論じる。					
【到達目標】					
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
1 科学とは何か(4回) 2 科学的推論(4回) 3 個別科学における科学的推論(2回) 4 科学的説明(2回) 5 個別科学における科学的説明(2回) フィードバック(1回)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。					
【教科書】					
サミール・オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

現代文化学47

科目ナンバリング	U-LET32 28204 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学哲学入門(下)				
【授業の概要・目的】					
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。					
【到達目標】					
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
1 实在論と反实在論(3回) 2 個別科学における实在論問題(3回) 3 科学の変化と科学革命(3回) 4 個別科学における変化の問題(2回) 5 科学と価値(3回) フィードバック(1回)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。					
【教科書】					
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	U-LET32 18206 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学史I)(講義) History of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史入門1(名著による科学史研究への招待)				
[授業の概要・目的]					
<p>科学史とはどのような学問だろうか。学問としての科学史は、自然科学をめぐる様々な出来事をたどって年表を作ることで、いわゆる「科学者」の様々なエピソードを集めることでなく、「科学」だけの歴史だけでもない。その一つの野心は、現在「科学」と呼ばれるものがどのように、いかなるものとして立ち現れたかを歴史的に調べることによって、「科学」が何かを明らかにすることである。その学問的内容は多様であり、さまざまな関心の人の中から自分にとって興味のある内容や、アプローチを見出すことができる。この授業では科学史という研究分野を形作ってきた数々の名著のうち、日本語でも読める14の魅力あふれる著作を選んでおおよそ年代順に紹介し、関連する研究について述べる。それを通して科学史の研究における様々なアプローチとその可能性について論じ、科学史という学問の面白さを伝える。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。ただし、課題提出のために読むことが必要なこともある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 通俗的な科学史についての考え方を打破し、科学史という学問の多様性とその中の主要なアプローチを知る。 ・ 科学史という学問がどのような点で履修者にとって興味深いものとなり得るのかを理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：科学史の通史なるものの虚構性について(シェイピン『科学革命とは何だったのか』) 2. 科学思想史という方法とその限界：コイレ『コスモスの崩壊』 3. 科学者集団の社会学：マートン『社会理論と社会構造』 4. パラダイムと科学革命：クーン『科学革命の構造』 5. 非西洋学問とニードム問題：ニードム『文明の滴定』 6. 権力と規律と知識：フーコー『監獄の誕生』 7. 実験装置と政治思想の科学史：シェイピン&シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』 8. ジェンダーと科学史：シーピング『科学史から消された女性たち』 9. アクターネットワーク理論：ラトゥール『パストゥール』 10. 物質文化の科学史：ギャリソン『アインシュタインの時計 ポワンカレの地図』 11. 視覚実践と認識論的徳：ダストン&ギャリソン『客観性』 12. 知識のグローバルヒストリー：ラジ『近代科学のリロケーション』 13. 非知の科学論：オレスケス&コンウェイ『世界を騙しつづける科学者たち』 14. まとめ：絡み合った世界の存在論：バラッド『宇宙の途上で出会う』 15. フィードバック 					
----- 系共通科目(科学史I)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(科学史I)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート2回(100%)。レポート課題は授業中に告知する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

古川安 『科学の社会史』(ちくま学芸文庫, 2018) ISBN:978-4480098832 (科学史に関する全般的な背景知識を得るのに推薦。)

スティーヴン・シェイピン 『「科学革命」とは何だったのか 新しい歴史観の試み』(品切れ)

アレクサンドル・コイレ 『コスモスの崩壊 閉ざされた世界から無限の宇宙へ』(白水社, 1991)(品切れ)

ロバート・K・マートン 『社会理論と社会構造』(1961, みすず書房)(品切れ)

トマス・S・クーン 『科学革命の構造』(みすず書房, 2023) ISBN:978-4622096122

ジョゼフ・ニーダム 『文明の滴定 科学技術と中国の社会』(法政大学出版局, 1974, 2015)(品切れ)

ミシェル・フーコー 『監獄の誕生 監視と処罰』(新潮社, 1977, 2020)(品切れ)

スティーヴン・シェイピン, サイモン・シャッフアー 『リヴァイアサンと空気ポンプ ホップズ、ボイル、実験的生活』(名古屋大学出版会, 2016) ISBN: 978-4815808396

ロンダ・シービンガー 『科学史から消された女性たち アカデミー下の知と創造性』(工作舎, 1992, 2022) ISBN:978-4875025443

ブリュノ・ラトゥール 『パストゥールあるいは微生物の戦争と平和、ならびに「非還元」』(以文社, 2023) ISBN:978-4753103782

ピーター・ギャリソン 『アインシュタインの時計 ポアンカレの地図 鑄造される時間』(名古屋大学出版会, 2015) ISBN:978-4815808198

ロレイン・ダストン, ピーター・ギャリソン 『客観性』(名古屋大学出版会, 2021) ISBN:978-4815810337

カピル・ラジ 『近代科学のリロケーション—南アジアとヨーロッパにおける知の循環と構築』(名古屋大学出版会, 2016) ISBN:978-4-8158-0841-9

ナオミ・オレスケス, エリック・M・コンウェイ 『世界を騙しつづける科学者たち』(楽工社, 2011)(品切れ)

カレン・バラッド 『宇宙の途上で出会う 量子物理学からみる物質と意味のもつれ』(人文書院, 2023) ISBN:978-4409031254

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

各回取り上げた書籍や、その他言及した書籍を各人の関心と必要に応じて読むこと。

系共通科目(科学史I)(講義)(3)へ続く

系共通科目(科学史I)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET32 18208 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学史II)(講義) History of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	方法としての日本科学史(重要著作を通じた日本科学史研究入門)				
[授業の概要・目的]					
<p>日本の科学史を通して、科学について何を明らかにできるだろうか。この授業では日本の科学技術に関する歴史研究の重要著作のうち、特に刺激的で興味深いと思われる14の著作を選んでおおよそ年代順に紹介することを通して、日本の科学技術の歴史研究における様々なアプローチを説明し、それが「科学」とは何かを明らかにするのにどのような意義があるのかについて論じる。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。ただし、課題では読むことが必要なこともある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 日本の科学技術についての歴史研究の様々なアプローチを知る。 日本の科学技術についての歴史研究に関して、これまでどのような研究がなされ、今後、どのような研究がありうるのかについて理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション：なぜ日本の科学技術史か？ 日本の科学思想史：辻哲夫『日本の科学思想』(1973) 社会史(科学の体制化論)：広重徹『科学の社会史』(1973) 戦後日本における科学の社会史：中山茂『科学と社会の現代史』(1981) 科学の文化史：金子務『アインシュタイン・ショック』(1981) 大学史：潮木守一『京都帝国大学の挑戦』(1984) 初期近代の分岐点：板倉聖宣ほか『日本における科学研究の萌芽と挫折』(1990) 国際関係・安全保障と科学技術：リチャード・サミュエルズ『富国強兵の遺産』(原著1996) 官僚性と科学：吉岡斉『原子力の社会史』(1999, 2011) 時間技術と近代：栗山茂久・橋本毅彦編『遅刻の誕生』(2001) 科学とイデオロギー：泊次郎『プレートテクトニクスの拒絶と受容』(2008) 科学社会学と災害研究：松本三和夫『構造災』(2012) 科学とジェンダー：古川安『津田梅子』(2022) まとめと番外編：伊藤憲二『励起：仁科芳雄と日本の現代物理学』(2023)ができるまで フィードバック (必要に応じて授業内容を変えることがある) 					
----- 系共通科目(科学史II)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(科学史II)(講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート2回(100%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

辻哲夫 『日本の科学思想』(中央公論社,1973) ISBN:978-4875592754 (2013年こぶし文庫から復刊)

広重徹 『科学の社会史』(中央公論社,1973)(岩波現代文庫から復刊。どちらも品切れ。)

中山茂 『科学と社会の現代史』(岩波書店,1981)(品切れ。『中山茂著作集』第5巻に収録。)

金子務 『アインシュタイン・ショック』(河出書房新社,1981)(岩波現代文庫から復刊。どちらも品切れ。)

潮木守一 『京都帝国大学の挑戦 帝国大学史のひとこま』(名古屋大学出版,1984)(講談社学術文庫から復刊。どちらも品切れ。)

板倉聖宣、中村邦光、板倉玲子 『日本における科学研究の萌芽と挫折』(仮説社,1990)(品切れ)

リチャード・サミュエルズ 『富国強兵の遺産』(三田出版会,1997)(品切れ)

吉岡斉 『原子力の社会史』(朝日新聞出版,1999,2011) ISBN:978-4130230780

栗山茂久、橋本毅彦編 『遅刻の誕生 近代日本における時間意識の形成』(三元社,2001)(品切れ)

泊次郎 『プレートテクトニクスの拒絶と受容』(東京大学出版会,2008) ISBN:978-4130603195 (新装版(2017)は入手可。)

松本三和夫 『構造災 科学技術社会に潜む危機』(岩波書店,2012) ISBN:978-4004313861

古川安 『津田梅子:科学への道、大学の夢』(東京大学出版会,2022) ISBN:978-4130230780

伊藤憲二 『励起 仁科芳雄と日本の現代物理学』(みすず書房,2023) ISBN:978-4-622-09618-4, 978-4-622-09619-1

[授業外学修(予習・復習)等]

各回で取り上げる文献などを各人の関心と必要に応じて読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学50

科目ナンバリング	U-LET37 18902 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(メディア文化学)(講義A) Media and Culture Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究入門(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、現代のメディアやコンテンツ、あるいはそれらを取り巻く諸現象を研究対象とした場合に陥りやすい諸問題を取り上げつつ、メディア文化を理論的なアプローチで研究する方法について考える。</p> <p>この講義で紹介する考え方は、現代のメディア文化(たとえばポピュラーカルチャーやインターネットカルチャー)の研究を主に想定したものだが、文化研究全般に通用する考え方でもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく誰もが初手ではまる思考上の落とし穴について十分注意できるようになる。 ・現代のカルチャーを研究するのは確立した分野の作法にしたがって研究するのよりもはるかにハードルが高い(自分でいろいろ勉強し、考え、判断すべきことが多い)ことを十分理解する。 ・既存の分野での知見を活かすことの重要さを理解する。 ・一般に理論とはだいたいどんなものかをなんとなく理解する。 ・個々の理論の内容についてなんとなく理解する。 ・理論の使い道と使い方についてなんとなく理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>前半は文化研究における理論(一定の体系化されたものの捉え方)の例とその具体的な使い方をいくつか学びつつ、理論を導入することの利点や必要性を理解する。</p> <p>後半は文化を論じる際に陥りやすい思考上の落とし穴について学ぶ。</p>					
第1回	ガイダンス:現代文化の研究は難しい				
第2回	理論ってなんだ				
第3回	何にでも使える芸術理論:表象と表出				
第4回	「感じ」「～系」を語るための理論				
第5回	物語を論じるための理論				
第6回	ゲームを論じるための理論				
第7回	キャラクターを論じるための理論				
第8回	べき論の落とし穴:規範的と記述的				
第9回	定義論の落とし穴:言葉と概念				
第10回	ジャンル論の落とし穴:ジャンルの同一性と変化				
第11回	文化史記述の落とし穴:歴史は構築される				
第12回	社会反映論の落とし穴:そんなに簡単に社会は反映されない				
第13回	作品論の落とし穴:解釈の正当化の戦略				
第14回	文化とジェンダー:自分の政治的立場を省みる				
第15回	フィードバック				
系共通科目(メディア文化学)(講義A)(2)へ続く					

系共通科目(メディア文化学)(講義A)(2)

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：40%

期末レポート：60%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、各回の授業のポイントについて十分に理解できているかを問う記述式テストに近い形式を予定している。Googleフォームによる出題と回答になる予定。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

自分が日ごろ接しているカルチャーを反省的に眺めることを意識しながら過ごすことをおすすめします。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学51

科目ナンバリング	U-LET37 18904 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(メディア文化学)(講義B) Media and Culture Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究入門(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>「メディアを用いる生活様式と、その共有のあり方」がメディア文化であるとすれば、その研究対象は、メディアを介して受容されるコンテンツの内容のみならず、その基盤技術のありようや受容のありようも含まれることになる。</p> <p>本講義では、この分野を代表するいくつかの研究領域を採り上げ、その研究方法論について学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>メディア文化を研究対象として捉えて分析を行うためのさまざまな方法論にふれることによって、自分が研究しようとする対象に適切な研究方法を選ぶ力をつける。</p> <p>またいずれの領域でも重要になってくる歴史学的な視点を身につけることによって、それらを通して現代の社会問題を考える力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>メディア文化学とは(2回) アニメに関わる研究領域とその方法(2回) 広告に関わる研究領域とその方法(2回) インターネット文化に関わる研究領域とその方法(2回) 写真に関わる研究領域とその方法(2回) スポーツに関わる研究領域とその方法(2回) ポピュラー音楽に関わる研究領域とその方法論(2回) フィードバック(1回)</p> <p>(ただし、受講生の興味関心に合わせて取り上げる領域を調整する可能性がある。)</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(PandAを通じての予習・復習課題40%、小レポートの内容60%)					
-----系共通科目(メディア文化学)(講義B)(2)へ続く-----					

系共通科目(メディア文化学)(講義B)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する研究書ならびにWebサイトを、授業後に閲読すること。

(その他(オフィスアワー等))

PandAおよびPandAからリンクした授業用Webサイトなどで、スケジュールやWebリソースの紹介および課題の提示を行うので、こまめにチェックすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学52

科目ナンバリング	U-LET35 28407 LJ38				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(現代史学)(講義I) Contemporary History (Lectures I)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小野沢 透		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代史学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>「現代」の起点は、第一次世界大戦に求められることが多い。このような見方は、今日でもひとつの有力な視点である。しかし、それが提起されたのは、20世紀半ばから後半にかけてのことである。21世紀の今日の視点から見直すとき、「現代」という時代の枠組みにも再考の余地があるかもしれない。</p> <p>このような問題意識に立ちつつ、19世紀以来の「世界史」の展開を21世紀に至るまで概観する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・「近代」～「現代」の世界史の展開について、基本的な史実とその歴史的位置づけを理解する。 ・時期区分の問題を含め、歴史的な思考とはどのようなものか、具体的史実に即して理解する。 					
[授業計画と内容]					
以下のテーマを扱う予定。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：「現代」はどのような時代と捉えられてきたのか？ 2. 近現代世界史という視点 3. 長い19世紀 二重革命と「近代」の始まり 4. 長い19世紀 資本の時代 5. 長い19世紀 帝国の時代 6. 短い20世紀 第一次世界大戦とロシア革命 7. 短い20世紀 大恐慌と第二次世界大戦 8. 短い20世紀 冷戦と人類史の「黄金時代」 8. 短い20世紀 社会主義圏と第三世界 10. 短い20世紀 「黄金時代」の終焉 11. 短い20世紀 社会主義圏の終焉 12. 21世紀 新自由主義コンセンサスの出現 13. 21世紀 「対テロ戦争」の時代 14. アメリカ外交史から見た現代史 15. まとめ、フィードバック 					
[履修要件]					
現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。					
----- 系共通科目(現代史学)(講義I) (2)へ続く -----					

系共通科目(現代史学)(講義I) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末試験

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学53

科目ナンバリング	U-LET35 28408 LJ38				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(現代史学)(講義II) Contemporary History (Lectures II)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 塩出 浩之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジアのなかの日本近現代史				
[授業の概要・目的]					
日本近現代史について、主として政治外交史を通史的に論じながら、近代性、世界システム、ナショナリズム、植民地主義、ヒトの移動、歴史認識など、日本近現代史を世界史、特に東アジア史の一部として理解するための視点や論点を提示する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近現代史、特に政治外交史に関する基本的な論点について、具体的な根拠に基づいて論じられるようになる。 ・世界史、特に東アジア史の一部としての日本近現代史を理解することで、通念的なナショナル・ヒストリーを相対化する視点を獲得する。 ・歴史学とは単なる知識の修得とは異なり、過去の世界に対する絶えざる「問い」であることを理解し、これまでの知見を踏まえて自ら発問できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
以下に予定した各回の項目は、状況に応じて微調整することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 世界市場と東アジア 3 明治維新 4 主権国家体制と東アジア 5 立憲政治の形成 6 資本主義経済と労働社会 7 社会運動と民族運動 8 帝国日本と人の移動 9 中国侵略から対米開戦へ 10 総力戦と社会 11 敗戦と占領 12 東アジアの分断と日米安保体制 13 高度経済成長と沖縄復帰 14 東アジアの戦後処理と歴史和解 15 まとめとフィードバック 					
系共通科目(現代史学)(講義II)(2)へ続く					

系共通科目(現代史学)(講義II)(2)

[履修要件]

現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。

[成績評価の方法・観点]

毎回提出する小課題によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介する参考文献を、各自でできる限り読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学54

科目ナンバリング	U-LET35 18433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪商業大学経済学部 准教授 坂口 正彦		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代日本の村社会				
[授業の概要・目的]					
<p>地域社会における共同性の構築が社会的な課題となっている。また、人びとはなぜ・どのように共同するのか(しないのか)という問いは、学問領域を超えた普遍的なものに属するだろう。この講義では近現代日本の農山村、なかでも村社会(村落社会)の共同性について検討する。具体的にはまず村社会における共同性の特質を地主小作関係・合意形成をキーワードとして捉える。そのうえで、明治期から戦争を経て高度経済成長期という変転著しい歴史過程において、国家の政策が村社会においてどのように受容・執行されたのかに焦点を当てることにより、村社会の特質を把握する。</p>					
[到達目標]					
<p>近現代日本における村社会の機能(意義・限界)とその歴史的展開について理解を得ることができる。</p> <p>国際比較や国内比較を行うことにより、各地域における村社会の共通性と差異について理解を得ることができる。</p> <p>地域に関する歴史研究の学問的・社会的意義を理解し、調査研究の方法を知ることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 村社会とは何か 2 合意形成の方法 3 明治後期・大正期の村社会と国家 「改良」の時代 4 戦前期の村社会と国家 「更生」の時代 5 アジア・太平洋戦争期の村社会と国家 「動員」の時代 6 アジア・太平洋戦争期の「満洲」移民 7 戦後改革期の村社会と国家 「改革」の時代 8 高度経済成長期の村社会と国家 農村の「変化」 9 高度経済成長期の村社会と国家 山村の「変化」 10 家とは何か 11 共同労働(むら仕事)からみた村社会 12 倹約規範からみた村社会 13 アジアのなかの日本の村社会 14 村社会の研究法 15 まとめ <p>受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性がある。</p>					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度をはかるため、期末レポートを実施する。

【教科書】

使用しない
プリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

日本村落研究学会編(鳥越皓之責任編集)『むらの社会を研究する フィールドからの発想』
(農山漁村文化協会、2007年) ISBN:9784540061516
坂口正彦『近現代日本の村と政策 長野県下伊那地方 1910～60年代』(日本経済評論社、2014年) ISBN:9784818823419

【授業外学修(予習・復習)等】

授業時にさまざまな参考文献を紹介する。
参考文献や授業プリントを用いて予習・復習をおこなうこと。
その他、予習・復習の詳細については授業時に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

教員と学生との連絡方法については授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET45 10062 SJ36			
授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二 非常勤講師 白木 正俊 非常勤講師 鈴木 真奈 非常勤講師 TATARCZUK, Marcin Adam 非常勤講師 平岡 久代 非常勤講師 福田 耕佑	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化学への招待Ⅰ				
[授業の概要・目的]					
現代文化学専攻の博士後期課程を修了した若手研究者が、自分たちの最新の研究成果をふまえつつ、基礎現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は2つの性格をもっています。					
ひとつ目は、現代文化学に関心をもつ1・2回生のための導入的な専門科目という性格です。多様な基礎現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、基礎現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。					
ふたつ目は、大学教員をめざす若手研究者のための教育実践の場であるということです。現代文化学専攻で学び、将来大学教員を志す研究者が、実際に学生に教えることを通して教育力を伸ばすことが目的となります。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。					
[到達目標]					
この科目は、基礎現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む基礎現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を知ることによって、受講生が基礎現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となることが期待されます。					
[授業計画と内容]					
初回の授業で簡単なガイダンスを行ったあと、下記のスケジュール・内容で5名の講師が各3回の授業を行います。					
第1～3回 コンスタンティノープル-イスタンブルに生きるギリシア人の文学と民族意識 (担当：福田耕佑) 導入: ギリシア史の側面から見た近世・現代のイスタンブルのギリシア人について 本土ギリシア・ナショナリズムにおける自己意識と「脱亜入欧」とイスタンブルのギリシア人の位置 二十世紀のイスタンブルのギリシア人の文学作品に描かれるギリシアとトルコ					
第4～6回 日本のパーソナルコンピュータ史 (担当：鈴木真奈)					
----- 基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----					

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

1970年以前の日本のコンピュータの歴史
マイコンブーム：1970年代後半からのマイコン・パソコンの歴史
日本語とコンピュータ：日本語ワードプロセッサ専用機を中心に

第7～9回 日本文化の形成史：特有文化の作られ方
(担当：マルチン・タタルチュック)
明治時代の京都と国風文化
20世紀における物語と観光
現代京都と新たな文化の試み

第10～12回 文化財移動と国際文化交流
(担当：平岡久代)
欲望で読み解くフェノロサと明治政府
移動する文化財
1953年アメリカ巡回日本古美術展覧会

第13～15回 日本近代都市における人と水の関係史～京都市を事例に～
(担当：白木正俊)
近代社会における人と水の関係史
京都市における琵琶湖疏水事業の展開
京都市における鴨川改修事業の展開

一部スケジュールが変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

【履修要件】

授業は主として1・2回生を受講者に想定して行いますが、3・4回生の受講も可。

【成績評価の方法・観点】

授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートを提出していただきます。

【配点】

平常点50%
試験(レポート)50%

【平常点の評価基準】

毎回授業終了時に書いていただくリフレクションシートの提出実績によって評価します。

【試験(レポート)の評価基準】

各講師の最後の授業で出されるレポート課題の提出実績および内容のクオリティによって評価します。分量は各400～800字程度になる予定です。

【教科書】

使用しない

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(3)へ続く

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(3)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に各担当者から課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【 大学院聴講生 】

※2024年3月11日現在

担当専修別	講義コード	講義名	単位	開講期	曜日		時間		担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
					曜日1	曜日2	時間1	時間2			大学院聴講生		
インド古典学・仏教学・西南アジア史学	9616001	サンスクリット(2時間コース)(語学)	4	通年	月	4			山口 周子	日本語	○	共通1	
スラブ語学スラブ文学・言語学	9678001	ブルガリア語(初級I)(語学)	2	前期	水	4			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通2	
スラブ語学スラブ文学・言語学	9679001	ブルガリア語(初級II)(語学)	2	後期	水	4			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通3	
スラブ語学スラブ文学・言語学	9680001	古教会スラヴ語(初級)(語学)	2	前期	水	5			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通4	
スラブ語学スラブ文学・言語学	9681001	古教会スラヴ語(中級)(語学)	2	後期	水	5			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通5	
キリスト教学・西南アジア史学	9639001	ヘブライ語(初級)(語学)	2	前期	金	3			武藤 慎一	日本語	○	共通6	
キリスト教学・西南アジア史学	9640001	ヘブライ語(中級)(語学)	2	後期	金	3			武藤 慎一	日本語	○	共通7	
西南アジア史学・言語学	9620001	シュメール語(初級)(語学)	4	通年	金	1			森 若葉	日本語	○	共通8	
西南アジア史学・言語学	9682001	アラブ語(初級)I(語学)	2	前期	月	2			仲尾 周一郎	日本語	○	共通9	
西南アジア史学・言語学	9683001	アラブ語(初級)II(語学)	2	後期	月	2			仲尾 周一郎	日本語	○	共通10	
共通	8041001	英語論文作成法(演習)	2	前期	火	4			大崎 紀子	日本語	○	共通11	学部科目
共通	8041002	英語論文作成法(演習)	2	後期	火	4			大崎 紀子	日本語	○	共通12	学部科目

共通1

科目ナンバリング	G-LET49 89616 LJ48				
授業科目名 <英訳>	サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月4	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級文法(2時間コース)				
[授業の概要・目的]					
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>					
[到達目標]					
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>					
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----					

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・ 平常点(練習問題への理解度(授業期間中に「確認テスト」を実施)、40点)
- ・ 年度末筆記試験(60点)

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社,2015)
ISBN:978-4393101728

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店,1974) ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・ 宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくる。
- ・ 次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておく。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

ブルガリア語（初級）I（語学）(2)

数詞1、!も併用
第14回題目:6課
第15回題目:総復習
作成資料で復習をしていく

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

出席率、提出物、授業への取り組み(50%)、定期試験（50%）で総合評価する。

【教科書】

寺島 憲治 『ニューエクスプレスプラス ブルガリア語』（白水社, 2019年）ISBN:9784560088258
1- 2
, 2013 .) ISBN:9789545357374
教科書は『ニューエクスプレスプラス ブルガリア語』を購入すること。『
は購入は不要。必要に応じて、コピーを配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

テキストの予習と復習、課題

（その他（オフィスアワー等））

バルカン半島・南東ヨーロッパの中心に位置するブルガリアの言語や文化の習得は、この地域を知る鍵となる。新しい世界を体験しよう！
古教会スラヴ語コースと一緒に履修すると、より楽しく学習できる。
連絡先：ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

ブルガリア語（初級）Ⅱ（語学）(2)

第15回題目:総復習
作成資料で復習をしていく

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

出席率、提出物、授業への取り組み(50%)、定期試験（50%）で総合評価する。

【教科書】

寺島 憲治 『ニューエクスプレスプラス ブルガリア語』（白水社, 2019年）ISBN:9784560088258

1- 2
, 2013 .) ISBN:9789545357374

教科書は『ニューエクスプレスプラス ブルガリア語』を購入すること。『
は購入は不要。必要に応じて、コピーを配布します。

【参考書等】

（参考書）

【授業外学修（予習・復習）等】

テキストの予習と復習、課題

（その他（オフィスアワー等））

バルカン半島・南東ヨーロッパの中心に位置するブルガリアの言語や文化の習得は、この地域を知る鍵となる。新しい世界を体験しよう！

古教会スラヴ語コースと一緒に履修すると、より楽しく学習できる。

連絡先：ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通4

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	古教会スラヴ語（初級）（語学） Old Church Slavic	担当者所属・ 職名・氏名	ソフィア大学古典・現代文献学研究科 ブラジミロブ イヴォ 専任講師		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古教会スラヴ語入門I				
【授業の概要・目的】					
<p>最古のスラブ文語である古代教会スラブ語は、ギリシア語、ラテン語と並び中世ヨーロッパにおける第3の古典語である。第一次ブルガリア帝国で用いられ公用語となったことにより、古代教会スラブ語はバルカン半島/南東ヨーロッパ地域のみにとどまらず、キエフ・ルーシにまで伝播する。ギリシア語の聖書や祈祷書、典礼書の翻訳はもちろんのこと、オリジナルな経典や文学作品も多く存在する。</p> <p>授業では、インド・ヨーロッパ語族の類似性とそのルーツ、また現代ブルガリア語との関連性を意識しながら、単語や文法の基本的理解を目指す。この言語を身に付けることで、スラブ圏やバルカン半島の言語を習得する際の重要な基礎知識となるだけでなく、正教圏スラブ世界（Slavia Orthodoxa）への重要な鍵にもなる。</p>					
【到達目標】					
<p>キリル文字の読み書きができるようになる。 古典言語の発音ができるようになる。 基礎的文法の概略と特徴を理解する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1 授業のオリエンテーション 第2 文字の発音と綴り 第3 文字の発音と綴りの練習 第4 代名詞 第5 代名詞 の練習 第6 代名詞 第7 代名詞 の練習 第8 動詞の語幹、不定詞とスピーナム 第9 動詞の語幹、不定詞とスピーナムの練習 第10 動詞の現在形 第11 動詞の現在形 の練習 第12 動詞の現在形 第13 動詞の現在形 の練習 第14 作文 第15 総復習</p>					
----- 古教会スラヴ語（初級）（語学）(2)へ続く -----					

古教会スラヴ語（初級）（語学）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席率、提出物、授業への取り組み(50%)、定期試験（50%）で総合評価する。

[教科書]

木村 彰一 『古代教会スラヴ語入門』（白水社,2022）ISBN:9784560006252

『
』（
，2017）ISBN:9789540742106

教科書はコピーを配布するので、購入は不要です。

[参考書等]

（参考書）

『
』 10
，1987）

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書や配布プリントで学習した箇所の復習をすること。

（その他（オフィスアワー等））

ブルガリア語初級コースと一緒に履修すると、より楽しく学習できる。

連絡先：ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通5

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	古教会スラヴ語（中級）（語学） Old Church Slavic	担当者所属・ 職名・氏名	ソフィア大学古典・現代文献学研究科 ブラジミロブ イヴォ 専任講師		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古教会スラヴ語入門II				
【授業の概要・目的】					
<p>最古のスラブ文語である古代教会スラブ語は、ギリシア語、ラテン語と並び中世ヨーロッパにおける第3の古典語である。第一次ブルガリア帝国で用いられ公用語となったことにより、古代教会スラブ語はバルカン半島/南東ヨーロッパ地域のみにとどまらず、キエフ・ルーシにまで伝播する。ギリシア語の聖書や祈祷書、典礼書の翻訳はもちろんのこと、オリジナルな経典や文学作品も多く存在する。</p> <p>授業では、インド・ヨーロッパ語族の類似性とそのルーツ、また現代ブルガリア語との関連性を意識しながら、単語や文法の基本的理解を目指す。この言語を身に付けることで、スラブ圏やバルカン半島の言語を習得する際の重要な基礎知識となるだけでなく、正教圏スラブ世界（Slavia Orthodoxa）への重要な鍵にもなる。</p>					
【到達目標】					
<p>基礎的文法の概略と特徴を理解する。 学習した文法を用いて、写本を読めるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1 授業のオリエンテーション、アオリスト 第2 アオリスト の練習 第3 アオリスト 第4 アオリスト の練習 第5 インパーフェクト 第6 インパーフェクトの練習 第7 名詞 第8 名詞 の練習 第9 名詞 第10 名詞 の練習 第11 形容詞 第12 形容詞 の練習 第13 形容詞 第14 形容詞 の練習 第15 総復習</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 古教会スラヴ語（中級）（語学）(2)へ続く -----					

古教会スラヴ語（中級）（語学）(2)

[成績評価の方法・観点]

出席率、提出物、授業への取り組み(50%)、定期試験（50%）で総合評価する。

[教科書]

木村 彰一 『古代教会スラヴ語入門』（白水社,2022）ISBN:9784560006252

『
』（
,2017）ISBN:9789540742106

教科書はコピーを配布するので、購入は不要です。

[参考書等]

（参考書）

『
』（
10
』（
,1987）

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書や配布プリントで学習した箇所の復習をすること。

（その他（オフィスアワー等））

ブルガリア語初級コースと一緒に履修すると、より楽しく学習できる。

連絡先：ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通6

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew		担当者所属・ 職名・氏名	大東文化大学 武藤 慎一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（初級）				
[授業の概要・目的]					
<p>聖書ヘブライ語の文字、母音表記などの特徴を概観するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞ほか）を扱う。ヘブライ語文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、文法書の変化表を無理やり暗記するのではなく、実際に聖書テキスト（創世記）を読みながら、できる限り帰納的に共通する法則を発見していく方法をとる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヘブライ語の文字と母音表記を認識して、文章を声に出して読める。 ・名詞類の特徴を指摘できる。 ・簡単な名詞文の和訳ができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って授業を進める。ただし、言語習得は螺旋状に進行していくものなので、各テーマとも1回の授業で完結するのではなく、同じようなテーマに何度も立ち戻りながら、少しずつ最終目標に近づいていく。</p> <p>第1回 導入：本授業の方法 第2回 ヘブライ語の特徴とその背景：宗教、歴史、文化 第3回 発音 第4回 文字（子音） 第5回 母音表記と音節 第6回 固有名詞 第7回 普通名詞 第8回 名詞のつながり 第9回 前置詞 第10回 代名詞と接尾辞 第11回 形容詞 第12回 副詞 第13回 語順 第14回 動詞 第15回 動詞のアスペクト</p>					
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----					

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・授業への参加状況（100%）

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で配布するプリントを読んでくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通7

科目ナンバリング	G-LET49 89640 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew	担当者所属・ 職名・氏名	大東文化大学	武藤 慎一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（中級）				
[授業の概要・目的]					
<p>初級に引き続いて、動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムとその文章構造の理解を中心に、聖書ヘブライ語文法の基礎を扱う。聖書テキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。その際、文法書の変化表を無理やり暗記するのではなく、実際に聖書テキスト（創世記）を読みながら、できる限り帰納的に共通する法則を発見していく方法をとる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の完了・未完了の基本活用を認識できる。 ・完了・未完了を含むヘブライ語の文構造を理解し、翻訳できる。 ・聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解している。 ・辞書を使える。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って授業を進める。ただし、言語習得は螺旋状に進行していくものなので、各テーマとも1回の授業で完結するのではなく、同じようなテーマに何度も立ち戻りながら、少しずつ最終目標に近づいていく。</p> <p>第1回 導入：ヘブライ語文法の初級から中級へ</p> <p>第2回 動詞のパターン</p> <p>第3回 動詞の人称変化（完了形）</p> <p>第4回 動詞の人称変化（未完了形）</p> <p>第5回 動詞の数と性</p> <p>第6回 動詞の命令形と不定詞形</p> <p>第7回 動詞の分詞形</p> <p>第8回 動詞のカル</p> <p>第9回 動詞のニフアル</p> <p>第10回 動詞のピエル</p> <p>第11回 動詞のヒフイル</p> <p>第12回 動詞のヒトパエル</p> <p>第13回 名詞文と動詞文</p> <p>第14回 文のつながり</p> <p>第15回 北西セム語の中のヘブライ語</p>					
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----					

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・授業への参加状況（100%）

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で配布するプリントを読んでくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通8

科目ナンバリング		G-LET49 89620 LJ48			
授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumerian	担当者所属・ 職名・氏名	国士舘大学イラク古代文化研究所 森 若葉 特別研究員		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介				
[授業の概要・目的]					
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の講読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>					
[到達目標]					
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の講読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学について</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む（1）</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判文書、行政文書を読む</p> <p>第15回 シュメール文学作品を読む（2）</p>					
シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く					

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む（3）
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む（4）
- 第12回 シュメール文学作品を読む（5）
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

【教科書】

使用しない

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く

シュメール語（初級）(語学)(3)

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通9

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）I（語学） Arabic		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 仲尾 周一郎	
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	文語アラビア語初級				
【授業の概要・目的】					
<p>アラビア語は文字言語としての長い歴史をもつ文語アラビア語諸変種と、民衆的な日常語としての口語アラビア語諸方言に大別される。この授業では文語アラビア語の語学的基礎を身につけつつ、簡潔な文体で書かれた古典から現代の文献の講読を行う。また、単に語学的能力だけでなく、言語そのものを分析するための諸概念についても紹介する。なお、時間的制約のため、書くこと、話すこと、聞くことは本授業では主たる目標としては扱わないが、学生の関心や自主性に応じて授業に取り込む予定である。</p>					
【到達目標】					
<p>文語アラビア語に関する基本的な社会言語学的・言語学的事実を理解した上で、辞書を用いて自力で文献を読解し、音読することができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>本授業では初期の数回を除き、文字・文法学習 50%、文献の講読 50% を目途に進める予定である。講読文献の進度によって毎回解説する文法事項の順序は予想できないためここでは正確には記載しないが、前半期は屈折形態論、後半期は派生形態論を主たる学習目標とする。</p> <p>第1回 イン트로ダクション・音韻論 第2回 形態論の概観・文字（1） 第3回 統語論の概観・文字（2） 第4～8回 現代文の講読 第9回 中間試験 第10回～14回 古典文の講読 第15回 試験</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
参加度 50 点（予習し当てられれば適切に答える）、試験 50 点。					
----- アラブ語（初級）I（語学）(2)へ続く -----					

アラブ語（初級）I(語学)(2)

[教科書]

未定
特定の教材を使用する可能性はあるが、その場合でも購入の必要がないものを選択する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
無料で学習できる手近なツールとしては以下の2点をとりあえずお勧めする。

アラビア語初級eラーニング（大阪大学）
<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/ar/index.html>

東外大言語モジュール・アラビア語
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/ar/>

[授業外学修（予習・復習）等]

最初の数回の目標としては、アラビア文字の活字をみて読めるよう準備すること。講読を行うフェーズでは、できる限り事前に自分なりの訳文を用意してくること。また、復習として毎回学んだ文章を音読すること。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて連絡のこと。授業後すぐの時間帯は遠慮なくどうぞ。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通10

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）II（語学） Arabic		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 仲尾 周一郎	
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	文語アラビア語初中級				
【授業の概要・目的】					
<p>アラビア語は文字言語としての長い歴史をもつ文語アラビア語諸変種と、民衆的な日常語としての口語アラビア語諸方言に大別される。この授業では主として文語アラビア語の語学的基礎を身につけつつ、簡潔な文体で書かれた古典から現代の文献の講読を行うとともに、それ以外のアラビア語変種についても紹介する。また、単に語学的能力だけでなく、言語そのものを分析するための諸概念についても紹介する。なお、時間的制約のため、書くこと、話すこと、聞くことは本授業では主たる目標としては扱わないが、学生の関心や自主性に依じて授業に取り込む予定である。</p>					
【到達目標】					
<p>文語アラビア語に関する基本的な社会言語学的・言語学的事実を理解した上で、辞書を用いて自力で文献を読解し、音読することができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>本授業では初期の数回を除き、文字・文法学習 50%、文献の講読 50% を目途に進める予定である。講読文献の進度によって毎回解説する文法事項の順序は予想できないためここでは記載しないが、前半期は情報構造と文構造、後半期は複雑文の構造を主に扱う。</p> <p>第1回 イン트로ダクション・古代北アラビア語の紹介 第2～6回 現代文の講読 第7回 中間試験 第8～9回 口語諸変種の紹介 第10～14回 古典文の講読 第15回 試験</p>					
【履修要件】					
<p>アラビア語の基礎知識（文字、キーボード、および文法概要）を身に付けており、（オンライン）辞書を使うことができること。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>参加度 50 点（予習し当てられれば適切に答える）、試験 50 点。</p>					
----- アラブ語（初級）II（語学）(2)へ続く -----					

アラブ語（初級）Ⅱ（語学）(2)

[教科書]

未定
特定の教材を使用する可能性はあるが、その場合でも購入の必要がないものを選択する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
無料で学習できる手近なツールとしては以下の2点をとりあえずお勧めする。

アラビア語初級eラーニング（大阪大学）
<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/ar/index.html>

東外大言語モジュール・アラビア語
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/ar/>

[授業外学修（予習・復習）等]

できる限り事前に自分なりの訳文を用意してくること。また、復習として毎回学んだ文章を音読すること。ただし、古代北アラビア語や現代口語諸方言に関する紹介を行う回はこうした復習は必要ない。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて連絡のこと。授業後すぐの時間帯は遠慮なくどうぞ。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通11

科目ナンバリング	U-LET49 28041 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 大崎 紀子		
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アカデミック・ライティング(1)				
[授業の概要・目的]					
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行うとともに、引用の方法についても基本的な知識と技術を学ぶ。</p>					
[到達目標]					
英語と日本語の修辞法の違いを理解し、論理的で説得力のある文章を英語で書けるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>1 Guidance この授業の進め方 2 Introduction 書き言葉の語彙 3-4 学術英語の基礎知識 5 パラグラフの構造の理解、冠詞 6-8 パラグラフの統一性と一貫性 9-10 課題作文の添削と解説 11-12 引用の方法、文献目録の書き方(基本篇) 13-14 課題作文の添削と解説 15 まとめ フィードバック方法は授業中に説明します。</p>					
[履修要件]					
受講者20人まで					
[成績評価の方法・観点]					
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、作文課題(2-3回、計70点)					
[教科書]					
プリント教材を配布します。					
[参考書等]					
(参考書)					
Alice Oshima and Ann Hogue. 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition』 (Pearson Longman, 2017)					
Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills,					
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----					

英語論文作成法(演習)(2)

third edition』 (The University of Michigan Press, 2012)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

教材は、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

(その他 (オフィスアワー等))

質問があればメールで随時尋ねてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通12

科目ナンバリング	U-LET49 28041 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 大崎 紀子		
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アカデミック・ライティング(2)				
[授業の概要・目的]					
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。					
[到達目標]					
英語と日本語の修辞法の違いを理解するとともに、剽窃を疑われない適切な引用の方法を身に付け、その技術を自信をもって使いこなせるようになる。					
[授業計画と内容]					
1 Introduction 2 Paraphrasing(書き換え)の基礎と演習 3 引用と時制、類義語 4 書き換え練習の添削と解説 5 履歴書、自己推薦書の書き方と演習 6-7 パラグラフから小論文へ 8-9 課題作文(CV)の添削と解説 10 比較・対照論文の書き方 11 分詞構文の使い方 12-14 小論文作成演習(作文の添削と解説) 15 まとめ フィードバックの方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)					
[成績評価の方法・観点]					
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、課題作文(3回、計70点)					
[教科書]					
プリント教材を配布する。					
[参考書等]					
(参考書) Alice Oshima and Ann Hogue. 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition』 (Pearson Longman, 2017)					
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----					

英語論文作成法(演習)(2)

Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition』 (The University of Michigan Press, 2012)

【授業外学修（予習・復習）等】

教材プリントは、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

（その他（オフィスアワー等））

質問はメールで随时お尋ねください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。